Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

1-(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承

1-(1)-②　有形文化財の収集等

1-(1)-②-1　収蔵品一覧表　　（単位：件）　平成29年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計		127,453	132	983	117,190	88	636	7,794	28	198	1,886	13	112	583	3	37
絵画		13,646	35	209	11,164	21	101	2,075	9	57	298	4	42	109	1	9
書跡		3,413	36	177	1,846	14	60	1,369	16	81	147	5	29	51	1	7
彫刻		1,424	1	47	1,107	0	22	148	0	3	146	1	16	23	0	6
建築		78	0	2	21	0	0	49	0	1	5	0	0	3	0	1
金工		17,113	3	59	16,412	1	17	520	2	29	163	0	11	18	0	2
刀剣		3,478	20	57	3,453	19	57				16	0	0	9	1	0
陶磁		4,289	0	19	2,951	0	12	1,216	0	3	81	0	0	41	0	4
漆工		4,620	6	30	3,856	4	19	503	0	2	102	2	5	159	0	4
染織		4,757	2	27	3,697	0	19	929	1	7	93	1	1	38	0	0
考古		30,075	4	76	28,594	4	55	690	0	11	734	0	8	57	0	2
民族資料		1,375	0	0	1,264	0	0	0	0	0	101	0	0	10	0	0
歴史資料		6,603	0	10	6,246	0	4	295	0	4	0	0	0	62	0	2
和書		17,560	0	2	17,560	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
東洋	絵画	689	4	31	689	4	31									
	書跡	1,694	10	12	1,694	10	12									
	彫刻	808	0	20	808	0	20									
	金工	1,034	0	0	1,034	0	0									
	陶磁	3,051	0	10	3,051	0	10									
	漆工	529	0	4	529	0	4									
	染織	608	0	1	608	0	1									
	考古	5,933	0	2	5,933	0	2									
	民族	3,533	0	0	3,533	0	0									
法隆寺献納宝物		322	11	184	322	11	184									
黒田記念館収蔵品		816	0	2	816	0	2									
準歴史資料(含和書)		2	0	2	2	0	2									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり
　京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の作品も「日本」に含む
＊列品に編入されていない資料については、「準歴史資料(含和書)」の項目にしるし、列品化整理中の資料と分けて表示している。
＊東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。
＊28年度、東京国立博物館については、収蔵品数の再確認の結果、過誤修正を行った。

1-(1)-②-1（参考）
【奈良文化財研究所】

○保管及び所蔵文化財・資料概要（主なもの）

平成29年3月31日現在

保管及び所蔵文化財・資料名	数
［文化遺産部］	
国宝・重要文化財建造物保存図	約30,100枚
国宝・重要文化財建造物摺拓本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,200枚
北浦定政関係資料（重要文化財）	約1,100点
棚田嘉十郎関係資料	26点
関野貞関係資料	54点
菅原大三郎関係資料	7箱
森蘊資料	約4,500点
村岡正資料	約3,000点
小林剛関係資料	約38箱
牛川喜幸関係資料	2,927点
塚原家寄贈資料(歴史資料)	3箱
［都城発掘調査部（平城地区）］	
平城宮跡大膳職推定地出土木簡（重要文化財）	39点
平城宮跡内裏北外郭官衙出土木簡（重要文化財）	1,785点
平城宮跡内膳司推定地出土木簡（重要文化財）	483点
平城宮跡造酒司出土木簡（重要文化財）	568点
興福寺旧境内土壙（一乗院宸殿跡下層）出土品（重要文化財）	一括
平城宮・京出土土器・土製品	30660箱
平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品	35158箱
平城宮・京出土瓦類	1002038箱
平城宮・京出土木簡	252171点
塚原家寄贈資料(考古資料)	7箱
［都城発掘調査部(飛鳥･藤原地区)］	
軒丸瓦・軒平瓦	約36,157点
丸瓦・平瓦　　土嚢袋	約167,847袋
丸瓦・平瓦　　整理箱	約39,074箱
土器　　整理箱	約16,533箱
土製品	約15,053点
木器・木製品	約34,081点
木簡	約35,156点
建築部材	約2,983点
金属製品	約19,879点
石器・石製品	約14,316点
漏刻復原模型	1点
幢幡復原模型（台付き）	一式
飛鳥大仏頭部複製（模刻）	1点
藤ノ木古墳鞍復原模型	1点
富本銭枝銭復原模型	一式
碁盤復原模型	1点
鉄釜鋳造土坑復原模型	1点
［飛鳥資料館］	
高松塚古墳出土品(海獣葡萄鏡 銀製太刀金具 棺金具 ガラス小玉漆塗り木棺)(重要文化財)	一式
須弥山石	1点
石人像	1点
飛鳥寺塔跡出土舎利荘厳具	一式
飛鳥寺出土瓦類	一式
山田寺跡出土品（重要文化財）	一括
和田廃寺鵤尾（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区所属）	1点
川原寺出土水波紋土磚	2点
岡出土車石	8点
飛鳥各地出土瓦類	一式
川原寺裏山出土三尊磚仏	2点
飛鳥川原宮出土唐居敷	1点
高松塚古墳壁画模写（前田青邨、平山郁夫等）	3面
高松塚古墳人物復元衣装	一式
石上神宮七枝刀レプリカ	1点
水落遺跡遺構1/20模型	1点
猿石模刻	一式
亀石模刻	1点
須弥山石復元模刻	1点
石人像復元模刻	1点
出水酒船石模刻	2点
阿武山古墳出土　玉枕　冠帽　復元模型	3点
川原寺伽藍1/50模型	1点
山田寺金堂復原	1点
飛鳥京復原模型	1点
山田寺発掘遺構1/100模型	1点
石舞台古墳1/20模型	1点
飛鳥寺発掘遺構1/100模型	1点
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レプリカ	1点
銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	4点
威奈大村骨蔵器レプリカ	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
諸陵周垣成就記並諸陵図譜	1点
鼓銅図録	1点
高松塚古墳木棺模造	1点
八釣マキト５号古墳石室	1点
十二支拓本（表装済み・収納箱あり）	一式
キトラ古墳模型	1点
山東省済南市解放橋北唐墓石棺　青龍・白虎・小口面拓本	各1点
近藤千尋関連資料	1式

保管及び所蔵文化財・資料名	数
武人復原	1点
山田寺灯籠復原	1点
具注歴木簡レプリカ	1点
天皇木簡レプリカ	1点
壬申の乱ジオラマ	一式
牽牛子塚古墳ミニジオラマ	1点
キトラ古墳出土品金銅製鐶座金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品銀鐶付六花形飾金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀製鞘尻金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀装把レプリカ	1点
キトラ古墳出土品鉄地銀張金象嵌帯執金具レプリカ	3点
キトラ古墳出土品琥珀玉レプリカ	4点
キトラ古墳出土品金銅製鐶座金具復元品	10点
キトラ古墳出土品銅釘復元品	一括
キトラ古墳出土品銀鐶付六花形飾金具復元品	10点
キトラ古墳出土品円環棺金具復元品	10点
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点
鍛冶工房風景想定復元図	1点
銅造観音菩薩立像（夢違観音）複製品	1体
隅田八幡宮人物画像鏡複製品	1点
山田寺仏頭複製品	1点
金銅小野毛人墓誌複製品	1点
筑前国嶋郡川辺里大宝２年戸籍残簡複製品	2点
人頭石（光永寺）複製品	1点
鬱淵寺銅造観音菩薩立像複製品	1点
重要文化財圀勝寺銅壺鋳造模型（下道圀依母婦 人骨蔵器）	1点
四十八体仏如来坐像複製	1点
丙寅年銘菩薩半跏像複製品	1具
於美阿志神社石塔婆のうち供養具	一括
牽牛子塚古墳出土品	一括
マルコ山古墳出土品	一式
高松塚古墳壁画漆喰印刷複製	一式
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点一式
飛鳥池遺跡出土木簡複製品	13点
暗文土師器復原制作品（脇田宗孝氏制作）	5点
一町長法寺押出仏複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土　蛇行状鉄器複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土　馬鈴複製品	1点
扶桑略記　巻二十一～二十八	7冊
［埋蔵文化センター］	
埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県田戸遺跡資料	一式
神奈川県子母口貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登縄文資料（15遺跡）	一式
千葉県曽谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛭沢洞窟資料	一式
東京都小豆沢貝塚資料	一式
茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	一式
岡山地方陶棺資料	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曽利B式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
茨城県浮島貝塚資料	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料	一式
神奈川県保土ヶ谷貝塚資料	一式
千葉県姥山貝塚資料	一式
宮城県川下り・響き資料	一式
大木囲貝塚	一式
東貝塚	一式
室浜貝塚	一式
福浦島貝塚	一式
里浜貝塚	一式
東北縄文晩期末資料	一式
東北各地発見縄文資料	一式
北海道資料	一式
発見地不詳縄文資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
現生動物標本	一式
年輪年代学用木材標本	一式

1-(1)-② -2(参考)

収蔵品・寄託品件数合計(過去5ヵ年)

(単位:件) 平成29年3月31日現在

		平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
収蔵品・寄託品合計	国立博物館 計	135,044	317	2,136	136,215	323	2,143	137,610	325	2,162	138,897	333	2,380	139,580	327	2,172
	東京国立博物館	116,925	136	884	118,172	140	878	119,332	143	890	120,004	142	892	120,265	143	894
	京都国立博物館	12,622	112	789	12,613	114	801	13,110	113	803	13,644	119	1,003	13,983	114	818
	奈良国立博物館	3,785	66	431	3,856	66	432	3,861	66	435	3,839	67	439	3,844	65	411
	九州国立博物館	1,712	3	32	1,574	3	32	1,307	3	34	1,410	5	46	1,488	5	49
収蔵品	国立博物館 計	123,378	130	950	124,729	130	952	125,766	130	954	126,872	131	963	127,453	132	983
	東京国立博物館	114,362	87	631	115,653	87	633	116,268	87	634	116,932	87	634	117,190	88	636
	京都国立博物館	6,708	27	179	6,721	27	179	7,109	27	180	7,532	28	183	7,794	28	198
	奈良国立博物館	1,834	13	111	1,862	13	111	1,877	13	111	1,883	13	112	1,886	13	112
	九州国立博物館	474	3	29	493	3	29	512	3	29	525	3	34	583	3	37
寄託品	国立博物館 計	11,666	187	1,186	11,486	193	1,191	11,844	195	1,208	12,025	202	1,417	12,127	195	1,189
	東京国立博物館	2,563	49	253	2,519	53	245	3,064	56	256	3,072	55	258	3,075	55	258
	京都国立博物館	5,914	85	610	5,892	87	622	6,001	86	623	6,112	91	820	6,189	86	620
	奈良国立博物館	1,951	53	320	1,994	53	321	1,984	53	324	1,956	54	327	1,958	52	299
	九州国立博物館	1,238	0	3	1,081	0	3	795	0	5	885	2	12	905	2	12

1-(1)-②-3 平成28年度新収品一覧表

（単位：件）　平成29年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計		525			199			265			3			58		
計		63	318	144	11	44	144	14	251	0	2	1	0	36	22	0
絵画		13	36	0	1	3	0	3	23	0	0	1	0	9	9	0
書跡		7	42	0	2	6	0	1	35	0	2	0	0	2	1	0
彫刻		1	3	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0
建築		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工		1	32	0	0	0	0	1	29	0	0	0	0	0	3	0
刀剣		0	2	0	0	0	0			0	0	0	0	0	2	0
陶磁		6	143	0	0	0	0	3	142	0	0	0	0	3	1	0
漆工		2	7	0	0	0	0	1	7	0	0	0	0	1	0	0
染織		4	8	0	0	0	0	2	8	0	0	0	0	2	0	0
考古		4	6	4	0	3	4	0	0	0	0	0	0	4	3	0
民族資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料		17	8	134	0	1	134	2	5	0	0	0	0	15	2	0
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	0	4	0	0	4	0									
	書跡	1	0	0	1	0	0									
	彫刻	0	0	0	0	0	0									
	金工	0	0	0	0	0	0									
	陶磁	1	0	0	1	0	0									
	漆工	0	0	0	0	0	0									
	染織	6	0	0	6	0	0									
	考古	0	0	5	0	0	5									
	民族	0	27	0	0	27	0									
法隆寺献納宝物		0	0	1	0	0	1									
黒田記念館収蔵品		0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

＊京都国立博物館における寄贈3件分については、すでに受入済みの作品の附属品となったため、1-(1)-②-1収蔵品一覧表等にはカウントしていない。

付表・文化財収集件数の推移

5年間の新収品一覧表

（単位：件）

		平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度		
		購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計		576			1,351			1,037			1,106			525		
小計		26	153	397	23	513	815	47	484	506	43	563	500	63	318	144
絵画		9	10	0	6	11	28	13	52	0	14	10	0	13	36	0
書跡		3	36	0	2	12	1	3	28	0	5	29	0	7	42	0
彫刻		1	2	0	2	1	0	3	1	0	0	2	0	1	3	0
建築		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工		0	0	0	2	417	155	5	71	0	5	48	0	1	32	0
刀剣		0	0	0	0	2	38	0	0	0	0	11	0	0	2	0
陶磁		1	61	0	1	1	15	0	86	0	5	211	0	6	143	0
漆工		1	0	0	1	29	33	8	162	0	3	135	0	2	7	0
染織		1	1	0	3	5	65	4	7	0	2	4	0	4	8	0
考古		4	23	0	1	1	109	5	12	0	0	11	0	4	6	4
民族資料		0	0	0	0	0	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料		6	1	397	3	1	334	2	0	506	0	16	500	17	8	134
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
	書跡	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	彫刻	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0
	金工	0	16	0	0	29	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0
	陶磁	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	5	0	1	0	0
	漆工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	染織	0	0	0	2	1	0	4	0	0	8	2	0	6	0	0
	考古	0	0	0	0	0	10	0	62	0	0	48	0	0	0	5
	民族	0	0	0	0	0	15	0	1	0	0	22	0	0	27	0
法隆寺献納宝物		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
黒田記念館収蔵品		0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1-(1)-②-4 平成28年度新収品一覧

【東京国立博物館】(199件)

(1) 購入 (11 件)

＜絵画＞ (1 件)

1　○名　　称　准胝仏母像（じゅんていぶつもぞう）
　○指　　定　重要文化財
　○時　　代　平安時代・12 世紀
　○品　　質　絹本着色
　○員　　数　1 幅
　○寸 法 等　縦 104.0cm 横 43.2cm
　○作品概要　掛幅装。金銅軸。三目十八臂の准胝仏母像を描く。准胝は他に七倶胝仏母、准胝観音とも呼ばれ、除災・延命・除病・求児等のために行われる准胝法の本尊として用いられた。胎蔵現図曼荼羅遍智院向かって左端に、本図と同様の三目十八臂像が描かれる。准胝関係の経典は正倉院文書中にも見出せるが、本格的な信仰としては醍醐寺開山の聖宝による貞観 18 年（876）の准胝観音像造立からとみられている。以後は聖宝の流れを汲む東密小野流周辺を中心にして信仰されたようである。
　記録上は最澄請来の七倶胝仏母像様一巻があるが、現存作例としては、本図及び当館所蔵の八臂像（いずれも重要文化財、12 世紀）、京都・広隆寺の 13 世紀の十八臂像（重要文化財）、大阪・細見美術財団の 13 世紀と 14 世紀の十八臂像などが知られている。

＜書跡＞ (2 件)

2　○名　　称　書状（しょじょう）
　○作 者 等　藤原行成（972～1027）筆
　○指　　定　重要文化財
　○時　　代　平安時代・寛仁 4 年（1020）
　○品　　質　紙本墨書
　○員　　数　1 幅（附属 1 幅）
　○寸 法 等　縦 30.5cm 横 48.5cm
　○作品概要　掛幅装。木軸。唯一現存する藤原行成の書状である。「行成」の草書を組み合わせた草名（のちの花押）で始まるが、この草名が記された遺品としても唯一のもの。「赴鎮」は大宰権帥を兼任して大宰府に赴くこと、「献五節舞姫」は、行成の娘が五節舞姫に選ばれたこと、さらに「不慮昇進」が行成の権大納言への昇進を示している。これらの内容と、当館所蔵「白氏詩巻」（国宝、B-2533）との書風比較により、藤原行成が寛仁 4 年（1020）に記した書状であることがわかる。
「昇進」した際にたくさんの人々が「来賀」したが手紙の相手は来てくれなかったと述べている。後半部分が失われており宛先はわからないが、「光臨」などの語句の前を闕字にしており、相手に敬意を表していると思われる。
　書状であるにもかかわらず、端正・流麗に筆を運んでおり、楷書行書草書の配置や墨付きの濃淡も絶妙なバランスである。平安時代の末期、『今鏡』（巻５、ふぢなみの中、みづぐき）に、行成の書状を持たないものはいないと書かれており、行成の書状は人気があった。その人気を証明するような美しい書状である。
　尊円親王（1298～1356）筆の建武元年（1334）の添状が附属している（重要文化財の附）。「殊勝之権跡手本也。秘蔵者也。建武元年八月六日尊円（花押）」と雲紙の短冊型料紙に記している。この添状が、本書状を示すものかどうかは定かではないが、能書帝・伏見天皇の皇子であり青蓮院流の祖として活躍する尊円親王が「権跡」（藤原行成の書）を賞賛しており貴重である。

3　○名　　称　無量義経十功徳品第三断簡（愛知切）（むりょうぎきょうじゅうくどくほんだいさんだんかん（あいちぎれ））
　○作 者 等　伝藤原行成（972～1027）筆
　○時　　代　平安時代・11 世紀
　○品　　質　彩箋墨書
　○員　　数　1 幅
　○寸 法 等　本紙　縦 25.6cm　横 48.6cm
　○作品概要　掛幅装。平安時代中期に書写された『無量義経』の断簡で、雁皮紙に丁字吹きを施し、金泥で界線を引いた上に、金揉箔を一面に撒いた料紙を用いる。経文はやや細みで、行書を交えた典雅な和様で書写している。「愛知切」の名は、本経と同じ体裁をもつ『観普賢経』が早くから分割されて手鑑などに貼られ、その伝称筆者といわれる小野道風の出生地に因んで付けられたものである。したがって、もとは開結をともなう法華経の一部であった可能性がある。なお、当館では『観普賢経』のうち 2 行分を貼りこんだ経切手鑑を所蔵している。
　本幅は、新出の断簡で、1 紙分の 26 行がまとまっており、伝藤原行成筆とされている。その料紙と筆跡などよりみて、11 世紀初の書写と推定される。
　料紙の丁子吹きは、丁子の煎汁を吹き染めした技法で、平安時代中期から後期にかけて行われた。愛知切はその代表例である。その料紙の装飾と相まって、文字の美しさや筆勢が優れている点で、平安時代随一の経切であるといえる。

＜東洋書跡＞ (1 件)

4　○名　　称　行書陶淵明帰去来図画賛軸（ぎょうしょとうえんめいききょらいずがさんじく）
　○作 者 等　詹仲和（生没年不詳）筆
　○時　　代　明時代・正徳 7 年（1512）
　○品　　質　紙本墨書
　○員　　数　1 幅
　○寸 法 等　縦 37.8cm 横 88.0cm
　○作品概要　掛幅装。陶淵明（365～427）像に、詹仲和の款を伴う行書「帰去来辞」が続く。策杖の陶淵明像は、16 世紀に広く流布した、李公麟（1049～1106）系統の白描「陶淵明事蹟図巻」（伝朱徳潤筆京都個人蔵本など）の「帰去来」段の図像と同種である。

＜東洋陶磁＞ (1 件)

5　○名　　称　青花雲龍文方壺（せいかうんりゅうもんほうこ）
　○作 者 等　景徳鎮窯
　○時　　代　明時代・嘉靖年間(1522～66 年)
　○品　　質　磁製
　○員　　数　2 口
　○寸 法 等　高 20.1cm
　○作品概要　夾雑物を含む硬質白磁胎。青銅器の方壺に由来する形で、器壁は厚く、全体に歪みが生じている。頸に雷文、肩には如意頭を逆さにしたハート形の文様を巡らし、胴部に五爪の龍を 2 頭ずつ配する。裾にはラマ式蓮弁文を巡らし、底中央に青花の楷書で二重方圏内に「大明嘉靖年製」銘を施す。下絵付けのコバルトの発色はやや灰色を帯びて濃い。

＜東洋染織＞ (6 件)

6　○名　　称　白木綿地立涌メダイヨン文様更紗（鬼手）（しろもめんじたてわくめだいよんもんようさらさ（おにで））
　○時　　代　18 世紀
　○品　　質　木綿、木版更紗

○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 248.0cm 横 172.0cm
○作品概要　手紡ぎのやや太い木綿糸で平織にした木綿地に染めた鬼手更紗。木版で全体に二種の花文様を入れた立涌文様を表わし、その中央に円形のメダイヨンを木版で染める。周囲には花菱を繋いだ文様をめぐらしてボーダーとし、その両辺に花葉文様のボーダーがやはり木版で染められている。以上のようなデザインは 18 世紀にインド・グジャラートで染められた木版更紗の典型的なものである。インドでは、テント用天蓋（キャノピー）や覆い布として使用された。茶木綿の裏地が付いており、日本に舶載された後、煎茶などの場において、敷物として用いられた可能性がある。太い木綿糸で織られた木版更紗は 18 世紀から 19 世紀にかけてインドから日本に輸入された。日本では「鬼手」と称され、インド茜と木版による素朴な色合いと文様が茶人に愛好されたが、その多くは裁断されて、風呂敷や茶道具の包みなどに用いられた。

7　○名　　称　白木綿地花唐草シヴァ神文様更紗（しろもめんじはなからくさしぅぁしんもんようさらさ）
○時　　代　19 世紀
○品　　質　木綿、木版更紗
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 163.0cm 横 125.0cm
○作品概要　やや太めの粗い木綿地に木版で文様を染めた更紗。中央部の花唐草文様は 18 世紀から 19 世紀にかけてインド南東のマスリパタム（現 マチリパトナム）で製作された木版更紗に見られる典型的なデザインである。両面に蝋で防染を施した後に藍や茜で浸染し、白地が際立つように染められている。珍しいのは、その周囲をめぐらすボーダー部分に、シヴァ神がやはり木版捺染によって囲んでいる部分である。シヴァ神は、頭上に三日月の髪飾りを戴き、左手にトリシューラと称される三叉の鉾を持ち、首に蛇を巻き、裸体に腰巻をつけた姿で描かれ、典型的なシヴァ神の図像を表わす。シヴァ神を染めたボーダーをはさむように、花唐草文様の細いボーダーが木版で染められる。寺院の壁掛か祭壇の敷物として用いられていたと考えられる。

8　○名　　称　白木綿地火焔菱鋸歯文様更紗（しろもめんじかえんひしきょしもんようさらさ）
○時　　代　19 世紀
○品　　質　木綿、手描更紗
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 256.0cm 横 111.0cm
○作品概要　18 世紀後半から 19 世紀にかけてインド南東海岸・コロマンデルコーストで製作された手描更紗。茜染を主体とし、一部、藍や黄色などの染料で挿し色をする。主文様には、花菱を襷形に連続させた文様を染めるが、その細部を見るとタイ向け輸出更紗に見られるような小さな火焔形が細密な蝋描きによって白く染め抜かれており、タイ輸出向けデザインが一部に取り入れられていることがうかがえる。一方、両端のボーダーには、インドネシア・スマトラ島向け輸出更紗に見出される大胆な鋸歯文がデザインされている。インドネシア向け輸出更紗にはこのように他国向けデザインを主文様に取り入れた更紗が見られることから、本品もやはり、スマトラ島向け輸出更紗と考えられる。スマトラ島では、腰衣（カイン・スマギ）として使用された。

9　○名　　称　白木綿地菱メダイヨン花唐草ペイズリー文様更紗（しろもめんじひしめだいよんはなからくさぺいずりーもんようさらさ）
○時　　代　18 世紀末～19 世紀初
○品　　質　木綿、木版更紗
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 180.0cm 横 210.0cm
○作品概要　インド南東部の都市・マスリパタムで 18 世紀以降、盛んに生産された木版更紗。白木綿地を縦に 2 枚剥ぎ合わせた大きな覆い布である。花を込めた菱文様を連続させた文様を主文様とし、その中央に子持ち四弁花を入れたメダイヨンを染める。上下のボーダー部分には大きなペイズリー文様を５回半反復して木版で染める。その周囲の地を埋める赤で染めた細かい唐草文様は、マスリパタム（現マチリパトナム）の木版更紗に典型的なデザインである。主文様の周囲には幾重にも花唐草文様をめぐらす。それらも全て木版捺染である。さらに外縁には白地に花唐草文様を染める。イスラム美術に欠かせないアラベスク風の花唐草文様や菱のような幾何学形文様で全体を覆う、厳格な技術に裏付けられた緊密な木版捺染で染めた更紗は、ペルシャ向け輸出更紗の典型的な作例である。

10　○名　　称　ヨーロッパ更紗夜具 緑木綿地花文様（蝋引更紗）（よーろっぱさらさやぐ みどりもめんじはなもんよう（ろうびきさらさ））
○時　　代　19 世紀
○品　　質　木綿、木版更紗
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 183.0cm 横 148.5cm
○作品概要　上面を鏡仕立てにした袋状になっており、本来は中に綿をつめて布団として用いられていたと考えられる。鏡部分は、萌黄地に花唐草文様を木版捺染にした更紗であるが、そのデザインからフランスで製作されたいわゆるヨーロッパ更紗である。表面に薄く蝋引きし平滑に磨き上げたいわゆる「蝋引更紗」で、江戸時代にも 19 世紀には輸入されていたことが当館所蔵の『端物切本帳』からもうかがえる。しかしこの更紗のように地紋に細かい唐草文を表わし、上紋に花文を華やかにあしらったデザインは捺染の工程を繰り返した上等の更紗であることが分かる。2 幅分を手縫いで繋いで布団表とする。布団の額の部分および裏面の部分には萌黄色の木綿が用いられており、麻の仕立て糸が一部残る。布団に仕立てたのは日本であろう。

11　○名　　称　サロン白木綿地スエズ運河オランダ海軍船文様バティック（さろんしろもめんじすえずうんがおらんだかいぐんせんもんようばてぃっく）
○時　　代　19 世紀末～20 世紀初頭
○品　　質　木綿、蝋手描バティック
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 103.5cm 横 200.5cm
○作品概要　ジャワ北部海岸で染められたバティック（蝋描ジャワ更紗）。文様の配置からサロン（筒形腰衣）として用いられていたものである。白の木綿地に藍の濃淡で文様を染めるが、腰衣の前方にくるクパラ部分には花束の文様を、腰にまわすパダン部分にはスエズ運河に浮かぶオランダ海軍船を４艘浮かべ、その周囲に魚・蟹・海老など海に住む生物や草花文様を楽しげに散らす。スエズ運河を運行するオランダ海軍船の図様は様式化され、碇を下ろした 4 艘の船を配したデザインは他にも例が見られる。

(2) 寄贈（44 件）
＜絵画＞（3 件）

1　○名　　称　玄奘三蔵像（げんじょうさんぞうぞう）
○時　　代　鎌倉時代・14 世紀
○品　　質　絹本著色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 134.4cm 横 56.2cm
○作品概要　掛幅装。大きな笈に多数の経巻をつめて背負い、髑髏の首飾りをつけて、経文を唱えながら歩む僧侶の姿を描いている。細部には簡略化や形式化が見られるが、当館所蔵の重文の玄奘三蔵像と図像、彩色、衣服の文様などほぼ同じ様相を示す。現存作例のみでなく図像などでも類例のほとんどないこの種の画像の受容を考える上で貴重な作例である。

2　○名　　称　雀の発心（すずめのほっしん）
○時　　代　室町時代～安土桃山時代・16 世紀
○品　　質　紙本着色

○員　　数　1巻
○寸 法 等　縦 15.8cm　横 970.8cm
○作品概要　巻子装。室町時代以降愛好された御伽草子絵巻の一種。「雀草紙」、「小藤太物語」とも呼ばれる。自らの子どもを蛇に食われた小藤太という雀が、多くの鳥たちと和歌を交わした末に出家し、念仏三昧の日々を送るという物語。縦の法量が通常の絵巻の半分程度の「小絵」と呼ばれる作例で、こうした形態は室町時代の絵巻に見られるものである。ほぼ同文の本文を持つ作例に慶應義塾大学図書館蔵「鳥歌合絵巻」がある。これと比較すると、本作には第 10 紙と 11 紙の間に 2 紙分の欠失が認められる。

3　○名　　称　源信明図　三十六歌仙扁額の内（みなもとのさねあきらず　さんじゅうろっかせんへんがくのうち）
○作 者 等　筆者不詳
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　板金地着色
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 55.2cm 横 35.2cm
○作品概要　額装扁額。狩衣に折烏帽子姿で上畳に座し、左手を額にあて歌想を練る三十六歌仙の一人源信明を描く。上部にある 2 枚を連続させて雲間の月や藤などを金銀泥の下絵とした色紙形には、「右　源信明朝臣　恋しさはおなしこゝろにあらすとも　今夜の月を君ミさらめや」と記されている。

＜書跡＞（6 件）

4　○名　　称　色紙三十六歌仙図屏風（しきしさんじゅうろっかせんずびょうぶ）
○作 者 等　近衛信尹（1565～1614）、松花堂昭乗（1584～1639）ほか筆
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　彩箋墨書
○員　　数　6 曲 1 双
○寸 法 等　各 縦 149.3cm 横 56.1cm
○作品概要　屏風装。三十六歌仙の図と和歌を記した色紙形 36 枚を貼り交ぜた屏風。平安時代中期の公卿・藤原公任（966～1041）が撰出した『三十六人撰』をもとに『三十六人歌集』や三十六歌仙図が作られていた。本屏風は、歌合形式で左右に分けて貼り交ぜたものである。
屏風裏の貼り紙に、絵は本阿弥光悦筆とあり、書は、光悦筆 10 枚、小堀遠州筆 10 枚、烏丸光広筆 5 枚、松花堂昭乗筆 5 枚、近衛信尹筆 6 枚と記されている。それらの筆者についてはまだ検討の余地があるが、少なくとも近衛信尹と松花堂昭乗の分は真筆と考えられる。

5　○名　　称　表野家伝来書状巻（ひょうのけでんらいしょじょうかん）
○作 者 等　狩野探幽（1602～74）、高野山春深（生没年不詳）ほか各筆
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　2 巻
○寸 法 等　① 縦 15cm 横 71.3cm；② 縦 15.7cm 横 23.3cm；③ 縦 14.4cm 横 29.2cm；④ 縦 31.1cm 横 45.4cm；⑤ 縦 32.9cm 横 44.8cm；⑥ 縦 27.1cm 横 38.7cm；⑦上 縦 15.9cm 横 42.1cm；⑦下 縦 15.9cm 横 42.1cm；⑧上 縦 17.2cm 横 47.8cm；⑧下 縦 16.6cm 横 47.8cm；⑨上 縦 15.3cm 横 44cm；⑨下 縦 15.6cm 横 44cm；⑩上 縦 15.9cm 横 45.1cm；⑩下 縦 15.9cm 横 45.1cm
○作品概要　巻子装。木軸。書状 10 通を２巻に装訂している。もとは戸棚に貼付してあったものを、故表野篤氏が巻子装にした。巻一：①9 月 22 日付春深書状（玄佐宛）、②2 月 27 日付春深書状（玄佐宛）、③7 月 12 日付探幽書状（春深宛、B-1374-1 の原本）
巻二：④卯月 18 日付半井仲庵書状（春深宛）、⑤卯月 4 日付根来五左衛門書状（春深宛）、⑥孟春 16 日付玄佐書状（春深宛）、⑦五月晦日付玄佐書状（春深宛）、⑧10 月 21 日付書状（春深宛）、⑨2 月 12 日付春深書状（玄佐宛）、⑩霜月 16 日付探幽書状（春深宛）

6　○名　　称　行書七言絶句（ぎょうしょしちごんぜっく）
○作 者 等　西川春洞（1847～1915）筆
○時　　代　明治 36 年(1903)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　6 幅
○寸 法 等　各 縦 129.2cm 横 39.8cm
○作品概要　掛幅装。木軸。中国・宋時代の范成大や元時代の趙孟頫などの七言絶句を六幅にそれぞれ一首ずつ行書で揮毫する。

7　○名　　称　前赤壁賦屏風（ぜんせきへきふびょうぶ）
○作 者 等　西川春洞（1847～1915）筆
○時　　代　明治 43 年(1910)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　6 曲 1 双
○寸 法 等　本紙各 縦 136.5cm 横 51.0cm
○作品概要　屏風装。中国・北宋時代の蘇軾作「前赤壁賦」を六曲一双の屏風に揮毫する。

8　○名　　称　石山切（伊勢集）料紙（いしやまぎれ　いせしゅう　りょうし）
○時　　代　平安時代・天永 3 年（1112）頃
○品　　質　彩箋
○員　　数　1 葉
○寸 法 等　縦 20.2cm　横 15.9cm
○作品概要　未表装。「石山切」は、平安時代後期の天永 3 年（1121）3 月に、白河法皇の 60 歳の賀に際して調進された調度手本と考えられている「本願寺本三十六人家集」39 帖のうち、「貫之集」下および「伊勢集」の 2 帖が昭和 4 年（1929）に分割され、断簡となったもの。「石山切」の名称は、本願寺がもと所在した摂津の石山（現在の大阪城付近）にちなんで名付けられた。分割された 2 年後の昭和 6 年には「本願寺本三十六人家集」37 帖は国宝に指定されている。
これは分割された伊勢集の帖末にあった墨書のない頁であるが、本文が書かれた頁と同じ種類の装飾および材質の料紙である。宮廷の紙屋院で製作した漉き返し紙である紙屋紙と、舶載の縹色の唐紙などを破継ぎした美麗な料紙となっている。「本願寺本三十六人家集」のなかでも紙屋紙の使用は稀で、伊勢集、能宣集上、忠見集の 3 帖の継紙の一部に数例がみられるのみであり、きわめて貴重な料紙である。

9　○名　　称　詩書屏風（ししょびょうぶ）
○作 者 等　亀田鵬斎（1752～1826）筆
○時　　代　江戸時代・文政 6 年（1822）
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　6 曲 1 双
○寸 法 等　各　縦 131.1cm　横 298.4cm
○作品概要　屏風装。亀田鵬斎が草書で書いた七言絶句 3 句を右隻に、七言律詩 3 句を左隻に収める。各詩はいずれも鵬齋の詩文をまとめた「鵬齋先生詩鈔」「善身堂詩鈔」などに収録されていないが、各詩には鵬齋の詩に頻出する語句や、独特な筆線が確認できるとともに、それぞれに印章と落款がみられる。左隻の詩文の末には「鵬齋老人時年七十二」とあり、晩年の 72 歳の筆跡であることが判明する。

＜考古＞(3 件)

10 ○名　　称　深鉢形土器（ふかばちがたどき）
○作 者 等　東京都東久留米市前沢出土
○時　　代　縄文時代(中期)・前 3000～前 2000 年
○品　　質　土製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　口径 15.4cm 底径 6.5cm 高 25.7cm
○作品概要　西関東における縄文時代中期中葉の勝坂 3 式土器。底部は平底をなし、胴部から口縁部が外傾して立ち上がる深鉢形土器。口縁部は無文、胴部上半に隆帯で文様帯を上下限し、これに刻み目を施した隆帯を垂下させて区画する。3 単位ある区画内には、渦巻文を貼り付けて三叉文を施すものを 2 単位、抽象文を施すものを 1 単位配置する。

11 ○名　　称　深鉢形土器（ふかばちがたどき）
○作 者 等　東京都東久留米市出土
○時　　代　縄文時代(中期)・前 3000～前 2000 年
○品　　質　土製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　口径 26.8cm 高 29.7cm
○作品概要　南関東における縄文時代中期後半の加曾利 E2 式並行期の連弧文土器。底部は平底で、胴部下半が内湾し、上半もまたゆるく内湾して口縁部にいたる深鉢形土器。口縁部には三条の沈線を巡らせ交互刺突文を施す。胴部上半には三条の沈線による重弧文を 2 段配置し、その下に懸垂文を施す。地文は撚糸文。

12 ○名　　称　磨製石斧（ませいせきふ）
○作 者 等　東京都東久留米市出土
○時　　代　縄文時代(中期)・前 3000～前 2000 年
○品　　質　(1)砂岩　(2)凝灰岩　(3)砂岩
○員　　数　3 個
○寸 法 等　(1cm) 長 11.8cm ； 幅 3.2cm 厚 3cm 重量 119.4cm ；(2cm) 長 12.7cm ； 幅 5.1cm 厚 2.5cm 重量 247.9cm ；(3cm) 長 16.6cm ； 幅 6.2cm 厚 2.9cm
○作品概要　(1)伐採具ないし木工具である磨製石斧である。頭部が細く棒状で、断面形が円形となる乳棒状磨製石斧である。縄文時代前期中葉より出現し列島に広く分布する。
(2)、(3)伐採具ないし木工具である磨製石斧である。頭部および両側面に稜をもち、断面形が隅丸長方形となる定角式磨製石斧である。縄文時代中期より出現し、関東および中部地方では後期以降磨製石斧の主要を占める。頭部や両側縁に整形の際の敲打痕がわずかに残り、刃部の一部を欠く。

＜歴史資料＞(1 件)

13 ○名　　称　転合庵ほか茶室資料（てんごうあん　ちゃしつしりょう）
○時　　代　江戸～昭和時代・19～20 世紀
○員　　数　一括（19 件 43 点）
○作品概要　塩原又策氏が所蔵していた茶室・転合庵は関東大震災によって倒壊し、数奇屋大工・山岸氏によって昭和 5 年（1930）に再建された（昭和 38 年(1963)に塩原千代氏より当館に寄贈)。本資料は、その再建時の関係資料や図面を含み、山岸家が関わった茶室の資料や、収集した茶室資料など全 19 件 43 点である。

＜東洋絵画＞(4 件)

14 ○名　　称　チャクラサンヴァラ父母仏曼荼羅（ちゃくらさんばらぶもぶつまんだら）
○時　　代　17-18 世紀
○品　　質　綿布著色、絹
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 120.3cm、横 74.8cm
○作品概要　額装。明妃ヴァジュラヴァーラーヒ（金剛亥母）を抱いた 4 面 12 臂のチャクラサンヴァラ（勝楽尊）を主尊とするチベット曼荼羅の一種。主尊を置いた八葉蓮華を中心に、周囲にかけて、四門を備えた方形や蓮華形によって区画を設け、その内外に諸尊及び父母仏を多数配置する。上部中央に、部主であるヴァイロチャナ（毘盧遮那仏）と明妃、下部中央にアモガパサ（不空羂索観音）を、それぞれ他の諸尊より大きめに描く。
画面の周囲には、五鈷杵の文様を刺繍によって表した絹製の縁取りを巡らせ、上縁部に吊り下げ用の紐帯 2 本を縫合しており、寺院に奉納し、懸架して用いたタンカの作例であることがわかる。

15 ○名　　称　ヤマーンタカ及び諸尊像（やまーんたかおよびしょそんぞう）
○時　　代　18 世紀頃
○品　　質　綿布著色
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 82.7cm、横 58.2cm
○作品概要　額装。8 面 20 臂 16 足のヤマーンタカ（大威徳明王）を大きく描き、下部にダルマパラ（護法神）を４体描く。画面向かって左上にチベット仏教ゲルク派の祖師であるツォンカパ(1357-1419)、右上に触地印を結ぶ釈迦仏を配置する。ツォンカパの両脇には蓮華が伸び、華の上に文殊菩薩を象徴する剣と経典をのせる。
黄色の帽子を戴くツォンカパの描写や、ツォンカパとヤマーンタカの関係性などから、ゲルク派のタンカの遺例と考えられる。

16 ○名　　称　釈迦仏坐像及び本生図（しゃかぶつざぞうおよびほんじょうず）
○時　　代　18-19 世紀
○品　　質　綿布著色
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 81.9cm、横 58.8cm
○作品概要　額装。チベット仏教においてしばしば制作された釈迦絵伝の一種。
大ぶりの光背を負って蓮華座に結跏趺坐し、与願施無畏印を結ぶ釈迦仏を中心として、周囲に 44 場面のジャータカ（本生譚）を画面一杯に描く。釈迦仏の頭上の円形の中には、釈迦の部主であるヴァイロチャナ（毘盧遮那仏）と明妃がヤブユムの姿で描かれる。

17 ○名　　称　インド細密画（いんどさいみつが）
○時　　代　15～19 世紀
○品　　質　紙本着色ほか
○員　　数　一括（89 件）
○作品概要　細密画はいずれも厚紙に水彩（部分的に金銀彩）をしたものであり、その内容は音楽を主題としたもの、神話を主題としたもの、肖像画などから構成されている。

本コレクションのは 1.ジャイナ教経典写本、2.宮廷細密画、3.マルワ民画、4.写本類（断片を含む）、5.貝葉経と多岐に渡り、インド細密画の起源をなす経典挿絵から各地の藩王国宮廷における作品、民間への波及により生まれた作品など、インド細密画の世界全体を概観するに足る内容を持っている。

特にダティア派の画家によって 1770-1780 年頃に描かれた「サットサイシリーズ」が 10 枚含まれており、本コレクションの代表作である。「サットサイシリーズ」は藩王国オルチャのマハラジャが主人公の恋物語。本来 200 位の場面から構成されていたと考えられるがまとまったコレクションは知られておらず貴重である。

＜東洋民族＞(27 件)

18 ○名　　称　ワヤン・クリ　ブトロ・グル
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、金箔、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 81.1cm 像高 49.0cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜き、水牛の角の操作棒をつけている。本体部分に彩色。可動部はなく、操作棒 1 本で操作する。着衣部分の鏨は輪郭線を破線や列点状になぞることを基本とする。
インドのシヴァ神に当たる、宇宙を支配する神ブトロ・グルを表現している。顔は黒色、体は金色。目は切れ長。宝冠をかぶり、靴を履く。腕は 4 本あり、2 本の腕は胸の前で交差させて印を結ぶ。残る 2 本の腕のうち、一方の腕の傍らに矢があり、他方の手には三叉戟が握られている。超能力を持つ牛ルムブ・アンディニの背に立つ。

19 ○名　　称　ワヤン・クリ　ウモ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、真鍮、金箔、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 58.5cm 像高 36.2cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に真鍮の軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。鏨による毛髪の表現が細かく、また着衣の裾の部分でも細かい鏨を組み合わせて文様を表現している。
宇宙を支配する神ブトロ・グルの妻ウモを表現している。顔・体とも金色。目は切れ長。顔はややうつむく。帽子、胸飾、腕輪、靴を身に着け、長髪が腰まで伸びている。

20 ○名　　称　ワヤン・クリ　ナロド
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、骨、木、竹、金箔、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 60.1cm 像高 38.0cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹に木製、両手に竹製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。比較的小さい鏨を用い、輪郭を点線や破線で表現している。
ブトロ・グルの右腕で、グルをいさめることもあるナドロを表現している。顔はピンク色、体は金色。目は弓形。あごひげを生やし、帽子、上衣、靴を身に着け、腰にはクリスを差す。

21 ○名　　称　ワヤン・クリ　インドロ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 77.6cm 像高 52.2cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。着衣部分では比較的大きめの鏨を用い、輪郭を点線で表現している。
天界を守護する神インドロを表している。顔は黒色、体は金色。目は円い。あごひげを生やし、宝冠、上衣、靴を身に着け、腰にクリス（短剣）を差す。

22 ○名　　称　ワヤン・クリ　スルヨ
○時　　代　20 世紀
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 69.0cm 像高 48.0cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に軸材（前方の肘のみ水牛の骨、ほか 3 か所は水牛の革）を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。着衣部分では鏨による点線や破線で輪郭を表現する。
太陽神スルヨを表現している。顔・体とも金色。目は切れ長。あごひげを生やし、帽子、肩衣、長い上衣、靴を身に着け、腰にクリス（短剣）を差す。

23 ○名　　称　ワヤン・クリ　ブロモ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 82.0cm 像高 59.3cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。着衣部分では鏨による点線や破線で文様の輪郭を表現する。
火の神ブロモを表している。顔はピンク色、体は金色。目はアーモンド形。宝冠、赤い上衣、靴を身に着け、腰にクリス（短剣）を差す。

24 ○名　　称　ワヤン・クリ　スマル
○時　　代　20 世紀前半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 60.2cm 像高 38.0cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。着衣部分では鏨による点線や破線で輪郭を表現している。
道化のスマル（ブトロ・グルの兄）を表現している。顔は金色、体は黒色。サロンと腕輪、指輪を身に着ける。

25 ○名　　称　ワヤン・クリ　ガレン
○時　　代　20 世紀前半
○品　　質　水牛の革、角、骨、真鍮、人毛、彩色

○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 60.4cm 像高 40.5cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に軸材（前方の肩・肘が真鍮、後方の肩・肘が水牛の骨）を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。人毛による髷を頭頂に糸で縫い付けている。着衣部分では比較的粗い鏨を用いて点線や破線で輪郭を表現する。
道化ガレン（スマルの長男）を表現している。顔は金色、体は黒色。サロンと耳飾り、腕輪、指輪を身に着け、腰にクリス（短剣）を 2 本差す。

26 ○名　　称　ワヤン・クリ　ペトル
○時　　代　20 世紀前半
○品　　質　水牛の革、角、真鍮、人毛、絹、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 77.4cm 像高 57.2cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に真鍮を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。人毛による髷を頭頂に糸で縫い付けている。後方の手に絹製の三角形の布を縫い付けている。着衣部分では鏨による点線や破線で輪郭を表現している。
道化ペトル（スマルの次男）を表現している。顔は金色、体は黒色。サロンと耳飾り、腕輪、指輪を身に着ける。

27 ○名　　称　ワヤン・クリ　バゴン
○時　　代　20 世紀
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 57.4cm 像高 37.6cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。髷が水牛の革で別づくりされ、水牛の骨で頭頂に固定されている。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。鏨は比較的大きいが、着衣の部分では細かい鏨を組み合わせて文様を表現している。
道化バゴンを表現している。顔・体とも緑灰色。サロンと耳飾り、腕輪、指輪を身に着ける。

28 ○名　　称　ワヤン・クリ　トゴグ
○時　　代　20 世紀前半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 66.7cm 像高 45.0cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。（@彩色の時点）本体部分に彩色。着衣部分では鏨による点線や破線で輪郭を表現している。
放浪の神トゴグ（ブトロ・グルを三男、スマルを次男とする 3 人兄弟の長男）を表現している。顔・体ともピンク色。サロンと耳飾り、腕輪、指輪を身に着け、腰に 2 本のクリス（短剣）を差す。

29 ○名　　称　ワヤン・クリ　ヨモディパティ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、竹、真鍮、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 81.0cm 像高 59.4cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に軸材（両肩が真鍮、両肘が水牛の骨）を貫通させて組み立てる。体幹に水牛の角製、両手に竹製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。着衣部分では比較的太い鏨で、点線や破線により輪郭を表現している。
死の世界をつかさどる神ヨモディパティを表す。顔はピンク色、体は金色。目は円い。あごひげを生やし、帽子、上衣、肩衣、靴を身に着け、腰に短剣を差す。

30 ○名　　称　ワヤン・クリ　シリハン
○時　　代　20 世紀
○品　　質　水牛の革、角、竹、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 54.4cm 像高 31.7cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に竹製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。着衣部分では鏨による点線や破線で輪郭を表現している。
シリハンと呼ばれ、ワヤン・クリの上演において、ダラン（演者）の指示により劇中で様々な役柄を与えられる女性像。顔・体とも金色。目は切れ長。ややうつむいている。髷を結うが、長髪を後方に垂らしている。腕輪を身に着ける。

31 ○名　　称　ワヤン・クリ　シリハン
○時　　代　20 世紀
○品　　質　水牛の革、角、骨、プラスティック、金箔、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 53.0cm 像高 33.0cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹に水牛の角製、両手にプラスティック製（補修あり）の操作棒をつけている。本体部分に彩色。頭髪を表現する鏨は細かい。着衣部分では鏨による点線や破線で輪郭を表現している。
シリハンと呼ばれ、ワヤン・クリの上演において、ダラン（演者）の指示により劇中で様々な役柄を与えられる女性像。顔・体とも金色。目は切れ長。顔はややうつむく。髷を結うが、長髪を後方に垂らしている。腕輪、胸飾を身に着ける。

32 ○名　　称　ワヤン・クリ　シリハン
○時　　代　20 世紀
○品　　質　水牛の革、角、骨、プラスティック、金箔、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 51.0cm 像高 33.0cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹に水牛の角製、両手にプラスティック製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。鏨による点線や破線で輪郭を表現している。髪や着衣の裾では細かい鏨を用いる。
シリハンと呼ばれ、ワヤン・クリの上演において、ダラン（演者）の指示により劇中で様々な役柄を与えられる女性像。顔は白色、体は金色。目は切れ長。髷を結うが、長髪を後方に垂らしている。腕輪を身に着け、肩衣を掛ける。

33 ○名　　称　ワヤン・クリ　シリハン
○時　　代　20 世紀

○品　　質　水牛の革、角、骨、金箔、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 53.4cm 像高 34.8cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。髪の毛と着衣の裾の部分では、細かい鏨を組み合わせて文様を構成している。
シリハンと呼ばれ、ワヤン・クリの上演において、ダラン（演者）の指示により劇中で様々な役柄を与えられる女性像。顔・体とも金色。目は切れ長。髷を結うが、長髪を後方に垂らしている。腕輪を身に着け、肩衣を掛ける。

34 ○名　　称　ワヤン・クリ　シリハン
○時　　代　20世紀
○品　　質　水牛の革、角、骨、金箔、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 53.1cm 像高 35.1cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。着衣の裾では細かい鏨を組み合わせて文様を表現している。
シリハンと呼ばれ、ワヤン・クリの上演において、ダラン（演者）の指示により劇中で様々な役柄を与えられる女性像。顔は白色、体が金色。目は切れ長。顔を上に上げている。髷を結うが、長髪を肩まで伸ばす。腕輪を身に着ける。

35 ○名　　称　ワヤン・クリ　チャキル
○時　　代　20世紀後半
○品　　質　水牛の革、骨、金箔、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 70.5cm 像高 47.0cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。着衣の裾の部分では細かい鏨を組み合わせて文様を表現している。
チャキルを表す。ラクササ（怪物）の一種で、チャキルとは鋲の意味で、牙のことを指している。特定のキャラクターではなく、主人公に打ち取られる役として用いられる人形。顔はピンク色、体は金色。目は弓形で、口には大きな牙がある。クリス（短剣）を2本差す。

36 ○名　　称　ワヤン・クリ　ラクササ
○時　　代　20世紀
○品　　質　水牛の革、角、骨、金泥、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 88.4cm 像高 63.2cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。着衣部分では鏨を組み合わせて文様を構成している。
口元に牙があり、ラクササ（怪物）の特徴を示す。顔はピンク色、体は金色。目は円い。宝冠や身なりから、ラクササの王の地位にあることを示す。

37 ○名　　称　ワヤン・クリ　ランブットグニ
○時　　代　20世紀
○品　　質　水牛の革、木、竹、真鍮、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 77.0cm 像高 58.3cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品3つを、関節部分の孔に軸材（肩が真鍮、両肘が紐）を貫通させて組み立てる。体幹に木と竹製、前方の手に竹製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。比較的粗い鏨で輪郭を表現する。
燃えるような赤い髪の毛を持っているが、特定の役柄名は持たない。顔・体とも淡褐色。目は円い。口元に牙があり、ラクササ（怪物）の特徴を示す。髪は炎の形をし、赤い。木（籐）の操作棒は、揺らして用いるためである。

38 ○名　　称　ワヤン・クリ　プヌク
○時　　代　20世紀
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 68.4cm 像高 47.3cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品3つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。（＠透の鏨について観察）
プヌクと呼ばれるラクササ（怪物）の一種を表現している。特定の役柄名は持たない。顔・体とも暗紫色。目は丸く大きい。口元に牙があり、ラクササ（怪物）の特徴を示す。腕輪、指輪を身に着ける。

39 ○名　　称　ワヤン・クリ　ジン
○時　　代　20世紀
○品　　質　水牛の革、角、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 55.5cm 像高 36.2cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜き、水牛の角の操作棒をつけている。本体部分に彩色。可動部はなく、操作棒1本で操作する。鏨は最低限にとどめ、輪郭を表現するのみ。
亡霊ジンを表現する。役柄名は持たない。顔・体とも暗紫色。目は大きく丸い。大きな牙を持つ。片手を額の近くに上げ、片手を腰に当てた姿勢。全裸。

40 ○名　　称　ワヤン・クリ　ジン
○時　　代　20世紀
○品　　質　水牛の革、角、骨、金泥、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 55.6cm 総高 36.5cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。
亡霊ジンを表現する。役柄名は持たない。顔・体ともピンク色。目は巨大で丸い。口に大きな牙を持つ。全裸だが耳飾りをつける。

41 ○名　　称　ワヤン・クリ　ジン
○時　　代　20世紀
○品　　質　水牛の革、竹、彩色
○員　　数　1体

○寸 法 等　全長 58.3cm 像高 41.5cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜き、竹製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。可動部はなく、操作棒 1 本で操作する。髪の毛の部分で、鏨を組み合わせて巻き髪を表現。ほかの部分では鏨による点線や破線で輪郭を表現している。
亡霊ジンを表現する。役柄名は持たない。顔・体とも暗紫色。目は丸く、口に牙がある。

42 ○名　　称　ワヤン・クリ　ジン
○時　　代　20 世紀
○品　　質　水牛の革、角、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 55.2cm 像高 37.0cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜き、水牛の角の操作棒をつけている。本体部分に彩色。可動部はなく、操作棒 1 本で操作する。粗い鏨による点線や破線で輪郭のみを表現している。
亡霊ジンを表現する。役柄名は持たない。顔・体とも淡いピンク色。目は丸く、口に牙がある。頭頂部が禿げ上がっている。髪の毛は髷を結わず後方に垂らす。片手に刀を持つ。

43 ○名　　称　ワヤン・ゴレ　ウマルモヨ
○時　　代　20 世紀
○品　　質　木、竹、布、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 67.5cm 像高 46.2cm
○作品概要　胴部と上腕、上腕と前腕・手をそれぞれ糸でつなげ、両手には操作棒を糸でつなげている。操作棒は胴部を縦に貫通した孔を下から上に通過して、先端に頭部を載せる。胴部には腰に当たる部分にくびれがあり、下衣の上端はこのくびれに縛り付ける。　胴部の下半、下衣によって隠される部分にインクによる注記「MARMOYO／マルモヨ」がある。
将軍ウマルモヨを表現する。ペルシャの「アミル・ハムザ物語」に由来する「メナク物語」を人形劇化した、イスラムの聖人に関する物語ワヤン・メナク（wayang menak）で用いられる。ウマルモヨは主人公ジャエンロノ配下の将軍で従兄弟。ジャエンロノはアミル・ハムザともいい、イスラム教の開祖ムハンマドの叔父にあたる。

44 ○名　　称　ワヤン・ゴレ　ジウェン
○時　　代　20 世紀
○品　　質　木、竹、布、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 67.5cm 像高 49.2cm
○作品概要　胴部と上腕、上腕と前腕・手をそれぞれ糸でつなげ、両手には操作棒を糸でつなげている。操作棒は胴部を縦に貫通した孔を下から上に通過して、先端に頭部を載せる。胴部には腰に当たる部分にくびれがあり、下衣の上端はこのくびれに縛り付ける。頭には帽子をかぶる。
ペルシャの「アミル・ハムザ物語」に由来する「メナク物語」を人形劇化した、イスラムの聖人に関する物語ワヤン・メナク（wayang menak）で用いられる道化のキャラクターの 1 つ、ジウェンを表現している。

(3) 編入（144 件）
＜考古＞(4 件)

1 ○名　　称　外容器（がいようき）
○作 者 等　香川県三豊市高瀬町北原遺跡（猫坂古墓）出土
○時　　代　奈良時代・8 世紀
○品　　質　陶製
○員　　数　1 合
○寸 法 等　総高 29.5cm 最大径 30.2cm
○作品概要　蓋と身からなる骨蔵器を収めるための須恵器の外容器。
蓋は宝珠形のつまみを持ち、緩やかに湾曲する。身は底部に背の低い高台が付き緩やかに湾曲しつつ外に開く。いずれもロクロによる成形とナデ整形を施す以外無文だが、内外に赤色顔料が塗布されている。底中央に 5 ミリほどの穿孔あり。
作品には「震災の為削除」の札が付されており、関東大震災後に削除されたと考えられる（列品番号の記載なし）。
北原遺跡（猫坂古墓）出土品として『高瀬町史』(高瀬町編集･発行　平成 17 年 2 月刊行)に挿図入りで掲載されている。

2 ○名　　称　銅板残片（どうばんざんぺん）
○作 者 等　香川県三豊市高瀬町北原遺跡（猫坂古墓）出土
○時　　代　奈良時代・8 世紀
○品　　質　銅製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　縦 8.4cm 横 8.5cm
○作品概要　隅丸方形状を呈する銅板。わずかに湾曲し、端部が一部丸く加工されている。
内面に布目状の圧痕と繊維が一部に付着する。同様の布目は銅製骨蔵器（E-14464 ）の内面にも認められるため、当該作品が銅製骨蔵器内に収められていたと考えられる。
北原遺跡（猫坂古墓）出土品として『高瀬町史』(高瀬町編集･発行　平成 17 年 2 月刊行)に記載されている。

3 ○名　　称　経筒蓋（きょうづつふた）
○作 者 等　岐阜県瑞浪市土岐町桜堂　桜堂経塚出土
○時　　代　平安時代・12 世紀
○品　　質　陶製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　径 20.3cm 高 6.9cm
○作品概要　陶製経筒の蓋。全体の 3 分の 1 程度を欠き、3 破片の接合と樹脂による補修が施されている。ロクロによる成形ながらも不整円形を呈する。器面は粗いケズリの調整痕が目立ち、緑釉が厚く施されている。中央に円柱状のツマミが付く。
内面に「宗一五一七」と墨書されており、埋蔵物録や列品記載簿に記載された番号から、当該作品が E-14746 で登録されていたものが、昭和 44 年に誤記削除されたと考えられる。

4 ○名　　称　石櫃（いしびつ）
○作 者 等　山形県南陽市宮内字別所出土
○時　　代　平安時代・12 世紀
○品　　質　石製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　最大長 60.0cm 最大幅 40.0cm 最大長（内刳）38.0cm 最大幅（内刳）21.0cm 最大高（内刳）20.0cm
○作品概要　凝灰岩製の石櫃の身で外容器の一部。

楕円形に加工され、内部が隅丸方形に刳られている。内外面にわたり加工痕が粗く残されている。
明治 31 年埋蔵物録の「山形県東置賜郡宮内町所有別所山ニ於テ発掘ノ石櫃其ノ他買上ノ件」に掲載されている計測図の特徴や計測値から当該石櫃と同一のものと考えられる。E-14396 として登録されていたものが、昭和 44 年に誤記削除されたと考えられる。

＜歴史資料＞(134 件)

5　○名　　称　歴史資料（れきししりょう）
　○時　　代　江戸～昭和時代・17～20 世紀
　○員　　数　134 件
　○作品概要　「歴史資料(P)」と称される分野は、昭和 13 年(1938)旧歴史部の解体に伴い、当時の列品から「学芸課資料」として再編成された資料群を基礎としている。構成としては、江戸幕府からの引継ぎ資料や、当館の前身といえる書籍館、浅草文庫、内務省博覧会事務局収集資料も多く含まれ、その内容は多様である。今回編入分には、ジョサイア・コンドル設計による旧本館の図面類や、すでに重要文化財に指定されている今井八九郎関係資料などが含まれる。

＜東洋考古＞(5 件)

6　○名　　称　長頸壺（ちょうけいこ）
　○時　　代　三国時代(新羅)・5 世紀後半
　○品　　質　土器
　○員　　数　1 口
　○寸 法 等　高 32.4cm 口径 18.4cm～18.8cm 胴径 27.7cm
　○作品概要　三国時代新羅の王都・慶州に見られる、5 世紀後半の典型的な丸底の長頸壺。
丸底に叩き出したのちにロクロ上で丁寧に表面をなで、2 条 1 組の沈線によって作り出した突帯で、肩部と腹部の境界を明示する。やや外傾しつつ直線的に立ち上がる口頸部は、2 条突帯によって口縁部と頸部を分け、頸部は沈線 2 条によって上下分割する。頸部の付け根にも突帯をめぐらす。口縁端部は水平で、やや凹面をなす。
肩部に 2 組、腹部に 2 組、頸部の 1 段につき 2 組ずつ、櫛描波状文をめぐらす。
白ペンキで「LA34」の注記がある。注記のしかたが、徳川頼貞氏寄贈の銅駝坊陳列館旧蔵品のそれと同様であることから、徳川コレクションの寄贈（昭和 2 年）の際に登録から漏れたものとみなされる。また、「1160」と記されたラベルが貼付されている。

7　○名　　称　長頸壺（ちょうけいこ）
　○時　　代　三国時代(新羅)・5 世紀後半
　○品　　質　土器
　○員　　数　1 口
　○寸 法 等　高 31.3cm 口径 19.4cm～19.7cm 胴径 28.0cm
　○作品概要　三国時代新羅の王都・慶州に見られる、5 世紀後半の典型的な丸底の長頸壺。
丸底に叩き出したのちにロクロ上で丁寧に表面をなで、2 条 1 組の沈線によって作り出した突帯で、肩部と腹部の境界を明示する。やや外傾しつつ直線的に立ち上がる口頸部は、2 条突帯によって口縁部と頸部を分け、頸部は沈線 2 条によって上下分割する。頸部の付け根にも突帯をめぐらす。口縁端部は水平で、やや凹面をなす。
肩部に 2 組、腹部に 2 組、頸部の 1 段につき 2 組ずつ、櫛描波状文をめぐらす。
白ペンキで「LA33」の注記がある。注記のしかたが、徳川頼貞氏寄贈の銅駝坊陳列館旧蔵品のそれと同様であることから、徳川コレクションの寄贈（昭和 2 年）の際に登録から漏れたものとみなされる。また、「1161」と記されたラベルが貼付され、「11580」の注記がある。

8　○名　　称　短頸壺（たんけいこ）
　○時　　代　三国時代(新羅)・5～6 世紀
　○品　　質　土器
　○員　　数　1 口
　○寸 法 等　高 42.0cm 口径 18.4cm～18.9cm 胴径 40.8cm
　○作品概要　三国時代新羅に見られる、典型的な丸底球胴の短頸壺である。
胴は叩き出しののち、丁寧になでられている。口縁部は曲線的に短く開き、端部は垂直面をなす。
「LA.37」の注記があるほか、ラベルが貼られた痕跡がある。注記が徳川頼貞氏寄贈の銅駝坊陳列館旧蔵品のそれと同様であることから、徳川コレクションの寄贈（昭和 2 年）の際に登録から漏れたものとみなされる。

9　○名　　称　甕（かめ）
　○時　　代　三国時代(新羅)・5～6 世紀
　○品　　質　土器
　○員　　数　1 口
　○寸 法 等　高 25.5cm 口径 18.1cm～19.0cm 胴径 26.2cm 底径 11.8cm～12.2cm
　○作品概要　三国時代新羅に見られる、典型的な甕である。やや上げ底になるように叩き出し、胴部はやや張る。口縁部は強く外方に開き、端部は外傾する凹面をなす。
胴部外面下位には格子叩き目を残し、胴中央は沈線をめぐらすほかは装飾はない。
注記やラベルなどの痕跡は見られないが、製作技法や付着している土壌などの特徴は、徳川頼貞氏寄贈の銅駝坊陳列館旧蔵品のそれと共通していることから、徳川コレクションの寄贈（昭和 2 年）の際に登録から漏れたものとみなされる。

10　○名　　称　浮彫断片（うきぼりだんぺん）
　○作 者 等　エジプト、テル・エル・アマルナ出土
　○時　　代　新王国時代（第 18 王朝アクエンアテン王治世）・前 1351～前 1334 年頃
　○品　　質　アラバスター
　○員　　数　1 個
　○寸 法 等　縦 14.7cm 横 11.4cm 奥行き 16.5cm
　○作品概要　アクエンアテン王の王名枠（カルトゥーシュ）の一部と、丸い形状の浮彫の断片が残る。

＜法隆寺献納宝物＞（1 件）

11　○名　　称　幡芯板(木簡転用材)（ばんのしんいた(もっかんてんようざい)）
　○時　　代　飛鳥～奈良時代・７～８世紀
　○品　　質　木製墨書
　○員　　数　8 枚
　○寸 法 等　①縦 30.2cm 横 2.7cm,②縦 24.0cm 横 4.0cm,③縦 23.8cm 横 2.6cm,④縦 23.5cm 横 2.5cm,⑤縦 18.5cm 横 2.2cm,⑥縦 17.6cm 横 1.8cm,⑦縦 17.1cm 横 3.5cm,⑧縦 16.5cm 横 3.0cm
　○作品概要　169 枚の存在が確認された幡芯板は、幡がたわむのを防ぐため、幡身一坪目の頂部に渡した木材であり、明治 12 年『列品録』の「法隆寺献納宝物ノ塵芥櫃」中に記載された「幡木材片　壱括」に相当すると考えられる。これらのうち 8 枚は、表裏に墨書があり、いずれも木簡を転用したもので、その書風より７世紀末から８世紀前半までに作成された可能性が高い。現状では幡芯板の形状に削り直されているが、伝来品としてはわが国最古級の木簡資料である。墨書の内容は、「千字文」や、中宮寺や法起寺と関係するとみられる尼僧の名前、さらに塩などの売買記録など、古代の寺院生活を検討する上で、貴重な情報を提供するものである。

【京都国立博物館】(計 265 件)

(1) 購入(14 件)

＜絵画＞(3 件)

1　○名　　称　蝦蟇河豚相撲図（がまふぐずもうず）
　○作 者 等　伊藤若冲筆
　○時　　代　江戸時代(18 世紀)
　○品　　質　紙本墨画
　○員　　数　1 幅
　○寸 法 等　縦 101.3cm、横 43.0 cm
　○作品概要　若冲の水墨画は数多く現存しているが、本作は主題の珍しさにおいてほかに類を見ないきわめてユニークな作品である。京都ゆかりの画家の優品として、また、一般への訴求力も強く、古美術への関心を高める効果が大いに期待できる。

2　○名　　称　耕作図屏風（こうさくずびょうぶ）
　○作 者 等　狩野永良筆
　○時　　代　江戸時代（18 世紀）
　○品　　質　紙本着色
　○員　　数　6 曲 1 隻
　○寸 法 等　縦 165.3、横 347.8 cm
　○作品概要　狩野永良（1741～71）は、狩野山楽（1559～1635）を祖とし、江戸時代を通じて京都を活動の拠点とした京狩野家の第 6 代当主である。本作は、数少ない永良の大作として貴重であるばかりでなく、他に類を見ない優れた風俗描写は知られざる画家の一側面をも示している。

3　○名　　称　墨花争奇図巻（ぼっかそうきずかん）
　○作 者 等　大岡春卜筆
　○時　　代　江戸時代　宝暦 7 年（1757）
　○品　　質　紙本墨画
　○員　　数　2 巻
　○寸 法 等　上巻　縦 28.8×横 1238.0 cm、下巻　縦 28.8×横 1468.0 cm
　○作品概要　大岡春卜（1680～1763）は大坂に住した画家。本作は 2 巻からなる巻子作品で、上巻巻頭に黄檗僧・無染浄善（1693～1764）が題字を記し、以下 2 巻にわたって春卜がおもに花鳥を中心としたモチーフを断続的に描いている。図にはそれぞれ賛が付されており、上巻は高僧が、下巻は学者が主に名を連ねている。着賛者の総勢 26 名にのぼる。また、各巻末尾にそれぞれ桂洲道倫（1714～94）、岡白駒（1692～1767）が跋を記す。本作は、春卜の京都における活動とその意義を示す重要作である。

＜書跡＞(1 件)

4　○名　　称　賀茂御祖神社関係文書（かもみおやじんじゃかんけいもんじょ）
　○時　　代　鎌倉～江戸時代（12～17 世紀）
　○品　　質　紙本墨書
　○員　　数　5 巻
　○寸 法 等　巻第一　縦 30.3cm　全長 664.8cm、巻第二　縦 31.8cm　全長 459.6cm、巻第三　縦 27.4cm　全長 926.6cm、巻第四　縦 32.0cm　全長 420.6cm、巻第五　縦 31.1cm　全長 941.5cm、
　○作品概要　賀茂御祖神社（下鴨神社）に伝来、散逸した古文書。文治四年（1188）九月十九日付の越中国寒江庄田畠散用注進状より、寛永九年（1632）五月二十四日付の御蔭社正殿清祓にいたる全四十七通が五巻に成巻されている。

＜彫刻＞(1 件)

5　○名　　称　行道面　菩薩（ぎょうどうめん　ぼさつ）
　○時　　代　鎌倉～南北朝時代（14 世紀）
　○品　　質　木造漆箔彩色
　○員　　数　1 面
　○寸 法 等　面長 22.7cm、面幅 19.4cm、高 15.1cm
　○作品概要　行道は寺院における儀礼などに際して、仮面をつけて境内などを練り歩くもので、おそくとも平安時代初期にはじまった。それに用いられる仮面には、獅子頭、八部衆、十二天など多くの種類がある。本面のように中世にさかのぼり出来栄えもよい行道面は、なかなか市中に出回ることが少なく、極めて貴重なものである。

＜金工＞(1 件)

6　○名　　称　重要文化財　金熨斗刻鞘大小拵（きんのしきざみさやだいしょうこしらえ）
　○時　　代　江戸時代（17 世紀）
　○品　　質　木製、青漆塗、金の薄板巻き
　○員　　数　1 腰
　○寸 法 等　（大）総長 96.0cm　総反 3.6 cm 柄長 23.0 cm　鞘長 73.4 cm　鐔縦 7.7 cm　鐔横 7.4 cm
　（小）総長 50.6 cm　総反 0.6 cm 柄長 13.2 cm　鞘長 37.0 cm　鐔縦 4.9 cm　鐔横 3.85 cm
　○作品概要　印籠風の俵型の模様を一定の幅で刻んだ、いわゆる「印籠刻」の鞘で、腰元は緑色の青漆を塗り、先に金の薄板を薄く延ばした熨斗板を張り「金熨斗」としている。大小はそれぞれの柄の作りや、金熨斗や青漆の色合い、金熨斗の削ぎ方が逆であることなど、やや統一を欠くところもあるが、大きく時代を隔てる要素は看取されない。豪壮な印象を与える印籠刻や、渋めの緑色とあざやかな金色を片身替りに対比させた意匠など、桃山の雰囲気を色濃く残す一方で、彫金には一種の洗練がうかがわれ、桃山様式を示す江戸時代前期の作とみなされる。重要文化財に指定された大小拵は本件を含めて 4 件しかなく、その存在は極めて貴重である。

＜陶磁＞(3 件)

7 ○名　　称　色絵松梅文徳利（いろえしょうばいもんとっくり）
　○時　　代　江戸時代（18 世紀）
　○品　　質　色絵陶器
　○員　　数　1 口
　○寸 法 等　高 18.5cm　口径 3.8cm　底径 9cm
　○作品概要　赤・青・緑・金の四色で上絵付された陶器の徳利である。撫で肩で、瓢形を意識し、中央にくぼみを設けた形となっている。器面全体に細かな貫入がみられ、胴部には松と梅が鮮やかな色絵で描かれている。底部には「御菩薩池」の印が捺され、「極の手」と墨書されている。いわゆる、古清水と総称される京焼陶器の一つである。

8 ○名　　称　五彩印判手楼閣山水文大皿（ごさいいんばんてろうかくさんすいもんおおざら）
　○時　　代　中国・明時代（17 世紀）

○品　　質　色絵磁器
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　高 11.0　口径 43.8　高台径 21.3
○作品概要　中国・漳州窯で焼かれた五彩の皿である。呉州青絵、青呉州ともいわれ、広義の意味では呉須赤絵とも呼ばれてきたものである。本作品は、素地となる白磁の胎土は粗く、底部には粗い砂粒が付着し、釉薬はやや灰色がかかっている。見込み中央には、二重圏線のなかに、蓬莱山であろうか、いずれにしても神仙思想を題材としたものと思われる山や楼閣が吹き出しや重ねられるように描かれ、その周りに四つの窓と印判が描かれている。

9
○名　　称　五彩花鳥文魁文字鉢（ごさいかちょうもんさきがけもじばち）
○時　　代　中国・明時代（17 世紀）
○品　　質　色絵磁器
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 11.0　口径 20.0　高台径 9.5
○作品概要　中国・漳州窯で焼かれた五彩の鉢である。呉州赤絵とも呼ばれる。景徳鎮窯の赤絵の技法をもとに、日本を含めた海外に向け、大量生産されたものである。素地となる白磁の胎土は粗く、高台に砂が付着しているなど、漳州窯で焼かれた作品の特徴がよく現れている。外面には蓮池水禽、花鳥などが描かれて、内面見込みには「魁」の文字が、赤、緑、黒などの上絵具で描かれている。

＜漆工＞(1 件)
10 ○名　　称　水葵蒔絵螺鈿菓子箪笥（みずあおいまきえらでんかしだんす）
○時　　代　江戸時代(18 世紀)
○品　　質　木製、漆塗、蒔絵、螺鈿、鉛板
○員　　数　1 基
○寸 法 等　幅 14.4cm　奥行 14.4cm　高 18.0cm
○作品概要　菓子箪笥は、茶道の薄茶の席で、引き出しに納めた干菓子を客人たちが取り回して楽しむための器物であり、通常は天板に提げ鐶をつけた慳貪蓋造りの小型箪笥である。江戸時代後期にならないと一般化しないようだが、本品は、箪笥としては珍しい正方形である点や、引き出しの側面や背面にも蒔絵を施す点が、食べ物を収める重箱に通じるため、小型である点もあわせて、菓子箪笥として作られたものと推定される。
光琳風蒔絵の典型例である。

＜染織＞(2 件)
11○名　　称　有職雛　直衣姿（ゆうしきびな　のうしすがた）
○時　　代　江戸時代（19 世紀）
○品　　質　頭・手先：桐塑胡粉塗　衣裳：絹
○員　　数　1 対
○寸 法 等　男雛：高 29.0 ㎝（烏帽子含む）　女雛：高 24.0 ㎝
○作品概要　有職雛とは、宮中での衣服の調進や衣文（着付）を家職とする、山科家または高倉家が調整に関与したとされる雛人形で、公家および公家と通婚関係を有する武家などを中心に伝来する雛人形である。京都で製作され、公家文化の余芳を伝える有職雛は、京都文化の蒐集をかかげる京都国立博物館にまことにふさわしい作品である。

12○名　　称　雛道具　貝桶・合貝（ひなどうぐ　かいおけ・あわせがい）
○時　　代　江戸時代（19 世紀）
○品　　質　木胎紙貼着色　貝に着色
○員　　数　1 対
○寸 法 等　貝桶：高 13.4 ㎝　貝：幅 3.0 ㎝程度
○作品概要　雛道具は雛人形のために製作された小型の調度である。本品は、通例の貝桶同様、形状は六角柱形で印籠蓋づくり。芯は薄い木胎で、表面に紙を貼り、金地に濃彩の物語絵を描く。合貝は蛤と思われる貝殻の内側に銀箔を貼り、花、鳥、歌仙をいずれも濃彩で描く。二枚が揃っているものが 20 組、1 枚のみのものが 24 枚付属する。

＜歴史資料＞(2 件)
13○名　　称　甲寅記事画巻　平山省斎題（こういんきじずかん　ひらやましょうさいだい）
○作 者 等　平山省斎筆
○時　　代　江戸時代（19 世紀）
○品　　質　紙本着色
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　縦 29.5cm　全長 1870.0 ㎝
○作品概要　嘉永 6 年（1853）6 月にペリー提督が率いる米国艦隊が相模国（現神奈川県）の浦賀沖に現れ、幕府に開国を要求した。いわゆる黒船来航である。日本が幕末に入ったのはこの時からとされる。本作品は、翌安政元年（甲寅年・1854）の二度目の様子を描いた 18m を越える長い絵巻物であり、アメリカ側は横浜に上陸し幕府と交渉の末、日米和親条約が締結されたがその際の様子を描いた記録的絵画である。また、数多いペリー来航を描いた絵巻のうちでも出色の作品であり、保存状態も極めて良好である。

14○名　　称　異国船図巻（いこくせんずかん）
○作 者 等　作者不詳
○時　　代　江戸時代（19 世紀）
○品　　質　紙本墨画・紙本著色・木版多色刷
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　縦 34.0cm　全長 819cm
○作品概要　ペリー来航図関係の絵巻の参考資料と見られるもの。多様な内容を含むもので貼りつないで簡易な巻物に仕立てられている。19 世紀半ば当時の様々な情報が込められた歴史史料として研究に役立つものであり、また幕末関連の展示にも有効に活用できる作品である。

(2) 寄贈(251 件)
＜絵画＞(23 件)
1 ○名　　称　喝石岩図（かっせきがんず）
○作 者 等　信春印
○時　　代　桃山時代（16 世紀）
○品　　質　紙本着色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　45.3×63.6 ㎝
○作品概要　虚堂智愚がその法嗣・南浦紹明（大応国師）と「喝石岩」の前で対面する様子を描く。「喝石岩」は、径山を開いた法欽のもとを訪れた恵崇が呪文によって割ったといういわれをもつ岩。画面には長谷川等伯（1539～1610）が若い頃に用いた「信春」印が捺されるが、筆者についてはなお検討を要する。

2 ○名　　称　王羲之図（おうぎしず）

○作 者 等　雲谷等顔筆
○時　　代　桃山～江戸時代（17 世紀）
○品　　質　紙本墨画淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　119.4×51.3 ㎝
○作品概要　樹木の下で巻紙に書をしたためる人物は、東晋の書家・王羲之を描いたものと思われる。印章の欠損状況から、雲谷等顔（1547～1618）の晩年の作とわかる。幕末～明治期の国学者・小杉榲邨の旧蔵品。

3 ○名　　称　花鳥図屏風（かちょうずびょうぶ）
○作 者 等　不詳
○時　　代　桃山時代（16 世紀）
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　4 曲 1 隻
○寸 法 等　136.7×257.4 ㎝
○作品概要　やや幅広の 4 曲屏風という変則的な形状だが、引手跡等はなく当初からの姿かと考えられる。1 双屏風の右隻が残ったものだろう。巨大な松の表現には狩野永徳による大画方式の影響が顕著で、近い時代の狩野派画家による制作と見られる。

4 ○名　　称　七日の月図（なのかのつきず）
○作 者 等　榊原文翠筆
○時　　代　明治 22 年（1889）
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1 幅
○作品概要　はじめ谷文晁に学び、のちやまと絵を得意とした榊原文翠（1825～1909）の作品。暮方の空に浮かぶ七日月を描くシンプルな作品だが、兎をデザインした一文字も含め描表装である。共箱。

5 ○名　　称　群鶴図屏風（ぐんけいずびょうぶ）
○作 者 等　狩野美信（洞春）筆
○時　　代　江戸時代（18 世紀）
○品　　質　紙本金地着色
○員　　数　6 曲 1 双
○寸 法 等　各 170.2×362.6 ㎝
○作品概要　表絵師筆頭格・駿河台狩野家の 4 代目・狩野美信（1747～97）の作品。法眼に叙せられた天明 5 年（1785）以降の作とわかる。珍しいアネハヅルを描く点などに、同時代の博物学的関心が狩野派絵師にも及んでいたことが明瞭である。

6 ○名　　称　嵐山雪景図屏風（あらしやませっけいずびょうぶ）
○作 者 等　森寛斎筆
○時　　代　明治 13 年（1901）
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　6 曲 1 隻
○寸 法 等　124.9×264.2 ㎝
○作品概要　嵐山を背景に、大堰川と渡月橋を望む景観が描かれている。大堰川に筏が浮かべられる点など、和歌との結び付きを特色とする近世以前の名所絵の流れを汲む。円山派を学んだ森寛斎（1814～94）らしい描法が見られる作品である。

7 ○名　　称　南蛮屏風（なんばんびょうぶ）
○作 者 等　不詳
○時　　代　江戸時代（17 世紀）
○品　　質　紙本着色
○員　　数　6 曲 1 隻
○寸 法 等　152.2×361.0 ㎝
○作品概要　いわゆる内膳本系統の図様を踏襲する南蛮屏風である。1 双屏風のうち、異国を出帆する南蛮船を描く左隻のみが残ったものと思しい。制作時期は 17 世紀半ば頃まで下がると見られる。

8 ○名　　称　銅版画ガラス絵貼交屏風（どうばんががらすえはりまぜびょうぶ）
○作 者 等　不詳
○時　　代　江戸時代（18～19 世紀）
○品　　質　紙本銅版・木版、ガラス絵
○員　　数　6 曲 1 双
○作品概要　舶載された西洋銅版画および中国製版本等を貼り交ぜ、各扇にガラス絵を嵌め込んだ屏風である。屏風に仕立てられた時期は 18 世紀にまで上がる可能性があり、江戸時代における外来文化受容という点で高い資料的価値がある。

9～22
○名　　称　柿本人麿像（かきのもとのひとまろぞう）など
○時　　代　室町時代～江戸時代
○品　　質　紙本著色・絹本著色など
○員　　数　14 件
○作品概要　京都市の古美術蒐集家が五十年近く、自らマーケットに足を運び、築いたコレクション。室町期の「柿本人麿像」から、池大雅の墨画など、幅広い分野に渡る中近世の佳品によって構成される。細目は以下の通り。

１	柿本人麿像	１幅
２	岩屋草紙断簡	１幅
３	伊勢物語絵断簡（おのが世々）	１幅
４	一行阿闍梨像	１幅
５	達磨図	１幅
６	東山名所図屏風　幸野楳嶺筆	６曲１隻
７	花鳥図　岡本秋暉筆	１幅
８	墨蘭図　池大雅筆	１幅
９	墨菊図　池大雅筆	１幅

10 富士山図　富岡鉄斎筆　　１面
11 富士山図　富岡鉄斎筆　　１幅
12 煙草盆（北斎版木製）　　１基
13 版画美人図　　１幅
14 故事人物図　　１幅

23〇名　　称　人物図（じんぶつず）
〇作 者 等　高其佩筆
〇時　　代　中国・清時代（19 世紀）
〇品　　質　紙本墨画淡彩
〇員　　数　1 幅
〇寸 法 等　縦 132.7cm、横 57.4cm
〇作品概要　仙人らしき人物を指に墨をつけて描いた指頭画。その名手とされた高其佩（1660-1734）の落款をもつが、描線や落款の字体から真筆とはみなしがたい。ただし、日本に伝わった指頭画として、日本での高其佩人気の高さをうかがわせる点で興味深いものがある。

＜書跡＞(35 件)

24〇名　　称　八代集（はちだいしゅう）
〇時　　代　江戸時代（18 世紀）
〇品　　質　紙本墨書
〇員　　数　14 冊
〇寸 法 等　（各）縦 24.3 ㎝、横 18.2 ㎝
〇作品概要　『古今和歌集』より『新古今和歌集』にいたる八つの勅撰和歌集、すなわち「八代集」の新写本。いずれの冊にも書写奥書はないが、料紙と字すがたから、江戸時代中期の写本とみてよい。本文に書き入れの痕跡はないため、学習というより調度として作られたと思われる。金泥で景物を描き、外題箋を貼った各冊の表紙は、『信長公記』（重要文化財、建勲神社蔵）との共通点も多く、作成の周辺事情を考えるうえで興味深い。

25〇名　　称　連歌・狂歌（れんが・きょうか）
〇作 者 等　伝松永貞徳筆
〇時　　代　江戸時代（18 世紀）
〇品　　質　紙本墨書
〇員　　数　1 幅
〇寸 法 等　縦 28.1 ㎝、41.2 ㎝
〇作品概要　「印可開之会」を題とした連歌、狂歌を一紙にしたためたもの。筆者は江戸時代の歌人として著名な松永貞徳（1571～1653）、およびその門弟・安原貞室（1610～73）と伝えるが、全文一筆であり、時代は下がると考えたほうがよい。箱書きによれば、大正２年（1913）に奥村康安太郎より、貞徳ゆかりの花咲稲荷へと寄進された。

26～58
〇名　　称　明正天皇宸翰消息（めいしょうてんのうしんかんしょうそく）など
〇時　　代　平安時代～江戸時代（12～19 世紀）
〇品　　質　紙本墨書など
〇員　　数　33 件
〇作品概要　京都市の古美術蒐集家が五十年近く、自らマーケットに足を運び、築いたコレクション。宸翰（天皇自筆の書）、文書・記録、和歌・文学と三つの分野から構成され、はっきりとした目的意識のもと、蒐集が行われていたことがうかがえる。公家（九条家）や社寺（毘沙門堂・東寺・松尾大社など）の旧蔵品が多く含まれ、「東寺関係文書」のように、存在は知られていたが長らく所在不明であったものなど、いずれもが学術的に貴重である。細目は以下の通り。

１ 後光厳天皇宸翰消息（以何可酬此忠節）　１幅
２ 明正天皇宸翰消息（修学院観音へ）　１幅
３ 明正天皇宸翰消息（きのふ江戸より）　１幅
４ 時代不同歌合色紙（紀貫之・左京大夫顕輔）　後西天皇宸翰　１幅
５ 百人一首色紙（柿本人丸）　後西天皇宸翰　１幅
６ 後桜町天皇宸翰消息（御機けむよくめて度）　１幅
７ 後桜町天皇宸翰消息（御機けむよくめて度さ）　１幅
８ 後桜町天皇宸翰消息（一封のやう）　１幅
９ 後桜町天皇宸翰消息（きのふの一封）　１幅
10 光格天皇宸翰消息（御月次御製御下付）　１幅
11 光格天皇宸翰消息（与程暑光相催）　１幅
12 光格天皇女房奉書　文化四年二月十日付　１通
13 聖教紙背文書　２幅１通
14 東寺関係文書　５通
15 高木家文書　４通
16 為成仮名消息　正月十六日付（紙背あり）　１巻
17 某消息　十二月一日付（紙背あり）　１幅
18 兼有消息　四月廿五日付（紙背あり）　１幅
19 二階堂貞藤消息　三月八日付（紙背あり）　１幅
20 某仮名置文　正和五年五月廿二日付　１幅
21 二階堂行元奉書　延文二年五月八日付　１幅
22 壇所等指図案　１幅
23 裏松重光書状　二月十一日付　１幅
24 上杉謙信書状　極月五日付（宛所欠）　１幅
25 古田織部消息　正月廿四日付（折紙）　１幅
26 小堀政一消息　十四日付　１幅
27 沢庵宗彭消息　閏十一月五日付　１幅
28 新井白石書状　九月廿一日付　１幅
29 東寺年中行事　観応三年六月三日賢宝書写奥書あり　１巻
30 白氏文集巻第四断簡（両朱閣）　１幅
31 栄華物語巻第十二断簡（おりにあひたる）　１幅
32 八条宮智仁親王詠草（対鶴争齢）　１幅
33 装飾料紙　うち一枚に「光悦」印あり　６枚

＜彫刻＞(2 件)

59○名　　称　神像（しんぞう）
○作 者 等　不明
○時　　大　江戸時代
○品　　質　木造彩色
○員　　数　5 躯
○寸 法 等　像高 100～120 センチ
○作品概要　京都市下京区の花咲稲荷神社に伝来した５躯の神像で、いずれも江戸時代中期・１７世紀後半から１８世紀ころの製作と考えられる。同社は歌人として有名な松永貞徳の邸宅跡に築かれたもので、祭神は貞徳自身の信仰に基づくと伝えられる。５躯の神像は、それぞれ①宇賀御魂神（うがのみたま・稲荷神）②素盞嗚尊（すさのをのみこと）③大市比売④大己貴（おおなむち）⑤猿田比古、と伝えられている。狐に乗る①、鼻の長い⑤は伝承通りと考えられるが、神像に一般的な姿の②③④像は、像容からは神名を確定できない。

60○名　　称　狂言面　武悪（ぎょうどうめん　ぶあく）
○作 者 等　不明
○時　　代　江戸時代
○品　　質　木造彩色
○員　　数　１面
○寸 法 等　面長 20.3 センチ
○作品概要　大阪貝塚市の旧商家である廣海家に伝来した狂言面の武悪。目を大きく見開くが、瞼が厚く目尻が下がり、上目づかいにあらわわされている。大きな上歯で下唇を噛み、顔を赤くしていきむ姿は恐ろしげでもあり、滑稽でもある。狂言面を代表する面のひとつで、その異相から、鬼や閻魔などに用いられる。本作はしっかりとした面打師によるものと思われるが、やや定型化しており江戸時代中ごろ・１７世紀後半～１８世紀の作かと考えられる。

＜金工＞(29 件)

61○名　　称　春田家文書
○時　　代　江戸時代～近代
○品　　質　紙本墨書、彩色
○員　　数　一括
○作品概要　奈良の甲冑師として代々の系譜をなした春田家に伝わった文書の一括史料。家系に関する記録や甲冑の注文状、図案などからなる。

62○名　　称　脇差　銘備州長船康光　應永十六年十月日　附 黒漆塗鞘半太刀拵
○時　　代　室町時代　応永 16(1409)
○品　　質　刀身および拵
○員　　数　1 具
○作品概要　備前長船の刀工である康光の作品。康光は盛光、家助、師光などどともに、応永期に作刀したいわゆる応永備前を代表する刀工である。

63～64
○名　　称　薙刀直シ刀（菊紋） ほか
○時　　代　鎌倉時代～江戸時代　13～19 世紀
○品　　質　刀身、鞘
○員　　数　2 件
○作品概要　薙刀を仕立て直して刀としたもので、茎に菊紋が刻される。この刻銘から、後鳥羽上皇が作刀させた一連の刀剣「菊御作」との関連が想起される。

65～67
○名　　称　刀　銘陸奥会津住藤原道辰　文政八酉年秋　ほか
○時　　代　江戸時代　　17～19 世紀文政 8(1825)
○品　　質　刀身
○員　　数　3 件
○作品概要　藤原道辰は江戸時代末期から幕末にかけて 6 代続いた陸奥の刀工。本作は文政 8 年の年期から、4 代道辰の作かと推測される。

68～69
○名　　称　短刀　銘大阪住高橋晴雲子信秀七十五歳作　於京都帝国大学鍛之大正六年十二月吉日 ほか
○時　　代　大正時代
○品　　質　刀身、鉄鏡
○員　　数　2 件
○作品概要　標題作の高橋信秀は出雲で作刀を始め後に大阪で活動した。本件は大正 6 年(1917)に京都帝国大学で制作されたものである。

70○名　　称　重要文化財　短刀銘吉光（名物秋田藤四郎）
○時　　代　鎌倉時代 13 世紀
○品　　質　刀身
○員　　数　1 口
○作品概要　吉光は鎌倉中期の京都・粟田口派の名工で、本品のような短刀を得意とした。　秋田城介所持であったためこの名がある。

71～85
○名　　称　重要文化財　短刀　銘相州住秋廣／永和二 附金梨地桐紋蒔絵短刀拵　ほか
○時　　代　平安時代～江戸時代 12～19 世紀
○品　　質　刀身、刀装具など
○員　　数　15 件
○作品概要　個人の刀剣コレクション。このうち標題作は国光に始まり正宗、貞宗と続いた相州鍛冶の正統の秋廣作で、有銘では秋廣秋広唯一の重要文化財。

86～89
○名　　称　重要文化財　短刀　銘左／筑州住　ほか
○時　　代　南北朝時代～江戸時代 14～17 世紀
○品　　質　刀身、刀装具など
○員　　数　4 件
○作品概要　個人の刀剣コレクション。このうち標題作は筑前福岡の名工、左文字の傑作として名高い。

＜陶磁＞(142 件)
80～231
○名　　称　青花牡丹唐草文盤（せいかぼたんからくさもんばん）ほか
○時　　代　明時代、清時代、高麗時代、江戸時代～昭和時代（17～20 世紀）
○品　　質　土器、陶器、磁器
○員　　数　142 件
○作品概要　大阪府貝塚市商家に伝わった文化財から、「青花牡丹唐草文盤」、「青花山水船文大皿」など、明時代から清時代にかけての中国磁器の碗、皿、鉢といった食膳具をはじめ、「染付唐獅子牡丹文輪花隅丸角大皿」、「青樂杜丹文皿　樂長入作」、「金彩色絵竜田川向付　白井半七作」などの肥前磁器や京焼等の関西の諸窯、作家の作品など、幕末から昭和にかけての商家の生活様式を把握できる陶磁器 142 件。

＜漆工＞(7 件)
232～238
○名　　称　扇流し蒔絵吸物膳（おうぎながしまきえすいものぜん）ほか
○時　　代　江戸～大正（19-～20 世紀）
○品　　質　木製、漆塗、蒔絵／箔絵／漆絵、竹
○員　　数　7 件
○作品概要　大阪の旧家に伝わった文化財から、蒔絵や漆絵箔絵の膳椀、近代の職人による茶棚や縁高、中村宗哲家による会席道具一式など、幕末から明治にかけて活躍した関西圏の豪商の暮らしぶりを伝える漆工および木竹工品。

＜染織＞(8 件)
239 ○名　　称　桃図雛屏風（春暖）　高橋秋華筆
○時　　代　大正～昭和時代　二十世紀
○品　　質　絹本着色金泥
○員　　数　二曲一双
○作品概要　総：縦 26.8cm　横 26.0cm　本紙：縦 24.8cm　横 23.6cm。各隻に花盛りの桃樹二本を描く。画題や雛道具ほどの大きさから考えて、人形に添わせるために製作されたものであろう。大阪府貝塚の豪商廣海家伝来。

240 ○名　　称　源氏物語図屏風
○時　　代　江戸時代　十八世紀
○品　　質　紙本着色金泥。
○員　　数　六曲一隻
○作品概要　総：縦 65.6cm　205.8cm　本紙：縦 55.4cm　横 190.0cm。小屏風。金雲で区切られた画面に、源氏物語から紅葉賀、蓬生、初音などの場面を取り出して描く。大阪府貝塚の豪商廣海家伝来。

241 ○名　　称　入舟図屏風
○時　　代　江戸～明治時代　十九世紀
○品　　質　紙本着色金泥。
○員　　数　六曲一隻
○作品概要　総：縦 48.0cm　288.0cm　本紙：縦 49.8cm　横 270.0cm。小屏風。金霞の中に汀の葦の葉陰から入舟の帆が遠近に見える様子を描く。大阪府貝塚の豪商廣海家伝来。

242 ○名　　称　立雛　古今頭
○時　　代　江戸時代　十九世紀
○品　　質　頭部：木胎胡粉塗毛植え　体部：紙胎裂貼
○員　　数　一対
○作品概要　男雛高 46.0ｃｍ　女雛高 35.5cm。大型の立雛。男雛の上衣および女雛の長着は、赤地平絹に松竹梅鶴亀に高砂の翁と媼の描絵。男雛の袴と女雛の帯は、萌葱縞地入子菱に花唐草文様金襴。京都新町三井家の大番頭、浅井家伝来。

243 ○名　　称　古式古今雛
○時　　代　江戸時代　十八世紀
○品　　質　頭部・手先：木胎胡粉塗毛植え　体部：裂貼
○員　　数　一対
○作品概要　男雛高 53.0cm（烏帽子含む）、48.0cm　女雛高 53.8cm（天冠含む）、42.5cm。大型の古式古今雛。男雛は古今雛風の束帯装束。白小袖、白地窠に霰文様表袴、赤地小葵文様単衣、白下襲、経紺緯紅の織色の無文の袍、平緒を着用。冠をかぶり、笏を手にし、黒塗唐草蒔絵太刀をはく。檜扇付属。女雛は、享保雛風の襲装束。白地小葵文様小袖、紅平絹長袴、萌葱地小葵文様単、紺地雲龍文様金入錦の表着、白地桐鳳凰描絵懸裳を着用。 京都新町三井家の大番頭、浅井家伝来。

244 ○名　　称　雛道具
○時　　代　江戸～明治時代　十九～二十世紀
○品　　質　木胎漆塗、一部に蒔絵。
○員　　数　一式
○作品概要　①黒塗懸盤（飯椀、汁椀、壺椀、平椀、高杯、箸）２組。②黒塗長持２荷。③黒塗挟箱２荷。④葛籠２合。⑤黒塗菊唐草蒔絵鏡建（柄鏡・柄鏡箱）１基。⑥黒塗菊唐草蒔絵耳盥１口。⑦黒塗菊唐草蒔絵鏡巣１合。⑧黒塗菊唐草蒔絵鼻紙台１基。⑨黒塗虫籠蒔絵小箱１合。⑩牡丹唐草蒔絵提重（重箱、錫瓶、皿）１式。⑪碁盤（黒塗碁笥・碁石）１式。⑫紫裾濃花鳥描絵几帳１張。長持・挟箱・葛籠には蚊帳、夜具、着物などの内容品を納める。京都新町三井家の大番頭、浅井家伝来。

245 ○名　　称　抱人形
○時　　代　明治時代　明治 17 年（1884）
○品　　質　頭部・体部・手足：練物成型　衣裳：絹
○員　　数　一躯
○作品概要　高 53.5cm。着せ替えができる抱人形で、紅の下着に、黒地と紺地の格子文様の振袖二領をかさね、紅の付紐で結び、首に淡桃色の涎掛けを付ける。背中心に亀甲形の背守を縫い、付紐には赤地金襴の守袋と縮緬押絵の狆形迷子札を提げる。京都新町三井家の大番頭、浅井家伝来。所用者が判明し、製作年代が確定できる。

246 ○名　　称　子ども祝着
○時　　代　明治～昭和時代
○品　　質　絹
○員　　数　五領
○作品概要　①黒斜子地扇取り熨斗目松飛鶴文様描絵振袖。白平絹の袷下着附属。背中心に男児の針目の背守。金入錦守袋附属。②藤色曙染縮緬地源氏物語文様友禅染繍振袖。背中心に女児の針目の背守。縮緬押絵守袋附属。③桃色地菊唐草文様型友禅染振袖。淡紅色紋縮緬の袷下着附属。背中心に

女児の針目の背守。④縹色縮緬地流水花束文様友禅染振袖。背中心に女児の針目の背守。金入錦守袋附属。⑤紺平絹地熨斗目御所人形文様友禅染振袖。背中心に男児の針目の背守。縮緬押絵守袋附属。京都新町三井家の大番頭、浅井家伝来。各領おおよその製作年代が判明する。

＜歴史資料＞(5 件)

247 ○名　　称　回転弾倉式拳銃　附　革製ホルダー1 点
○時　　代　19 世紀（1860 年代）
○品　　質　鉄・真鍮・木
○員　　数　1 丁
○寸 法 等　全長 26.0 ㎝
○作品概要　米国スミスアンドウエッソン社製の拳銃。1862 年から製造が開始され、南北戦争時に良く使用されたという。坂本龍馬が所持していた短銃と同じモデルである。近年大阪府下で発見され、地元警察署の許可を得て京都国立博物館所蔵となった。オリジナルの革製ホルダーも付属する。銃身は経年による錆化が著しい。龍馬は慶応 2 年（1866） 1 月 23 日の深夜に伏見寺田屋で伏見奉行所捕吏の襲撃を受けたのだが、その際に下関で高杉晋作からもらった「ピストール」を発砲して反撃したと手紙に書いている。龍馬の拳銃は失われたが、その様子を知ることができる歴史資料である。生産開始から間もなく日本に伝わったことも分る。

248 ○名　　称　カメラ　ソルントン・ピッカード
○時　　代　1900 年代中期
○員　　数　1 式
○寸 法 等　L210㎜×W80㎜（243㎜）×H210㎜（255㎜）
○作品概要　ベッドを倒して蛇腹を繰り出す形式の箱形一眼レフカメラ（フィールドカメラ）、
木製。シャッターは布幕ローラーブラインドシャッター（ソールトンシャッター）が付属する。「ALTRINCHAM　Thornton-Pickard ENGLAND」の表記有り。カメラ名称はなし。ガラス乾板用カメラ。キャビネ判（115㎜×158㎜）、手札判（110㎜×85㎜）に対応。

249 ○名　　称　カメラ　ツァイス・イコン　トロナ
○時　　代　1920 年代以降
○員　　数　1 式
○寸 法 等　L43㎜（150㎜）×W80㎜×H121㎜
○作品概要　フォールディングカメラ黒革張。折り畳み式蛇腹。レンズは、カール ツアイス イエナ　テッサー F4.5 10.5㎝が付属する。ガラス乾板用カメラ。65㎜×90㎜に対応。

250 ○名　　称　絞り調整機構付フード　ライカ　VALAU
○員　　数　1 個
○寸 法 等　Φ41㎜×H14㎜
○作品概要　引伸機　フォコマートⅠ型（M 乙 130）の付属品。ライカレンズ　エルマー5㎝用レンズフード、絞り調節機能付。1、2, 3, 4, 6, 10 のメモリが 2 箇所に刻印されており、切欠部にレンズの絞りメモリに合わせて取り付ける。

251 ○名　　称　スターライコンリング
○時　　代　1900 年代中期
○寸 法 等　A:Φ40㎜×H9㎜
B:Φ44㎜×15㎜
C:Φ41㎜×15㎜
○作品概要　引伸機　スターライコンⅡ型（M 乙 131）付属品。レンズ取り付け用のリング。A サイズ、B サイズ、C サイズの 3 種類ある。
A サイズ：バヨネット式マウント。ドイツのステルナー4.5 及同型
B サイズ:ねじこみ式マウント。ローザ 4.5 及同型
C サイズ:ねじこみ式マウント。コンタクス及同型

【奈良国立博物館】(計 3 件)

（1）購入（2 件）

＜書跡＞（2 件）

1　○名　　称　西大寺伝法灌頂私記　末（さいだいじでんぽうかんじょうしき　まつ）
○時　　代　南北朝時代　14 世紀
○品　　質　紙本墨書　巻子装
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　縦 27.4 ㎝　長 660.3 ㎝
○作品概要　『西大寺伝法灌頂私記』は、西大寺の叡尊が正嘉 2 年（1258）3 月に弟子の日浄坊惣持と円真房栄真に伝法灌頂を授けた際の儀式次第をまとめたもの。本品はこの『私記』2 巻のうち後半（「末」巻）を書写したもので、奥書等がないため書写年は不明であるが、書風から 14 世紀頃と推定している。『私記』の前半は江戸時代の写本によりすでに内容が知られているが、後半の本品は新出資料であり、これで初めて『私記』の全容が明らかとなる。伝法灌頂は密教における秘儀であり、西大寺におけるその実態を伝える資料として極めて高い学術的価値を有する。

2　○名　　称　般若心経および維摩経問答（法隆寺伝来）　（はんにゃしんぎょうおよびゆいまきょうもんどう・ほうりゅうじでんらい）
○時　　代　鎌倉時代　13～14 世紀
○品　　質　紙本墨書　巻子装
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　縦 32.0 ㎝　長 313.5 ㎝
○作品概要　般若心経 2 巻分と維摩経問答を台紙上に貼り込んだもの。奥書に「法隆寺心経会時也」「嘉禄二年正月十三日」などとあり、法隆寺において数百から数万巻におよぶ般若心経を読誦・供養する法会で書写されたものと分かる。史料上確認出来る法隆寺の心経会は本品の約 100 年後であり、貴重な最古例となる。維摩経問答は、維摩経に関する問答に表白が付記されたもので、奥書に「建永元年六月金善口得業御房〈法隆寺／東院〉書了」とある。法隆寺内における教学的活動を伝える史料として貴重な品である。

（2）寄贈（1 件）

＜絵画＞（1 件）

1　○名　　称　絹本著色仏涅槃図　（けんぽんちゃくしょくぶつねはんず）
○時　　代　南北朝時代　14 世紀
○品　　質　絹本著色　掛幅装
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　〔本紙〕縦 128.6 ㎝　長 57.3 ㎝　〔表装〕縦 200.7 ㎝　横 78.6 ㎝
○作品概要　釈迦の入滅の情景を描く仏涅槃図の優品。沙羅樹林の景観が大きい一方で釈迦を小さく描くところや、仏弟子から動物まで 100 を超える多くの

会衆が描かれる点で、宋画の影響が強い鎌倉時代後半以降の作であり、人物の誇張された表情などから本品は南北朝時代、14 世紀半ばの作と判断される。表具裏の墨書から「大和国高安村」（奈良県斑鳩町高安）の涅槃講の本尊として掛けられたもので、火災で損傷したものを元禄 16 年（1703）に修理したと分かる。絵画としての作行に加えて、江戸時代の修復技量の高さを示す資料として、そして大和の涅槃講の実態を伝える遺品としても高い価値をもつ。本品を守ってきた涅槃講がこのたび解散し、維持管理が困難となった事情により寄贈に至った品である。

【九州国立博物館】（計 58 件）

（1）購入（36 件）

＜絵画＞（9 件）

1　○名　　称　星曼荼羅（ほしまんだら）
　○時　　代　鎌倉時代・13 世紀
　○品　　質　絹本著色
　○員　　数　1 幅
　○寸 法 等　本紙：縦 92.4cm　横 41.3cm　　表具：縦 177.2cm　横 59.2cm　軸長 64.2cm
　○作品概要　掛軸装。閻魔天を主尊として、道教に由来する 57 尊を描いた星曼荼羅の一種。真言宗小野流の覚禅（1143～1213～?）による図像集『覚禅鈔』の記述との一致から、除病延命などを目的とする修法、閻魔天供に用いられたと考えられる。ほぼ同図様の作例が複数現存することから、本図の図像が一定の流布をみたこと、またその中でも制作が鎌倉時代にさかのぼる本図は祖本にもっとも近しいと推測される。
星曼荼羅の遺例が少ないなか、道教と仏教の混交を示し、なおかつ閻魔天信仰の要素も合わせもつ本図は稀少である。史料により具体的な使用の場が想定される点も、中世における道教美術の受容およびその展開を考える上で大変意義深い。

2　○名　　称　寒山拾得図（かんざんじっとくず）
　○作 者 等　藝愛筆
　○時　　代　室町時代・16 世紀
　○品　　質　紙本墨画
　○員　　数　2 幅
　○寸 法 等　本紙　右：縦 33.6cm　横 18.4cm　　左：縦 34.3cm　横 18.4cm
　　表具　右：縦 103.3cm　横 29.2cm　軸長 33.8cm　　左：縦 102.4cm　横 29.2cm　軸長 33.8cm
　○作品概要　掛幅装。左幅には崖下に立ち右手に筆をとる寒山を、右幅には背後を振り向き右手で岩上に墨をする拾得を描く。
その表現は、伸びやかな筆使いが特徴で、風を受ける袖や手繰られた袖などの着衣を、丸みを帯びたやや太い筆線で描く表現が注目される。
作者は、表現と印章から判断して、室町時代後期の 16 世紀前半から中葉に活躍した藝愛と考えられる。小品ではあるが、筆致と用墨をよくコントロールして、独特の形態感覚をもつ水墨画を描き上げる藝愛の特質をよく示す作品である。

3　○名　　称　夕霧図屏風（ゆうぎりずびょうぶ）
　○時　　代　江戸時代・17 世紀
　○品　　質　紙本金地著色
　○員　　数　6 曲 1 隻
　○寸 法 等　本紙：縦 148.2cm　横 344.2cm　　折畳時：縦 164.8cm　幅 61.0cm　厚 10.2cm
　○作品概要　山里の秋の風景を表わす金地著色の屏風。本図は、『源氏物語』第 39 帖「夕霧」、光源氏の子息・夕霧が小野の山荘に落葉宮を訪ねる場面で、「源氏物語扇面貼交屏風」（広島・浄土寺蔵）をはじめ同場面を絵画化した類例は多い。なかでも本図は人物を省略した「留守模様」の手法をとる点で特徴的である。画風は、室町時代を最盛期として江戸時代初期頃まで制作されたやまと絵屏風の様式に近似する。遣明船などで国外へ輸出された中世やまと絵屏風を類推するための資料として、高い価値を持つ。

4　○名　　称　泰西風俗図屏風（たいせいふうぞくずびょうぶ）
　○時　　代　安土桃山～江戸時代　17 世紀初期
　○品　　質　紙本著色　屏風装
　○員　　数　6 曲 1 隻
　○寸 法 等　本紙：縦 101.7cm　横 262.2cm　　折畳時：縦 114.5cm　幅 48.5cm　厚 9.6cm
　○作品概要　田園風景のなかに西洋風の人物を描く初期洋風画。技法的には、絵具の濃淡で立体感を表わし、樹木・人物には影を付け、全体的に輪郭線に頼らず、色面とハイライトでモチーフを描写するなど、17 世紀のイエズス会による西洋絵画教育の影響をうかがわせる。本作品は、10 件ほどしか現存しない大画面構成の初期洋風画屏風の一例で、そのなかでも特に優れた描写と良好な保存状態をもつ優品である。なかでも本図の画風は、黒田家旧蔵本（現・福岡市美術館本、重要文化財）に描写が酷似している。近世初期に来日したヨーロッパ人との交流を通して、日本で隆盛した「南蛮美術」の大作である。下村観山旧蔵品。

5　○名　　称　老人読書図（ろうじんどくしょず）
　○作 者 等　伝信方筆
　○時　　代　江戸時代　17 世紀前半
　○品　　質　紙本著色　額装
　○員　　数　1 面
　○寸 法 等　本紙：縦 24.5cm　横 55.0cm　　額装：縦 60.8cm　横 81.6cm
　○作品概要　灰褐色を塗りこめた無地の背景に、読書する白髪の男性の上半身を描く。画面左下にはヨーロッパの紋章風の印章がある。本図と同様の絵画様式、ならびに同じ印章と「信方」という墨書を持つ「師父二童子図」（兵庫・神戸市立博物館蔵）、「日教上人像」（兵庫・青蓮寺蔵）があり、本図もこの「信方」なる筆者によるものと考えられる。人物は線描に頼らない西洋絵画の技法で描かれており、イエズス会が 17 世紀に開校した西洋絵画の画学校で学んだ画家による、初期洋風画人物図の代表作のひとつとみなされる。

6　○名　　称　花鳥図屏風（かちょうずびょうぶ）
　○時　　代　中国(マカオ)　　17～18 世紀
　○品　　質　紙本著色　屏風装
　○員　　数　4 曲 1 隻
　○寸 法 等　第 1 扇：縦 149.0cm　横 45.8cm　　第 2 扇：縦 149.0cm　横 46.2cm　　第 3 扇：縦 149.0cm　横 46.0cm　　第 4 扇：縦 149.0cm　横 46.0cm
　　折畳時：縦 149.8cm　横 49.5cm　厚 11.0cm
　○作品概要　多種の花木が咲き、川が流れる庭を舞台に、様々な鳥や動物が描かれる。鳳凰、鶴、虎と豹の番など東洋的な図様がいる一方で、ドラゴンや『イソップ物語』の挿絵銅版画を転用した西洋的モチーフが混じる。技法としても盛上技法を用いた金雲が画面を装飾しており、東西折衷的な表現が見られる。本作品は、17 世紀から 19 世紀にかけて日本の屏風絵に倣って西欧世界で制作されたビオンボ（屏風）のうち、成立年代が特に早い。日本や中国などの東洋絵画のモチーフ・構図・技法と西洋絵画由来の主題・モチーフの混交が明確に指摘できる、重要な新出作品であり、大航海時代の文化交流の様相を映し出す鏡と呼ぶべき希少な作例である。

7　○名　　称　花鳥図巻（かちょうずかん）
　○作 者 等　孫億筆
　○時　　代　中国・清時代　康熙 51 年(1712)
　○品　　質　絹本著色　巻子装

○員　　数　1巻
○寸 法 等　縦 35.6cm　長 719.5cm
○作品概要　約 20 種類 50 羽の鳥類と約 50 種類の植物を、継ぎ目のない料絹に鮮明な彩色を用いて細緻に表わす。作者は中国・福州（福建省）で活躍した画家・孫億(1638～1712?)。康熙 51 年(1712)の年記があり、画家の最晩年の基準作である。琉球国王・尚敬(1700～1751)の次男・読谷山（ゆんたんざ）王子朝憲(尚和、1745～1811)の旧蔵品。琉球王府で活躍した座間味庸昌(殷元良、1718～1767)や屋慶名政賀(呉著温、1737～1800)などの画家たちが学んだ由緒もあるため、本図は琉球における中国絵画受容の根幹を規定した作品と意義付けられる。

8　○名　　称　海棠白頭翁・萱草百合図（かいどうはくとうおう・かんぞうゆりず）
○作 者 等　沈南蘋筆
○時　　代　中国・清時代　乾隆 12 年(1747)
○品　　質　絹本著色　掛幅装
○員　　数　2幅
○寸 法 等　海棠白頭翁図　本紙：横 53.2cm　縦 102.1cm　表具：横 67.3cm　縦 206.3cm　軸長：72.4cm
萱草百合図　本紙：横 53.2cm　縦 102.1cm　表具：横 67.4cm　縦 206.3cm　軸長：72.4cm
○作品概要　海棠白頭翁図は、海棠に白頭 3 羽が留まるさま、萱草百合図は、水墨で表わされた背の高い岩を中心に 1 株の薔薇と 2 株の萱草、小禽を著色で描く。花鳥は鮮やかな彩色と繊細な描線で表されている。いずれも画中に沈南蘋(1683～1760？)の落款・印章があり、前者には乾隆 12 年(1747)の年記が見える。江戸時代の写生的な花鳥図に特に大きな影響を与えた南蘋だが、現に海棠白頭翁図を模した黒川亀玉筆海棠白頭翁図（千葉市美術館所蔵）や諸葛監筆海棠白頭翁図（個人蔵）が現存する。萱草百合図も『沈南蘋画百幅』（長崎県立長崎図書館所蔵）に「宜男百合図」が挙げられている。いずれも南蘋画の強い規範性と日本での受容を示す貴重な作例である。

9　○名　　称　紙織八馬図（ししょくはちばず）
○時　　代　韓国・朝鮮時代　18～19 世紀
○品　　質　紙本著色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙：縦 105.7cm　横 54.2cm　表具：縦 195.6cm　横 70.3cm　軸長 79.0cm
○作品概要　木々の茂る岩場の水辺に、8 頭の馬とそれを眺める樹下の高士、馬を世話する人物を描く。本図は絵を描いた料紙を縦糸に、無地の料紙を横糸にして織り込む紙織画の技法を用いる。本紙墨書には「癸丑秋八月」「五白姜涛画」とあり、その制作年代は絵画の様式からみて朝鮮時代・正祖 17 年(乾隆 58 年、1793)に相当する可能性がある。作者は朝鮮時代の文献に該当する画家が見当たらないため、後考にまちたい。このような紙織画は現在 10 件を超える作例が確認されている。そのなかでも、料紙を横幅 1cm あたり約 8 つに裁断して織り込む本図は、最も細やかな枡目をもつ作品の 1 つである。

＜書跡＞（2 件）

10　○名　　称　継色紙「われみても」（つぎしきし　われみても）
○指　　定　重要文化財
○作 者 等　伝紀貫之筆
○時　　代　平安時代　10-11 世紀
○品　　質　彩箋墨書　掛幅装
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙：縦 13.5cm　横 37.7cm　表具：縦 105.0cm　横 41.0cm　軸長 45.5cm
○作品概要　平安時代中期の書写になる「継色紙」は、当初は粘葉装の枡形の冊子本であったが、後世その優美な筆跡が愛好され、分割されて古筆切となった。当初の冊子の 3 頁分を貼り継いで掛幅装とした本作品は、『古今和歌集』巻第 17 に所収される読み人知らずの 1 首「我みても久しくなりぬ住江の　岸の姫松いく夜経ぬらん」を、濃い藍と薄い縹の料紙 2 頁に、連綿を積極的に用いて揮毫する。その書きぶりである「散らし書き」は、行頭を揃えない各行が紙上に揺らいで余白を意味あるものに変え、高い芸術性が見て取れる。また、本作品は、江戸時代前期、後水尾院の上覧に供されて紀貫之筆とのお墨付きを得、京都大工頭・中井家に伝来したことが付属資料から判明する。近世における作品の伝来の姿と古筆尊重の気風が如実に確認でき、歴史的価値も高い。国立博物館として収蔵するに相応しい平安古筆の逸品である。

11　○名　　称　偈頌（げじゅ）
○作 者 等　石室善玖（1294～1389）筆
○時　　代　南北朝時代・永和 3 年(1377)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙：縦 32.0cm　横 75.0cm　表具：縦 117.5cm　横 86.3cm　軸長 91.3cm
○作品概要　掛幅装。筆者の石室善玖は南北朝時代を代表する臨済僧の一人。筑前国に生まれ、25 歳で中国・元に渡り、古林清茂の法を嗣いだ。帰国後は、建仁寺・南禅寺など諸大寺を歴住し、また、古林清茂の門下（金剛幢下）らしく詩文にも秀でた。本作品は、20 年来（1262～1329）の知己である臨済僧・無價掌珍（生卒不詳、聖福寺 51 世）から贈られた偈頌に対して、隠栖先の建長寺金龍庵内の岩隠軒で永和 3 年(1377)に唱和し揮毫した偈頌である。肥前松浦家伝来。

＜陶磁＞（3 件）

12　○名　　称　藁灰釉茶碗（わらばいゆうちゃわん）
○作 者 等　上野
○時　　代　江戸時代　17 世紀
○品　　質　陶器
○員　　数　1口
○寸 法 等　高 9.2cm　口径 14.7cm　高台径 5.3cm
○作品概要　口縁は外反し、胴部は高台脇から逆ハの字状に伸び、角度を変えてやや直立気味に上方に至る。高台は削り出しで二段に作る。釉は藁灰釉で、外面は白濁し、正面に大きく釉だれがある。見込み中央に茶溜りの窪みがあるなど、当初から桃山様式を意識した茶陶として作られたことが窺い知られる。上野は、17 世紀初頭、現在の福岡県田川郡福智町上野で朝鮮半島出身の陶工尊楷が窯を開いたのに始まり、初期の釜ノ口窯では桃山茶陶の様式を強く残した優品を生み出したことで知られる。陶土や作陶、釉薬のいずれも上野の特徴をそなえた、大振りの茶碗である。

13　○名　　称　青花吹墨玉兎文皿（せいかふきずみぎょくともんざら）
○作 者 等　景徳鎮窯
○時　　代　中国・明時代末期頃　17 世紀
○品　　質　染付磁器
○員　　数　1枚
○寸 法 等　高 3.9cm　口径 28.5cm　高台径 18.8cm
○作品概要　轆轤成形により、平底でやや外側に向って立ち上がり、大きく折れて広がり鍔縁状の口縁とする。見込に吹墨の技法で兎文と短冊に「玉兎」と記した文様をあらわす。口縁部の外側と内側の先端部に呉須で一重の圏線を廻らし、その内側に蓮弁のような文様を描く。側面には、口縁部に呉須で一重の圏線を廻らし、その内側に蔓草のような文様を二方に描く。高台内無文。
明時代末期に中国・景徳鎮窯で作られた古染付の皿で、草創期の伊万里焼は本作品のような皿を模倣した染付磁器を数多く生産した。京都画壇で活躍した田近竹邨（1864～1922）の旧蔵品で、大正 12 年(1923)4 月の同氏の遺愛品入札会に出品された。

14　○名　　称　色絵紅葉流水文皿（いろえこうようりゅうすいもんざら）
　　○作 者 等　鍋島藩窯
　　○時　　代　江戸時代　18 世紀
　　○品　　質　色絵磁器
　　○員　　数　5 枚
　　○寸 法 等　高 4.7cm　口径 15.1cm　高台径 8.0cm
　　○作品概要　轆轤成形により、高台を高めに作り、腰から口縁にかけて曲線を描いて立ち上がり、木盃形とする。見込には、墨弾きの技法と呉須の濃淡により流水文をあらわし、その波間に散り落ちるような紅葉文を、赤色の線描きと、内側を赤・薄赤・黄・緑色の上絵具で塗込めて描く。側面には、呉須で七宝文を三方に描き、高台は櫛高台とする。本作品は 5 枚揃いで、いずれも均一に文様が施されているため、仲立ち紙を用いて下書きを転写したと考えられる。
　　巧みな文様表現が示す技術力の高さは隆盛期の鍋島焼のものであり、色鍋島あることからも、染付磁器が生産の主流となった徳川吉宗の治世以前と作品と考えられる。5 枚揃いで伝世した点も貴重である。

＜漆工＞（1 件）

15　○名　　称　牡丹唐草螺鈿卓（ぼたんからくさらでんしょく）
　　○時　　代　高麗～朝鮮王朝時代・14～15 世紀
　　○品　　質　木製漆塗
　　○員　　数　1 基
　　○寸 法 等　縦 26.8cm　横 47.5cm　総高 13.2cm
　　○作品概要　長方形の天板に低い脚を付けた小形の卓で、天板の左右両端にはゆるやかな筆返しを設ける。総体黒漆塗、天板中央にややいびつな四稜花形の窓枠を取り、枠内に牡丹唐草を螺鈿と金属線で表す。本品はその文様および技法の特徴から、高麗時代から朝鮮王朝時代にかかる時期に製作されたと考えられ、両時代にかかる過渡的作例として従来位置づけられてきた。現在、こうした作例は、わずかしか知られておらず、大変貴重な存在である。また、朝鮮王朝時代の螺鈿器は日本へ舶載されて大いに人気を博し、安土桃山時代には朝鮮風の螺鈿器も制作されるなど、日本の螺鈿にも大きな影響を与えた。

＜染織＞（2 件）

16　○名　　称　緑地山道文金更紗茶具敷（みどりじやまみちもんきんさらさちゃぐしき）
　　○作 者 等　布地：インド　　仕立て：日本
　　○時　　代　布地：表地　17～18 世紀　　裏地　18～19 世紀前半　　仕立て：江戸時代末～明治時代　19 世紀～20 世紀
　　○品　　質　[表]緑地山道文金更紗　木綿単糸平織　[裏]黄・紅地縞織　経糸絹・緯糸木綿交織　平織
　　○員　　数　1 枚
　　○寸 法 等　長 199.5cm　幅 115.0cm
　　○作品概要　緑地山道文金更紗を表に、裏には黄色と紅色を交互に配した縞織を添わせ、間に無地の木綿を挟んで縫い綴じた敷物。表地の中央部には萌黄色と深緑色の山道模様(鋸歯文)を交互に配し、周囲には赤地に花卉文を配した縁取りを表す。山道模様の境界線には赤地に淡藍(緑)と白色の水玉模様の縁取りがなされ、四辺の赤地花卉文の縁は細い花唐草文で飾られる。模様全体の輪郭に金箔を重ねる。裏地は経に絹糸、緯に太めの木綿糸を用いた交織で、黄地と赤地の縞をつくる。

17　○名　　称　人物・動物文更紗祭礼布（じんぶつ･どうぶつもんさらささいれいふ）
　　○作 者 等　インド・コロマンデル海岸
　　○時　　代　インドネシア・スラウェシ島トラジャ　18 世紀後半～19 世紀前半
　　○品　　質　木綿単糸平織　(経:S・20 本/cm　緯:S・28 本/cm)　片面染め　媒染模様染め・蠟防染模様染め(手描き)
　　○員　　数　1 枚
　　○寸 法 等　縦 102.0cm　横 382.0cm
　　○作品概要　南スラウェシの古都パロポから 50 キロ離れたトラジャ地方に伝わったインド更紗。横長の 1 枚の木綿布にイスラム建築風の 4 つの花弁形アーチを描き、それぞれの空間には草模様を散らし、右からラージャ(貴族の男性)とその伴侶、2 人の曲芸師、曲芸団の演技を見物するラージャ、象上の輿に乗るラージャを描く。4 つの空間を仕切る柱は、淡藍、白、赤の羽絣模様で彩られ、柱頭には一対の獅子が表される。柱頭の上方には大きな 8 弁の花模様を中心に花唐草が伸びだし、アーチ全体を充填している。

＜考古＞（4 件）

18　○名　　称　壺形土器（つぼがたどき）
　　○作 者 等　不明（土器型式から東北地方北部と推定）
　　○時　　代　縄文時代　前 2000 年～前 1000 年
　　○品　　質　土製
　　○員　　数　1 点
　　○寸 法 等　高 28.0cm　最大径 20.5cm
　　○作品概要　口縁部に 4 つの橋状把手を持つ壺形の土器。体部には４つの大きな渦巻文が施されている。文様部は部分的に赤彩が行なわれ、生地の白色とのコントラストが大変美しい。上半部２箇所において土器製作時の粘土紐接合部で割れている。文様等の特徴から、縄文時代後期前葉の東北地方北部に分布する十腰内(ﾄｺｼﾅｲ) Ⅰ式土器と考えられる。この土器文化期では、洗骨した遺骨を壺に納めて埋葬する再葬墓が流行した。遺骨を納め易くするため、壺の肩部付近を水平方向に切断する場合があった。本品に認められる水平方向の 2 箇所の割れは、再葬に伴う切断である可能性が高い。

19　○名　　称　注口土器（ちゅうこうどき）
　　○作 者 等　伝岩手県三戸郡五戸町蛯川
　　○時　　代　縄文時代　前 2000 年～前 1000 年
　　○品　　質　土製
　　○員　　数　1 点
　　○寸 法 等　高 29.6cm　口径 11.0cm　最大幅 25.4cm　底径 5.0cm
　　○作品概要　本体部は長頸の壺形で、肩部に注ぎ口が付く。頸部から胴部上半にかけて、凸帯および磨消縄文を施す。文様上には瘤状突起を規則的に配している。その器形や文様から東北地方に分布する新地式土器と考えられ、同型式の土器の中でも大形で、ほぼ完存する例として貴重である。注口土器は、縄文時代後半期の東日本地域で盛行した。同時期に土偶、石剣、石棒、石刀等の呪術具も流行することから、その用途を酒類等の液体を用いた呪術に使用した道具と考えられることもある。これら呪術具は、やがて九州にも伝わり、独自の呪術具を誕生させるなど、九州の縄文文化に多大な影響を与えた。

20　○名　　称　飛騨地方採集石器・石製品（ひだちほうさいしゅうせっき・せきせいひん）
　　○作 者 等　主に飛騨地方
　　○時　　代　主に縄文時代　前 10000 年～前 400 年
　　○品　　質　石製
　　○員　　数　８１０点
　　○寸 法 等　石鏃を中心に、石錐、磨製石斧、打製石斧、石錘、御物石器、石冠、異形石棒等を含む。
　　○作品概要　岐阜県高山市在住の星文達守氏が永年にわたり収集してきた飛騨地方の縄文時代の石器・石製品を主体とする考古資料である。コレクションの

中心となる石鏃は、地元の石材である下呂石やチャートを用いて製作されたものだけでなく、長野県で産出する黒曜石を用いたものもあり、石器石材から当時の交流圏を推定することができる。また、御物石器、石冠、異形石棒など縄文時代を代表する呪術具も含まれている。中でも御物石器は飛騨地方に特有のもので市場に出ることが滅多に無い貴重なものである。石冠には九州でも出土する型式のものも含まれている。多くは採取場所が記されており、資料的価値も高いものとなっている。

21 ○名　　称　双龍環頭大刀（そうりゅうかんとうたち）
○時　　代　古墳時代・7 世紀
○品　　質　金銅製
○員　　数　1 振
○寸 法 等　全長 113.5cm　柄長 26.3cm　鞘長 86.7cm　環頭幅 10.7cm　鞘幅 7.1cm　厚 1.9cm
○作品概要　柄頭だけでなく鞘の栫も良好に遺存し、全体の形状がよく分かる点で希少な古墳時代の環頭大刀である。柄頭、鍔、鞘の飾金具および責金具は金銅製で、鉄製の刀身や鞘木も部分的に残る。柄頭には透かし彫りにより２匹の龍が向かい合わせで玉を食む姿が表され、柄や鞘にはＳ字形または蕨形のモチーフで飾られる。双龍環頭大刀は、朝鮮半島の新羅などの影響を受けて６世紀に古墳の副葬品として登場し、本品は龍文様の退化などから７世紀にまで製作年代が下ると推定される。古墳時代の対外交流をうかがい知る考古資料として非常に重要である。

＜歴史資料＞（15 件）

22 ○名　　称　豊臣秀吉朱印状（とよとみひでよししゅいんじょう）
○時　　代　安土桃山時代　天正 20 年(1592)
○品　　質　紙本墨書　巻子装
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　本紙：縦 23.4cm　横 64.5cm　　表装：縦 28.4cm　横 91.0cm　軸長 29.8cm
○作品概要　本作品は天正 20 年(1592)、宗義智(1568～1615)に宛てて出された豊臣秀吉(1537～98)の朱印状。6 月 3 日付。朝鮮に派遣される代官 7 人に通訳を 1 人ずつ帯同させることを命じる内容である。「文禄の役」において、漢城(ソウル)陥落後、秀吉の朝鮮統治の方針を示すものである。本朱印状は、義智に宛てられたことから、宗家に伝来したと考えられるが、研究史上、原文書の所在は不明とされてきた。明治時代の史料集に掲載されており、書写されたことは分かっていたが、その後散逸したと見られ、長らく所在が不明であった。編纂史料でのみ存在が知られていた重要史料の原文書として、本朱印状は非常に価値が高い。

23 ○名　　称　チャッピ「グレゴリオ 13 世伝」（ちゃっぴ　ぐれごりおじゅうさんせいでん）
○作 者 等　マルコ・アントニオ・チャッピ著
○時　　代　イタリア　1596 年
○品　　質　紙本印刷　洋装本
○員　　数　1 冊
○寸 法 等　縦 22.1cm　横 15.5cm　厚 2.4cm
○作品概要　本書はローマ教皇グレゴリオ 13 世(1502～1585、在位 1572～1585)の業績と生涯を述べた伝記である。1596 年刊行、初版(1591 年刊行)を訂正増補したものである。挿図を全く掲載していない初版本と比べると、1596 年版は 41 点の木版画の挿図を掲載しており、注目に値する。本書には、日本に建設されたキリスト教の 4 つの建築物（豊後臼杵のノヴィシアド、豊後府内のコレジオ、安土と長崎のセミナリオ）に関する記述や、天正遣欧使節のローマ教皇謁見の場面の説明がある。これらは、日本のキリスト教伝来期の様相を伝えると同時に、日本がヨーロッパに如何に紹介されたかを指し示すものである。本資料は、日本国内では数箇所の機関が所蔵するにとどまり、非常に希少な資料である。

24 ○名　　称　徳川家康書状（とくがわいえやすしょじょう）
○時　　代　安土桃山時代・慶長 3 年(1598)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 17.6cm　横 46.8cm　　表具：縦 99.8cm　横 49.9cm　軸長：54.7cm
○作品概要　掛幅装。慶長 3 年(1598)1 月 30 日付、太田一吉(？～1617)宛、徳川家康(1542～1616)の書状。太田一吉は、慶長の役（丁酉倭乱）にて、総大将格の小早川秀俊(秀秋)(1582～1602)の目付として朝鮮に渡海した。慶長 2 年 10 月頃、加藤清正(1562～1611)らにより蔚山で築城が開始されるが、明・朝鮮軍は蔚山城を攻撃、太田は籠城を開始した。年が明け、1 月 2 日、黒田らの援軍が到着、4 日に明・朝鮮軍は撤退した。太田は慶長 2 年の末、家康に籠城の旨を伝えたと見え、家康は本書状で太田が蔚山城を堅く守ったことを称賛する。一方、家康自身は、慶長 2 年末に暇を下されて江戸に逗留中だが、近々上洛することを伝えている。本書状によって、慶長の役での蔚山城籠城の様子を垣間見ることができる。

25 ○名　　称　片桐且元書状（かたぎりかつもとしょじょう）
○時　　代　江戸時代・慶長 14 年(1609)頃
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 32.4cm　横 49.6cm　　表具：縦 109.3cm　横 57.3cm
○作品概要　掛幅装。片桐且元(1556～1615)が、彫金師の後藤長乗(1562～1616)に宛てた書状。長乗の兄・徳乗(1550～1631)が極めた「判金」に豊臣家が極印を打つことについて駿府の許可を得たことなど、「判金」製造に係る内容を持つ。「判金」とは、豊臣秀頼による方広寺大仏・大仏殿の再建事業(慶長 13～17 年、1608-12)に伴って製造された“大仏大判”と考えられる。再建事業は且元が工事の総奉行となり、秀頼は工事費を負担したが、その費用には、軍資金として大坂城に備蓄された分銅金が利用され、4 万枚もの大仏大判が鋳造されたという。本書状ではその製造について、豊臣家が駿府の徳川家康と密接に連絡を取りながら進めたことが知られ、政権移行期における両家の政治的関係性が窺える好史料といえる。

26 ○名　　称　稲富流鉄砲秘伝書（いなどめりゅうてっぽうひでんしょ）
○作 者 等　野間喜左衛門尉重秀
○時　　代　江戸時代　慶長 18 年(1613)
○品　　質　紙本著色・墨書　　折帖・折畳装
○員　　数　7 帖 1 舗
○寸 法 等　(1)縦 24.4cm　横 381.8cm　(2)縦 24.2cm　横 422.9cm　(3)縦 24.1cm　横 486.5cm　(4)縦 24.4cm　横 508.3cm
(5)縦 24.6cm　横 1102.6cm　(6)縦 24.5cm　横 1627.8cm　(7)縦 24.5cm　横 1814.5cm　(8)縦 48.7cm　横 116.8cm
○作品概要　稲富一夢(祐直、理斎、1552～1611)を祖とする稲富流砲術の秘伝書。稲富流は近世の代表的な砲術流派で、その秘伝書の内容は鉄砲の起源から、射撃の心得、得物による射撃方法・姿勢、玉の種類、玉目による鉄砲の仕様、火薬原料の配合、照準具の説明など、鉄砲に関する諸事にわたっている。福岡藩黒田家や米沢藩上杉家、彦根藩井伊家など名立たる大名家に採用され、地域的にも階層的にも多くの武士に広く受容された。
本資料は後欠の 2 帖以外に残る奥書から、慶長 18 年(1613)9 月に野間喜左衛門尉重秀が渡辺三郎兵衛に伝授したものと分かる。稲富一夢の没後に近い時期の秘伝書であり、すでに当時の砲術が多様な武士層にまで及んでいた実態を示す好資料といえる。

27 ○名　　称　鍼灸秘伝書（しんきゅうひでんしょ）
○作 者 等　足立元意筆
○時　　代　江戸時代　17 世紀
○品　　質　紙本墨書　袋綴装
○員　　数　1 冊
○寸 法 等　縦 23.6cm　横 16.8cm
○作品概要　戦国時代から江戸時代前期に制作された東洋医学に基づいた鍼灸の秘伝書。前欠ではあるが図を大変豊富に収める。残存する冒頭には、明代の

「五輪八廓説」や「五輪所属主病之図」を載せ、次いで鍼灸の施術法として、ツボを図示した人体図(灸針図)をはじめとする 20 の図を注釈・解説とともに収める。さらには「五臓ノ虫之図次第」として、肝・心・肺・腎・脾の五臓に潜み病気を引き起こす原因の虫として、16 の虫の図を載せている。そして巻末には、梵字様の図形の字画に、薬師如来・観世音菩薩・阿弥陀如来・釋迦如来・大日如来と東・南・西・北・中、および肝・心・肺・腎・脾の五臓の関係性を観念的に対応させた図解を以って内容を終えている。

28 ○名　　称　宋紫石画譜（そうしせきがふ）
○作 者 等　宋紫石（1715～1786）画、副孟義編、版元　江戸・須原屋茂兵衛
○時　　代　江戸時代・明和 2 年(1765)刊
○品　　質　紙本墨刷・一部彩色刷
○員　　数　3 冊
○寸 法 等　各冊：縦 26.6cm　横 17.8cm
○作品概要　袋綴じ装。江戸時代に細密な花鳥画を流行させた清人画家・沈南蘋の画風を後進に教え広めるため編纂された図譜集。上巻(天)に沈南蘋の絵、中巻(地)に江戸の南蘋派画家・宋紫石、下巻(人)に高乾・伊孚九・南陽晋(諸葛晋)・費漢源・鄭培ら来日清人画家の画の写しを集める。江戸時代に来日した清人画家による南蘋派の絵画および文人画の流布を知る上で重要な史料である。

29 ○名　　称　中山伝信録（ちゅうざんでんしんろく）
○作 者 等　徐葆光（?～1723）著
○時　　代　江戸時代・明和 3 年(1766)刊
○品　　質　紙本墨刷
○員　　数　6 冊
○寸 法 等　第一巻：縦 26.3cm　横 17.5cm　第二巻：縦 26.3cm　横 17.5cm　第三巻：縦 26.3cm　横 17.5cm
第四巻：縦 26.2cm　横 17.5cm　第五巻：縦 26.2cm　横 17.5cm　第六巻：縦 26.4cm　横 17.5cm
○作品概要　袋綴じ装(四つ目綴じ)。本作品は、徐葆光(?-1723)の『中山伝信録』を日本において重刻したもの。明和 3 年 5 月、京都の版元、文錦堂の林伊兵衛が出版した。著者の徐葆光は江蘇省出身の官僚で、康熙 58 年(1719)6 月 1 日、冊封副使として、歴代最多の 649 名の一行とともに、琉球に来島した。滞在中、徐葆光は琉球各地を巡遊し、中山王の系譜から、琉球の地理、王府の制度や儀礼、琉球の風俗に至るまで調査したという。第一巻は航海に関する内容。第二巻は冊封の儀礼に関する内容。第三巻は中山王の系譜についての内容。第四巻は地理に関する内容。第五巻は制度に関する内容。第六巻は琉球の風俗や琉球語に関する内容である。江戸でも出版され、琉球に関する知識が広く伝えられた。

30 ○名　　称　琉球談（りゅうきゅうばなし）
○作 者 等　森島中良（1754～1808）著
○時　　代　江戸時代・寛政 2 年(1790)刊
○品　　質　紙本墨刷
○員　　数　1 冊
○寸 法 等　縦 22.4cm　横 15.6cm
○作品概要　袋綴じ装（四つ目綴じ）。『琉球談』は寛政 2 年（1790）、同 3 年、同 7 年、同 9 年、刊行年不明なものも含めて、多くの版本が普及した著作物である。本作品は寛政 2 年の初版本で、序文は前野達、跋文は須原屋市兵衛による。著者の森島中良は蘭学者、戯作者で、幕府医官の桂川国訓(1728～1783)の次男で、医学者・蘭学者の桂川甫周(1754～1809)の弟である。本書は、明和 3 年(1766)に和刻本が刊行された『中山伝信録』(徐葆光(?-1723)著、康熙 60 年(1721 年)刊)に注目し、日本と琉球との関わりを記した内容や風俗の記事を読み下し、加筆したもので、それらを人々が親しみやすいように紹介する。本作品から、蘭学者が琉球を如何に紹介したか、江戸時代の人々が琉球に対してどのような認識を持っていたかが窺える。

31 ○名　　称　シャルルヴォア「日本の歴史」(しゃるるう゛ぉあ　にっぽんのれきし)
○作 者 等　ピエール・フランソア・グザヴィエ・ド・シャルルヴォア著
○時　　代　フランス　1736 年
○品　　質　紙本印刷　洋装本
○員　　数　2 冊
○寸 法 等　第 1 巻：縦 25.8cm　横 20.5cm　厚 4.8cm　　第 2 巻：縦 25.8cm　横 20.5cm　厚 4.9cm
○作品概要　本書は日本のキリスト教伝来期におけるイエズス会の活動を記述するとともに、日本人の生活や慣習などについても、多くの図版を交えて解説する。図版中、注目に値するのは、安土城とその城下町の図である。天正遣欧使節がローマ教皇グレゴリオ 13 世に献上した「安土図屏風」は所在が不明であるが、この図版が、「安土図屏風」と何らかの関連性を持つのであれば、本資料の価値は高い。シャルルヴォアは日本に滞在することはなかったが、本書を著すにあたって数多くの文献を参照した。そのため、本書を通じてヨーロッパの日本観を垣間見ることができる。日本文化をヨーロッパに紹介し、日本知識の形成に資した点で、本資料は高く評価される。

32 ○名　　称　蝦夷地図（えぞちず）
○時　　代　江戸時代　18 世紀
○品　　質　紙本墨書　折畳装
○員　　数　1 鋪
○寸 法 等　縦 49.2cm　横 91.1cm
○作品概要　北海道島を中心に、南は下北半島・津軽半島など青森県域から、北は「さんたん」「唐ふと」「れぶん」と記した大陸までを描いた絵図。北海道島の沿岸部には「松前」「箱舘」「江指」のほか、「宇須（有珠）」「しらをい」「くすり（釧路）」「そうや」「てしお」「石狩」など、現在もみられる多くの地名を書き込むが、形状は、概ね正確な道南部を除き、実際の地形と大きくかけ離れている。このため北海道島の全形が全く整っておらず、いわゆる初期蝦夷図に分類される。
なお青森県側には「南部大膳亮」「津軽采女」「津軽土佐守」の領主名が認められ、そこから正徳 2 年(1712)から享保 10 年(1725)の製作年代が想定される。

33 ○名　　称　新訂万国全図（しんていばんこくぜんず）
○作 者 等　高橋景保作
○時　　代　江戸時代　文化 7 年（1810）成立、文化 13 年（1816）刊
○品　　質　紙本印刷筆彩　折畳装　表紙絹張り
○員　　数　1 鋪
○寸 法 等　縦 116.1cm　横 199.2cm
○作品概要　江戸幕府天文方の高橋景保(1785～1829)が製作した両半球世界図。文化 4 年(1807)に世界地図作成の幕命を受けた景保は、アロースミスの世界図を原図として、天文学者の間重富や長崎通詞の馬場貞由の協力を得て、文化 7 年(1810)に手書きの「新訂万国全図」を完成させた。それを東アジア一帯について改訂し、銅版画家・亜欧堂田善による銅版彫刻をもって、文化 13 年(1816)に印刷刊行したのが本図である。
本図では日本を基準に「西半球」・「東半球」の名称を定め、図上でも日本を中心として左に「西半球」、右に「東半球」を配している。また図左上の副図は、京都を零度とする子午線を通した日本中心の半球図とするなど、翻訳版ではない日本製官版としての独自性がみられる。

34 ○名　　称　佐州金銀採製全図（さしゅうきんぎんさいせいぜんず）
○作 者 等　如龍齋筆
○時　　代　江戸時代　嘉永 6 年(1853)写
○品　　質　紙本著色　巻子装

○員　　数　1巻
○寸 法 等　本紙：縦30.0cm　横2591.9cm　　表装：縦30.0cm　横2664.0cm　軸長32.5cm
○作品概要　江戸時代の佐渡金銀山、特に相川金銀山における稼業の様子を描いた絵巻。採鉱、選鉱、金銀銅の製錬、小判への加工の工程、および砂金の採取を図説する。
国内外に多くの残存例が知られるいわゆる佐渡金銀山絵巻だが、本作品は1.「金銀採製全図」を冠する名称、2.巻頭が「惣目録」から始まる、3.文化14年(1817)に導入された水車による鉱石の粉砕場面が描かれる、という諸点から、文政2年(1819)から幕末期にかけて描かれたタイプに属する。その中でも嘉永6年(1853)という制作年代が明記されることは特筆され、さらに描写の丁寧さや彩色の豊かさ、注記の細かさ等においても、他の良本に劣らぬ内容を持つ。

35 ○名　　称　リンデン伯「日本の思い出」（りんでんはく　にっぽんのおもいで）
○作 者 等　リンデン伯 ヨハン・マウリッツ著　　オランダ・ハーグ
○時　　代　オランダ　1860～66年刊
○品　　質　紙本印刷　未製本
○員　　数　10冊
○寸 法 等　図：縦53.9cm　横71.8cm　　扉・序文・解説：縦70.7cm　横54.2cm
○作品概要　オランダ国王ウィレム3世の侍従長リンデン伯爵（1807～64）が、安政2年(1855)に来日し、長崎に滞在した時の印象を、帰国後に画集としてまとめたもの。製作はハーグのミーリング王立石版印刷工場で行われ、1860年から66年にかけて10回の配本で印刷刊行された。オランダ国旗がはためく出島、金比羅山や出島から眺めた長崎の街並み、唐寺、ジャンク船や御座船など様々な船で賑わう長崎港といった、近世の長崎らしい光景を色鮮やかに描き出す。
幕末長崎の姿は写真資料にも多く伝わるが、色彩を伴う点は写真資料には無い、多色刷り石版印刷による本作品の特徴といえる。
図版と解説文が完存し、かつ配本当時の状態をとどめる点、大変貴重である。

36 ○名　　称　琉球使節江戸登城行列図（りゅうきゅうしせつえどとじょうぎょうれつず）
○時　　代　江戸時代・19世紀
○品　　質　紙本著色
○員　　数　2巻
○寸 法 等　上巻：（本紙）縦35.7cm　横2255.0cm　（表具）縦35.7cm　横2328.3cm
下巻：（本紙）縦35.6cm　横1881.4cm　（表具）縦35.6cm　横1955.9cm
○作品概要　巻子装。本図は、琉球国王尚育(1813～1847、1835即位)の襲封を江戸幕府将軍・徳川家斉に謝恩するため、天保3年(1832)に日本に派遣された琉球使節（謝恩使）の江戸城登城行列を描いたもの。行列の全体を2巻に収め、上巻に琉球使節を、下巻には薩摩藩士の行列を描く。描写は人物の表情や行列道具など細部まで丁寧であり、かつ色彩豊かである。琉球使節は、朝鮮通信使とともに、大規模な外交使節として社会的な関心も高く、来日時には多くの刊行物や記録画が作成された。使節を描いた肉筆画作品も複数が確認されているが、画題となる使節の年次が明らかで、登城行列の全体を描いた図は、天保3年謝恩使についてはこれまで未確認であり、大変稀少性が高い。

（2）寄贈（22件）
＜絵画＞（9件）

1 ○名　　称　渡唐天神像（ととうてんじんぞう）
○時　　代　室町時代・15～16世紀
○品　　質　紙本著色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙：縦61.1cm　横23.4cm　　表具：縦133.0cm　横30.1cm　軸長40.3cm
○作品概要　掛幅装。仙冠道服を着けて、左肩から右腰に鞄をさげ、一枝の梅花を右脇にもつ渡唐天神像を描く。細部に注意を払った細やかな描写を特徴とする。菅原道真が中国の高名な禅僧・無準師範に参禅して弟子になったという「渡唐天神」の伝説を造形化する。正面向きに直立する本像の姿は、東福寺の画僧・明兆の後継者によって制作された最も古い形式を踏襲する。

2 ○名　　称　渡唐天神像（ととうてんじんぞう）
○時　　代　室町-安土桃山時代・16世紀
○品　　質　紙本著色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙：縦44.8cm　横23.4cm　　表具：縦126.3cm　横34.5cm　軸長39.9cm
○作品概要　掛幅装。仙冠道服を着けて、左肩から右腰に鞄をさげ、一枝の梅花を右脇にもつ渡唐天神像を描く。その表現の最大の特徴は、各所に施された金泥の文様である。菅原道真が中国の高名な禅僧・無準師範に参禅して弟子になったという「渡唐天神」の伝説を造形化する。室町時代を通じて盛んに制作されたこの主題のなかでも、本像の腕を振る姿は、狩野元信(1477～1559)とその後継者によって描かれた形式を踏襲している。

3 ○名　　称　渡唐天神像（ととうてんじんぞう）
○作 者 等　方梅厓書（了庵桂悟賛文）
○時　　代　明時代・16世紀
○品　　質　絹本著色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙：縦58.3cm　横29.8cm　　表具：縦139.4cm　横42.2cm　軸長47.8cm
○作品概要　掛幅装。半透明の黒い頭巾をかぶり水色の道服を着けて、左肩から右腰に鞄をさげる渡唐天神像を描く。右脇には梅花を抱えている。輪郭線に沿って隈をつけたややアクの強い顔貌や、腕・裾のまとまりのよい形態感を特徴とするため、本像は中国における制作と考えられる。上部の賛文は、永正 8 年(1511)の遣明使で正使をつとめた東福寺の高僧・了庵桂悟(1425～1514)の詩文を、中国・寧波（浙江省）の文人・方梅厓（16世紀中葉に活躍）が書写したもの。文化交流の観点からも大きな意義をもつ重要な作品である。

4 ○名　　称　渡唐天神像（ととうてんじんぞう）
○作 者 等　道晃入道親王（1612～79）筆・賛
○時　　代　江戸時代・17世紀
○品　　質　絹本著色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙：縦83.8cm　横29.3cm　　表具：縦175.3cm　横42.9cm　軸長48.3cm
○作品概要　掛幅装。頭巾を被って道服をつけ、一枝の梅花を右脇に持った渡唐天神像を描き、その上方に中世において菅原道真の詠とされた和歌2首を賛した作品。落款から、画と賛の筆者は、江戸時代前期の天台僧・道晃入道親王と判明する。道晃は、後陽成天皇の第13皇子に生まれ、和歌・書画・茶道にすぐれた。本作品はその質から、江戸前期の宮廷文化圏で活躍した道晃が、たしなみの一つとして制作したものと推考される。

5 ○名　　称　渡唐天神像（ととうてんじんぞう）
○作 者 等　伝狩野山楽（1559～1635）筆
○時　　代　江戸時代・17世紀
○品　　質　絹本著色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙：縦85.7cm　横36.8cm　　表具：縦172.9cm　横50.1cm　軸長55.0cm

○作品概要　掛幅装。無背景を背に正面を向き、青色の頭巾と薄浅黄地に花菱紋を織り出した道服を着け、左肩から右腰に袈裟袋をさげる渡唐天神像を描く。組んだ両腕を体の中心よりやや左に振り、一枝の紅梅を右腕に挟む。腕を少し振る姿は、狩野元信(1477～1559)やその後継者らによって描かれた形式を踏襲した、典型的なものである。大倉好斎(1795～1862)の極書には、狩野山楽(1559～1635)筆としているが、線描は山楽の躍動感ある筆線と異なる。ただし、狩野派に学んだ画家による制作と考えられる。

6　○名　　称　束帯天神像（そくたいてんじんぞう）
○作 者 等　高泉性潡（1633～95）賛
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　絹本著色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 84.8cm　横 35.9cm　　表具：縦 165.3cm　横 48.4cm　軸長 52.6cm
○作品概要　掛幅装。松と梅を背景に畳に座した貴人姿の束帯天神像をおおらかに描き、その上方に江戸時代前期の黄檗僧・高泉性潡が賛した作品。賛は、中世の天神信仰において無私の人格の菅原道真が松と梅を愛した話を踏まえた内容を、穂先のよく利いた中国書法で草卒に揮毫する。
長崎に渡来しのちに萬福寺第５世をつとめた黄檗僧が、天神信仰を踏まえて着賛している点が特筆される。類例に「束帯天神像」（土佐光起筆・高泉性潡賛、東京・常盤山文庫蔵）が知られる程度と希少である。

7　○名　　称　御橋・霧降滝・裏見滝図（みはし･きりふりのたき･うらみのたきず）
○作 者 等　伝土佐光成（1646-1710）筆
○時　　代　江戸時代・17-18 世紀
○品　　質　絹本著色
○員　　数　3 幅
○寸 法 等　本紙：（御橋図）　縦 94.5cm　横 34.8cm　　（霧降滝図）　縦 94.5cm　横 35.5cm　　（裏見滝図）　縦 94.5cm　横 35.5cm
表具：（御橋図）　縦 177.7cm　横 48.2cm　軸長 52.9cm　　（霧降滝図）　縦 177.7cm　横 48.2cm　軸長 52.9cm
（裏見滝図）　縦 177.7cm　横 48.2cm　軸長 52.9cm
○作品概要　掛幅装。日光の開祖･勝道上人ゆかりの神橋と東照宮本殿を描いた中幅に、霧降滝と裏見滝という日光の名瀑を主題とする左右幅を組み合わせ、いずれも金色の瑞雲がたなびく聖地として表わした三幅対である。本作品は、江戸以降に描かれた日光の名所を主題とした作例としては成立時期が早い点が注目される。近世前期に宮廷絵所預を務めた土佐光起(1617-1691)の確立した近世やまと絵様式を踏襲する佳品である。

8　○名　　称　渡唐天神像（ととうてんじんぞう）
○作 者 等　白隠慧鶴（1686～1769）筆・自賛
○時　　代　江戸時代・18 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 69.3cm　横 17.2cm　　表具：縦 147.0cm　横 29.2cm　軸長 34.7cm
○作品概要　掛幅装。画面上半分に『菅神入宋授衣記』（『群書類従』第 2 輯）中の天神の神詠歌をもとにし（詠歌は末尾が「梅の一枝」）、画面下半分には、梅の一枝を捧げ持って画面向かって左へ体を振った立ち姿の渡唐天神像を文字絵で表わす。天神の顔と梅のみ細い線で描き、冠や着衣は「南無天満大自在天神」の名号からなる。白隠慧鶴は同種の「渡唐天神像」を制作しており、本図も白隠の文字絵による渡唐天神像の典型作と位置づけられる。

9　○名　　称　渡唐天神像（ととうてんじんぞう）
○作 者 等　森寛斎（1814～1894）筆
○時　　代　江戸-明治時代・19 世紀
○品　　質　絹本著色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 93.2cm　横 34.1cm　　表具：縦 188.7cm　横 48.1cm　軸長 53.7cm
○作品概要　掛幅装。無背景を背に正面を向き、両手に一枝の白梅を持つ渡唐天神像を描く。バランスがよく自然な人体の描写、端正な顔貌表現は、円山派の特徴をしめす。筆者の森寛斎自身、道真の威徳を偲び毎月 25 日に自宅で菅公祭を行なっていたことが知られ、落款の「謹寫」はそうした画家の本主題に対する思いが反映されていると考えられる。本図のように、腰に太刀を佩いた姿の渡唐天神像では珍しい。渡唐天神像の近世的展開を示す一例として位置づけられる。

＜彫刻＞（1 件）

10　○名　　称　仏頭（ぶっとう）
○作 者 等　中国山西省雲岡石窟
○時　　代　中国・北魏時代　5 世紀末～6 世紀初
○品　　質　砂岩製　彩色。
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 39.4cm　幅 16.5cm　奥行 16.0cm
○作品概要　高浮彫の仏像の頭部。面部は面長で、弓形の眉、切れ長の目を持ち、口元は微笑を浮かべる。肉髻はやや大きく、螺髪を表さない。中国山西省雲岡石窟の将来とされる。雲岡石窟は 5 世紀後半に開鑿され、北魏の洛陽遷都（494）後の 6 世紀前半まで造営が続けられた。造営時期はおおよそ 3 期に分けられ、開鑿当初はインド風の仏像が作られたが、第 2 期以後は中国風の造形へと変化した。本作品は面長の面部や頭髪の形式などから、中国化の進んだ第 2 期から第 3 期頃の制作とみられる。

＜書跡＞（1 件）

11　○名　　称　墨蹟「不生」（ぼくせき　ふしょう）
○作 者 等　盤珪永琢筆
○時　　代　江戸時代　17 世紀
○品　　質　紙本墨書　掛幅装
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 13.5cm　横 37.7cm　　表装：縦 116.0　横 59.0　軸長 64.0
○作品概要　筆者の盤珪永琢（1622～93）は、長崎に来日した黄檗僧・道者超元（1602～62）に、その悟りが釈迦以来の正統なものであると認められた、江戸時代初期の臨済僧。本作品は、その禅の極致を表す「不生」の 2 字を濃墨で揮毫したものである。不生とは、人間誰しもが生まれながらに備わった仏の心のことで、その心のままでいれば活きた仏であると説く。その書は、漢時代に起源をもつ章草という草書体で記され、関防には黄檗墨蹟に通有の「臨済正宗」印が押される。こうした点から、中国明時代の禅文化や中国の書の歴史に通じた筆者像が見て取れる。なお、盤珪永琢が「不生」と揮毫した墨蹟には、隷書体（八分隷）のものが通例で、草書体の本作品は珍しく、貴重である。

＜金工＞（3 件）

12　○名　　称　五鈷鈴（ごこれい）
○作 者 等　東北タイ
○時　　代　タイ・スコータイ時代・13-14 世紀
○品　　質　白銅・鋳造。

○員　　数　1口
○寸 法 等　総高 16.8cm　鈴身口径 8.5cm　舌長 5.2cm
○作品概要　白銅製の鋳造五鈷鈴。杵部と鈴身部は別鋳としており、当地の仏具をはじめとする各種の銅製鋳造品にしばしばみられる蝋型鋳造による制作考えられる。鈷は、把上より垂直に伸びる中鈷と、逆刺を伴う 4 つの脇鈷からなる五鈷形をなす。杵の中央に敷茄子状の無文の鼓形を設け、その上下に大小の蛤刃状の突起をめぐらす作風は、バンコク国立博物館やピマーイ国立博物館をはじめ、タイ各地の博物館に収蔵されている 13－15 世紀の同形密教法具に通有の形式である。また、別鋳の鈴身は素文ながら上下に段をめぐらし、更に縁を駒の爪状につくりだす。鈴身の内側には環を設け、そこから本体と同じ材質でつくられた舌を吊り下げる。

13　○名　　称　羯磨（かつま）
○時　　代　南北朝時代・14 世紀
○品　　質　銅・鋳造、鍍金。
○員　　数　1口
○寸 法 等　縦横各 13.7cm
○作品概要　轂と呼ばれる円形の座を中心に、二本の三鈷杵を十字に組んだ形姿を基本とする密教法具である。表裏ともに、轂の中央に据えた鬼目の周囲に三十二弁からなる菊花弁帯をめぐらす。そこから伸びる鈷は、根元の蓮葩を強く約し、その上の八弁からなる蓮弁は極めて立体的で鎬立つ。また、逆刺を伴う脇鈷は内側に匙面をとりつつ大きく張り出し、さらに鋭く鎬を立てる。さらに、鍍金はやや赤みを帯びるが、鬼目と鎬上以外は今なお鍍金層が極めて厚く残る。

14　○名　　称　三鈷柄（さんこづか）
○時　　代　室町時代・15-16 世紀
○品　　質　銅・鋳造、鍍金。
○員　　数　1柄
○寸 法 等　総長 14.5cm
○作品概要　三鈷杵をかたどった、いわゆる聖柄のかたちをなす。上方の鈷部は、中鈷の代わりに剣の茎を挿し込むための受けをつくりだし、その基部には、茎を留めるための孔をひとつ開ける。脇鈷は逆刺を伴い中程で大きく屈曲するかたちをとり、鈷の側面に浅い樋を設ける。また、下方の柄頭側は脇鈷が中鈷に鋳付く。把部は中央に楕円形をなした二重の鬼目を設け、その上下には大ぶりな連珠を伴う鈕で約した間弁付きの二重花弁を巡らす。蘂は縦筋に細かく刻み、更に蘂頭には魚々子鏨を用いて細かい連珠を打ち回す。

＜刀剣＞（2 件）

15　○名　　称　刀（かたな）
○作 者 等　同田貫上野介
○時　　代　安土桃山-江戸時代初期　16 世紀末期-17 世紀初期
○品　　質　鉄・鍛造
○員　　数　1口
○寸 法 等　全長 93.0cm　刃長 70.5cm　反 1.4cm
○作品概要　鎬造、先の伸びる大鋒。反りやや浅く身幅広め、重ね厚い。表裏に刀身彫刻は伴わない。総体やや白け立ち、鍛は板目に杢目がかり肌立つ。肌は匂出来。刃文は直刃。茎は生ぶで、角棟、刃上がりの栗尻、鑢目は切。目釘孔を 1 つ開ける。銘は指表に刀工銘「九州肥後同田貫上野介」を大きく刻む。同田貫は、南北朝時代に菊池氏が山城国より招いた来派の刀工、延寿太郎国村の末裔とされる刀工一派。その作風は華美を抑えた実用本位のもので、頑丈で切れ味のよいことで知られる。玉名で作刀した同田貫の初代が正国(のち上野介)で、本品のように「上野介」銘を切る作例としては、「上野介」、「九州同田貫上野介」、「肥州菊池住同田貫上野介」などがあり、主に文禄から慶長年間にかけての作刀が確認できる。

16　○名　　称　脇差（わきざし）
○作 者 等　藤原正良（?～1760）
○時　　代　江戸時代中期・17 世紀後半-18 世紀前半
○品　　質　鉄・鍛造
○員　　数　1口
○寸 法 等　総長 50.2cm　刃長 36.6cm　反り 0.7cm
○作品概要　鎬造、大鋒、庵棟。反り浅く身幅広め、重ね極めて厚い。表裏ともに棒樋を鎬下で掻き流す。鍛は板目よく約み、肌は地沸厚い大沸出来。刃文は広直刃に焼き出し、上に向かって互の目まじりに大きく湾れ、物打あたりで焼き幅を広くとる。茎はやや隅丸の角棟、刃上がりの入山形で、鑢目は筋違、目釘孔を 1 つ開ける。指表やや棟寄りに刀工銘「薩摩國出水藤原正良」を刻む。

＜陶磁＞（1 件）

17　○名　　称　白磁日月壺（はくじじつげつこ）
○作 者 等　中国江西省（推定）
○時　　代　南宋-元時代・13-14 世紀
○品　　質　白磁製
○員　　数　1合
○寸 法 等　総高 77.3cm　底径 11.0cm
○作品概要　日月壺とは南宋から元時代にかけて中国江西省で流行した細長い白磁の壺であり、墓への副葬ないし葬送儀礼のために作られた。日月壺は龍文と太陽文をもつもの、および虎文と月文をもつものとで対をなす。前者の例に該当する本作品はもともと一対であった日月壺のうちのひとつである。龍文と太陽文のほか、器身の中位に廻らされた立ち姿の人物像 12 体と伏臥する人物像 1 体、蓋の頂部にある鳥形の装飾などからは、南宋から元時代にかけて江西省で流行した地域色の濃厚な道教との関連が窺い知れる。南宋から元時代にかけての中国南部各地で成立・展開した多様な葬送儀礼の一様相を示す好例である。

＜考古＞（3 件）

18　○名　　称　石刀（せきとう）
○時　　代　縄文時代・前 2000 年-前 400 年
○品　　質　石製
○員　　数　1点
○寸 法 等　最大長 26.2cm　最大幅 3.3cm　最大厚 1.9cm
○作品概要　完形。部分的に線刻が施された簡素な作りの石刀である。石刀は、縄文時代を代表する祭祀具で、主に東日本地域から出土する。本品の箱書きにある出土地には天林北遺跡があり、これまで多数の石製祭祀具が出土している。本品が出土していたとしても違和感はない。中部地方出土の石刀は数が限られており、完形での遺存例も少ない。石刀の起源については、先行する骨刀に系譜を求める意見がある一方で、中国大陸北方の青銅刀子の影響を受けて成立したとする意見もある。今後、縄文時代の文化交流を考える上で貴重な資料である。

19　○名　　称　大分県丹生川遺跡出土品（おおいたけんにゅうがわいせきしゅつどひん）
○作 者 等　大分県大分市大字坂ノ市　丹生川遺跡
○時　　代　1～5：弥生時代　前 2-前 1 世紀　　6：古代-中世　8-15 世紀
○品　　質　1～5：頁岩製。

6：鉄製。
○員　　数　6 点
○寸 法 等　1：長 12.0cm　幅 4.2cm　厚 1.6cm
2：長 6.4cm　幅 3.6cm　厚 1.1cm
3：長 4.4cm　幅 1.6cm
4：長 3.7cm　幅 2.3cm
5：残存長 3.2cm　残存幅 3.0cm
6：長 11.2cm　幅 6.0cm
○作品概要　昭和 36 年(1961)当時、弥生時代前期から中期の水田遺跡と考えられていた丹生川遺跡において、行政による埋蔵文化財保護体制が十分に整わない中、開発行為が行われた際に太田亘（郷土史研究家、当時坂ノ市町文化財専門委員長）によって採集された資料である。1・2 の扁平片刃石斧、3・4 の磨製石鏃ともに、農耕社会に伴う新しい技術・文化が日本列島内に伝播する過程を示す典型資料であり、弥生時代の人々の生活を語る上で欠かせない基本資料である。5 は小破片のため全形を知り得ないが、表面を研磨しているため、磨製石器であると判断できる。6 の狩股式鉄鏃は、共伴する土器がなく、詳しい出土状況もわからないため、時代を絞り込むことが難しい。

20 ○名　　称　土馬（どば）
○作 者 等　伝奈良県
○時　　代　奈良時代　8 世紀
○品　　質　土製
○員　　数　１点
○寸 法 等　高 7.0cm　縦 12.3cm　横 12.3cm
○作品概要　「都城型」と分類される土馬で、三日月形の馬面が確認できる。馬面の両側面には、線刻で目が描かれている。体部には目立った装飾はなく、抽象化が進んだ形式的な造形と評価できる。土馬は律令祭祀で用いられる祭具の一つであり、井戸や流路などの水辺での出土数が多い。祭祀の際に土馬を意図的に破壊する事例が目立ち、本品で見られる右後脚の欠損も、奈良時代の祭祀行為により生じたと見られる。奈良時代の欠損部位は、発見後の修復で復元されている。

＜歴史資料＞（2 件）

21 ○名　　称　両替天秤・分銅（りょうがえてんびん･ふんどう）
○時　　代　江戸時代　17～19 世紀
○品　　質　天秤：真鍮製　　分銅：銅鋳造
○員　　数　１組・25 点
○寸 法 等　天秤竿(針口含む)：高 12.2cm　長 35.7cm　　天秤皿：(左)高 2.9cm　口径 14.0cm　(右)高 2.8cm　口径 14.0cm
分銅：縦 1.8cm～1.3cm
○作品概要　江戸時代の商家において両替や取引に用いられた両替用の秤量器で、天秤 1 組、両替用分銅 24 点、竿秤用分銅 1 点からなる。天秤皿の見込み中央に打たれた極印「極中堀与一郎（花押)」や、両替分銅に刻まれた「後藤」の文字、および同家の花押と五三桐紋は、幕府公定の秤量器であることを示している。
残存する両替分銅 24 点は、全体の形状、刻印などから大きく 4 種類に分類することができる。最も残存状況の良い一群は 30 両以下 2 匁までおよび 4 分の 13 点、次いで 20 両以下 2 匁までの 9 点、および 20 両の 1 点と、1 両の 1 点とに分類され、それぞれ製作年代が異なるものと考えられる。竿秤用分銅は近代以降に下る可能性もある。

22 ○名　　称　広開土王碑拓本（こうかいどおうひたくほん）
○作 者 等　原碑:中国吉林省集安市
○時　　代　原碑:三国時代・414 年　採拓:民国時代・1934 年頃
○品　　質　紙本墨拓
○員　　数　4 面
○寸 法 等　第 1 面：(上半分)縦 264.3cm　横 145.0cm-148.0cm、(下半分)縦 275.0cm　横 145.0cm
第 2 面：縦 528.0cm　横 100.0cm-122.0cm
第 3 面：縦 532.0cm　横 178.0cm
第 4 面：縦 530.0cm　横 120.0cm
○作品概要　高句麗の全盛期を現出させた広開土王（在位 391～412 年）の勲績を後世に示すため建てられた広開土王碑の拓本。広開土王碑拓本のなかには、文字をより明瞭にするため、碑面の風化部分に石灰を埋めて採拓した「石灰拓本」が 1885 年前後より出現する。埋めた石灰は時間の経過によって剥落し、拓本の余白の大きさや一部の文字の形状に影響した。本資料は裏面に石灰の粉がわずかに残っていることから、石灰拓本であることが明らかである。また、余白の大きさや特定の文字の形状から 1934 年前後に採拓されたものと考えられる。原碑 4 面すべての拓本が揃い、文字の状態によって採拓時期を特定することができることに加えて、入手経緯も明らかであることから、歴史資料として極めて貴重である。

1-(1)-②-5 有形文化財（美術工芸品）に関する取組状況（文化財購入費）

平成29年3月31日

	平成28年度 合計金額（千円）	総件数	内訳					
			運営費交付金（千円）	件数	寄附金（千円）	件数	目的積立金（千円）	件数
国立文化財機構	1,437,890	63	1,277,190	63	160,700	(2)	0	0
東京国立博物館＊	662,350	11	501,650	11	160,700	(2)	0	0
京都国立博物館	130,088	14	130,088	14	0	0	0	0
奈良国立博物館	5,040	2	5,040	2	0	0	0	0
九州国立博物館	640,412	36	640,412	36	0	0	0	0

＊東京国立博物館の寄附金財源による購入2件分は、運営費交付金と寄附金の両方を財源として購入した文化財のため、
実際の文化財購入は11件となる。

1-(1)-②-6 寄託品一覧表

（単位：件）　平成29年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計		12,127	195	1,189	3,075	55	258	6,189	86	620	1,958	52	299	905	2	12
絵画		3,411	57	413	473	13	65	2,231	28	244	557	16	101	150	0	3
書跡		1,683	67	271	393	10	30	878	41	203	350	15	35	62	1	3
彫刻		930	9	195	245	3	37	263	1	69	416	5	87	6	0	2
建築		5	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0
金工		961	14	84	133	5	18	523	2	35	210	7	30	95	0	1
刀剣		255	8	65	232	8	56				16	0	9	7	0	0
陶磁		1,258	1	7	128	0	3	846	1	3	8	0	0	276	0	1
漆工		722	15	55	97	6	15	481	4	15	118	5	24	26	0	1
染織		859	7	38	287	2	4	497	3	31	47	2	3	28	0	0
考古		949	13	34	169	4	13	424	6	10	236	2	10	120	1	1
民族資料		114	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	109	0	0
歴史資料		72	0	10	5	0	0	43	0	10	0	0	0	24	0	0
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	170	2	11	170	2	11									
	書跡	39	1	3	39	1	3									
	彫刻	31	0	0	31	0	0									
	金工	5	0	1	5	0	1									
	陶磁	137	1	1	137	1	1									
	漆工	30	0	1	30	0	1									
	染織	7	0	0	7	0	0									
	考古	486	0	0	486	0	0									
	民族	3	0	0	3	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規定による「旧東洋課所掌分」あり。京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。
＊東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-②-7 寄託品増減表

（単位：件）　平成29年3月31日現在

		国立博物館				東京国立博物館				京都国立博物館				奈良国立博物館				九州国立博物館			
		27年度	28年度			27年度	28年度			27年度	28年度			27年度＊	28年度			27年度	28年度		
		計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計
合計		12,025	345	243	12,127	3,072	37	34	3,075	6,112	227	150	6,189	1,956	37	35	1,958	885	44	24	905
絵画		3,368	111	68	3,411	478	3	8	473	2,202	76	47	2,231	529	29	1	557	159	3	12	150
書跡		1,704	21	42	1,683	395	2	4	393	902	14	38	878	349	1	0	350	58	4	0	62
彫刻		930	9	9	930	246	1	2	245	262	6	5	263	416	1	1	416	6	1	1	6
建築		5	0	0	5	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	2
金工		971	18	28	961	133	0	0	133	535	12	24	523	210	3	3	210	93	3	1	95
刀剣		260	24	29	255	213	19	0	232					45	0	29	16	2	5	0	7
陶磁		1,197	90	29	1,258	136	1	9	128	776	89	19	846	8	0	0	8	277	0	1	276
漆工		714	21	13	722	98	0	1	97	468	18	5	481	115	3	0	118	33	0	7	26
染織		859	3	3	859	286	1	0	287	497	2	2	497	47	0	0	47	29	0	1	28
考古		931	31	13	949	172	0	3	169	427	5	8	424	237	0	1	236	95	26	1	120
民族資料		114	0	0	114	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	109	0	0	109
歴史資料		67	7	2	72	5	0	0	5	40	5	2	43	0	0	0	0	22	2	0	24
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	170	1	1	170	170	1	1	170												
	書跡	39	0	0	39	39	0	0	39												
	彫刻	31	0	0	31	31	0	0	31												
	金工	5	0	0	5	5	0	0	5												
	陶磁	129	9	1	137	129	9	1	137												
	漆工	33	0	3	30	33	0	3	30												
	染織	9	0	2	7	9	0	2	7												
	考古	486	0	0	486	486	0	0	486												
	民族	3	0	0	3	3	0	0	3												

＊27年度の4館合計値及び奈良国立博物館の数値は、奈良国立博物館における28年度のカウント方法の見直しに合わせた数値となっている。

1-(1)-②-8 登録美術品一覧表

（単位：件）　平成29年3月31日現在

3		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計		28	0	2	26	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0
絵画		4	0	2	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
書跡		18	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
彫刻		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁		1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
染織		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	陶磁	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
複合資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

1-(1)-③　有形文化財の管理・保存・修理等

1-(1)-③-1 各収蔵庫、展示場の温湿度

【東京国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
本館	展覧会場	09：00～17：00	16～28℃	13～88%
	収蔵庫	09：30～17：00	15～27℃	23～78%
平成館	展覧会場	09：00～17：00	19～28℃	40～66%
	収蔵庫	09：30～17：00	21～26℃	48～64%
東洋館	展覧会場	09：30～17：00	15～30℃	28～63%
	収蔵庫	09：30～17：00	10～28℃	42～70%
法隆寺宝物館	展覧会場	24時間運転	21～25℃	43～60%
	収蔵庫	24時間運転	21～24℃	47～57%
黒田記念館	展覧会場	24時間運転	19～24℃	43～68%
	収蔵庫	24時間運転	21～22℃	54～59%

【京都国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
明治古都館	展覧会場	8：30～18：00（停止期間あり）	13～28℃	50～60%
（特別展示館）	収蔵庫	8：30～17：30	14～26℃	50～60%
平成知新館	展覧会場	9：00～17：00	19～25℃	50～60%
（新平常展示館）	収蔵庫	9：00～17：00	18～24℃	50～60%
北収蔵庫		9：00～17：30	14～27℃	50～60%
東収蔵庫		9：00～17：30	16～26℃	50～60%
文化財保存修理所		9：00～17：30	20～25℃	50～60%

【奈良国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度（年間）			湿度（年間）
			冬	夏	中	
なら仏像館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
青銅器館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
西新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
東新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%
地下回廊	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%

【九州国立博物館】

会場等	空調実施時間	温度（年間）	湿度（年間）
3階展覧会場	8:30～19:00	22～26℃	55±5%
4階展覧会場	7:00～21:00	22～26℃	55±5%
収蔵庫	8:40～21:30	22～24℃	材質別に50±2%、55±2%、60±2%

1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

平成29年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
画像　400件 和古書・漢籍　20,224件 洋古書　5,110件	画像　5,820件	画像　3,081件 文字　4,936件	（完了）

1-(1)-③-3 保存カルテ作成件数

【東京国立博物館】 平成29年3月31日現在

合計		1,325		
計		列品貸与時	本格修理調査時	応急修理時
		594	172	559
絵画		214	2	139
書跡		38	1	3
彫刻		19	0	5
建築		0	0	0
金工		41	1	4
刀剣		37	141	27
陶磁		41	0	23
漆工		25	1	1
染織		20	16	27
考古		41	4	2
歴史資料		12	0	54
民族資料		22	0	2
和書		15	3	10
東洋	絵画	10	0	2
	書跡	8	0	0
	彫刻	1	0	3
	金工	0	0	0
	陶磁	8	1	0
	漆工	7	0	0
	染織	3	1	19
	考古	2	1	1
	民族	0	0	2
法隆寺献納宝物		1	0	16
その他（黒田含）		29	0	219

【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】

計	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	159	96	81
絵画	79	34	5
書跡	27	15	4
彫刻	2	11	0
建築	0	0	0
金工	7	7	0
刀剣		0	0
陶磁	5	0	0
漆工	12	6	0
染織	6	1	6
考古	7	22	0
民族資料	0	0	0
歴史資料	14	0	6
和書	0	0	0
その他	0	0	60

1-(1)-③-4 本格修理件数

平成29年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
合　計		107	68 (10)	14	7	18
絵　画		18	6	4	4	4
書　跡		8	2	2	2	2
彫　刻		0	0	0	0	0
建　築		0	0	0	0	0
金　工		3	3	0	0	0
刀　剣		2	2	0	0	0
陶　磁		2	2	0	0	0
漆　工		2	1	1	0	0
染　織		27	18	3	0	6
考　古		28	23 (10)	4	1	0
歴史資料		6	0	0	0	6
和　書		2	2	0	0	0
民族資料		0	0	0	0	0
東洋	絵　画	1	1			
	書　跡	0	0			
	彫　刻	0	0			
	金　工	0	0			
	陶　磁	3	3			
	漆　工	1	1			
	染　織	1	1			
	考　古	1	1			
	民　族	0	0			
法隆寺献納宝物		0	0			
黒田記念館収蔵品		0	0			
館史資料(収蔵品外)		2	2			

※東京国立博物館(　)内は考古相互貸借経費、内数。

1-(1)-③-5 修理概況
【東京国立博物館】（68件）

〈絵画〉（6件）

1 ○列品番号 A-56
○名　　称 牧馬図屏風(ぼくばずびょうぶ)
○指　　定 重文
○指定年月 平成17年(2005)6月9日　絵第2014号
○時　　代 安土桃山時代
○年代世紀 16c
○品　　質 紙本着色
○員　　数 6曲1双
○寸 法 等 156.6×342.5 ㎝
○施工会社 ㈱岡墨光堂
○修理内容 1. 屏風装を解体する。 2. 絵具層の剥落止めを行なう。 3. 表打ちを行ない、画面を保護する。 4. 旧裏打紙、補紙を除去する。 5. 欠損部に補紙を、亀裂部分に補強紙をあてる。 6. 補紙に補彩を行なう。 7. 新規裏打ちを行なう。 8. 屏風下地を新調し、下地に本紙、裂、裏貼紙を貼り込む。 9. 襲木や金具を新調する。

2 ○列品番号 A-9880
○名　　称 アイヌ風俗図(あいぬふうぞくず)
○時　　代 江戸時代
○年代世紀 19c
○品　　質 紙本着色
○員　　数 2面
○寸 法 等 縦121.2横60.6㎝
○施工会社 ㈱修護
○修理内容 1. 解体する。 2. 剥落止めの後、クリーニングを行なう。 3. 本紙の破れを繕い、欠失部分には補紙を施す。 4. 旧裏打紙を除去し、新たに裏打ちを行なう。 5. 骨下地を新調し、本紙を張り込む。 6. 縁を新調し、裏面に額金具を設置する。

3 ○列品番号 A-11128
○名　　称 南蛮屏風(なんばんびょうぶ)
○時　　代 江戸時代
○年代世紀 17c
○品　　質 紙本金地着色
○員　　数 6曲1双
○寸 法 等 154.8×371.5 ㎝
○施工会社 ㈱半田九清堂
○修理内容 1. 屏風装を解体する。 2. 絵具層の剥落止めの後、クリーニングを行なう。 3. 表打ちを行ない、画面を保護し、旧裏打紙、補紙を除去する。 4. 新たに補紙、裏打ちを行なう。 5. 仮張りをした後、補紙に補彩を行なう。 6. 骨下地を新調し、下張りを行ない、裏貼紙、本紙、裂を貼り込む。 7. 新調した表装裂、襲木、金具を取り付けて、屏風装に仕立てる。

4 ○列品番号 A-12327
○名　　称 山水図
○指　　定 重文
○時　　代 室町時代
○年代世紀 15c
○品　　質 紙本墨画淡彩
○員　　数 1幅
○寸 法 等 93.9 ×34.0㎝
○施工会社 ㈱岡墨光堂
○修理内容 1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂、牙軸を修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。

5 ○列品番号 A-12435
○名　　称 柿本人麻呂像(かきのもとのひとまろぞう)
○時　　代 室町時代
○年代世紀 15c
○品　　質 絹本着色
○員　　数 1幅
○寸 法 等 75.4×38.3㎝
○施工会社 アソシエイトフェロー、国宝修理装こう師連盟関東支部
○修理内容 1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補絹を施す。描線のある旧補絹の除去については検討して進める。4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補絹部分に補彩を施す。 6. 表装裂、牙軸は再使用して、掛幅装に仕立てる。 7. 軸木、金具、紐、桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。極のみ新箱に戻す。

6 ○列品番号 A-12439
○名　　称 年中行事図屏風(ねんじゅうぎょうじずびょうぶ)
○時　　代 江戸時代
○年代世紀 17c
○品　　質 紙本金地着色
○員　　数 1幅
○寸 法 等 154.6 ×386㎝
○施工会社 アソシエイトフェロー、国宝修理装こう師連盟関東支部
○修理内容 1. 屏風装を解体する。 2. 剥落止め、表打ちを施して、旧裏打紙と旧補紙を除去する。 3. 補紙を施し、肌裏打ち、増裏打ちを行なう。 4. 仮張りをし、補紙に補彩を施す。 5. 下地を新調、本紙、裏張紙を張り込む。 6. 縁裂、尾背、縁木を新調し、屏風装に仕立てる。 7. 旧裏打紙、旧下地、旧金具などを保管する保存箱を作製する。

〈東洋絵画〉（1件）

7 ○列品番号 TA-315
○名　　称 四睡図(しすいず)
○指　　定 重文
○指定年月 昭和57年（1982）6月5日　絵第1830号

○時　　代　元時代
○年代世紀　14c
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙77.8 ×34.3cm
○施工会社　㈱岡墨光堂
○修理内容　1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂、牙軸は修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。

〈書跡〉(2件)

8　○列品番号　B-3178
○名　　称　医心方(いしんぽう)
○指　　定　国宝
○指定年月　昭和59年 (1984) 6月6日　書第2399号
○時　　代　平安時代～江戸時代
○年代世紀　12c～17c
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　30巻、1冊
○寸 法 等
○施工会社　保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー、㈱修護、㈱半田九清堂
○修理内容　1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙および旧補紙を除去するが、補筆のある旧補紙は残す。 4. 本紙の欠損部に補紙を施す。 5. 傷みの著しい巻頭などは、必要に応じて新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 6. 表紙、軸首は修理して再使用し、巻子装に仕立てる。 7. 包裂、桐製保存箱を新調する。 (平成27年度から平成28年度にかけて12巻、1冊、それ以後は年度ごとに6巻ずつ仕上げる。)

9　○列品番号　B-2404
○名　　称　熊野懐紙(くまのかいし)
○指　　定　重文
○指定年月　昭和34年 (1959) 6月27日　書第1925号
○時　　代　鎌倉時代
○年代世紀　正治2年(1200)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦29.6 横50.1
○施工会社　㈱半田九清堂
○修理内容　1. 表装を解体する。 2. 剥落止めの後、クリーニングを行なう。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行なう。 5. 表装裂、牙軸を修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。 6. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。

〈金工〉(3件)

10　○列品番号　E-15247
○名　　称　坏(つき)
○時　　代　平安時代
○年代世紀　11～12c
○品　　質　陶製
○員　　数　2個
○寸 法 等　①口径10.1 高3.3　②口径9.6 高3.3
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失箇所を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

11　○列品番号　E-15473
○名　　称　土製皿(どせいさら)
○時　　代　平安時代
○年代世紀　12c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径9.0 高1.5
○施工会社　㈱小西美術工藝社
○修理内容　1. 短側面の金銅板を黒柿板より取り外す。2. 黒柿板の内面を和李、形状を修正する。3. 取り外した金銅板の形状を修正する。4. 金銅鋲を復元し、欠失箇所に補填する。5. 必要に応じて金銅病の緩みを修正する。

12　○列品番号　E-19840
○名　　称　梅花文印櫃(ばいかもんいんびつ)
○時　　代　昭和4年(1929)
○年代世紀
○品　　質　黒柿、銅製鍍金
○員　　数　1口
○寸 法 等　幅12.1 奥行16.5 高15.8
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 接合する。 3. 補填、復元する。 4. 補彩する。

〈刀剣〉(2件)

13　○列品番号　F-19539-2
○名　　称　潤塗千段巻塗打刀(うるみぬりせんだんまきぬりのうちがたな)
○時　　代　江戸時代
○年代世紀　19c
○品　　質
○員　　数　1口
○寸 法 等　総長97.6 柄長22.3 鞘長75.4
○施工会社　㈱小西美術工藝社
○修理内容　1. 栗形を鞘の塗膜が剥離しないように取り外す。 2. 鞘の色調・光沢に合わせた角黒漆塗の瓦金をつくり、外した栗形とともに取り付ける。 3. 鞘の塗膜の剥落箇所を周囲の色調・光沢に合わせた漆で補填する。 4. 柄糸の経年状態を参考にして古色をつけた白平打の下緒を復元し取り付ける。

14 ○列品番号　F-20203
○名　　称　刀
○指　　定　重文
○時　　代　（刀身）鎌倉時代・13 世紀　（刀装）江戸～明治時代・19 世紀
○年代世紀
○品　　質　鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 65.0 反り 2.2 柄長 22.8 鞘長 70.2
○施工会社　高山一之
○修理内容　1. 白鞘を作製する。2. 原品と同様の鎺を新規作製する。3。継木(つなぎ)を作製する。

〈陶磁〉(2 件)

15 ○列品番号　G-3966
○名　　称　色絵牡丹文小皿
○時　　代　第二尚氏時代
○年代世紀　19c
○品　　質　陶製
○員　　数　2 口
○寸 法 等　①高 3.5　最大径 12.5　②高 3.5　最大径 12.3
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

16 ○列品番号　G-4218
○名　　称　大燈籠(だいとうろう)
○時　　代　明治時代
○年代世紀　明治 41 年(1908)
○品　　質　陶製
○員　　数　1 基
○寸 法 等　総高 130.0　基礎高 14.0　竿高 53.0　火袋高 66.0　傘高 47.0　宝珠高 67.0 ㎝
○施工会社　文化財修理工房明舎
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 亀裂を補強する。 3. 欠失部に補填、補彩を行なう。 4. 補強材を設置する。5. もとの位置にある土台部分をクリーニングする。
6.　もとの位置でもとの形に組み立て直す。

〈東洋陶磁〉(3 件)

17 ○列品番号　TG-346
○名　　称　緑釉温酒尊(りょくゆうおんしゅそん)
○時　　代　前漢～後漢時代
○年代世紀　前 1～2 世紀
○品　　質　陶製
○員　　数　1 合
○寸 法 等　総高 26.8　径 22.2～22.6
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 解体する(身のみ) 。 2. クリーニングする（身・蓋）。 3. 接合する(身のみ) 。 4. 欠失部分を補填、復元する（身・蓋）。 5. 補填箇所に補彩する（身・蓋）。 6. 保存箱を新調する。

18 ○列品番号　TG-973
○名　　称　五彩獅子文有蓋壺(ごさいししもんゆうがいこ)
○時　　代　清時代
○年代世紀　17～18c
○品　　質　磁製
○員　　数　1 合
○寸 法 等　総高 34.0 口径 12.0 底径 14.0（推定値）
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 接合する。 3. 欠失部分を補填、復元する。 4. 補填箇所に補彩する。 5. 保存箱（桐製、四方桟箱）を新調する。

19 ○列品番号　TG-2075
○名　　称　五彩人物文長方合子(ごさいじんぶつもんちょうほうごうす)
○時　　代　明時代
○年代世紀　万暦年間(1573～1620)
○品　　質　磁製
○員　　数　1 合
○寸 法 等　総高 10.3 長径 28.8 短径 20.0
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. 解体する 2. 旧補彩をクリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分に充填・補彩する。

〈漆工〉(1 件)

20 ○列品番号　H-4699
○名　　称　桔梗蒔絵螺鈿聖龕(ききょうまきえらでんせいがん)
○時　　代　安土桃山～江戸時代
○年代世紀　16～17c
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1 基
○寸 法 等　縦 18.3　横 15.2　厚 3.0
○施工会社　㈱小西美術工藝社
○修理内容　1. 旧修理を切削除去する。 2. 養生を行ないながらクリーニングを行なう。 3. 剥離した螺鈿や漆塗膜を、可能な限り平滑となるよう漆等を含浸させて圧着する。欠失塗膜部に補填した漆下地を、当初面と同一面になるように平滑に切削整形する。 4. 亀裂開口部の空隙に漆下地等を充填する。 5. クリーニングによって露出し脆弱化した漆塗膜を強化するため、必要に応じて漆を塗布したのち、完全に拭き取る作業を最小限行なう。漆下地による補填を行なった箇所は、周縁部との色艶をあわせるように、適宜漆を局所的に摺り重ねる。

〈東洋漆工〉(1件)

21 ○列品番号　TH-116
○名　　称　龍涛堆朱箪笥(りゅうとうついしゅたんす)
○時　　代　清時代
○年代世紀　18c
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　幅39.1　奥行19.7　高30.3
○員　　数　1基
○施工会社　㈱小西美術工藝社
○修理内容　1. 表面全体に付着した埃や汚れを落とす。 2. 堆朱層の亀裂や浮きに漆を含浸し、接着強化をはかる。 3. 剥落している堆朱片を、本来の位置に接着する。 4. 堆朱層の欠失部は復元を行なわず、錆下地による表面の強化と色合わせにとどめる。

〈染織〉(18件)

22 ○列品番号　I-337-10
○名　　称　紺地目結文縞縑平絹腰ヒ残欠(こんじめゆいもんこうけちへいけんようひざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、平絹
○員　　数　1条
○寸 法 等　26.0×11.9
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. クリーニングする。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

23 ○列品番号　I-337-11
○名　　称　淡茶地唐花文夾縑羅(うすちゃじからはなもんきょうけちのら)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、羅
○員　　数　1条
○寸 法 等　37.2×4.7
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. I-337-12とともに中性紙のウィンドウマット装にする。

24 ○列品番号　I-337-12
○名　　称　淡茶地唐花文夾縑羅(うすちゃじからはなもんきょうけちのら)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、羅
○員　　数　1枚
○寸 法 等　31.6×4.5
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. I-337-11とともに中性紙のウィンドウマット装にする。

25 ○列品番号　I-337-37
○名　　称　赤地花卉文臈縑平絹(あかじかきもんろうけちへいけん)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　40.7×14.5
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

26 ○列品番号　I-337-38
○名　　称　赤地花卉文臈縑平絹(あかじかきもんろうけちへいけん)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　36.0×25.7
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

27 ○列品番号　I-337-56
○名　　称　淡青地草花文臈縑平絹腰ヒ残欠(うすあおじそうかもんろうけちへいけんようひざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、平絹
○員　　数　1条
○寸 法 等　23.4×14.1
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

28 ○列品番号　I-337-156
○名　　称　青緑地六弁花鳥文錦(あおみどりじろくべんかちょうもんきん)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　41.0×23.3
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー

○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

29 ○列品番号　I-337-174
○名　　称　紫地花鳥連珠七宝繋文錦天蓋垂飾残欠(むらさきじかちょうれんじゅしっぽうつなぎもんきんてんがいすいしょくざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　23.1×13.1
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. I-337-175 とともに低加圧式ウィンドウマット装にする。

30 ○列品番号　I-337-175
○名　　称　淡縹地葡萄唐草文綾天蓋垂飾残欠(うすはなだじぶどうからくさもんあやてんがいすいしょくざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綾・錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　23.7×12.9
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. I-337-174 とともに低加圧式ウィンドウマット装にする。

31 ○列品番号　I-337-177
○名　　称　緑地狩猟連珠唐草円文錦(みどりじしゅりょうれんじゅからくさえんもんにしき)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　35.7×29.3
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

32 ○列品番号　I-337-219
○名　　称　黄地唐花文錦幡足垂端飾残欠(きじからはなもんきんばんそくすいたんかざりざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　天平勝宝9年 (757)
○品　　質　絹製、錦・紙
○員　　数　1枚
○寸 法 等　12.6×11.0
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. I-337-220 とともに低加圧式ウィンドウマット装にする。

33 ○列品番号　I-337-220
○名　　称　赤地唐花文錦幡足垂端飾残欠(あかじからはなもんきんばんそくすいたんかざりざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　天平勝宝9年 (757)
○品　　質　絹製、錦・紙
○員　　数　1枚
○寸 法 等　13.1×11.8
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. I-337-219 とともに低加圧式ウィンドウマット装にする。

34 ○列品番号　I-337-221
○名　　称　紫地唐花文錦幡足垂端飾残欠(むらさきじからはなもんきんばんそくすいたんかざりざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　天平勝宝9年 (757)
○品　　質　絹製 (錦)・紙製
○員　　数　1枚
○寸 法 等　12.0×11.1
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. I-337-222 とともに低加圧式ウィンドウマット装にする。

35 ○列品番号　I-337-222
○名　　称　赤地唐花文錦幡足垂端飾残欠(あかじからはなもんきんばんそくすいたんかざりざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　天平勝宝9年 (757)
○品　　質　絹製、錦・紙
○員　　数　1枚
○寸 法 等　13.0×11.7
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. I-337-223 とともに低加圧式ウィンドウマット装にする。

36 ○列品番号　I-337-223
○名　　称　緑地花鳥獣文錦幡足垂端飾残欠(みどりじかちょうじゅうもんきんばんそくすいたんかざりざんけつ)
○時　　代　奈良時代

○年代世紀　天平勝宝9年（757）
○品　　質　絹製、錦・紙
○員　　数　1枚
○寸 法 等　12.8×11.7
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. I-337-224とともに低加圧式ウィンドウマット装にする。

37 ○列品番号　I-337-224
○名　　称　白茶地花文錦幡足垂端飾残欠（しろちゃじかもんきんばんそくすいたんかざりざんけつ）
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　天平勝宝9年（757）
○品　　質　絹製、錦・紙
○員　　数　1枚
○寸 法 等　13.5×11.8
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. I-337-223とともに低加圧式ウィンドウマット装にする。

38 ○列品番号　I-2061
○名　　称　小忌衣 浅葱天鵞絨地菊水模様（おみごろも　あさぎびろーどじきくすいもよう）
○時　　代　江戸時代
○年代世紀　19c
○品　　質　天鵞絨地に切付・刺繍
○員　　数　1領
○寸 法 等　丈156.5　裄63.6
○施工会社　㈱松鶴堂
○修理内容　1. 引解（解体）にする。 2. 縫い付けによる裏打ちをする。 3. 刺繍の綴付、蛇腹状の襟の仕立て直しを行なう。

39 ○列品番号　I-4072
○名　　称　小袖 白黒紅染分綸子地熨斗藤模様（こそで しろくろべにそめわけりんずじのしふじもよう）
○指　　定　重文
○指定年月　昭和57年(1982)6月5日　工第2480号
○時　　代　江戸時代
○年代世紀　17c
○品　　質　絹製　綸子地に刺繍・絞り・摺箔
○員　　数　1領
○寸 法 等　丈140.8 裄64.0
○施工会社　㈱松鶴堂
○修理内容　1. もとの縫い目に留意しながら解体し、表裂と裏裂を分ける。 2. 糸印や穴をつまんだ部分など、後世の使用で追加された部分については、作品に支障がない範囲で除去する。 3. 白地の部分に当てる似寄りの綸子地を新調し、横切れの箇所に地模様を合わせながら裏から綸子をあてて縫い留める。 4. 肩山の切れなど、黒紅地の部分の横切れについては、似寄りの綸子地を黒紅地に染めた後、裏から当てて縫い留める。 5. 裏地を新調し、中綿を入れて、小袖の状態に戻す。

〈東洋染織〉（1件）

40 ○列品番号　TI-418-1
○名　　称　コート　濃紺ヴェルヴェット地花卉文様金銀糸刺繍（のうこんう゛ぇるう゛ぇっとじかきもんようきんぎんししゅう）
○年代世紀　19c
○品　　質　絹製ヴェルヴット地に金属糸とスパンコールで刺繍、宝石で装飾
○員　　数　1着
○寸 法 等　丈110.0　肩幅44.0　袖長56.0
○施工会社　㈱染技連
○修理内容　1. 部分的に解体する。 2. 損傷箇所に補修裂をあてて、縫いとめる。 3. 刺繍などのほつれをとめる。 4. 黄緑地の縁裂を新調して縫い合わせる。 5. 保存箱を新調する。

〈考古〉（23件）

41 ○列品番号　J-61
○名　　称　須恵器 提瓶（すえき ていへい）
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　直径5.9 残存高15.1
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 接合する。 3. 欠失部分を補填、復元する。 4. 補填箇所を補彩する。

42 ○列品番号　J-3097
○名　　称　須恵器 有蓋長頸壺（すえき ゆうがいちょうけいこ）
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1合
○寸 法 等　法量:高26 口径9 最大径14
○施工会社　繭山　隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

43 ○列品番号　J-3734
○名　　称　壺（つぼ）
○時　　代　弥生時代（中期）
○年代世紀　前2～前1c
○品　　質　土製
○員　　数　1個

○寸 法 等　口径20.5 底径5.6 器高23.8
○施工会社　繭山　隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

44 ○列品番号　J-5683
○名　　称　鉄鏃先(てつくわさき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　5～6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1個
○寸 法 等　長20 幅25 厚さ1.5
○施工会社　飛鳥工房
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 欠失部分のうち、可能な部分のみ補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

45 ○列品番号　J-6084
○名　　称　須恵器 脚付埦(すえき きゃくつきわん)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径8.9 器高8.7
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所を補彩する。

46 ○列品番号　J-6478
○名　　称　陶棺(とうかん)
○時　　代　古墳(飛鳥)時代
○年代世紀　7c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　棺身 高62.1 長172.7 幅48.5 ； 棺蓋 高23.6 幅65.1 長90.9
○施工会社　アトリエ多摩
○修理内容　1. 旧補強用セメントを除去し、解体する。 2. 旧補填部分を除去し、クリーニングする。 3. 再度接合し、欠失部分は合成樹脂で補填する。 4.補填箇所に補彩を施す。 5. 展示・保管・移動用の台座を作製する。

47 ○列品番号　J-7646
○名　　称　須恵器 広口壺(すえき ひろぐちつぼ)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径16.3 器高24.0
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所を補彩する。

48 ○列品番号　J-7671
○名　　称　土師器 広口壺(はじき ひろぐちつぼ)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　残存高22.6
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所を補彩する。

49 ○列品番号　J-9869
○名　　称　蟹目釘(かにめくぎ)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1個
○寸 法 等　長4.1、軸部径0.3、頭部径0.5
○施工会社　飛鳥工房
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩する。 3. 樹脂を含浸して、補強する。

50 ○列品番号　J-11977
○名　　称　壺形土器(つぼがたどき)
○時　　代　続縄文時代(前期)
○年代世紀　前2～前1c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高34.1 口径10.5 底径8
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 補填して復元し、外面を強化する。 3. 補填箇所に補彩する。

51 ○列品番号　J-14180
○名　　称　須恵器 提瓶(すえき ていへい)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個

○寸 法 等　口径 8.9 器高 23.5
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 欠失部分を補填、復元する。 3. 補填箇所を補彩する。

52 ○列品番号　J-14399
○名　　称　須恵器 脚付短頸壺(すえき きゃくつきたんけいこ)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　口径 8.2 器高 14.2
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 欠失部分を補填、復元する。 3. 補填箇所を補彩する。

53 ○列品番号　J-34388
○名　　称　須恵器　提瓶(すえき ていへい)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　口径 10.5 器高 24.0
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所を補彩する。

54 ○列品番号　J-34391
○名　　称　刀子(とうす)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　長 13.0、刀身部幅 1.7、棟部幅 0.6、茎部長 5.4
○施工会社　飛鳥工房
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩する。 3. 樹脂含浸して、補強する。

55 ○列品番号　J-34392
○名　　称　刀子(とうす)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　残存長 10.7、刀身部幅 1.5、棟部幅 0.6、茎部残存長 3.9
○施工会社　飛鳥工房
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩する。 3. 接合する 4. 樹脂含浸して、補強する。 5. 接合部分を補填し、補填箇所を補彩する。

56 ○列品番号　J-34947
○名　　称　人面付壺形土器(じんめんつきつぼがたどき)
○時　　代　弥生時代(中期)
○年代世紀　前 2～前 1c
○品　　質　土製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　現存高 68.4 口径 14.3
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

57 ○列品番号　J-34961
○名　　称　壺形土器(つぼがたどき)
○時　　代　弥生時代(中期)
○年代世紀　前 2～前 1 世紀
○品　　質　土製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 19.7 底径 8.2
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

58 ○列品番号　J-36697
○名　　称　埴輪　桂甲の武人(こくほう　はにわ　けいこうのぶじん)
○指　　定　国宝
○指定年月　昭和 49 年 (1974) 6 月 8 日　考第 35 号
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　土製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 130.5　最大幅 39.5
○施工会社　繭山　隆司
○修理内容　1. 修理前調査を行なう。 2. 旧接合部分を外し、全体を解体する。 3. 残存する赤色等顔料を残しながら旧接合部分の石膏や汚れを洗浄する。 4. オリジナルの断片を新規に接合する。 5. 欠失部に補填を行なう。 6. 新規補填箇所に補彩を行なう。

59 ○列品番号　J-37240
○名　　称　青白磁合子(せいはくじごうす)
○時　　代　平安時代

○年代世紀　12c
○品　　質　磁製
○員　　数　1合
○寸 法 等　蓋 口径4.2 高1.3 ; 身 口径4.2 高
○施工会社　繭山　隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

60 ○列品番号　J-37834
○名　　称　深鉢形土器(ふかばちがたどき)
○時　　代　縄文時代(中期)
○年代世紀　前3000～前2000年
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径51.5 器高66.0
○施工会社　繭山　隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

61 ○列品番号　J-38857-4
○名　　称　土師器 小型坩形土器(はじき こがたかんがたどき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　3～4c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径11.5 高5.5
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

62 ○列品番号　J-39038
○名　　称　銅鐸(どうたく)
○時　　代　弥生時代(後期)
○年代世紀　1～3c
○品　　質　青銅製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高86.5 舞径20.8×18.5 裾径(現存部)34.0×32.0
○施工会社　公益財団法人　元興寺文化財研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 津市教育委員会所蔵の同一個体破片を三次元計測して模造した破片を接合する。 5. 欠損した箇所を補填・復元する。 6. 補填箇所に彩色する。

63 ○列品番号　J-39374
○名　　称　漆塗籠棺残片(うるしぬりかごかんざんぺん)
○時　　代　古墳(飛鳥)時代
○年代世紀　7c
○品　　質　籠製漆塗
○員　　数　1括
○寸 法 等　厚1、桟部約1.5
○施工会社　高妻洋成
○修理内容　1. 構造調査、成分分析を行なう。 2. 樹脂含浸・強化・乾燥を行なう。 3. 表面を強化する。

〈東洋考古〉(1件)

64 ○列品番号　TJ-4978
○名　　称　緑釉鳥(りょくゆうとり)
○時　　代　楽浪
○年代世紀　1～3c
○品　　質　陶器
○員　　数　1個
○寸 法 等　高9.8 長さ14.8 幅5.2
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. 接合部分を解体する。 2. 旧補彩部分を除去し、全体をクリーニングする。 3. 再度接合する。 4. 欠失部分に充填、補彩する。

〈和書〉(2件)

65 ○列品番号　QA-4381
○名　　称　信濃国図(しなののくにず)
○時　　代　江戸時代
○年代世紀　19c写
○品　　質　紙本着色
○員　　数　1鋪
○寸 法 等　本紙 縦141.4 横203.8
○施工会社　㈲山口墨仁堂
○修理内容　1.本紙の剥落止めを行った後、裏打ち紙を除去する。　2.本紙の紙質に合わせた補修紙を作成し、欠損箇所に補紙を施す。　3.美濃紙にて裏打ちを行う。　4.表紙は補修して再使用する。　5.もとの折り目で畳むと負担がかかるため、最後の1回の折りはなしとした。表紙を取り付け、折り畳み装に仕立てる。

66 ○列品番号　QA-4382
○名　　称　備前国図(びぜんのくにず)
○時　　代　江戸時代
○年代世紀　19c
○品　　質　着色、折仕立
○員　　数　1鋪
○寸 法 等　縦187.2 横194.3
○施工会社　㈱墨仁堂
○修理内容　1. 本紙の剥落止めを行ない、裏打紙を除去する。 2. 本紙の紙質に合わせた補修紙を作製し、欠失箇所に補紙を施す。 3. 新規裏打ちを行ない、表紙を補修して再使用する。 4. もとの折り目で畳み、表紙を取り付ける。

〈館史資料〉（2 件）

67　○列品番号　館史資料-680
○名　　称　重要雑録　明治二十七～二十九年（じゅうようざつろく　めいじにじゅうしちからにじゅうくねん）
○時　　代　明治 27～29 年（1894～96）
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 冊
○寸 法 等　縦 27.5 横 18.6
○施工会社　㈲東京修復保存センター
○修理内容　1.冊子本を解装する。　2.各頁ごとに折れや皺をのばす。　3.欠失部分に漉き嵌めにて補紙を施す。　4.表紙は新調し、題箋、ラベルなどは再使用する。　5.封筒や付箋は、補紙などを施し、もとの場所に貼り付ける。6.　冊子本に仕立てる。

68　○列品番号　館史資料-681
○名　　称　重要雑録　明治三十～三十二年（じゅうようざつろく　めいじさんじゅうからさんじゅうにねん）
○時　　代　明治 30～32 年（1897～99）
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 冊
○寸 法 等　縦 27.5 横 18.6
○施工会社　㈲東京修復保存センター
○修理内容　1.冊子本を解装する。　2.各頁ごとに折れや皺をのばす。　3.欠失部分に漉き嵌めにて補紙を施す。　4.表紙は新調し、題箋、ラベルなどは再使用する。　5.封筒や付箋は、補紙などを施し、もとの場所に貼り付ける。6.　冊子本に仕立てる。

【京都国立博物館】（14件）

＜絵画＞（4 件）

1　○名　　称　維摩居士像
○指　　定　重要文化財
○時　　代　中国・南宋　13 世紀
○品　　質　絹本墨画
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 89.0㎝　横 51.3㎝
○施工会社　株式会社光影堂
○修理内容　・修理前に写真撮影を行い、現状を調査する。　・本紙と表装裂地を取り外し、裏打紙を除去する。・本紙の汚れを除去する。　・肌裏紙を除去し、新調する。・折れている箇所などに折れ伏せを入れる。・肌裏紙を除去し、新調する。・折れている箇所などに折れ伏せを入れる。・本紙と表装裂地を付廻す。・総裏を打ち、仮張りして十分に乾燥させる。・太巻添軸、二重箱を新調し、包裂に包み収納する。・修理後の写真撮影を行い、修理報告書を作成する。

2　○名　　称　山水図　原在中筆
○指　　定　未指定
○時　　代　文政 3 年（1820）
○品　　質　紙本淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 39.7㎝　横 75.2㎝
○施工会社　株式会社光影堂
○修理内容　・解体修理により、肌裏紙を除去。新たに肌裏打を施す。・濾過水にて本紙の汚れを除去する。・表装裂地を新調する。軸端は木軸とする。・太巻とし、桐箱を新調する。

3　○名　　称　仏涅槃図
○時　　代　平安～鎌倉時代（12～13 世紀）
○品　　質　絹本著色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 99㎝、横 67.6 ㎝　表具 縦 194.0 ㎝ 横 89.8 ㎝
○施工会社
○修理内容　・剥落止めとクリーニングを行い、露出した裏彩色に表補絹を行う。・乾式肌上法により本紙にあてられた肌裏紙を除去し、補絹を行う。・肌裏を打ち、表から補絹箇所に地色あわせの補彩を行う。・増裏を打ち、折伏を入れる。・本紙の色調に合う表装裂を新調する。（金軸再利用）・本紙と表装裂地の付廻しをおこなう。・中裏と総裏を入れ、仮張りの状態で長期間乾燥させる。・表装に仕立てる。・修理過程の記録を残し、報告書を作成する。・修理年度は 2 カ年とする。・箱は新調しない。

4　○名　　称　軍装行列図
○時　　代　明治 10 年前後
○品　　質　紙本淡彩
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 63.9㎝　横 139㎝
○施工会社　株式会社宇佐美修徳堂
○修理内容　・調査を行う。（採寸、修理前後の調査、撮影）・旧裏打ち紙を除去する。本紙を間接洗浄する・虫損痕などの損傷箇所には似寄の和紙で繕いを行う。・本紙を薄美濃紙で裏打ち（肌裏打ち）を行う。・本紙の裏打ち紙は上下共役 1 分残す。・巻頭紙、巻末紙を付ける。・本紙に厚みを付ける為に美栖紙で裏打ち（増裏打ち）を行う　・巻子装に仕立てる。・中性紙の箱をつくり納める。

＜書跡＞（2 件）

5　○名　　称　絹本著色桜図　土佐光起筆（国宝一品経懐紙付属品）
○時　　代　江戸時代（17 世紀）
○品　　質　絹本著色
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 45㎝　横 60.4㎝
○施工会社　株式会社光影堂
○修理内容　・乾燥した状態で本紙表面の汚れを除去する。・旧肌裏紙以外の裏打紙を除去する。・濾過水を用い、本紙の汚れを除去する。・膠水溶液にて、絵具層の剥落止を行う。・本紙の旧肌裏紙を除去する。・小麦澱粉糊にて肌裏打を施す。・古糊を用い、一層目の増裏打を施す。・将来折れの発生が懸念される箇所に、必要に応じて折れ伏せを入れる。・古糊を用い、二層目の増裏打を施す。・本紙と表装裂地を大和三段表装の形に付廻す。・古糊を用い、中裏打を施す。・古糊を用いて総裏を打ち、仮

張りして取り付け、仕上げる。・桐太巻軸、桐屋郎箱、四方帙を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。

6　○名　　称　重要文化財　大手鑑（八十葉）
○時　　代　奈良～室町時代（8～16 世紀）
○品　　質　両面折帖装
○員　　数　1 帖
○寸 法 等　縦 44.6㎝、横 60.8㎝
○施工会社　株式会社松鶴堂
○修理内容　・修理前に本紙現状の写真撮影を行い、本紙表面及び損傷状況、装丁の調査・記録を行う。・墨、朱、金銀泥、顔料等の耐久性を確認し、必要に応じて膠水による剥落止めを施す。・各本紙を画帖本体から取り外し、現在の肌裏紙を除去する。・旧補修紙等を取り除く。・各本紙の損傷状況に応じてクリーニングを行い、経年による酸化物等の汚れを除去する。・解装後に本紙の材質、折目痕等の痕跡、裏面の状況等に応じて本紙補修を施す。・本紙に美濃紙による肌裏打ちを施し、仮張り乾燥を行う。鳥の子紙を貼り合わせて画帖台紙を作製する。画帖台紙に本紙を貼り込む。・二つ折りにした画帖台紙の一面を貼り合わせ、互い違いに開くように連結する。・かい合う本紙同紙の擦れを軽減するため、台紙のノドを除く三方に覆輪を取り付ける。・見返しの金箔台紙を再用する。・新たに表紙を作製する。表紙裂は金襴にて新調し、金具は現在のものを再用する。・画帖台紙に見返し及び表紙を取付け、元通りの画帖仕立てとする。・桐製の保存箱及び包裂を新調し、画帖を収納する。・修理後に写真撮影を行う。・修理報告書を作成する。
（28 年度より 4 ヶ年事業）

＜漆工＞（1 件）

7　○名　　称　黒漆雲龍螺鈿琵琶
○時　　代　琉球　17 世紀
○品　　質　木造、漆塗、蒔絵、螺鈿、金銅製金具
○員　　数　1 基
○寸 法 等　全長 82.5㎝　幅 32㎝　海老尾高さ 21.6㎝
○施工会社　北村繁
○修理内容　・修理前の写真撮影を行う。・作業中に剥落の恐れがある螺鈿や漆塗膜を和紙片で養生する。・クリーニングを行う。　・剥離した螺鈿や漆塗膜を圧着する。　・漆塗の表面を漆固めで強化する。・螺鈿の欠失部の周囲は際錆を施す。・象牙製の覆手と細い柱は膠や麦漆などで所定の位置に接着する。・浮き上がった捍撥の皮を可能な範囲で平滑になるように接着する。・槽の覆輪を確認し、必要に応じて補強する。・修理後の写真撮影を行う。
（28 年度より 2 ヶ年事業）

＜染織＞（3 件）

8　○名　　称　船越広東
○時　　代　中国または東南アジア　16-17 世紀
○品　　質　絹
○員　　数　1 裂
○寸 法 等　縦 70㎝　横 55.1㎝
○施工会社　株式会社　染技連
○修理内容　・間接的に水分を与えながら、折り皺をのばすとともに、作品のクリーニングを行う。・作品を広げたまま中性紙製の紙管に巻く形に改装して折り皺を解消し、作品への安全性を確認した布でくるむ。・旧畳紙は紙管の中に納める形を基本に、作品とともに保存できる形態とする。・収蔵庫内で確認しやすい場所に作品番号および名称を記す。

9　○名　　称　笹蔓緞子
○時　　代　中国・明　15 世紀
○品　　質　絹
○員　　数　1 裂
○寸 法 等　縦 24㎝　横 18.5㎝
○施工会社　株式会社　染技連
○修理内容　・作品および名称小札を台紙および表紙から取り外す。・間接的に水分を与えながら、作品のクリーニングを行う。・本作品を収納する中性紙製の新しい台紙に取り替える。台紙は作品部分に圧力がかからない構造とし、旧畳紙・名称小札をともに収納できる形状とする。・収蔵庫内で確認しやすい場所に作品番号および名称を記す。

10　○名　　称　日野広東
○時　　代　インド・ムガール　16-17 世紀
○品　　質　絹・木綿
○員　　数　1 裂
○寸 法 等　縦 27.5㎝　横 20.2㎝
○施工会社　株式会社　染技連
○修理内容　・作品および旧畳紙・名称小札を台紙および表紙から取り外す。・間接的に水分を与えながら、作品のクリーニングを行う。・生地端のほつれに、部分的な補強裏打ちを行う。・本作品のみを収納する中性紙製の新しい台紙に取り替える。台紙は作品部分に圧力がかからない構造とし、旧畳紙・名称小札をともに収納できる形状とする。・収蔵庫内で確認しやすい場所に作品番号および名称を記す。

＜考古＞（4 件）

11　○名　　称　丹波南桑田郡鹿谷村発掘古刀轡祝瓮撮本（附属品）
○時　　代　明治 14 年
○品　　質　紙本
○員　　数　3 点
○寸 法 等　①縦 24.5 cm 横 33.3 cm ②縦 24.5 cm 横 33.4 cm ③縦 26.0 cm 横 37.0 cm
○施工会社　株式会社宇佐美修徳堂
○修理内容　・調査を行う。（採寸、修理前後の調査、撮影）本紙を間接洗浄する。・各本紙の周囲には楮紙にて「手紙」を付ける。巻頭紙、巻末紙を付けて、各本紙の左右の間隔は約８分あける。・虫損痕などの損傷箇所には似寄の和紙で繕いを行う。・本紙を薄美濃紙で裏打ちを行う。・本紙に厚みを加えるために美栖紙で裏打ちを行う。本紙と表紙を組み立てる。・巻子装に仕立てる。・中性紙の箱をつくって納める。

12　○名　　称　隼人石拓本
○時　　代　原品：奈良時代 採拓：昭和時代
○品　　質　紙本墨
○員　　数　2 枚
○寸 法 等　作品①縦 111.5 cm 横 47.8 cm　作品②縦 92.5 cm 横 37.3 cm
○施工会社　株式会社宇佐美修徳堂
○修理内容　・調査を行う。（採寸、修理前後の調査、撮影）本紙を間接洗浄する。・作品①のみ軸装に仕立てる。・作品②は、美濃紙で裏打ち（２回）を行う。

13　○名　　称　唐招提寺鴟尾銘拓本
　○時　　代　原品：奈良時代 採拓：昭和時代
　○品　　質　紙本墨
　○員　　数　1枚
　○寸 法 等　縦69㎝　横32.4㎝
　○施工会社　株式会社宇佐美修徳堂
　○修理内容　調査を行う。(採寸、修理前後の調査、撮影）本紙を間接洗浄する。本紙は、美濃紙で裏打ち（２回）を行う。

14　○名　　称　元明天皇陵石碑拓本
　○時　　代　原品：奈良時代 採拓：昭和時代
　○品　　質　紙本墨
　○員　　数　1枚
　○寸 法 等　縦31.5㎝　横35.2㎝
　○施工会社　株式会社宇佐美修徳堂
　○修理内容　・調査を行う。(採寸、修理前後の調査、撮影）本紙を間接洗浄する。・本紙は、美濃紙で裏打ち（２回）を行う。

【奈良国立博物館】(7件)

＜絵画＞(4件)

1　○名　　称　絹本著色山越阿弥陀図（けんぽんちゃくしょくやまごしあみだず）
　○員　　数　1幅
　○時　　代　鎌倉時代　14世紀
　○品　　質　絹本著色
　○寸 法 等　縦146.9㎝　横94.3㎝
　○施工会社　(株)文化財保存
　○修理内容　解体修理。表装を解体し、裏打紙を取り替える本格修理を行う。過去の修理や損傷の状態について詳細な損傷図を作成し、旧補絹の除去及び再使用については修理過程で綿密に検討する。軸装を解体の上、クリーニングを施し、剥落止めを行う。表打ちをし、可能な範囲で旧肌裏紙、旧補絹を除去。新たな補絹、肌裏紙を施し、折れ伏せを行う。軸首は再使用、表装裂、太巻、印籠蓋箱、四方帙は新調。(継続3か年事業のうちの第3年目）

2　○名　　称　絹本著色釈迦十六善神像（けんぽんちゃくしょくしゃかじゅうろくぜんじんぞう）
　○員　　数　1幅
　○時　　代　鎌倉時代　13世紀
　○品　　質　絹本著色
　○寸 法 等　縦176.5㎝　横122.4㎝
　○施工会社　(株)文化財保存
　○修理内容　解体修理。本紙料絹の欠失、強い横折れ、裏打紙の劣化などの構造的な不具合を改善し、画面の鑑賞性の向上と本紙の柔軟性回復を目的として、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。本紙処置を行う前に、顕微鏡等を用いて入念な調査を実施し、デジタル画像データを用いた詳細な損傷図を作成。濾過水を噴霧して吸取紙に汚れを吸収させるクリーニングを施す。旧肌裏紙の除去に際しては乾式肌上げ法を採用する。膠着力の低下した絵具層に、膠などの接着剤を用いて剥落止めの処置を行う。旧補絹は全て除去して、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。新調した裏打紙をあて、折れを軽減するために折れ伏せを施す。表装裂・上下軸木・啄木は新調し、軸首は歪みを調整のうえ再使用。桐太巻添軸・桐印籠箱・裂貼四方帙を新調し、包裂に包んで納品。修理前中後の記録を整理し、報告書を作成する。(継続3か年事業のうちの第1年目）

3　○名　　称　絹本著色玄奘三蔵像（けんぽんちゃくしょくげんじょうさんぞうぞう）
　○員　　数　1幅
　○時　　代　鎌倉時代　13世紀
　○品　　質　絹本著色
　○寸 法 等　縦142.4㎝　横55.5㎝
　○施工会社　(株)文化財保存
　○修理内容　解体修理。本紙料絹の欠失や強い横折れなどの構造的な不具合を改善し、画面の鑑賞性の向上と軸装の柔軟性回復を目的として、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。本紙処置を行う前に、顕微鏡等を用いて入念な調査を実施し、デジタル画像データを用いた詳細な損傷図を作成。濾過水を噴霧して吸取紙に汚れを吸収させるクリーニングを施す。旧肌裏紙の除去に際しては乾式肌上げ法を採用する。膠着力の低下した絵具層に、膠などの接着剤を用いて剥落止めの処置を行う。旧補絹は全て除去して、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。新調した裏打紙をあて、折れを軽減するために折れ伏せを施す。表装は全て新調。桐太巻添軸・桐印籠箱・裂貼四方帙を新調し、包裂に包んで納品。修理前中後の記録を整理し、報告書を作成する。(継続2か年事業のうちの第1年目）

4　○名　　称　絹本著色明空法師像（けんぽんちゃくしょくみょうくうほうしぞう）
　○指　　定　重要文化財
　○員　　数　1幅
　○時　　代　鎌倉時代　13世紀
　○品　　質　絹本著色
　○寸 法 等　縦168.5㎝　横100.2㎝
　○施工会社　(株)文化財保存
　○修理内容　解体修理。本紙料絹の欠失や折れ、裏打紙の劣化などの構造的な不具合を改善するために、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。欠失箇所の周囲を中心に認められる塗布物については、合成樹脂である可能性があり、事前に十分な調査を行った上で除去方法を検討する。表装解体後、濾過水の噴霧によるクリーニングを施し、乾式肌上げ法によって旧肌裏紙を除去。膠着力の低下した絵具層に、膠などの接着剤を用いて剥落止めを行う。旧補絹は全て除去して、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。横折れを軽減するために折れ伏せを施し、新たに裏打紙をあてる。表装裂は再使用して二段仏表具の形に付け廻し、軸首・鐶も再使用。上下軸・啄木は新調。径を太くした桐製太巻添軸を新調し、二重箱は再使用とする。(継続2ヶ年事業のうちの第2年目）

＜書跡＞(2件)

5　○名　　称　神泉苑請雨経法道場図（しんせんえんしょううきょうほうどうじょうず）
　○指　　定　重要文化財
　○員　　数　1幅
　○時　　代　鎌倉時代　13世紀
　○品　　質　紙本墨書画淡彩
　○寸 法 等　縦139.8㎝　横86.1㎝
　○施工会社　(株)文化財保存
　○修理内容　解体修理。1.軸装を解体し、肌裏紙以外の裏打紙を取り外す。2.本紙表面の埃や付着物を除去し、濾過水を用いて汚れを溶かし出したうえで、剥落止めを施し、肌裏紙および旧補修紙を除去する。3.本紙のみになった状態で、採寸、継ぎ直し箇所の確認、折り畳み痕の記録、写真撮影、紙質調査など、入念な調査と記録を実施する。4.新たな補紙で欠失箇所を補うとともに、旧修理時にずれた料紙を正しく継ぎ直す。5.肌裏紙と増裏紙を打った後、必要と判断される箇所には折れ伏せを施す。6.本紙裏面の墨書・朱印については、表装後には見えなくなるため、十分な現状記録をするとともに、裏打ち方法にも工夫を施す。7.表装裂は新調する（料紙

のずれを正すと現在の裂が合わなくなるため)。8.中裏打ち、総裏打ちを施し、補修紙を当てた箇所に補彩する。9.軸端は再使用し、軸木、鐶、掛緒は新調する。保存上の観点から太巻添軸を作成し、桐箱と裂貼四方帙、それに包裂も新たに作成する。(1ヶ年事業)

6　○名　　称　法華経（色紙経）（ほけきょう〔しきしきょう〕）
　○指　　定　重要文化財
　○員　　数　8巻
　○時　　代　平安時代　12世紀
　○品　　質　色紙墨書
　○寸 法 等　（巻第一）縦24.8㎝　長922.8㎝　（巻第二）縦24.8㎝　長1078.5㎝　（巻第三）縦24.8㎝　長1016.2㎝　（巻第四）縦24.8㎝　長884.9㎝　（巻第五）24.8㎝　長961.1㎝　（巻第六）24.8㎝　長935.3㎝　（巻第七）24.8㎝　長868.1㎝　（巻第八）縦24.8㎝　長764.3㎝
　○施工会社　(株)文化財保存
　○修理内容　解体修理。事前調査を行った後、全体を解体する。旧補紙は除去し、その糊跡についても本紙に負担のない範囲で除去する。本紙表面に付着するほこりなど汚れも除去する。水濡れによる汚れは、直接水分を与えず、染色に影響のない範囲で間接的に湿り気を与え軽減させる。暴れ・折れ・皺等にも直接水分を与えず、間接的に湿りを与えて伸ばしプレス乾燥させ、修整する。強い折れには、適宜折れ伏せを施す。紙質調査を行った上で、適切な補修紙を作成し、欠失箇所を補填する。金泥・墨書・朱の状態を確認し、必要に応じ膠水溶液で剥落止めを施す。表紙・見返しの損傷箇所も補修紙により補填し、再利用する。八双・巻緒・軸首・軸木は可能な限り再利用するが、解体後不具合があった場合は新調を検討する。軸付紙は新調し、巻子装に仕立てる。包裂は新調する。保存箱は桐桟蓋二段重ねの中箱と桐台指外箱を新調する。(継続3ヶ年事業のうちの第2年目)

＜考古＞(1件)

7　○名　　称　三角縁三神三獣鏡（奈良県佐味田宝塚古墳出土品）（さんかくぶちさんしんさんじゅうきょう〔ならけんさみだたからづかこふんしゅつどひん〕）
　○指　　定　重要文化財
　○員　　数　1面
　○時　　代　古墳時代　4世紀
　○品　　質　青銅製　鋳造品
　○寸 法 等　径21.2㎝
　○施工会社　(公財)元興寺文化財研究所
　○修理内容　1.写真撮影、X線撮影、肉眼観察等で処理前の状態を記録。2.泥や錆、古い接着剤等を除去し、有機溶剤等による洗浄を行う。3.防錆薬剤による安定化処理および合成樹脂の減圧含浸処理を実施する。4.美観に配慮した接合、補填、成形等を行う。5.樹脂のツヤ消し、修復部の着色等の仕上げを行う。6.保管台の作成を行う。7.使用した薬剤や作業工程、各工程の期間や作業写真など、修理に関する情報を整理する。そして情報をまとめた報告書を最低3部作成し、保管台とあわせて納品する。(1ヶ年事業)

【九州国立博物館】（18件）

＜絵画＞（4件）

1　○名　　称　白衣観音図（びゃくえかんのんず）　1幅
　○所 蔵 者　九州国立博物館
　○時　　代　鎌倉時代・13-14世紀
　○品　　質　絹本墨画淡彩
　○寸 法 等　本紙：縦88.2㎝　横37.6㎝　表具：縦181.1㎝　横51.6㎝
　○施工会社　株式会社文化財保存
　○修理内容　1.本紙表面に付着している埃を柔らかい毛の筆などで払って除去する。2.上下軸を取り外し、軸装から解体する。3.膠や布海苔等の適切な材料を選択して、墨や朱印に対して剥落止めを行う。4.本紙を表装裂から取り外す。5.本紙表面から濾過水を噴霧して水溶性の汚れを除去する。6.墨や彩色、朱印の定着状況を確認し、状態に応じて自社濾過水にて1～2%に調整した膠を用いて剥落止めを行う。7.常温抽出布海苔とレーヨン紙を使用して本紙に表打ちを施す。8.筆を用いて自社濾過水にて少量の水分を与え、ピンセットを用いて繊維をほぐしながら肌裏紙を除去する。9.筆を用いて自社濾過水にて少量の水分を与え、ピンセットを用いて旧補絹の除去を行う。10.料絹の織り目と合わせた電子線劣化絹を、料絹の色調に合わせて染色して欠失箇所に補填を施す。11.薄楮紙と小麦澱粉糊を使用して肌裏打ちを行う。12.美栖紙と古糊を使用して1回目の増裏打ちを行う。13.表装裂の裏打紙を除去し、薄楮紙と小麦澱粉糊を使用して肌裏打ちを行う。14.断裂、折れが生じている箇所、今後折れを生じそうな箇所に、極細く切った楮紙の帯にて折れ伏せを施す。15.美栖紙と古糊を使用して本紙の2回目の増裏打ちと表装裂の増裏打ちを行い、仮張りをする。16.仮張りした本紙と表装裂を三段表具の形に付廻しをする。17.美栖紙と古糊を使用して中裏打ちを行い、仮張りをする。18.仮張りから外し、耳折りをする。19.宇陀紙と古糊を使用して総裏打ちを行い、表張りをして十分な乾燥期間をおく。20.補絹箇所のみに本紙の地色に合わせて補彩を施す。21.裏摺りを施して伏せ張りし、十分な乾燥期間をおく。22.軸首を再使用し、上下軸、啄木等の材料は新調して掛軸装に仕立てる。23.包裂、桐太巻添軸、桐印能箱を新調し、収納する。

2　○名　　称　山水図（さんすいず）　1巻
　○所 蔵 者　九州国立博物館
　○時　　代　室町時代・15-16世紀
　○品　　質　絹本墨画淡彩
　○寸 法 等　本紙：縦19.5㎝　横549.0㎝
　○施工会社　株式会社文化財保存
　○修理内容　1.本紙表面に付着している埃を柔らかい毛の筆などで払って除去する。2.　軸木・表紙を取り外し、巻子装を解体する。3.膠や布海苔等の適切な材料を選択して、墨や彩色に対して剥落止めを行う。4.湿式にて肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。5.本紙表面から濾過水を噴霧して水溶性の汚れを除去する。6.墨や彩色の定着状況を確認し、状態に応じて自社濾過水にて1～2%に調整した膠を用いて剥落止めを行う。7.湿式にて肌裏紙の除去を行う。この際、完全に本紙に湿りを与えるのではなく、肌裏紙の除去を丁寧かつ慎重に行う。8.筆を用いて自社濾過水にて少量の水分を与え、ピンセットを用いて旧補紙の除去を行う。9.繊維組成分析の結果をもとに本紙補修に適した補修紙を作製する。10.本紙の欠損箇所と周囲に合わせて補修紙を整形し、補紙を行う。補修紙を使用して本紙天地に足し紙を付ける。11.薄楮紙と小麦澱粉糊を使用して肌裏打ちを行う。12.美栖紙と古糊を使用して増裏打ちを行う。13.表紙見返しの裏打紙を除去し、薄楮紙と小麦澱粉糊を使用して肌裏打ちを行う。14.断裂、折れが生じている箇所、今後折れを生じそうな箇所に、極細く切った楮紙の帯にて折れ伏せを施す。15.混合紙（雁皮7：楮3）、小麦澱粉糊と高温抽出布海苔の混合糊を使用して総裏打ちを行い、表張りをして十分な乾燥期間をおく。16.補紙箇所のみに本紙の地色に合わせて補彩を施す。17.伏せ張りし、十分な乾燥期間をおく。18.本紙を継ぎ合わせる。19.軸首を再使用し、軸木・八双、紐等の材料は新調して巻子装に仕立てる。20.包裂、桐太巻添軸、桐印能箱を新調し、収納する。

3　○名　　称　山水図（さんすいず）　1幅（28年度より継続・12ヶ月計画）
　○所 蔵 者　九州国立博物館
　○時　　代　室町時代・16世紀
　○品　　質　紙本墨画
　○寸 法 等　本紙：縦85.6㎝　横31.5㎝　表具：縦167.4㎝　横43.6㎝　軸長48.4㎝
　○施工会社　株式会社文化財保存
　○修理内容　1.　本紙表面に付着している埃を柔らかい毛の筆などで払って除去する。2.上下軸を取り外し、軸装から解体する。3.膠や布海苔等の適切な材料を選択して、墨に対して剥落止めを行う。4.本紙を表装裂から取り外す。5.本紙表面から濾過水を噴霧して水溶性の汚れを除去する。6.墨の定着状況を確認し、状態に応じて自社濾過水にて1～2%に調整した膠を用いて剥落止めを行う。7.繊維組成分析の結果をもとに本紙補修に適した補修紙を作製する。8.湿式にて肌裏紙の除去を行う。この際、完全に本紙に湿りを与えるのではなく、肌裏紙の除去を丁寧かつ慎重に行う。9.本紙の欠損箇所と周囲に合わせて補修紙を整形し、補紙を行う。10.薄楮紙と小麦澱粉糊を使用して肌裏打ちを行う。11.美栖紙と古糊を使用して1回目の増裏打ちを行う。12.表装裂の裏打紙を除去し、薄楮紙と小麦澱粉糊を使用して肌裏打ちを行う。13.断裂、折れが生じている箇所、今後折れを生じそうな箇所に、極細く切った楮紙の帯にて折れ伏せを施す。14.美栖紙と古糊を使用して本紙の2

回目の増裏打ちと表装裂の増裏打ちを行い、仮張りをする。15.仮張りした本紙と表装裂を三段表具の形に付廻しをする。16.美栖紙と古糊を使用して中裏打ちを行い、仮張りをする。17.仮張りから外し、耳折りをする。18.宇陀紙と古糊を使用して総裏打ちを行い、表張りをして十分な乾燥期間をおく。19.補紙箇所のみに本紙の地色に合わせて補彩を施す。20.裏摺りを施して伏せ張りし、十分な乾燥期間をおく。21.軸首を再使用し、上下軸、啄木等の材料は新調して掛軸装に仕立てる。22.包裂、桐太巻添軸、桐印籠箱を新調し、収納する。28 年度は 1～8 を施工。

4　○名　　称　隠元隆琦像　喜多元規筆・隠元隆琦賛(いんげんりゅうきぞう　きたげんきひつ　いんげんりゅうきさん)　1 幅（27 年度より継続・18 ヶ月計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　紙本著色
○寸 法 等　縦 119.3 ㎝ 横 48.8 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、本紙料紙の情報について記録を行った後、掛軸装を解体し、少量の湿りにて肌裏紙以の旧裏打紙を除去する。2.筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、吸い取り紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。3.経年の劣化による膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている絵具層に免膠水溶液 1～3%を用い剥落止めを行う。4.最小限の湿りを裏面より与え短時間で肌裏紙の除去を行う湿式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。5.本紙欠失箇所に対して、裏面より補修を行う。6.肌裏打ち後、染色した美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所および今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。7.表装裂地は新調し、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打を行う。仮張り後、新糊と古糊を混ぜた糊にて本紙と裂地との付け廻しを行う。8.本紙と裂の付け廻し後、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻裂を用い、二段目以降は宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。9.補修箇所に補彩を施す。10.軸首は再使用し、中軸、発装、紐等を新調し軸装に仕立てる。11.桐太巻添軸を新調し、太く巻いて保存する。中箱は桐印籠箱を新調し、掛軸を納める。28 年度は 8～11 を施工。

＜書跡＞（２件）

5　○名　　称　大方広仏華厳経巻第十五(泉福寺焼経)（だいほうこうぶつけごんきょうまきだいじゅうご（せんぶくじやぎょう）　1 巻（28 年度より 2 ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　平安時代・12 世紀
○品　　質　藍紙墨書
○寸 法 等　本紙：縦 25.5 ㎝　全長 1279.1 ㎝
○施工会社　修理工房　宰匠株式会社
○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や本紙のあらゆる情報について記録を行った後、焼損部分の断片状の剥落をレーヨン紙にて保護、養生しながら展開し、料紙の継ぎ部分を外す。2.焼損によって天地小口が収縮し、中央部分との均衡が崩れたことを原因とする暴れや皺を改善し、巻子として安全に巻くために、ゴアテックス等を用いて部分ごとに水分量を調整しながら本紙に湿りを与え、プレス乾燥させ平らに整える。3.本紙の紙質、状態に合わせた補修紙を作製し本紙欠失箇所に補修を行う。焼損の著しい箇所に関しては、欠失箇所に加えて周辺の劣化が見られる部分の補強も検討する。折れなどの脆弱な箇所には必要に応じて薄楮紙などを使用した補強を行う。原則裏打ちは施さないが、巻頭の損傷の著しいものに関しては裏打ちによる補強も検討する。4.本紙の紙質、状態に合わせた補修紙を作製し本紙欠失箇所に補修を行う。5.各料紙を元通りに継ぎ直し、新調した表紙、軸巻紙、軸木、軸首、紐を取り付けて巻子装に仕立てる。6.　今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐ為に、頭切桐太巻添軸を新調し、巻子を太く巻き保存する。新調した羽二重の包裂に本紙を包み、桐屋郎箱を新調し納める。28 年度は１～3 を施工。

6　○名　　称　朱舜水追悼文稿（しゅしゅんすいついとうぶんこう）　1 巻
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　江戸時代・天知 2 年（1682）
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　本紙:縦 26.3 ㎝　横 160.0 ㎝(第 1 紙 90.0 ㎝　第 2 紙 70.0 ㎝)　表具:縦 26.3 ㎝　横 187.4 ㎝　軸長 28.4 ㎝
○施工会社　修理工房　宰匠株式会社
○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や紙のあらゆる情報について記録を行った後、本紙に負担がかからないように掛軸装を解体し、少量の湿り（湿式）にて肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。2.筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、吸取紙上に本紙を載せ、濾過水（水道水をポリプロピレン及び活性炭フィルターに通し、鉄分と塩素分を除去した水）を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。その際、現状の作品の風合いを損なわないようにするため、過度なクリーニングは行わず、必要最低限のクリーニングに留めることとする。3.膠着力の低下と、表面の擦れ等により不安定になっている墨書に、免膠水溶液 1～2%を用い、剥落止めを行う。膠水溶液の塗布は必要最低限に留め、膠による光沢などが出ないように細心の注意を払って行う。4.必要最低限の湿りを与え（湿式）、肌裏紙の除去を行う。肌裏紙・補修紙を除去した後、薄い布海苔抽出液を用いて、本紙表面を養生、固定接着する。5.本紙と同質の繊維による補修紙を自社にて作製し、新糊（小麦澱粉糊）を用いて補修を行う。本紙と補修紙の重なりによる凹凸が最小限になるように削り補修を行う。6.薄美濃紙（美濃：長谷川製）を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。7.肌裏打ち後、さらに増裏紙においても本紙の色調を整えるために天然染料を用いて染色した美栖紙（吉野：上窪製）にて古糊（新糊を 10 年間涼暗所で保管した糊）を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。さらに楮と雁皮の混合紙を用い、新糊と布海苔抽出液の混合糊にて総裏打ちを行う。本紙と同質の繊維による軸巻紙を自社にて作製し、軸首は再使用し、中軸（京都：速水製）、覆い表紙を新調し、元と同じ巻子に仕立てる。8.　今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐために、桐太巻添軸を新調し、巻子を太く巻き保存する。羽二重の包裂に包み、新調した桐屋郎箱に納入する。

＜染織＞（６件）

7　○名　　称　壁掛け（パランポア）　白地花樹文様更紗　（かげかけ（ぱらんぽあ）しろじかじゅもんようさらさ）　1 枚（27 年度より 3 ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　18-19 世紀（インド・コロマンデル海岸）
○品　　質　木綿
○寸 法 等　幅　200.0 ㎝　長さ　282.0 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.中央の縫い続きで縫いが離れている箇所は、旧線で継ぎを補足する。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。28 年度は 4 を施工

8　○名　　称　装飾布　藍地植物文様更紗（そうしょくふ　あいじしょくぶつもんようさらさ）　1 枚（27 年度より 3 ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　15-16 世紀
○品　　質　木綿
○寸 法 等　幅　99.0cm 長さ　262.0cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、生地の状態を調査する。仕立てや旧補修などはないことから、解体は行わない。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.生地整えについては、検討した上で行う。残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。4.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。5.欠損端口の補修を想定する。6.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。7.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 28 年度は 3 を施工

9 ○名　　称　装飾布　白地人物文様更紗(人形手)（そうしょくふ　しろじじんぶつもんようさらさ(にんぎょうで)）　1枚（27年度より3ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　17-18世紀　（インドネシア　スラウェシ島トラジャ伝来）
○品　　質　木綿
○寸 法 等　幅　105 ㎝ 長さ　490 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.仕立てはないため、接合および組立工程はなし。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8. 現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 28年度は3～4を施工

10 ○名　　称　サリー断片　赤地立木人物文様紋織（さりーだんぺん　あかじたちきじんぶつもんようもんおり）　1枚（27年度より3ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　19-20世紀
○品　　質　木綿、撚金糸、絹
○寸 法 等　幅　110 ㎝ 長さ　171.5 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.補修後の生地の両端は元の針穴を辿って旧状に仕立てる。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 28年度は4を施工

11 ○名　　称　サリー　白地人物ペーズリー文様紋織（さりー　しろじじんぶつぺーずりーもんようもんおり）　1枚（27年度より3ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　19-20世紀
○品　　質　木綿、金銀糸、絹、ミラー
○寸 法 等　幅　115 ㎝ 長さ　488 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.仕立てはないため、接合および組立工程はなし。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 28年度は3～4を施工

12 ○名　　称　茜地山水松鶴文更紗（あかねじさんすいまつつるもんさらさ）　1枚　（27年度より3ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　17-18世紀　（インド・コロマンデル海岸）
○品　　質　木綿
○寸 法 等　縦 312.0 ㎝　横 224.0 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.仕立てはないため、接合および組立工程はなし。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 28年度は3～4を施

＜歴史資料＞（ 6件 ）

13 ○名　　称　重要文化財 対馬宗家関係資料（つしまそうけかんけいしりょう）　18箱12巻（26年度より4ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　江戸時代・18世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　本紙　縦18.0-34.5 ㎝　横45.5-56.9 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法及び損傷状態を写真や記録に詳細に留め、修理前の調査を行った後、継を外し、巻子装を解体する。2.筆や刷毛を用いてドライクリーニングを行い、本紙表面に付着した埃等を除去する。3.墨線の調査を行い、水によるクリーニングの作業に対して危険な状態になる可能性がある墨線に対して、兎膠水溶液1～2%を用い、剥落止めを行う。4.本紙下に吸い取り紙を敷き、濾過水を本紙表面より噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。5.クリーニング後の本紙表面の調査を行い、経年変化による劣化により膠着力が低下している墨線に対して1～2%膠水溶液を用い、剥落止めを行う。6.レーヨン紙にて本紙表面の養生を行った後、最小限の湿りを裏面より与えることで肌裏紙の除去を行う湿式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。7.虫損による料紙欠失箇所に、裏面より本紙基調色に染色した本紙と同繊維の補修紙を作製し、補修を施す。表紙裂も同様に欠失箇所に似寄りの組織の平絹具引き加工を施して補絹を施す。8.本紙に薄美濃紙（染色は天然染料にて行う）を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。9.表紙裂と見返しを、新糊と布海苔の混合糊にて合わせ、仮張りし十分な乾燥期間をおく。10.折れ伏せ後、楮と雁皮の混合紙を用いて、新糊と布海苔の混合糊にて総裏打ちを行う。総裏打ち後は仮張りし、十分な乾燥期間をおく。11.表紙裂の地色を基調色とし、補絹箇所に補彩を施す。12.各料紙を継ぎ、巻末に新調の軸巻紙を取り付ける。軸木、紐は再使用し、巻子装に仕立てる。13.桐太巻添軸を新調し、巻子を太く巻き保存する。新調した包み裂に本紙を包み、中性紙箱を新調し納める。28年度は巻7～9を施工。

14 ○名　　称　大内義隆大府宣（おおうちよしたかだいふせん）1通
○所 蔵 者　福岡県立アジア文化交流センター
○時　　代　室町時代・16世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　縦 32.8㎝ 横 46.8 ㎝
○施工会社　修理工房　宰匠株式会社
○修理内容　1.本紙の状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や紙のあらゆる情報について記録を行う。2.筆や刷毛などによるドライクリーニングを行う。3.膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている墨書に対して、牛膠水溶液1～ 2%を用い、墨層の剥落止めを行う。4.DIIPS法にて本紙と同質の繊維による補修紙を自社にて製作し、本紙欠失箇所に、新糊（小麦澱粉糊）を用いて補修を行う。5.ゴアテックスを使用して、軽い湿りを入れてフラットニングし、繊維の毛羽立ちを押さえるとともに、本紙を平らな状態にする。6.平置きにすることで今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐことができ、また保存と活用を考えた上でも、折り畳みや巻きによる保存は行わず、平置きにて保存することが望ましいと考える。中性紙マット・中性紙保存箱等を新調し、畳に包んだ本

紙を平の状態にて納入する。

15 ○名　　称　進貢船図（しんこうせんず）1幅
○所 蔵 者　福岡県立アジア文化交流センター
○時　　代　江戸時代・19世紀
○品　　質　紙本著色
○寸 法 等　本紙：縦　59.5cm 横　33.8cm　表具：縦　136.7cm　横　43.4cm
○施工会社　修理工房　宰匠株式会社
○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法・損傷状態等を写真や記録に詳細に記録する。紙質検査等、料紙の様々な情報について記録を行う。上記調査後、本紙に負担がかからないように掛軸装を解体し、少量の湿り（湿式）にて肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。2.筆や刷毛等を用いてドライクリーニングを行った後、吸取紙上に本紙を載せ、漉過水（水道水をポリプロピレン及び活性炭フィルターに通し、鉄分と塩素分を除去した水）を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて、汚れの除去を行う。3. 膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている絵具層に対して、牛膠水溶液1-2%を用いて剥落止めを行う。4.肌裏除去については、間接的に湿りを与え（湿式）、最小限の湿りにて肌裏紙の除去を行う。この際、完全に本紙に湿りを与えるのではなく、シンパテックス等を用いて徐々に湿りを与え、本紙の様子を確認しながら慎重に肌裏除去を行う。5.目視では本紙欠失箇所は見られないが、本紙の周囲に対し、本紙と同質の繊維による補修紙を自社にて製作し、新糊（小麦澱粉糊）を用いて補紙を行う。

16 ○名　　称　自首里王城至那覇港之図（しゅりおうじょうよりなはこうにいたるのず）　1幅
○所 蔵 者　福岡県立アジア文化交流センター
○時　　代　明治時代・19世紀
○品　　質　紙本淡彩
○寸 法 等　本紙：縦　198.5cm　横　59.3cm　表具：縦　228.6cm　横　73.6cm
○施工会社　修理工房　宰匠株式会社
○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法・損傷状態等を写真や記録に詳細に記録する。2.筆や刷毛等を用いてドライクリーニングを行った後、吸取紙上に本紙を載せ、濾過水（水道水をポリプロピレン及び活性炭フィルターに通し、鉄分と塩素分を除去した水）を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて、汚れの除去を行う。3.膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている彩色層に対して、兎膠水溶液 1-2%を用いて剥落止めを行う.4.肌裏除去については、間接的に湿りを与え（湿式）、最小限の湿りにて肌裏紙の除去を行う。5.目視では本紙欠失箇所は見られないが、本紙の周囲に対し、本紙と同質の繊維による補修紙を自社にて製作し、新糊（小麦澱粉糊）を用いて補紙を行う。6.本紙の色調に合わせ天然染料にて染色した薄美濃紙（美濃・長谷川製）を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。7.表装裂地は再使用し、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊の混合糊を用いて本紙と裂との付け廻しを行う。8.本紙と裂の付け廻し後、掛軸装全体のバランスを整えるために、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。9.補修箇所に、料紙の持っている色合い（地色）を基本とし、それに加え現在の経年変化した本紙の状態を加味した色合いに補彩を施す。10.軸首は元の木軸を再使用し、上下軸木、啄木、打込鐶等を新調し、掛軸装に仕立てる。11.今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐため、桐太巻添軸を新調し、掛軸を太く巻いて保存する。新調した羽二重の包裂に本紙を包み、桐屋野郎箱を新調し、納める。

17 ○名　　称　万国総図・民族図譜（ばんこくそうず・みんぞくずふ）　2幅
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　江戸時代・17世紀
○品　　質　紙本墨刷手彩色
○寸 法 等　【万国総図】本紙:縦128.8cm　横55.4cm　表具:縦194.5cm　横58.4cm　軸張:64.2cm　軸径:2.6cm
【民族図譜】本紙:縦128.5cm　横55.6cm　表具:縦194.5cm　横58.4cm　軸張:64.2cm　軸径:2.6cm
○施工会社　修理工房　宰匠株式会社
○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態等を写真・記録に詳細に留め、紙質検査等、料紙のさまざまな情報についても記録する。上記調査後、本紙欠落箇所周囲を養生した後、掛軸装を解体し、少量の湿りを与えて本紙周囲の表装紙を除去する。2.筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、吸取紙上に本紙を載せ、濾過水（水道水をポリプロピレン及び活性炭フィルターに通し、鉄分と塩素分を除去した水）を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。3.膠着力の低下と、表面の擦れによって不安定になっている絵具層に対して、兎膠水溶液 1～3%を用いて剥落止めを行う。4.本紙・裏打紙に間接的に湿りを与え、本紙の状態を確認しながら最小限の湿りにて旧裏打紙及び旧補修紙を除去する。5.本紙の紙質、状態に合わせた補修紙を作製し新糊（小麦澱粉糊）を用いて本紙欠失箇所に補修を行う。6.本紙の色調に合わせ天然染料にて染色した薄美濃紙（美濃：長谷川製）にて新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ち後、美栖紙（吉野：上窪製）にて古糊（新糊を10年間涼暗所で保管した糊）を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する可能性のある箇所に、細く裁断した薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。7.新調した表装裂（もしくは紙）に、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊の混合糊を用いて本紙と表装裂（紙）との付け廻しを行う。8.付け廻し後、掛軸装全体のバランスを整えるために、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻絹（京都：広信織物製）、二段目以降には宇陀紙（吉野：福西製）を用い、古糊にて総裏打ちを行う。9.新たに補填した箇所には料紙の持つ色合い（地色）を基本とし、それに加え現在の経年変化した本紙の状態を加味した色合いに補彩を施す。10.軸首（京都：速水製）は所有者と協議の上新調し、上下軸木、啄木、打込鐶等（京都：速水製）を新調し、掛軸装に仕立てる。11.今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐため、桐太巻添軸（京都：黒田製）を新調し、掛軸を太く巻いて保存する。

18 ○名　　称　重要文化財（一部）東大寺等関係文書（とうだいじとうかんけいもんじょ）　1巻3通（28年度より2ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　【巻子】平安時代・天暦8年(954)-長保4年(1002)
【一紙文書】平安時代・久安4年(1148)、鎌倉時代・宝治3年(1249)、文永8年(1271)
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　巻子:縦29.1cm 横758.6cm　久安4年文書:縦32.2cm　横52.5cm　宝治3年文書:縦34.3cm　横53.0cm　文永8年文書:縦30.8cm　横52.7cm
紙付軸:縦32.3cm　横18.8cm　軸長34.2cm
○施工会社　修理工房　宰匠株式会社
○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態等を写真・記録に詳細に留め、紙質検査等、料紙のさまざまな情報についても記録する。上記調査後、巻子は本紙継ぎ箇所に少量の湿りを与えて文書一通毎に解体する。2.膠着力の低下と、表面の擦れ等により不安定になっている墨書及び朱印に、兎膠水溶液 1～2%を用い、剥落止めを行う。3.筆や刷毛等によるドライクリーニングをおこなう。4.ゴアテックス等を用いて最小限の湿りを間接的に与え、旧補修紙の除去を行う。5.旧補修紙のないものについては、ゴアテックス等を用いて最小限の水蒸気による湿りを間接的に与え、軽い荷重をかけて乾燥させることで平らに整形する。6.各々の本紙の紙質、状態に合わせた補修紙をそれぞれ自社にて作製し、新糊（小麦澱粉糊）を用いて本紙欠失箇所に補修を行う。7.各々の本紙の紙質、状態に合わせた補修紙をそれぞれ自社にて作製し、新糊（小麦澱粉糊）を用いて本紙欠失箇所に補修を行う。8.基本的に裏打ちは施さないが、本紙料紙の劣化が著しく、本紙のみでは形態の保持が困難と判断される箇所については、薄く整形した補修紙もしくは天具帖等による薄楮紙をあてる、若しくは裏打ちを施すことで補強する。9.各本紙を元の順番に継ぎ直し、補修した軸巻き紙と接続する。軸棒は再使用するが失われたと思われる軸頭は復元しない。装丁形態については、修理内容及び過程を踏まえ、所有者と十分な協議の上、決定する。10.巻子は、今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐため桐太巻添軸を新調し、巻子を太く巻いて保存する。巻頭には覆い表紙を新調して巻き、紐でとめる。新調した羽二重の包裂に本紙を包み、桐屋郎箱を新調し、納める。一紙文書は、修理方針で述べたように、装丁によって、畳紙を新調して納め、中性紙保存箱に納入する、若しくは太巻添軸を新調し巻子とともに二幅入桐屋郎箱に納入する。　　28年度は1～6を施工。

1-(1)-③-6 文化財修理データのデータベース化件数

平成29年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
合　計		274	61	151　(4,837)	62　(814)
絵　画		112	5	86 (1,962)	21 (272)
書　跡		35	1	24 (1,081)	10 (183)
彫　刻		42	0	23 (1,310)	19 (227)
建　築		0	0	0 (15)	0 (1)
金　工		2	1	1 (2)	0 (4)
刀　剣		1	1	0 (0)	0 (0)
陶　磁		0	0	0 (1)	0 (0)
漆　工		11	1	0 (39)	10 (81)
染　織		31	25	4 (180)	2 (12)
考　古		15	14	1 (14)	0 (0)
歴史資料		10	0	10 (193)	0 (31)
和　書		2	2	0 (0)	0 (0)
民族資料		5	5	0 (3)	0 (2)
その他		2	0	2 (37)	0 (1)
東洋	絵　画	2	2		
	書　跡	0	0		
	彫　刻	0	0		
	金　工	0	0		
	陶　磁	0	0		
	漆　工	0	0		
	染　織	1	1		
	考　古	2	2		
	民　族	0	0		
法隆寺献納宝物		0	0		
黒田記念館収蔵品		0	0		
館史資料(収蔵品外)		1	1		

※ 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

※ 記載の件数は当年度新規入力件数、（　）内は当年度までの新規入力件数の累計。

※ 京都国立博物館の（　）内の記載については、24年度統計表まで、追加・更新件数を含む当年度のデータ入力の件数を記載していたが、25年度以降上記に統一している。

1-(2) 展覧事業

1-(2)-① 平常展
1-(2)-② 特別展等

1-(2)-①・②-1 来館者数推移（入館料別）（過去５ヵ年） （後述の資料に記載）◎共通資料a-①

1-(2)-①・②-2 来館者数推移（展覧会別）（過去５ヵ年） （後述の資料に記載）◎共通資料a-②

1-(2)-①・②-3 平常展・特別展・海外展 （後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-4 平常展の展示替件数 （後述の資料に記載）◎共通資料 a-③

1-(2)-①-5 平常展の展示総件数 （後述の資料に記載）◎共通資料 a-③

1-(2)-①-6 平常展来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料 e

1-(2)-①-7 特別展来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料 e

1-(2)-①-8 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置

平成29年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
100%	100%	100%	100%
142件(外国語)	50件(外国語)	73件(外国語)	46件(外国語)
142件(日本語)	50件(日本語)	73件(日本語)	46件(日本語)

パネル等（パネルと同内容の配布資料・音声ガイドを含む）
【東京国立博物館】計142件(外国語)/142件(日本語)
【東京国立博物館】計142件(外国語)/142件(日本語)
・総合文化展（特集を除く） 99件（外国語）／99件（日本語） 含国宝室
・特集 33件（外国語）／33件（日本語）
・黒田記念館 10件（外国語）／10件（日本語）

【京都国立博物館】計50件(外国語)/ 50件(日本語)
・名品ギャラリー（特集陳列等を除く） 42件（外国語）／42件（日本語）
・特集陳列「徳川家康没後四百年記念 徳川将軍家と京都の寺社-知恩院を中心に-」 1件（外国語）／1件（日本語）
・特集陳列「丹後の仏教美術」「生誕300年 与謝蕪村」 2件（外国語）／2件（日本語）
・特集陳列「生誕300年 伊藤若冲」「とりづくし-干支を愛でる-」2件（外国語）／2件（日本語）
・特集陳列「皇室の御寺 泉涌寺」 1件（外国語）／1件（日本語）
・特別公開「修理完成記念 鳥取・三佛寺の蔵王権現立像」 1件（外国語）／1件（日本語）
・特集陳列「雛まつりと人形」 1件（外国語）／1件（日本語）
※26年9月より導入した4言語（日・英・中・韓）の音声ガイドを引き続き提供した。

【奈良国立博物館】計73件(外国語)/73件(日本語)
・名品展（珠玉の仏たち） 7件（外国語）／ 7件（日本語）*1
・名品展（珠玉の仏像美術） 4件（外国語）／ 4件（日本語）
・名品展（青銅器館） 12件（外国語）／12件（日本語）
・特別陳列「和紙 ―近代和紙の誕生―」 4件（外国語）／4件（日本語）
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」 5件（外国語）／ 5件（日本語）
・特集展示「新たに修理された文化財」 6件（外国語）／ 6件（日本語）
・特別陳列「お水取り」 2件（外国語）／ 2件（日本語）
・模型展示「仏像の手の形（印相）」 9件（外国語）／ 9件（日本語）
・模型展示「仏像の制作過程」 14件（外国語）／14件（日本語）
・パネル展示「奈良国立博物館の概要」 3件（外国語）／3件（日本語）*2
・パネル展示「奈良国立博物館の歴史」 3件（外国語）／4件（日本語）*2
・パネル展示「仏像の見方」 4件（外国語）／4件（日本語）*2
*1 平成28年4月よりなら仏像館において3言語（英・中・韓）の音声ガイドを提供した。
*2 英・仏・中・韓の4カ国語を併記

【九州国立博物館】計 46 件(外国語)/46 件(日本語)
・文化交流展示（トピック展示・特別公開を除く）　40 件(外国語)/40 件(日本語)
・文化交流展示　トピック展示・特別公開等
＊3 言語（英・中・韓）音声ガイドを提供した。

うち	「火縄銃の世界」	1 件(外国語)/1 件(日本語)
	「全国高等学校考古名品展」	1 件(外国語)/1 件(日本語)
	有田焼創業 400 年記念「古伊万里 ―旧家の暮らしを彩った器―」	1 件(外国語)/1 件(日本語)
	「海の王都・原の辻遺跡と壱岐の至宝 ―東アジア諸国との交流の歴史」	1 件(外国語)/1 件(日本語)
	「きらめきで飾る―螺鈿の優品をあつめて―」	1 件(外国語)/1 件(日本語)
	新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」	1 件(外国語)/1 件(日本語)

1-(2)-③ 観覧環境の向上等

1-(2)-③-1 観覧環境に関する来館者アンケート　（後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-③-2 多言語表記に関する外国人アンケート　（後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-③-3バリアフリー施設・設備の設置状況

平成29年3月31日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
トイレ(多目的トイレ、車いす対応)	14ヵ所 （本館5、平成館2、東洋館1、法隆寺宝物館1、資料館1、黒田記念館2、表慶館2（要介添え））	8ヵ所 （平成知新館4、明治古都館1、南門施設1（乳児ベッド併設）、屋外トイレ1、文化財保存修理所1）	3ヵ所 （東新館1、地下回廊2）	7ヵ所 （本体建物）
エレベータ(手すり、押しボタン、車いす対応)	10基 （本館1、平成館1、東洋館4、法隆寺宝物館1、黒田記念館2、表慶館1）	5基 （平成知新館4） 昇降装置1基 （旧管理棟1）	4基 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、東新館1、西新館1）	2基 （本体建物）
スロープ	5ヵ所 （本館、東洋館、法隆寺宝物館、表慶館、黒田記念館）	4ヵ所 （平成知新館1、明治古都館1、南門施設1、文化財保存修理所1）	3ヵ所 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、西新館1）	1ヵ所 （通用口）
ハンディキャップ優先駐車	2台	2台	足の不自由な方に対して有	23台
車椅子	28台 （正門・正門プラザ4、本館4、東洋館2、平成館15、法隆寺宝物館2、資料館1）	22台 （検札4、平成知新館8、倉庫保管10）	15台	28台
乳幼児用設備	○ベビーカー　2台 ○ベビーシート　15ヵ所 ○ベビーチェア　12ヵ所 ○授乳室　1ヵ所	○ベビーカー　6台 ○ベビーシート　12ヵ所 ○ベビーチェア　11ヵ所 ○授乳室　2ヵ所	○ベビーシート　2ヵ所 ○ベビーキープ　1ヵ所 ○おむつ交換台　1ヵ所	○ベビーカー　11台 ○ベビーシート　15ヵ所 ○ベビーチェア　6ヵ所 ○幼児用補助便座　6ヵ所 ○授乳室　1ヵ所
自動扉	61台(多目的トイレ含む)	33台(多目的トイレ含む)	13台	19台(多目的トイレ含む)
28年度整備事項	来館者用エレベーターへ以前から要望のあった椅子を設置		視覚障害者用点字鋲の設置（なら仏像館エントランス）	乳幼児設備のある公共施設として、太宰府市「赤ちゃんの駅」事業に登録した。

1-(2)-③-4 音声ガイド実施状況

平成29年3月31日現在

東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
28年度計（台）：	177,522台	28年度計（台）：	36,584台	28年度計（台）：	42,210台	28年度計（台）：	98,845台
・特別展「生誕150年 黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」28年度期間（4.1～5.15） （全期間28.3.23～5.15：22,477台）	20,419台	・特別展 「臨済禅師1150年　白隠禅師250年遠諱記念　禅―心をかたちに―」（日本語版）	11,199台	・特別展 「国宝　信貴山縁起絵巻　朝護孫子寺と毘沙門天信仰の至宝」（日本語版・一般向け）	5,428台	・文化交流展示	11,083台
・特別展「黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」	24,689台	・特別展「没後150年　坂本龍馬」（日本語版）	10,020台	・生誕800年記念特別展「忍性－救済に捧げた生涯－」（日本語版・一般向け）	2,263台	うち英語版	3,021台
・特別展「ほほえみの御仏―二つの半跏思惟像―」	―	・名品ギャラリー		・特別展「第68回正倉院展」		うち中国語版	3,877台
・特別展「古代ギリシャ―時空を超えた旅―」	33,000台	日本語版	7,465台	日本語版・一般向け	29,995台	うち韓国語版	4,185台
・特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」	33,192台	英語版	1,293台	英語版・一般向け	174台	・特別展「始皇帝と大兵馬俑」28年度期間（4.1～6.12） （全期間28.3.15～6.12：40,813台）	34,885台
・臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念　特別展「禅―心をかたちに―」	25,407台	中国語版	6,065台	日本語版・子供向け	770台	・特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」	18,100台
・特別展「春日大社　千年の至宝」	40,815台	韓国語版	542台	・なら仏像館名品展		・特別展「京都　高山寺と明恵上人　－特別公開鳥獣戯画－」	25,258台
				（英語版）	571台	・特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」	9,519台
（参考）今年度ダウンロード件数				（中国語版）	2,893台		
・「トーハクなび」（件）				（韓国語版）	116台		
Android版	3,434件						
iOS版	7,970件						
アプリ端末貸出（日英）	1,900件						
音声ガイド貸出（中韓）	518件						
・「法隆寺宝物館30分ナビ」iOSアプリ	1,040件						

1-(3) 教育・普及活動等

1-(3)-① 教育活動の充実

1-(3)-①-1 学習機会の提供（過去5ヵ年）

平成29年3月31日現在

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
○講演会等の回数					
東京国立博物館					
講演会等　実施回数	126回	131回	127回	146回	160回
講演会等　参加者数	13,193人	15,777人	14,419人	18,080人	21,453人
①講演会	31回	30回	30回	23回	32回
	6,952人	7,184人	6,735人	6,023人	9,153人
アンケート結果	82%	84%	92%	89%	88%
（内訳）					
・月例講演会等	12回	12回	12回	12回	12回
	1,791人	1,951人	1,893人	2,369人	2,793人
アンケート結果	82%	80%	88%	94%	89%
・記念講演会	12回	11回	13回	9回	14回
	3,682人	3,368人	3,651人	3,005人	5,048人
アンケート結果	85%	88%	85%	93%	93%
・シンポジウム	—	—	—	1回	2回（3日）
	—	—	—	284人	579人
アンケート結果	—	—	—	89%	—
・テーマ別講演会	4回	6回	4回	1回	1回
	1,051人	1,709人	1,096人	365人	210人
アンケート結果	77%	84%	96%	86%	94%
・その他講演会	3回	1回	1回	0回	3回
	428人	156人	95人	0人	523人
アンケート結果	78%	83%	98%	0	92%
②列品解説（ギャラリートーク等）	90回	98回	94回	120回	125回
	5,805人	8,205人	7,326人	11,669人	11,123人
③連続講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	303人	354人	320人	352人	947人
アンケート結果	75%	95%	87%	97%	97%
④公開講座	4回	2回	2回	2回	2回
	133人	34人	38人	36人	230人
アンケート結果	94%	97%	97%	98%	100%
京都国立博物館					
講演会等　実施回数	19回	21回	36回	39回	45回
講演会等　参加者数	3,150人	2,062人	4,596人	4,845人	5,132人
①土曜講座	16回	10回	31回	32回	38回
	2,682人	1,257人	3,888人	3,721人	4,123人
アンケート結果	84%	87%	80%	83%	82%
②記念講演会	1回	1回	1回	1回	1回
	215人	190人	193人	200人	190人
アンケート結果	89%	88%	-	-	—
③夏期講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	213人	219人	206人	206人	210人
アンケート結果	92%	91%	89%	80%	94%
④社会科教員のための向上講座	1回	1回	1回	1回	1回
	40人	30人	66人	91人	69人
⑤セミナー・シンポジウム等	—	—	2回	4回	4回
	—	—	243人	627人	540人
⑥ギャラリートーク	—	8回	—	—	—
	—	366人	—	—	—
⑦ギャラリートーク	—	8回	—	—	—
	—	366人	—	—	—
奈良国立博物館					
講演会等　実施回数	29回	26回	27回	28 回	26回
講演会等　参加者数	3,454人	3,219人	3,525人	3,974人	3,518人
①特別展等講座	16回	13回	14回	15回	13回
	2,172人	1,682人	1,986人	2,123人	1,972人
アンケート結果	85%	85%	86%	79%	87%
②夏季講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	438人	587人	561人	609人	555人
アンケート結果	95%	95%	91%	95%	89%
③サンデートーク	12回	12回	12回	12回	12回
	844人	950人	978人	1,242人	991人
アンケート結果	85%	85%	87%	85%	88%
九州国立博物館					
講演会等　実施回数	102回	90回	82回	87回	77回
講演会等　参加者数	8,354人	7,276人	4,694人	6,212人	5,369人
①特別展記念講演会	5回	5回	4回	3回	3回
	966人	1,108人	980人	710人	675人
アンケート結果	—	—	—	—	-
②講演及びシンポジウム	45回	38回	26回	38回	25回
	4,918人	4,450人	2,132人	4,096人	3,293人
アンケート結果	—	—	—	—	-
③ミュージアムトーク	52回	47回	52回	46回	49回
	2,470人	1,718人	1,582人	1,406人	1,401人
○キャンパスメンバーズ					
東京国立博物館	38校	43校	44校	48校	52校
京都国立博物館	30校	29校	29校	29校	27校
奈良国立博物館	27校	26校	27校	27校	25校
九州国立博物館	24校	24校	24校	25校	25校

1-(3)-①-2 講座・講演会等の開催実績

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数 ※1	**回数計**	**160回**	**回数計**	**45回**	**回数計**	**26回**	**回数計**	**77回**
	参加者計	**21,453人**	**参加者計**	**5,132人**	**参加者計**	**3,518人**	**参加者計**	**5,369人**
	講演会	32回 9,153人	土曜講座	38回 4,123人	特別展等講座	13回 1,972人	特別展記念講演会	3回 675人
	列品解説（ギャラリートーク等）	125回 11,123人	記念講演会	1回 190人	夏季講座	1回 555人	講演及びシンポジウム	25回 3,293人
	連続講座	1回 947人	夏期講座（3日）	1回 210人	サンデートーク	12回 991人	ミュージアムトーク	49回 1,401人
	公開講座	2回 230人	社会科教員のための向上講座	1回 69人				
			セミナー・シンポジウム等	4回 540人				
	その他展示に関連するイベント	14回 2,425人	その他展示に関連するイベント	—回 —回	その他展示に関連するイベント	14回 1,261人	その他展示に関連するイベント	23回 2,701人

※1実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。（実施回数は計上している。）

【東京国立博物館】

1) 講演会　32回　9,153人

①月例講演会

12回　2,793人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	"良い"の割合
1	4月2日	中国陶磁の色と形	矢島律子（町田市立歴史博物館）	190人	2人	91.10%
2	5月21日	ヴェネツィア：1585年	小佐野重利（東京大学大学院人文社会系研究科教授）	275人	1人	85.70%
3	6月18日	中国の漆工の歴史	猪熊兼樹（出版企画室主任研究員）	157人	1人	95.40%
4	7月30日	国宝・飢鬼草紙と六道の美術	土屋貴裕（平常展調整室主任研究員）	364人	1人	97.90%
5	8月20日	夏休み 子ども質問箱　おしえて！日本の美術	瀬谷愛(保存修復室主任研究員) 三田覚之(教育普及室研究員) 勝木言一郎（教育講座室長）	110人	1人	85.70%
6	9月10日	和紙の魅力　技術記録と料紙の変遷	高橋裕次(保存修復課長)	250人	2人	83.00%
7	10月8日	留学生の日「東博における翻訳」	君波妙子（国際交流室アソシエイトフェロー）	110人	2人	63.80%
8	11月19日	小林斗盦の篆刻の世界	孫慰祖(上海博物館研究員)	319人	2人	83.80%
9	12月10日	中国の女帝と石仏	勝木言一郎（教育講座室長）	189人	2人	94.00%
10	29年1月21日	謎の青銅器、銅鐸	井上洋一(学芸企画部長)	254人	2人	97.00%
11	29年2月25日	金春流の歴史と数奇なる能面・能装束の伝来	小山弓弦葉（工芸室長）	228人	2人	93.70%
12	29年3月11日	仏教文化の東伝－中国そして日本へ－	松本伸之（副館長）	347人	2人	94.40%

②記念講演会

14回　5,048人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	"良い"の割合
1	4月16日	黒田清輝展「黒田清輝とフランス—日本近代絵画にもたらしたもの」	三浦篤(東京大学／本展ゲストキュレーター)	261人	2人	97.10%
2	4月17日	アフガニスタン展「私とアフガニスタン」	松浪健四郎(日本体育大学理事長／日本・アフガニスタン協会理事長／スポーツ史家)	199人	2人	83.10%
3	4月23日	アフガニスタン展「私とアフガニスタン」	前田耕作(アフガニスタン文化研究所長／和光大学名誉教授)	390人	2人	92.30%
4	5月28日	アフガニスタン展「世界遺産を護れ！-迫る危機をのりこえて-」	井上洋一(学芸企画部長)	287人	1人	97.40%
5	6月25日	ギリシャ展「ギリシャ美術を巡る旅　-神々と人間の出会うところ-」	芳賀京子(東北大学准教授/展覧会監修者)	328人	1人	94.70%
6	7月25日	ギリシャ展「古代ギリシャ　ナイトミュージアム」	藤村シシン(作家・古代ギリシャ研究家) 白井克也(考古室長)	371人	1人	97.60%
7	10月15日	平安の秘仏展「滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち展「滋賀・櫟野寺の仏像をめぐって」	丸山士郎（特別展室長）	362人	2人	78.50%
8	10月29日	禅—心をかたちに—展「禅の美術」	救仁郷秀明（列品管理課長）	340人	2人	91.00%

9	11月3日	禅―心をかたちに―展「白隠 VS 雪舟 達磨図を語る」	山下裕二（美術史家、明治学院大学教授） 山口晃(画家)	355人	2人	93.60%
10	11月12日	禅―心をかたちに―展「禅寺の四ツ頭茶礼」	臨済宗大本山建長寺 禅文化委員会　三笠景子（東洋室主任研究員）	380人	2人	96.10%
11	29年1月25日	春日大社展「南都楽所の演奏会①」	花山院弘匡（春日大社宮司）	680人	2人	90.10%
12	29年1月25日	春日大社展「南都楽所の演奏会②」	花山院弘匡（春日大社宮司）	380人	2人	93.50%
13	29年2月9日	春日大社展「奈良と春日大社の魅力」	花山院弘匡（春日大社宮司） さだまさし（シンガーソングライター／小説家）	350人	2人	96.70%
14	29年2月12日	春日大社展「春日の歴史と神様にささげた究極の宝」	花山院弘匡（春日大社宮司） 相川七瀬(シンガーソングライター)	365人	2人	96.60%

③シンポジウム

2回　　579人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員(人)	″良い″の割合
1	10月1日	現代のピラミッドを創る―大エジプト博物館（ＧＥＭ）の挑戦	116人	―	-%
2	29年1月28・29日	日本美術をみせる―リニューアルとリノベーション―	463人	―	

④テーマ別講演会

1回　　210人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員(人)	″良い″の割合
1	29年2月4日	書道博連携講演会「董其昌とその時代―明末清初の連綿趣味－」・鍋島稲子（台東区立書道博物館主任研究員）富田淳（企画課長）	210人	2人	94.10%

⑤その他講演会

3回　　523人

	実施日	内容	参加者数(人)	担当研究員(人)	″良い″の割合
1	4月9日	桜セミナー「絵画に見られる桜の種類を読み解く」　勝木俊雄(森林総合研究所主任研究員)	204人	2人	91.80%
2	11月9日	東大寺講演会「東大寺境内に生きる小さな生命たち～環境保全の二面性～」・狭川普文師(華厳宗管長・東大寺別當) 「大仏のが来た道を西へたどる」・勝木言一郎(教育講座室長)	285人	人	
3	3月7日	上野「文化の杜」市民大学トークセッション　TALK03「ミュージアムの展示の裏側―理解と感動を深める演出」矢野賀一(デザイン室主任研究員)鈴木仁(恩賜上野動物園教育普及係長)有賀暢迪(国立科学博物館理工学研究部研究員)	34人	人	

2)　列品解説（ギャラリートーク等）　125回　11,123人

①列品解説

52回　　5,350人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
1	4月6日	博物館でお花見を桜ギャラリートーク「日本の暮らしに咲く桜」	小山弓弦葉（工芸室長）	88人	2人
2	4月12日	保存と修理　絵画修理の現場から	瀬谷愛（保存修復室主任研究員） 平河智恵(保存修復室アソシエイトフェロー) 下田純平(保存修復室アソシエイトフェロー)	90人	2人
3	4月15日	新鮮な光で「縄文の女神」を楽しむ	木下史青（デザイン室長） 品川欣也(特別展室主任研究員)	141人	2人
4	4月19日	工芸・考古作品の修理	酒井元樹（保存修復室研究員） 野中昭美(保存修復室アソシエイトフェロー)	80人	2人
5	4月26日	篆書・隷書の展開	六人部克典(登録室アソシエイトフェロー)	93人	2人
6	5月13日	かわいさ発見！金銅仏入門	三田覚之（教育普及室研究員）	119人	1人
7	5月17日	模造された聖観音菩薩立像	鷲塚麻季（列品管理課主任研究員）	90人	1人
8	5月18日	国際博物館の日記念ガイダンス「トーハクへようこそ」	小林牧(博物館教育課長)	128人	1人
9	5月31日	東京国立博物館の七宝作品について	末兼俊彦（平常展調整室主任研究員）	149人	1人
10	6月7日	経塚出土の瓦経	井出浩正（考古室研究員）	117人	1人
11	6月28日	伊東マンショの肖像と日伊交流	瀬谷愛（保存修復室主任研究員）	120人	1人
12	7月5日	中世日本の絵画と蘇軾	救仁郷秀明(列品管理課長)	101人	1人
13	7月12日	百済の文様磚	白井克也（考古室長）	84人	1人
14	7月26日	海北塚式須恵器について	河野正訓（考古室研究員）	100人	1人
15	8月9日	海北塚古墳出土の金属製品	古谷毅(列品管理課主任研究員)	76人	1人
16	8月15日	トーハクキッズデーギャラリートーク「仏像のお話」	丸山士郎(特別展室長)	75人	1人
17	8月15日	トーハクキッズデーギャラリートーク「美術の裏側のお話」	三田覚之（教育普及室研究員）	55人	1人
18	8月15日	トーハクキッズデーギャラリートーク「動く置物のお話」	末兼俊彦(平常展調整室研究員)	50人	1人
19	8月15日	トーハクキッズデーギャラリートーク「地獄と極楽のお話」	沖松健次郎(絵画・彫刻室主任研究員)	66人	1人
20	8月23日	鎮墓獣の話　西晋から唐まで	市元塁(特別展室研究員)	64人	1人
21	8月30日	三跡・藤原行成の尊重	恵美千鶴子(150年史編纂室主任研究員)	136人	1人
22	9月6日	縄文時代の石の道具	飯田茂雄(考古室アソシエイトフェロー)	107人	2人
23	9月13日	古代キプロスの魅力	小野塚拓造（東洋室研究員）	101人	2人
24	9月27日	博物館でアジアの旅ガイドツアー「中国陶磁1000年をめぐる旅」	三笠景子（東洋室研究員）	140人	2人
25	9月28日	博物館でアジアの旅ガイドツアー「アジアをリードした中国の染織技術」	小山弓弦葉（工芸室長）	145人	2人
26	9月29日	博物館でアジアの旅ガイドツアー「悠久の青銅器と神獣ウォッチング」	市元塁（特別展室研究員）	125人	2人
27	10月4日	博物館でアジアの旅ガイドツアー「中国空想動物園」	勝木言一郎(教育講座室長)	164人	2人

28	10月5日	博物館でアジアの旅ガイドツアー「中国家具をめぐる旅」	猪熊兼樹（出版企画室主任研究員）	130人	2人
29	10月6日	博物館でアジアの旅ガイドツアー「幸せの形　-吉祥エピソード-」	富田淳（学芸企画部長）	174人	2人
30	10月18日	美術情報の調べ方について	住広昭子（博物館情報課情報資料室）	70人	2人
31	10月25日	普賢菩薩像の新図様	沖松健次郎（絵画・彫刻室主任研究員）	97人	2人
32	11月1日	長谷川等伯筆瀟湘八景図屏風	小野真由美（貸与特別観覧室主任研究員）	173人	2人
33	11月15日	インドネシアのワヤン	白井克也（考古室長）	91人	2人
34	11月18日	はじめてのトーハク	小林牧（博物館教育課長）	51人	2人
35	11月22日	歌仙絵―王朝歌人たちのおもかげ	土屋貴裕（平常展調整室主任研究員）	130人	2人
36	12月6日	南の島の暮らし	猪熊兼樹（出版企画室主任研究員）	40人	2人
37	12月13日	中国地方東部の古墳文化	河野正訓(考古室研究員)	107人	2人
38	12月20日	明治20年代の文化財調査	三輪紫都香 (登録室アソシエイトフェロー)	81人	2人
39	1月7日	古代の染織製天蓋	澤田むつ代（客員研究員）	75人	2人
40	1月24日	董其昌とその時代―明末清初の連綿趣味―	富田淳(学芸研究部長)	190人	2人
41	1月27日	陶辺を語る―中国唐、宋の青磁	三笠景子（東洋室主任研究員）	57人	2人
42	1月31日	あなたも博物館でボランティア	鈴木みどり(ボランティア室長)	33人	2人
43	2月14日	如意輪観音菩薩坐像に隠された信仰	西木政統 (絵画・彫刻室アソシエイトフェロー)	198人	2人
44	2月17日	必見！法隆寺献納宝物―金銀の輝き	松本伸之(副館長)	91人	2人
45	2月28日	東方へ伝わった天使	勝木言一郎(教育講座室長)	120人	2人
46	3月7日	博物図譜の世界	高橋裕次(保存修復課長)	132人	2人
47	3月16日	春の香り	田邊留美子 (登録室アソシエイトフェロー)	55人	2人
48	3月22日	鑑賞ガイド	勝木言一郎(教育講座室長)	58人	2人
49	3月24日	特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」	高橋裕次(保存修復課長)	45人	2人
50	3月28日	保存と修理　絵画修理の現場から	平河智恵 (保存修復室アソシエイトフェロー) 下田純平 (保存修復室アソシエイトフェロー)	103人	2人
51	3月29日	屏風に咲く桜	小野真由美（貸与特別観覧室主任研究員）	200人	2人
52	3月31日	鑑賞ガイド	小林牧(博物館教育課長)	45人	2人

②特別展関連ギャラリートーク

31回　　4,083人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
1	7月25日	古代ギリシャ－時空を超えた旅－キッズデー　ギャラリートーク「動物」・白井克也(考古室長)	130	1人
2	7月25日	古代ギリシャ－時空を超えた旅－キッズデー　ギャラリートーク「人のかたち」・白井克也(考古室長)	140	1人
3	7月25日	古代ギリシャ－時空を超えた旅－キッズデー　ギャラリートーク「古代オリンピック」・瀬谷愛(保存修復室主任研究員)	110	1人
4	7月25日	古代ギリシャ－時空を超えた旅－キッズデー　ギャラリートーク「パルテノン神殿」・瀬谷愛(保存修復室主任研究員)	75	1人
5	10月19日	禅―心をかたちに-展禅トーク・松原行樹（円覚寺派正福寺住職）	230	2人
6	10月19日	禅―心をかたちに-展写禅語・福田充徳（円覚寺宗務部員）	66	2人
7	10月19日	禅―心をかたちに-展禅トーク・松原行樹（円覚寺派正福寺住職）	262	2人
8	10月19日	禅―心をかたちに-展写禅語・福田充徳（円覚寺宗務部員）	62	2人
9	10月28日	禅―心をかたちに-展禅トーク・北折真一（妙心寺派天龍院住職）	180	2人
10	10月28日	禅―心をかたちに-展写禅語・富岡孝彰（妙心寺派円通寺）山崎正紘(興聖寺派興禅寺)	64	2人
11	10月28日	禅―心をかたちに-展禅トーク・富岡孝宗（南禅寺派梅洞寺住職）	209	2人
12	10月28日	禅―心をかたちに-展写禅語・富岡孝彰（妙心寺派円通寺）山崎正紘(興聖寺派興禅寺)	60	2人
13	10月28日	禅―心をかたちに-展禅トーク・富岡孝宗（南禅寺派梅洞寺住職）	164	2人
14	11月3日	禅―心をかたちに-展写禅語・河又宗道（南禅寺派月洲寺）津幡天青(単立海蔵院)	65	2人
15	11月3日	禅―心をかたちに-展写禅語・森昌寛(妙心寺派松泉寺副住職)	69	2人
16	11月5日	禅―心をかたちに-展禅トーク・山本文渓（大徳寺派桂徳院住職）	275	2人
17	11月5日	禅―心をかたちに-展写禅語・河又宗道（南禅寺派月洲寺）澤秀道(妙心寺派東淵寺)	66	2人
18	11月5日	尺八コンサート・一朝軒(筑前博多)	370	2人
19	11月5日	禅―心をかたちに-展写禅語・山本義寛（大徳寺派宋雲院）澤秀道(妙心寺派東淵寺)	75	2人
20	11月5日	禅―心をかたちに-展写禅語・山本義寛（大徳寺派宋雲院）	201	2人
21	11月6日	禅―心をかたちに-展坐禅会・中山宗祐（東京禅センター）向井真人(東京禅センター)亀慈廣（東京禅センター）富岡孝彰(東京禅センター)坂本太樹（東京禅センター）稲田健昌(東京禅センター)	54	人
22	11月6日	禅―心をかたちに-展坐禅会・中山宗祐（東京禅センター）向井真人(東京禅センター)亀慈廣（東京禅センター）富岡孝彰(東京禅センター)坂本太樹（東京禅センター）稲田健昌(東京禅センター)	77	人

23	11月6日	禅―心をかたちに-展坐禅会・中山宗祐（東京禅センター）向井真人（東京禅センター）亀慈廣（東京禅センター） 富岡孝彰（東京禅センター）坂本太樹（東京禅センター）稲田健昌（東京禅センター）	70	人
24	11月9日	禅―心をかたちに-展禅トーク・松原信樹（妙心寺派龍源寺住職）	144	2人
25	11月9日	禅―心をかたちに-展写禅語・津幡天青（単立海蔵院）太田宗慶（妙心寺派報恩寺）	65	2人
26	11月9日	禅―心をかたちに-展禅トーク・北折真一（妙心寺派天龍院住職）	149	2人
27	11月9日	禅―心をかたちに-展写禅語・森昌寛（妙心寺派松泉寺副住職）太田宗慶（妙心寺派報恩寺）	89	2人
28	11月24日	禅―心をかたちに-展禅トーク・笠龍桂（東学寺住職）	177	2人
29	11月24日	禅―心をかたちに-展写禅語・菅原義久（報国寺住職）	93	2人
30	11月24日	禅―心をかたちに-展禅トーク・永井宗直（満願寺住職）	217	2人
31	11月24日	禅―心をかたちに-展写禅語・岩田真哉（崇禅寺住職）	75	2人

③東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク

42回　1,690人

	実施日	回数	テーマ	氏名	参加者(人)
1	12月8日、12月11日、12月22日、29年1月8日、1月14日、1月24日	6	古代エジプトの秘密、ミイラ	権祥海	250人
2	12月10日、12月15日、29年1月7日、1月12日、1月19日、1月20日	6	下村観山「弱法師」を読み解く	下岡史奈	291人
3	12月14日、12月18日、12月21日、29年1月11日、1月18日、1月25日	6	法隆寺の押出仏	辻角香代	151人
4	29年1月5日、1月15日、1月22日、1月26日、2月2日、2月5日	6	英一蝶の『富士山図』を観よう	水谷文美	242人
5	29年1月28日、2月17日、2月21日、2月22日、3月1日、3月10日	6	奈良時代の乾漆像「日航菩薩坐像」に迫る	櫟原千寿帆	306人
6	29年1月29日、2月1日、2月8日、2月15日、2月24日、2月28日	6	アイヌの飾太刀にみる祈りの造形	石坂玲	173人
7	29年2月9日、2月11日、2月16日、2月23日、2月25日、3月2日	6	「突線鈕5式銅鐸」をじっくり見てみよう	宮澤大	277人

3)　連続講座「仏像三昧」　計1回(3日)　1回　947人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	″良い″の割合
1	10月21日	第1講「仏像入門１　如来・菩薩」 講師：西木政統（絵画・彫刻室アソシエイトフェロー） 第2講「仏像入門２　明王・天部」 講師：淺湫毅（京都国立博物館連携協力室長）	326人	2人	95.20%
	10月22日	第3講「九州の仏像―太宰府と宇佐の古代彫刻―」 講師：末吉武史（福岡市博物館学芸員） 第4講「関西の仏像―天台彫刻を中心に―」 講師：寺島典人（大津市歴史博物館学芸員）	294人	2人	97.30%
	10月23日	第5講「関東の仏像―鎌倉彫刻史と禅宗を中心に―」 講師：瀬谷貴之（神奈川県立金沢文庫主任学芸員） 第6講「東北の仏像―古代から平泉藤原氏の時代へ―」 講師：酒井昌一郎（仙台市博物館学芸員）	327人	2人	97.90%

4)　公開講座　2回　230人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	“良い”の割合
1	8月2日	博物館セミナー・教育連携事業「博物館学講座」「博物館の役割」・松本伸之(副館長)「博物館の運営」・竹之内勝典(総務課長)「博物館の情報システム」・村田良二(博物館情報室長)「特別展の仕組み」・品川欣也(特別展室主任研究員)「文化財の保存と修理」・高橋裕次(保存修復課長)「博物館の教育事業」・小林牧(博物館教育課長)	170人	1人	
2	29年3月23日	バックヤードツアー「保存と修理の現場へ行こう」(1) 講師：高橋裕次（保存修復課長）、荒木臣紀（調査分析室長）、和田浩（環境保存室長）、酒井元樹（保存修復室研究員）、瀬谷愛（保存修復室研究員）、野中昭美（保存修復室アソシエイトフェロー）、大森逸子（保存修復室事務補佐員）	60人	2人	100.00%

5) その他展示に関連する事業　14回　2,425人

	実施日	内容	会場	参加者数	担当研究員
1	5月15日	上野の山でトラめぐり	恩賜上野動物園・国立科学博物館・東京国立博物館	24人	2人

2	9月28日	シタールの演奏(1)	東洋館1室	260人	人
3	9月28日	シタールの演奏(2)	東洋館1室	180人	人
4	9月29日	博物館でアジアの旅夜YOGA 仏像と過ごすタベ(1)・渡辺美保	東洋館1室	19人	2人
5	10月4日	博物館でアジアの旅イブニングトーク「壇蜜さんと楽しむ中国美術の旅」・壇蜜　富田淳(学芸研究部長)	東洋館ミュージアムシアター	83人	2人
6	10月5日	博物館でアジアの旅博物館で初めての太極拳・谷口光子	東洋館1室	18人	2人
7	10月6日	博物館でアジアの旅夜YOGA 仏像と過ごすタベ(2)・渡辺美保	東洋館1室	19人	2人
8	10月9日	古箏と馬頭琴の演奏(1)	東洋館1室	330人	人
9	10月9日	古箏と馬頭琴の演奏(2)	東洋館1室	340人	人
10	10月10日	中国伝統芸能ショー(1)	東洋館前屋外ステージ	530人	人
11	10月10日	中国伝統芸能ショー(2)	東洋館前屋外ステージ	570人	人
12	11月26日	おとなワークショップ「篆刻体験　自分だけの印をつくろう！」	本館地下教育普及スペース	19人	5人
13	2月25日	おとなワークショップ「ひいな遊び―立雛を作ろう!―」	本館地下教育普及スペース	19人	4人
14	3月26日	桜ワークショップ（おとな）「友禅染に挑戦」	本館地下教育普及スペース	14人	3人

【京都国立博物館】

1)　土曜講座　　38回　　4,123人

特別展覧会関連などの講座

	開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	4月23日	禅画と墨蹟―近世の禅林美術―	花園大学　文学部教授　福島恒徳	120人
2	4月30日	頂相彫刻の特質	東京国立博物館　研究員　浅見龍介	92人
3	5月7日	仏師の古文書	主任研究員　羽田聡	98人
4	5月14日	喫茶の広まりと寺院	研究員　降矢哲男	182人
5	5月21日	画僧の系譜ー明兆から雪村までー	上席研究員　山本英男	172人
6	6月18日	江戸幕府と京都の寺社復興	奈良大学　文学部教授　河内将芳	147人
7	6月25日	清時代の山水図屏風について	主任研究員　呉孟晋	54人
8	7月2日	家康ゆかりの女性と知恩院 ―母・於大と千姫―	佛教大学歴史学部教授・総本山知恩院史料編纂所編纂員　今堀太逸	122人
9	7月9日	知恩院所蔵の古文書手鑑	主任研究員　羽田聡	53人
10	7月16日	御所解文様を読みとく　―きものに隠された物語―	教育室長　山川曉	68人
11	7月23日	廻船問屋の土蔵が伝える木・竹・漆の文化財	主任研究員　永島明子	40人
12	8月6日	丹後の寺社縁起	京丹後市役所商工観光部　主任　小山元孝	82人
13	8月20日	中世丹後の人と絵画―大陸の風、みやこの風―	研究員　井並林太郎	58人
14	8月27日	丹後のみほとけたち	連携協力室長　淺湫毅	126人
15	9月3日	中世陶器の魅力	研究員　降矢哲男	94人
16	9月10日	描かれた『奥の細道』―蕪村から小野竹喬まで	静岡県立美術館館長、東京大学名誉教授　芳賀徹	178人
17	9月17日	文化財の自然科学的研究と新しい技術	アソシエイトフェロー　池田素子	72人
18	9月24日	梵鐘 - 今日もお寺の鐘がなる	企画室長　伊藤信二	45人
19	10月1日	桃山の茶陶　ー懐石の器ー	九州国立博物館　副館長　伊藤嘉章	73人
20	10月15日	坂本龍馬の手紙を読む	列品管理室長　　宮川禎一	200人
21	10月22日	坂本龍馬の愛刀と幕末の刀剣事情	東京国立博物館　研究員　末兼俊彦	200人
22	10月29日	龍馬と坂本家	高知県立坂本龍馬記念館　学芸課長　前田由紀枝	169人
23	11月5日	龍馬と薩長盟約	佛教大学　歴史学部教授　青山忠正	176人
24	11月12日	幻の名陶　亀山焼	長崎市　文化観光部　出島復元整備室　学芸員山口美由紀	45人
25	11月19日	パークス事件と残された刀	列品管理室長　　宮川禎一	96人
26	11月26日	対談：林市郎右衛門と龍馬	NPO法人　京都龍馬会理事長 赤尾博章 列品管理室長　　宮川禎一	86人
27	12月17日	若冲のユーモア	研究員　福士雄也	199人
28	12月24日	博物館の国際会議とは？　ーICOM2016ミラノ大会から2019京都大会へー	教育室長　山川曉	38人
29	29年1月7日	若冲の屏風に登場する動物たち	京都市立動物園副園長　坂本英房	196人
30	29年1月14日	十二類絵巻の魅力―言葉と絵と動物たち―	研究員　井並林太郎	86人

31	29年1月21日	泉涌寺ゆかりの仏像	連携協力室長　淺湫毅	96人
32	29年1月28日	俊芿律師と泉涌寺	泉涌寺　心照殿　学芸員　西谷功	89人
33	29年2月4日	涅槃図を楽しむ	保存修理指導室長　大原　嘉豊	130人
34	29年2月11日	蔵王権現はなぜ数多く伝わるのかー三徳山と金峯山の事例からー	大阪大学大学院文学研究科教授　藤岡穣	130人
35	29年2月18日	梵鐘ー今日もお寺の鐘がなる 2	企画室長　伊藤信二	71人
36	29年2月25日	文化財の複製と教育普及	研究員　水谷亜希	65人
37	29年3月4日	雛人形の美―京の雅と江戸の粋―	吉徳資料室　室長　林直輝	105人
38	29年3月11日	万里小路宣房の法華経	主任研究員　羽田聡	70人

2)　記念講演会　　1回　　190人

	実施日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	29年4月16日	禅における＜心＞のかたち	花園大学国際禅学研究所　所長　野口善敬氏	190人

3)　夏期講座　　1回　　210人

	開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	7月27日	第1講「河鍋暁斎筆《大和美人図屏風》明治のなかの江戸」	研究員　福士雄也	210人
		第2講「モネ《睡蓮》連作と水」	実践女子大学文学部美学美術史学科教授 六人部昭典	
		第3講「狩野芳崖筆《悲母観音》近代日本画の誕生」	東京藝術大学大学美術館准教授 古田亮	
	7月28日	第1講「夢窓疎石の庭」	京都造形芸術大学歴史遺産学科教授 仲隆裕	
		見学　天龍寺・臨川寺		
	7月29日	第1講「国宝になった中国美術」	研究員 呉孟晋	
		第2講「狩野元信筆《潙山倒瓶図》―晩年期の最高傑作―」	上席研究員 山本英男	
		第3講「名品を旅する　志野茶碗の魅力」	副館長 伊藤嘉章	

4)　社会科教員のための向上講座　　1回　　69人

	開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	11月4日	講演「「坂本龍馬」について」	列品管理室長　宮川　禎一	69人
		館内実地研修　「坂本龍馬」展		

5)　セミナー・シンポジウム等　　4回　　540人

	開講日	テーマ・講師	参加者数(人)
1	4月24日	特別展覧会関連講演会　「禅と水墨画　雪舟と白隠を中心として」 講師：明治学院大学教授　山下裕二氏、臨済宗妙心寺派龍雲寺住職　細川晋輔氏	188人
2	5月4日	記念シンポジウム「日本国内における禅宗文化の受容と伝播」 講師：東京大学資料編纂所助教　川本慎自氏「禅宗寺院における典籍学習のかたち」 　成城大学文学部教授　相澤正彦氏「室町時代における水墨画の広がり―禅・文人・権力」 　京都大学大学院教授　根立研介氏「禅宗寺院彫刻と仏師―院派仏師の動向を中心に―」	120人
3	11月3日	「特別トークショー」『刀剣乱舞-ONLINE-』 講師：原作プロデューサー・小坂崇氣氏、東京国立博物館研究員・末兼俊彦氏	200人
4	11月12日	公開シンポジウム「文化財を防災から守る２：今、そこにある危機　関西地域の災害と文化財」 第1部　身近な災害　関西地域における災害の危険性 「身近な災害：関西で起こりうる災害と文化財の被害―直下型地震とこれに伴う都市火災の危険性とその対策事例―」 大窪健之（立命館大学理工学部教授・立命館大学歴史都市防災研究所長） 「木津川流域の災害―水と土砂の闘い」芝野康之（木津川市教育委員会文化財保護課） 第2部　災害と文化財　過去の経験から 「局所型地震と博物館―新潟県中越大震災の事例から―」田邊幹（新潟県立歴史博物館） 「水害から文化財を守る―和歌山県の取り組み―」藤隆宏（和歌山県立文書館） 第3部　来るべき災害への備え（座談会）	32人

6)　その他展示に関連する事業　　―回　　―人

【奈良国立博物館】

1)　特別展等講座　　13回　　1,972人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	4月23日	「後白河法皇の信仰世界―神仏との交歓―」	京都府立大学准教授　横内裕人	171人
2	5月 7日	「信貴山縁起絵巻と朝護孫子寺の毘沙門天王信仰」	学芸部教育室長　谷口耕生	194人
3	5月21日	「信貴山縁起絵巻について」	奈良県学芸統括参与　梶谷亮治	194人
4	6月18日	①「文化財修理支援業務の紹介と高知で行われた近代和紙の開発」 ②「手すき和紙の製造現場について」 ③座談会	①高知県立紙産業技術センター主任研究員 有吉正明 ②長谷川和紙工房　手すき和紙製作者　長谷川聡 ③有吉正明、長谷川聡、湯山賢一	194人

5	8月 6日	「日本仏教史上における忍性－鎌倉版マザー・テレサ」	山形大学人文学部教授　松尾剛次	194人
6	8月27日	「忍性と極楽寺の仏像」	学芸部研究員　山口隆介	155人
7	9月10日	「三つの忍性墓について」	学芸部列品室長　吉澤悟	178人
8	10月22日	「正倉院宝物の平脱・平文」	元宮内庁正倉院事務所保存課長　木村法光	112人
9	10月29日	「正倉院に納められた銭貨をめぐって」	宮内庁正倉院事務所保存課調査室研究員 細川晋太郎	119人
10	11月 3日	①「正倉と正倉院宝物」 ②「正倉院正倉整備工事の成果」 ③「奈良時代平瓦から見た正倉院正倉」 ④「平安時代の御物と御蔵」 ⑤パネルディスカッション	①宮内庁正倉院事務所長　杉本一樹 ②公益財団法人文化財建造物保存技術協会事業部参事　春日井道彦 ③九州大学総合研究博物館教授　岩永省三 ④学芸部研究員　斎木涼子 ⑤杉本一樹、春日井道彦、岩永省三、斎木涼子	197人
11	11月 5日	「正倉院の荘厳具－大幡に寄せて－」	学芸部工芸考古室長　清水健	117人
12	29年1月 5日	「奈良奉行と春日若宮祭礼」	氷室神社文化興隆財団代表理事　大宮守友	61人
13	29年2月18日	「修二会（お水取り）」	東大寺長老　筒井寛昭	86人

2)　夏季講座　第45回「律宗の歴史と美術―鑑真から忍性へ」

1回　555人

	開講日	テーマ	講師	参加者数
1	8月17日	「戒律伝来」	奈良大学教授　東野治之	555人
		「忍性の生涯」	京都橘大学学長　細川涼一	
		「忍性　―救済に捧げた生涯―　―展覧会紹介―」	学芸部列品室長　吉澤悟	
	8月18日	「泉涌寺における宋代律宗の儀礼と文化」	大正大学教授　加島勝	
		「考古学から考える叡尊・忍性・律宗集団」	情報サービス室長　岩井共二	
		「律宗の祖師像・祖師絵伝」	列品室長　吉澤悟	
	8月19日	「南都律宗の彫刻」	文化庁主任文化財調査官　奥健夫	
		「聖武天皇の受戒と正倉院宝物献納」	学芸部長　内藤栄	

3)　サンデートーク　12回　991人

	実施日	テーマ	解説者	参加者数(人)
1	4月17日	「空海の舎利信仰の源流を求めて」	学芸部長　内藤栄	149人
2	5月15日	「大峯山寺蔵王権現像と平安・鎌倉時代の金銅仏制作」	学芸部研究員　山口隆介	115人
3	6月19日	「白鳳期菩薩像にみる特異な着衣形式について」	学芸部情報サービス室長　岩井共二	76人
4	7月17日	「文化財を科学するⅢ」	学芸部保存修理指導室長　鳥越俊行	70人
5	8月21日	「再発見された平安時代の古文書二通　―民部省符と東大寺注進状案―」	学芸部企画室長　野尻忠	63人
6	9月18日	「南都絵所の仕事」	学芸部研究員　北澤菜月	99人
7	10月16日	「世界の火葬から」	学芸部列品室長　吉澤悟	88人
8	11月20日	「平安時代の宮中仏事」	学芸部研究員　斎木涼子	73人
9	12月18日	「仏像調査からわかること　その４－圓教寺奥乃院の諸尊－」	上席研究員　岩田茂樹	78人
10	29年1月8日	「海を渡った鏡」	学芸部主任研究員　中川あや	73人
11	29年2月19日	「法螺話」	学芸部工芸考古室長　清水健	62人
12	29年3月19日	「奈良県技師が生んだ名建築　仏教美術資料研究センター（旧奈良県物産陳列所）の魅力」	学芸部資料室長　宮崎幹子	45人

4)　その他展示に関連するイベント　14回　1,261人

	実施日	内容	会場	参加者
1	4月22日	朝護孫子寺の貫主による講話「毘沙門天王信仰の欲と徳」	講堂	150人
2	4月30日	親と子のワークショップ「空とぶ鉢のおはなし絵巻をつくろう！」	講堂	105人
3	5月10日	朝護孫子寺の貫主による講話「信貴山の毘沙門天王」	講堂	130人

4	5月12日	朝護孫子寺の貫主による講話「福の神様毘沙門天王」	講堂	141人
5	6月18日～6月19日	特別陳列「和紙－近代和紙の誕生－」関連イベント　「紙漉き実演」	西新館1Fピロティ	—
6	7月30日	ワークショップ「描いて飾ろう文殊菩薩」	地下回廊	69人
7	7月31日	特別展「忍性」子ども無料日イベント「きく！みる！ふれる！東征伝絵巻」	講堂	58人
8	10月23日	第68回正倉院展親子鑑賞会	講堂・展示室	152人
9	12月4日	奈良トライアングルミュージアムズ東京セミナー「冬の奈良と奈良国立博物館の楽しみ」	奈良まほろば館	60人
10	12月17日	おん祭と春日信仰の美術「茶会」	茶室・庭園・西新館南側ピロティ	62人
11	12月23日	奈良国立博物館文化財修復プレミアム・ミュージアム・ビューイング	講堂・展示室・茶室・庭園・仏教美術資料研究センター	24人
12	1月12日	文化財保存修理所特別公開	講堂・文化財保存修理所	119人
13	2月11日	『お水取り「講話」と「粥」の会』	講堂・茶室控室・展示室	37人
14	3月3日	「お水取り展鑑賞とお松明」	講堂・展示室	154人

【九州国立博物館】

1)特別展記念講演会　　3回　　675人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	7月16日	東山魁夷　自然と人、そして町「東山魁夷の生涯と芸術」	茨城県近代美術館長　尾崎正明	211人
2	10月9日	京都　高山寺と明恵上人　特別公開 鳥獣戯画「鳥獣人物戯画の謎」	学習院大学教授　佐野みどり	235人
3	29年1月21日	宗像・沖ノ島と大和朝廷「神宿る島と祈りの記憶－祭祀遺跡の発掘調査譚－」	福岡大学名誉教授　小田富士雄 国立慶州博物館館長　ユ・ビョンハ	229人

2)講演及びシンポジウム等　　25回　　3,293人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	4月15日	しっとこ九博「始皇帝と大兵馬俑」解説講座	東京国立博物館主任研究員　市元塁	78人
2	5月14日	アクロス文化学び塾 「徹底分析　始皇帝と兵馬俑」	学芸部企画課主任研究員　川村佳男	69人
3	5月15日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連講演会 「はじめての兵馬俑」	東京国立博物館主任研究員　市元塁	184人
4	6月5日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連講演会 「始皇帝の考古学」	学芸部企画課主任研究員　川村佳男	140人
5	6月19日	一般社団法人歴史と自然をまもる会設立50周年記念事業 記念講演「正倉院宝物から見た海外交流」 記念フォーラム「アジアと福岡の歴史的点描」	前宮内庁正倉院保存課、京都市芸術大学教授、佐賀大学教授　木村法光	90人
6	6月20日	平成28年度　福岡歴史観光市民大学 「書の楽しみ」	館長　島谷弘幸	110人
7	7月18日	独立行政法人 国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」 特別講演会 歴史と共に考える文化財の防災・減災 開会挨拶 基調講演「正倉院の管理について　－同じ場所で、これまでずっと－」 講演「正倉院と自然災害－宝庫修理の歴史から－」 「近衛家の歴史と文化財」 「東山御文庫と図書寮文庫－バックアップと疎開で守った資料－」 「明治維新と廃仏毀釈」 「関東大震災、第二次世界大戦時の文化財－東京国立博物館の歴史における災害－」 「歴史資料を未来につなぐということ－大名家文書と在地文書、熊本震災の経験から－」 閉会挨拶	館長　島谷弘幸 宮内庁正倉院事務所長　杉本一樹 宮内庁正倉院事務所　飯田剛彦 京都国立博物館　羽田聡 宮内庁書陵部図書課図書寮文庫 田代圭一 奈良国立博物館　野尻忠 東京国立博物館　恵美千鶴子 熊本大学・熊本大学付属永青文庫研究センター　稲葉継陽 国立文化財機構防災ネットワーク推進室長 岡田健	340人
8	8月5日	しっとこ九博 「東山魁夷　自然と人、そして町」解説講座	学芸部特任研究員　臺信祐爾	35人
9	8月6日	全国高等学校考古学フォーラム2016	参加校 埼玉県立伊奈学園総合高等学校 岐阜県立関高等学校 奈良県立橿原高等学校 福岡県立嘉穂高等学校	100人

10	8月27日	水中考古学フォーラム「世界の水中遺跡を考える」 趣旨説明 講演「オランダの水中文化財遺産保護：国際協力調査の可能性」 「日豪共有水中文化遺産：その保護と活用について」 「アジア・太平洋地域の水中遺産の保護の現状と課題」 討論「日本と世界の水中遺跡保護の現状」	学芸部長　小泉惠英 オランダ文化遺産庁海事考古学局長 Martijn Manders（マータイン マンダース） オーストラリア環境庁海事遺産局長補佐 Andrew Viduka（アンドリュー ヴィドゥーカ） グアム大学人類学部准教授 Bill Jeffery（ビル ジェフリー） 福岡県文化財保護課長　赤司善彦	45人
11	10月14日	特別公開　鳥獣戯画解説講座 （筑紫野歴史博物館）	学芸部企画課研究員　森實久美子	71人
12	10月16日	特別展「京都 高山寺と明恵上人」関連講演会「京都 高山寺と明恵上人の魅力」	学芸部企画課研究員　森實久美子	156人
13	10月24日	平成28年度　福岡歴史観光市民大学 「16世紀の西国大名とアジア」	展示課研究員　一瀬　智	110人
14	11月26日	トピック展「海の王都 原の辻遺跡と壱岐の至宝」 関連講演会『魏志』倭人伝に記された一支国の世界	壱岐市立一支国博物館学芸員　松見裕二	34人
15	12月4日	独立行政法人 国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」 公開シンポジウム　地域と共に考える文化財の防災・減災Ⅲ 熊本地震と文化財レスキュー 開会挨拶 第1部　対談 「熊本地震を考える」 第2部　報告 「熊本地震による文化財の被災とレスキュー中間報告」 ・レスキュー事業の概要 文化財レスキュー事業の立ち上げについて 文化財の大規模被災－初動からレスキュー、復旧スキームへ－ 九州救援対策本部の活動 ・レスキューの事例報告 熊本被災史料レスキューネットワークの取り組み 熊本県立美術館の取り組み 熊本県博物館ネットワークセンターの取り組み 熊本市立熊本博物館の取り組み レスキューの実施と救出資料への対応について 第3部　パネルディスカッション 「熊本文化財レスキューから学ぶ」 閉会挨拶	総合司会：学芸部特任研究員　本田光子 館長　島谷弘幸 NPO法人 宮城歴史資料保全ネットワーク理事長・宮城学院女子大学長　平川新 NPO法人 文化財保存支援機構理事長・前九州国立博物館長　三輪嘉六 文化庁　朝賀浩 熊本県教育庁　平井貴 学芸部長　小泉惠英 熊本大学・熊本被災史料レスキューネットワーク　稲葉継陽 熊本県立美術館　有木芳隆、山田貴司 熊本県博物館ネットワークセンター 國本信夫 熊本市立熊本博物館 竹原明理、甲斐由香里、木山貴満 博物館科学課アソシエイトフェロー 三角菜緒 司会：学芸部長　小泉惠英 パネリスト：文化庁　朝賀浩 熊本大学・熊本被災史料レスキューネットワーク　稲葉継陽 国立文化財機構防災ネットワーク推進室 岡田健 熊本県教育庁　平井貴 熊本市立熊本博物館　和田仁 副館長　伊藤嘉章	200人
16	12月6日	日米文化教育交流会議（カルコン）美術対話委員会シンポジウム 「世界と日本美術アート～２０００年以降の動向を中心に～」 主催者挨拶 第１部 ≪プレゼンテーション≫ 「今回のシンポジウムの意義」「海外における日本美術紹介」 「２０００年以降の日本の取組」 「カルコンADC の現状と今後の課題」 「ボストン美術館を中心とした近年の米国における日本美術に関する動向 「現代アートを中心とした近年の海外（米国）における日本のアートに対する関心の動向」 「シアトル美術館の収蔵品と現代アート展示について」 第２部 ≪パネルディスカッション≫	館長　島谷 弘幸 館長　島谷 弘幸 ボストン美術館上級学芸員　アン・ニシムラ・モース 上智大学国際教養学部教授、美術批評家 林 道郎 シアトル美術館日本・韓国美術担当学芸員 シャオジン・ウー モデレーター：館長　島谷 弘幸 パネリスト： 国際交流基金文化事業部長、審議役 伊東 正伸 根津美術館特別学芸員　白原由起子 上智大学国際教養学部教授、美術批評家 林 道郎 メトロポリタン美術館日本美術担当学芸員 ジョン・カーペンター サンフランシスコ・アジア美術館アート＆プログラムス担当副館長 ロバート・ミンツ シアトル美術館日本・韓国美術担当学芸員 シャオジン・ウー オブザーバー： 国立文化財機構本部事務局長、京都国立博物館副館長　栗原 祐司 ボストン美術館上級学芸員 アン・ニシムラ・モース 京都国立博物館国際交流担当フェロー マリサ・リンネ	150人

17	12月10日	MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館 「紅白梅図屏風（原寸大レプリカ）」美術セミナー	MOA美術館学芸員　米井善明	150人
18	12月17日	九州国立博物館特別展入場券付きスペシャル講座「玄界灘の覇者・宗像君の実像に迫る」	展示課研究員　小嶋　篤	16人
19	29年1月8日	九州国立博物館を愛する会　１０周年記念講演 九博ふるさとセミナー 第1部　宗像・沖ノ島と大和朝廷 第2部　大宰府の役人と文房具	展示課研究員　小嶋　篤 九州歴史資料館学芸調査室室長 小田和利	148人
20	29年1月13日	しっとこ九博 「宗像・沖ノ島と大和朝廷」解説講座	展示課研究員　小嶋　篤	46人
21	29年2月4日	宗像・沖ノ島と大和朝廷関連 リレー講座「交差する日本神話とアジアの歴史」	國學院大學教授　笹生衛 展示課研究員　小嶋篤	215人
22	29年2月12日	日中韓文化遺産フォーラム 開会挨拶 韓国における水中文化遺産の保護と活用の取組の歴史 新安沈没船にみる活用とその意義 中国の水中遺産の保護と活用の体制 南海１号沈没船の引き上げと今後の活用について 日本の水中遺産保護・活用の現状と課題 鷹島海底遺跡における水中考古学の歴史 討論会「日中韓の水中文化遺産」	司会　学芸部長　小泉恵英 文化庁長官　宮田亮平 国立海洋文化財研究所　李　貴永 国立海洋文化財研究所　金　炳堇 西安交通大学　リュウ・リーナ 国家文物局水下文化遺産保護中心 ソン・チェン 文化庁文化財部記念物課　禰宜田佳男 琉球大学文学部教授　池田栄史 討論司会：福岡県教育庁文化財保護課長 赤司善彦 李　貴永、金　炳堇、リュウ・リーナ、ソン・チェン、禰宜田佳男、池田栄史、博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	173人
23	29年2月18日	九州国立博物館「大宰府学研究」事業・熊本県「古代山城に関する研究会」事業　合同シンポジウム「徹底追究！大宰府と古代山城の誕生」 基調講演「大宰府と古代山城の誕生」 研究発表　第Ⅰ部　大宰府の器 発表１「西海道の土器編年研究」 発表２「西海道北部の土器生産」 発表３「西海道南部の土器生産」	福岡県教育庁総務部文化財保護課　赤司善彦 大分市教育委員会文化財課　長　直信 大野城市教育委員会ふるさと文化財課 石木秀啓 指宿市教育委員会社会教育課　松崎大嗣	183人
24	29年2月19日	九州国立博物館「大宰府学研究」事業・熊本県「古代山城に関する研究会」事業　合同シンポジウム「徹底追究！大宰府と古代山城の誕生」 研究発表　第Ⅱ部　古代山城の築城 発表４「古代山城の年代論－朝鮮半島と日本列島－」 発表５「大宰府造営の年代論」 発表６「有明海沿岸における古代山城の年代論」 発表７「瀬戸内海沿岸における古代山城の年代論」 シンポジウム「徹底追究！大宰府と古代山城の誕生」	古代山城研究会　向井一雄 福岡県教育庁総務部文化財保護課 杉原敏之 熊本県教育委員会　矢野裕介 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 南健太郎 コーディネーター： 福岡県教育庁総務部文化財保護課　赤司善彦 パネラー： 大分市教育委員会文化財課　長　直信 大野城市教育委員会ふるさと文化財課　石木秀啓 指宿市教育委員会社会教育課　松崎大嗣 古代山城研究会　向井一雄 福岡県教育庁総務部文化財保護課　杉原敏之 熊本県教育委員会　矢野裕介 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター　南健太郎	200人
25	29年3月25日	本田光子特任研究員最終講演会 「市民と共に　地域と共に」九博バックヤード生活を終えて -基盤作りの一端に携わった１４年-	特任研究員　本田光子	250人

3)　ミュージアムトーク　　49回 参加者総数　　1,401人

・担当研究員数　　延べ 49人

・事業内容　文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。
（原則として毎週火曜日の午後3時より15～30分間）

	開催日	テーマ	解説者	参加者数（人）
1	4月5日	芦屋鋳物師の世界	文化財課資料登録室研究員　望月規史	25人
2	4月12日	王の墓だとなぜわかる？	展示課展示調整室主任研究員　今井涼子	35人
3	4月19日	文化財を守りゆく博物館	博物館科学課保存修復室主任研究員 志賀智史	20人
4	4月26日	シルクロードの美術	特任研究員室特任研究員　臺信祐爾	30人
5	5月3日	文書と字姿（もんじょとじすがた）	文化財課資料登録室長　丸山猶計	70人
6	5月10日	九博の中世文書	展示課展示調整室研究員　一瀬智	20人
7	5月17日	神まつりの痕跡	展示課情報サービス室研究員　小嶋篤	40人
8	5月24日	博物館の裏方の仕事、大公開！	博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか	40人
9	5月31日	文化財の科学調査	博物館科学課アソシエイトフェロー 赤田昌倫	20人

10	6月7日	装飾古墳	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	50人
11	6月14日	室町時代の狩野派	文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀	20人
12	6月21日	見えないものを観る	博物館科学課アソシエイトフェロー 金旻貞	20人
13	6月28日	媽祖の話	展示課長　楠井隆志	40人
14	7月5日	海に眠る瓦の謎	博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	20人
15	7月12日	博物館の科学	博物館科学課環境保全室研究員 秋山純子	15人
16	7月20日	全国高等学校考古名品展	展示課展示調整室主任研究員　岸本圭	30人
17	7月26日	火縄銃の世界	文化財課資料登録室研究員　望月規史	20人
18	8月2日	発掘された出島	展示課展示調整室主任研究員　今井涼子	30人
19	8月9日	中世美術にみる四季の表現	企画課特別展室主任研究員　鷲頭　桂	25人
20	8月16日	石庖丁について	交流課交流事業室主任研究員　進村真之	30人
21	8月23日	高校考古開催中	展示課展示調整室主任研究員　今井涼子	25人
22	8月30日	近世の長崎ー唐館を中心にー	博物館科学課アソシエイトフェロー 三角菜緒	20人
23	9月6日	密教図像の世界	企画課文化交流展室研究員　森實久美子	35人
24	9月14日	キリスト教の信仰と禁教	企画課特別展室研究員　松浦晃佑	30人
25	9月21日	旧家の暮らしを彩った器ー古伊万里	企画課アソシエイトフェロー 酒井田千明	40人
26	9月27日	陶磁器の話	展示課展示調整室主任研究員　岸本圭	18人
27	10月4日	殿さまが見つけた朝鮮鐘	文化財課資料登録室研究員　望月規史	20人
28	10月11日	海の王都　原の辻遺跡と壱岐の至宝	交流課交流事業室主任研究員　進村真之	30人
29	10月18日	江戸時代に輸入された更紗について	企画課特別展室長　原田あゆみ	20人
30	10月25日	アジアの甍	展示課情報サービス室研究員　小嶋篤	20人
31	11月1日	海事考古学者のお話し	博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	25人
	11月9日	骨や甲羅を使った古代の占い	企画課特別展室主任研究員　川村佳男	中止
32	11月15日	観世音寺阿弥陀如来立像の話	展示課長　楠井隆志	35人
33	11月22日	螺鈿のたのしみ	文化財課資料登録室主任研究員 川畑憲子	30人
34	11月29日	文化財のX線CT調査～漆工芸品の大解剖～	博物館科学課アソシエイトフェロー 赤田昌倫	20人
35	12月6日	博物館の裏方の仕事、大公開！　パート２	博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか	20人
36	12月13日	博物館資料の科学調査について	博物館科学課環境保全室研究員 秋山純子	18人
37	12月20日	田中丸コレクションの名品	企画課アソシエイトフェロー 酒井田千明	15人
38	1月11日	国宝　初音の調度について	副館長　伊藤嘉章	60人
39	29年1月17日	鷹匠の歴史	展示課主任研究員　岸本　圭	35人
40	29年1月24日	ウンスンカルタ	企画課特別展室研究員　松浦晃佑	20人
41	29年1月31日	舎利と羅漢	企画課文化交流展室研究員　森實久美子	30人
42	29年2月7日	江戸美術に見る理想の風景	企画課特別展室主任研究員　鷲頭　桂	20人
43	29年2月14日	伊能忠敬の日本地図	展示課展示調整室研究員　一瀬智	25人
44	29年2月21日	縄文時代の装身具	博物館科学課保存修復室主任研究員 志賀智史	30人
45	29年2月28日	宮地嶽古墳と火葬墓	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	50人
46	29年3月7日	近世の長崎ー唐館と蘭館ー	博物館科学課アソシエイトフェロー 三角菜緒	40人
47	29年3月14日	イスラムの陶器	特任研究室特任研究員　臺信祐爾	25人
48	29年3月22日	禅宗の書に込めた思い	文化財課資料登録室長　丸山猶計	15人
49	29年3月28日	正倉院宝物とは何だろう	展示課展示調整室主任研究員　今井涼子	30人

4)　その他展示に関連するイベント　　23回　　2,701人

	展覧会名等	期間	内容	会場	参加者数（人）	備考
1	文化交流展	4月29日	ミュージアムコンサート 「はらのむしのうたげ」	エントランス、他	279人	
2		6月18日	作ってみよう「ひのしゅ」お面ワークショップ	エントランス	120人	
3		6月26日	きゅーはくミュージアムコンサート 「はらのむしとゴスペル」	ミュージアムホール	190人	
4		9月14日～25日	トピック展「古伊万里ー旧家の暮らしを彩った器ー」関連イベント日本遺産認定記念『日本磁器のふるさと　肥前』パネル展	エントランス	―	参加者数（参考）：19,626人（入口設置カウンター通過人数）

5		9月20日～25日	トピック展「古伊万里－旧家の暮らしを彩った器－」関連イベント有田焼創業400年事業　ARITA SERECTION 特別企画展『きんしゃい有田珠玉の器紀行』	ミュージアムホール	－	
6		11月27日	トピック展「海の王都 原の辻遺跡と壱岐の至宝」関連ワークショップ（貝殻キャンドルづくり、勾玉づくり）	エントランス／研修室	250人	
7	特別展「始皇帝と大兵馬俑」	3月15日～6月12日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」兵馬俑トリックアート	エントランス	－	参加者数（参考）：318,485人（入口設置カウンター通過人数）
8		3月27日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベントＥテレ「びじゅチューン！井上涼×兵馬俑」	ミュージアムホール	482人	
9		3月29日～4月28日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント山手線キングダム展（前期）	エントランス	－	参加者数（参考）：76,807人（入口設置カウンター通過人数）
10		4月1日～10日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント8Kスーパーハイビジョン上映会	文化交流展示室内スーパーハイビジョンシアター	－	参加者数（参考）：7,031人（入口設置カウンター通過人数）
11		4月17日	九州国立博物館杯第5回さいふごま大会（始皇帝と大兵馬俑記念）　＊熊本地震により中止	ミュージアムホール	－	
12		4月24日～6月12日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連パネル展示　始皇帝の『直道』をゆく	エントランス	－	参加者数（参考）：204,938人（入口設置カウンター通過人数）
13		5月5日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連こどもの日特別企画！ワークショップ「紙で工作！兵馬俑に変身！」	エントランス	100人	
14		5月6日～6月12日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント山手線キングダム展（後期）	エントランス	－	参加者数（参考）：155,257人（入口設置カウンター通過人数）
15	特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」	7月30日	特別展「東山魁夷自然と人、そして町」関連記録映像上映会＆トーク「東山魁夷山雲濤声～唐招提寺障壁画の記録～」	ミュージアムホール	280人	
16		8月11日	特別展「東山魁夷自然と人、そして町」関連ミュージアムコンサート「東山魁夷が愛したモーツァルト」	ミュージアムホール	350人	
17	特別展「京都高山寺と明恵上人」	8月7日	特別展「京都高山寺と明恵上人」プレ企画第2回みゅーじあむ寄席「夢で会いましょう」	ミュージアムホール	283人	
18		10月2日	九州国立博物館杯第5回さいふごま大会（京都　高山寺と明恵上人記念）プレイベント＊4/17始皇帝と大兵馬俑記念が熊本地震により中止のため今回が第5回	ミュージアムホール	60人	
19		10月15日	特別展「京都高山寺と明恵上人」関連トークイベント能「春日龍神」と明恵上人	ミュージアムホール	237人	
20	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」	29年1月1日～2月19日	特別展　「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連「沖ノ島写真展」	エントランス	－	参加者数（参考）：128,847人（入口設置カウンター通過人数）
21		29年1月7日～9日	むなかたの幸　満福祭	エントランス／屋外	－	参加者数（参考）：12,258人（入口設置カウンター通過人数）
22		29年1月22日	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連九州国立博物館杯第6回さいふごま大会	ミュージアムホール	70人	
23		29年2月7日～12日	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連「沖ノ島紹介パネル展」	エントランス	－	参加者数（参考）：16,992人（入口設置カウンター通過人数）

1-(3)-①-3 児童生徒を対象とした教育普及事業

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数 ※1 ※2	**回数計**	**1,079回**	**回数計**	**580回**	**回数計**	**76回**	**回数計**	**2,196回**
	参加者計	**207,375人**	**参加者計**	**23,315人**	**参加者計**	**3,809人**	**参加者計**	**8,777人**
	体験型プログラム等	827回 199,167人	体験型プログラム等	553回 21,333人	体験型プログラム等	21回 384人	体験型プログラム等	2,143回 7,796人
	学校との連携事業	252回 8,208人	学校との連携事業	27回 1,982人	学校との連携事業	55回 3,425人	学校との連携事業	53回 981人
	児童生徒を対象とした刊行物	4件 40,000部	児童生徒を対象とした刊行物	3件 41,300部	児童生徒を対象とした刊行物	— —	児童生徒を対象とした刊行物	2件 145,000部
	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	1件 770台	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —

※1ー定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする

※2実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。（実施回数は計上している。）

【東京国立博物館】

1)体験型プログラム等　827回　199,167人

①ハンズオン展示等

688回　187,028人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	総合文化展（東洋館）関連「アジアの占い体験」	東洋館6室	344回	28,609人	実際に体験した人数
2	通年	総合文化展（本館）「トーハクでデザイン」「トーハクで〇〇ができるまで」「トーハクで国宝をさぐろう」「トーハクをまわそう」	本館19室	344回	158,419人	実際に体験した人数

②ワークショップ

51回　12,021人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	4月2日・3日	桜ワークショップ　春らんまん　桜ぬりえ	本館2階ラウンジ	2回	1,145人	「博物館でお花見を」関連事業として実施①563人②582人
2	4月29日・30日	ファミリーツアー「トーハク劇場へようこそ！」	平成館考古展示室	2回	53人	①31人②22人
3	4月29日・30日	子どもツアー「トーハク劇場へようこそ！」	平成館考古展示室	2回	32人	①23人②9人
4	7月23日・24日	ファミリーワークショップ「からだが動くエビをつくってみよう」	本館地下教育普及スペース、本館13室	2回	48人	①22人②26人
5	8月14日・15日	ファミリーツアー「トーハク劇場へようこそ！」	平成館考古展示室	2回	81人	①31人②50人
6	8月14日・15日	子どもツアー「トーハク劇場へようこそ！」	平成館考古展示室	2回	175人	8月15日はキッズデーイベントとして実施①85人②90人
7	8月15日	みんなで作る貼り交ぜ屏風（ぬり絵）	本館特別4室	1回	303人	キッズデーイベントとして実施
8	8月15日	ワークシートに挑戦＆オリジナル缶バッジつくり	本館特別4室	1回	247人	キッズデーイベントとして実施
9	8月23日	ファミリーツアー「博物館のうら側探検ツアー」	保存修復関係施設等	2回	44人	親と子のギャラリー「美術の裏側探検隊」関連事業として実施　①22人②22人
10	9月29日～10月10日（13日間）	着てみてポーズ！ 中国・韓国・日本の伝統衣装（衣装体験）	東洋館エントランス	13回	1,110人	「博物館でアジアの旅」関連事業として実施
11	10月8日（4日間）	アジアンぬりえ	東洋館2室	4回	753人	「博物館でアジアの旅」関連事業として実施
12	10月8日・9日	ワークショップ「中国伝統の剪紙（切り紙）体験」	本館地下教育普及スペース	2回	44人	「博物館でアジアの旅」関連事業として実施①20人②24人
13	10月8日	ナイト・ミュージアム　親子で東洋館探検！	東洋館	1回	81人	「博物館でアジアの旅」関連事業として実施
14	10月22日	ファミリーワークショップ「屏風体験！」	九条館	2回	40人	キヤノン株式会社と共催①21人②19人
15	11月26日	ファミリーワークショップ「篆刻体験　自分だけの印をつくろう！」	本館地下教育普及スペース	1回	18人	

16	12月18日・23日	ファミリーツアー「トーハク劇場へようこそ！」	平成館考古展示室	2回	56人	①28人②28人
17	12月18日・23日	子どもツアー「トーハク劇場へようこそ！」	平成館考古展示室	2回	15人	①11人②4人
18	1月2・3日	博物館に初もうでカレンダー付ワークシート	本館2階便殿前	2回	6,000人	ワークシート配布数
19	2月25日	ファミリーワークショップ「ひいな遊び―立雛を作ろう!―」	本館地下教育普及スペース	1回	14人	
20	3月23・24・25・26日	桜ワークショップ　春らんまん　桜ぬりえ	本館2階ラウンジ	4回	1,744人	①278人②357人③358人④751人
21	3月26日	桜ワークショップ（ファミリー）「友禅染に挑戦」	本館地下教育普及スペース	1回	18人	

③その他の体験型プログラム　　―回　　―人

④児童生徒を対象とした展示

86回　　―人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	4月12日～5月22日	「親と子のギャラリー　あつまれ！トラのなかまたち」	平成館企画展示室	37回	―	人数カウントを行っておらず参加者数不明
2	7月5日～8月28日	「親と子のギャラリー　美術のうら側探検隊」	本館特別2室	49回	―	期間中の本館入館者数（参考）：152,548人

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

2回　　118人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	5月5日	特別展「黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」ナイトミュージアム	表慶館	1回	118人	1日
2	8月15日	トーハクキッズデー	本館、平成館考古展示室	1回	―	1日。人数カウントを行っておらず参加者数不明

2)学校との連携事業　　252回　　8,208人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

227回　　7,910人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	スクールプログラム	本館地下教育普及スペース、大講堂、展示室等	225回	7,903人	225校
2	5月12日、2月10日	盲学校のためのスクールプログラム	本館地下教育普及スペース、展示室等	2回	7人	2校

②出前授業等　　―回　　―人

③職場体験

19回　　63人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	職場体験の受け入れ	本館、東洋館ほか	19回	63人	19校、延べ55日

④教員を対象とした研修

6回　　235人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月22日	特別展「黒田清輝」教員研修	小講堂	1回	65人	
2	7月27日～29日	全国美術工芸教育研究会「博物館・藝大研修」	本館地下教育普及スペース、展示室	1回	41人	
3	8月3日	「スクールプログラム」教員研修	本館地下教育普及スペース	1回	19人	
4	8月3日	鑑賞教育研究会	本館地下教育普及スペース	1回	5人	
5	8月25日	「盲学校のためのスクールプログラム」教員研修	本館地下みどりのライオンほか	1回	19人	全国盲学校　図工・美術研究会の盲学校教員を対象とした研修
6	8月25日	特別展「禅」教員研修	大講堂	1回	86人	

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

―回　　―人

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　　4件　　40,000部

	名　　称	発行部数	備　考
1	特別展「「古代ギリシャ―時空を超えた旅―」ジュニアガイド	10,000部	
2	特別展「黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」ジュニアガイド	10,000部	
3	親と子のギャラリー「美術のうら側探検隊」ワークシート	10,000部	
4	特別展「春日大社　千年の至宝」ジュニアガイド	10,000部	

②音声ガイド　　― 件　　― 台

③その他メディア　　― 件　　― 台

【京都国立博物館】

1)体験型プログラム等　　553回　　21,333人

①ハンズオン展示等

471回　　― 人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	さわって発見！ミュージアム・カート	京都国立博物館平成知新館	197回	―	開館日の毎日(4月12日～5月22、10月15日～11月27日と年始を除く)、参加者数カウント不可
2	通年	デジタル絵巻	京都国立博物館平成知新館	274回	―	開館日の毎日、参加者数カウント不可

②ワークショップ

78回　　21,232人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	4月12日～5月22日の開館日	“くじ”で出会う　禅の言葉	京都国立博物館平成知新館	36回	11,547人	特別展覧会「禅―心をかたちに―」ワークショップ
2	10月15日～11月27日の開館日	龍馬さんからお手紙です！	京都国立博物館平成知新館	38回	8,725人	特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」ワークショップ
3	6月25日・26日	スタンプでうちわをデザインしよう！	仙台卸商センター産業見本市会館サンフェスタ（宮城県仙台市）	2回	742人	「ミュージアムキッズ！全国フェア2016」（こどもひかりプロジェクト主催）
4	10月16日	ドキドキ！刀にふれてみよう	南相馬市博物館（福島県南相馬市）	1回	140人	「ミュージアムキッズフェアinみなみそうま」（こどもひかりプロジェクト主催）
5	12月17日	スタンプで年賀状を作ろう！	せんだいメディアテーク（宮城県仙台市）	1回	78人	「プチ・ミュージアムストリート2016」（こどもひかりプロジェクト主催）

③その他の体験型プログラム

3回　　43人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	6月25日・26日	トラりん登場！	仙台卸商センター産業見本市会館サンフェスタ	1回	―	「ミュージアムキッズ！全国フェア2016」（こどもひかりプロジェクト主催）にて、博物館の紹介及び館蔵品の解説を実施した。参加者数カウント不可
2	10月16日	トラりん登場！	南相馬市博物館（福島県南相馬市）	1回	―	「ミュージアムキッズフェアinみなみそうま」（こどもひかりプロジェクト主催）、参加者数カウント不可
3	1月1日	トラりんからの年賀状	郵送	1回	43人	「スタンプで年賀状を作ろう！」（12月17日、せんだいメディアテーク）にて、トラりん（京都国立博物館公式キャラクター）宛の年賀状を作成した子どもに年賀状を送付した。

④児童生徒を対象とした展示　　― 回　　― 回

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

1回　　58人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	10月29日	伊藤若冲 生誕300年記念　若冲 おしゃべり鑑賞会	堀川御池ギャラリー	1回	58人	

2)学校との連携事業　　27回　　1,982人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

7回　　344人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月26日	羽衣学園高等学校	京都国立博物館	1回	30人	特別展覧会の解説、博物館の仕事紹介、自由観覧
2	5月19日	佐賀市立金泉中学校	京都国立博物館	1回	6人	博物館の歴史、博物館の仕事紹介、自由観覧
3	9月10日	京都府立鴨沂高等学校	京都国立博物館	1回	21人	博物館の歴史、名品ギャラリー解説、ワークショップ、自由観覧
4	9月28日	京都市立八瀬小学校	京都国立博物館	1回	14人	博物館の歴史、名品ギャラリー解説、自由観覧
5	11月17日	岡山県立岡山操山中学校	京都国立博物館	1回	3人	刀剣について質問対応、自由観覧
6	1月11日	大谷高等学校	京都国立博物館	1回	266人	博物館の歴史、名品ギャラリー解説、自由観覧
7	3月9日	仙台の中学校	京都国立博物館	1回	4人	京都の歴史について質問対応、自由観覧

②出前授業等

7回　　931人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月7日・8日	文化財に親しむ授業　京都市立洛北中学校　1年生	京都市立洛北中学校	1回	360人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
2	7月6日	文化財に親しむ授業　京都市立唐橋小学校　6年生	京都市立唐橋小学校	1回	79人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
3	9月6日	文化財に親しむ授業　京都市立紫明小学校　6年生	京都市立紫明小学校	1回	41人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
4	10月12日	文化財に親しむ授業　京都市立洛西中学校　2年生	京都市立洛西中学校	1回	96人	教材：雪舟筆「四季花鳥図屏風」、講師：文化財ソムリエ
5	10月25日	文化財に親しむ授業　京都市立栗陵中学校　3年生	京都市立栗陵中学校	1回	140人	教材：雪舟筆「四季花鳥図屏風」、講師：文化財ソムリエ
6	11月29日	文化財に親しむ授業　京都市立下鴨中学校　2年生	京都市立下鴨中学校	1回	124人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
7	12月14日	文化財に親しむ授業　京都市立東山泉小中学校7年生	京都市立東山泉小中学校	1回	91人	教材：雪舟筆「天橋立図」、講師：文化財ソムリエ

③職場体験　　— 回　　— 人

④教員を対象とした研修

3回　　106人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月6日	文化財を教室に！－複製を活用した事例紹介と交流会—	京都国立博物館	1回	24人	発表者：浪江知世（京都市立朱雀中学校教諭）、板谷寿美（京都大学大学院／文化財ソムリエ）、水谷亜希（京都国立博物館 研究員）
2	8月5日	大阪府高等学校美術工芸教育研究会　博物館・美大研修	京都国立博物館	1回	13人	講義：「見つめる・感じる・考える　染めと織りの世界」山川曉（京都国立博物館 教育室長）
3	11月4日	社会科教員のための向上講座（（小）社会科授業実践力向上講座（中・高・総）社会科教員指導力向上講座）	京都国立博物館	1回	69人	講義：「坂本龍馬展について」宮川禎一（京都国立博物館 上席研究員） 主催：京都市教育委員会・京都市小学校社会科教育研究会・京都市中学校教育研究会社会科部会

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

10回　　601人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月5日	むしむしお絵かき＜墨絵へん＞	兵庫県立人と自然の博物館	1回	15人	「ひとはくKidsサンデー」（兵庫県立人と自然の博物館主催）にて共同でプログラムを実施した
2	8月28日	なつやすみスペシャル！まいぶんくらぶ「国宝！風神雷神図がやってくる」	泉南市埋蔵文化財センター（大阪府）	1回	62人	複製を活用したプログラムへの助言・当日の補助を行った
3	11月28日	福知山高等学校・附属中学校	福知山高等学校・附属中学校（京都府）	1回	120人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った

4	12月10日	鑑賞の授業	九州国立博物館	3回	100人	『MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館』(MOA美術館「MOA美術館児童作品展in九州国立博物館」実行委員会主催、九州国立博物館共催)にて、博物館の紹介及び館蔵品の解説を実施した。
5	12月20日・21日	トラりんがきゅーはくにやってくる！	三重県立四日市高等学校	1回	90人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
6	1月31日	三重県立四日市高等学校	京都市立烏丸中学校	1回	48人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
7	2月2日	鑑賞の授業	京都市立洛水中学校	1回	66人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
8	2月14日	京都市立烏丸中学校	京都市立洛西中学校	1回	100人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物

3件　41,300部

	名　称	発行部数	備　考
1	特集陳列「丹後の仏教美術」鑑賞ガイド「トラりんと見てみよう！　丹後に伝わる祈りのかたち」	8,000部	7月発行、観覧者（子ども～大人）対象
2	特集陳列「とりづくし」鑑賞ガイド「トラりんと見てみよう！　美術のなかのとりたち」	13,300部	12月発行、観覧者（子ども～大人）対象
3	博物館Dictionary No.188～197	20,000部	4月、6月、7月、8月、10月、11月、29年1月、2月発行、観覧者（子ども～大人）対象

②音声ガイド　— 件　— 台

③その他メディア　4件

	名　称	発行部数	備　考
1	虎BLOG	—	公式キャラクター「トラりん」のブログを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
2	トラりんTwitter	—	公式キャラクター「トラりん」のTwitterを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
3	トラりんFacebook	—	公式キャラクター「トラりん」のFacebookを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
4	TeachJapan.orgとの連携	—	サンフランシスコ・アジア美術館（アメリカ）とパートナーシップを結び、日本文化を紹介する教育用サイト「TeachJapan.org」の立上げに協力、京都国立博物館の「博物館ディクショナリー」の英語版ページへのリンクを貼ることで、英語圏の教員へのアピールを行った。

【奈良国立博物館】

1)体験型プログラム等　21回　384人

①ハンズオン展示等　— 回　— 回

②ワークショップ

3回　232人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	4月30日	親と子のワークショップ「空とぶ鉢のおはなし絵巻をつくろう！」	講堂	1回	105人	
2	7月30日	ワークショップ「描いて飾ろう文殊菩薩」	地下回廊	1回	69人	
3	7月31日	特別展「忍性」子ども無料日イベント「きく！みる！ふれる！東征伝絵巻」	講堂	1回	58人	

③その他の体験型プログラム　— 回　— 人

④児童生徒を対象とした展示　17回　— 人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	10月22日～11月7日	正倉院展短歌コンクール受賞作品展示	展覧会特設会場（読売新聞社ブース）	17回	—	27年度受賞作品を展示

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会　1回　152人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	10月23日	第68回正倉院展　親子鑑賞会	講堂	1回	152人	

2)学校との連携事業　55回　3,425人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

24回　1,701人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月～2月	学校プログラム	講堂	24回	1,701人	24校（ボランティアによるスライド学習、なら仏像館案内）

②出前授業等　— 回　— 人

③職場体験　3回　7人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月7日～7月8日	職場体験（奈良県立青翔中学校）	全館	1回	2人	
2	9月14日～9月16日	職場体験（奈良市立春日中学校）	全館	1回	3人	
3	11月30日～12月2日	職場体験（奈良市立若草中学校）	全館	1回	2人	

④教員を対象とした研修　2回　80人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月2日	奈良県教職員研修	講堂	1回	60人	ボランティアによるスライド学習、なら仏像館案内
2	8月5日	奈良市世界遺産学習教員研修	全館	1回	20人	

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

26回　1,637人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月23日	近畿ブロック少年少女北方領土研修	講堂	1回	95人	ボランティアによるスライド学習、なら仏像館案内
2	6月～1月	奈良市世界遺産学習	講堂	25回	1,542人	ボランティアによるスライド学習、なら仏像館案内

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　— 件　— 部

②音声ガイド　1件　770台

	名　称	台数	備　考
1	第68回正倉院展(日本版・子供向け)	770台	利用台数

③その他メディア　— 件

【九州国立博物館】

1)体験型プログラム等　2,143回　7,796人

①ハンズオン展示（あじっぱ・あじ庵・あじぎゃら）等

1,485回　— 人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月1日～4月17日	芦屋鋳物師（いもじ）の世界 － 中世鋳金の美と受け継がれた技 －「芦屋釜」ハンズオン展示	文化交流展示室第9室	14回	—	展示日数
2	4月1日～29年3月31日	遣唐使船復元コーナー	文化交流展示室第8室	311回	—	開館日数(通年展示)
3	4月1日～29年3月31日	「火焔土器」ハンズオン展示	文化交流展示室第1室	311回	—	展示日数
4	4月1日～29年3月31日	「四季の移ろい」「縁起」、他	あじっぱ	311回	—	開館日数
5	4月1日～29年3月31日	「竹でできた楽器」「カルタ」「おひなさま」、他	あじ庵	311回	—	開館日数
6	7月12日～9月4日	トピック展「火縄銃の世界」「火縄銃」ハンズオン展示	文化交流展示室第11室	49回	—	開催日数
7	7月20日～9月25日	トピック展「全国高等学校考古名品展」「瞳のある土偶」ハンズオン展示	文化交流展示室第3室	60回	—	開催日数
8	8月22日～10月30日	「かくれんぼ」他	あじぎゃら	62回	—	展示日数
9	29年1月1日～3月5日	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」体験コーナー（貝輪レプリカ、イモガイ現生品）	展覧会会場	56回	—	開催日数

②ワークショップ

35回　475人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	5月5日	「始皇帝と大兵馬俑」展ワークショップ「紙で工作！兵馬俑に変身！」	1階エントランスミュージアムホール	4回	167人	
2	5月7日 6月11日 10月8日 12月10日	なりきり学芸員体験	あじぎゃら	8回	35人	小学校３年生以上（大人も可）、各回6人
3	5月21日 8月27日 9月17日 11月19日 29年1月21日	なりきり考古学者体験	あじぎゃら	11回	60人	小学校４年生以上（大人も可）、各回5人

4	12月4日	なりきり文化財カメラマン体験	写場	1回	7人	高校生
5	12月17日	松菊里型竪穴式住居組立ワークショップ	エントランス	1回	14人	「きゅーはく女子考古部」の活動
6	5月14日 6月18日 7月9日 7月31日 10月1日 29年3月5日	ガムランワークショップ	ミュージアムホール	10回	192人	連続講座6人×4回、単発講座28人×6回

③その他の体験型プログラム　522回　7,321人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	4月1日～6月12日	「始皇帝と大兵馬俑」展体験コーナー「秦の単位で身体測定」	展覧会会場	63回	—	開催日数
2	4月1日～ 29年3月31日	南蛮人になってみよう	あじっぱ	311回	—	開館日数
3	5月1日	装飾古墳をデザインしよう （きゅーはくきゃらばん）	熊本県立装飾古墳館	1回	64人	
4	6月19日	民族楽器を体験しよう （きゅーはくきゃらばん）	九州芸文館	1回	180人	
5	6月25日,26日	こどもひかりプロジェクトミュージアムキッズ！全国フェア（きゅーはくきゃらばん）	仙台卸商センター産業見本市会館サンフェスタ	1回	1,470人	
6	7月20日～ 9月25日	トピック展「全国高等学校考古名品展」高校考古部体験	文化交流展示室第3室	60回	—	開催日数
7	7月23日,24日	あじっぱ夏祭り	ミュージアムホール	1回	599人	
8	8月6日	アジアの文化に触れてみよう （きゅーはくきゃらばん）	壱岐市立一支国博物館	1回	111人	
9	8月27日	アジアの文化に触れてみよう （きゅーはくきゃらばん）	福岡県立福岡視覚特別支援学校	1回	10人	
10	10月1日	アジアの楽器に触れてみよう （きゅーはくきゃらばん）	太宰府政庁跡	1回	100人	
11	10月15日,16日	拓本をとってみよう （きゅーはくきゃらばん）	南相馬市博物館	1回	85人	
12	10月22日,23日	アンクルンを鳴らしてみよう （きゅーはくきゃらばん）	JR博多シティ	1回	1,215人	
13	11月5日	鬼瓦作り （きゅーはくきゃらばん）	兵庫県立考古博物館	1回	80人	
14	11月6日	貝で布に色をつけよう （きゅーはくきゃらばん）	兵庫県立人と自然の物館	1回	32人	
15	11月21日	アジアの文化に触れてみよう （きゅーはくきゃらばん）	大野城市立平野中学校	1回	40人	
16	11月23日	アジアの文化に触れてみよう （きゅーはくきゃらばん）	福岡県立少年自然の家「玄海の家」	1回	100人	
17	12月17日	オリジナル灯篭作り （きゅーはくきゃらばん）	仙台メディアテーク	1回	40人	
18	12月17日～ 29年1月10日	「松菊里型竪穴式住居」体験	エントランス	15回	—	展示日数
19	29年1月1日～ 3月5日	「宗像・沖ノ島と大和朝廷」展写真撮影及び古代服「貫頭衣」試着コーナー	展覧会会場入口	56回	—	開催日数
20	29年2月11、12日	アジアの衣装を着てみよう （きゅーはくきゃらばん）	名古屋市博物館	1回	700人	
21	29年2月22日	鬼瓦作り、中国のコマ回し （きゅーはくきゃらばん）	福岡県立社会教育センター	1回	30人	
22	29年2月26日	九博こどもフェスタ	ミュージアムホール	1回	2,465人	カウンター通過人数

④児童生徒を対象とした展示　101回　— 人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	10月4日～ 11月20日	特別展「京都　高山寺と明恵上人－特別公開鳥獣戯画」 明恵上人についてのわかりやすい解説パネル	展覧会会場	45回	—	開催日数
2	29年1月1日～ 3月5日	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」 わかりやすい解説パネル	展覧会会場	56回	—	開催日数

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会　— 回　— 人

2)学校との連携事業　53回　981人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

18回　625人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月21日	宇美町立原田小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	96人	
2	5月26日	北九州視覚特別支援学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	30人	
3	6月11日	崇城大学芸術学部	研修室・ 文化交流展示室	1回	15人	
4	6月15日	太宰府市立太宰府中学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	24人	
5	6月23日	東佐賀病院	研修室・ 文化交流展示室	1回	30人	

6	6月29日	熊本大学教育学部	研修室・ 文化交流展示室	1回	23人	
7	8月4日	長崎国際大学人間社会学部	研修室・ 文化交流展示室	1回	20人	
8	11月2日	豊前市立合岩中学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	46人	
9	11月7日	行橋市立行橋中学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	189人	
10	11月8日	豊前市立三毛門小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	41人	
11	11月20日	福智町立方城中学校ＰＴＡ	研修室・ 文化交流展示室	1回	20人	
12	1月18日	大野城市立大野東中学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	6人	
13	1月25日	春日市立春日中学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	6人	
14	2月10日	豊前市立宇島小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	34人	
15	2月17日	福岡聴覚特別支援学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	8人	
16	2月21日	筑紫野市筑紫野南小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	6人	
17	2月23日	筑紫野市筑山小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	6人	
18	3月8日	心身障がいセンターリハビリテーション	研修室・ 文化交流展示室	1回	25人	

②出前授業等

6回　179人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5月6日	春日市立須玖小学校	須玖小学校	1回	78人	
2	5月9日	佐賀市立新栄小学校	新栄小学校	1回	53人	
3	5月25日、 9月14日	太宰府市立太宰府中学校	太宰府中学校	2回	24人	
4	11月21日、 11月30日	大野城市立平野中学校	平野中学校	2回	24人	

③職場体験

17回　87人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月～9月 1月～2月	県内中学校17校	全館	17回	87人	延べ35日間

④教員を対象とした研修

4回　73人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月2日	福岡県教育センター	研修室・ミュージアムホール	1回	22人	
2	8月25日	福岡県教育センター	研修室・文化交流展示室	1回	40人	
3	8月10日～12日、 8月15日～17日	県内公立高校10校	体験型施設あじっぱ	2回	11人	

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

8回　17人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	12月4日～ 29年3月19日	ジュニア学芸員体験	会議室・あじっぱ・あじぎゃら	8回	17人	
2	―	学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出し	―	47件	―	貸出数は87パック

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　2件　145,000部

	名　　称	発行部数	備　　考
1	特別展「始皇帝と大兵馬俑」ジュニアガイド「めざせ！始皇帝博士」	65,000部	福岡市、太宰府市の小学3～5年生に事前配布、及び中学生以下の特別展来場者に配布
2	特別展「京都 高山寺と明恵上人」冊子「レジェンド・オブ・明恵」	80,000部	1階エントランスホール（展覧会入場待ち列横）にて配布

②音声ガイド　　— 件　　— 台

③その他メディア　　1件　　1,331回

	名　　称	ダウンロード数	備　　考
1	「京都 高山寺と明恵上人」展冊子「レジェンド・オブ・明恵」WEBダウンロード	1,331回	

1-(3)-①-4　大学生・大学院生を対象とした教育事業

平成29年3月31日現在

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	インターンシップ	22 人	インターンシップ	3 人	インターンシップ	3 人	インターンシップ	4 人
	大学との連携講座	― 件 ― 人	大学との連携講座	1 件 6 人	大学との連携講座	2 件 10 人	大学との連携講座	1 件 40 人
	見学対応	14 回 480 人	見学対応	2 回 35 人	見学対応	― 回 ― 人	見学対応	6 回 243 人
	その他	1 回 36 人	その他	22 回 52 人	その他	― 回 ― 人	その他	11 回 136 人

【東京国立博物館】

1)　インターンシップ　　22 人

受入期間	7月10日～28年3月31日		
受入部署	学芸企画部　情報管理室、150年史編纂室、博物館教育課、教育普及室、教育講座室、出版企画室 学芸研究部　保存修復課 総務部　総務課		
参加者数	22 人	学校数	16 大学／　0 専門学校
担当研究員数	9 人		
事業内容	博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起、高い職業意識の育成を目的とした就業体験プログラム。学生は受入部署において、10～30日間の活動を行った。		

2)　大学等との連携講座　　― 件　　― 人

3)　見学対応　　14 回　　480 人

期　　間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	480 人	学校数	14 大学／　0 専門学校
担当研究員数	4人		
事業内容	鑑賞の支援および、文化財・博物館への理解促進のため、大学生や大学院生、専門学校生を対象に、東京国立博物館の展示や活動についてのガイダンスを実施した。		

4)　その他　　1 回　　36 人

期　　間	8月1日～8月5日		
回　　数	1回		
開催場所	平成館大講堂、平成館小講堂、他		
参加者数	36 人	学校数	23 大学／　専門学校
担当研究員数	1 人		
事業内容	キャンパスメンバーズ　博物館セミナー　教育連携事業「博物館学講座」		

【京都国立博物館】

1)　インターンシップ　　3 人

受入期間	8月15日～8月26日、9月6日～9月16日		
受入部署	学芸部　保存修理指導室		
参加者数	3 人	学校数	2 大学／　0 専門学校
担当研究員数	3 人		
事業内容	文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた学生について、国宝修理装潢師連盟の協力を得て、文化財修復に関わる加盟大学院生3名のインターンを文化財保存修理所にて受け入れた。11月28日には平成知新館4F研修室にて3名による報告会を行った。（出席者29名）		

2)　大学等との連携講座　　1 件　　6 人

内　　容	京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座
実施日	通年
開催場所	京都国立博物館
受入人数	6 人
担当研究員数	4 人

3)　見学対応　　2 回　　35 人

期　　間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	35 人	学校数	2 大学／　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	鑑賞の手助け、文化財・博物館への理解促進のため、大学生や大学院生、専門学校生を対象に、京都国立博物館の展示や事業についての解説を含めたガイダンスを実施した。		

4)　その他　　22 回　　52 人

期　　間	9月2日		
回　　数	1		
開催場所	京都国立博物館　文化財保存修理所		
参加者数	13 人	学校数	6 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を実施した。実際の修理現場の見学・説明といった研修を行い、学生の意欲や目的意識の向上を図った。		

期　　間	5月18日、5月25日、6月1日、6月22日、6月29日、7月13日、7月20日、8月24日、8月31日、9月14日、9月21日、9月28日、10月19日、11月2日、11月9日、11月30日、12月7日、29年1月11日、2月8日、2月22日		
回　　数	20		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	17 人	学校数	4 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	4 人		
事業内容	「文化財ソムリエに向けたスクーリング」 京都市内の小中学校で訪問授業を行う「文化財ソムリエ」養成のためのスクーリングを実施した。 参加者は、京都市内の大学で日本文化を専門に学ぶ大学生、大学院生。		

期　　間	11月5日		
回　　数	1		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	22 人	学校数	7 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	「ミュージアム・ユースの交流会」 ミュージアムで活動する大学生同士の交流と、館種を超えたミュージアム関係者の情報交換を行った。 発表者：渡辺浩美（高梁市成羽美術館副館長）、竹田健一郎（國學院大學／こどもひかりユース）、八重樫あすか（宮城女子大学／こどもひかりユース）、濱本彩萌（龍谷大学大学院／文化財ソムリエ）、佐々木 翠（龍谷大学大学院／文化財ソムリエ）		

【奈良国立博物館】

1)　インターンシップ　　3 人

受入期間	8月10日、8月12日、8月16日～8月18日（計5日間）		
受入部署	総務課		
参加者数	3 人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	1人（職員）		
事業内容	立命館大学とのインターンシップに関する覚書に基づき、将来博物館の運営業務（事務系）への就職を検討している学生を募集し、3名の学生を受け入れ、管理運営に関する就業体験や課題の企画発表等を行った。		

2)　大学等との連携講座　　2 件　　10 人

内　　容	奈良女子大学大学院人間文化研究科との連携講座
実施日	前期、後期
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館
受入人数	3 人　（前期1人、後期2人）
担当研究員数	1 人

内　　容	神戸大学大学院人文学研究科との連携講座
実施日	通年
開催場所	神戸大学、奈良国立博物館
受入人数	7 人
担当研究員数	2 人

3)　見学対応　　― 回　　― 人

4)　その他　　― 回　　― 人

【九州国立博物館】

1)　インターンシップ　　4 人

受入期間	8月22日～27日（5日間）		
受入部署	学芸部博物館科学課		
参加者数	4 人	学校数	3 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	3 人		
事業内容	文化財修理の基本となる作業を体験できる貴重な機会を提供した。		

2)　大学等との連携講座　　1 件　　40 人

内　　容	放送大学の面接授業
実施日	11月12日、13日
開催場所	九州国立博物館
受入人数	40 人
担当研究員数	8 人

3)　見学対応　　6 回　　243 人

期　　間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	243 人	学校数	6 大学／　0 専門学校
担当研究員数	3 人		
事業内容	当館の概要についての講義、展示室の解説等を実施した。		

4)　その他　　11 回　　136 人

期　　間	4月27日		
回　　数	1回		
開催場所	筑紫女学園大学		
参加者数	60 人	学校数	大学／　0 専門学校
担当研究員数	1 人		
事業内容	バックヤードツアー		

期　　間	7月27日～8月8日（10日間）		
回　　数	1回		
開催場所	全館		
参加者数	17 人	学校数	13 大学／　0 専門学校
担当研究員数	1 人		
事業内容	博物館実習		

期　　間	4月15日、5月27日、6月10日、7月8日、8月26日、9月30日、12月2日、2月10日、3月24日		
回　　数	9回		
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）		
参加者数	59 人	学校数	大学／　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	カフェコンサート		

1-(3)-①-5 キャンパスメンバーズ

平成29年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
52校	27校（※）	25校（※）	25校

※うち京都国立博物館・奈良国立博物館共通加入19校

【【東京国立博物館】

①加入校数（52校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	桜美林大学	9,651人	20年4月1日	
2	武蔵野美術大学	8,229人	20年4月1日	
3	文化学園（文化学園大学, 文化ファッション大学院大学, 文化学園大学短期大学部, 文化服装学院, 文化服装学院広島校 , 文化外国語専門学校）	7,805人	20年4月1日	
4	東京学芸大学	6,642人	20年4月1日	
5	東京藝術大学	4,634人	20年4月1日	
6	東京大学	34,460人	20年4月1日	
7	お茶の水女子大学	3,600人	20年4月1日	
8	杉野学園（杉野服飾大学, 杉野服飾大学短期大学部, ドレスメーカー学	1,225人	20年4月1日	
9	大正大学	5,441人	20年4月1日	
10	東海大学	33,244人	20年4月1日	
11	青山学院大学・青山学院女子短期大学	22,280人	20年4月1日	
12	ハリウッド大学院大学・ハリウッドビューティ専門学校	533人	20年4月1日	
13	多摩美術大学	5,249人	20年4月1日	
14	立教大学	23,393人	20年4月1日	
15	首都大学東京	9,952人	20年4月1日	
16	女子美術大学・女子美術大学短期大学部	3,781人	20年4月1日	
17	東京造形大学	1,924人	20年4月1日	
18	法政大学	38,624人	20年4月1日	
19	筑波大学	21,076人	20年4月1日	
20	昭和女子大学・昭和女子大学短期大学部	6,200人	20年4月1日	
21	実践女子大学・実践女子短期大学	4,938人	20年5月1日	
22	東洋大学	31,833人	20年6月1日	
23	東洋美術学校	1,155人	20年6月1日	
24	日本大学（芸術学部）	4,394人	20年6月1日	
25	文教大学	9,600人	20年7月1日	
26	上智学院（上智大学、上智短期大学部、上智社会福祉専門学校）	16,673人	20年10月1日	
27	国際基督教大学	3,165人	21年4月1日	
28	学習院女子大学	1,900人	21年11月1日	
29	獨協大学	9,396人	22年4月1日	
30	学習院大学	9,336人	22年4月1日	
31	東京工業大学	12,148人	22年7月1日	
32	日本女子大学	8,645人	23年4月1日	
33	二松学舎大学	2,980人	23年5月1日	
34	東京家政大学・東京家政大学短期大学部	7,068人	23年6月1日	
35	神奈川大学	19,083人	24年6月1日	
36	日本工業大学	4,975人	24年7月1日	
37	東京女子大学	4,468人	24年8月1日	
38	尚美学園大学	3,283人	25年4月1日	
39	中央大学	31,746人	25年6月1日	
40	麗澤大学	2,858人	25年6月1日	
41	慶応義塾大学	44,991人	25年8月1日	
42	一橋大学	6,910人	25年11月1日	
43	共立女子大学・共立女子短期大学	5,521人	26年4月1日	
44	成城大学　文芸学部	1,975人	26年4月1日	
45	日本文化大學	800人	27年4月1日	
46	鶴見大学　文学部　文学研究科	1,433人	27年5月1日	
47	十文字学園女子大学・十文字学園女子大学短期大学部	3,508人	27年6月1日	
48	早稲田大学　文化構想学部　多元文化論系	562人	27年6月1日	
49	東京外国語大学	4,895人	28年4月1日	
50	横浜国立大学	10,792人	28年4月1日	
51	國學院大學	12,599人	28年4月1日	
52	聖心女子大学	2,620人	28年5月1日	

※キャンパスメンバーズ対象人数が学生＋教員数のため、学生数には教員の人数も含む。

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズ教育連携事業	
期　　間	5月6日、7月29日（2日間）
開催場所	平成館小講堂
参加者数	38人
担当研究員数	1人
事業内容	クリエイティブデザイン専攻3年生を対象にした授業「セールスプロモーション」に協力。キャンパスメンバーズの活性化策を提案させる授業を実施。初回では東博の概要と鑑賞方法、現在の来館者像とキャンパスメンバーズの取組や課題などの講義を行った。2回目はキャンパスメンバーズ加入校学生の入館率向上について東博職員に向けてプレゼンテーションを行った。

【京都国立博物館】

①　加入校数（27校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	佛教大学	18,349人	19年4月1日	奈良博との2館併用	
2	就実大学人文科学部	1,034人	20年4月1日	奈良博との2館併用	
3	学校法人同志社	40,110人	19年4月1日	奈良博との2館併用	
4	奈良大学	3,847人	19年5月1日	奈良博との2館併用	
5	学校法人　関西大学	30,635人	23年6月1日	奈良博との2館併用	
6	学校法人　京都産業大学	14,372人	24年8月1日	H28より京博のみ	
7	帝塚山大学・附属高等学校	3,528人	18年6月1日	奈良博との2館併用	
8	奈良女子大学	2,692人	18年6月1日	奈良博との2館併用	
9	京都造形芸術大学	9,835人	18年6月1日	京博のみ	
10	京都工芸繊維大学	4,077人	19年6月1日	奈良博との2館併用	
11	京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学	779人	18年7月1日	奈良博との2館併用	
12	京都精華大学	3,464人	18年7月1日	奈良博との2館併用	
13	龍谷大学・龍谷短期大学	20,596人	18年7月1日	奈良博との2館併用	
14	京都女子大学・京都女子短期大学	7,575人	18年7月1日	京博のみ	
15	京都橘大学	4,859人	18年7月1日	奈良博との2館併用	
16	京都教育大学・附属高等学校	2,357人	20年7月1日	奈良博との2館併用	
17	成安造形大学	803人	18年8月1日	京博のみ	
18	京都市立芸術大学	1,078人	20年8月1日	京博のみ	
19	京都大学	23,391人	18年9月1日	奈良博との2館併用	
20	近畿大学文芸学部	2,187人	18年9月1日	奈良博との2館併用	
21	花園大学	2,077人	18年11月1日	京博のみ	
22	奈良先端科学技術大学院大学	1,161人	19年12月1日	奈良博との2館併用	
23	大谷大学・大谷短期大学	3,414人	18年12月1日	京博のみ	
24	大阪大学	24,555人	20年12月1日	奈良博との2館併用	
25	京都外国語大学・京都外国語短期大学	4,793人	21年8月1日	奈良博との2館併用	
26	京都府立大学	2,136人	23年7月1日	京博のみ	
27	立命館大学	36,132人	26年4月1日	奈良博との2館併用	

奈良国立博物館】

①加入校数（25校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	奈良教育大学	1,382人	18年4月4日	奈良博のみ	
2	奈良学園大学　（奈良文化高等学校、奈良学園高等学校、奈良学園大学奈良文化女子短期大学部、奈良学園登美ヶ丘高等学校）	2,519 人	18 年 10 月 1 日	同上	
3	奈良佐保短期大学	290人	18 年 11 月 29 日	同上	
4	天理大学	3,262人	20 年 7 月 1 日	同上	
5	奈良県立大学	654人	21年4月1日	同上	
6	奈良工業高等専門学校	1,072人	23年7月1日	同上	
7	帝塚山大学	3,829人	18 年 5 月 8 日	京博との2館併用	
8	奈良女子大学	2,692人	18年5月15日	同上	
9	京都嵯峨芸術大学、京都嵯峨芸術大学短期大学部	779人	18年6月9日	同上	
10	京都精華大学	3,464人	18年6月28日	同上	
11	京都橘大学	4,859人	18年6月30日	同上	
12	龍谷大学、龍谷大学短期大学部	20,596人	18年6月30日	同上	
13	京都大学	23,391人	18年8月22日	同上	
14	近畿大学文芸学部、近畿大学大学院総合文化研究科	2,171人	18年8月24日	同上	
15	佛教大学	18,349人	19年4月1日	同上	
16	奈良大学	3,847人	19 年 5 月 2 日	同上	
17	京都工芸繊維大学	4,077人	19年6月1日	同上	
18	学校法人　同志社　（同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校）	40,110人	19年6月1日	同上	
19	奈良先端科学技術大学院大学	1,161人	19年11月7日	同上	
20	就実大学　人文科学部	1,034人	20年4月1日	同上	
21	京都教育大学、京都教育大学附属高等学校	2,357人	20年7月1日	同上	
22	大阪大学、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校	24,555人	20年12月1日	同上	
23	京都外国語大学、京都外国語短期大学	4,793人	21年8月1日	同上	
24	関西大学、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部	33,440人	23年6月1日	同上	
25	立命館大学	36,132人	26年4月1日	同上	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズカード	
内　　容	キャンパスメンバーズ加入大学の学生のリピート来館を促すことを目的にキャンパスメンバーズカードを作成、 来館毎にスタンプを押印し、３回目と６回目に当館のオリジナルグッズを進呈するスタンプラリーを実施。 キャンパスメンバーズカードと併せて、告知のポスターとカード立てを作成しキャンパスメンバーズ加入大学に配布。

【九州国立博物館】

①　加入校数（25校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	九州産業大学	10,627人	28年4月1日	
2	九州情報大学	440人	28年4月1日	
3	九州大学	19,174人	26年4月1日	
4	久留米大学	6,887人	28年4月1日	
5	西南学院大学	8,392人	28年4月1日	
6	第一薬科大学	1,173人	28年4月1日	
7	筑紫女学園大学	2,637人	27年4月1日	
8	日本赤十字九州国際看護大学	477人	26年4月1日	
9	日本経済大学（福岡キャンパス）	2,685人	26年5月1日	
10	福岡教育大学	5,703人	26年4月1日	
11	福岡国際大学	298人	28年4月1日	
12	福岡女子大学	1,065人	27年4月1日	
13	福岡大学	21,014人	28年4月1日	
14	放送大学福岡学習センター	2,330人	26年4月1日	
15	早稲田大学大学院情報生産システム研究科（北九州キャンパス）	376人	26年4月1日	
16	九州造形短期大学	270人	28年4月1日	
17	筑紫女学園大学短期大学部	286人	27年4月1日	
18	福岡女子短期大学	492人	28年4月1日	
19	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	150人	28年4月1日	
20	久留米大学附設高等学校	595人	28年4月1日	
21	西南学院高等学校	1,322人	28年4月1日	
22	筑紫女学園高等学校	1,437人	27年4月1日	
23	筑紫台高等学校	1,900人	27年4月1日	
24	福岡大学附属大濠高等学校	1,951人	28年4月1日	
25	福岡大学附属若葉高等学校	1,128人	28年4月1日	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：きゅーはくカフェコンサート	
内　　容	カフェコンサート（福岡女子短期大学の学生による演奏）
実施期間	4月15日、5月27日、6月10日、7月8日、8月26日、9月30日、12月2日、29年2月10日、3月24日
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）

事業名：「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業（文化芸術振興費補助金）」学芸員技術研修会	
内　　容	研修会（九州産業大学の学生および学芸員を対象）
実施期間	9月21日
開催場所	研修室および文化交流展示室

事業名：バックヤードツアー	
内　　容	バックヤードの見学、案内
実施期間	4月27日
開催場所	九州国立博物館内

1-(3)-①-6 「留学生の日」

館名・日程	内容	アンケート結果概要
東京国立博物館 10月8日(土) 9：30～17：00	○参加者数　　676人《887人》 ・無料観覧（総合文化展のみ） ・ボランティアによる茶会 参加者数：30人 ・気軽にお茶体験 参加者：134人 ・ボランティアによる英語ガイド 参加者数：431人 ・ボランティアによるガイドツアー 参加者数：156人	・留学生アンケート回答者数16人 （回収率16%） ・来館頻度：初めて94%、2回目以降6% ・認知経路：ポスター・チラシ 36%、友人・教師24%　他 ・出身国：中国37.5%　他 ・また博物館に来たいか：ぜひ来たい 28.5%来たい64.2%、たぶん来ない7%、来ない0%
京都国立博物館 9月9日(金) 無料観覧9：30～20：00 茶道体験10:30～16:30	○参加者数　33人《185人》 留学生　30人《185人》 同伴者　3人《0人》 ・名品ギャラリー無料観覧 ・無料茶道体験 参加者数　29人	・留学生アンケート回答者数4人（男1、女3） （回収率12%） ・来館頻度：初めて75%、2回目以降25% ・「留学生の日」：初めて100% ・認知経路：HPを見て25%、友人・教師25%　他50% ・展示内容：とても良かった50%、良かった50% ・茶道体験：とても良かった25%、無回答75% ・出身国：中国100% ・現住所：京都市内75%、大阪府1人
奈良国立博物館 11月1日(火) 9：00～18:00 (正倉院展会期中のため9：00開館)	○来館者数　11,549人《16,352人》 留学生　49人《94人》 ・「正倉院展」(特別展)及び「名品展」の無料観覧	・アンケート実施せず （正倉院展開催中につき実施困難）
九州国立博物館 11月3日(木・祝) 9：30～17：00	○来館者数 文化交流展(平常展)　1,626人《4,039人》 留学生　13人《　16人》 ※同伴者のカウントはなし ・文化交流展（平常展）のみ無料観覧 ・留学生限定文化交流ツアーin九博	・文化交流ツアー参加者アンケート 回答13人（回収率93%） ・1年間の来館頻度：1回15%、2回15%、3回39%、4回23%、5回8% ・認知経路：ホームページ15%、友達から39%、学校から31%、メール15% ・満足度：とても楽しかった61%、楽しかった39% ・スタッフの対応について：とてもよかった84%、よかった8%、普通だった8%

＊来館者数、参加者数等：《　　》内は平成27年度

1-(3)-①-7　ボランティア受入実績　　（後述の資料に記載）◎共通資料b

1-(3)-①-8 友の会・パスポート等

1）会員数

友の会　　平成29年3月31日現在

区分 館名	友の会会員数 (年会費10,300円) ※継続：9,800円/東京国立博物館
東京国立博物館	2,337人
九州国立博物館	268人

パスポート　　平成29年3月31日現在

区分 (年会費) 館名	パスポート会員数	一般 (4,100円)	一般 (3,100円)	29歳以下 (3,000円)	学生 (2,500円)	学生 (2,100円)	家族 (6,200円)
東京国立博物館	23,778人	22,176人	―	614人	988人	―	―
京都国立博物館	5,493人	―	5,327人	―	―	166人	―
奈良国立博物館	3,739人	―	3,597人	―	―	106人	36人
九州国立博物館	5,748人		3,660人			2,088人	

ベーシック(26年4月1日より新設)　　平成29年3月31日現在

区分 (年会費) 館名	ベーシック会員数	一般 (1,500円)	29歳以下 (1,100円)	学生 (900円)
東京国立博物館	2,369人	2,027人	268人	74人

2）友の会会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

『東京国立博物館ニュース』、東大寺講演会開催案内送付、コンサートの鑑賞割引、当館ミュージアムショップの商品の一部割引、レストラン・カフェでの飲食料金の割引、総合文化展招待券の配布。

【九州国立博物館】

季刊情報誌「アジアージュ」、トピック展示ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付、当館ミュージアムショップ・レストラン･カフェでの割引、入会時の記念品プレゼント。

1-(3)-①-9 賛助会

1) 会員数

平成29年3月31日現在

館名	東京国立博物館	京都国立博物館		奈良国立博物館
		（一般社団法人清風会）	（ミュージアム・パートナー）	
件数	455件	362人	8件	73件
内訳	プレミアム会員(個人)：3人 特別会員(団体)：19団体 特別会員(個人)：8人 維持会員(団体)：45団体 維持会員(個人)：380人	賛助会員（団体）：32人 特別会員（団体）：25人 特別会員（個人）：39人 普通会員（団体）：13人 普通会員（個人）：253人	団体会員：7件 個人会員：1件	特別支援会員：4団体 特別会員：4団体 一般会員(団体)：15団体 一般会員(個人)：50人

2) 賛助会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

①当館総合文化展、特別展（維持会員および特別会員個人は展覧会毎に1回）の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待
④『東京国立博物館ニュース』（年6回）の配布
⑤当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑥当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

【京都国立博物館】

①『京都国立博物館だより』（年4回）の配布
②当館平常展（平成知新館名品ギャラリー）、特別展の無料観覧
③清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
④当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑤国際シンポジウム（年1回）案内の発送

【奈良国立博物館】

①当館平常展、特別展の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③展覧会図録の1冊贈呈
④『奈良国立博物館だより』（年4回）の配布
⑤当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
⑥当館レストランでの飲食料金の割引
⑦当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
・4月12日（火）　特別展「国宝　信貴山縁起絵巻」
　特別鑑賞会　参加人数49名
・7月26日（火）　特別展「忍性　―救済に捧げた生涯―」
　特別鑑賞会　参加人数33名
・10月24日（月）　特別展「第68回正倉院展」
　特別鑑賞会　参加人数120名

1-(3)-①-10 渉外活動

平成 29 年 3 月 31 日現在

【東京国立博物館】

1) 会場提供　1 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者数（人）
1	11 月 10 日～11 月 15 日	展示会	台東区主催によるイベント（伝統工芸職人展）	平成館ラウンジ	13,085

2) 館主催・協力イベント　33 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	タイトル	会場	出席者数（人）	備考
1	4 月 5 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2016「東博でバッハ vol.30」有希 マヌエラ・ヤンケ	法隆寺宝物館	115	東京・春・音楽祭実行委員会共催
2	4 月 13 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2016「東博でバッハ vol.31」エマヌエーレ・セグレ	法隆寺宝物館	96	東京・春・音楽祭実行委員会共催
3	6 月 5 日	イベント	初夏東博寄席	平成館大講堂	299	当館主催
4	6 月 12 日	音楽会	東京国立博物館　初夏のコンサート	平成館ラウンジ	234	サロン・ド・ソネット共催
5	6 月 19 日	音楽会	ファミリーコンサート	平成館ラウンジ	480（2 回計）	東京クラリネット･クワイアー共催 上野のれん会、東京国立博物館協力会協賛
6	7 月 15 日 7 月 16 日	イベント	博物館で野外シネマ 映画「時をかける少女」（2006 年、細田守監督）	本館前	6,827（2 回計）	当館主催
7	8 月 15 日	音楽会	日本の楽器のコンサート	本館エントランス	500	当館主催
8	8 月 24 日	イベント	仕事帰りに東博寄席	平成館大講堂	97	当館主催
9	9 月 10 日	講演会	上野の山文化ゾーンフェスティバル 講演会シリーズ「和紙の魅力」	平成館大講堂	250	上野の山文化ゾーン連絡協議会
10	9 月 20 日～10 月 1 日	イベント	柳瀬荘アートプロジェクト	柳瀬荘	197	日本大学芸術学部共催
11	9 月 22 日	音楽会	東京国立博物館　秋のコンサート	平成館ラウンジ	223	サロン・ド・ソネット共催
12	9 月 26 日	音楽会	アジアの旅　シタールの演奏	東洋館	440（2 回計）	当館主催
13	9 月 28 日	音楽会	アジアの旅　古箏・馬頭琴の演奏	東洋館	670（2 回計）	当館主催
14	10 月 8 日	講演会	上野の山文化ゾーンフェスティバル 講演会シリーズ「東博における翻訳」	平成館大講堂	110	上野の山文化ゾーン連絡協議会
15	10 月 10 日	イベント	アジアの旅　中国伝統芸術ショー	東洋館前	1,100（2 回計）	当館主催
16	10 月 14 日 10 月 15 日	イベント	博物館で野外シネマ 映画「秒速 5 センチメートル」（2007 年、新海誠監督）	本館前	10,500（2 回計）	当館主催
17	10 月 29 日	音楽会	Music Weeks in TOKYO 2016 まちなかコンサート	法隆寺宝物館	300	東京文化会館他共催
18	11 月 3 日～11 月 5 日	イベント	創エネ･あかりパーク 2016 に伴うライトアップ	本館前庭	―	「創エネ・あかりパーク 2016」実行委員会共催
19	11 月 9 日	講演会	東大寺講演会	平成館大講堂	285	東大寺共催
20	29 年 1 月 2 日	イベント	和太鼓（批魅鼓）	本館前	1,296	当館主催
21	29 年 1 月 2 日	イベント	曲独楽・落語（三増紋之助・三遊亭歌奴）	平成館大講堂	935	当館主催
22	29 年 1 月 2 日	イベント	獅子舞（東部葛西囃子睦会中村社中）	本館前	1,430	当館主催
23	29 年 1 月 2 日	イベント	ニューイヤーオペラコンサート(カンターレ 2020)	本館前	957	当館主催
24	29 年 1 月 3 日	イベント	和太鼓（白梅太鼓）	本館前	1,628	当館主催
25	29 年 1 月 3 日	イベント	曲独楽・落語（三増紋之助・三遊亭歌奴）	平成館ラウンジ	785	当館主催
26	29 年 1 月 3 日	イベント	クラリネット（ジュリアンズ）	平成館ラウンジ	723	当館主催
27	29 年 1 月 3 日	イベント	獅子舞（東部葛西囃子睦会中村社中）	本館前	1,311	当館主催
28	29 年 1 月 8 日	イベント	新春東博寄席	平成館大講堂	358	当館主催
29	29 年 3 月 10 日	音楽会	東京国立博物館×東京･春･音楽祭　夜の音巡り～桜の街の音楽会スペシャル	本館池前　他	650（4 回計）	東京・春・音楽祭実行委員会共催
30	29 年 3 月 22 日	音楽会	東京･春･音楽祭 201「東博でバッハ vol.32」御喜美江	法隆寺宝物館	111	東京・春・音楽祭実行委員会共催
31	29 年 3 月 25 日	イベント	東京･春･音楽祭 2017「東博でバッハ vol.33」イェンス＝ペーター・マインツ	平成館ラウンジ	240	東京・春・音楽祭実行委員会共催

	期間	種類（イベント、講演会等）	タイトル	会場	出席者数（人）	備考
32	29年3月28日	イベント	東京･春･音楽祭2017「東博でバッハvol.34」北村朋幹	平成館ラウンジ	147	東京・春・音楽祭実行委員会共催
33	28年3月31日	イベント	東京･春･音楽祭 2017　桜の街の音楽会　ヴァイオリン・ソロ	法隆寺宝物館エントランス	300	東京・春・音楽祭実行委員会共催

【京都国立博物館】

1）会場提供　　86件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4月6日	撮影	写真撮影（結婚式前撮り）	茶室	4	（株）ラリアンス
2	4月14日	研修	修理技術者資格制度　新任者研修会	研修室	15	国宝修理装こう師連盟
3	4月16日	茶席	茶会	茶室	5	上月　宗佳
4	4月19日	撮影	写真撮影（結婚式前撮り）	茶室	5	（株）elle pupa
5	4月20日	講義･交流会	三古都R.C.合同懇親会	講堂、グランドロビー	141	京都ロータリークラブ
6	4月27日	茶席	茶会	茶室	5	（株）Small J
7	4月27日	講義	展覧会解説	講堂	43	東武トップツアーズ（株）
8	5月5日	撮影	写真撮影（成人式前撮り）	茶室	12	オンディーヌ京都烏丸店
9	5月13日	審査会	修理技術者資格制度　登録審査	研修室・会議室	15	国宝修理装こう師連盟
10	5月15日	茶席	茶会	茶室	5	上月　宗佳
11	5月20日	茶席	茶会	茶室	9	（株）Small J
12	5月21日	撮影	写真撮影（商品撮影）	茶室	11	（有）京都きもの町
13	5月29日	撮影	写真撮影講習会	茶室	30	京都新聞文化センター
14	5月30日	撮影	写真撮影（商品撮影）	平成知新館・レストラン	6	パブリック（株）
15	6月1日	茶席	茶会	茶室	9	（株）Small J
16	6月3日	講義	シアター鑑賞、建築解説	講堂	16	ウィスコンシン州立大学ミルウォーキー校
17	6月7日	演奏会	演奏会	茶室	15	荒井　康人
18	6月9日	茶席	茶会	茶室	50	香道　泉御流
19	6月11日	イベント	結婚式・披露宴	本館前広場、技術資料参考館、グランドロビー	59	株式会社キュー
20	6月17日	茶席	茶会	茶室	9	（株）Small J
21	6月22日	特別鑑賞会	懇親会、鑑賞会	講堂、グランドロビー	40	（株）聖護院八ツ橋総本店
22	6月26日	茶席	茶会	茶室	5	上月　宗佳
23	7月8日	講習会	修理技術者資格制度　講習会	研修室・会議室	40	国宝修理装こう師連盟
24	7月17日	茶席	中国茶事	茶室	10	うつわ京都やまほん
25	7月19日	撮影	写真撮影（商品撮影）	本館前広場	5	アルファルファ
26	8月1日・10日・23日・30日・31日・9月7日・8日	練習会	合唱団稽古	講堂	93	さわかみオペラ芸術振興一般財団法人
27	8月7日	イベント	野外オペラ「トゥーランドット」プレイベント『オペラって、こんなにおもしろい！』	講堂、接客室	219	さわかみオペラ芸術振興一般財団法人
28	8月8日	撮影	日経ビジネスオンライン取材	茶室	4	南條　正典
29	8月27日	撮影	写真撮影（舞妓撮影会）	茶室	4	今井　貴弘
30	8月28日	講義	庭園学講座	講堂	80	京都造形芸術大学
31	9月2日	勉強会	京都美術クラブ勉強会	講堂	50	京都美術青年会
32	9月7日～9日	講義	展示論講座	研修室、会議室、講堂、接客室	118	日本展示学会
33	9月8日	撮影	写真撮影（和服カタログ）	茶室	5	（株）瑞穂
34	9月9日	イベント	VIDAL SASSOON SPECIAL EVENT	講堂	50	京都理容美容専修学校
35	9月12日	撮影	ドラマ撮影	明治古都館前広場、噴水前広場、グランドロビー、接客室1・2	30	株式会社松竹撮影所
36	9月14日	会議	修理技術者資格制度　準備委員会	研修室・会議室	10	国宝修理装こう師連盟
37	9月27日	講義	埼玉大学教育学部付属中学校州修学旅行	講堂	200	株式会社　湯旅
38	10月1日～2日	茶席	茶会	茶室	100	梶　高明
39	10月3日	交流会	歓迎レセプション	グランドロビー、水盤上テラス、本館前広場、噴水広場、接客室、屋外テラス	500	STS フォーラム支援京都実行委員会
40	10月5日	資格試験	修理技術者資格制度　1次試験	研修室・会議室	20	国宝修理装こう師連盟

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
41	10 月 5 日・9 日	研修	従事者研修	講堂、大会議室	60	株式会社ザ・アール大阪支店
42	10 月 9 日～10 日	茶席	歌会・茶会・書筆展	茶室	70	山茶花社
43	10 月 16 日	演奏会	篠笛の演奏と体験会	茶室	20	榊原　恭子
44	10 月 17 日	撮影	写真撮影	茶室	10	京都フラワーツーリズム
45	10 月 31 日	撮影	製品カタログ用写真	1F ロビー、ホワイエ、接客室	7	タキヤ株式会社
46	11 月 2 日	撮影	取材場所	茶室	7	（株）ユース・プラニング・センター
47	11 月 2 日	資格試験	修理技術者資格制度　2 次試験	研修室・会議室	20	国宝修理装こう師連盟
48	11 月 3 日	講義	展覧会解説	講堂	9	株式会社三越伊勢丹旅行
49	11 月 4 日～5 日	茶席	茶会	茶室	200	五条坂茶わん坂ネットワーク
50	11 月 5 日	講義	展覧会解説	講堂	34	株式会社三越伊勢丹旅行
51	11 月 6 日	茶席	茶会	茶室	5	上月　宗佳
52	11 月 9 日	講義	建築解説・展示解説	講堂	70	ケイミュー株式会社（JTB）
53	11 月 11 日	撮影	写真撮影（結婚式前撮り）	茶室	4	（株）ラリアンス
54	11 月 14 日	撮影	ドラマ撮影	明治古都館前広場	45	東映株式会社
55	11 月 16 日	交流会	ワインスクール	グランドロビー、接客室	79	自由が丘ワインスクール
56	11 月 17 日～20 日	イベント	太閤まつり広報ブース設営	正門前通路	4	東山南部地域活性化委員会
57	11 月 18 日	撮影	写真撮影（結婚式前撮り）	茶室	4	（株）ラリアンス
58	11 月 20 日	撮影	写真撮影（A-Style 取材）	茶室	6	（有）ディー・アーキテグノ
59	11 月 22 日	研修	H28 年度研修会	講堂	100	京都府文化財所有者等連絡協議会
60	11 月 23 日	撮影	写真撮影（ヨガ）	茶室	15	PATARI
61	11 月 23 日	茶席	茶会	茶室	14	歩々佳風
62	11 月 25 日～26 日	講習会	講習会	研修室、会議室	15	国宝修理装こう師連盟
63	11 月 26 日	撮影	写真撮影（コスプレ）	茶室	8	福井　香月
64	11 月 27 日	茶席	茶会	茶室	5	菊地原　節子
65	12 月 3 日	撮影	写真撮影（島原菊川太夫）	茶室	4	祇園新地　甲部お茶屋
66	12 月 4 日	茶席	茶会	茶室	7	（株）Small J
67	12 月 5 日	交流会	懇親会	グランドロビー	100	京信ジュニア・オーナー・クラブ
68	12 月 11 日	茶席	茶会	茶室	5	上月　宗佳
69	12 月 13 日	撮影	TV-CM 撮影	噴水広場	15	株式会社高映企画
70	12 月 16 日	研修会	H28 年度京博連加盟施設職員研修会	講堂	200	京都市内博物館施設連絡協議会
71	12 月 16 日	講習会	研究例会	講堂	30	西陣織物研究会
72	12 月 17 日	茶席	茶会・演奏会	茶室	10	「お茶と音楽のハーモニー」実行委員会
73	12 月 18 日	茶席	茶会	茶室	45	春秋山荘
74	29 年 1 月 15 日	演奏会	オーディション	講堂	200	日本イタリア協会
75	29 年 1 月 20 日	茶席	茶会	茶室	6	（株）Small J
76	29 年 1 月 21 日～22 日、2 月 4 日～5 日	茶席	茶会	茶室	30	（株）NHK 文化センター京都支社
77	29 年 1 月 23 日	撮影	カタログ撮影	グランドロビー、明治古都館前、噴水広場、正門前	10	有限会社 K's Plus
78	29 年 2 月 6 日	茶席	茶会	茶室	19	陳　剛
79	29 年 2 月 14 日	撮影	取材場所	茶室	4	（株）ウェッジ
80	29 年 2 月 26 日	演奏会	オーディション	講堂	204	公益財団法人　さわかみオペラ芸術振興財団
81	29 年 3 月 3 日	講義	展示解説	講堂	30	株式会社 J-MIND
82	29 年 3 月 5 日	撮影	写真撮影（芸舞妓）	茶室、正門前広場	25	（株）ライカカメラ
83	29 年 3 月 17 日	撮影	商品撮影	茶室	11	（有）京都きもの町
84	29 年 3 月 20 日	撮影	写真撮影（花魁）	茶室	10	エニシモ撮影会
85	29 年 3 月 24 日	茶席	茶会	茶室	5	（株）Small J
86	29 年 3 月 30 日～31 日	茶席	茶会	茶室	5	（株）Small J

2） 館主催・協力イベント　　30 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	タイトル	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 12 日、15 日、19 日、22 日、26 日、29 日、5 月 3 日、6 日、10 日、13 日、17 日、20 日	イベント	ロビー講話	グランドロビー	12 日間計 3,224	主催：当館、臨済宗黄檗宗連合各派合議所、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞
2	4 月 17 日、21 日、5 月 1 日、5 日、12 日、19 日	イベント	坐禅会	講堂	6 日間計 1,247	主催：当館、臨済宗黄檗宗連合各派合議所、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞
3	4 月 27 日	イベント	京都春の禅寺一斉公開事業 PR	京都美風コーナー（京都駅ビルインフォメーション前）	100	主催：公益社団法人京都市観光協会
4	4 月 29 日 5 月 8 日	イベント	声明―禅の祈り	講堂	180 180	主催：当館、臨済宗黄檗宗連合各派合議所、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞
5	5 月 3 日	イベント	四頭茶会	講堂	180	主催：当館、臨済宗黄檗宗連合各派合議所、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞
6	5 月 13 日	落語	京都・らくご博物館（春）～新緑寄席～	講堂	135	協力：米朝事務所
7	5 月 15 日	イベント	狂言「にせ地蔵」「でんでん虫」	講堂	180	主催：当館、臨済宗黄檗宗連合各派合議所、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞
8	5 月 18 日	音楽会	Hijiya Music Club コンサート	講堂	192	主催：土屋医院
9	8 月 5 日	落語	京都・らくご博物館（夏）～納涼寄席～	講堂	155	協力：米朝事務所
10	9 月 7～9 日	講演会	日本展示学会　2016 年度展示論講座―博物館の展示	講堂、会議室	32	主催：日本展示学会　共催：京都国立博物館
11	10 月 1 日	音楽会	ヒジヤミュージッククラブオータムコンサート 2016	講堂	122	主催：土屋医院
12	10 月 8 日	音楽会	音燈華コンサート	正門前広場・噴水広場	538	共催：大和ハウス
13	10 月 16 日	イベント	京都国際映画祭共催企画「時代劇は死なず ちゃんばら美学孝」上映会＋トークイベント	講堂	180	共催：京都国際映画祭実行委員会
14	10 月 21 日	落語	京都・らくご博物館（秋）～錦秋寄席～	講堂	128	協力：米朝事務所
15	11 月 3 日	イベント	「刀剣乱舞 DAY」特別トークショー	講堂	200	主催：当館、読売新聞社、読売テレビ
16	11 月 15 日	音楽会	月琴コンサート	講堂	146	主催：当館、読売新聞社、読売テレビ
17	11 月 22 日	講演会	平成 28 年度京都府文化財所有者等連絡協議会研修会	講堂	132	主催：京都府文化財所有者等連絡協議会
18	12 月 10 日	イベント	「MOA 美術館児童作品展 in 九州国立博物館」コラボ企画　トラりんがきゅーはくにやってくる！	九州国立博物館 ミュージアムホール	100	主催：MOA 美術館「MOA 美術館児童作品展 in 九州国立博物館」実行委員会 共催：九州国立博物館
19	12 月 13 日	会議	文化財防災ネットワーク推進事業　中部・近畿文化財関係者による文化財防災連絡会議	講堂	74	主催：当館、奈良国立博物館、奈良文化財研究所
20	12 月 13 日～14 日	研修	関西博物館連盟第１５６回例会・幹事会・研修会	講堂、会議室	12	主催：関西博物館連盟
21	12 月 31 日	イベント	開館 120 周年記念カウントダウン	講堂、庭園	1000	共催：大和ハウス
22	29 年 1 月 2 日	対談	新春・京博こと始め 2017「山口晃×佐々木丞平 覗いてみよう、山口晃の頭の中」	講堂	204	主催：当館、凸版印刷社
23	29 年 1 月 2 日	音楽会	ヒジヤミュージッククラブ新春コンサート	講堂	220	主催：当館、共催：土屋医院
24	29 年 1 月 3 日	イベント	親子で餅つき大会	庭園	250	主催：当館
25	29 年 1 月 8 日	イベント	芸舞妓　春の舞	グランドロビー	400	主催：当館
26	29 年 1 月 27 日	落語	京都・らくご博物館（冬）～特別企画・ざこば一門会～	講堂	134	協力：米朝事務所
27	29 年 2 月 4 日	イベント	京あるき　in 東京	KITTE1 階アトリウム	100	主催：京都市、京都商工会議所、（公社）京都市観光協会、京都創生再生フォーラム
28	3 月 11 日	コンサート	京都国立博物館 120 周年記念コンサート　―文化財を守り未来へ継承！　3.11 を決意の日に―	明治古都館	200	主催：京都国立博物館 120 周年記念コンサート実行委員会

	期間	種類（イベント、講演会等）	タイトル	会場	出席者（人）	備考
29	3月18日	イベント	京キャラ博・京都ほんまもん祭	庭園、明治古都館	7,245	主催：当館、京都府、京都府商工会連合会、京都府商工会議所連合会、主管：株式会社キュー
30	3月25日、26日	イベント	開館120周年記念呈茶	茶室	169	主催：当館

【奈良国立博物館】

1）会場提供　23件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4月26日～4月27日	茶会	茶会	茶室	10	裏千家教授小林順子
2	7月3日	コンサート	吉桑道子「宇宙に祈る」ゴスペルコンサート	仏教美術資料研究センター	70	吉桑道子「宇宙に祈る」ゴスペルコンサート実行委員会
3	7月6日	講演会	「東大寺と奈良町周辺の文化財を訪ねて」	講堂	49	岐阜県文化財保護協会
4	8月6日～8月7日	コンサート	音燈華　ジュスカ・グランペール（ギター・バイオリンの演奏）	庭園・西新館南ピロティ	872	寧屋舎中合同会社
5	8月8日	会議	能楽学会常任委員会	会議室	18	能楽学会
6	8月8日	セミナー	能楽に関する研究会「世阿弥忌セミナー」	講堂	91	能楽学会
7	8月27日～8月28日	敷地提供	24時間テレビ募金会場	新館玄関前ピロティ	—	読売テレビ24時間テレビ事務局
8	9月29日	講演会	「奈良古典芸能フェスティバル」参加者への「なら仏像館」解説と見学	講堂・展示室	12	京都観光企画（株）
9	10月21日～11月7日	休憩所	休憩所及び甘味の販売	新館西側敷地	—	(株)鶴屋吉信
10	10月21日～11月7日	キャンペーン	正倉院展図録、グッズ等の販売	西新館・地下回廊	—	(財)仏教美術協会
11	10月22日～11月7日	茶席	正倉院展「野点のお茶席」	西新館南側ピロティ・庭園	13,448	結の会
12	10月22日～11月7日	休憩所	休憩所及びフード・ドリンクの販売	新館西側敷地	—	㈲日本クリーンシステムズ
13	10月22日～11月7日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	—	校倉な会
14	10月22日～11月7日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	—	なら和み館
15	10月22日～11月7日	キャンペーン	郵便切手・はがき類の販売	新館西側敷地	—	奈良中央郵便局
16	11月7日	視察調査	正倉院展の概要説明聴取	会議室	17	福岡県議会文教委員会
17	11月13日	イベント	「フェラーリ・カヴァルケードインターナショナル2016」	なら仏像館西側敷地	—	Ferrari spa
18	12月17日	敷地提供	春日若宮おん祭執行に係る敷地提供	一の鳥居付近の敷地	—	春日大社
19	29年1月18日	講演会	春日大社神職による講演	講堂	70	
20	29年2月8日	講義	特別講義「お水取りと奈良時代の文化」	講堂・展示室	197	
21	29年2月9日	茶会	第四回珠光茶会	茶室	100	
22	29年2月10日	講演会	「総合的な学習の時間」のための鹿愛護会による講演	講堂	86	
23	29年3月26日	茶会	茶会	茶室	50	

2）館主催・協力イベント　52件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4月2日～4月3日	イベント	庭園定点解説	庭園	—	
2	4月7日～5月22日	展示	特別展「信貴山縁起絵巻」の信貴山真華流のいけばな展示	西新館1Fロビー	—	
3	4月9日・16日・30日	イベント	「しぎとらくん」が奈良博にやってくる！	新館前広場	821	
4	4月10日・16日	イベント	春の庭園散策ツアー	庭園	73	
5	4月11日	鑑賞会	休館日内覧会講堂解説	講堂・展示室	37	クラブツーリズム

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
6	4月12日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	49	
7	4月13日	鑑賞会	わいずクラブ特別鑑賞会	講堂・展示室	131	読売新聞
8	4月13日～4月14日	鑑賞会	タクシー・ホテル等関係者特別鑑賞会	講堂・展示室	68	
9	4月22日	イベント	朝護孫子寺の貫主による講話「毘沙門天王信仰の欲と徳」	講堂	150	
10	4月23日	鑑賞会	夜間特別鑑賞会	講堂・展示室	190	JR東海ツアーズ
11	4月30日	イベント	親と子のワークショップ「空とぶ鉢のおはなし絵巻をつくろう！」	講堂	105	
12	5月10日	イベント	朝護孫子寺の貫主による講話「信貴山の毘沙門天王」	講堂	130	
13	5月12日	イベント	朝護孫子寺の貫主による講話「福の神様毘沙門天王」	講堂	141	
14	5月14日	鑑賞会	夜間特別鑑賞会	講堂・展示室	40	JR東海ツアーズ
15	5月18日	鑑賞会	わいずクラブなら仏像館解説付き小ツアー	なら仏像館	110	読売新聞
16	6月11日～6月12日	講演会	アート・ドキュメンテーション学会シンポジウム及び年次大会	講堂	90	アート・ドキュメンテーション学会
17	6月18日～6月19日	イベント	特別陳列「和紙－近代和紙の誕生－」関連イベント　「紙漉き実演」	西新館1Fピロティ	—	
18	7月16日～9月25日	イベント	ライトアッププロムナード・なら2016	なら仏像館・仏教美術資料研究センター外観	—	ライトアッププロムナード・なら実行委員会
19	7月16日～8月28日	イベント	ライトアッププロムナード・なら2016「浴衣レンタル＆記念撮影」	当館敷地	—	ライトアッププロムナード・なら実行委員会
20	7月26日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	33	
21	7月27日	鑑賞会	タクシー・ホテル等関係者特別鑑賞会	講堂・展示室	38	
22	7月30日	イベント	ワークショップ「描いて飾ろう文殊菩薩」	地下回廊	69	
23	7月30日～7月31日	イベント	親子で楽しむイベント「仏像のカブリモノ」「東大寺大仏の穴くぐり」「なら仏像館親子ツアー」	地下回廊・なら仏像館	435	
24	7月31日	イベント	特別展「忍性」子ども無料日イベント「きく！みる！ふれる！東征伝絵巻」	講堂	58	
25	8月5日～8月14日	観光イベント	なら燈花会オブジェ等を配置	当館敷地	—	なら燈花会の会
26	9月3日～9月4日	講演会	中世都市研究会奈良大会	講堂	267	中世都市研究会奈良大会実行委員会
27	9月18日～9月19日	イベント	春日大社第60次式年造替記念事業第1回春日野音楽祭	新館前広場	—	春日野音楽祭実行委員会
28	10月12日	夜間貸切観覧	「なら仏像館」夜間貸切観覧	展示室	121	日本脈管学会総会
29	10月20日～11月7日	展示	正倉院展　法華寺御流のいけばな展示	西新館1Fロビー	—	
30	10月22日～11月7日	観光イベント	正倉院展「あるくん奈良スタンプラリー」	当館敷地	—	
31	10月23日	鑑賞会	第68回正倉院展親子鑑賞会	講堂・展示室	152	
32	10月24日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	120	
33	10月25日～10月26日	鑑賞会	タクシー・ホテル等関係者特別鑑賞会	講堂・展示室	175	
34	10月26日	観光イベント	「柿の日」に因み、奈良県特産物である柿を配布し、「奈良の柿」をPR	新館前広場	—	奈良県農林部・奈良県農業協同組合
35	10月29日	セミナー	正倉院展特別セミナー	仏教美術資料研究センター	85	
36	11月1日	特別観覧	留学生の日	展示室	49	
37	11月3日	シンポジウム	正倉院学術シンポジウム2016「正倉院正倉」	東大寺総合文化センター金鐘ホール	197	
38	11月19日	イベント	奈良トライアングルミュージアムズワークショップ「写仏散華づくり」	地下回廊	77	
39	11月19日～11月20日	特別鑑賞	関西文化の日	なら仏像館	2,573	
40	11月26日	イベント	秋の庭園散策ツアー	庭園	30	
41	12月4日	セミナー	奈良トライアングルミュージアムズ東京セミナー「冬の奈良と奈良国立博物館の楽しみ」	奈良まほろば館	60	
42	12月17日	茶会	おん祭と春日信仰の美術「茶会」	茶室・庭園・西新館南側ピロティ	62	主催：裏千家　泉本宗悠

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
43	12 月 23 日	特別鑑賞会	奈良国立博物館文化財修復プレミアム・ミュージアム・ビューイング	講堂・展示室・茶室・庭園・仏教美術資料研究センター	24	
44	29 年 1 月 2 日～ 1 月 3 日	イベント	「新春企画　博物館からのお年玉！」	なら仏像館	500	
45	29 年 1 月 12 日	特別公開	「文化財保存修理所特別公開」	講堂・文化財保存修理所	119	
46	29 年 2 月 4 日	コンサート	Daiwa Sakura Aid　Presents「冬の桜」	仏教美術資料研究センター	97	
47	29 年 2 月 8 日～ 2 月 14 日	イベント	なら瑠璃絵オブジェの設置	西新館北側池前	－	
48	29 年 2 月 11 日	講演・鑑賞	『お水取り「講話」と「粥」の会』	講堂・茶室控室・展示室	37	
49	29 年 2 月 13 日	講演会	しあわせ回廊なら瑠璃絵特別講演会	講堂	115	
50	29 年 3 月 1 日 ～11 日、13 日、14 日	特別鑑賞	お水取り展中の定期観光バス向けボランティア解説	展示室	130	
51	29 年 3 月 3 日	講演・鑑賞鑑賞	「お水取り展鑑賞とお松明」	講堂・展示室	154	
52	29 年 3 月 12 日	イベント	「笑い飯哲夫のおもしろ仏教講座」	講堂	140	

【九州国立博物館】

1）会場提供　10 件（イベント、講演会等）

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	3 月 29 日～ 4 月 3 日	展示会	コミュニケーション・アート展	ミュージアムホール	－	主催：NPO 法人コミュニケーション・アート
2	4 月 3 日	講演会	ゴッホ講演会「太陽が燃え尽きる時」	研修室	80	主催：NPO 法人コミュニケーション・アート
—	4 月 16 日	イベント	アイヌの星座ワークショップ in 福岡	研修室	－	＊熊本地震のため中止
3	5 月 14 日、15 日	イベント	ひびきのこづえワークショップ 虫をつくろう３	研修室	150	主催：NPO 法人太宰府アートのたね
4	6 月 4 日	講演会	全国邪馬台国連絡協議会九州支部第 3 回九州地区大会「倭人伝の国々～王たちの登場～」	ミュージアムホール	100	主催：全国邪馬台国連絡協議会九州支部、ふくおかアジア文化塾、九州・アジア文化芸術フォーラム
5	6 月 7 日～ 12 日	展示会	個展（木塗削板画展）	研修室	－	福山稔英
6	9 月 20 日～ 25 日	展示会	きんしゃい有田珠玉の器紀行	ミュージアムホール	－	主催：佐賀県有田焼創業 400 年事業実行委員会
7	11 月 23 日	講演会	シンポジウム「九州の海と島々」 ～その歴史と文化を探る～	ミュージアムホール	150	主催：「九州の海と島の歴史」研究会
8	11 月 25 日～ 27 日	展示会	恋する器と本　有田焼書店	ミュージアムホール	1,600	主催：佐賀県有田町商工観光課
9	11 月 26 日	イベント	有田焼書店デモンストレーション	エントランス	－	主催：佐賀県有田町商工観光課
10	1 月 20 日	講演会	赤米フォーラム　in 九州国立博物館 古代からのメッセージ赤米のねがい 「赤米から考える日本を誇る伝統文化の保存と継承」	ミュージアムホール	80	主催：長崎県対馬市、対馬氏教育委員会、鹿児島県南種子町、南種子町教育委員会、岡山県総社市、総社市教育委員会、豆酘赤米行事保存会、宝満神社赤米お田植え祭り保存会、総社市本庄国司神社赤米保存会、総社市新庄国司神社赤米保存会、福岡県太宰府市、太宰府市教育委員会

実施なし：１件

2）館主催・協力イベント　164 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	3 月 15 日～ 6 月 12 日	イベント	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント 兵馬俑トリックアート	エントランス	318,485	主催：九州国立博物館
2	3 月 27 日	イベント	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント Ｅテレ「びじゅチューン！井上涼×兵馬俑」	ミュージアムホール	482	主催：九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
3	3月29日～4月28日	イベント	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント 山手線キングダム展（前期）	エントランス	76,807	主催：九州国立博物館
4	4月1日～10日	イベント	特別展「始皇帝と大兵馬俑」 8Kスーパーハイビジョン上映会	文化交流展示室内スーパーハイビジョンシアター	7,031	主催：九州国立博物館
5	4月 9日、10日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 登山シーズン到来！ちくしの山特集 ①天拝山の歴史 ②写経埋納法会 ③戦国の花・高橋紹運 ④宝満山の修験道	ミュージアムホール	130	主催：九州国立博物館
6	4月15日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	90	主催：九州国立博物館
—	4月17日	イベント	特別展「始皇帝と大兵馬俑」記念 九州国立博物館杯第5回さいぶごま大会	ミュージアムホール	—	主催：九州国立博物館 ＊熊本地震のため中止
—	4月17日	イベント	第58回はじめての茶道体験	茶室	—	主催：九州国立博物館 ＊熊本地震のため中止
—	4月17日	イベント	太宰府門前真舞祭	屋外レストラン前広場	—	主催： 太宰府門前真舞祭実行委員会 ＊熊本地震のため中止
7	4月23日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 登山シーズン到来！ちくしの山特集 ①天拝山の歴史 ②写経埋納法会 ③戦国の花・高橋紹運 ④宝満山の修験道	ミュージアムホール	70	主催：九州国立博物館
8	4月24日～6月12日	イベント	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連展示 始皇帝の『直道』をゆく	エントランス	204,938	主催：九州国立博物館
9	4月24日	イベント	第1回みゅーじあむ寄席「柳家さん喬独演会 ＆研究員とのトークイベント」	ミュージアムホール	245	主催：九州国立博物館
10	4月29日	イベント	ミュージアムコンサート 「はらのむしのうたげ」	エントランス、他	279	主催：九州国立博物館
—	4月30日～5月1日	イベント	玖珠町ジャンボ鯉のぼり展示	エントランス	—	主催：大分県玖珠町役場商工観光振興課商工観光係 ＊熊本地震のため中止
11	5月3日～5日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 「古より伝わる子への祈り」 ①神功皇后伝説－宇美八幡宮子安祭－ ②北野天満宮御神幸行事 ③ふくおかの成育儀礼と成人儀礼	ミュージアムホール	160	主催：九州国立博物館
12	5月5日	イベント	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント こどもの日特別企画！ ワークショップ「紙で工作！兵馬俑に変身！」	エントランスホール	100	主催：九州国立博物館
13	5月6日～6月12日	イベント	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント 山手線キングダム展（後期）	エントランス	155,257	主催：九州国立博物館
14	5月7日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっぱ	11	主催：九州国立博物館
15	5月14日	イベント	ガムランワークショップ	ミュージアムホール	14	主催：九州国立博物館
16	5月14日	イベント	ガムランワークショップ連続講座（第1回）	ミュージアムホール	3	主催：九州国立博物館
17	5月15日	講演会	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連講演会 講演会「はじめての兵馬俑」	ミュージアムホール	184	主催：九州国立博物館
18	5月21日	イベント	なりきり考古学者体験	あじっぱ	12	主催：九州国立博物館
19	5月21日、22日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 「古（いにしえ）より伝わる子への祈り」 ①稚児風流水田天満宮 ②志式神社の早魃神事 ③大分の獅子舞大分八幡宮	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
20	5月22日	イベント	第65回親子で茶道体験	茶室	46	主催：九州国立博物館
21	5月27日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	80	主催：九州国立博物館
22	5月28日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート “WONDERFUL WORLD”木下航志ソロライブ	ミュージアムホール	280	主催：九州国立博物館
23	5月29日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 「古より伝わる子への祈り」 ①稚児風流水田天満宮 ②志式神社の早魃神事 ③大分の獅子舞大分八幡宮	ミュージアムホール	60	主催：九州国立博物館
24	5月29日	イベント	第59回はじめての茶道体験	茶室	12	主催：九州国立博物館
25	6月5日	講演会	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連講演会 講演会「始皇帝の考古学」	ミュージアムホール	140	主催：九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
26	6月10日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	150	主催：九州国立博物館
27	6月11日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっぱ	11	主催：九州国立博物館
28	6月11日、12日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 「豊穣への祈りと感謝」 ①筑紫神社の粥ト ②太宰府天満宮の農耕神事 ③豊前神楽	ミュージアムホール	160	主催：九州国立博物館
29	6月18日	イベント	作ってみよう「ひのしゅ」お面ワークショップ	エントランス	120	主催：九州国立博物館
30	6月18日	イベント	ガムランワークショップ	ミュージアムホール	15	主催：九州国立博物館
31	6月18日	イベント	ガムランワークショップ連続講座（第2回）	ミュージアムホール	4	主催：九州国立博物館
32	6月19日	講演会	一般社団法人歴史と自然をまもる会設立50周年記念事業 記念講演「正倉院宝物から見た海外交流」 記念フォーラム「アジアと福岡の歴史的点描」	ミュージアムホール	90	主催：一般社団法人歴史と自然をまもる会
33	6月19日	イベント	第60回はじめての茶道体験	茶室	7	主催：九州国立博物館
34	6月25日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 「豊穣への祈りと感謝」 ①筑紫神社の粥ト ②太宰府天満宮の農耕神事 ③豊前神楽	ミュージアムホール	40	主催：九州国立博物館
35	6月26日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート 「はらのむしとゴスペル」	ミュージアムホール	190	主催：九州国立博物館
36	6月26日	イベント	第66回親子で茶道体験	茶室	62	主催：九州国立博物館
37	6月28日～8月10日	イベント	博多祇園山笠関連展示 「もうすぐ飾り山笠がやってくる」	エントランス	118,426	主催：九州国立博物館
38	7月2日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート やっぴい博士のサイエンスラボ もうすぐ夏休みスペシャル 「星と宇宙のタイムトラベル」	ミュージアムホール	130	主催：九州国立博物館
39	7月2日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート 「星と宇宙のタイムトラベル」関連WS 「作ってみよう☆小さなプラネタリウム」	研修室	69	主催：九州国立博物館
40	7月3日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 「ふるさとの夏」 ①筑紫野の瓜封じと丑湯まつり ②だざいふの夏祭り ③細男舞・神相撲－八幡古表神社－	ミュージアムホール	50	主催：九州国立博物館
41	7月8日	イベント	「きゅーはくカフェコンサート」with ゆかた de 太宰府～古都の夏～	エントランス	70	主催：九州国立博物館
42	7月9日	イベント	ガムランワークショップ	ミュージアムホール	25	主催：九州国立博物館
43	7月9日	イベント	ガムランワークショップ連続講座（第3回）	ミュージアムホール	7	主催：九州国立博物館
44	7月10日	イベント	韓国伝統芸能へのいざない	ミュージアムホール	200	主催：公益財団法人九州国立博物館振興財団、国際交流伽耶舞楽団
45	7月12日～24日	イベント	熊本地震復興応援イベント 「熊本県・大分県観光ＰＲ展示」	エントランス	40,998	主催：九州国立博物館
46	7月16日	講演会	特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」関連イベント 記念講演会「東山魁夷の生涯と芸術」	ミュージアムホール	211	主催：九州国立博物館
47	7月17日	イベント	第67回親子で茶道体験	茶室	54	主催：九州国立博物館
48	7月17日	イベント	熊本地震復興応援イベント 「くまモン隊ステージ in きゅーはく」	ミュージアムホール	390	主催：九州国立博物館
49	7月18日	講演会	独立行政法人国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」特別講演会 歴史と共に考える文化財の防災・減災	ミュージアムホール	340	主催：九州国立博物館
50	7月23日、24日	イベント	きゅーはく子ども向け夏休みイベント いこうよ！あじっぱ夏祭り	ミュージアムホール	599	主催：九州国立博物館
51	7月24日	イベント	第61回はじめての茶道体験　with ゆかた de 太宰府～古都の夏～	茶室	13	主催：九州国立博物館
52	7月24日	イベント	ボランティアイベント「折り紙ワークショップ」	エントランス	200	主催：九州国立博物館
53	7月30日	イベント	ボランティアイベント「さげもんまり作り」	研修室	32	主催：九州国立博物館
54	7月30日	イベント	特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」関連イベント記録映像上映会＆トーク「東山魁夷山雲濤声～唐招提寺障壁画の記録～」	ミュージアムホール	280	主催：九州国立博物館
55	7月31日	イベント	ガムランワークショップ	ミュージアムホール	24	主催：九州国立博物館
56	7月31日	イベント	ガムランワークショップ連続講座（第4回）	ミュージアムホール	7	主催：九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
57	8月4日	イベント	日中友好文化交流会日中書画展開会式	ミュージアムホール	340	主催：公益財団法人九州国立博物館振興財団、一般社団法人日中協会、九州日中文化協会
58	8月4日～7日	イベント	日中友好文化交流会　日中書画展	ミュージアムホール エントランス	20,958	主催：公益財団法人九州国立博物館振興財団、一般社団法人日中協会、九州日中文化協会
59	8月6日	講演会	トピック展「全国高等学校考古名品展 2016」関連イベント 全国高等学校考古学フォーラム 2016	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
60	8月6日	イベント	考古学者になろう！弥生人になろう！ 拓本作りと古代の衣装体験	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
61	8月7日	イベント	特別展「京都高山寺と明恵上人」プレ企画 第2回みゅーじあむ寄席「夢で会いましょう」	ミュージアムホール	283	主催：九州国立博物館
62	8月9日～21日	イベント	紡ぎ継がれる思いーしあわせの刺繍ー展	エントランス	78,744	主催：九州国立博物館
63	8月11日	イベント	特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」関連イベント きゅーはくミュージアムコンサート 「東山魁夷が愛したモーツァルト」	ミュージアムホール	350	主催：九州国立博物館
64	8月13日、14日	イベント	紋切り型でオリジナルうちわをつくろう！	エントランス	120	主催：九州国立博物館
65	8月14日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 ～九州の神楽特集～ ①山家宝満宮に伝わる山家岩戸神楽 ②豊前神楽 ③筑前里神楽 ④高千穂の夜神楽	ミュージアムホール	50	主催：九州国立博物館
66	8月20日	イベント	第62回はじめての茶道体験	茶室	9	主催：九州国立博物館
67	8月20日、21日	イベント	吉野ヶ里 Days in 九博	ミュージアムホール	1,001	主催：佐賀県立博物館、国営海の中道海浜公園事務局（国営吉野ケ里歴史公園）、吉野ヶ里歴史公園マネジメント共同企業体、吉野ヶ里公園管理センター
68	8月21日	イベント	第68回親子で茶道体験	茶室	40	主催：九州国立博物館
69	8月23日～9月4日	イベント	東九州神楽人の祭展「特別展示」	ミュージアムホール、エントランス	52,977	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議事務局、おんせん県おおいた福岡事務所、宮崎県観光推進課記紀編さん記念事業推進室、宮崎県福岡事務所
70	8月25日	イベント	飾り山笠御神入れ	エントランス	－	主催：九州国立博物館
71	8月26日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	140	主催：九州国立博物館
72	8月27日	講演会	水中考古学フォーラム『世界の水中遺跡を考える』～保護と活用について～	研修室	45	主催：九州国立博物館、文化庁
73	8月27日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 「九州の神楽特集」 ①山家宝満宮に伝わる山家岩戸神楽 ②豊前神楽 ③筑前里神楽 ④高千穂の夜神楽	ミュージアムホール	60	主催：九州国立博物館
74	8月27日	イベント	なりきり考古学者体験 スペシャル・バージョン！	4階文化交流展室内	9	主催：九州国立博物館
75	9月3日	イベント	東九州神楽人の祭展「神楽公演」 神楽の集いー京築・庄内・新田ー	ミュージアムホール エントランス	500	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議事務局、おんせん県おおいた福岡事務所、宮崎県観光推進課記紀編さん記念事業推進室、宮崎県福岡事務所
76	9月3日、4日	イベント	東九州神楽人の祭展 神楽体験ワークショップ 「御幣づくりワークショップ」（新田神楽）	研修室	－	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議事務局、おんせん県おおいた福岡事務所、宮崎県観光推進課記紀編さん記念事業推進室、宮崎県福岡事務所
77	9月3日、4日	イベント	東九州神楽人の祭展 神楽体験ワークショップ 「神楽記念撮影コーナー」（各公演団体）	エントランス	－	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議事務局、おんせん県おおいた福岡事務所、宮崎県観光推進課記紀編さん記念事業推進室、宮崎県福岡事務所

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
78	9月4日	イベント	東九州神楽人の祭展 神楽体験ワークショップ 「神楽装束体験」（庄内神楽）	エントランス	－	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議事務局、おんせん県おおいた福岡事務所、宮崎県観光推進課記紀編さん記念事業推進室、宮崎県福岡事務所
—	9月4日	イベント	東九州神楽人の祭展「神楽公演」 神楽の集い－京築・庄内・新田－	ミュージアムホール エントランス	－	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議事務局、おんせん県おおいた福岡事務所、宮崎県観光推進課記紀編さん記念事業推進室、宮崎県福岡事務所 ＊台風のため中止
79	9月4日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 「九州の神楽特集」	ミュージアムホール	40	主催：九州国立博物館
80	9月11日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート やっぴぃ博士のサイエンスラボ　「アニマルマジック～生き物は偉大なるエンジニア～」	ミュージアムホール	150	主催：九州国立博物館
81	9月11日	イベント	第69回親子で茶道体験	茶室	55	主催：九州国立博物館
82	9月14日～25日	イベント	トピック展「古伊万里－旧家の暮らしを彩った器－」関連イベント 日本遺産認定記念「日本磁器のふるさと　肥前」パネル展示	エントランス	19,626	主催：佐賀県文化課
83	9月17日	イベント	熊本地震復興応援イベント第2弾 「清和文楽公演」	ミュージアムホール	230	主催：九州国立博物館
84	9月17日	イベント	なりきり考古学者体験スペシャルバージョン！	4階文化交流展室内	11	主催：九州国立博物館
85	9月18日	イベント	第63回はじめての茶道体験	茶室	14	主催：九州国立博物館
86	9月30日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	45	主催：九州国立博物館
87	10月1日	イベント	ガムランワークショップ連続講座（第5回）	ミュージアムホール	19	主催：九州国立博物館
88	10月2日	イベント	特別展「京都高山寺と明恵上人」プレイベント 九州国立博物館杯第5回さいふごま大会	ミュージアムホール	60	主催：九州国立博物館
89	10月2日	イベント	第70回親子で茶道体験	茶室	61	主催：九州国立博物館
90	10月8日、9日	イベント	福岡県観光温泉地協会　出前温泉「足湯」	館外	400	主催：福岡県観光温泉地協会
91	10月8日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっぱ	3	主催：九州国立博物館
92	10月9日	講演会	特別展「京都高山寺と明恵上人」関連イベント 特別講演会「鳥獣人物戯画の謎」	ミュージアムホール	235	主催：九州国立博物館
93	10月9日	イベント	第64回はじめての茶道体験	茶室	9	主催：九州国立博物館
94	10月15日	イベント	特別展「京都高山寺と明恵上人」関連イベント トークイベント　能「春日龍神」と明恵上人	ミュージアムホール	237	主催：九州国立博物館
95	10月16日	講演会	特別展「京都高山寺と明恵上人」関連イベント 講演会「京都高山寺と明恵上人の魅力」	ミュージアムホール	156	主催：九州国立博物館
96	11月3日	イベント	第7回留学生イベント 留学生向け「文化交流ツアーin九博」	館内	14	主催：九州国立博物館
97	11月19日	イベント	なりきり考古学者体験	4階文化交流展室内	13	主催：九州国立博物館
98	11月26日	講演会	トピック展「海の王都原の辻遺跡と壱岐の至宝」関連講演会 『魏志』倭人伝に記された 一支国の世界	研修室	34	主催：九州国立博物館
99	11月26日、27日	イベント	ボランティアワークショップ エコバッグ作り	エントランス	20	主催：九州国立博物館
100	11月27日	イベント	第71回親子で茶道体験	茶室	60	主催：九州国立博物館
101	11月27日	イベント	トピック展「海の王都原の辻遺跡と壱岐の至宝」関連ワークショップ 貝殻キャンドルづくり、勾玉づくり	エントランスおよび研修室	250	主催：九州国立博物館
102	12月2日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	50	主催：九州国立博物館
103	12月4日	講演会	独立行政法人 国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」公開シンポジウム 地域と共に考える文化財の防災・減災Ⅲ 熊本地震と文化財レスキュー	ミュージアムホール	200	主催：九州国立博物館
104	12月6日	講演会	日米文化教育交流会議（カルコン）美術対話委員会シンポジウム 「世界と日本美術アート～２０００年以降の動向を中心に～」	ミュージアムホール	150	主催：文化庁、カルコン美術対話委員会

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
105	12月6日～11日	イベント	ＭＯＡ美術館児童作品展 in 九州国立博物館	エントランス	11,666	主催：MOA美術館、「MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館」実行委員会
106	12月10日	イベント	「紅梅梅図屏風風（原寸大レプリカ）」美術セミナー MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館「九州国立博物館長賞」表彰式 MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館コラボ企画　トラりんがきゅーはくにやってくる！	ミュージアムホール	150	主催：MOA美術館、「MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館」実行委員会
107	12月10日	イベント	MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館「ジェルキャンドルをつくろう！」	研修室	40	主催：「MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館」実行委員会事務局
108	12月10日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっぱ	10	主催：九州国立博物館
109	12月10日	イベント	第72回親子で茶道体験	茶室	57	主催：九州国立博物館
110	12月11日	イベント	第65回はじめての茶道体験	茶室	18	主催：九州国立博物館
111	12月14日、16日	講演会	第6回文化財ＩＰＭコーディネーター資格取得のための講習会と試験	ミュージアムホール 研修室	66	主催：公益財団法人文化財虫菌害研究所
112	12月17日～29年1月7日	イベント	「組み立て式竪穴住居」の展示	エントランス	41,512	主催：九州国立博物館
113	12月18日	イベント	「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産登録記念イベント 戸畑祇園大山笠展示及び記念セレモニー	エントランス	200	主催：福岡県観光振興課
114	12月18日	イベント	「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産登録記念フォーラム	ミュージアムホール	120	主催：福岡県文化財保護課
115	12月20日～29年2月19日	イベント	「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産登録記念イベント 戸畑祇園大山笠展示	エントランス	111,115	主催：福岡県文化財保護課
116	29年1月1日～2月19日	イベント	特別展　「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連イベント「沖ノ島写真展」	エントランス	128,847	主催：九州国立博物館
117	29年1月1日～2月5日	展示	新春公開！ 鷹匠埴輪がやってくる！	文化交流展示室	―	主催：九州国立博物館
118	29年1月1日～9日	イベント	正月企画「2017人の笑顔で作る富士山モザイクアート展示」	エントランス	34,391	主催：九州国立博物館
119	29年1月1日	イベント	元旦限定！九博オリジナル「初夢おはじき」プレゼント	文化交流展示室前	300	主催：九州国立博物館
120	29年1月2日	イベント	開運アトラクション「にぎわい座」新春公演	エントランス	240	主催：九州国立博物館
121	29年1月3日	イベント	幸運をつかもう！「鷹匠フライトショー」	館外	340	主催：九州国立博物館
122	29年1月3日	イベント	正月企画「古代人による古代米梅ヶ枝餅のふるまい」	研修室	466	主催：九州国立博物館
123	29年1月3日	イベント	正月企画「古代米甘酒の試飲販売」	研修室	663	主催：九州国立博物館
124	29年1月7日～9日	イベント	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連イベント「むなかたの幸　まんぷく（満・福）祭～むなめし・むなこれ大集合！～」	エントランス、館外	12,258	主催：九州国立博物館、宗像市
125	29年1月11日	イベント	UBEビエンナーレPR展@九州国立博物館	エントランス	25,710	主催：山口県宇部市
126	29年1月15日	イベント	UBEビエンナーレPR展@九州国立博物館関連ワークショップ 「かげを楽しむポットをつくろう！」	研修室	25	主催：山口県宇部市
127	29年1月15日	イベント	宗像三女神を祀る奉納の舞～浅野瑞穂～	ミュージアムホール	230	主催：公益財団法人九州国立博物館振興財団
128	29年1月21日	講演会	特別展　「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連イベント 記念講演会「神宿る島と祈りの記憶－祭祀遺跡の発掘調査譚－」	ミュージアムホール	229	主催：九州国立博物館
129	29年1月21日	イベント	なりきり考古学者体験	4階文化交流展室内	15	主催：九州国立博物館
130	29年1月21日	イベント	第66回はじめての茶道体験	茶室	14	主催：九州国立博物館
131	29年1月21日	イベント	バックヤードツアー特別公開 「博物館科学・文化財保存修復施設」	館内	41	主催：九州国立博物館
132	29年1月22日	イベント	UBEビエンナーレPR展@九州国立博物館関連ワークショップ 「ちょこっとあじっぱクイズラリー」	エントランス	64	主催：山口県宇部市
133	29年1月22日	イベント	第73回親子で茶道体験	茶室	61	主催：九州国立博物館
134	29年1月22日	イベント	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」記念 九州国立博物館杯第6回さいふごま大会	ミュージアムホール	70	主催：九州国立博物館
135	29年1月28日	イベント	ボランティアイベント さげもんまり作り	研修室	23	主催：九州国立博物館
136	29年1月29日	イベント	藤本隆宏トークショー～「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群を世界遺産に～	ミュージアムホール	201	主催：九州・沖縄文化力推進会議、福岡県、九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
137	29年2月4日	講演会	特別展　「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連イベント　リレー講座 「交差する日本神話とアジアの歴史」	ミュージアムホール	215	主催：九州国立博物館
138	29年2月4日	イベント	ボランティアイベント 新聞紙で作るこいぬ	研修室	9	主催：九州国立博物館
139	29年2月5日	イベント	博多にわか笑演会in九州国立博物館	ミュージアムホール	190	主催：博多仁和加振興会
140	29年2月5日	イベント	ボランティアイベント きゅーはくでおはなし絵本をつくろう	研修室	13	主催：九州国立博物館
141	29年2月7日 ～12日	イベント	特別展　「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連イベント「沖ノ島紹介パネル展」	エントランス	16,992	主催：九州国立博物館
142	29年2月10日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	45	主催：九州国立博物館
143	29年2月12日	講演会	日中韓文化遺産フォーラム 「水中文化遺産の保護と活用」	ミュージアムホール	173	主催：九州国立博物館
144	29年2月15日 ～19日	イベント	九州国立博物館「大宰府学研究」事業・熊本県「古代山城に関する研究会」事業関連パネル展	エントランス	21,251	主催：九州国立博物館、福岡県、熊本県教育委員会
145	29年2月18日、 19日	講演会	九州国立博物館「大宰府学研究」事業・熊本県「古代山城に関する研究会」事業　合同シンポジウム「徹底追究！大宰府と古代山城の誕生」	エントランス	383	主催：九州国立博物館、福岡県、熊本県教育委員会
146	29年2月18日	イベント	なりきり考古学者体験	あじっぱ	11	主催：九州国立博物館
147	29年2月20日	イベント	、「大公開！沖ノ島展の舞台裏　プレミアム座談会＆内覧会」	研修室	24	主催：九州国立博物館
148	29年2月21日 ～26日	イベント	筑紫地区小学校児童画展	エントランス	25,722	主催：九州国立博物館を愛する会、九州国立博物館、公益財団法人九州国立博物館振興財団
149	29年2月24日	イベント	博多伝統芸能「博多芸妓の世界」	ミュージアムホール	320	主催：公益財団法人九州国立博物館振興財団
150	29年2月25日	イベント	第74回親子で茶道体験	茶室	60	主催：九州国立博物館
151	29年2月25日	イベント	やっぴぃ博士のサイエンスラボ ミッション やっぴぃ博士と海のフシギを調査せよ!!	ミュージアムホール	260	主催：九州国立博物館
152	29年2月26日	イベント	第9回子どもフェスタ	ミュージアムホール	2,465	主催：九州国立博物館を愛する会、九州国立博物館、公益財団法人九州国立博物館振興財団
153	29年2月26日	イベント	第67回はじめての茶道体験	茶室	10	主催：九州国立博物館
154	29年2月28日 ～3月5日	イベント	平成28年度筑紫地区文化財写真展 「ちくし再発見～うつりゆく風景～」	エントランス	23,371	主催：筑紫地区社会教育振興協議会
155	29年3月5日	イベント	きゅーはく女子考古部プレゼンツ 古代の宴へようこそ！	ミュージアムホール	300	主催：九州国立博物館
156	29年3月5日	イベント	ガムランワークショップ	ミュージアムホール	17	主催：九州国立博物館
157	29年3月14日	イベント	きゅーはく夜の博物館を灯す光のオブジェをつくろう	エントランス	11,343	主催：九州国立博物館
158	29年3月18日	イベント	第3回みゅーじあむ寄席 「虫も目覚める春がきた！」	ミュージアムホール	93	主催：九州国立博物館
159	29年3月18日	イベント	なりきり学芸員体験	ミュージアムホール	11	主催：九州国立博物館
160	29年3月19日	イベント	第75回親子で茶道体験	茶室	61	主催：九州国立博物館
161	29年3月20日	イベント	第68回はじめての茶道体験	茶室	8	主催：九州国立博物館
162	29年3月20日	イベント	第21回九博Dayかるた大会決勝	ミュージアムホール	2,498	主催：九州国立博物館
163	29年3月24日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	45	主催：九州国立博物館
164	29年3月25日	講演会	本田光子特任研究員最終講演会 「市民と共に　地域と共に」九博バックヤード生活を終えて -基盤作りの一端に携わった１４年-	ミュージアムホール	250	主催：九州国立博物館

実施なし：5件

1-(3)-② 有形文化財に関する情報の発信と広報の充実

1-(3)-②-1 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

（前述の資料に記載）1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

1-(3)-②-2 収集した情報資料数（総数）

平成29年3月31日現在

		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
		28年度新規	総数	28年度新規	総数	28年度新規	総数	28年度新規	総数
写真原板(フィルム)		1,085件	323,678件	0件	257,681件	10件	361,503件	0件	23,622件
デジタル撮影		7,883件	75,457件	5,710件	22,136件	4,290件	40,126件	1,517件	11,759件
資料	模造	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	模写	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	その他	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	計	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
図書	和書	4,909冊	193,384冊	3,047冊	145,331冊	1,990冊	84,156冊	3,973冊	108,076冊
	漢書	225冊	39,894冊	233冊	21,884冊	23冊	5,178冊	冊	冊
	洋書	179冊	13,224冊	13冊	4,523冊	50冊	1,863冊	33冊	2,524冊
	計	5,313冊	246,502冊	3,293冊	171,738冊	2,063冊	91,197冊	4,006冊	110,600冊
映画フィルム		0巻	0巻	0巻	0巻	0巻	30巻	0巻	0巻
スライド		0本	0本	0本	26本	0本	21本	0本	0本
		0コマ	0コマ	0コマ	2,779コマ	0コマ	2,192コマ	0コマ	12コマ
マイクロフィルム		0巻	3,660巻	0巻	643巻	0巻	68巻	0巻	515巻

東京国立博物館資料館の利用者数（過去5年間）

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
利用者数	4,828人	5,661人	6,118人	5,936人	4,730人
閉架図書（閲覧）	3,571件	3,909件	3,800件	4,521件	4,862件
マイクロフィルム（閲覧）	603件	466件	562件	399件	588件
レファレンスサービス	6,249件	6,802件	4,401件	4,006件	5,014件
コピーサービス	25,419枚	23,801枚	26,200枚	25,395枚	30,818枚

※23年9月1日より、従来からの西門入館利用に加え、正門からの来館者に対し資料館東口からの利用を開始した。以後の利用者数はこれを含む。

1-(3)-②-3 特別観覧件数

申請件数

平成29年3月31日現在

区分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計	382	22	360	174	4	170	41	12	29	76	2	74	91	4	87
写真撮影	86	7	79	1	1	0	12	5	7	34	0	34	39	1	38
映画撮影	11	10	1	3	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
テレビ撮影							2	2	0		2	0	2	1	1
ビデオ撮影							1	1	0				1	1	0
模写	7	1	6	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
模造							2	1	1				3	0	3
熟覧	278	4	274	168	0	168	24	3	21	40	0	40	46	1	45

点数

平成29年3月31日現在

区分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計	1,856	26	1,830	1,135	5	1,130	93	15	78	397	2	395	231	4	227
写真撮影	321	7	314	1	1	0	27	5	22	188	0	188	105	1	104
映画撮影	15	14	1	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影							5	5	0	2	2	0	2	1	1
ビデオ撮影							1	1	0				1	1	0
模写	11	1	10	2	0	2	0	0	0	0	0	0	4	0	4
模造							2	1	1				3	0	3
熟覧	1,509	4	1,505	1,128	0	1,128	58	3	55	207	0	207	116	1	115

1-(3)-②-4 画像利用件数（フィルムを含む）

申請件数

平成29年3月31日現在

区分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	1	0	1										1	0	1
	デジタルデータ提供	モノクロ	1,106	882	224				668	636	32	308	185	123	22	1	21
		カラー													108	60	48
	プリントでの提供	モノクロ	111	105	6				108	105	3	3	0	3			
		カラー	1	0	1				0	0	0	1	0	1			
画像再利用			126	93	33							121	89	32	5	4	1

点数

平成29年3月31日現在

区分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	3	0	3										3	0	3
	デジタルデータ提供	モノクロ	4,444	2,492	1,952				2,385	1,975	410	1,559	358	1,201	75	3	72
		カラー													425	156	269
	プリントでの提供	モノクロ	375	208	167				214	208	6	161	0	161			
		カラー	6	0	6				0	0	0	6	0	6			
画像再利用			343	254	89							335	248	87	8	6	2

1-(3)-②-5 広報実績一覧

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

・特別企画「博物館でお花見を」

会期	28年3月15日（火）～4月10日(日)（26日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層（学生など）
重点項目	マスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる美術愛好家、訪日・在日外国人等への情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1,179件発送(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	駅貼り広告(JR 上野、鶯谷駅など、東京メトロ 銀座線・日比谷線　6駅、都営浅草線・大江戸線　3駅、東急東横線渋谷、中目黒、横浜　3駅
新聞・雑誌広告	朝日新聞、毎日新聞、読売新聞各1回、メトロガイド1回
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジン・SNSでの情報配信、@Pressによる発信など
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、山陰中央新報　ほか
テレビ、ラジオ	TOKYO FM　ほか
雑誌	JR東日本「トランヴェール」1月号、JTBパブリッシング「ノジュール」2月号、、マガジンハウス「アンド・プレミアム」、リクルート「じゃらん」、小学館「Domani」、レッツエンジョイ東京
インターネットメディア	タイムアウト東京ほか
その他	—

・特別企画「博物館でアジアの旅」

会期	9月29日（火）～10月12日(月・祝)（14日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日中国人、若年層（学生など）
重点項目	一般のマスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる情報提供
特記事項	JTBパブリッシング『るるぶ』500号記念とのタイアップ企画、中国語スマートフォンアプリ「Wechat」を活用
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,200件(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	駅貼り広告(JR 上野、鶯谷、千葉、松戸、大宮の5駅、東京メトロ 上野、表参道、六本木、東急東横線渋谷駅、みなとみらい線元町・中華街駅、都営浅草線浅草駅、京王線2駅、JR上野駅・JR八重洲駅ADビジョン
新聞・雑誌広告	朝日新聞夕刊・東京本社版1回、『メトロガイド』1回
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事10回、メールマガジン・SNSでの情報配信、@Pressによる発信など
その他	中国人向けスマートフォンアプリ「Wechat」有料記事、『るるぶ』500号記念とのタイアップによるインスタグラム企画、着ぐるみによるイベントプロモートを新規に実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞　ほか
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	朝日新聞デジタル、SANSPO.COM、BIGLOBEニュース、Walker Plus、るるぶニュース（記事・有料バナー広告含む）、「上野が、すき。」、リセマム、コモリブ、中国大使館サイト　ほか
その他	—

・特別公開「国宝土偶　縄文の女神」

会期	28年3月23日～4月17日（25日間）
ターゲット	考古ファン、歴史ファン、土偶ファン

重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	ポスター制作、館内掲出
交通広告	JR上野駅、デジタルサイネージ
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン･SNSでの情報配信、山形県立博物館WEBサイトでの告知
その他	展覧会情報の入ったポストカード（山形県制作）、山形県立博物館のチラシ、有機EL照明のチラシを展示室内で配布。
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	山形新聞　ほか
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	インターネットミュージアム　ほか
その他	

・特別公開「新発見！天正少年遣欧使節　伊東マンショの肖像」

会期	5月17日（火）～7月10日（日）（55日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	ポスター・チラシの制作
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	JR線主要10駅、東京メトロ、都営浅草線主要7駅、京王線・井の頭線主要3駅
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン･SNSでの情報配信
その他	クリスチャン・トゥディ掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	NHKニュース、宮崎テレビ
雑誌	目の眼
インターネットメディア	—
その他	—

・特集「生誕百年記念　小林斗盦　篆刻の軌跡　―印の世界と中国書画コレクション―」

会期	11月1日（火）～12月23日（金祝）（53日間）
ターゲット	書道家、書道ファン
重点項目	篆刻について一般の興味を喚起し、書作品への一般の理解を深める
特記事項	報道内覧会実施　平成28年10月31日、30人出席
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	駅貼り(JR上野・鶯谷)
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	2回

博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ブログ関連記事8回、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、高知新聞など地方紙各紙、ほか
テレビ、ラジオ	—
雑誌	芸術新潮、月刊書道界、美術の窓　ほか
インターネットメディア	—
その他	—

・特別企画「博物館で初もうで」

会期	29年1月2日（月休）～1月29日(日)（28日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層（学生など）
重点項目	マスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる美術愛好家、訪日・在日外国人等への情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1,179件発送(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	JR湘南新宿ライン＋上野東京ライン 中吊り広告、山手線・東京メトロ・都営線・京王線・京成線 駅貼り広告 東京駅八重洲北改札前デジタルサイネージ（1ヶ月間）
新聞・雑誌広告	読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、ジャパンタイムズ、ジャパンニュース各1回
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事2回、メールマガジン・SNSでの情報配信、@Pressによる発信など
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、東京新聞　ほか
テレビ、ラジオ	J-WAVE　ほか
雑誌	DIME、レッツエンジョイ東京ほか
インターネットメディア	グノシー、TimeOut、Trip Advisor、るるぶ.com、週刊東京ウォーカー、東京都公式SNSほか
その他	—

(2) 特別展、共催展等

・特別展「黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの至宝―」

会期	4月12日(火)～6月19日(日)（61日間）
ターゲット	歴史及び美術ファン、シルクロードなど中東文化に興味のある人
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約3500件(美術館、博物館、公立施設、大学、図書館、旅行会社、画廊、画材関係　ホテル等) 都内小学校の一部351校に送付、館内配布
交通広告	JR　SWボード29駅30面、メトロUボード13駅21面、京成線B1 62駅×2枚、B3中吊り2750枚、B3窓上550枚、A4割引ﾁﾗｼ8万枚を62駅全て設置、東武日比谷線乗入ドア横B3計170枚、都営三田線ドア横B3計250枚、都営新宿線ドア横B3計310枚、京王線渋谷駅、新宿駅ほかポスター
新聞・雑誌広告	「産経新聞」　全5段モノクロ、「metroplitana」（英語版）表4、カラー、全頁、「Kiite！」２頁分、「正論」カラー、全頁
テレビ広告	フジテレビにてスポットCM、東京サンケイビル1階ビジョン、渋谷Loftビジョン
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知2回、特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事7回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(読売新聞社、NHK、NHKプロモーション)ウェブサイトでの紹介 SNS:公式フェイスブック及び話す公式ツイッター、当館ツイッター,フェイスブックでの情報発信　ほか

その他	スペシャルナビゲーターの設定、上野商店会ペナント掲示、上野のれん会とのコラボなど
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	産経新聞、読売新聞、毎日新聞、日経新聞、聖教新聞、The Japan Timesほか
テレビ、ラジオ	めざましテレビ、プレミアの巣窟ほか(フジテレビ)、ぶらぶら美術・博物館(BS日ﾃﾚ) 、アフガニスタン・秘宝の半世紀(NHKBS1)、日曜美術館(NHK)、JAM THE WORLD(J-WAVE) ほか
雑誌	日経おとなのOFF（日経BP）、家庭画報、大人が見たい美術展2016、目の眼、芸術新潮、PEN　ほか
インターネットメディア	ナショナルジオグラフィックWEBサイト　4回連載、サライ.jp、各種ニュースサイト　ほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	27年11月10日（駐日アフガニスタン・イスラム共和国大使館にて）
人数等	67媒体、100人出席
④報道内覧会	
実施日	4月11日
人数等	113媒体　126人出席

・特別展「古代ギリシャ―時空を超えた旅―」

会期	6月21日（火）～9月19日（月・祝）（80日間）
ターゲット	広く一般の考古学・歴史ファン、古代西洋美術ファン
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	ナイト・ミュージアム、キッズデー関係
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	10,059件(1都6県博物館・美術館・学校・エジプトレストラン、1都3県ギャラリー・ホテル・カルチャーセンター・語学学校等、外国政府観光局) ジュニアガイド：１都３県小中学校に3万部配布
交通広告	大型ボード（JR44駅50面ほか）、東京メトロ電飾（20駅20面） 京王線駅貼り（100枚）、ＪＲ・東京メトロ・京王線デジタルサイネージ 西武線タイアップ（タイアップポスター掲出）ほか
新聞・雑誌広告	朝日新聞（特集3回、作品解説連載10回、社告、文化面など）ほか
テレビ広告	NHKスポット告知
「東京国立博物館ニュース」掲載	3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、フェイスブック、ブログ関連記事10回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト、展覧会公式ツイッター
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞約70件、読売・日経・産経・東京ほか約70件
テレビ、ラジオ	アートシーン、ひるまえほっと（以上NHK）、NHK BSプレミアム、 ラジオ深夜便（NHK）、クロノス（TOKYO FM）ほか
雑誌	サライ、ターザン、和楽、一個人、女性自身、婦人公論、週刊朝日、美術の窓　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、各種ニュースサイト　ほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	28年3月14日　東洋館ミュージアムシアターにて
人数等	58人出席
④報道内覧会	
実施日	6月20日
人数等	207人出席

・特別展「ほほえみの御仏　二つの半跏思惟像」

会期	6月21日～7月10日（20日間）
ターゲット	仏像ファン
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	韓国国立中央博物館で先行開催
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約4,602件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、カルチャー・センター、ギャラリー、図書館、百貨店、ホテル、美術関連団体、旅行会社ほか
交通広告	大型ボード（JR 49駅49面、東京メトロ13駅21面、私鉄21駅22面）
新聞・雑誌広告	朝日新聞、読売新聞

テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知2回、特集3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジン/SNSでの情報配信、公式ホームページ、ツイッターでの紹介
その他	韓国中央博物館での展覧会関係報道多数あり。
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、日経新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、地方紙各紙　ほか
テレビ、ラジオ	日曜美術館(NHK)、美の巨人たち(テレビ東京)、各局ニュース、NHKワールドラジオジャパン（NHK国際放送局）ほか
雑誌	芸術新潮、和楽、目の眼　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、和楽INTO JAPAN Facebook、中央日報ほか各種ニュースサイト　ほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	4月20日　平成館大講堂にて
人数等	53人出席
④報道内覧会	
実施日	6月20日＊ギリシャ展と同時開催
人数等	207人出席

・特別展臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念　特別展「禅—心をかたちに—」

会期	10月18日（火）　～ 11月27日（日）（36日間）
ターゲット	日本美術ファン、歴史ファン、禅ファン、東博ファン、海外からの観光客
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。海外からの観光客への情報提供。
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約4,000件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館等)
交通広告	大型ボード（39駅40面）、東京メトロ・東急ドア横ポスター、東京メトロ駅看板20面、JR中吊りポスター、京王線駅貼りポスター、京王線中吊りポスター、東急TOQビジョンほか
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	BSジャパン「禅—心をかたちに—」ほか
「東京国立博物館ニュース」掲載	3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(日本経済新聞社)ウェブサイトでの紹介
その他	英語版A4チラシの作成　、東京メトロタイアップ企画「禅ミステリーラリー」（株式会社メトロアドエージェンシー）の実施、チームラボ新作発表会および特別内覧会の実施（11月8日、177名出席）
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	日経新聞約15回、読売新聞、朝日新聞、東京新聞、中国北京晩報ほか
テレビ、ラジオ	ぶらぶら美術館（BS日テレ）、日曜美術館（NHK）、美の巨人たち（テレビ東京）、めざましテレビ（ﾌｼﾞTV）ほか
雑誌	Discover Japan、美術手帖、家庭画報、ノジュール、日経おとなのOFF、和楽、東京ウォーカー、歴史人、一個人、男の隠れ家、聚美、目の眼、フリーペーパー「FLYING POSTMAN」ほか多数
インターネットメディア	レッツ・エンジョイ・東京、INTO JAPAN、ライフジャパン、日経電子版など
その他	—
③報道発表会	
実施日	7月8日　平成館大講堂にて
人数等	73人出席
④報道内覧会	
実施日	10月17日（116人出席）、10月26日（186人出席）
人数等	116人出席（10月17日）、186人出席（10月26日）

・特別展「平安の秘仏—滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」

会期	28年9月13日(火)～29年1月9日(月祝)　96日間
ターゲット	日本美術ファン、歴史ファン、仏像ファン
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。

特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約4,000件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館等)
交通広告	大型ボード（JR山手線24駅30面、メトロ30駅30面）、京王線タイアップ、京成線駅貼り（400枚）、中吊り（4950枚）、チラシ（8000枚）、東急線ドア横（640枚）、東武線ドア横（460枚）ほか
新聞・雑誌広告	読売新聞（社告、特集、イベントインフォなど20回程度）、朝日新聞 9/9朝刊　10段（15段企画内）
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(日本経済新聞社)ウェブサイトでの紹介
その他	有楽町ビックビジョン15秒スポット、「櫟（ラク）」普及委員会＝みうらじゅん氏、いとうせいこう氏が展覧会のサポーターに就任、リリース配信、ツイッター、フェイスブック、特設サイトでの広報
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、東京新聞　ほか
テレビ、ラジオ	ぶっちゃけ寺(テレビ朝日）、ほか
雑誌	目の眼、芸術新潮、東京ウォーカー、旅の手帖、秋ぴあ、プレシャス、ミセス、男の隠れ家、東京ベイネットワーク、仏像MOOK（エイ出版）、日経Priv.ほか多数
インターネットメディア	サライ.jp、和楽、レッツエンジョイ東京、和樂ＷＥＢ、大人のカルチャーガイド　など
その他	T.M.Revolution ファンクラブ会報掲載
③報道内覧会	
実施日	9月12日
人数等	106人出席

【京都国立博物館】

(1)平常展（名品ギャラリー）

・特集陳列「徳川家康没後四百年記念　徳川将軍家と京都の寺社―知恩院を中心に―」

会期	6月14日（火）～7月18日（日）（31日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、仏教美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約256件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	浄土宗新聞
テレビ、ラジオ	eo光テレビ
雑誌	関西ウォーカー（KADOKAWA）、美術の窓（生活の友社）　ほか計11件
インターネットメディア	婦人画報「きょうとあす」フェイスブック（婦人画報社）
その他	―

・特集陳列「丹後の仏教美術」

会期	7月26日（火）～9月11日（日）（42日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、仏像ファン、仏教美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約256件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）　＊「徳川将軍家と京都の寺社」と同送

交通広告	駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、ＭＫ新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	美術の窓（生活の友社）、目の眼（目の眼）　ほか計12件
インターネットメディア	阪急電鉄サイト「沿線おでかけ情報」
その他	―

・特集陳列「生誕300年　与謝蕪村」

会期	8月23日（火）～10月2日（日）（36日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、与謝蕪村ファン、俳諧ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約256件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）　＊「徳川将軍家と京都の寺社」と同送
交通広告	駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	日経REVIVE（日経新聞大阪本社）
テレビ、ラジオ	―
雑誌	CREA（文藝春秋）、新美術新聞（美術年鑑社）　ほか計7件
インターネットメディア	阪急電鉄サイト「沿線おでかけ情報」、「サライ.jp」（小学館）
その他	―

・特集陳列「生誕300年　伊藤若冲」

会期	12月13日（火）～29年1月15日（日）（25日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、伊藤若冲ファン、水墨画ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,989件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	ザ・ドキュメンタリー「命の不思議を見つめた絵師～若冲は生きている～（仮）」（ＢＳ朝日）
雑誌	Casa BRUTUS（マガジンハウス）、関西ウォーカー（KADOKAWA）　ほか計30件

インターネットメディア	和楽web「INTO JAPAN」（小学館）、Lmaga.jp（京阪神エルマガジン社）
その他	―

・新春特集陳列「とりづくし―干支を愛でる―」

会期	12月13日（火）～29年1月15日（日）（25日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、年末年始の観光客
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,989件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）　＊「伊藤若冲」チラシ裏面
交通広告	駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅）＊「伊藤若冲」も併記
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、毎日新聞、読売新聞　ほか3件
テレビ、ラジオ	―
雑誌	月刊茶の間（宇治田原製茶場）、週刊　女性セブン（小学館）　ほか計8件
インターネットメディア	JR東海「そうだ京都、行こう」、インターネットミュージアム（インターネットミュージアム）
その他	―

・特集陳列「皇室の御寺　泉涌寺」

会期	12月13日（火）～29年2月5日（日）（44日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、日本美術ファン、仏像ファン、書道ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,989件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）　＊「伊藤若冲」チラシ中面
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	在家佛教（在家仏教協会）　ほか計8件
インターネットメディア	―
その他	―

・特集陳列「雛まつりと人形」

会期	29年2月18日（土）～3月20日（月・祝）（27日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、人形ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―

交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	京都新聞、日経REVIVE（日経新聞大阪本社）
テレビ、ラジオ	―
雑誌	週間　女性セブン（小学館）　ほか計12件
インターネットメディア	Lmaga.jp（京阪神エルマガジン社）
その他	―

(2)特別展覧会、共催展等

・特別展覧会「臨済禅師1150年　白隠禅師250年遠諱記念　禅―心をかたちに―」

会期	4月12日（火）～5月22日（日）（36日間）
ターゲット	一般の歴史及び日本美術ファン、仏教美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約2,071件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、ギャラリー、図書館等)
交通広告	駅貼り広告(JR大阪駅、JR京都駅ほか京阪電車、阪急電鉄主要駅、京都市営地下鉄主要駅)、JR京都駅東改札バナー、JR京都駅サイネージ
新聞・雑誌広告	日本経済新聞タブロイド誌1回
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	日本経済新聞、京都新聞、神戸新聞
テレビ、ラジオ	NHK日曜美術館「禅”円”が語る美とこころ」、eo光テレビ
雑誌	サライ（小学館）、日経おとなのOFF（日経BPマーケティング）　ほか計40件
インターネットメディア	The PAGE（ワードリーフ株式会社）
その他	―
③報道発表会	
実施日	27年11月27日（金）
人数等	59媒体、69人出席（場所：相国寺東京別院）
③報道発表会	
実施日	27年12月14日（月）
人数等	28媒体、40人出席（場所：京都国立博物館）
③報道発表会	
実施日	4月11日（月）
人数等	54媒体、75人出席（場所：京都国立博物館）
④報道内覧会	
実施日	4月11日（月）
人数等	54媒体、75人出席

・特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」

会期	10月15日（土）～11月27日（日）（38日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、幕末ファン、坂本龍馬ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供

特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約2,181件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、ギャラリー、図書館等)
交通広告	駅貼り広告(JR大阪駅、JR京都駅ほか京阪電車、阪急電鉄主要駅主要駅)、JR京都駅東改札バナー、JR京都駅・市営地下鉄京都駅サイネージ
新聞・雑誌広告	読売新聞6回
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、日本経済新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	時空旅人（三栄書房）、毎日が発見（毎日が発見）　ほか計36件
インターネットメディア	―
その他	NHKほか各局ニュース（行啓）
③報道発表会	
実施日	5月10日（火）
人数等	48媒体、61出席（場所：東京都江戸東京博物館）
③報道発表会	
実施日	6月1日（水）
人数等	29媒体、33出席（場所：京都国立博物館）
③報道発表会	
実施日	9月5日（月）
人数等	12媒体、18人出席（場所：京都国立博物館）
③報道発表会	
実施日	10月14日（金）
人数等	38媒体、55人出席（場所：京都国立博物館）
④報道内覧会	
実施日	10月14日（金）
人数等	38媒体、55人出席

【奈良国立博物館】

(1)名品展(平常展)

・名品展　珠玉の仏たち

会期	4月29日（金）～（常時開催）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生向けに、マスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	外国人向け音声ガイド（英・中・韓）
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,600件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	雑誌1件（ぶらぶら美術・博物館プレミアムアートブック2016-2017）
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、奈良日日新聞、産経新聞、
テレビ、ラジオ	―
雑誌	月刊大和路ならら（地域情報ネットワーク）、旅の手帖（交通新聞社）、週刊文春（文藝春秋）、歴史読本（KADOKAWA）、Arts of Asia（Oriental Art）CLASSY（光文社）

インターネットメディア	—
その他	—

・名品展　珠玉の仏教美術

会期	6月7日（火）～7月3日（日）　／　12月10日（土）～29年3月14日（火）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,600件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

・特別陳列「和紙―近代和紙の誕生―」

会期	6月7日（火）～7月3日（日）（24日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、和紙愛好者、文化財関係者
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、和紙愛好者、文化財関係者向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,600件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞夕刊「A＋１」（関西版）
テレビ、ラジオ	—
雑誌	yomiっこ（読売奈良ライフ）、マイ奈良（アサコム奈良ニッセイシャ）、月刊書道界（藤樹社）
インターネットメディア	サライ.jp、cinefil
その他	—

・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」

会期	12月10日（土）～29年1月15日（日）（32日間）
ターゲット	おん祭（12/17）前後および年末年始の春日大社参拝客、一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン
重点項目	おん祭（12/17）前後および年末年始の春日大社参拝客、一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供

特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,600件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	デジタルサーネージ（JR奈良駅）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	奈良新聞、日経新聞　夕刊
テレビ、ラジオ	―
雑誌	日経REVIVE（日経新聞）、マイ奈良（アサコム奈良ニッセイシャ）、ぱーぷる（エヌ・アイ・プランニング）、歴史街道（PHP研究所）、月刊大和路ならら（地域情報ネットワーク）、関西ウォーカー（KADOKAWA）
インターネットメディア	サライ.jp、和樂　公式サイト「ニッポンの美術館イマコレ」、奈良ぶら
その他	―

・特別陳列「お水取り」

会期	29年2月7日（火）～3月14日（火）（34日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、「お水取り」（お松明）を見に来る観光客。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,600件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	デジタルサーネージ（JR奈良駅）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

(2)特別展、共催展等

・特別展「国宝 信貴山縁起絵巻 －朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝－」

会期	4月9日（土）～5月22日（日）（39日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、絵巻ファン、
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、絵巻ファン向けに、テレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,600件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（大阪市営地下鉄、近畿日本鉄道、京都地下鉄、京都市バス、阪急サンクス）、チラシ（JR奈良駅、大阪市営地下鉄、近畿日本鉄道）、デジタルサーネージ（JR奈良駅）

新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	東京新聞、朝日新聞夕刊「A＋１」、奈良新聞、産経新聞、京都新聞、神戸新聞、朝日新聞、読売新聞ほか
テレビ、ラジオ	NHK総合テレビ「秋元才加が行く！信貴山縁起絵巻のミステリー」、NHK大阪放送局「ぐるっと関西おひるまえ」、NHK「日曜美術館アートシーン」
雑誌	マイ奈良（アサコム奈良ニッセイシャ）、ぱーぷる（エヌ・アイ・プランニング）、関西ウォーカー（KADOKAWA）、芸術新潮（新潮社）、月刊美術（サン・アート）、サライ（小学館）、月刊大和路ならら（地域情報ネットワーク）、CLASSY（光文社）、週刊トラベルジャーナルほか
インターネットメディア	サライ.jp、マイ・フェイバリット関西、Lmaga.jp、インターネットミュージアム、和樂　公式サイト「ニッポンの美術館イマコレ」ほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	28年2月22日
人数等	15媒体、18人出席（場所：当館講堂）
④報道内覧会	
実施日	4月8日
人数等	24媒体、33人出席

・特別展「忍性―救済に捧げた生涯―」

会期	7月23日（土）～9月19日（月・祝）（53日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生および学校関係者
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生および学校関係者向けに、テレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,600件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（近畿日本鉄道、JR西日本）、ステッカー広告（奈良交通バス）、デジタルサーネージ（JR奈良駅）
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	中外日報、奈良新聞、産経新聞
テレビ、ラジオ	NHK奈良放送局　「ならナビ」、読売テレビ「奈良国宝巡礼の旅～知られざる救済の僧　忍性の足跡～」、読売テレビ　かんさい情報ネットten.「忍性展ができるまで」、
雑誌	マイ奈良（アサコム奈良ニッセイシャ）、ぱーぷる（エヌ・アイ・プランニング）、月刊大和路ならら（地域情報ネットワーク）、ノジュール（JTBパブリッシング）、芸術新潮（新潮社）、月刊書道界（藤樹社）ほか
インターネットメディア	ART AgendA、ならリビング
その他	—
③報道発表会	
実施日	6月20日
人数等	10媒体、15人出席（場所：当館講堂）
④報道内覧会	
実施日	7月22日
人数等	12媒体、18人出席

・特別展「第68回　正倉院展」

会期	10月22日（土）～11月7日（月）（17日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客

重点項目	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客向けにテレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,600件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（JR西日本、大阪市営地下鉄、京都市営地下鉄、阪急梅田駅、JR大阪駅、JR京都駅、JR金沢駅、JR岡山駅、JR広島駅）、デジタルサーネージ（JR奈良駅）
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	10月17日・19日放送MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」生CM
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、スポーツ報知、北國新聞・富山新聞、朝日新聞夕刊「A＋１」（関西版）
テレビ、ラジオ	読売テレビ「ウェークアップぷらす」「情報ライブ　ミヤネ屋」「かんさい情報ネットten」「正倉院展特番」、NHK奈良「ならナビ」「ニュース４４５なら」、NHK Eテレ「日曜美術館」
雑誌	マイ奈良（アサコム奈良ニッセイシャ）、ぱーぷる（エヌ・アイ・プランニング）、関西ウォーカー（KADOKAWA）、月刊大和路ならら（地域情報ネットワーク）、ならめがね（EditZ）ほか
インターネットメディア	マイ・フェイバリット関西、Lmaga.jp、インターネットミュージアムほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	8月5日
人数等	17媒体、34人出席（場所：当館講堂）
④報道内覧会	
実施日	10月21日
人数等	27媒体、121人出席

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

・トピック展示「火縄銃の世界」

会期	7月12日(火)～9月4日(日)（49日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、生徒・学生ほかの自学学習
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約156件（学校・公共施設・教育委員会、学校等）
交通広告	バス停広告掲出
新聞・雑誌広告	リビング福岡（フリーペーパー）
テレビ広告	—
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、ツイッターでの告知
その他	参道バナー掲出、リビング福岡、シティリビング
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	広報だざいふ、JAFmate、和楽、リビング福岡、シティリビング
インターネットメディア	—
その他	マスコミ内覧会の開催5社出席

・トピック展示「全国高等学校考古名品展2016」

会期	7月20日（水）～9月25日（日）（60日間）
ターゲット	一般の考古学ファンおよび学生、教師
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供

特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約274件（学校・公共施設・出品校および周辺の高等学校等）
交通広告	バス停広告掲出
新聞・雑誌広告	リビング福岡（フリーペーパー）
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、ツイッターでの告知
その他	参道バナー掲出、リビング福岡、シティリビング
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、朝日中高生新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	広報ださいふ、JAFmate、ぐらんざ、リビング福岡、シティリビング、九州王国
インターネットメディア	―
その他	マスコミ内覧会の開催5社出席

・トピック展示　有田焼創業400年記念「古伊万里－旧家の暮らしを彩った器」

会期	9月14日（水）～11月6日（日）（50日間）
ターゲット	一般の焼物、美術ファンおよび歴史、考古学ファン他
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	マスコミ内覧会を開催したところ、トピック展示にしては異例の11社が取材し、紙面等でも多く取り上げられた。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約350件（学校・公共施設・キャンパスメンバー校等）
交通広告	JR駅デジタルポスター、バス停広告掲出
新聞・雑誌広告	リビング福岡（フリーペーパー）
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、ツイッターでの告知
その他	参道バナー掲出、当館イベントちらし掲載1回
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、熊本日日新聞
テレビ、ラジオ	NHKはっけんＴＶ、ケーブルステーション「つなＧＯＧＯ」
雑誌	広報ださいふ、九州王国、リビング福岡、シティリビング
インターネットメディア	FANFANふくおか
その他	マスコミ内覧会の開催11社出席

・トピック展示「海の王都 原の辻遺跡と壱岐の至宝」

会期	10月11日(火)～12月4日(日)（50日間）
ターゲット	一般の歴史、考古学ファンおよび学生他
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約300件（学校・公共施設・関係団体・キャンパスメンバー校等）
交通広告	バス停広告掲出、参道バナー掲出
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、ツイッターでの告知

その他	参道バナー掲出、当館イベントちらし掲載3回
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、毎日新聞
テレビ、ラジオ	ケーブルステーション「つなＧＯＧＯ」RKBラジオ
雑誌	広報ださいふ、トマールフクオカ、九州王国
インターネットメディア	―
その他	マスコミ内覧会の開催5社出席

・トピック展示「きらめきで飾る―螺鈿の美をあつめて―」

会期	11月15日（火）～12月23日（金・祝）（34日間）
ターゲット	一般の美術工芸品ファン等
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約274件（学校・公共施設・関係団体等）
交通広告	バス停広告掲出、参道バナー掲出
新聞・雑誌広告	リビング福岡（フリーペーパー）
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、ツイッターでの告知
その他	参道バナー掲出、当館イベントちらし掲載3回
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞
テレビ、ラジオ	NHKはっけんTV、ケーブルステーション「つなＧＯＧＯ」
雑誌	九州王国、広報ださいふ、ぐらんざ、kirari
インターネットメディア	―
その他	マスコミ内覧会の開催5社出席

・新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」

会期	29年1月1日（日・祝）～1月29日（日）（29日間）
ターゲット	一般の美術工芸品ファン等
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約134件（学校・公共施設・関係団体等）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	リビング福岡（フリーペーパー）
テレビ広告	年末年始CM（FBS、TNC、KBC）
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集１回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、ツイッターでの告知
その他	年末年始ラジオ（RKB）、参道バナー掲出、当館イベントちらし掲載2回
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、毎日新聞、
テレビ、ラジオ	はっけんTV
雑誌	九州王国、広報ださいふ、ぐらんざ、kirari
インターネットメディア	―
その他	マスコミ内覧会（中止）

(2)特別展、共催展等

・展覧会名：特別展「始皇帝と大兵馬俑」

会期	28年3月15日（火）～6月12日（日）（78日間）
ターゲット	一般の中国史、歴史・考古学ファン等
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DMM送付	約3,600件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・JR）、ポスター駅貼り等（西鉄・JR）、ポスター車内（西鉄・JR・太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	告知1回、特集1回、送付 約30,000件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、ツイッターでの告知
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞
テレビ、ラジオ	NHK九州放送の番組内で紹介
雑誌	九州王国、太宰府イベント情報、でかなび、ぐらんざ、月刊はかた、女性自身、子連れでchachacha、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパーほか
インターネットメディア	―
その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載、ジュニアガイドを県内の小学校に配布
③報道発表会	
実施日	27年12月11日（9社出席）
人数等	9媒体、　9人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	28年3月14日
人数等	17媒体、33人出席

・特別展「東山魁夷 自然と人、そして町」

会期	7月16日（土）～8月28日（日）（39日間）
ターゲット	一般の絵画ファン他
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約3,700件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・JR）、ポスター駅貼り等（西鉄・JR）、ポスター車内（西鉄・JR・太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	TVQ九州
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	告知1回、特集1回、送付 約30,000件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、ツイッターでの告知
その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、日本経済新聞、朝日新聞、読売新聞、熊本日日新聞、新美術新聞、全私学新聞
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送番組での紹介
雑誌	九州王国、月刊はかた、婦人公論、ライフさせぼ、子連れでchachacha、JAFmate、ぐらんざ、日経サイエンス、グラフ福岡、和樂、サライ、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー、福岡県広報誌　等
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	5月13日

人数等	8媒体、16人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	7月15日
人数等	18媒体、31人出席

・特別展「京都　高山寺と明恵上人―特別公開 鳥獣戯画―　」

会期	10月4日(火)～11月20日(日)（45日間）
ターゲット	一般の歴史、仏教、美術ファン等
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約3,700件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・JR）、ポスター駅貼り等（西鉄・JR）、ポスター車内（西鉄・JR・太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	TVQ九州放送
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	告知1回、特集1回、送付 約30,000件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトおよび特別展公式ホームページ・SNSでの紹介、メールマガジンでの情報配信、ツイッターでの告知
その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、日本経済新聞、読売新聞、産経新聞、全私学新聞ほか
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送番組、NHK九州放送
雑誌	九州王国、ふくおか経済、九州秋ウォーカー、くるめスタイル、日経インテレッセ、ぐらんざ、福岡walker、グラフふくおか、ながさきpress、日経おとなのOFF、福岡県広報誌
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	7月21日
人数等	9媒体、19人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	10月3日
人数等	27媒体、32人出席

・特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」

会期	29年1月1日(日・祝)～3月5日(日)（56日間）
ターゲット	一般の歴史、考古学ファン他
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約3,700件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・JR）、ポスター駅貼り等（西鉄・JR）、ポスター車内（西鉄・JR・太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	TVQ放送
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	告知1回、特集1回、送付 約31,000件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学・県内商業施設等）
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、ツイッターでの告知
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、日本経済新聞、福岡小学生新聞
テレビ、ラジオ	TVQ放送の番組内での紹介、RKB「福岡県庁知らせた課」、県の情報番組コーナー
雑誌	九州冬walker、遊人、月刊イーミル、くるめスタイル、日経大人のOFF
インターネットメディア	―

その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載 ジュニアガイドを県内の小学校に配布
③報道発表会	
実施日	10月28日
人数等	12媒体、18人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	12月26日
人数等	15媒体、37人出席

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

会期	28年4月1日（金）～3月31日（金）（309日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース展示紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

(2)特別展等

・夏期企画展(こども展示)「ナント！おいしい！？平城京！！-奈良の都の食事情-」

会期	7月23日（土）～8月31日（水）（34日間）
ターゲット	高校生以下及びその家族
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞　ほか
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	7月22日

人数等	6媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・秋期特別展「地下の正倉院展 式部省木簡の世界―役人の勤務評価と昇進―」

会期	28年10月15日（土）～11月27日（日）（39日間）
ターゲット	木簡ファン、正倉院展愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞　ほか
テレビ、ラジオ	NHK「Welcome to Amezing Japan　ペルシャの名残を求めて～奈良県奈良市～」（28年12月2日放送） 毎日放送（11月1日放送）
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—
③報道発表会	
実施日	28年10月14日
人数等	7媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・ミニ展示「発掘速報展 平城2016」

会期	29年2月4日（土）～4月2日（日）（50日間）
ターゲット	考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	NHK「Welcome to Amezing Japan　ペルシャの名残を求めて～奈良県奈良市～」（28年12月2日放送） 毎日放送（11月1日放送）
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—
③報道発表会	
実施日	29年2月3日

人数等	6媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

会期	28年4月1日（金）～29年3月31日（金）（359日間）
ターゲット	特別史跡・藤原宮跡見学者
重点項目	遺跡理解の促進
特記事項	新聞・インターネットメディア等で展示紹介記事掲載
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈良県学習教材デジタルブック、旅行ガイドブック、奈良県ポータルサイト等に掲載
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	—
その他	橿原市観光案内所等にリーフレット配置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	産経WEST、産経フォト、毎日新聞ニュース交差点
その他	—

・速報展

①「藤原宮大極殿院の調査（182次）」

②「藤原宮東方官衙北地区の調査（183次）」

③「檜隈寺瓦窯の調査（181-4次）」

④「飛鳥寺出土文字瓦の再調査」

【飛鳥資料館】

(1)平常展

会期	28年4月1日（金）～29年3月31日（金）（309日間）
ターゲット	飛鳥を訪れる観光客、歴史・考古学の愛好家など
重点項目	ホームページ、SNSの更新頻度アップによる告知効果をあげる
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	—
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	るるぶ奈良、奈良散策情報、奈良のミュージアム、DOkka!おでかけ探検隊、まっぷる情報、おしごとはくぶつかん情報館、東海歴史散歩、ミュージアムカフェ　ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット、日本政府観光局グローバルサイト

その他	—

(2)特別展等

・春期特別展「文化財を撮る—写真が遺す歴史」

会期	28年4月26日（火）～7月3日（日）（60日間）
ターゲット	写真愛好家、歴史・考古学愛好家
重点項目	写真関係雑誌などへの情報提供
特記事項	体験コーナー、体験イベントの実施を告知
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,350件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、産経新聞、奈良新聞　ほか
テレビ、ラジオ	NHK奈良、ラジオHONEY FM
雑誌	マイ奈良、なら探索ミュージアム、月刊大和路ならら、ぱーぷる、広報あすか　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、あをによしなら旅ネット、イベントバンク
その他	—
③報道発表会	
実施日	28年4月25日
人数等	6媒体（場所：飛鳥資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・夏期企画展「第7回写真コンテスト 飛鳥の石」

会期	28年7月26日（火）～9月4日（日）（36日間）
ターゲット	写真愛好家、飛鳥を散策したい観光客
重点項目	写真雑誌、高校写真部などへの情報提供
特記事項	撮影スポットを入れた地図を会場で配布して飛鳥めぐりを誘引する
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,350件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	NHK奈良
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、奈良新聞　ほか
テレビ、ラジオ	—
雑誌	登竜門、ならめがね、ぱーぷる、マイ奈良、広報あすか　ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット
その他	—
③報道発表会	
実施日	—
人数等	—
④報道内覧会	
実施日	—

人数等	—

・秋期特別展「祈りをこめた小塔」

会期	28年10月7日（金）～12月4日（日）（52日間）
ターゲット	古美術愛好家
重点項目	SNSを利用して展示途中状況などを告知に利用
特記事項	新たに購入した百万塔をポスターのメインとして公開活用をアピール
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,350件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、奈良新聞　ほか
テレビ、ラジオ	—
雑誌	奈良のミュージアム、ぱーぷる、マイ奈良、広報あすか　ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット
その他	—
③報道発表会	
実施日	28年10月6日
人数等	6媒体（場所：飛鳥資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・冬期企画展　「飛鳥むかしむかし　早川和子原画展」

会期	29年1月24日（火）～3月20日（月）（49日間）
ターゲット	イラスト愛好家、古代史ファン
重点項目	新聞に紹介記事を連載して広報強化
特記事項	作家による解説、似顔絵書きイベントをチラシ掲載して広報
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,350件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、奈良新聞、産経新聞
テレビ、ラジオ	NHK奈良、ラジオ大阪
雑誌	ぱーぷる、月刊大和路ならら、マイ奈良、広報あすか　ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット
その他	—
③報道発表会	
実施日	29年1月23日
人数等	6媒体（場所：飛鳥資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

1-(3)-②-6 広報刊行物一覧

【東京国立博物館】

刊　行　物　名	発　行　部　数	配　　布　　先
東京国立博物館ニュース738号～743号	隔月刊年6回　各30,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体等に送付 定期郵送希望者　2,468件 （パスポート同時申込 1,070件含） 友の会　2,249件 寄贈　国内1,093件　海外87件（国内外の美術館・博物館・大学・研究所等） 賛助会　452件 キャンパスメンバーズ　52件 （29年3月31日現在）
東京国立博物館「案内と地図」	日本語　28.4　改訂　121,000部 日本語　28.8　増刷　30,000部 英語　28.4　改訂　65,000部 英語　28.8　増刷　20,000部 中国語（簡体字）28.4　改訂　12,000部 中国語（簡体字）28.8　増刷　8,000部 中国語（繁体字）28.4　改訂　10,000部 韓国語　28.4　改訂　47,000部 フランス語　28.4　改訂　10,000部 フランス語　28.8　増刷　4,000部 スペイン語　28.4　改訂　9,000部 ドイツ語　28.4　改訂　5,000部 ドイツ語　28.8　増刷　4,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体、大使館、学校等に送付
東京国立博物館　展示・催しのご案内 2016.4-2017.3	28.3　28年度版　35,000部	館内で来館者に無償配布 観光案内所、マスコミ媒体等に送付

【京都国立博物館】

刊　行　物　名	発行時期	発　行　部　数	配　　布　　先
京都国立博物館だより	4、7、10、29年1月	190号（4・5・6月）　30,000部 191号（7・8・9月）　15,000部 192号（10・11・12月）　30,000部 193号（29年1・2・3月）　20,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
Kyoto National Museum Letter Vol.129～132	4、7、10、29年1月	Vol.129（4・5・6月）　8,000部 Vol.130（7・8・9月）　3,000部 Vol.131（10・11・12月）　3,000部 Vol.132（29年1・2・3月）　3,000部	観覧者、京都観光案内所
博物館Dictionary No.188～197	4月、6月、7月、8月、10月、11月、29年1月、2月	20,000部	観覧者（小・中学生対象）
平成28年度年間スケジュール	4月、10月	45,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
特集陳列「徳川将軍家と京都の寺社」「丹後の仏教美術」「与謝蕪村」ポスター	5月	30部	周辺施設、鉄道主要駅ほか
特集陳列「丹後の仏教美術」鑑賞ガイド「トラりんと見てみよう！　丹後に伝わる祈りのかたち」	7月	8,000部	観覧者（子ども～大人対象）
留学生の日2016ポスター・チラシ	8月	ポスター　450部 チラシ　9,000部	観覧者(関西圏の大学、専門学校へ送付)
「京博のお正月2017」ポスター・チラシ	11月	ポスター　2,000部 チラシ　110,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
特集陳列「とりづくし」鑑賞ガイド「トラりんと見てみよう！　美術のなかのとりたち」	12月	13,300部	観覧者（子ども～大人対象）
夜間開館告知ポスター・フライヤー	29年1月	ポスター　200部 フライヤー　30,000部	観覧者、京都駅観光案内所ほか
特集陳列「雛まつりと人形」リーフレット	29年2月	8,000部	観覧者
特集陳列「京博すいぞくかん」チラシ	29年3月	チラシ　20,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
京都国立博物館建築／庭園ガイド英語版	29年3月	3,000部	庭園解放時に有料観覧者に配布及び販売(260円税込)
平成29年度年間スケジュール	29年3月	40,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送

【奈良国立博物館】

刊　行　物　名	発 行 部 数	配　　布　　先
奈良国立博物館だより （年4回）	春号　20,000部 夏号　20,000部 秋号　30,000部 冬号　20,000部	美術館・博物館・学校・研究所・郵送希望者等　約1,560件に発送 館内で来館者に配布
奈良国立博物館リーフレット	日本語版　33,000部 英語版　6,000部 フランス語版　1,000部	館内で来館者に配布

	ドイツ語版　1,000部 中国語版　7,000部 韓国語版　2,000部 スペイン語版　1,000部	
奈良国立博物館展示案内	30,000部	館内で来館者に配布

【九州国立博物館】

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
九州国立博物館案内リーフレット	日本語版　80,000部 中国語版　15,000部 韓国語版　10,000部 英語版　20,000部 ドイツ語版　4,000部 フランス語版　4,000部 スペイン語版　4,000部 合計　137,000部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
文化交流展示室案内マップ	日本語版　11,618部 合計　11,618部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
九州国立博物館概要	日本語版　3,000部 中国語版　300部 韓国語版　300部 英語版　500部 合計　4,100部	・視察者等に配布 ・学校関係へ郵送
季刊情報誌「アジアージュ」	春(40)号　50,000部 夏(41)号　50,000部 秋(42)号　50,000部 冬(43)号　50,000部 合計　200,000部	・館内で来館者に配布 ・美術館・博物館、近隣文化施設、県内市町村 近隣大学、太宰府市、友の会会員等へ郵送
九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内	毎月発行　各号16,500部	・館内で来館者に配布 ・郵便局、学校、図書館、ホテル、公共施設、道の駅等に配布
九州国立博物館　展示スケジュールのご案内	23,000部	・館内で来館者に配布
九州国立博物館　わくわく通信	年5回　総数684,000枚	・近郊の小中学校に配布

1-(3)-②-7 ウェブサイトアクセス件数　　（後述の資料に記載）◎共通資料d

1-(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

1-(4)-① 有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究

1-(4)-①-1 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-②

1-(4)-①-2 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-③

1-(4)-①-3 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑤

1-(4)-①-4 科学研究費助成事業による調査研究　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑦

1-(4)-①-5 客員研究員一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑧

1-(4)-② その他有形文化財に関連する調査研究

1-(4)-②-1 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-②

1-(4)-②-2 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-③

1-(4)-②-3 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑤

1-(4)-②-4 科学研究費助成事業による調査研究　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑦

1-(4)-②-5 客員研究員一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑧

1-(4)-③ 国内外の博物館等との学術交流等

1-(4)-③-1 研究交流実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-①

1-(4)-④ 調査研究成果の公表

1-(4)-④-1 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑥

1-(4)-④-2 平常展・特別展・海外展　（後述の資料に記載）　◎共通資料a-③

1-(4)-④-3 講座・講演会等の開催実績　（前述の資料に記載）　1-(3)-①-2 講座・講演会等の開催実績

1-(5) 国内外の博物館活動への寄与

1-(5)-① 国内外の博物館等への有形文化財の貸与

1-(5)-①-1国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与件数

平成29年3月31日現在

		国立博物館計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与先件数		244	234	10	109	103	6	71	70	1	34	33	1	30	28	2
合　計		1,561	1,348	213	946	750	196	367	365	2	165	161	4	83	72	11
絵画		560	483	77	254	179	75	214	214	0	75	75	0	17	15	2
書跡		109	89	20	52	33	19	36	36	0	16	16	0	5	4	1
彫刻		136	119	17	102	92	10	16	14	2	16	12	4	2	1	1
建築		13	13	0	11	11	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0
金工		85	81	4	55	51	4	17	17	0	12	12	0	1	1	0
刀剣		41	36	5	40	36	4				0	0	0	1	0	1
陶磁		80	65	15	55	43	12	20	20	0	0	0	0	5	2	3
漆工		99	93	6	55	49	6	19	19	0	12	12	0	13	13	0
染織		72	38	34	62	28	34	9	9	0	1	1	0	0	0	0
考古		193	179	14	128	117	11	8	8	0	33	33	0	24	21	3
民族資料		23	23	0	23	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料		61	61	0	21	21	0	28	28	0	0	0	0	12	12	0
和書		19	18	1	18	17	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0
東洋	絵画	14	10	4	14	10	4									
	書跡	18	18	0	18	18	0									
	彫刻	3	1	2	3	1	2									
	金工	0	0	0	0	0	0									
	陶磁	8	5	3	8	5	3									
	漆工	9	5	4	9	5	4									
	染織	7	1	6	7	1	6									
	考古	2	2	0	2	2	0									
	民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物		2	1	1	2	1	1									
黒田記念館収蔵品		7	7	0	7	7	0									

＊巡回展等で複数館に貸与する場合は、それぞれ館数と文化財件数をカウント。

付表・貸与件数の推移

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
貸与先件数		311	272	274	273	244
合　計		1,814	2,041	1,962	1,530	1,561
絵画		436	461	392	432	560
書跡		91	101	92	81	109
彫刻		224	183	361	313	136
建築		5	4	3	3	13
金工		84	63	94	92	85
刀剣		13	46	10	22	41
陶磁		99	250	257	116	80
漆工		57	121	109	54	99
染織		98	47	35	48	72
考古		327	324	243	201	193
民族資料		2	0	8	37	23
歴史資料		44	68	36	20	61
和書		14	13	13	18	19
東洋	絵画	12	13	42	20	14
	書跡	6	13	13	7	18
	彫刻	27	9	5	6	3
	金工	0	0	4	0	0
	陶磁	29	37	28	13	8
	漆工	3	0	5	2	9
	染織	0	1	7	0	7
	考古	49	47	10	0	2
	民族	0	0	0	0	0
法隆寺献納宝物		0	0	2	33	2
黒田記念館収蔵品		194	240	193	12	7

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

1-(5)-①-2 国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与先別件数

○収蔵品

平成29年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計(国内+海外)	203	1,215	109	893	45	166	24	84	25	72
国内	193	1,004	103	697	44	164	23	82	23	61
国・国立	32	115	16	58	8	28	3	22	5	7
地方・公立	115	726	67	532	20	103	14	46	14	45
私立団体	46	163	20	107	16	33	6	14	4	9
海外	10	211	6	196	1	2	1	2	2	11

○寄託品

平成29年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計(国内+海外)	107	346	27	53	56	201	19	81	5	11
国内	106	344	27	53	56	201	18	79	5	11
国・国立	15	133	3	14	7	89	3	27	2	3
地方・公立	52	109	16	27	28	63	6	13	2	6
私立団体	39	102	8	12	21	49	9	39	1	2
海外	1	2	0	0	0	0	1	2	0	0

1-(5)-①-3 海外への列品貸与

平成29年3月31日現在

【東京国立博物館】　海外貸与先　6件　　海外貸与文化財196件[うち寄託品 0件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
1	常設展示（長期貸与）	フランス国立ギメ美術館【フランス国立ギメ美術館（フランス共和国パリ市）】	14年1月1日 ～29年12月31日	東洋彫刻2件
2	発掘40周年記念特別展「新安海底文化財」	大韓民国国立中央博物館【国立中央博物館（大韓民国）】	7月5日 ～9月23日	絵画2件
3	海外展「日本仏像展」	文化庁、ローマ・クイリナーレ宮美術館【ローマ・クイリナーレ宮美術館リウム（イタリア共和国）】	6月15日 ～9月30日	彫刻2件
4	特別展「絹の世界」	国立絲綢博物館【国立絲綢博物館（中華人民共和国）】	8月15日 ～12月26日	28件 染織24、東洋染織4
5	海外展「15－19世紀日中韓絵画清品展」	中国国家博物館【中国国家博物館（中華人民共和国）】	10月26日 ～12月23日	絵画18件
6	交流展「日本美術の粋　東京・九州国立博物館精品展」	國立故宮博物院南部院区【國立故宮博物院南部院区】	11月14日 ～29年3月26日	144件 絵画55、書跡19、彫刻8、金工4、刀剣4、陶磁12、漆工6、染織10、考古11、法隆寺献納宝物1、和書1、東洋絵画4、東洋陶磁3、東洋漆工4、東洋染織2

【京都国立博物館】　海外貸与先 1件　　海外貸与文化財 2件[うち寄託品 0件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
1	海外展「日本仏像展」	文化庁、ローマ・クイリナーレ宮美術館【ローマ・クイリナーレ宮美術館リウム（イタリア共和国）】	7月29日 ～9月4日	彫刻2

【奈良国立博物館】　海外貸与先 1件　　海外貸与文化財 4件[うち寄託品 2件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
1	海外展「日本仏像展」	文化庁、ローマ・クイリナーレ宮美術館【ローマ・クイリナーレ宮美術館リウム（イタリア共和国）】	5月30日 ～10月5日	彫刻4[2]

【九州国立博物館】　海外貸与先 2件　　海外貸与文化財 11件[うち寄託品 0件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
1	福泉博物館開館20周年及び釜山市-福岡市文化財交流20周年記念国際交流展「日本古代文化への招待」	大韓民国釜山市福泉博物館	9月19日 ～ 12月19日	3件 考古3
2	「日本美術の粋　東京・九州国立博物館精品展」	台北國立故宮博物院南部院區	11月18日 ～ 29年3月31日	8件 絵画2、書跡1、彫刻1、刀剣1、陶磁3

1-(5)-①-4 考古の相互貸借実績

【東京国立博物館】

	貸与先名	期間	貸与件数（件）	借用件数（件）
1	岡山県立美術館	8月1日～29年3月31日	53	10
2	鳥取県立博物館	8月1日～29年3月31日	36	11

【奈良国立博物館】

	貸与先名	期間	貸与件数（件）	借用件数（件）
1	福岡市博物館、福岡市埋蔵文化財センター	9月1日～29年3月31日	10	8
2	遊佐町教育委員会	9月1日～29年3月31日	1	4

（参考）

その他（収蔵品・寄託品以外）の貸与

【東京国立博物館】

	区分	貸与先	期間	貸与件数（件）	貸与先件数(件)
1	古写真	名古屋城天守閣	10月8日～11月23日	6	1
2	図書	練馬区立牧野記念庭園記念館	2月18日～3月31日	1	1

1-(5)-② 国内外の博物館等への援助・助言等

1-(5)-②-1 国内外の博物館等への援助・助言等に関する取組状況
（専門的・技術的な援助・助言の件数、行政、公私立博物館等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

平成29年3月31日現在

計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
381件	120件	112件	62件	87件

【東京国立博物館】120件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	東京国立近代美術館	評議員として美術館の運営・事業等に関し助言を行う	4月1日～29年3月31日	学芸企画部長　井上洋一
2	アイヌ国立博物館準備室	アイヌ国立博物館開館に向けての助言を行う	8月3日、29年3月16日	同上
3	マレーシア・イスラム美術館	東京国立博物館のイスラム関係美術所蔵状況および国際交流事業について	29年3月31日	学芸企画部長　井上洋一、調査研究課考古室長　白井克也、企画課国際交流室主任研究員　遠藤楽子、調査研究課東洋室研究員　小野塚拓造
4	文化庁	イタリア共和国ローマ市のクイリナーレ宮美術館における「日本仏像展」の展示作業	7月15日～8月1日	企画課長　浅見龍介
5	丹青研究所	「美術工芸品の公開活用の現状調査事業」ワーキングチームの委員	9月9日～29年3月31日	同上
6	国際交流基金	アメリカ合衆国ナショナルギャラリー等における「日本美術に見る動物の姿」展（仮称）の共同キュレーター	10月4日～29年3月31日	同上
7	一般財団法人アイヌ民族博物館	アイヌ文化伝承者育成事業への協力	29年1月18～19日	企画課特別展室主任研究員　品川欣也
8	照明学会	「美術館・博物館の次世代照明基準に関する研究調査委員会」への委員参加	4月1日～29年3月31日	企画課デザイン室長　木下史青
9	神奈川大学 日本常民文化研究所	神奈川大学非文字資料研究研究センター海外提携機関訪問研究員 ジアダ・リッチ（フランス国立高等研究院）氏に対し、日本の博物館展示デザインについて情報提供を行った。	10月18日	同上
10	那覇市立壺屋焼物博物館	照明更新(監修業務)の現場調整および記録撮影	10月23～24日	同上
11	公益財団法人菊池美術財団　菊池寛実記念　智美術館	館内照明設備の改修工事にかかわる助言	29年2月7日	同上
12	宗教法人 浅草寺	ライトアップ照明設備の改修にかかわる助言	29年2月～3月31日	同上
13	公益財団法人　品川文化振興事業団　0美術館	館内照明設備の改修工事にかかわる監修	29年3月23日～3月31日	同上
14	ルーブル美術館	来館者数の推移と傾向に関わる助言・意見交換	4月1日～12月31日	企画課国際交流室主任研究員 遠藤楽子
15	パリ装飾芸術美術館	国際交流基金協力事業「ジャポニズム」展に関連し、東京国立博物館の所蔵品の概略と貸与・条件等について	29年3月8日	同上
16	埼玉県立歴史と民族の博物館	東京国立博物館での多言語対応について	29年3月	同上
17	さいたま市大宮盆栽美術館	キャプションの英語表記について	12月12日	企画課国際交流室アソシエイトフェロー　君波妙子
18	文化庁	古墳壁画の保存活用に関する検討会　委員	4月1日～29年3月31日	博物館教育課長　小林牧
19	九州国立博物館	スマートフォンによる鑑賞ガイドに関する助言	7月15日	博物館教育課長　小林牧、博物館教育課教育普及室主任研究員 藤田千織
20	イスラエル聖書博物館	博物館の教育普及事業に関する助言	9月27日	博物館教育課長　小林牧
21	奈良県公園緑地課	飛鳥宮跡保存活用検討委員会　委員	10月1日～29年3月31日	同上
22	宇都宮市立美術館・宇都宮市立博物館	多言語対応に関する助言	11月10日	同上
23	ユネスコアジア文化センター	文化遺産の保護に資する研修2016　教育普及	11月30日	博物館教育課長　小林牧、博物館教育課教育普及室主任研究員 藤田千織
24	京都鉄道博物館	教育普及事業全般に関する助言	12月12日	博物館教育課教育普及室主任研究員　藤田千織
25	静岡大学	博物館という「場」を活用したイベントについての助言	12月26日	同上
26	福山大学海洋生物科学科（博物館教育）	スマートフォンによる鑑賞ガイドに関する助言	29年2月3日	同上
27	九州国立博物館	演劇型教育プログラムに関する助言	29年2月17日	同上
28	秋田市立千秋美術館	スマートフォンによる鑑賞ガイドに関する助言	29年2月21日	同上
29	仙台市科学館	スマートフォンによる鑑賞ガイドに関する助言	29年3月2日	同上
30	韓国国立中央博物館	ボランティア、インターン、職場体験について	6月14日	博物館教育課ボランティア室長 鈴木みどり
31	江戸東京博物館	バリアフリーの取り組みについて	6月24日	同上
32	韓国国立中央博物館	盲学校対応、ユニバーサルデザインについて	9月28日	同上

	機　関	内　容	期　間	担当者
33	韓国国立中央博物館	青年対象のボランティアについて（ボランティア運営、芸大インターン、スクールプログラムについて）	12 月 20 日	同上
34	国立アイヌ民族博物館展示検討委員会　委員	2020 年に開館予定の同館の展示内容を検討し、専門的な立場から助言を行った。	4 月 1 日～29 年 3 月 31 日	博物館情報課長　田良島哲
35	文京区立森鴎外記念館運営協議会委員	委員会に出席し、同館の運営に関して、専門的立場から意見を述べた。	4 月 1 日～29 年 3 月 31 日	同上
36	内閣府　知的財産戦略推進事務局「デジタル・アーカイブの連携に関する実務者協議会」構成員	博物館・図書館・文書館等の間のデジタルアーカイブの連携について、博物館の立場から意見を述べ、併せて最近の動向を把握した。	4 月 1 日～29 年 3 月 31 日	同上
37	国立歴史民俗博物館	企画展示「デジタルで楽しむ歴史資料」展示プロジェクト委員	4 月 27 日、10 月 7 日、29 年 3 月 13 日	博物館情報課情報管理室長　村田良二
38	文化庁	第１０回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー講師	7 月 4 日、10 月 24 日	同上
39	東京国立近代美術館	「海外日本美術資料専門家（司書）の招聘・研修・交流事業 2016」研修講師	11 月 30 日	博物館情報課長　田良島哲、博物館情報課情報管理室長　村田良二、博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子
40	情報科学技術協会	ISO/TC46/SC4　国内委員会委員	29 年 1 月 17 日	博物館情報課情報管理室長　村田良二
41	国際展覧会オーガナイザー会議	運営委員会委員･アジアの博物館における展覧会運営について	4 月 13 日～4 月 15 日	広報室長　鬼頭智美
42	九州国立博物館	SNS 運用について	5 月 24 日	広報室アソシエイトフェロー奥田緑、広報室長　鬼頭智美
43	国立新美術館	広報対応について	5 月 27 日	広報室長　鬼頭智美
44	国立民族学博物館	平成 28 年度「博物館学集中コース」研修講師	10 月 13 日	同上
45	愛知県教育委員会	愛知県文化財保護審議会委員	4 月 1 日～29 年 3 月 31 日	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　恵美千鶴子
46	流山市教育委員会	「平成 28 年度第１回鰭ヶ崎三本松古墳調査指導委員会」における古墳調査方法に関する指導助言	7 月 21 日	列品管理課主任研究員　古谷毅
47	流山市教育委員会	「平成 28 年度第 2 回鰭ヶ崎三本松古墳調査指導委員会」における古墳調査方法に関する指導助言	10 月 10 日	同上
48	鹿児島大学総合研究博物館	基盤研究(B)「Ｘ線ＣＴ調査による古墳時代甲冑のデジタルアーカイブおよび型式学的新研究」におけるＸ線ＣＴ調査の分析方法に関する指導助言	12 月 2 日	同上
49	国立歴史民俗博物館	企画展示「URUSHI ふしぎ物語―人と漆の 9000 年史-（仮称）」展示プロジェクト委員	4 月 1 日～29 年 3 月 31 日	列品管理課登録室長　竹内奈美子
50	日本博物館協会	美術品梱包輸送技能取得士認定制度に関する委員会委員および認定試験委員会委員	4 月 1 日～29 年 3 月 31 日	同上
51	神戸市立博物館、名古屋ボストン美術館	「ボストン美術館所蔵　俺たちの国芳　わたしの国貞」展監修	6 月 18 日～8 月 28 日、9 月 10 日～12 月 11 日	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人
52	美術史学会	『美術史』181 号査読委員	10 月	同上
53	公益財団法人　永青文庫	永青文庫所蔵の武具刀剣類について、保管および展示の指導。	4 月 1 日～29 年 3 月 31 日	列品管理課平常展調整室研究員末兼俊彦
54	静岡県立美術館	「風景の絶景」展特別講演会「あれから 30 年―日本画収集をふりかえって」講師	4 月 24 日	調査研究課絵画･彫刻室主任研究員　山下善也
55	花園大学禅文化研究所	講演会「春日局像と狩野探幽」講師	5 月 20 日	同上
56	NHK ラジオ第２	NHK カルチャーラジオ 芸術その魅力「富士山と日本人の心」講師	10 月 5 日～12 月 28 日	同上
57	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4 月 1 日～29 年 3 月 19 日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
58	静岡県教育委員会	静岡県文化財保護審議会委員	28 年 1 月 1 日～29 年 12 月 31 日	同上
59	文化庁	調査員（文化財部伝統文化課）	6 月 1 日～29 年 3 月 31 日	同上
60	日本工芸会	第 63 回日本伝統工芸展鑑査委員（染織）	8 月 11～12 日	同上
61	独立行政法人日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員	29 年 2 月 15～16 日	同上
62	香川県立ミュージアム	香川県内経塚出土遺物に関する照会	7 月 8 日	調査研究課考古室長　白井克也、調査研究課考古室研究員　井出浩正
63	大野城市教育委員会	大野城市出土考古資料に関する照会	9 月 28 日、9 月 30 日	調査研究課考古室長　白井克也
64	新潟県立歴史博物館	県内で見いだされた新羅土器印花文碗･蓋の真贋に関する照会	29 年 1 月 24 日	同上
65	国立国際美術館	始皇帝と大兵馬俑展の作品展示、撤収	6 月 27 日～6 月 29 日、10 月 2 日～10 月 7 日	企画課特別展室主任研究員　市元塁、調査研究課考古室研究員井出浩正
66	日比谷区立図書文化館	展覧会への入口講座 Vol.20　禅と茶の湯－茶湯道具の変遷とその魅力について	10 月 21 日	調査研究課東洋室主任研究員三笠景子
67	大和文華館	『特別企画展　朝鮮の絵画と工芸』特別講演講師	11 月 27 日	調査研究課東洋室研究員　植松瑞希
68	練馬区立牧野記念庭園記念館	絵画技法についての助言	5 月 18 日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
69	韓国国立中央博物館	文化財の燻蒸方法について	6 月 15 日	同上
70	バイエルン国立博物館	文化財用 X 線 CT の設計、設置、修理における活用について	7 月 5 日	同上

	機　関	内　容	期　間	担当者
71	大英博物館	文化財の科学的調査と修理について	7 月 16 日	同上
72	練馬区立牧野記念庭園記念館	生物対策の助言	7 月 21 日	同上
73	神奈川県立生命の星・地球博物館	生物対策の助言	7 月 21 日	同上
74	NPO 法人文化財保存支援機構	文化財保存修復専門家養成実践セミナー　レベル２・A　講義「接着剤」講師	9 月 2 日	同上
75	学習院大学資料館	文化財収蔵施設環境についての助言	9 月 20 日	同上
76	国立台湾文学館	ガラス乾板写真の保存と修復について	9 月 25 日	同上
77	韓国国立中央博物館	ガラス乾板写真の保存と修復について	11 月 16 日～11 月 17 日	同上
78	韓国国家記録院	写真の保存、害虫管理、文化財修理について	11 月 21 日	同上
79	朝鮮民族美術館	写真の保存、デジタルアーカイブについて	11 月 22 日	同上
80	文化庁文化財部伝統文化課国立アイヌ民族博物館設立準備室	文化財用 X 線 CT の設計、設置、活用について	12 月 16 日	同上
81	韓国国立慶州博物館	収蔵品の地震対策、Ｘ線ＣＴの活用について	12 月 21 日	同上
82	文化庁	新指定展における、維摩居士像 X 線 CT 画像、3 次元ﾃﾞｰﾀの作成	29 年 3 月 16 日～3 月 30 日	保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛
83	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会保存環境ワーキンググループ専門委員	4 月 1 日～29 年 3 月 31 日	保存修復課環境保存室長　和田浩
84	日本博物館協会	美術品梱包輸送技能取得士認定制度に関する委員会委員および認定試験委員会委員	4 月 1 日～29 年 3 月 31 日	同上
85	文化庁	美術工芸品の公開活用の現状調査事業に係る技術審査専門委員	7 月 12 日	同上
86	文化庁	美術工芸品の公開活用の現状調査事業ワーキングチーム委員	9 月 12 日～29 年 3 月 31 日	同上
87	文化庁	第 10 回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー講師	10 月 24 日	同上
88	三の丸尚蔵館	修理作品企画競争審査委員会　外部委員	4 月 26 日	保存修復課保存修復室長　土屋裕子
89	イタリア・トリブルツィオ財団	伊東マンショの肖像の非破壊絵具分析調査	7 月 11 日	同上
90	NPO 法人文化財保存支援機構	文化財保存修復専門家養成実践セミナー　講義「文化財に関する情報蓄積の重要性―東京国立博物館の保存カルテ作成の実際と課題」講師	9 月 2 日	同上
91	静嘉堂文庫	浮世絵のマウント方法および費用についての助言指導	11 月 30 日	同上
92	ユネスコ	アジア博物館学芸員研修「保存修復について」（「文化遺産の保護に資する研修２０１６」 ―博物館等における文化財の調査・記録・保存修復・活用―）	12 月 1 日	同上
93	秩父の宮記念スポーツ博物館	列品台帳および作品保存についての助言	12 月 12 日	同上
94	杉原千畝記念館（岐阜県八百津町役場）	杉原千畝の「命のビザ」の保存対策　作品の保存環境現地調査およびデータ読み込み作業、保存箱についての検討	12 月、29 年 1 月 18 日	特任研究員　神庭信幸、保存修復課保存修復室長　土屋裕子
95	国際交流基金	ウルグアイにおける日本の修復専門家による現地環境・作品状態の調査、専門的見地からのアドバイス及びワークショップの実施を計画についての助言	29 年 1 月 12 日	保存修復課保存修復室長　土屋裕子
96	共立女子大学	収蔵品の修理仕様についての指導、修理技術者に対する技術指導	29 年 1 月 16～17 日	同上
97	文化庁文化財部伝統文化課 国立アイヌ民族博物館設立準備室	新規設置修理室についての助言	29 年 1 月 16 日	同上
98	ウルグアイ、モンテビデオ県立ファン・マヌエル・ブラネス美術館	国際交流基金文化協力（ウルグアイ絵画修復）による現地への専門家派遣（Las Manolas　カンバス・油彩の修理および日本美術修理に関する講演）	29 年 3 月 20 日～3 月 28 日	保存修復課保存修復室長　土屋裕子、同アソシエイトフェロー野中昭美、木島隆康、安田真実子
99	鎌倉市教育委員会	鎌倉市文化財専門委員会	6 月 1 日～29 年 3 月 31 日	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛
100	長野県信濃美術館	長野県信濃美術館開館 50 周年記念特別講座　もっと知りたい日本美術のこと　四　知ると楽しい仏画の世界	9 月 10 日	同上
101	宮崎県立美術館	開催記念講演会　伊東マンショの肖像と日伊交流	9 月 19 日	同上
102	普光寺文化財保存会設立準備会	講演会　板谷桂舟筆「普光寺山門天井画及び板絵」と板谷家伝来資料	11 月 6 日	同上
103	岩手県文化財審議員工芸担当者	指定候補物件の分析画像の確認	9 月 24 日～9 月 28 日	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　野中昭美
104	東根市公益文化施設まなびあテラス　東根市美術館	展示室内空気環境に関する助言	11 月 8 日～12 月 1 日	同上
105	仙台市立博物館	民族有形文化財の漆塗膜分析に関する助言	29 年 3 月 14 日	同上
106	奈良国立博物館	上代裂等の修理方法に関する助言	8 月 2 日	客員研究員　沢田むつ代
107	舞鶴市	舞鶴市ユネスコ世界記憶遺産有識者会議委員	24 年 12 月 26 日～31 年 3 月 31 日	総務部長　栗原祐司
108	日本博物館協会	調査研究委員会委員	26 年 7 月 15 日～29 年 3 月 31 日	同上
109	田川市教育委員会	田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員	27 年 4 月 1 日～29 年 3 月 31 日	同上
110	兵庫県立考古博物館	兵庫県立考古博物館運営委員会委員	27 年 12 月 1 日～29 年 3 月 31 日	同上
111	スポーツミュージアム連携・啓発事業実行委員会	スポーツミュージアム連携・啓発事業委員会委員	4 月 1 日～29 年 3 月 31 日	同上

	機　関	内　容	期　間	担当者
112	文化庁	文化財等災害対策委員会委員	4月1日～29年3月31日	同上
113	日本博物館協会	日本のミュージアムのための国際発信力向上推進事業実行委員会委員	4月1日～29年3月31日	同上
114	「人権ネットを活用した地域活性化事業」実行委員会	「人権ネットを活用した地域活性化事業」実行委員	5月1日～29年3月31日	同上
115	ICOM日本委員会	ICOM日本委員会委員	5月13日～平成30年度総会	同上
116	文化庁	「Tokyo 2020 JAPAN HOUSEにおける日本発信プロジェクト」運営実施業務企画選定委員会委員	4月7日～29年3月31日	総務課長　竹之内 勝典
117	文化庁	「文化情報の基盤構築に向けた調査・検証」請負業務に係る技術審査専門委員	7月20日～29年3月31日	同上
118	文化庁	「国民文化祭に関する調査研究」委託業務の委託先選定に係る技術審査専門委員	11月4日	同上
119	文化庁	「第9回日中韓文化大臣会合、東アジア文化都市サミット及び関連行事」企画選定委員会委員	29年3月13日～29年3月31日	同上
120	文化庁	「国民文化祭に関する調査研究」委託業務の委託先選定に係る技術審査専門委員	3月23日	同上

【京都国立博物館】112件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月～9月	副館長　伊藤嘉章
2	文化庁	美術工芸品買取鑑査会議　委員	4月～9月	同上
3	岐阜県教育委員会	岐阜県文化財保護審議会委員として助言	4月～9月	同上
4	愛知県陶磁美術館	愛知県陶磁美術館委員会に出席し助言	4月～9月	同上
5	京都大学	教育・研究指導	4月～29年3月	学芸部長　山本英男 列品管理室長　宮川禎一 教育室長　山川　曉 保存修理指導室長　大原嘉豊
6	高知県	坂本龍馬記念館ﾘﾆｭｰｱﾙ基本構想検討委員として助言	4月～29年3月	列品管理室長　宮川禎一
7	京都女子大学	非常勤講師	4月～29年3月	学芸部長　山本英男
8	滋賀県	文化財保護審議会委員として助言	4月～30年9月	教育室長　山川　曉
9	祇園祭山鉾連合会	祇園祭山鉾装飾品等専門委員会委員として助言	4月～29年3月	同上
10	京都女子大学	非常勤講師	4月～29年1月	同上
11	同志社大学	非常勤講師	4月～9月	保存修理指導室長　大原嘉豊
12	佛教大学	非常勤講師	4月～29年3月	同上
13	法隆寺	美術史班専門委員	4月～29年3月	同上
14	花園大学	非常勤講師	4月～29年3月	保存修理指導室主任研究員　羽田 聡
15	近畿大学	非常勤講師	4月～29年3月	同上
16	奈良大学通信教育部	通信教育部指導教員(非常勤)	4月～29年3月	工芸室研究員　降矢哲男
17	茶道総合資料館	裏千家茶道総合資料館客員研究員として助言	4月～30年3月	同上
18	東京国立博物館	「博物館でお花見を」桜セミナー及び教育関連展示作業に関する業務分担者	4月9日～11日	連携協力室長　淺湫 毅
19	西福寺	作品借用に関連する指導・助言	4月13日	美術室研究員　福士雄也
20	東京都美術館	「若冲展」に関する指導・助言	4月18日～21日	同上
21	奈良国立博物館	文化財保存修理所運営委員会委員として助言	5月17日	副館長　伊藤嘉章
22	野村美術館	平成28年野村美術館定期講演会にて講演	5月20日	教育室長　山川　曉
23	兵庫県立人と自然の博物館	児童対象ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟにおける水墨画について解説	5月24日、6月5日	教育室研究員　水谷亜希
24	比叡山延暦寺	「天台の名宝展」に関する助言	5月28日	副館長　伊藤嘉章 保存修理指導室長　大原嘉豊 保存修理指導室主任研究員　羽田 聡
25	岐阜県博物館	「美濃桃山陶と無形文化財」講演	5月29日	副館長　伊藤嘉章
26	総見寺	愛知県史編さんに伴う作品調査	5月30日	教育室長　山川　曉
27	東北大学	非常勤講師	6月～7月	列品管理室主任研究員　永島明子
28	文化庁	企画選定委員として助言	6月～29年3月	企画室研究員　井並林太郎
29	細見美術館	「若冲展」に関する展示作品に関する確認及び助言	6月2日	美術室研究員　福士雄也
30	野崎家塩業歴史館	漆工品に関する作品調査	6月3日 11月24日～25日 29年1月17日～18日	列品管理室主任研究員　永島明子
31	静岡市教育委員会	文化財保護審議会委員として助言	6月10日、11月9日	連携協力室長　淺湫 毅
32	智山専修学院	「仏教の文化と美術」講師	6月25日	保存修理指導室長　大原嘉豊
33	東京国立博物館	海外展「醍醐寺展」に関する展示及び撤収	6月29日～30日 9月20日～26日	同上
34	東京国立博物館	海外展「醍醐寺展」に関する展示及び撤収	6月30日 9月23日～26日	企画室長　伊藤信二
35	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	博物館建設に伴う展示WGとして指導	7月～29年3月	学芸部長　山本英男
36	越前市教育委員会	文化財保護審議会委員として助言	7月4日	保存修理指導室長　大原嘉豊
37	東京国立博物館	海外展「醍醐寺展」撤収作業	7月11日～16日	連携協力室長　淺湫 毅
38	九州国立博物館	文化財保存修復施設運営委員として助言	7月13日～14日	副館長　伊藤嘉章

	機　関	内　容	期　間	担当者
39	九州国立博物館	特別講演会「歴史と共に考える文化財の防災・減災」講師	7 月 17 日～18 日	保存修理指導室主任研究員　羽田 聡
40	東京国立博物館	海外展「醍醐寺展」に関する展示作業及び撤収	7 月 20 日～26 日 10 月 9 日	保存修理指導室長　大原嘉豊
41	東京国立博物館	海外展「醍醐寺展」に関する展示作業及び撤収	7 月 21 日～26 日 10 月 9 日	企画室長　伊藤信二
42	文化庁	仁和寺所蔵の文化財調査	7 月 25 日	保存修理指導室主任研究員　羽田 聡
43	大阪府教育委員会	文化財保護審議委員として助言	8 月～30 年 3 月	企画室長　伊藤信二
44	江戸東京博物館	「大妖怪展」に関する展示作業及び撤収	8 月 1 日、30 日	企画室研究員　井並林太郎
45	公益財団法人　大和文華館	評議員として助言	6 月 9 日～9 月	副館長　伊藤嘉章
46	装道礼法きもの学院大阪校	第 81 回装道大学講座　講師	8 月 6 日	教育室長　山川　曉
47	富山県立大学	本法寺所蔵作品に関する調査撮影等の指導	8 月 6 日、 8 月 22 日～24 日	列品管理室アソシエイトフェロー 池田素子
48	公益財団法人日本工芸会	監査委員として助言	8 月 17 日	企画室長　伊藤信二
49	摂河泉地域文化研究所	連続講座「戦国茶道文化と三好氏」　講師	8 月 21 日	工芸室研究員　降矢哲男
50	定光寺	愛知県史編さんに伴う作品調査	8 月 23 日	教育室長　山川　曉
51	越前市生涯学習センター	「越前おもしろ歴史回廊」講師	8 月 27 日	保存修理指導室長　大原嘉豊
52	泉南市教育委員会	「風神雷神図(高精細複製)」を用いた作品鑑賞講師	8 月 28 日	教育室研究員　水谷亜希
53	文化庁	海外展「日本仏像展」開催に伴う会場運営業務	8 月 28 日～9 月 5 日	連携協力室長　淺湫 毅
54	京都市	大政奉還 150 周年記念プロジェクトについて助言	9 月～11 月	列品管理室長　宮川禎一
55	京都造形芸術大学	非常勤講師	9 月～29 年 3 月	工芸室研究員　降矢哲男
56	立命館大学	非常勤講師	9 月～29 年 3 月	列品管理室アソシエイトフェロー 池田素子
57	三重県教育委員会	明和町指定文化財(仏通禅師所用法衣並びに什物)の調査	9 月 3 日	教育室長　山川　曉
58	東京国立博物館	特別調査会「絵画」の収蔵品に関する調査研究	9 月 6 日～8 日 9 月 6 日～7 日	保存修理指導室長　大原嘉豊 企画室研究員　井並林太郎
59	称名寺	愛知県史編さんに伴う作品調査	9 月 12 日	教育室長　山川　曉
60	名古屋市博物館	愛知県史編さんに伴う作品調査	9 月 12 日	同上
61	東京国立博物館	特別調査会「工芸」の収蔵品に関する調査研究	9 月 13 日～15 日	同上
62	可児市教育委員会	可児市大萱古窯跡群調査・保存・整備指導委員会委員として助言	9 月 13 日	副館長　伊藤嘉章
63	国宝修理装潢師連盟	修理技術者資格制度委員会に出席し助言	9 月 14 日、11 月 2 日	保存修理指導室長　大原嘉豊 保存修理指導室主任研究員　羽田 聡
64	明日の京都文化遺産プラットフォーム	明日の京都文化遺産プラットフォーム　企画・調整委員会委員として助言	10 月～29 年 3 月	副館長　栗原祐司
65	奈良国立博物館	文化財保存修理所運営委員として助言	10 月～29 年 3 月	学芸部長　山本英男
66	京都大学	非常勤講師	10 月～29 年 3 月	列品管理室長　宮川禎一
67	徳川美術館	秋期講座　講師	10 月 1 日	教育室長　山川　曉
68	大谷大学博物館	特別展の展示及び作品撤収	10 月 11 日、11 月 29 日	企画室研究員　井並林太郎
69	智山専修学院	講演「仏教の文化と美術」　講師	10 月 15 日	保存修理指導室長　大原嘉豊
70	京都国立近代美術館	企画競争審査委員として助言	10 月 18 日	総務課長　植田義雄
71	東京国立博物館	連続講座「仏像三昧」　講師	10 月 21 日～23 日	連携協力室長　淺湫 毅
72	島根県教育委員会	文化財保護審議会委員として助言	10 月 24 日	教育室長　山川　曉
73	東京国立博物館	特別調査会「陶磁」の収蔵品に関する調査研究	10 月 28 日	工芸室研究員　降矢哲男
74	越前市武生公会堂記念館	記念講義「正覚寺の仏画について」　講師	10 月 29 日	保存修理指導室長　大原嘉豊
75	大和文華館	評議員として助言	11 月～30 年 3 月	学芸部長　山本英男
76	京都市美術館	「若冲の京都」展　作品集荷確認	11 月 7 日	美術室研究員　福士雄也
77	東京文化財研究所	協同研究「遊行上人縁起絵」　調査研究	11 月 9 日 12 月 1 日～3 日 12 月 27 日～28 日 29 年 3 月 28 日～29 日	企画室研究員　井並林太郎
78	新城市設楽原歴史資料館	愛知県史編さんに伴う作品調査	11 月 14 日～11 月 16 日	教育室長　山川　曉
79	日本博物館協会	全国博物館大会「全国博物館フォーラム」講師	11 月 16 日	副館長　栗原祐司
80	長崎歴史文化博物館	長崎県博物館資料価格評価委員として助言	11 月 26 日	列品管理室主任研究員　永島明子
81	滋賀県	新生美術館整備推進専門家会議委員	11 月 28 日	副館長　栗原祐司
82	文化庁	文化情報基盤の構築に向けた懇談会有識者委員	11 月 29 日～29 年 3 月 31 日	同上
83	水俣市立水俣病資料館	先方関係者との意見交換等	12 月 4 日～12 月 5 日	同上
84	森アーツセンターギャラリー	「マリー・アントワネット展」漆器作品の陳列	12 月 16 日	列品管理室主任研究員　永島明子
85	国際日本文化研究センター	協同研究会にて画像資料による帝国域内文化の再検討について助言	12 月 16 日～17 日	列品管理室研究員　呉 孟晋
86	長崎歴史文化博物館	坂本龍馬展記念講演　講師	12 月 17 日	列品管理室長　宮川禎一
87	東京大学史料編纂所	「日本絵画の復元に関する基礎的研究について助言	12 月 17 日	列品管理室アソシエイトフェロー 池田素子
88	延命寺	愛知県史編さんに伴う作品調査	12 月 19 日	教育室長　山川　曉
89	京都女子大学	「教養科目 A(歴史と文化 2)」講師	12 月 22 日	事業推進係アソシエイトフェロー リンネ マリサ
90	神戸市立博物館	購入候補資料評価委員として助言	29 年 1 月 6 日	美術室研究員　福士雄也
91	文化庁	文化財の買取評価員として助言	29 年 1 月 10 日	企画室長　伊藤信二
92	高知県	「坂本龍馬の書状発見」記者発表での書状解説	29 年 1 月 13 日	列品管理室長　宮川禎一
93	日本のミュージアムのための国際発信力向上推進事業事務局	日本のミュージアムのための国際発信力向上推進事業に関する助言	29 年 1 月 13 日	事業推進係アソシエイトフェロー リンネ マリサ
94	東京大学	「中国絵画総合図録　三編」に関する作品調査	29 年 1 月 13 日～15 日	列品管理室研究員　呉 孟晋

	機　関	内　容	期　間	担当者
95	東京大学	東アジア絵画の情報収集における中国絵画　調査撮影に関する協力	29 年 1 月 13 日～15 日	列品管理室研究員　呉 孟晋
96	東京文化財研究所	研究会「染織品の保存と展示」における講演	29 年 1 月 23 日	教育室長　山川　曉
97	魚町能楽保存会	愛知県史編さんに伴う作品調査	29 年 1 月 24 日	同上
98	京都大学国際高等教育院	日本語・日本文化研修講演　講師	29 年 1 月 25 日	同上
99	福井市橘曙覧記念文学館	滋賀県文化財保護審議会（美術工芸品部会）の現地調査	29 年 1 月 26 日	教育室長　山川　曉
100	福井市橘曙覧記念文学館	愛宕坂茶道美術館の美術品（書跡）の学術調査	29 年 1 月 30 日 29 年 2 月 17 日～18 日 29 年 3 月 17 日	保存修理指導室主任研究員　羽田 聡
101	日本国際協力センター	大エジプト博物館合同保存修復プロジェクトに係る技術支援委員として助言	29 年 1 月～30 年 1 月	副館長　栗原祐司
102	京都市元離宮二条城事務所	第 10 回京都市元離宮二条城保存整備委員会障壁画部会にて助言	29 年 2 月 7 日	学芸部長　山本英男
103	神奈川大学	第 59 回「良友」画報研究会　発表	29 年 2 月 20 日	列品管理室研究員　呉 孟晋
104	岡山大学	「瀬戸内の塩が育んだ近代東アジアネットワーク」講演	29 年 2 月 20 日	列品管理室研究員　呉 孟晋
105	福井市橘曙覧記念文学館	愛宕坂茶道美術館の美術品（陶磁器）の学術調査	29 年 2 月 20 日～21 日	工芸室研究員　降矢哲男
106	東京文化財研究所	文化財情報資料部研究会での甲賀市藤栄神社所蔵十字形洋剣に関する発表	29 年 2 月 24 日	列品管理室アソシエイトフェロー 池田素子
107	滋賀県	滋賀県文化財保護審議会にて助言	29 年 3 月 8 日	教育室長　山川　曉
108	高知県	高知県文化資料収集審査会にて助言	29 年 3 月 8 日	列品管理室長　宮川禎一
109	橋本関雪記念館	「人形文化について」シンポジウムに関する講演	29 年 3 月 8 日	教育室長　山川　曉
110	国立文化財機構	文化遺産防災総合シミュレーション調査	29 年 3 月 12 日～13 日	事業推進係アソシエイトフェロー リンネ マリサ
111	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」ワーキング・グループ合同会議	29 年 3 月 18 日	保存修理指導室長　大原嘉豊
112	東京藝術大学	特別展「雪村―奇想の誕生―」展示指導	29 年 3 月 22 日	工芸室研究員　降矢哲男

【奈良国立博物館】62件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	読売あをによし賞事務局	読売あをによし賞選考委員会に運営・選考委員として出席し助言	4月3日	館長　湯山賢一
2	東大寺総合文化センター	東大寺経巻聖教原本調査に関する指導・助言	4 月 18 日～21 日	館長　湯山賢一 企画室長　野尻　忠 研究員　斎木涼子
3	唐招提寺	文化財収蔵環境に関する指導・助言	4 月 20 日	保存修理指導室長　鳥越俊行 研究員　大江克己
4	公益社団法人　日本工芸会	日本伝統工芸展運営委員会に委員として出席し助言	4 月 22 日	館長　湯山賢一
5	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会に委員として出席、助言	4 月 27 日	館長　湯山賢一
6	MIHO MUSEUM	MIHO MUSEUM「かざり」展展示に関する指導・助言	4 月 25 日、5 月 17 日、6 月 9 日	工芸考古室長　清水　健
7	奈良県東京事務所	奈良まほろば館にて開催された「リニューアルオープン記念　なら仏像館の仏たち」講師	4 月 30 日	資料室員　佐々木香輔
8	奈良県東京事務所	奈良まほろば館にて開催された「リニューアルオープンしたなら仏像館で仏像に会う」講師	5 月 7 日	情報サービス室長　岩井共二
9	一般社団法人 国宝修理装潢師連盟	評議員会・総会に顧問として出席し助言	5 月 21 日	館長　湯山賢一
10	奈良女子大学	学長選考会議に委員として出席し助言	5 月 26 日、9 月 5 日、9 月 28 日、10 月 12 日、11 月 22 日、29 年 3 月 17 日	館長　湯山賢一
11	奈良女子大学	経営協議会に出席し委員として助言	6 月 2 日、11 月 22 日、29 年 3 月 17 日	館長　湯山賢一
12	五條猫塚古墳研究会	五條猫塚古墳出土品調査報告書作成に関する指導・助言	5 月 28 日～5 月 29 日	列品室長　吉澤　悟 主任研究員　岩戸晶子
13	奈良女子大学	奈良女子大学経営協議会に委員として出席し助言	6 月 2 日、11 月 22 日	館長　湯山賢一
14	奈良県東京事務所	広報用パネル設置に伴う指導・助言	6 月 8 日	資料室員　佐々木香輔
15	公益財団法人　大和文華館	評議員会、理事会に委員として出席、助言	6 月 9 日	館長　湯山賢一 学芸部長　内藤　栄
16	松伯美術館	理事会に委員として出席、助言	6 月 9 日	館長　湯山賢一
17	公益財団法人　仏教美術研究上野記念財団	評議員会、理事会に委員として出席し助言	6 月 12 日	館長　湯山賢一
18	京都国立博物館	京都国立博物館文化財保存修理所委員会に委員として出席し助言	6 月 13 日	学芸部長　内藤　栄
19	公益財団法人 仏教美術研究上野記念財団	理事会に出席し理事として助言	6 月 14 日	館長　湯山賢一
20	奈良市	「東アジア文化都市 2016 奈良市」実行委員会に委員として出席し助言	6 月 23 日	館長　湯山賢一
21	浄土宗　宗務庁	文化財保存環境に関する指導・助言	6 月 15 日	保存修理指導室長　鳥越俊行 研究員　大江克己
22	公益財団法人 仏教美術協会	評議員会に出席し評議員として助言	6 月 16 日	館長　湯山賢一
23	奈良市市民活動部	「東アジア文化都市 2016 奈良市」準備委員会に出席し委員として助言	6 月 23 日	館長　湯山賢一
24	和歌山県立博物館	協議会委員として書面にて助言	6 月 27 日	館長　湯山賢一
25	那珂ふれあい館	「多可町おもしろ歴史セミナー」にて講演	7 月 3 日	館長　湯山賢一
26	那珂ふれあい館	「杉原紙総合調査委員会」に委員として出席、助言	7 月 12 日、平成 29 年 3 月	館長　湯山賢一

	機　関	内　容	期　間	担当者
27	多可町教育委員会	杉原紙総合調査委員会に出席し委員として助言	7月12日、10月6日、29年1月17日	館長　湯山賢一
28	九州国立博物館	九州国立博物館文化財保存修理所委員会に委員として出席し助言	7月13日	学芸部長　内藤　栄
29	奈良女子大学　国際交流センター	サマープログラム「MAHOROBA 2016　TOURISM」内で文化財の保存修理について講演	7月13日	保存修理指導室長　鳥越俊行
30	文化庁	平成28年度日本古美術海外展に出陳する文化財の展示に関する指導・助言	7月13日～8月1日	上席研究員　岩田茂樹
31	九州国立博物館	「歴史と共に考える文化財の防災・減災」にて講演	7月18日	企画室長　野尻　忠
32	公益社団法人ソーシャル･サイエンス・ラボ	英語パフォーマンス甲子園実行委員会に出席し委員として助言	7月23日	館長　湯山賢一
33	仁和寺	仁和寺聖教調査に関する指導・助言	7月25日、7月27日～7月29日	企画室長　野尻　忠 研究員　斎木涼子
34	法隆寺	第66回法隆寺夏季大学にて講演	7月26日	館長　湯山賢一
35	京都国立博物館	写真技師撮影研修補助及び指導	8月15日	資料室員　佐々木香輔
36	神戸市教育委員会	神戸市文化財保護審議会に委員として出席し助言	8月16日	上席研究員　岩田茂樹
37	勧修寺	所蔵文化財の修理に関する助言	9月7日	学芸部長　内藤　栄
38	遊佐町教育委員会	考古資料相互活用事業に関する展示指導・助言	9月28日～9月29日	主任研究員　中川あや
39	読売新聞西部本社	正倉院展レクチャーにて講演	10月1日	工芸考古室長　清水　健
40	京都美術工芸大学	正倉院展出前授業講師	10月3日	学芸部長　内藤　栄
41	八幡市立松花堂庭園・美術館	寄託品の貸出に伴う展示指導・助言	10月26日	工芸考古室長　清水　健
42	文化庁	平成28年度文化庁買取評価会に委員として出席し助言	10月31日	研究員　山口隆介
43	東大寺総合文化センター	「子ども文化財防火教室」にて講演	11月8日	ボランティア室員　鈴木民子
44	奈良文化財研究所	飛鳥資料館運営会議に委員として出席	11月29日	学芸部長　内藤　栄
45	京都国立博物館	「京都国立博物館ポジフィルムスキャニング業務」に関する総合評価審査委員会に委員として出席	11月30日	資料室員　佐々木香輔
46	奈良県	奈良県指定文化財調査に関する指導・助言	12月2日	学芸部長　内藤　栄
47	唐招提寺	文化財保存環境に関する指導・助言	12月2日	保存修理指導室長　鳥越俊行 研究員　大江克己
48	奈良県東京事務所	奈良まほろば館にて開催された「仏像写真ワークショップ～あなただけの仏像の表情を捉えよう！～」講師	12月3日	資料室員　佐々木香輔
49	奈良県東京事務所	奈良トライアングルミュージアムズ東京セミナー講師	12月4日	研究員　田澤　梓
50	北海道博物館	蛍光Ｘ線分析結果に関する指導・助言	12月5日～12月6日	保存修理指導室長　鳥越俊行
51	伊豆山神社	文化財保存環境に関する指導・助言	12月8日	研究員　山口隆介 研究員　大江克己
52	八幡市立松花堂庭園・美術館	寄託品の返却に伴う展示指導・助言	12月12日	工芸考古室長　清水　健
53	知恩院	文化財保存環境に関する指導・助言	12月15日	保存修理指導室長　鳥越俊行 研究員　大江克己
54	春日若宮おん祭保存会	春日若宮おん祭「試し之儀」解説	12月17日	列品室長　吉澤　悟
55	唐招提寺	文化財の保管・輸送に関する指導・助言	12月18日	工芸考古室長　清水　健
56	読売新聞大阪本社	平成28年正倉院展短歌・作文コンクール審査会に出席し審査	12月21日	館長　湯山賢一
57	公益財団法人元興寺文化財研究所	文化財修理に関する指導・助言	29年1月10日、1月25日、3月2日	保存修理指導室長　鳥越俊行 列品室長　吉澤　悟 主任研究員　中川あや 研究員　大江克己
58	東京国立博物館	国際シンポジウム「日本美術をみせる―リニューアルとリノベーション―」にて講演	平成29年1月27日	上席研究員　岩田茂樹
59	京都国立博物館	京都国立博物館評議委員会に評議員として出席	平成29年2月3日	館長　湯山賢一
60	京都大学生存圏研究所	彫刻作品の樹種同定に関する指導・助言	平成29年2月8日	保存修理指導室長　鳥越俊行
61	談山神社	寄託品の修理に関する指導・助言	平成29年2月13日	工芸考古室長　清水　健
62	法隆寺	寄託品の修理に関する指導・助言	平成29年2月20日	工芸考古室長　清水　健

【九州国立博物館】87件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第38回大会における保存修復に係る助言	4月8日～9日、5月18日	学芸部特任研究員 本田光子
2	日田市教育委員会	史跡ガランドヤ古墳保存整備における指導・助言	4月22日	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
3	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会ワーキング・グループにおける調査研究	4月27日 29年1月25日～26日、29年2月24日	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
4	奈良国立博物館	奈良国立博物館文化財保存修理所運営委員会における助言	5月17日	学芸部長　小泉惠英
5	文化庁	水中遺跡調査検討委員会オブザーバー	5月17日～18日	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
6	文化庁	無形文化財（工芸技術）の保存に係る助言	5月19日、29年3月1日	館長　島谷弘幸
7	北海道開拓記念館	科研費研究課題に伴う資料調査	5月20日～22日	博物館科学課研究補佐員 田中麻美
8	北海道開拓記念館	科研費研究課題に伴う資料調査	5月20日～22日、11月23日～26日	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫
9	文化庁	文化審議会文化財分科会第三専門調査会	5月26日～27日	学芸部特任研究員 本田光子

	機　関	内　容	期　間	担当者
10	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会理事会において運営に係る助言	5 月 30 日	学芸部特任研究員 本田光子
11	鹿児島県博物館協会	講演会講師	5 月 24 日	学芸部特任研究員 本田光子
12	東京大学史料編纂所	一般共同研究「『異国渡海船路積』と『坤輿万国全図』系世界図の研究」にかかる資料調査と研究会	5 月 27 日～28 日 29 年 3 月 27 日～28 日	企画課特別展室研究員 鷲頭桂
13	関市教育委員会	新長谷寺の調査、汾陽寺所蔵　絹本著色仏涅槃図についての講演会講師	6 月 2 日～4 日	企画課文化交流展室研究員 森實久美子
14	東京文化財研究所	研究会講師	6 月 10 日～11 日	企画課特別展室長 原田あゆみ
15	NPO 法人和の文化研究会	第 1 回「和の文化祭」体験講座講師	6 月 11 日	企画課アソシエイトフェロー 酒井田千明
16	京都国立博物館	京都国立博物館文化財保存修理所運営委員会における助言	6 月 13 日	学芸部長　小泉惠英
17	奈良文化財研究所	文化遺産防災総合シミュレーション調査情報共有ミーティング出席	6 月 14 日	博物館科学課アソシエイトフェロー　三角菜緒
18	公益財団法人文化財虫菌害研究所	第 38 回文化財の虫菌害・保存対策研修会講師	6 月 16 日	学芸部特任研究員 本田光子
19	大学共同利用機関法人人間文化研究機構　国立歴史民俗博物館	共同研究「中世日本の国際交流における海上交通に関する研究」第 1 回研究会における助言	6 月 17 日～19 日	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
20	国立国際美術館	特別展「始皇帝と大兵馬俑」の展示指導・助言	6 月 26～7 月 3 日、 10 月 2 日～7 日	企画課主任研究員 川村佳男
21	宗像茶道協会	宗像茶道協会協会員研修講師	7 月 3 日	企画課アソシエイトフェロー 酒井田千明
22	文化庁	近代産業遺産(美術工芸品)に関する海外事例調査事業企画選定委員会にて選定に係る採点（運営の指導・助言）	7 月 7 日	文化財課長　冨坂　賢
23	京都大学	「日本所蔵中国青銅器全集」（仮称）編集委員会出席	7 月 16 日	企画課特別展室主任研究員 川村佳男
24	鳥取県立むきばんだ自然公園	考古系教育普及活動についての助言	7 月 20 日	企画課アソシエイトフェロー 西島亜木子
25	宇佐市平和ミュージアム（仮称）建設準備委員会	宇佐市平和ミュージアム（仮称）建設準備委員会における助言	7 月 29 日 、29 年 3 月 17 日	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
26	一般財団法人環境文化創造研究所	対談における陪席	8 月 1 日～2 日	学芸部特任研究員 本田光子
27	九州歴史資料館	九州歴史資料館協議会における助言	8 月 2 日	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
28	大分県杵築市教育委員会	黒川遺跡出土土器に付着する赤色顔料の選定とそのサンプリング・分析に係る指導	8 月 3 日	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史
29	春日市教育委員会	IPM 研修において IPM のあり方についての指導・助言	8 月 17 日	学芸部特任研究員 本田光子
30	新宮町教育委員会	相島海底遺跡調査指導委員会における助言	8 月 18 日	企画課長兼文化交流展室長 河野一隆
31	新宮町教育委員会	相島海底遺跡調査指導委員会における助言	8 月 18 日	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
32	東京国立博物館	海外展「渡海梵音：醍醐寺芸術珍宝展」にかかる展示替え作業	8 月 20 日～23 日	文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀
33	兵庫県立考古博物館	考古系教育普及活動についての助言	8 月 20 日	企画課アソシエイトフェロー 西島亜木子
34	東京国立博物館	中国の青銅器の展示指導・助言	8 月 29 日	企画課主任研究員 川村佳男
35	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第 39 回大会における保存修復に係る助言	8 月 30 日、 10 月 28 日～29 日	学芸部特任研究員 本田光子
36	東京国立博物館	特別調査会「絵画」の調査	9 月 6 日～7 日	企画課文化交流展室研究員 森實久美子
37	中国青銅器研究会（中国）	研究会への出席	9 月 6 日～10 日	企画課特別展室主任研究員 川村佳男
38	福岡県伝統的工芸品振興協議会	福岡県伝統的工芸品展における作品の審査	9 月 13 日	学芸部特任研究員 本田光子
39	東京国立博物館	模写資料における書の受容鑑賞の歴史に関する研究にかかわる調査	9 月 18 日～19 日	館長　島谷弘幸
40	ふくおか博物館人材育成事業実行委員会	資料保存に係る講師	9 月 21 日	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
41	京都国立博物館	土曜講座講師	10 月 1 日	副館長　伊藤嘉章
42	NPO 法人デザイン都市・プロジェクト	伝統文化講座講師	10 月 8 日	企画課アソシエイトフェロー 酒井田千明
43	東京国立博物館	日本文化体験プログラムにおける特別展の展示解説	10 月 21 日～22 日	副館長　伊藤嘉章
44	（株）NHK プロモーション	特別展「茶の湯」展示打合せ、関係者打合せ	10 月 21 日 、10 月 27 日	副館長　伊藤嘉章
45	国立海洋文化財研究所（韓国）	新安沈船 40 周年記念シンポジウムにおける講演	10 月 25 日～29 日	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
46	一般社団法人日本電気協会	講演会講師	29 年 10 月 26 日	館長　島谷弘幸
47	南九州市	南九州市世界記憶遺産推進会議における指導・助言	10 月 31 日	学芸部特任研究員 本田光子

	機　関	内　容	期　間	担当者
48	松浦市教育委員会	シンポジウム出席	11 月 6 日	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
49	公益財団法人日本博物館協会	第 64 回全国博物館大会シンポジウム講師	11 月 17 日	学芸部特任研究員 本田光子
50	福岡県・佐賀県大学図書館協議会 福岡地区研究会	IPM 活動についての講演	11 月 18 日	学芸部特任研究員 本田光子
51	長崎歴史文化博物館	れきぶん長崎学講座講師	11 月 20 日	博物館科学課　長崎県研修生 松下久子
52	（株）NHK プロモーション	特別展「茶の湯」作品調査	11 月 22 日 、12 月 24 日	副館長　伊藤嘉章
53	国立自然科学博物館（台湾）	国際会議におけるパネリスト	11 月 25 日～26 日	企画課特別展室アソシエイトフェロー　西島亜木子
54	武雄市	武雄市職員（学芸員）採用試験官	11 月 27 日	企画課長兼文化交流展室長 河野一隆
55	文化庁	美術工芸品買取鑑査会議に出席し助言	11 月 28 日	副館長　伊藤嘉章
56	文化庁	第 6 回カルコン美術対話委員会、公開フォーラム	12 月 5 日～7 日	館長　島谷　弘幸
57	長崎県壱岐市観光連盟	博物館、史跡等への新規顧客開拓に係る助言	12 月 5 日	企画課アソシエイトフェロー 西島亜木子
58	公益財団法人文化財虫菌害研究所	第 6 回 IPM コーディネータ資格取得講習会の講師	12 月 14 日	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
59	公益財団法人文化財虫菌害研究所	第 6 回 IPM コーディネータ資格取得講習会の講師	12 月 15 日	学芸部特任研究員 本田光子
60	文化庁	第 6 回ミュージアム・マネジメント研修における講義	12 月 15 日	博物館科学課アソシエイトフェロー　三角菜緒
61	大谷大学真宗総合研究所	パーリ語貝葉写本包み布に関する調査	12 月 15 日～16 日	企画課特別展室長 原田あゆみ
62	甘木歴史資料館	火縄銃及び刀剣の調査、展示指導	12 月 19 日	文化財課資料登録室研究員 望月規史
63	公益財団法人独立書人団	講演会講師	29 年 1 月 14 日	館長　島谷弘幸
64	京都大学	シンポジウム講師	29 年 1 月 25 日～26 日	博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子
65	東京国立博物館	特別調査会「書跡」の調査	29 年 1 月 26 日～27 日	館長　島谷弘幸
66	公益財団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会公開シンポジウムへの出席	29 年 1 月 28 日～29 日	博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子
67	公益財団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会公開シンポジウムへの出席	29 年 1 月 29 日～30 日	学芸部特任研究員 本田光子
68	波佐見町教育委員会	波佐見町歴史文化交流館（仮称）建設準備委員会における助言	29 年 1 月 30 日	博物館科学課　長崎県研修生 松下久子
69	公益財団法人文化財虫菌害研究所	総合調整委員会及び総合的防除対策検討委員会の合同委員会への出席し助言	29 年 2 月 6 日	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
70	国立民族学博物館	民俗資料の殺虫処理実験に係る打合せ	29 年 2 月 16 日～17 日	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
71	文化庁	水中遺跡調査検討委員会における助言	29 年 2 月 17 日	学芸部長　小泉惠英
72	立命館大学	マルチビーム測量による湖底地形測量調査指導	29 年 2 月 17 日～19 日	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
73	福岡県立美術館協議会	福岡県立美術館協議会における助言	29 年 2 月 20 日	学芸部特任研究員 本田光子
74	太宰府市公文書館	太宰府市公文書館委員における助言	29 年 2 月 20 日	学芸部特任研究員 本田光子
75	福岡ロータリークラブ	卓話講師	29 年 2 月 22 日	副館長　伊藤嘉章
76	大分県立歴史博物館	協議会における指導・助言	29 年 2 月 22 日	学芸部特任研究員 本田光子
77	学校法人九州学園	理事会に出席し助言	29 年 2 月 23 日	館長　島谷弘幸
78	公益財団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第 39 回大会に係る保存修復に係る助言	29 年 2 月 28 日 ～3 月 1 日	博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子
79	学校法人九州学園	評議員会に出席し助言	29 年 2 月 23 日	館長　島谷弘幸
80	福岡県教育委員会	新・福岡県立美術館基本構想検討委員会における助言	29 年 3 月 5 日	学芸部長　小泉惠英
81	公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団	事業評価委員会における助言	29 年 3 月 3 日	学芸部長　小泉惠英
82	文化庁	文化審議会文化財分科会第一専門調査会における助言	29 年 3 月 1 日～3 日	副館長　伊藤嘉章
83	備前歴史フォーラム実行委員会	フォーラムにおける基調報告	29 年 3 月 11 日～12 日	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史
84	南九州市	知覧特攻平和会館保存検討委員会において資料の保存管理に係る助言	29 年 3 月 16 日	学芸部特任研究員 本田光子
85	高知県立高知城歴史博物館	講演会講師	29 年 3 月 18 日	館長　島谷弘幸
86	熊本博物館	熊本博物館協議会における助言	29 年 3 月 27 日	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
87	国立歴史民俗博物館	資料保存環境検討委員会における助言	29 年 3 月 30 日	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか

2 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業の実施

2-(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

2-(1)-1 調査研究テーマ一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-②
2-(1)-2 学会、研究会等発表実績一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-③
2-(1)-3 論文等発表実績一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑤
2-(1)-4 調査研究刊行物一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑥
2-(1)-5 科学研究費助成事業による調査研究	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑦
2-(1)-6 客員研究員一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑧

2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

2-(2)-1 調査研究テーマ一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-②
2-(2)-2 学会、研究会等発表実績一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-③
2-(2)-3 論文等発表実績一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑤
2-(2)-4 調査研究刊行物一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑥
2-(2)-5 科学研究費助成事業による調査研究	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑦
2-(2)-6 客員研究員一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑧

2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働

2-(3)-① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進

2-(3)-①-1 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況
（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数、諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の満足度）

平成29年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
6件	3件	3件

【東京文化財研究所】3件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数（日）	回数（回）	満足度（%）	備考
1	アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業：研修、ワークショップ	29年1月22日～29日	・カンボジア・アンコールのタ・ネイ遺跡関係者	8	2	-	
		29年3月4日～12日	・ネパールの中央・地方行政担当者	9			
2	国際研修「紙の保存と修復」：日本国内研修	8月29日～9月16日	・文化遺産保護の学芸員及び保存修復専門家	19	1	100	
3	国際研修「International Course on Paper Conservation in Latin America」：メキシコ研修	11月9日～11月25日	・文化遺産保護の学芸員及び保存修復専門家	17	1	100	

【奈良文化財研究所】3件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数	回数	満足度（%）	適用
1	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2016（集団研修）「遺跡（遺構・遺物）の調査と保護」	8月30日～9月29日	アジア太平洋地域の政府機関、大学、研究所などに勤務し、文化遺産の管理、保護、修復に携わっているもの	31	1	―	
2	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2016（個別テーマ研修）「博物館等における文化財の調査・記録・保存修復・活用」	11月8日～12月6日	ラオス・カンボジア・ミャンマーの専門家	29	1	―	
3	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する「文化遺産ワークショップ」（フィリピンで開催）	10月10日～15日	フィリピンの専門家	6	1	―	

2-(3)-①-2 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）

【東京文化財研究所】1件

	名称	機関名	備考
1	陶磁器資料館（ドイツ）所蔵　染付蒔絵鳥籠装飾広口大瓶の修復方法に関する共同研究	ドレスデン国立美術館	

【奈良文化財研究所】　2件

	名称	機関名	備考
1	「日本考古学の国際的研究推進事業」の実施に関する協定	英国セインズベリー日本藝術研究所	
2	発掘調査交流合意書	韓国国立慶州文化財研究所	

2-(3)-② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究

2-(3)-②-1 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（刊行物件数）

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-2 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際会議等開催件数）

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】5件　　平成29年3月31日現在

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数（日間）	回数（回）	摘要
1	第五回アジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事会 The Fifth Governing Board of IRCI	9月28日	IRCI運営理事	1日	1回	文化庁受託経費
2	平成28年度IRCI国際専門家会合「アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する最新の研究動向と課題」 2016 IRCI Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region	11月18日～19日	専門家・研究者	2日	1回	文化庁受託経費
3	無形文化遺産国際シンポジウム―技と心を受け継ぐ― 2016 International Symposium on ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region: Transmitting Art and Spirit of ICH	11月19日	同上	1日	1回	堺市、文化庁共催 文化庁受託経費
4	第3回IRCI国際ワークショップ「大メコン圏における無形文化遺産に関する法制度研究」 IRCI Final Workshop on the Study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region	12月17日～19日	同上	3日	1回	12月15日～16日：ワーキンググループ会合 文化庁受託経費
5	「アジア太平洋地域における無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する国際予備調査」事業ワーキンググループ国際会合 Preliminary Research on ICH Safeguarding and Disaster-Risk Management in the Asia-Pacific Region: International Working Group Session	29年1月30日	同上	1日	1回	寄附金（文化財保存活用基金）

2-(3)-②-3　研究交流実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-①

2-(3)-②-4　調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

2-(3)-②-5　学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

2-(3)-②-6　シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

2-(3)-②-7　論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

2-(3)-②-8　調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-9　ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）◎共通資料d

2-(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

2-(4)-① 文化財情報基盤の整備・充実

2-(4)-①-1 図書、雑誌等の公開に関する取組状況

平成29年3月31日

		東京文化財研究所			奈良文化財研究所		
資料閲覧室・図書資料室の開室日数(日)		137日			243日		
資料閲覧室・図書資料室の利用者数(人)		923人			475人		
		27年度末	28年度追加	28年度末	27年度末	28年度追加	28年度末
文化財に関する資料・図書の受入件総数(件)	図書	104,577件	9,932件	114,509件	351,586件	9,689件	361,275件
	雑誌	128,778件	29,985件	158,763件	89,734件	3,889件	93,623件
	その他(図録・報告書等)	35,046件	1,302件	36,348件	−	−	−
	計	268,401件	41,219件	309,620件	441,320件	13,578件	454,898件

＊奈良文化財研究所においては、図録・報告書等は図書に含む。

2-(4)-①-2 文化財に関するデータベースの状況

平成29年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
文化財に関するデータベースの公開件数(件)	22件	25件
データベースのデータ件数(件)	1,164,416件	1,341,997件
データベース等へのアクセス件数(件)	1,591,403件	4,206,991件
(ホームページへのアクセス件数(件))	2,567,780件	4,990,661件

2-(4)-② 調査研究成果の発信

2-(4)-②-1 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

2-(4)-②-2 講演会等の開催実績

平成29年3月31日

【東京文化財研究所】　5件　798人

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数（人）	備考
1	「アート・アーカイヴの今」	5月14日	東京文化財研究所	アート・ドキュメンテーション学会国際交流委員会、東京文化財研究所	現代ドイツアーキヴィストを迎え、あらためて「アーカイヴ」の意義と課題を問う講演会を開催した。	181人	
2	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅲ「現在に伝わる明治の超絶技巧」	10月17～18日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	公益財団法人泉屋博古館と共催し、有田焼を中心とした明治工芸に関する研究会を開催した。	96人	
3	第５０回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」	11月4～5日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	美術史研究の成果を一般に公表する講座を開催した。	159人	
4	無形文化遺産部公開学術講座「麻のきもの・絹のきもの」	29年1月18日	文化学園服飾博物館・文化学園クイントサロン	東京文化財研究所、文化学園服飾博物館	「麻」と「絹」に焦点を当てた学術講座を開催した。	177人	
5	「南蛮漆器の多源性を探る」	29年3月4～5日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	南蛮漆器について、最新の研究報告と討議を行う公開研究会を開催した。	185人	

【奈良文化財研究所】　12件　6,400人

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数（人）	備考
1	「プラネタリウムで考古学」の「星空とキトラ古墳のナゾにせまる」	5月21日　他	於多摩六都科学館（東京都）	多摩六都科学館、奈良文化財研究所	奈良県明日香村で発見された「キトラ古墳」には多くのナゾがあり、今回プラネタリウムを使って講演会を開催した。	175人	
2	第118回公開講演会	6月18日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	一般の方々を対象に、奈良文化財研究所の調査研究成果について、講演を行った。	202人	
3	「英国発！グローバル考古学」	9月3日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所・セインズベリー日本藝術研究所	英国における最新の考古科学的手法を用いた 研究を紹介した。	65人	
4	第119回公開講演会	11月5日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	一般の方々を対象に、奈良文化財研究所の調査研究成果について、講演を行った。	234人	
5	第8回東京講演会「飛鳥むかしむかし」	11月13日	一橋講堂	奈良文化財研究所	東京で、奈良文化財研究所の調査研究についての講演会を開催した	447人	
6	飛鳥資料館春期特別展記念講演会「飛鳥の文化財を撮る眼」	5月28日	飛鳥資料館	奈良文化財研究所	画像及び映像の重要性について講演会を行った。	36人	
7	飛鳥資料館秋期特別展記念講演会「祈りをこめた小塔」	11月26日	飛鳥資料館	奈良文化財研究所	新たに収蔵した百万塔とあわせて、国内に伝来した銭弘俶八万四千塔や泥塔などの小塔を展示した。	46人	
8	藤原京右京九条二・三坊の発掘調査（飛鳥藤原第187次）現地見学会	5月15日	於橿原市城殿町発掘調査現場（ポリテクセンター奈良敷地内）	奈良文化財研究所	藤原京右京九条二・三坊の発掘調査（飛鳥藤原第187次）現地見学会を開催した。	1,753人	
9	平城京二条大路・朱雀大路跡の発掘調査(平城第566次調査)現地見学会	6月11日	二条大路南4丁目発掘調査現場	奈良文化財研究所	平城京二条大路・朱雀大路跡の発掘調査(平城第566次調査)の現地見学会を開催した。	505人	

10	藤原宮朝堂院朝庭の発掘調査（飛鳥藤原第189次調査）現地見学会	10月2日	橿原市高殿町発掘調査現場	奈良文化財研究所	藤原京右京九条二・三坊の発掘調査（飛鳥藤原第187次調査）の現地見学会を開催した。	1,315人	
11	東大寺東塔院跡発掘現場説明会	10月8日	東大寺東塔院跡発掘現場	史跡東大寺旧境内発掘調査団 （東大寺･奈良県立橿原考古学研究所･奈良文化財研究所）	東大寺東塔院跡発掘現場説明会を開催した。	1,125人	
12	藤原宮大極殿院の発掘調査（飛鳥藤原第190次調査）現地説明会	29年1月28日	橿原市高殿町発掘調査現場	奈良文化財研究所	藤原宮大極殿院の発掘調査（飛鳥藤原第190次調査）の現地説明会を開催した。	497人	

2-(4)-②-3 シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通c-④

2-(4)-②-4 ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）◎共通d

2-(4)-②-5 学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数

平成29年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数（件）	1,510件	4,389件

2-(4)-③ 展示公開施設の充実

2-(4)-③-1 来館者数推移（入館料別）（過去５ヵ年）（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

2-(4)-③-2 来館者数推移（展覧会別）（過去５ヵ年）（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

2-(4)-③-3 平常展・特別展・海外展　（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

2-(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
2-(5)-① 文化財に関する研修の実施
2-(5)-①-1 文化財に関する研修の実施実績

【東京文化財研究所】　1件　受講者 27人

No.	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数（人）	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修	7月11日～7月22日	9	博物館・美術館等の文化財の保存担当者	文化財の保存科学の基礎と実践上の諸問題についての講義と実習	27人	100%	100%	その他（保存担当学芸員フォローアップ研修、6月16日、103名）

【奈良文化財研究所】　15件　受講者 167人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象※	研修内容	参加者数（人）	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	建築遺構調査課程	6月6日～6月10日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	発掘調査で検出される建築遺構や出土建築部材に関して、必要な上部構造の専門的知識や発掘方法などについての研修。	4人	100%	100%	
2	古文書歴史資料調査基礎課程	6月20日～6月24日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	古文書・歴史資料の調査・管理等を担当する立場にあるが、当該分野に関する専門的教育を受けたことのない地方公共団体等の文化財担当者を対象に、基礎的知識の習得を目指す研修。	23人	100%	100%	
3	人骨・動物骨調査課程	7月25日～7月29日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	出土した人骨や動物骨の調査方法、整理作業、報告書作成について、必要な専門知識と技術の習得を目的とする研修。	7人	100%	100%	
4	地質考古調査課程	8月29日～9月2日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	遺跡等の発掘調査で必要とされる、地層・土層・土壌等に関する基礎的な専門知識・技術の習得を目指す。	17人	100%	100%	
5	遺跡情報記録調査課程	9月6日～9月9日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	遺跡・遺物の正確な記録とその保存活用手法として、GISやデータベースの利用、遺跡情報の公開に関する知識の取得を目指す研修。	5人	100%	100%	
6	文化的景観調査計画課程	9月12日～9月16日	4	地方公共団体の文化財担当職員※	文化的景観の保護にこれから取り組む担当者を対象に、文化的景観の歴史・概念、保護制度、調査手法及び保存計画立案等についての基礎知識を習得することを目的とする研修。	10人	100%	100%	
7	地質・年代調査課程	9月26日～9月30日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	地層観察，年代測定試料の取扱いなどの実習やその活用に関する講義を通して，発掘調査に必要となる地質学や年代学の基礎的な知識の習得を目指す研修。	3人	100%	100%	
8	保存科学Ⅰ（金属製遺物）課程	10月11日～10月19日	9	地方公共団体の文化財担当職員※	金属製遺物の材質および劣化状態に応じた保存処理法の策定、仕様書の作成をおこなうことができるよう、金属製遺物の材質および保存処理に関する基礎知識の習得を目的とする研修。	10人	100%	100%	
9	土器・陶磁器調査課程	11月14日～11月18日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	報告書作成に向けて、日本の遺跡から出土する「やきもの（土器・陶磁器）」をいかに分類・整理するか。実物の観察を通して、製作技法を読み取ると共に、時期・産地を推定する鑑識眼を養うための研修。	16人	100%	100%	
10	文化財写真課程	11月28日～12月8日	11	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財の記録の中核をなす記録写真撮影について、様々な文化財分野の写真についての基礎知識と実習による実技を習得できる研修。	12人	100%	100%	

11	報告書作成課程	12月8日 ～12月16日	9	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財調査報告書等の出版物制作に必要な編集と印刷工程の基礎知識とともに、実際の編集作業に必要な実践的な知識や技術、特にデジタル編集のノウハウを実習を通じてを学ぶ研修。	19人	100%	100%	
12	中近世城郭調査整備課程	29年1月16日 ～1月20日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	中近世城郭跡の調査方法と石垣の解体修理など整備方法について、座学と現地研修で基礎的な知識の習得をめざす。	11人	100%	100%	
13	保存科学Ⅳ(遺構・石造文化財)課程	29年2月13日 ～2月17日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	史跡整備における遺構および石造文化財の保存において、劣化の現状に関する知見、ならびに維持管理に要する整備後のモニタリング調査と、その結果に基づく劣化発生の予測をおこなうための劣化状態調査法および環境調査法に関する研修。	11人	100%	100%	
14	デジタル写真課程	29年3月7日 ～3月10日	4	地方公共団体の文化財担当職員※	フィルム写真記録からデジタル写真環境への移行に対応するに必要な基礎的な知識、技術、設備、文化財担当部局・担当者の考え方についての研修。	13人	100%	100%	
15	報告書公開活用課程	29年3月13日 ～3月15日	3	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財調査報告書等の電子化による公開活用について、必要な専門知識と技術の習得を目的とする研修。	6人	100%	100%	

※地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者

2-(5)-② 文化財に関する協力・助言等

2-(5)-②-1 専門的・技術的な援助・助言の取組状況
（行政、公私立博物館等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

平成29年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
1,198件	793件	405件

【東京文化財研究所】　793件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の収集、保管に関する指導助言	11件
2	無形文化遺産に関する助言	10件
3	文化財の虫菌害に関する調査・助言	41件
4	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	58件
5	文化財の材質・構造に関する調査・助言	15件
6	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	658件

【奈良文化財研究所】　405件

	プロジェクト名称	件数
1	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	339件
2	地方公共団体等が行う平城京域発掘調査等への協力・援助	45件
3	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	13件
4	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	8件

2-(5)-③ 平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

2-(5)-③-1 ボランティア受入実績　（後述の資料に記載）◎共通資料b

2-(5)-⑤ 文化財等の防災・救援等への寄与

2-(5)-⑤-1 研究交流実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-①1)・3))

2-(5)-⑤-2 シンポジウム開催実績一覧（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

2-(5)-⑤-3 ウェブサイトアクセス件数（後述の資料に記載）◎共通資料d

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務改善の取組

1-(5)一般管理費の削減

1-(5)-① 施設の有効利用件数

平成29年3月31日現在

○件数　（単位：件）

		国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
			計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	総件数	1,801	1,320	747	105	113	355	481	185	296
	うち有償	826	765	529	93	27	116	61	9	52
	うち無償	975	555	218	12	86	239	420	176	244
茶室	総件数	206	206	130	35	5	36			
	うち有償	134	134	81	35	3	15			
	うち無償	72	72	49	0	2	21			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	総件数	1,067	602	282	36	32	252	465	185	280
	うち有償	293	245	114	24	6	101	48	9	39
	うち無償	774	357	168	12	26	151	417	176	241
その他（左記以外の建物、敷地）	総件数	148	132	10	7	64	51	16	0	16
	うち有償	47	34	9	7	18	0	13	0	13
	うち無償	101	98	1	0	46	51	3	0	3
撮影利用	総件数	380	380	325	27	12	16	0	0	0
	うち有償	352	352	325	27	0	0	0	0	0
	うち無償	28	28	0	0	12	16	0	0	0

○有償利用の利用金額　（単位：千円）

	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	133,528	128,595	120,049	4,468	1,320	2,758	4,933	206	4,727
茶室	7,008	7,008	6,082	705	79	142			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	8,840	7,876	4,145	1,015	100	2,616	964	206	758
その他（左記以外の建物、敷地）	84,822	80,853	77,505	2,207	1,141	0	3,969	0	3,969
撮影利用	32,858	32,858	32,317	541	0	0	0	0	0

※アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、堺市博物館の施設の一部を使用しているため、外部利用は行っていない。

◎共通資料
a 展示

a-① 来館者数推移（入館料別）（過去5ヵ年）

平成29年3月31日現在

年度				24	25	26	27	28
国立文化財機構		総来館者数		3,520,384	2,818,511	3,890,178	4,146,847	3,810,178
	平常展	計		1,109,550	1,011,274	1,372,538	1,536,565	1,577,811
		有料	一般	355,419	373,417	522,569	636,504	653,711
			大学生	34,218	36,886	59,208	76,590	71,850
			小・中・高生	—	546	537	0	0
			友の会	86,938	89,509	123,720	139,076	152,643
		無料	一般(黒田含む)	74,968	47,371	85,285	107,574	108,272
			小・中・高・大生	173,386	166,233	165,340	176,248	183,375
		招待者等		384,621	297,312	415,879	400,573	407,960
	特別展	計		2,410,834	1,807,237	2,517,640	2,610,282	2,232,367
		有料	一般	1,535,741	1,132,319	1,670,944	1,678,816	1,404,313
			高・大生	82,665	66,814	93,348	113,109	76,242
			小・中生	30,770	23,243	22,149	34,820	31,337
			友の会	47,758	44,592	58,421	66,016	56,725
		無料	小・中生・一般	88,927	99,764	102,343	122,894	82,184
		招待者等		624,973	440,505	570,435	594,627	581,566
東京国立博物館		総来館者数		1,555,694	1,322,288	1,913,643	1,994,508	1,907,647
	平常展	計		416,430	484,429	587,528	747,944	761,709
		有料	一般	201,988	250,330	269,639	383,579	381,817
			大学生	22,155	26,117	31,324	42,528	41,159
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	76,333	77,771	96,297	108,147	119,573
		無料	高校生	14,773	18,844	20,345	27,108	24,623
			小・中生	36,660	41,197	50,040	52,386	55,176
		招待者等		63,381	70,170	95,280	87,619	101,677
		黒田記念館(無料)		1,140	—	24,603	46,577	37,684
	特別展	計		1,139,264	837,859	1,326,115	1,246,564	1,145,938
		有料	一般	729,470	561,236	926,279	811,089	733,704
			高・大生	36,874	29,955	51,690	61,790	36,115
			小・中生	—	—	—	—	—
			友の会	11,448	9,585	12,920	11,889	10,714
		無料	小・中生	20,368	14,715	31,503	51,547	26,992
		招待者等		341,104	222,368	303,723	310,249	338,413
京都国立博物館		総来館者数		234,540	148,429	539,134	653,336	384,340
	平常展	計		—	—	265,791	205,526	186,162
		有料	一般	—	—	147,106	124,229	110,054
			大学生	—	—	16,801	21,478	14,192
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	—	—	12,764	15,234	15,248
		無料	高校生	—	—	11,137	15,261	10,773
			小・中生	—	—	—	—	—
		招待者等		—	—	77,983	29,324	35,895
	庭園開放	計		—	—	—	1,699	11,417
		有料	一般	—	—	—	825	5,572
			大学生	—	—	—	—	—
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	—	—	—	93	635
		無料	大学生	—	—	—	56	1,040
			高校生	—	—	—	235	2,117
			小・中生	—	—	—	—	—
		招待者等		—	—	—	490	2,053
	特別展	計		234,540	148,429	273,343	446,111	186,761
		有料	一般	124,569	76,358	190,015	306,503	109,451
			高・大生	13,570	10,734	14,231	18,021	8,885
			小・中生	5,022	3,224	1,683	—	—
			友の会	13,228	9,174	11,978	19,001	10,511
		無料	小・中生	386	1,471	4,571	7,803	7,233
		招待者等		77,765	47,468	50,865	94,783	50,681
奈良国立博物館		総来館者数		450,235	461,690	476,993	455,859	449,322
	平常展	計		145,914	122,075	92,147	95,208	145,676
		有料	一般	56,997	44,307	31,433	30,165	63,886
			大学生	4,754	3,967	3,519	3,204	7,431
			小・中・高生	—	546	537	0	0
			友の会	3,843	2,703	3,344	3,957	5,290
		無料	小・中・高生	48,183	39,249	20,933	18,221	31,133
		招待者等		32,137	31,303	32,381	39,661	37,936
	特別展	計		304,321	339,615	384,846	360,651	303,646
		有料	一般	227,929	258,597	273,574	267,663	219,776
			高・大生	12,304	13,756	13,403	13,852	12,674
			小・中生	8,143	7,622	9,208	9,843	7,685
			友の会	10,291	11,206	14,443	16,265	15,750
		無料	小・中生	—	3,067	0	0	202
		招待者等		45,654	45,367	74,218	53,028	47,559
九州国立博物館		総来館者数		1,107,036	727,603	804,663	884,128	922,468
	平常展	計		460,525	349,848	357,362	412,621	393,590
		有料	一般	91,786	75,827	71,014	93,457	89,006
			大学生	6,831	6,571	7,251	9,072	8,766
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	6,762	9,035	11,315	11,645	11,897
		無料	高校生	26,193	26,305	22,494	26,765	23,788
			小・中生	43,351	38,785	38,507	34,381	33,435
		招待者等		285,602	193,325	206,781	237,301	226,698
	特別展	計		646,511	377,755	447,301	471,507	528,878
		有料	一般	443,965	224,247	271,895	283,603	333,172
			高・大生	19,108	11,482	13,249	18,463	17,722
			小・中生	17,605	12,397	11,258	24,977	23,652
			友の会	12,791	14,627	19,080	18,861	19,750
		招待者等		153,042	115,002	131,819	125,603	134,582
平城宮跡資料館		総来館者数		124,515	108,896	109,188	105,334	102,053
	平常展	無料	一般	64,318	39,502	52,221	50,064	62,210
	特別展	無料	一般	60,197	69,394	56,967	55,270	39,843
藤原宮跡資料室		総来館者数		9,510	7,869	8,461	10,933	8,378
	平常展	計		9,510	7,869	8,461	10,933	8,378
		無料	一般	9,510	7,869	8,461	10,933	8,378
飛鳥資料館		総来館者数		38,854	41,736	38,096	42,749	35,970
	平常展	計		12,853	7,551	9,028	12,570	8,669
		有料	一般	4,648	2,953	3,377	4,249	3,376
			大学生	478	231	313	308	302
		無料	小・中・高生	4,226	1,853	1,884	1,835	1,290
		招待者等		3,501	2,514	3,454	6,178	3,701
	特別展	計		26,001	34,185	29,068	30,179	27,301
		有料	一般	9,808	11,881	9,181	9,958	8,210
			大学生	809	887	775	983	846
		無料	小・中・高生	7,976	11,117	9,302	8,274	7,914
		招待者等		7,408	10,300	9,810	10,964	10,331

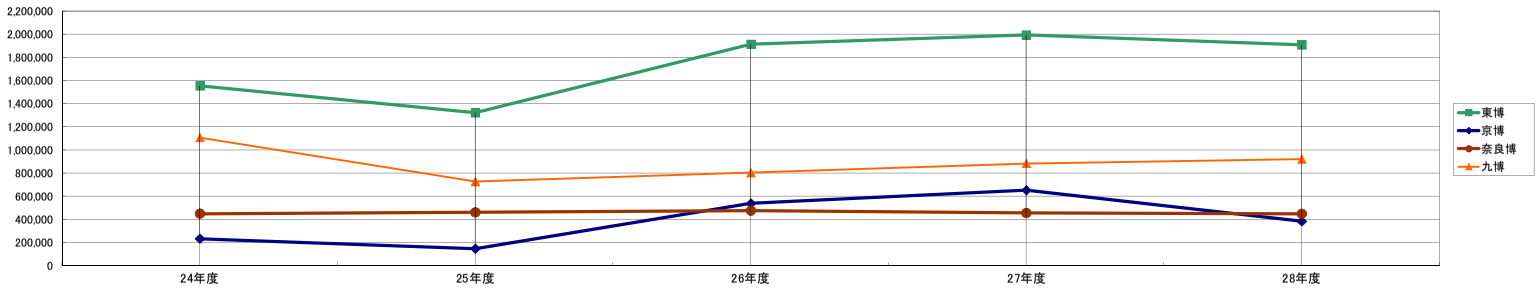
※飛鳥資料館特別展有料高校生入場者数は、ｷﾄﾗ公開(25)のみ有料(大学生)に含み、それ以外は無料(小・中・高生)に含む。
※京都国立博物館における平常展、庭園開放については高校生以下の区別せず。
※京都国立博物館における庭園開放は、平常展に含む。

独立行政法人国立文化財機構　展覧会別来館者数（24～28年度）

国立文化財機構　合計

	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度	
合計	総　合　計	3,520,384	総　合　計	2,818,511	総　合　計	3,890,178	総　合　計	4,146,847	総　合　計	3,810,178
	平常展のみの来館者	1,109,550	平常展のみの来館者	1,011,274	平常展のみの来館者	1,372,538	平常展のみの来館者	1,536,565	平常展のみの来館者	1,577,811
	特別（共催）展計	2,410,834	特別（共催）展計	1,807,237	特別（共催）展計	2,517,640	特別（共催）展計	2,610,282	特別（共催）展計	2,232,367

1）国立博物館

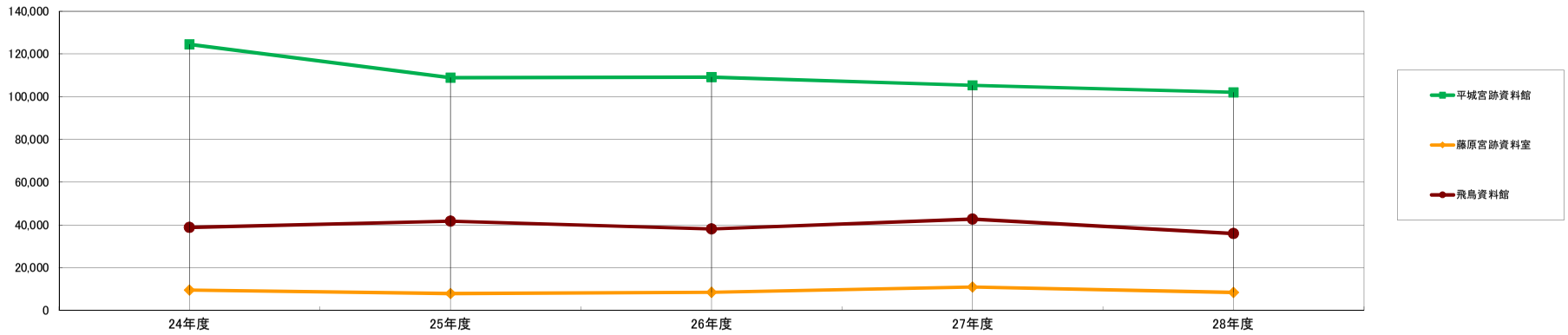


	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度	
計	総　計	3,347,505	総　計	2,660,010	総　計	3,734,433	総　計	3,987,831	総　計	3,663,777
	平常展のみの来館者	1,022,869	平常展のみの来館者	956,352	平常展のみの来館者	1,302,828	平常展のみの来館者	1,462,998	平常展のみの来館者	1,498,554
	特別（共催）展計	2,324,636	特別（共催）展計	1,703,658	特別（共催）展計	2,431,605	特別（共催）展計	2,524,833	特別（共催）展計	2,165,223
東博	総計(黒田記念館含む)	1,555,694	総計(黒田記念館含む)	1,322,288	総計(黒田記念館含む)	1,913,643	総計(黒田記念館含む)	1,994,508	総計(黒田記念館含む)	1,907,647
	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	416,430	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	484,429	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	587,528	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	747,944	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	761,709
	特別（共催）展計	1,139,264	特別（共催）展計	837,859	特別（共催）展計	1,326,115	特別（共催）展計	1,246,564	特別（共催）展計	1,145,938
	特別展「ボストン美術館　日本美術の至宝」	486,683	特別展「飛騨の円空」	20,544	特別展「栄西と建仁寺」	229,994	特別展「みちのくの仏像」	16,573	特別展「生誕150年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」	157,589
	特別展「中国山水画の20世紀」	※1 (18,415)	特別展「国宝　大神社展」	193,990	特別展「キトラ古墳壁画」	119,268	コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流	72,344	特別公開「国宝土偶　縄文の女神」	※2　－
	特別展「青山杉雨の眼と書」	51,327	特別展「和様の書」	104,577	特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」	402,241	特別展「鳥獣戯画―京都　高山寺の至宝」	239,115	特別展「黄金のアフガニスタン ―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」	154,875
	特別展「出雲―聖地の至宝―」	137,646	特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」	※1 (62,378)	2014年日中韓国立博物館合同企画特別展「東アジアの華　陶磁名品展」	※1(65,075)	「クレオパトラとエジプトの王妃展」	267,959	日韓国交正常化50周年記念　特別展「ほほえみの御仏―二つの半跏思惟像―」	78,562
	特別展「中国　王朝の至宝」	141,507	特別展「京都－洛中洛外図と障壁画の美」	278,801	「日本国宝展」	386,708	アート オブ ブルガリ１３０年にわたるイタリアの美の至宝　THE ART OF BVLGARI. 130 YEARS OF ITALIAN　MASTERPIECES	142,000	特別展「古代ギリシャ展―時空を超えた旅―」	199,567
	特別展「飛騨の円空」	169,578	特別展「クリーブランド美術館展 ―名画でたどる日本の美」	104,865	特別展「みちのくの仏像」	162,948	特別展「始皇帝と大兵馬俑」	483,809	特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」	212,144
	特別展「書聖　王羲之」	152,523	特別展「人間国宝展　-生み出された美、伝えゆくわざ-」	112,960	特別展「3.11大津波と文化財の再生」	※2　－	特別展「生誕150年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」	24,764	臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念 特別展「禅―心をかたちに」	133,629
			特別展「支倉常長像と南蛮美術－400年前の日欧交流－」	※2　－	コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流	24,956	特別公開「国宝土偶　縄文の女神」	※2　－	特別展「春日大社－千年の至宝」	209,572
			特別展「栄西と建仁寺」	22,122						
京博	総　計	234,540	総　計	148,429	総　計	539,134	総　計	653,336	総　計	384,340
	平常展のみの来館者	0	平常展のみの来館者	0	平常展のみの来館者	265,791	平常展のみの来館者	205,526	平常展のみの来館者	186,162
							庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	1,699	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	11,417
	特別（共催）展計	234,540	特別（共催）展計	148,429	特別（共催）展計	273,343	特別（共催）展計	446,111	特別（共催）展計	186,761
	特別展「王朝文化の華　－陽明文庫名宝展－」	101,006	特別展「狩野山楽・山雪」	85,841	特別展「南山城の古寺巡礼」	69,443	特別展覧会　「桃山時代の狩野派－永徳の後継者たち－」	118,186	臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念 特別展覧会「禅－心をかたちに－」	88,228
	特別展「大出雲展」	79,218	特別展観「遊び」	23,659	特別展「修理完成記念　国宝 鳥獣戯画と高山寺」	203,900	特別展観　第100回大蔵会記念 仏法東漸－仏教の典籍と美術－※３	34,696	特別展覧会　没後150年「坂本龍馬」	98,533
	特別展「宸翰 天皇の書」	24,699	特別展「魅惑の清朝陶磁」	38,929			琳派誕生四〇〇年記念 特別展覧会「琳派京を彩る」	327,925		
	特別展「国宝 十二天像と密教法会の世界」/特別展「成立８００年記念　方丈記」	25,216								
	特別展「狩野山楽・山雪」	4,401								
奈良博	総　計	450,235	総　計	461,690	総　計	476,993	総　計	455,859	総　計	449,322
	平常展のみの来館者	145,914	平常展のみの来館者	122,075	平常展のみの来館者	92,147	平常展のみの来館者	95,208	平常展のみの来館者	145,676
	特別（共催）展計	304,321	特別（共催）展計	339,615	特別（共催）展計	384,846	特別（共催）展計	360,651	特別（共催）展計	303,646
	特別展「解脱上人貞慶　－鎌倉仏教の本流－」	24,317	特別展「當麻寺　－極楽浄土へのあこがれ－」	54,114	特別展　「武家のみやこ　鎌倉の仏像－追真とエキゾチシズム－」	37,022	特別展「まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展」	10,561	特別展「国宝　信貴山縁起絵巻－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝－」	55,198
	特別展「頼朝と重源」	41,985	特別展「みほとけのかたち～仏像に会う」	39,232	特別展「国宝　醍醐寺のすべて　－密教のほとけと聖教－」	78,476	開館120年記念特別展「白鳳－花ひらく仏教美術－」	128,901	生誕800年記念特別展「忍性　－救済に捧げた生涯－」	39,834
	特別展「第64回正倉院展」	238,019	特別展「第65回正倉院展」	246,269	特別展　「天皇皇后両陛下傘寿記念　第66回正倉院展」	269,348	特別展 第67回正倉院展	221,189	特別展 第68回正倉院展	208,614
九博	総　計	1,107,036	総　計	727,603	総　計	804,663	総　計	884,128	総　計	922,468
	平常展のみの来館者	460,525	平常展のみの来館者	349,848	平常展のみの来館者	357,362	平常展のみの来館者	412,621	平常展のみの来館者	393,590
	特別（共催）展計	646,511	特別（共催）展計	377,755	特別（共催）展計	447,301	特別（共催）展計	471,507	特別（共催）展計	528,878
	特別展「平山郁夫　シルクロードの軌跡」	110,047	特別展「大ベトナム展」	71,192	特別展「華麗なる宮廷文化　近衛家の国宝 京都・陽明文庫展」	60,808	九州国立博物館開館10周年記念特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波涛―」	77,455	特別展「始皇帝と大兵馬俑」	158,738
	特別展「美のワンダーランド　十五人の京絵師」	75,415	特別展「中国　王朝の至宝」	77,554	特別展「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美―」	70,794	九州国立博物館開館10周年記念特別展「大英博物館展　―100のモノが語る世界の歴史―　A History of the World in 100 Objects」	133,174	特別展「東山魁夷展　自然と人、そして町」	133,002
	特別展「ベルリン国立美術館展」	224,324	特別展「尾張徳川家の至宝」	139,448	特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」	256,070	九州国立博物館開館10周年記念特別展「美の国日本」	160,753	特別展「京都 高山寺と明恵上人―特別公開鳥獣戯画―」	161,172
	特別展「ボストン美術館　日本美術の至宝」	236,725	特別展「国宝　大神社展」	89,561	特水城・大野城・基肄城築造1350年記念別展「古代日本と百済の交流―大宰府・飛鳥そして公州・扶餘―」/特別展「日本発掘－発掘された日本列島2014－」	59,629	九州国立博物館開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン－守りぬかれたシルクロードの秘宝－」	67,641	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」	75,966
							特別展「始皇帝と大兵馬俑」	32,484		

※1　この特別展は、平常展料金のため、平常展のみの来館者に計上
※2　この特別展、特別公開の会場は平常展の一部で、別途カウントを行っていない。
※3　この特別展観は平常展の一部として開催しているため、特別展計には計上しない。

独立行政法人国立文化財機構　展覧会別来館者数（24～28年度）

2）研究成果公開施設



	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度	
計	**総　合　計**	**172,879**	**総　合　計**	**158,501**	**総　合　計**	**155,745**	**総　合　計**	**159,016**	**総　合　計**	**146,401**
	平常展のみの来館者	**86,681**	**平常展のみの来館者**	**54,922**	**平常展のみの来館者**	**69,710**	**平常展のみの来館者**	**73,567**	**平常展のみの来館者**	**79,257**
	特別（共催）展計	**86,198**	**特別（共催）展計**	**103,579**	**特別（共催）展計**	**86,035**	**特別（共催）展計**	**85,449**	**特別（共催）展計**	**67,144**
平城宮跡資料館	総　計	124,515	総　計	108,896	総　計	109,188	総　計	105,334	総　計	102,053
	平常展のみの来館者	64,318	平常展のみの来館者	39,502	平常展のみの来館者	52,221	平常展のみの来館者	50,064	平常展のみの来館者	62,210
	特別（共催）展計	60,197	特別（共催）展計	69,394	特別（共催）展計	56,967	特別（共催）展計	55,270	特別（共催）展計	39,843
	企画展「発掘速報展　平城2011/文化財レスキュー展」	34,687	春期企画展「発掘速報展　平城2012」	34,025	ロビー展示「震災復興調査とその支援」26.3.12より継続中	※1－	ロビー展示「震災復興調査とその支援」	※1－	ロビー展示「震災復興調査とその支援」	－
	特別展「地下の正倉院・第一次大極殿院のすべて」	20,356	夏期企画展「平城京どうぶつえん」	18,616	夏期企画展「平城京ビックリはくらんかい－奈良の都のナンバーワン－」	17,712	夏のこども展示「平城京“ごみ”ずかん-ごみは宝-」	18,108	夏のこども展示「ナント！おいしい！？平城京！！—奈良の都の食事情—」	9,532
	春期企画展「発掘速報展　平城2012 」	5,154	秋期特別展「地下の正倉院展 －木簡学ことはじめ」／「平城宮跡発掘調査部設立50周年記念展」	16,753	秋期特別展「地下の正倉院展—木簡を科学する—」／「埋蔵文化財センターの40年」	19,281	秋期特別展「地下の正倉院展 造酒司木簡の世界」	16,830	秋期特別展「地下の正倉院展 式部省木簡の世界—役人の勤務評価と昇進—」	17,653
			ロビー展示「震災復興調査とその支援」	※1－	ミニ展示「発掘速報展　平城2014」（第1期）	9,806	発掘速報ミニ企画展示第1期	10,003	平城宮跡資料館春期企画展「発掘速報展　平城2016」	12,658
					ミニ展示「発掘速報展　平城2014」（第2期）	10,168	発掘速報ミニ企画展示第2期	10,329		
藤原宮跡資料室	総　計	9,510	総　計	7,869	総　計	8,461	総　計	10,933	総　計	8,378
	平常展のみの来館者	9,510	平常展のみの来館者	7,869	平常展のみの来館者	8,461	平常展のみの来館者	10,933	平常展のみの来館者	8,378
	特別（共催）展計		特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0
飛鳥資料館	総　計	38,854	総　計	41,736	総　計	38,096	総　計	42,749	総　計	35,970
	平常展のみの来館者	12,853	平常展のみの来館者	7,551	平常展のみの来館者	9,028	平常展のみの来館者	12,570	平常展のみの来館者	8,669
	特別（共催）展計	26,001	特別（共催）展計	34,185	特別（共催）展計	29,068	特別（共催）展計	30,179	特別（共催）展計	27,301
	特別展「比羅夫がゆく-飛鳥時代の武器と武具・いくさ-」	11,425	第3回写真コンテスト「神々の山　大和三山のある風景」	1,148	春期特別展「いにしえの匠たち－ものづくりからみた飛鳥時代－」	10,597	飛鳥資料館開館40周年　春期特別展「はじまりの御仏たち」	10,725	春期特別展「文化財を撮る—写真が遺す歴史—」	9,974
	第２回飛鳥資料館写真コンテスト展「遙かなる華の都」	5,385	春期企画展「飛鳥寺2013」	9,406	夏期企画展第５回写真コンテスト「飛鳥の甍」	3,505	飛鳥資料館開館40周年　夏期企画展　飛鳥資料館第6回写真コンテスト作品展「ひさかたの天(そら)－いにしえの飛鳥を想ふ－」	4,088	夏期企画展　飛鳥資料館第7回写真コンテスト作品展「飛鳥の石」	3,383
	特別展「花開く都城文化」	5,743	5月～6月ロビーミニ展示※2	2,648	企画展「津田洋　大和の美仏に魅せられて」	2,716	秋期特別展 飛鳥資料館開館40周年　「キトラ古墳と天の科学」	12,862	秋期特別展　「祈りをこめた小塔」	9,373
	冬期企画展示「飛鳥の考古学２０１２」	1,537	夏期企画展「飛鳥・藤原京を考古科学する」	2,633	秋期特別展「はぎとり・きりとり・かたどり －大地にきざまれた記憶－」	9,592	冬期企画展「飛鳥の考古学2015-飛鳥の古墳調査最前線－」	2,504	冬期企画展　「飛鳥の考古学2016-飛鳥むかしむかし早川和子原画展-」	4,571
	第３回飛鳥資料館写真コンテスト展「神々の山一大和三山のある風景一」	1,911	第4回写真コンテスト「飛鳥川の導」※3	2,313	冬期企画展「飛鳥の考古学2014 - 縄文・弥生・古墳から飛鳥へ - 」	2,658				
			ミニ企画展「日光男体山のかがやき-山岳信仰奉賽鏡の世界-」	1,046						
			秋期特別展「飛鳥・藤原京への道」	9,132						
			発見30周年記念　キトラ古墳壁画特別公開	4,008						
			冬期企画展示「飛鳥の考古学２０１３」	1,851						

※1　平常展の一部として実施
※2　「飛鳥寺2013」と同時開催期間は同展と一体でカウントのため、単独開催期間の来館者数2,648人のみ計上。なお、同時開催期間も含めた全期間の来館者数は10,473人
※3　「日光男体山のかがやき」と同時開催期間は同展と一体でカウントのため、単独開催期間の来館者数2,313人のみ計上。なお、同時開催期間も含めた期間の来館者数は3,359人

a-③ 平常展・特別展・海外展

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

①開館日数　312 日間（平常展のみの開館日数　32 日間）
②会　　場
　(1)本　館　1階、2階
　(2)東洋館　1階、2階、3階、4階、5階
　(3)法隆寺宝物館　1階、2階
　(4)平成館　1階
　(5)黒田記念館　(6月13日まで休館)
③展示総件数　10,918件（うち国宝174件、重要文化財859件）
　(1)本館・平成館企画展示室　4,590件（うち国宝 83件、重要文化財335件）
　(2)東洋館　3,095件（うち国宝　4件、重要文化財 55件）
　(3)法隆寺宝物館　476件（うち国宝 15件、重要文化財292件）
　(4)平成館考古展示室　2,569件（うち国宝 72件、重要文化財172件）
　(5)黒田記念館　188件（うち国宝　0件、重要文化財　5件）
④展示替件数　8,538 件　・　展示替回数　延べ 371 回
⑤入場料金
　黒田記念館以外　一般620円、大学生410円
　黒田記念館　無料
⑥特集　全33件（●国宝、◎重要文化財、〇重要美術品）

場所	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
本館 14 室	七宝―金属を飾る彩り	4 月 12 日 ～6 月 5 日	50 件
＜主な作品＞七宝花蝶文矢立 、七宝宝尽文鍔 、七宝菊水文引手 、七宝扁壺瓶形幾何学文水注 、七宝花蝶文瓶			
七宝は銅など金属胎の器物の表面にガラス釉薬を焼き付け、多彩な色面により文様や図柄を表す技法である。日本では 7 世紀の出土品や８世紀の正倉院宝物の作例が早く、その後いったん途絶えるが、近世に再び盛行し、建具の引手金具や釘隠、印籠や煙管などに、情緒的で味わい深い意匠の妙が発揮された。また明治以降は博覧会出品や海外輸出を旺盛に志向する中で、尾張七宝に代表されるように、技術・表現ともに高度な発達をとげ、並河靖之ら名工を輩出した。本特集では正倉院宝物の模造や、近世期の刀装具・引手・水滴、明治期の七宝作品を展示し、日本の七宝の魅力を紹介した。併せて七宝の行程見本を展示し、教育的効果を図った。		
平成館 企画展示室	親と子のギャラリー　あつまれ！トラのなかまたち	4 月 12 日 ～5 月 22 日	35 件
＜主な作品＞ 龍虎図　狩野常信筆 江戸時代・17 世紀、青磁染付竹に虎図大皿　江戸時代・19 世紀、胸背（ヒュンベ）　朝鮮時代・19 世紀 虎図　円山応挙筆 江戸時代・18 世紀、岩上双虎置物 鈴木長吉作 明治 33 年（1900）			
春の行楽やゴールデンウィークで東博を訪れるファミリー層を対象に、美術鑑賞の楽しさ・面白さを伝えるための特集「親と子のギャラリー」で、国際博物館の日を記念して国立科学博物館、上野動物園との３館園連携企画として実施した。展示は２部構成からなり、第１部で伝説や物語のなかの「トラ」をテーマに、第２部では「トラ」のリアルな描写をめぐって、猫から想像した虎、毛皮などから観察した虎、生きた虎を観察できた明治期の虎などを流れにそって展示した。子どもの理解の助けとなる実物展示（トラのヒゲ、頭骨）や補助的な解説パネルの作成を２館園の協力により行い、作品名称についても通常の列品名のほか、子ども用にわかりやすくした名称を併せて掲示するなど、理解の促進を図った。また、三館園をめぐるツアー「上野の山でトラめぐり」を 2016 年 5 月 15 日に実施した。		
本館 7 室	特別公開「新発見！天正遣欧少年使節 伊東マンショの肖像」	5 月 17 日 ～7 月 10 日	5 件(重文 4 件)
＜主な作品＞伊東マンショの肖像、◎天正遣欧使節記、◎三聖人像、◎三聖人像（模写）、◎聖母像（親指のマリア）			
2016 年の日伊国交 150 周年を記念して、日本とイタリアを結ぶ最初の架け橋である「天正遣欧少年使節」を、ドメニコ・ティントレット筆「伊東マンショの肖像」を中心に紹介する。「伊東マンショの肖像」は、2014 年 3 月にミラノで発行された学術誌に紹介され、日本でも初めてその存在が知られた油彩の肖像画である。1585 年にヴェネツィアを訪問した天正遣欧少年使節の姿を、ルネサンス期ヴェネツィア派の大画家ヤコポ・ティントレットの息子であるドメニコ・ティントレット（1560～1635）が描いたとみられる。本特集では、当館所蔵の「天正遣欧使節記」やキリシタン資料中のイタリア関連作品をともに展示し、16～17 世紀にキリスト教を通じて交流した日伊の姿をみた。　会期中、イタリア文化会館にて関連シンポジウム（5/18）、当館月例講演会にて小佐野重利東京大学教授の講演（5/21）を開催した。「伊東マンショの肖像」は会期後、長崎歴史文化博物館（7/22～8/31）、宮崎県立美術館（9/9～10/16）へ巡回した。		
本館 特別 1・2 室	特集平成 27 年度新収品展Ⅰ	5 月 17 日 ～5 月 29 日	70 件

＜主な作品＞双龍図、ワヤン・クリ　バヌワティ、青磁盤、刀、菩薩立像

平成 27 年度に新たに収蔵品に加わった文化財のうち、ご寄贈いただいた分より 70 件を公開した。新収品を通じ、当館のもっとも重要な事業のひとつに位置づけられる「文化財の収集」について、その成果と意義を示した。

平成館 企画展示室	平成 27 年度新収品展Ⅱ	5 月 31 日 ～7 月 10 日	8 件

＜主な作品＞住吉物語絵巻断簡、玄圃瑤華

平成 27 年度に新たに収蔵品に加わった文化財のうち、購入分より 8 件を公開する。新収品を通じ、当館のもっとも重要な事業のひとつに位置づけられる「文化財の収集」について、その成果と意義を示した。

本館 14 室	根付と置物－象牙彫刻の伝統	6 月 7 日 ～7 月 31 日	78 件

＜主な作品＞面打牙彫根付、常盤牙彫根付、大原女牙彫根付、高砂牙彫根付、牙彫藤原鎌足像、桜桃、草枕

象牙を彫刻する牙彫の置物は、幕末期に流行した精巧な牙彫根付の伝統から、発展したものととらえられる。根付や牙彫置物は、19 世紀に来日した欧米人を中心に人気が高まり、明治前期には牙彫置物が輸出工芸の花形となった。当館の牙彫の根付と置物を一堂に集め、合わせて高円宮コレクションなどの現代作品も展示して、明治以来続く象牙彫刻の伝統と展開をご覧いただいた。

本館 特別 2 室	親と子のギャラリー　美術のうら側探検隊	7 月 5 日 ～8 月 28 日	30 件(国宝 2 件、重文 2 件)

＜主な作品＞埴輪 盾持人 、◎如来坐像 、魔鏡 、難波屋おきた 、●延喜式　巻二十六 、●十六羅漢像（第十三尊者）

赤くベンガラが塗られている金銅仏の像底や、葉などの圧痕がある縄文土器の底、内側に文様がある火事装束、紙背文書など、各分野の作品の普段見ることができない「うら側」に注目する。「うら側」と作品そのものまでを楽しむために展示具を工夫し、作品名称については列品名のほか、子ども用にわかりやすくした名称を併せて示した。ペンライトやレプリカなどを設置、ハンズオン企画も盛り込んだ体験型の展示とし、裏側に秘められた情報、かくれた部分の面白さを知ることで、これまでになかった作品鑑賞の楽しさを感じてもらえる展示となった。

平成館 考古展示室	後期の古墳文化－海北塚古墳展－	7 月 20 日 ～ 10 月 30 日	52 件

＜主な作品＞単龍環頭柄頭 、単鳳環頭柄頭 、獣帯鏡 、銀装矛 、銀製山梔玉 、銀製勾玉 、金銅装パルメット文鏡板 、金銅装花形座雲珠 、金銅装花形座辻金具 、金銅装パルメット文杏葉 、鐘形杏葉 、須恵器 筒形器台

大阪府茨木市に所在する海北塚古墳は、明治 42(1909)年・昭和 10(1935)年出土品のうち、環頭大刀・馬具・須恵器が古墳時代後期（６世紀）の基準資料として学史上有名である。　本特集では、海北塚古墳一括品を中心に、おもに編年研究に採り上げられてきた主要な資料を比較・展示した。また、類例の少ない本古墳出土装飾品も併せて展示することで、典型的な後期古墳文化の具体的内容を様々な角度から紹介した。

東洋館 5・13 室	上海博物館との競演－中国染織　その技と美―	7 月 26 日 ～10 月 23 日	23 件

＜主な作品＞刺繍龍八宝唐草文様壁掛、刺繍朝袍 香色繻子地龍蝙蝠文様、刺繍氅衣 紅繻子地花卉文様

当館イベント「アジアの旅」にあわせて、上海博物館から借用した中国染織と、当館所蔵品とを組み合わせ、元～清時代の中国染織の技と、その技が生み出してきた美の表現を紹介した。東洋館５室においては、稀少価値の高い元末～明初の刺繍大型作品「刺繍龍八宝唐草文様壁掛」を中心に、仏教美術における染織の表現を文様に込められた意味とともに紹介した。一方、東洋館 13 室では、中国染織の大きな特徴の１つである、書画を表現した緙絲や刺繍の作品を展示し、高度な技術に根ざした、染織による花鳥画や山水画、吉祥を主題とした絵画的な掛軸を展示した。宮廷女性の服飾なども合わせて展示し、宮廷や高級官僚の邸宅における室内をイメージするような展示とした。

平成館 企画展示室	清国踏査游記―関野貞・塚本靖が撮影した史跡写真	7 月 26 日 ～9 月 4 日	46 件

＜主な作品＞阿史那忠碑より九嵕山を望む、雲門山石窟第一窟、済寧州南門外運河（「支那写真帖」のうち）

明治 39～40 年（光緒 32～33 年：1906～07）、東京帝国大学の関野貞と塚本靖は平子尚（鐸嶺）と共に清国に渡り、河南・陝西省において文物調査を行なった。明治 40～41 年には関野貞が山東省を、明治 41 年には塚本靖が河北・山西・河南・山東省を踏査して建築、考古、金石、美術、風景など様々な分野の研究に寄与し、清朝末期の状況を現在に伝える多くの写真を撮影した。本展では、清朝末期に関野貞、塚本靖が行った中国調査に焦点をあて、東京国立博物館が収蔵する写真資料からその事跡を紹介した。

本館 14室	日本の貨幣ー富本銭から大判・小判までー	8月2日 ～9月25日	124件
＜主な作品＞天正菱大判、和同開珎、蛭藻金、天正長大判、天保大判、慶長小判、元禄小判			
日本で最初の貨幣には、無文銀銭や「富」「本」の2字が入る富本銭がある。その後和銅元年（708）の和同開珎以降、250年の間に銅貨12種（皇朝十二銭）が発行されたが、10世紀末には皇朝銭の鋳造は停止された。中世の中国銭貨の使用をへて、再び貨幣が製造されるようになるのは、室町時代末16世紀以降であり、近世期には金銀銅のいわゆる三貨制度のもとに各種の貨幣が製造・流通した。本特集では富本銭から近世期の大判・小判まで、わが国の貨幣の歴史を当館収蔵品で辿った。			
本館 特別1室	藤原行成の書　その流行と伝称	8月23日 ～10月2日	26件(国宝2件､重文3件)
＜主な作品＞●白氏詩巻 、◎書状 、◎藤原師通願文 、●延喜式　巻三十六			
藤原行成が揮毫した国宝「白氏詩巻」（寛仁２年[1018]）から、もうすぐ1000年が過ぎようとしている。本特集はその藤原行成の書を中心に取り上げる。藤原行成の真跡とともに、行成の書をよく真似ている「延喜式」や、藤原師通「願文」（個人蔵、寄託品）をあげながら、「三跡」と称された行成の書がいかに流行したかを示した。また、伝称筆者を藤原行成とする古筆切や、江戸時代の模本なども展示し、藤原行成の書がこれまでどのように尊重されてきたのかを紹介した。			
本館 15室	壬申検査―博物館草創期の文化財保護活動―	8月23日 ～10月16日	45件(重文35件)
＜主な作品＞古今珎物集覧、◎壬申検査社寺宝物図集;第12			
明治5年(1872)、創立したばかりの文部省博物局(東京国立博物館の前身）が行なった社寺宝物調査（壬申検査）は、日本の文化財保護のはじまりと位置づけられるものである。当館ではこれまで、文化財保護の歴史を紹介する展示はあったが、壬申検査そのものに焦点を当てたことはない。本特集では、壬申検査だけに絞って、調査記録や古写真を展示することで、東京国立博物館の創立当時の文化財保護活動を紹介した。			
東洋館 1室	上海博物館との競演ー中国彫刻―	8月30日 ～29年2月26日	40件
＜主な作品＞如来坐像、勢至菩薩立像、菩薩五尊像、菩薩立像、十一面観音龕			
インドから中国に仏教が伝わったのは紀元前後頃とされる。その後、南北朝時代に入ると、国家的な規模で寺院の造営が行なわれるようになり、仏教は中国でも大いに隆盛した。この展示では、中国彫刻の最盛期である南北朝時代から唐時代の仏像を中心に構成した。今年度は、８月から２月にかけて、上海博物館からの借用品８件を特集して陳列した。			
東洋館 5室	上海博物館との競演ー中国青銅器ー	8月30日 ～29年2月26日	29件
＜主な作品＞剛刧尊 、七牛貯貝器 、小克鼎 、蟠螭文鼎 、克鐘			
殷時代から漢時代にかけて展開した中国青銅器の用途および銘文について、おもに先祖の祭礼に用いた容器と楽器によって紹介する。東洋館５室をメイン会場として開催する特集「上海博物館との競演」の一環として、上海博物館の借用品と当館列品によって構成した。また、展示期間の一部が「アジアの旅」と重なるため、優品を取り揃えて「アジアの旅」の高揚に資した。			
東洋館 5室	上海博物館との競演ー中国陶磁ー	8月30日 ～29年2月26日	34件(重文2件)
＜主な作品＞青磁盤 、青磁盤 、◎青磁輪花鉢 、青花唐草文水差 、玳玻釉点斑文碗 、南宋官窯址採集陶片（郊壇下）			
中国唐時代から清時代に至るおよそ1300年のあいだにつくられた陶磁器を紹介する。今回の展示では「上海博物館との競演」と題し、当館所蔵品のなかから選りすぐった作品と、当館の収蔵品にはみられない青磁や元・明・清の景徳鎮窯器など中国・上海博物館からお借りした貴重な作品を一緒に展観した。			
東洋館 8-1・2室	上海博物館との競演　―中国書画精華・調度―	8月30日 ～10月23日	43件(国宝4件、重文14件、重美1件)
＜主な作品＞◎李白吟行図、◎四季花鳥図(春)、緙絲仙人図壁掛、緙絲花鳥図壁掛、●瀟湘臥遊図巻、◎五龍図巻、●王勃集巻第二十九･三十、楷書謝賜御書詩表巻、●禅院額字「解空室」、行草書西園雅集図記軸、行書送李愿帰盤谷序軸			
日本に古くから舶載された中国の書画は、日本人特有の美意識のもとに鑑賞され、日本の美術にも大きな影響を与えてきた。明治以降に日本に流入した名品も含め、日本で形成された中国書画コレクションには、本国ではすでに伝存しない貴重な作例も少なくない。このたびは館蔵品の中国書画コレクションの優品を公開するとともに、上海博物館の所蔵品から中国絵画にもとづく中国染織の作例を展示し、書画表現の奥深い世界をお			

楽しみいただいた。

東洋館 8-3 室	上海博物館との競演　―中国書画精華・調度―	8 月 30 日 ～10 月 23 日	6 件

＜主な作品＞紫檀雲龍彫戸棚、紫檀雲龍彫長方卓、紫檀唐花蝙蝠彫椅子

中国家具の最盛期は明清時代とされている。清時代の家具は、濃密な装飾を施した重厚な様式を特徴とし、当時の生活空間を豊麗に演出する役割を果たした。上海博物館が所蔵する上質な清時代の家具を展示した。

平成館 企画展示室	和紙の魅力―技術記録と料紙の変遷―	9 月 13 日 ～ 11 月 6 日	22 件(国宝 3 件、重文 2 件)

＜主な作品＞●円珍戒牒（円珍関係文書の内）、●群書治要　巻第二十六、◎申文

平成 26 年 11 月に「和紙」がユネスコ無形文化遺産に登録された。登録の対象は国の重要無形文化財に指定されている保持団体であり、国の指定は、昭和 38 から 41 年度にかけて行われた全国の主要な伝統的製紙地 40 ヵ所の実態調査にもとづいている。今回の展示では、実態調査の際に文化庁が詳細な技術記録を作成した和紙で、人間国宝である岩野市兵衛（8 代）の「越前奉書」をはじめ、ユネスコ無形文化遺産に登録された島根の「石州半紙」、岐阜の「本美濃紙」などをとりあげた。技術記録のうち和紙の実物、原料、紙漉きの道具や、津和野藩お抱え絵師の描いた天保 15 年「製楮図鑑」、明治 5 年にウィーン万博に出品するために作成された「越前紙漉図説」、さらに奈良から江戸時代にいたる代表的な和紙を展示する。これらの資料によって、それぞれの和紙の特徴である強さ、白さ、しなやかさの理由を解明し、世界に誇る和紙の技術とその魅力をわかりやすく紹介した。

本館 14 室	ドレッサーの贈り物―明治にやってきた欧米のやきものとガラス	9 月 27 日 ～12 月 18 日	48 件

＜主な作品＞多彩釉花唐草貼付文飾壺 、色絵虫魚浮彫飾皿 、青地色絵日本風俗図扁壺 、白色ガラス蛙蜻蛉刻文瓶 、白色ガラス草花刻文碗 、緑彩茶彩葉文脚付瓶

平成 28 年（2016）はイギリス人デザイナー、クリストファー・ドレッサー来日 140 年を迎える年であり、ここで紹介するものはドレッサーにちなんだ作品である。1873 年ウィーン万国博覧会後、日本の出品作品や収集品を積んで伊豆沖で沈没したニール号の悲報を受け、好意で集められたヨーロッパの美術品をドレッサーが日本へ運んできた。このとき博物館に寄贈された陶磁器やガラス、さらにドレッサーの影響を受けてのちに寄贈された欧米の作品など、明治前半期に博物館が受入れた 19 世紀欧米の貴重なガラス・陶磁器コレクションを展観した。ドレッサー関連のガラスについては近年ほとんど展示されたことがなかったが、このたび応急修理、クリーニングを行ない、展示が可能になった。

本館 特別 1・2 室	歌仙絵	10 月 18 日 ～11 月 27 日	53 件(重文 9 件)

＜主な作品＞柿本人麻呂像 、治承三十六人歌合絵　藤原成範 、◎為家本時代不同歌合絵 、時代不同歌合絵　蝉丸 、◎釈教三十六歌仙絵 、◎佐竹本三十六歌仙絵　坂上是則 、◎佐竹本三十六歌仙絵　住吉大明神、◎佐竹本三十六歌仙絵　小野小町 、◎佐竹本三十六歌仙絵　壬生忠峯 、◎佐竹本三十六歌仙絵　藤原元真 、◎上畳本三十六歌仙絵　源宗于、為家本三十六歌仙絵　藤原敦忠

歌仙絵とは優れた歌人の肖像を描く作例である。平安時代中期、藤原公任が編んだ『三十六人撰』に基づく「三十六歌仙絵」、鎌倉時代前期、後鳥羽院が編んだ『時代不同歌合』に基づく「時代不同歌合絵」など、多くの歌仙絵が中近世を通じて生み出され、愛好されてきた。

いにしえの歌人の肖像を描く営みは、平安時代末期にさかのぼる。当時歌聖として崇敬された「柿本人麻呂像」がその始まりである。鎌倉時代には、「似絵」と呼ばれる新たな肖像表現の形式を取り込みながら展開し、和歌を詠む人々の間で広く制作・享受されるようになった。

この特集は、宮廷文化の根幹たる和歌に支えられた、歌仙絵の成立と展開をたどるものである。東京国立博物館が誇る中世歌仙絵コレクションの全貌をご覧いただくとともに、文化庁、京都国立博物館、九州国立博物館、大倉集古館、そして個人のご所蔵家のご協力を得て、歌仙絵の白眉たる佐竹本三十六歌仙絵をはじめ、様々なバリエーションの歌仙絵をご紹介する。豊穣かつ個性豊かな歌仙絵の世界をお楽しみいただいた。

東洋館 8 室	生誕百年記念　小林斗盦　篆刻の軌跡　印の世界と中国書画コレクション	11 月 1 日 ～12 月 23 日	247 件

＜主な作品＞「柔遠能邇」白文円印、「八龍並出」白文印、「独往」朱文印、「退蔵入虚無意象難求思」朱文印、「為五斗米折腰」朱文印、「心月同光」朱文印、篆書朱韓山座右篇軸、隷書張衡霊憲四屏、梅花図軸、菊花老少年図紈扇

川越に生まれた小林斗盦(1916～2007)は、15 歳で書を比田井天来に、篆刻を石井雙石に師事。さらに 25 歳で篆刻を河井荃廬に、29 歳で書を西川寧に師事して、日本人の感性に本格的な中国の技法を盛り込んだ、精緻で格調高い作風を創出した。34 歳の若さで日展の特選を受賞してからは、常に書壇の重鎮として篆刻界を牽引し続けた。　一方、33 歳で文字学を加藤常賢に、37 歳で印学を太田夢庵に学んで、中国の古印や書画の研究に没頭し多くの論考を発表、晩年には『中国篆刻叢刊』40 巻を上梓している。実作と研究における優れた業績から、77 歳で日本芸術院会員、82 歳で文化功労者となり、88 歳の時に篆刻家としてはじめて文化勲章を受章した。　本展は生誕 100 年を記念して、小林斗盦の篆刻・書画や旧蔵にな

る中国の書画などを展示し、91 歳の天寿を全うした小林斗盦の偉大な業績を回顧したものである。 主催：東京国立博物館・読売新聞社 企画協力：謙慎書道会

平成館 考古展示室	吉備・伯耆因幡の古墳文化－中国地方東部の歴史的特質－	11 月 1 日 ～ 29 年 3 月 5 日	25 件

＜主な作品＞特殊器台破片 、長方板革綴短甲 、八ツ手葉形青銅製品 、石枕 、須恵器 子持装飾付脚付壺

岡山県・鳥取県は中国地方東部で中国山地を挟み、古代には吉備・伯耆・因幡と呼ばれた瀬戸内海と日本海側に面した地方である。弥生時代以降、近畿地方西隣において九州地方から新しい文化が伝わる沿岸の回廊として幅広い地方と交流してきた。古墳文化の成立にも大きな影響を及ぼし、古墳時代後半期には近畿・九州両地方の影響を受けた独自な古墳文化も現れた。

このような両地方の特色ある古墳文化を平成 28 年度考古相互貸借事業によって岡山県立博物館・鳥取県立博物館の所蔵品を中心に紹介した。

平成館 企画展示室	南太平洋の生活文化	11 月 15 日 ～12 月 23 日	35 件

＜主な作品＞家屋模型 、ワニ像 、仮面 、貝貨 、冑 、鎧

東京国立博物館には、おもに 19 世紀から 20 世紀にかけて、南太平洋の島々から将来された約 500 件の民族資料が所蔵されている。当時の南太平洋では、伝統的な暮らしと信仰が近代文明の影響を受けて急激に変わりつつあった。そのため、収蔵品のなかには、すでに現地では見られなくなったものもある。本特集陳列では、当館所蔵の貴重な南太平洋民族資料のなかから、伝統的な生活や儀式にかかわる器物・衣類・建築模型などを展示することで、日本に隣接していながらあまり知られていない南太平洋の文化の魅力を紹介した。

本館 14 室	掛袱紗―祝う心を模様にたくす	12 月 20 日 ～ 29 年 2 月 19 日	24 件

＜主な作品＞袱紗 猩々図、袱紗 紺繻子地鯛模様、袱紗 萌黄繻子地桜樹孔雀模様、袱紗 淡紅精好地布袋唐子遊戯図

掛袱紗は、婚礼や長寿を祝う儀において、お祝いの品を贈る際にその上に掛ける覆いである。江戸時代前期から中期にかけて、日本の刺繍技術の発達と共に、吉祥模様を刺繍したさまざまな模様の袱紗が制作された。江戸時代後期になると、進物に袱紗を掛けて贈る習慣が裕福な町人にも普及し、武家方が用いる様式的な模様とは異なり、世情で人気のある説話を模様とした袱紗や、身近な風物を大胆に模様化した袱紗なども制作されるようになった。刺繍だけではなく、友禅染や綴織など絵画表現に適した技術を活かした模様には、江戸時代の人々の、吉事を祝う心が表わされている。広蓋に掛けられた掛袱紗の使用例も再現しつつ、当館所蔵の江戸時代の袱紗を「物語・説話絵」「吉祥模様」「武家模様」「神仏と祭り」の四つのテーマに分けて紹介した。模様の意味を通して江戸時代における祝う心の表現に迫った。

本館 15 室	特集臨時全国宝物取調局の活動―明治中期の文化財調査―	12 月 20 日 ～ 29 年 2 月 19 日	50 件(国宝 2 件、重文 42 件)

＜主な作品＞●紅白芙蓉図、●東京府宝物精細簿 乙、◎鑑査状（紅白芙蓉図）、◎鑑査状番号簿　第四 自第五七四四号至第七四五〇号、書状、◎要甲・要乙資料参攷簿

明治 21 年（1888）に発足した臨時全国宝物取調局は全国の宝物台帳を作成することを目的とし、各地に調査員を派遣して文化財の調査と登録を行なった。大方の調査を終え、明治 30 年（1897）にその残務は東京帝室博物館が引き継いだことから、東京国立博物館には臨時全国宝物取調局の活動に関わる資料が残されており、近年その整理が進んでいる。本展示では当時の文化財調査の工程について作成された記録と、調査の対象となった作品を紹介した。

本館 特別 1・2 室	博物館に初もうで　新年を寿ぐ鳥たち	29 年 1 月 2 日 ～1 月 29 日	68 件(重文 3 件)

＜主な作品＞◎鶏図屏風 、◎竹鶏図 、松梅群鶏図屏風 、旧儀式図画帖「闘鶏御覧」 、花鳥図屏風 、◎舞楽面　崑崙八仙 、梨地桐竹鳳凰文蒔絵宝剣

平成 29 年の干支である酉（とり）に因み、全体構成を「暁の鳥」「祝の鳥」として、鳥を表す美術工芸品を展示した。

「暁の鳥」：十二支の酉は鶏の姿で表現されることが通例である。黎明を告げる鶏は家禽として親しまれ、また闘鶏のような遊戯も楽しまれた。ここでは鶏をモチーフとする作品、そして鶏と人との関わりを表した作品を展示した。

「祝の鳥」：花鳥をモチーフとする美術工芸品には、鷹・孔雀・鶴・鷺・鴛鴦などを表して吉祥的な意味が込められるものがある。また人間の豊かな想像力が生み出した鳳凰やガルーダのような瑞鳥もある。ここでは実在の鳥に限らず、空想鳥を含む鳥を表した作品を展示した。

東洋館 8 室	董其昌とその時代―明末清初の連綿趣味―	29 年 1 月 2 日 ～ 2 月 26 日	52(重文 7 件、重美 1 件)

＜主な作品＞渓山絶塵図、天目喬松図、◎廬山観瀑図、◎安晩帖、書画合璧巻、行草書羅漢賛等書巻

董其昌（1555～1636）は、高級官僚として官途を歩むかたわら、書画に妙腕を発揮した。書ははじめ唐の顔真卿を学び、やがて王羲之ら魏晋の書に遡り、当時の形式化した書を否定して、天真爛漫で平淡な書風を理想とした。画は、元末の四大家から董源に遡り、宋や元の諸家の作風を広く渉猟して、文人画の伝統を継承しつつ、一方では急進的な描法によって奇想派の魁となる作例も残している。董其昌によって提唱された書画の理念は、激動の明末から清初にかけた書画にも濃厚に反映され、さらに清初の康熙帝と乾隆帝が董其昌の書画を愛好したことで、董其昌は300年に及ぶ清朝においても大きな影響を与え続けた。平成28年度は董其昌の没後380年にあたることから、董其昌の書画における業績を顕彰した。台東区立書道博物館との連携企画第14弾。

平成館 企画展示室	春日権現験記絵模本Ⅲ―写しの諸相―	29年1月17日 ～ 3月12日	23件

＜主な作品＞春日権現験記絵(陽明文庫本)巻三 、春日権現験記絵(陽明文庫本)巻十五 、春日権現験記絵(春日本)巻三 、春日権現験記絵(春日本)巻十五 、春日権現験記絵(徳川美術館本)巻三 、春日権現験記絵(徳川美術館本)巻十五、春日権現験記絵(新宮本)巻三 、春日権現験記絵(新宮本)巻十五

奈良県奈良市に鎮座する春日大社は、創建以来多くの人びとの信仰を集めてきた。この春日大社に祀られる神々の利益と霊験を描くのが春日権現験記絵（三の丸尚蔵館所蔵）である。全20巻から成るこの絵巻は、鎌倉時代の後期、高階隆兼という宮廷絵所の絵師が描いたもので、多くの絵巻作品の中でも最高峰のひとつに数えられている。拝観が厳しく制限されていた春日権現験記絵は、江戸時代後期にいたっていくつかの模本が作られることになる。

これまで、春日権現験記絵模本の魅力とともに、春日信仰について様々な角度から紹介する特集をシリーズで行ってきた。この特集は3回目の試みで、今回は「写しの諸相」をテーマとする。本展にあたっては、摂関家筆頭、近衛家熙（1667～1736）の命により渡辺始興 （1683～1755）が描いた陽明文庫本、松平定信の命で作られた春日本、阿波蜂須賀家伝来の徳川美術館本、紀州新宮の丹鶴文庫伝来の新宮本を特別にご出陳いただく。これらに当館所蔵の、紀州（和歌山）藩主徳川治宝（1771～1852）の命によって冷泉為恭（1823～64）らが描いた紀州本をあわせ、それぞれの画面を比較しながら、模写の方法の違いや、それぞれの制作事情について紹介した。

特別展「春日大社　千年の至宝」（1月17日～3月12日）とあわせてご観覧いただいた。

本館 特別1・2室	奈良・金春家伝来の能面・能装束	29年1月31日 ～ 3月26日	75件(重文52件)

＜主な作品＞◎能面　三光尉 、◎能面　翁 、◎能面　長霊癋見 、◎摺箔（子方） 紫地色紙葡萄模様、◎縫箔（子方） 白地桐鳳凰芦桜雪持竹肩裾模様、◎縫箔　紅白段菊芦水鳥模様、◎能面　曲見 、◎能面　小面 、◎縫箔 白地雪持柳扇面肩裾模様、◎厚板 金紅片身替詩歌模様

同時期に開催される特別展にあわせ、春日大社にゆかりの深い、金春家の能面・能装束を特集する。金春家は、能楽シテ方の一流として南北朝時代に活動を始め、大和猿楽四座のなかでも最も歴史が古い。中興の祖・金春禅鳳が室町時代後期に奈良を拠点として風流能の名作を遺した後、安土桃山時代には、第62代金春太夫・安照が豊臣秀吉の絶大なる庇護の下、一時代を築いた。江戸時代以降も、春日大社や興福寺などで祭事能をおこなうなど、奈良に本拠をおいて活動してきた。東京国立博物館には、金春家に伝来した能面４６面と狂言面１面の計４７面を収蔵しており、一括して国の重要文化財に指定されている。また、重要文化財7件を含む能装束類225件を所蔵する。本特集は、中世の能の歴史を物語る金春家伝来の面と能装束の名品を一堂に会する初めての機会となった。

本館 14室	おひなさまと日本の人形	29年2月21日 ～ 4月16日	32件

＜主な作品＞台付機巧輪舞人形 、享保雛 、立雛（次郎左衛門頭） 、衣裳人形 吉弥、初参人形

３月３日は桃の節供。雛祭にちなんで恒例となった特集を行いたい。今回は享保雛や五人囃子とともに、衣裳人形の名品を中心に展示した。また、天児・這子や紙雛にはじまる雛人形の発展を概観できるように展示を行なった。人形の名品を通じ、繊細で美しく、そしてかわいらしいものを尊び、高い技術を駆使して作品を作り上げてきた日本の美意識を、楽しく伝えた。

平成館 考古展示室	須恵器の展開	29年3月7日 ～ 6月11日	24件

＜主な作品＞子持高坏 、角坏 、革袋形提瓶

古墳時代中期・5世紀に朝鮮半島から新しい窯業技術が伝えられ、日本列島で須恵器生産が始まった。技術のみならず、その器形にも朝鮮半島の陶質土器に共通する特徴がみられたが、日本列島での生産が各地で展開する中で、日本列島の独自の特徴も現れてくる。本特集においては、須恵器の登場から奈良時代までの須恵器を展示し、造形の多様性を示した。

平成館 企画展示室	東京国立博物館コレクションの保存と修理	29年3月22日 ～4月16日	18件(重文1件)

＜主な作品＞◎放犢図 、色絵牡丹文小皿 、五彩獅子文有蓋壺 、朱筋溜塗打刀 、男神坐像

本特集では、東京国立博物館が手がける保存と修理の成果をより分かりやすく紹介するため、近年に解体を含む根本的な修理を終えた絵画、工芸、考古、歴史資料などさまざまな分野から、形態、技法が異なる作品を取り上げた。　作品とともに修理過程で得られた情報もパネルなどを用いて公開し、博物館が担う文化財修理の役割を広く理解していただいた。　本年度は、本格修理完了品として重要文化財「放犢図」や明治18年に沖縄県から一括して購入した陶磁器など16件、対症修理完了品として肉筆浮世絵、神像など4件、計18件を展示した。

(2) 特別展、共催展等（海外展、国立文化財機構主催の海外展を含む）

展覧会名	特別公開「国宝土偶　縄文の女神」
会　　期	28年3月23日（水）～4月17日（日）（25日間）
会　　場	平成館 特別展示室第1～4室
主　　催	東京国立博物館、山形県、（公財）山形県産業技術振興機構
特別協賛	―
協　　賛	―
協　　力	―
作品件数	42件
来館者数	カウントなし
入場料金	無料
アンケート結果　満足度	―
担当研究員数	2人
展覧会の内容	「縄文の女神」は、その優美かつ圧倒的な造形力に加え、現存する立像土偶では日本最大の土偶である。この土偶が発見された山形県舟形町西ノ前遺跡では、この他にも大小さまざまな土偶残欠47個がともに出土していて、そのうち41個をあわせて公開した。また本展では、これら土偶のもつ造形的な魅力を存分に楽しんでいただくため、山形県内の企業が力を合わせ、最新の技術を用いて「博物館向次世代展示ケース」を開発した。
講演会等	

展覧会名	特別展「生誕150年 黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」
会　　期	28年3月23日（水）～5月15日（日）（50日間）
会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、東京文化財研究所、朝日新聞社、NHK、NHKプロモーション
協　　賛	大あいおいニッセイ同和損保、エールフランス航空／KLMオランダ航空日本印刷
協　　力	エア インディア
作品件数	240件
来館者数	182,353人（目標100,000人、達成率：182.4%）
入場料金	一般1400円(1200円／1100円)、大学生1000円(800円／700円)、高校生800円(600円／500円)、中学生以下無料、＊（　）内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	89.6%
担当研究員数	2人
展覧会の内容	日本美術の近代化のために力を尽くした黒田清輝（1866-1924）の生誕150年を記念した大回顧展。フランスで油絵を学んだ黒田の印象派風の明るい光の表現を取り入れた画風は、日本の洋画界に新風を吹き入れた。また、黒田は東京美術学校で教育を任され、日本洋画のアカデミズムを築いた。この展覧会では師コランやミレーなど、黒田がフランスで出会い導かれた作品を合わせて展示しながら、留学時代の「読書」「婦人像（厨房）」や帰国後の「舞妓」「智・感・情」などの代表作によって、黒田清輝の画業全体を振り返った。
講演会等	「黒田清輝の画業―美術で社会を変える試み」講師：山梨　絵美子（東京文化財研究所企画情報部部長）　平成館大講堂　3月26日（土）288名。「黒田清輝とフランス―日本近代絵画にもたらしたもの」講師：三浦　篤（東京大学教授）平成館大講堂　4月16日（土）261名

展覧会名	特別展「黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」
会　　期	4月12日（火）～6月19日（日）（61日間）
会　　場	表慶館
主　　催	東京国立博物館、アフガニスタン・イスラム共和国情報文化省、産経新聞、フジテレビジョン
特別協力	文化庁、東京文化財研究所、文化財保護・芸術研究助成財団、日本・アフガニスタン協会
協　　賛	ダイハツ工業、ヤマザキナビスコ
協　　力	ナショナル・ジオグラフィック、日本通運、損害保険ジャパン日本興亜、大伸社、Galaxy
作品件数	246件
来館者数	154,875名（目標70,000人、達成率：221.3%）
入場料金	一般1400円(1200円／1100円)、大学生1000円(800円／700円)、高校生600円(400円／300円) 中学生以下無料。（　）内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	87.3%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	アフガニスタンは、古くから『文明の十字路』として栄え、シルクロードの拠点として発展した。その北部に点在する古代遺跡で発掘された貴重な文化財は、1979年のソ連軍による介入時に秘密裏に保管された。本展は、この秘宝の再発見を契機に、アフガニスタンの文化遺産復興を支援するために企画された古代アフガニスタンの歴史と文化を紹介する国際巡回展である。日本展では、平山郁夫氏らの呼びかけにより日本で「文化財難民」として保護・保管され、この機にアフガニスタンに返還されることとなったアフガニスタンからの流出文化財の中から15件も出品された。

講演会等	「私とアフガニスタン」講師：松浪　健四郎（日本体育大学理事長）平成館大講堂　4月17日（日）199名。「バクトリアの秘宝を語る」講師：前田　耕作（アフガニスタン文化研究所長／和光大学名誉教授）平成館大講堂　4月23日（土）390名。「世界遺産を護れ！―迫る危機をのりこえて―」講師：井上　洋一（東京国立博物館学芸企画部長）平成館大講堂　5月28日（土）287名。

展覧会名	海外展「韓日国宝半跏思惟像の出会い」
会　　期	5月24日（火）～6月12日（日））（18日間）
会　　場	韓国・国立中央博物館
主催	韓国国立中央博物館、日韓半跏思惟像展示実行委員会、東京国立博物館
作品件数	2件
担当研究員数	3人
来館者数	46,801人
展覧会の内容： 半跏思惟像は、仏教の母国・インドにはじまり、中国、朝鮮半島、日本へと伝わった。日本や朝鮮半島では6世紀から8世紀の間に多くの像がつくられ、奈良の中宮寺門跡に伝わる国宝の半跏思惟像はその代表作である。また、韓国国立中央博物館所蔵の銅製の半跏思惟像は、国宝78号像として広く親しまれている。日本と韓国に同じ姿の優れた仏像が残るのは、両国の古代から続く交流の深さを物語るといえる。この展覧会は2体の半跏思惟像を同時に展覧し、日本と韓国の仏像の美を堪能するまたとない機会となった。なお、本展覧会は東京国立博物館と韓国中央博物館で開催した。	
講演会等：なし	

展覧会名	日韓国交正常化50周年記念　特別展「ほほえみの御仏―二つの半跏思惟像―」
会　　期	6月21日（火）～7月10日（日）（20日間）
会　　場	本館特別5室
主　　催	日韓半跏思惟像展示実行委員会、東京国立博物館、韓国国立中央博物館、NHK
後　　援	―
協　　賛	外務省、文化庁
協　　力	―
作品件数	2件
来館者数	78,562名
入場料金	一般1000円(900円)、大学生700円(600円)、高校生400円(300円)中学生以下無料　＊(　)内は前売りおよび20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	80.6%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	半跏思惟像は、仏教の母国・インドにはじまり、中国、朝鮮半島、日本へと伝わりました。日本や朝鮮半島では6世紀から8世紀の間に多くの像がつくられ、奈良の中宮寺門跡に伝わる国宝の半跏思惟像はその代表作である。また、韓国国立中央博物館所蔵の銅製の半跏思惟像は、国宝78号像として広く親しまれている。日本と韓国に同じ姿の優れた仏像が残るのは、両国の古代から続く交流の深さを物語るといえる。この展覧会は2体の半跏思惟像を同時に展覧し、日本と韓国の仏像の美を堪能するまたとない機会となった。なお、本展覧会は東京国立博物館と韓国中央博物館で開催した。
講演会等	なし

展覧会名	特別展「古代ギリシャ―時空を越えた旅―」
会　　期	6月21日（火）～9月19日（月）（80日間）
会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、ギリシャ共和国文化・スポーツ省、朝日新聞社、NHK、NHKプロモーション
企画協力	東映
協　　賛	あいおいニッセイ同和損保、竹中工務店、日本写真印刷、三菱商事
後　　援	外務省、駐日ギリシャ大使館
作品件数	325件
来館者数	199,567名（目標200,000人、達成率：99.8%）
入場料金	一般1600円(1400円／1300円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)※中学生以下無料 ※(　)内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	83.4%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	ギリシャには時代や地域によりさまざまな美術が花開いた。本展はギリシャ国内40か所以上の国立博物館群から厳選された300件を超える古代ギリシャの貴重な作品を展示する日本でかつてない規模の試みとなった。青きエーゲ海の美しい島々からはじまるギリシャ最古のエーゲ海文明からヘレニズム時代まで、西洋文化の源である古代ギリシャ文明の黎明から最盛期に至るその壮大な歴史の流れを総合的に紹介した。
講演会等	「ギリシャ美術を巡る旅　―神々と人間の出会うところ―」講師：芳賀　京子（東北大学 准教授／本展監修者）平成館大講堂　6月25日（土）328名。ギャラリートーク「動物」・白井克也(考古室長)平成館大講堂7月25日（月）130名。「人のかたち」・白井克也(考古室長)平成館大講堂7月25日（月）　140名。「古代オリンピック」・瀬谷愛(保存修復室主任研究員）平成館大講堂7月25日（月）110名。ギャラリートーク「パルテノン神殿」・瀬谷愛(保存修復室主任研究員）平成館大講堂7月25日（月）75名。「古代ギリシャナイトミュージアム」藤村シシン(作家・古代ギリシャ研究家)　白井克也（考古室長）371名。

展覧会名	特別展「平安の秘仏ー滋賀・檪野寺の大観音とみほとけたち」
会　　期	9月13日(火)～29年1月9日（日）(96日間)
会　　場	本館特別5室

主　　催	東京国立博物館、櫟野寺、読売新聞社
後　　援	TBSラジオ
協　　賛	日本写真印刷
協　　力	日本通運
作品件数	20件
来館者数	212,144名（目標80,000人、達成率：265.2%）
入場料金	一般1000円(900円)、大学生700円(600円)、高校生400円(300円)、中学生以下無料、(　)内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	90.6%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	滋賀県甲賀市に所在する天台宗の古刹、櫟野寺には重要文化財に指定される平安時代の仏像が20体伝来する。本展覧会は、それらが揃って寺外で見られる初めての機会となった。本尊の十一面観音菩薩坐像は像高が3mもある圧巻の作品で、普段は大きく重い扉に閉ざされる秘仏である。他に像高2.2mの薬師如来坐像、11体の観音立像、坂上田村麻呂にまつわる毘沙門天立像、文治3年（1187）に造られたことが知られる地蔵菩薩坐像なども出品され、櫟野寺に伝わる平安彫刻の全貌を紹介した。
講演会等	「滋賀・櫟野寺の仏像をめぐって」講師：丸山士郎（東京国立博物館特別展室長）　平成館大講堂　10月15日（土）362名。

展覧会名	臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念　特別展「禅―心をかたちに―」
会　　期	10月18日（火）～11月27日（日）（36日間）
会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、臨済宗黄檗宗連合各派合議所、日本経済新聞社、BSジャパン
特別協賛	
協　　賛	損保ジャパン日本興亜、東レ、トヨタ自動車、日本写真印刷、日本ロレックス
協　　力	大光電機、三菱レイヨン
作品件数	239件
来館者数	133,629名（目標90,000人、達成率：148.5%）
入場料金	一般1600円(1400円／1300円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)、中学生以下無料。(　)内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	85.4%
担当研究員数	4名
展覧会の内容	臨済宗・黄檗宗の源流に位置する臨済義玄禅師の1150年遠諱、ならびに日本臨済宗中興の祖、白隠慧鶴禅師の250年遠諱を記念して開催した。臨済・黄檗両宗十五派の全面的な協力のもと、各本山や末寺、塔頭に伝わる高僧の肖像や墨蹟、仏像、絵画、工芸など、国宝22件、重要文化財102件を含む約240件の多彩な名宝を通じて、禅の真髄に触れていただき、禅僧たちの足跡や禅の教えが日本文化に果たしてきた役割を紹介した。
講演会等	「禅の美術」講師：救仁郷秀明（列品管理課長）平成館大講堂　10月29日（土）340名。「禅寺の四ツ頭茶礼」講師：臨済宗大本山建長寺 禅文化委員会/三笠景子（東洋室主任研究員）　平成館大講堂　11月12日（土）380名。「禅トーク」10月19日（水）492名、10月28日（金）553名、11月5日（土）275名、11月9日（水）154名、11月24日（木）168名。「写禅語」10月19日（水）128名、10月28日（金）124名、11月3日（木）134名、11月5日（土）342名、1月9日（水）293名、1月24日（木）394名 。トークイベント「雪舟 vs 白隠 達磨図に迫る」平成館大講堂　11月3日（木）355名。尺八コンサート「吹禅(すいぜん)のひびき」平成館大講堂　11月5日（土）370名。「坐禅会」11月6日（日）201名。

展覧会名	海外展「15－19世紀日中韓絵画精品展」
会　　期	11月5日（土）～12月18日（日）（44日間）
会　　場	中国・中国国家博物館
主　　催	中国国家博物院、東京国立博物館、韓国国立中央博物館
作品件数	52件（うち東京国立博物館18件）
担当研究員数	3人
来館者数	42,153人
展覧会の内容： 本展覧会は、中国、日本、韓国の3つの国の国立博物館が合同で実施する第2回目の国際共同企画展である。今回は3ヶ国の15－19世紀を代表する絵画名品をテーマとし、中国は国家博物館、日本は東京国立博物館、韓国は国立中央博物館の所蔵品から出品した。各館の絵画コレクションから文人絵画、風俗絵画、仏画を精選し、中国の明清時代、日本の室町、江戸、明治時代、そして韓国の朝鮮王朝中後期の絵画芸術を中心に紹介した。	
講演会等：なし	

展覧会名	海外展「日本美術の粋　東京・九州国立博物館精品展」
会　　期	12月10日（土）～2017年3月10日（金）（73日間）
会　　場	台北・國立故宮博物院南院
主　　催	台北・國立故宮博物院南院、東京国立博物館、九州国立博物館
作品件数	151件
担当研究員数	3人
来館者数	93,391人
展覧会の内容： 東京国立博物館と九州国立博物館日本の収蔵品からの国宝、重要文化財68点を含む151点の優品を、「祭祀と生活」・「皇権と佛法」・「貴族の世界」・「武家の文化」・「市民の創造」、及び「伝承と創造」の6章に分けて展示し、約5000年にわたる豊富で多様な日本の芸術文化を紹介した	
講演会等：なし	

展覧会名	特別展「春日大社　千年の至宝」
会　　期	平成29年1月17日（火）～3月12日（日）（48日間）

会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、春日大社、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社
特別協賛	―
協　　賛	岡村印刷工業
協　　力	―
作品件数	250件
来館者数	209,572人（目標120,000人、達成率：174.6%）
入場料金	一般1600円(1400円/1300円)、大学生1200円(1000円/900円)、高校生900円(700円/600円)、中学生以下無料、(　)内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	91.2%
担当研究員数	4名
展覧会の内容	春日大社では「式年造替」と呼ばれる社殿の建て替えや修繕が約20年に1度行われ、平成28年（2016）には60回目を迎えた。本展は、この大きな節目に、春日大社に伝来し、社外では拝観できない古神宝の数々とともに、春日の神々への祈りが込められた選りすぐりの名品を展観した。「平安の正倉院」と呼ばれる春日大社に伝来した王朝の精華を伝える古神宝類、祈りを込め奉納された甲冑や刀剣、聖地・春日野や神々の姿を表わした絵画や彫刻などが一堂に会した。
講演会等	記念講演会「春日の歴史と神様にささげた究極の宝」講師：花山院弘匡（春日大社宮司）　平成館大講堂　2月12日（日）。イベント「南都楽所の演奏会」平成館大講堂　1月25日。トークイベント「奈良と春日大社の魅力」　講師：さだまさし（シンガーソングライター・小説家）・花山院弘匡（春日大社宮司）　平成館大講堂　2月9日（木）

《独立行政法人国立文化財機構主催》

展覧会名	海外展「菩提の世界：醍醐寺芸術珍宝展」
会　　期	5月11日（水）～7月10日（日）（61日間）
会　　場	中国・上海博物館
主　　催	中国・上海博物館、醍醐寺、独立行政法人国立文化財機構
作品件数	67件
担当研究員数	4人
来館者数	349,375人
展覧会の内容： 醍醐寺は空海の孫弟子である聖宝（理源大師）（832－909）が、貞観16（874）年に笠取山山上に仏像を安置したことに始まる。延喜7（907）年に醍醐天皇の願によって本格的な造営が始まり、その後近世に至るまで多くの作品がつくられ、いまも文書を中心に約15万点の文化財が残る。本展覧会では、草創期から近世にいたる作品を展示して醍醐寺の歴史と美術を紹介した。	
講演会等：なし	

展覧会名	海外展「梵音東渡 - 日本醍醐寺国宝展」
会　　期	7月27日(水)～9月20日（火）（56日間）
会　　場	中国・陝西歴史博物館
主　　催	中国・陝西歴史博物館、醍醐寺、独立行政法人国立文化財機構
作品件数	65件
担当研究員数	4人
来館者数	400,800人（推計）
展覧会の内容： 醍醐寺は空海の孫弟子である聖宝（理源大師）（832－909）が、貞観16（874）年に笠取山山上に仏像を安置したことに始まる。延喜7（907）年に醍醐天皇の願によって本格的な造営が始まり、その後近世に至るまで多くの作品がつくられ、いまも文書を中心に約15万点の文化財が残る。本展覧会は、草創期から近世にいたる作品を展示して醍醐寺の歴史と美術を紹介した。	
講演会等：なし	

【京都国立博物館】

(1)平常展(名品ギャラリー)

①開館日数　309日(名品ギャラリーのみ開館日数：178日、特別展（禅展）のみ開館日数：36日、名品ギャラリー（3階）と特別展（坂本龍馬）開館日数：38日、庭園のみ開館日数：57日)
②展示総件数　1,068件
③展示替件数　943件
④入場料金　一般520円、大学生260円　※庭園のみ開館時は、一般260円
⑤特集陳列等：全9件

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特集陳列	徳川家康没後400年記念 徳川将軍家と京都の寺社―知恩院を中心に―	6月14日～7月18日	21件(重要文化財3件)
特集陳列	丹後の仏教美術	7月26日～9月11日	36件(重要文化財4件、重要美術品1件)
特集陳列	生誕300年 与謝蕪村	8月23日～10月2日	15件（重要文化財3件、重要美術品2件）
特集陳列	絵付けの美　長崎・亀山焼	10月15日～11月27日	42件
特集陳列	とりづくし―干支を愛でる―	12月13日～29年1月15日	17件（重要文化財4件、重要美術品1件）
特集陳列	生誕300年 伊藤若冲	12月13日～29年1月15日	28件
特集陳列	皇室の御寺　泉涌寺	12月13日～29年2月5日	41件（国宝1件、重要文化財12件）
特別公開	修理完成記念　鳥取・三佛寺の蔵王権現立像	29年1月17日～2月19日	1件(重要文化財1件)
特集陳列	雛まつりと人形	29年2月18日～3月20日	47件

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	特別展覧会「禅―心をかたちに―」
会　　期	4月12日～5月22日（36日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、臨済宗黄檗宗連合各派合議所、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞
協　　賛	損保ジャパン日本興亜、東レ、トヨタ自動車、日本写真印刷、みずほ銀行
協　　力	岩谷産業、松栄堂
作品件数	305件（うち国宝19件、重要文化財104件、重要美術品1件）
来館者数	88,228人（目標来館者数70,000人・達成率126.1%）
入場料金	一般1,500円、大学生1,200円、高校生900円
アンケート結果　満足度	満足度78.1%
講演会等	・記念講演会 4月16日「禅における＜心＞のかたち」花園大学国際禅学研究所　所長　野口善敬氏 ・講演会 4月24日「禅と水墨画　雪舟と白隠を中心として」明治学院大学教授　山下裕二氏、臨済宗妙心寺派龍雲寺住職　細川晋輔氏 ・関連土曜講座 4月23日「禅画と墨蹟―近世の禅林美術―」花園大学文学部教授　福島恒徳氏 4月30日「頂相彫刻の特質」東京国立博物館学芸企画部企画課長　浅見龍介氏 5月7日「仏師の古文書」京都国立博物館学芸部保存修理指導室主任研究員　羽田聡 5月14日「喫茶の広まりと寺院」京都国立博物館連携協力室(兼)工芸室研究員　降矢哲男 5月21日「画僧の系譜―明兆から雪村まで―」京都国立博物館学芸部長　山本英男 ・その他イベント 5月3日「四頭茶会－禅院の茶礼」 4月29日、5月8日「声明－禅の祈り」 5月15日　狂言「にせ地蔵/でんでん虫」 4月17日、4月21日、5月1日、5月5日、5月12日、5月19日　座禅会 毎週火曜日、回収金曜日　ロビー講話

展覧会名	特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」
会　　期	10月15日～11月27日（38日間）
会　　場	平成知新館　2階・1階
主　　催	京都国立博物館、読売新聞社、読売テレビ
協　　賛	清水建設、大和ハウス工業、野崎印刷紙業、パナソニック、非破壊検査
協　　力	日本香堂
作品件数	186件（うち重要文化財1件）
来館者数	98,533人（目標来館者数60,000人・達成率164.2%）
入場料金	一般1,300円、大学生1,100円、高校生800円
アンケート結果　満足度	満足度78.2%
講演会等	・土曜講座 10月15日「坂本龍馬の手紙を読む」京都国立博物館学芸部上席研究員(兼)列貧寒室長　宮川禎一　※ミュージアムズ・フォー関連講座 10月22日「坂本龍馬の愛刀と幕末の刀剣事情」東京国立博物館学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員　末兼俊彦氏 10月29日「龍馬と坂本家」高知県立坂本龍馬記念館　学芸課長　前田由紀枝氏 11月5日「龍馬と薩長盟約」佛教大学　歴史学部教授　青山忠正氏 11月19日「パークス事件と残された刀」京都国立博物館学芸部上席研究員(兼)列品管理室長　宮川禎一 11月26日「対談：林市郎右衛門と龍馬」NPO法人　京都龍馬会理事長　赤尾博章氏、京都国立博物館学芸部上席研究員(兼)列品管理室長　宮川禎一 ・その他イベント 11月3日　特別トークショー　刀剣乱舞-ONLINE-原作プロデューサー小坂崇氣氏、東京国立博物館学芸研究部列品管理課平常展調整室　末兼俊彦氏 11月15日　「月琴コンサート」長崎検番　琴音氏

【奈良国立博物館】

(1)名品展（平常展）

①開館日数：321日(名品展のみの開館日数：212日)
②展示総件数：664件
③展示替件数：427件
④入場料金：一般　520円　大学生　260円
⑤特別陳列等：全129件
名品展
　珠玉の仏たち（なら仏像館）136件
　珠玉の仏教美術（西新館）278件
　特集展示「新たに修理された文化財」（西新館）13件
　中国古代青銅器（青銅器館）237件

特別陳列

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特別陳列	和紙―近代和紙の誕生―	6月7日～7月3日	20件（重要文化財2件）
特別陳列	おん祭と春日信仰の美術―特集　奈良奉行所のかかわり―	12月10日～29年1月15日	40件
特別陳列	お水取り	29年2月7日～3月14日	69件（重要文化財20件）

(2)特別展、共催展等

展覧会名	特別展「国宝 信貴山縁起絵巻－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝－」
会　　期	4月9日(土)～5月22日(日)（39日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、総本山朝護孫子寺、読売新聞社
特別協賛	－
協　　賛	岩谷産業、非破壊検査
特別協力	－
協　　力	信貴山観光協会、日本香堂、仏教美術協会
作品件数	78件（うち国宝8件、重要文化財16件）
来館者数	55,198人(目標来館者数50,000人・達成率110.4%)
入場料金	一般1,300円、高校・大学生900円、小・中学生500円
アンケート結果　満足度	91.6%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	信貴山朝護孫子寺に対する篤い信仰のもとに制作された平安絵巻の傑作・信貴山縁起絵巻の全貌を一堂に紹介する展覧会。会期中、山崎長者巻、延喜加持巻、尼公巻の全三巻全場面を同時公開する史上初の試みとなる。併せて、朝護孫子寺の寺宝及び寺外の関連文化財の数々を展示することで、信貴山毘沙門天王への信仰が生み出した造形の魅力も紹介する。
講演会等	○公開講座 3回　参加者数合計　559人 4月23日(土)「後白河法皇の信仰世界－神仏との交歓－」横内裕人（京都府立大学准教授）/ 参加者数　171人 5月 7日(土)「信貴山縁起絵巻と朝護孫子寺の毘沙門天王信仰」谷口耕生（教育室長）/ 参加者数　194人 5月21日(土)「信貴山縁起絵巻について」梶谷亮治（奈良県学芸統括参与）/ 参加者数　194人 ○朝護孫子寺による講話 3回　参加者数合計　421人 4月22日(金)「毘沙門天王信仰の欲と徳」鈴木貴晶（成福院貫主）/ 参加者数　150人 5月10日(火)「信貴山の毘沙門天王」田中眞瑞（千手院貫主）/ 参加者数　130人 5月12日(木)「福の神様　毘沙門天王」野澤密孝（玉蔵院貫主）/ 参加者数　141人 ○展覧会関連イベント 1回　参加者数合計　105人 4月30日(土)親と子のワークショップ「『空とぶ鉢』のおはなし絵巻を作ろう！」/ 参加者数　105人

展覧会名	生誕800年記念特別展「忍性　―救済に捧げた生涯―」
会　　期	7月23日(土)～9月19日(月・祝)（53日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、読売テレビ、読売新聞社
特別協賛	－
協　　賛	－
特別協力	極楽寺（鎌倉）、真言律宗総本山西大寺、神奈川県立金沢文庫
協　　力	凸版印刷、キヤノン、浄土寺（三宅町）、奈良芸術短期大学、奈良教育大学、日本香堂、仏教美術協会
作品件数	118件（うち国宝18件、重要文化財35件）
来館者数	39,834人(目標来館者数30,000人・達成率132.8%)
入場料金	一般1,300円、高校・大学生900円、小・中学生500円
アンケート結果　満足度	92.6%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	奈良生まれの名僧、忍性。鎌倉時代、西大寺の叡尊を師として律宗の興隆に努め、後半生は鎌倉の極楽寺で戒律の復興と救済事業に奔走した。病人や貧者の宿所を作り、食事を与えて命を救い、文殊菩薩を奉じて心の支えとした。ハンセン病患者を背負って毎日町に通ったという話は有名である。本展では忍性の生誕八百年を期に、ゆかりの寺院の名宝・文化財を一堂に集め、その偉業を振り返る。
講演会等	○公開講座 3回　参加者数合計　527人 8月 6日(土)「日本仏教史上における忍性－鎌倉版マザー・テレサ」松尾剛次（山形大学人文学部教授）/参加者数　194人 8月27日(土)「忍性と極楽寺の仏像」山口隆介（研究員）/ 参加者数　155人 9月10日(土)「三つの忍性墓について」吉澤 悟（列品室長）/ 参加者数　178人 ○夏季講座 1回　参加者数合計　555人 8月17日（水）～19日（金）夏季講座「律宗の歴史と美術－鑑真から忍性へ」/ 参加者数　555人 ○展覧会関連イベント 2回　参加者数合計　127人 7月30日(土)「描いて飾ろう文殊菩薩～忍性のきもちになって～」/ 参加者数　69人 7月31日(日)「きく！みる！ふれる！東征伝絵巻」石田太一（唐招提寺副執事長）/ 参加者数　58人

展覧会名	第68回正倉院展
会　　期	10月22日（土）～11月7日（月）（17日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館
特別協賛	ー
協　　賛	岩谷産業、ＮＴＴ西日本、キヤノン、京都美術工芸大学、近畿日本鉄道、ＪＲ東海、ＪＲ西日本、ダイキン工業、大和ハウス工業、白鶴酒造、丸一鋼管
特別協力	読売新聞社
協　　力	ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、ミネルヴァ書房、読売テレビ
作品件数	64件
来館者数	208,614人(目標来館者数180,000人・達成率115.9%)
入場料金	一般1,100円、高校・大学生700円、小・中学生400円
アンケート結果　満足度	74.9%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	8世紀の東アジア文化の至宝である正倉院宝物64件を公開する。
講演会等	○公開講座 3回　参加者数合計　348人 10月22日(土)「正倉院宝物の平脱・平文」木村法光（元宮内庁正倉院事務所保存課長）/ 参加者数　112人 10月29日(土)「正倉院に納められた銭貨をめぐって」細川晋太郎（宮内庁正倉院事務所保存課調査室研究員）/ 参加者数　119人 11月 5日(土)「正倉院の荘厳具―大幡に寄せて―」清水 健（工芸考古室長）/ 参加者数　117人 ○シンポジウム 1回　参加者数合計　197人 11月3日（木・祝）正倉院学術シンポジウム2016「正倉院正倉」/ 参加者数　197人

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

①開館日数：311 日(うち平常展のみ開館日数 108 日)
②展示総件数：2,208 件(うち国宝 63 件、重要文化財 204 件)
③展示替件数：1,654 件
④入場料金：一般 430 円、大学生 130 円
⑤トピック展示・特別公開等：全 6 件

展示名称	トピック展示　火縄銃の世界				
開催期間	7 月 12 日(火)～ 9 月 4 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 11 室	陳列件数（うち指定品件数）	28 件
内容	国友、堺、薩摩など鉄砲産地の火縄銃や江戸時代初期に鋳造された石火矢、各地の中世遺跡出土の火縄銃関連遺物を紹介した。				
展示名称	トピック展示　全国高等学校考古名品展				
開催期間	7 月 20 日(水)～ 9 月 25 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 3 室	陳列件数（うち指定品件数）	55 件
内容	秋田、千葉、徳島など全国各地の高等学校 8 校が所有する考古資料を、平成 26 年度に続く第 2 弾として紹介した。				
展示名称	トピック展示　有田焼創業 400 年記念　古伊万里 ―旧家の暮らしを彩った器―				
開催期間	9 月 14 日(水)～ 11 月 6 日(日)	開催場所	文化交流展示室 基本展示室 5 テーマ、 第 10 室・11 室	陳列件数（うち指定品件数）	116 件（うち重文 1 件）
内容	有田焼創業 400 年を記念し、公家、大名家、豪商に伝来する古伊万里と、その流通に関る歴史資料や出土資料を紹介した。				
展示名称	海の王都・原の辻遺跡と壱岐の至宝 ―東アジア諸国との交流の歴史				
開催期間	10 月 11 日(火)～ 12 月 4 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 3 室	陳列件数（うち指定品件数）	73 件（うち重文 63 件）
内容	原の辻遺跡などから出土した作品を中心に、海上交通の拠点として大きな役割を果たしてきた壱岐の文化財を公開した。				
展示名称	きらめきで飾る―螺鈿の優品をあつめて―				
開催期間	11 月 15 日（火）～ 12 月 23 日（金）	開催場所	文化交流展示室 基本展示室 5 テーマ、第 11 室	陳列件数（うち指定品件数）	77 件(うち国宝 2 件、重文 8 件)
内容	中国、朝鮮半島、日本、琉球で制作された螺鈿の優品を公開した。				
展示名称	新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」				
開催期間	29 年 1 月 1 日(日・祝日)～ 1 月 29 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 11 室	陳列件数（うち指定品件数）	40 件（うち国宝 3 件）
内容	恒例企画。徳川美術館が所蔵する国宝「初音の調度」を紹介するほか、野々宮蒔絵硯箱や南部家伝来の婚礼調度を併せて公開。				

(2) 特別展、共催展等（海外展を含む）

展覧会名	特別展「始皇帝と大兵馬俑」
会　　期	3 月 15 日～6 月 12 日（79 日間（年度では 63 日））
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、陝西省文物局、陝西省文物交流中心、NHK 福岡放送局、NHK プラネット九州、西日本新聞社、朝日新聞社
作品件数	124 件
来館者数	191,222 人（目標来館者数 110,000 人、達成率：173.8%）
入場料金	一般 1,600 円（1,400 円）、高大生 1,000 円（800 円）、小中生 600 円（400 円）

アンケート結果　満足度	満足度　87.6%			
講演会等	12回　参加者合計　763,638人			
	記念講演会			
	期日	講演会名	所属・講師	参加者
	5月15日	記念講演会「はじめての兵馬俑」	東京国立博物館 市元塁	184人
	講座			
	期日	講演会名	所属・講師	参加者
	4月15日	しっとこ九博 「始皇帝と大兵馬俑」解説講座	東京国立博物館学芸企画部企画課　市元塁	78人
	5月14日	アクロス文化学び塾 「徹底分析　始皇帝と兵馬俑」	学芸部企画課主任研究員　川村佳男	69人
	6月5日	講演会「始皇帝の考古学」	学芸部企画課主任研究員　川村佳男	140人
	イベント			
	期日	イベント名	会場	参加者
	3月15日 ～ 6月12日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント 「兵馬俑トリックアート」	エントランス	318,485人
	3月27日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント Ｅテレ「びじゅチューン！井上涼×兵馬俑」	ミュージアムホール	482人
	3月29日 ～ 4月28日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント 山手線キングダム展（前期）	エントランス	76,807人
	4月1日～ 4月10日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント 「8Kスーパーハイビジョン上映会」	ミュージアムホール	7,031人
	4月17日	九州国立博物館杯第５回さいふごま大会　「始皇帝と大兵馬俑」記念 ※熊本地震により中止	ミュージアムホール	―
	4月24日 ～ 6月12日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連パネル展示 「始皇帝の街道を行く」	エントランス	204,938人
	5月5日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連ワークショップ こどもの日特別企画「紙で工作！兵馬俑に変身！」	ミュージアムホール	167人
	5月6日～ 6月12日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント 山手線キングダム展（後期）	エントランス	155,257人

展覧会名	**特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」**			
会　　期	７月16日～8月28日（39日間）			
会　　場	九州国立博物館　特別展示室			
主　　催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TVQ九州放送、日本経済新聞社			
作品件数	84件			
来館者数	133,002人（目標来館者数70,000人、達成率：190%）			
入場料金	一般1,600円（1,400円）、高大生1,000円（800円）、小中生600円（400円）			
アンケート結果　満足度	満足度　94.2%			
講演会等	4回　参加者合計　876人			
	記念講演会			
	期日	講演会名	所属・講師	参加者
	７月16日	記念講演会「東山魁夷の生涯と芸術」	茨城県近代美術館長　尾崎正明	211人
	講演会			
	期日	講演会名	所属・講師	参加者
	8月5日	しっとこ九博「東山魁夷　自然と人、そして町」解説講座	学芸部特任研究員　臺信祐爾	35人
	イベント			
	期日	イベント名	会場	参加者
	７月30日	特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」関連イベント 記念映像上映会＆トーク 「東山魁夷　山雲濤声～唐招提寺障壁画の記録～」	ミュージアムホール	280人
	8月11日	特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」関連イベント ミュージアムコンサート「東山魁夷が愛したモーツァルト」	エントランス	350人

展覧会名	**特別展「京都 高山寺と明恵上人―特別公開 鳥獣戯画―」**
会　　期	10月4日（火）～11月20日（日）（45日間）

会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、高山寺、西日本新聞社、TVQ 九州放送、朝日新聞社
作品件数	94 件(うち、国宝 7 件、重要文化財 50 件)
来館者数	161,172 人（目標来館者数 120,000 人、達成率：134.3%）
入場料金	一般 1,600 円（1,400 円）、高大生 1,000 円（800 円）、小中生 600 円（400 円）
アンケート結果　満足度	78.8%
講演会等	6回　参加者合計1,042人

特別講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
10月9日	「鳥獣人物戯画の謎」	学習院大学教授　佐野みどり	235人

講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
10月14日	しっとこ九博 「京都 高山寺と明恵上人」	学芸部企画課主任研究員 森實久美子	71人
10月16日	「京都 高山寺と明恵上人の魅力」	企画課文化交流展室研究員 森實久美子	156人

イベント等

期日	イベント名		参加者
8月7日	第２回みゅーじあむ寄席「夢で会いましょう」」 出演：柳家喬太郎（落語家）、森實久美子（学芸部企画課主任研究員）	ミュージアムホール	283人
10月2日	（京都　高山寺と明恵上人記念）プレイベント 九州国立博物館杯第5回さいぶごま大会	ミュージアムホール	60人
10月15日	「能「春日龍神」と明恵上人」出演：塩津圭介（能楽師）、森實久美子（学芸部企画課主任研究員）	ミュージアムホール	237人

展覧会名	**海外展「日本美術の粋　東京・九州国立博物館精品展」【再掲】**
会　　期	12月10日（土）～29年3月10日（金）（73日間）
会　　場	台北・國立故宮博物院南院
主　　催	台北・國立故宮博物院南院、東京国立博物館、九州国立博物館
作品件数	151件
担当研究員数	3人
来館者数	93,391人

展覧会の内容：
東京国立博物館と九州国立博物館日本の収蔵品からの国宝、重要文化財68点を含む151点の優品を、「祭祀と生活」・「皇権と佛法」・「貴族の世界」・「武家の文化」・「市民の創造」、及び「伝承と創造」の６章に分けて展示し、約5000年にわたる豊富で多様な日本の芸術文化を紹介した

講演会等：なし

展覧会名	**特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」**
会　　期	29 年 1 月 1 日～3 月 5 日（56 日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、宗像大社、西日本新聞社、TVQ 九州放送、日本経済新聞社、朝日新聞社
作品件数	160 件(うち、国宝 31 件、重要文化財 19 件)
来館者数	75,966 人（目標来館者数 40,000 人、達成率：189.9%）
入場料金	一般 1,500 円（1,300 円）、高大生 1,000 円（800 円）、小中生 600 円（400 円）
アンケート結果　満足度	82.9%
講演会等	8回　参加者合計　　158,673人

記念講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
1月21日	「神宿る島と祈りの記憶-祭祀遺跡の発掘調査譚-」	福岡大学名誉教授　小田富士雄 国立慶州博物館長　ユ・ビョンハ	229人

講座

期日	講演会名	所属・講師	参加者
12月17日	九州国立博物館特別展入場券付きスペシャル講座 「玄界灘の覇者・宗像君の実像に迫る」	展示課研究員　小嶋　篤	16人
29年 1月13日	しっとこ九博 「宗像・沖ノ島と大和朝廷」解説講座	展示課研究員　小嶋　篤	46人
29年 2月4日	リレー講座 「交差する日本神話とアジアの歴史」	國學院大学教授　笹生　衛 展示課研究員　　小嶋　篤	215人

イベント等

期日	イベント名	会場	参加者
29年1月1日 ～2月19日	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連記念 「沖ノ島写真展」	エントランス	128,847人

	29年1月7日 ～1月9日	むなかたの幸　満福祭	エントランス／屋外	12,258人
	29年 １月22日	九州国立博物館杯第6回さいふごま大会 （「宗像・沖ノ島と大和朝廷」記念）	ミュージアムホール	70人
	29年2月7日 ～2月12日	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連 「沖ノ島紹介パネル展」	エントランス	16,992人

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

①開館日数：310日（平常展のみの開館日数：186日）
②展示総件数：604件
③展示替回数：0回
④入場料金：無料
⑤平常展のみの来館者数：56,503人

(2)特別展、企画展等：3件

展覧会名	夏期企画展(こども展示)「ナント！おいしい！？平城京！！-奈良の都の食事情-」		
会　　期	7月23日（土）～8月31日（水）　（34日間）	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	70件（0件）
来館者数	9,532人	入場料金	無料
講演会等	ギャラリートーク 3回・参加者数合計62人		

展覧会名	秋期特別展「地下の正倉院展　式部省木簡の世界―役人の勤務評価と昇進―」		
会　　期	10月15日（土）～11月27日（日）　（39日間）	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	200件（0件）
来館者数	17,653人	入場料金	無料
講演会等	ギャラリートーク3回・参加者数合計183人		

展覧会名	春期企画展「発掘速報展 平城2016」		
会　　期	29年2月4日(土)～4月2日(日)（50日間）	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	88件（0件）
来館者数	13585人	入場料金	無料
講演会等	ギャラリートーク4回・参加者数合計85人		

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

①開館日数：359日
②展示総件数：534件
③展示替回数：1回
④入場料金：無料
⑤特集陳列等　：2件
⑥平常展来館者数　：8378人

名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
【特集陳列】 藤原宮大極殿院の調査（第186次） 飛鳥地域出土の尾張産須恵器	6月28日～29年 3月31日 6月28日～29年 3月31日	土器21、瓦4、塼仏1、凝灰岩片7 土器23

【飛鳥資料館】

(1)平常展

①開館日数：309日（平常展のみの開館日数：112日）
②展示総件数：136件
③展示替回数：2回
④入場料金：一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料　※（　）は20名以上の団体
⑤平常展のみの来館者数：8669人

(2)特別展、企画展等：4件

展覧会名	春期特別展「文化財を撮る―写真が遺す歴史」		
会　　期	4月26日（火）～7月3日（日）　（60日間）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	15件（0件）
来館者数	9,974人		
入場料金	一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※（　）は20名以上の団体		
講演会	講演会1回　参加者数合計36人		

展覧会名	平成28年度飛鳥資料館夏期企画展「第7回写真コンテスト 飛鳥の石」		
会　　期	7月26日（火）～ 9月4日（日）　（36日間）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	175件（0件）
来館者数	3,383人		
入場料金	一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※（　）は20名以上の団体		
講演会	―		

展覧会名	秋期特別展「祈りをこめた小塔」		
会　　期	10月7日（金）～12月4日（52日）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	125件（1件）
来館者数	9,373人		
入場料金	一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※（　）は20名以上の団体		
講演会	ギャラリートーク1回、講演会1回　参加者数合計46人		

展覧会名	冬期企画展 「飛鳥の考古学2016－飛鳥むかしむかし　早川和子原画展」		
会　　期	29年1月24日（火）～3月20日（月・祝）（49日）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	88件（0件）
来館者数	4571人		
入場料金	一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※（　）は20名以上の団体		
講演会	ギャラリートーク2回　参加者数合計180人		

b ボランティア受入実績

1　受入人数

平成29年3月31日現在

国立文化財機構計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
965人	169人	215人	150人	307人	124人

2　活動内容

【東京国立博物館】　計169人

種別　（登録人数）	概　　要
生涯学習ボランティア （157人）	1)各種教育普及事業の補助活動の充実を図る 【教育普及事業の補助】 ・スクールプログラム「はじめての東博」実施（通年） ・学校向けワークショップ補助（通年） ・ファミリー向けワークショップ補助（通年） ・一般向けワークショップ補助（通年） ・工程見本展示鑑賞補助　（通年） ・ギャラリートーク、各種講演会、イベント事業の実施補助(通年) ・教育普及事業の告知(「本日の博物館」シール貼替え・通年) ・東洋館オアシス「アジアの占い体験」実施（通年） ・本館19室みどりのライオン体験コーナー実施（通年） 【保存修復事業の補助（通年）】 【館内案内】 ・本館 1階エントランス、2階、17室(通年実施) ・多言語案内・手話の告知バッジによる来館者の案内・誘導(通年) 【資料印刷・作成】 ・点字パンフレットの印刷（通年） ・東洋館オアシススタンプ台紙の印刷（通年） ・たんけんマップの作成・印刷（通年） 【職場体験実施活動補助】 受入数：19校　生徒数：63人　（中学、高校合計数） 【障がい者対応】 ・バリアフリー対応班の発足（28人） ・東京国立博物館紹介パンフレットの点訳版作成(13冊) ・ボランティアによるガイドツアー「たてもの散歩」において手話通訳付ガイドツアー（隔月1回、7回実施） ・博物館案内・各ガイドにおける聴覚障がい者対応のためのコミュニケーションボードの使用（通年） ・触知図を使用した館内案内（通年） ・盲学校のためのスクールプログラムの実施補助（通年） 【各種連携事業】 ・「キッズデー」（8月15日）内プログラム アートスタジオ、刀剣・武士の装いツアー、考古展示室ガイド、キッズデー特設案内所、ワークショップ補助、キッズコーナー補助 ・「留学生の日」(10月8日)内プログラム ボランティアによる茶会、たてもの散歩ツアー、考古展示室ガイド、彫刻ガイド、陶磁ガイド、本館ハイライトツアー、英語ガイド実施、館内案内 ・「博物館でアジアの旅」(9月27日～10月10日)内プログラム たてもの散歩ツアー、彫刻ガイド、東洋館ツアー ・「博物館でお花見を」（平成28年4月1日～4月9日、平成29年3月14日～3月31日内プログラム） 樹木ツアー、本館ハイライトツアー、たてもの散歩ツアー、東洋館ツアー、英語ガイド、近代の美術ガイド、庭園茶室ツアー、法隆寺宝物館、刀剣・武士の装いツアー、アートスタジオ、陶磁ガイド、浮世絵ガイド、お茶会 【ボランティアデー開催】 ・新規ボランティア募集説明会、ボランティアによる活動紹介ツアー、各ガイドツアー、お茶会、ワークショップの実施（12月3・4日） 2)来館者参加型ガイドツアー等の実施369回14,187人 自主企画プログラム（予約ガイド、各種連携事業、留学生の日、ボランティアデーにおける対応を含む。一日複数回実施の場合は、延べ回数） ・樹木ツアー　25回839人参加 ・浮世絵ガイド　29回1,220人 ・本館ハイライトツアー　47回2,394人 ・法隆寺宝物館ガイド　32回1,511人 ・考古展示室ガイド　27回1,003人 ・陶磁ガイド　13回381人 ・庭園茶室ツアー　11回185人

種別　(登録人数)	概　　要
	・お茶会　26回380人 ・彫刻ガイド　33回1,400人 ・英語ガイド　29回1,005人（留学生の日の定点ガイド含む） ・こどもたちのアートスタジオ　11回326人 ・たてもの散歩ツアー　29回1,268人 ・近代の美術ガイド　13回500人 ・東洋館ツアー　27回685人 ・刀剣・武士の装いツアー　13回908人 ・ボランティア活動紹介ツアー　4回182人
東京芸術大学大学院インターンシップ (12人)	当館研究員と東京芸術大学大学院生が連携し準備、事業を行った。学生の貴重な経験や研究の一助となり、かつ、来館者にとっても展示についての理解を深めるきっかけとなった。 【ギャラリートーク(研究発表)班】7名 総合文化展展示作品に関するギャラリートークを展示室で行った。【計42回、1690人】 「古代エジプトの秘密、ミイラ」6回、250人 「下村観山『弱法師』を読み解く」6回、291人 「法隆寺の押出仏」6回、151人 「英一蝶の『富士山図』を観よう」6回、242人 「奈良時代の乾漆像『日航菩薩坐像』に迫る！」6回、306人 「アイヌの飾太刀にみる祈りの造形」6回、173人 「『突線5式銅鐸』をじっくり見てみよう」6回、277人 【調査研究班】5名 沖縄の「紅型」をテーマに調査、工程見本の制作、次年度からの展示等準備を行った。 ※「東京藝術大学大学院インターンシップ」は、従前との比較のため、ボランティア数の内数として計上している。従前の「東京芸術大学学生ボランティア」を25年4月より名称変更し、現在は「1(3)①3」大学との連携事業等の実施」の事業である。詳細は処理番号1313Aを参照。

【生涯学習ボランティアに対する研修の実施】　計38回
- ・新規ボランティア研修　3回
- ・活動紹介ツアー研修　8回
- ・バリアフリー班研修　8回
- ・イベント班研修　1回
- ・ワークショップ班研修　3回
- ・スクールプログラム班研修　8回
- ・保存修復班研修　1回
- ・各種自主企画グループ研修　5回
- ・防災訓練　1回

【生涯学習ボランティアに対する解説会の実施】(以下の展示等につき実施)　計5回
- ・特別展「生誕150年　黒田清輝-日本近代絵画の巨匠」1回
- ・特別展「古代ギリシャ　時空を超えた旅」1回
- ・特別展「平安の秘仏　滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」1回
- ・特別展「禅　心をかたちに」1回
- ・特別展「春日大社　千年の至宝」1回

【京都国立博物館】　計215人

種　別　(登録人数)	概　　要
京博ナビゲーター（151人）	京博ナビゲーター（ボランティア）が、下記の活動を行った ・ミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにおける活動（年始を除く開館日毎日、197日） ・ミュージアム・カートに新しいハンズオン教材を追加した（銅鏡（復元鋳造）・玉眼（天部）） ・特別展覧会「禅ー心をかたちにー」ワークショップ「”くじ”で出会う　禅の言葉」(36日、11,547人参加) ・特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」ワークショップ「龍馬さんからお手紙です！」（38日、8,725人参加） ・教育普及活動の補助（夏期講座） そのほか、京博ナビゲーターを対象とした研修会（14回）、感謝会（1回）を実施した。
調査・研究支援ボランティア(31人)	各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。
文化財ソムリエ(17人)	「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生が、当館研究員によるスクーリング（20回）を受けたのち、京都市内の小中学校訪問授業において下記の通り講師をつとめた。 6月7日・8日（京都市立洛北中学校）、7月6日（京都市立唐橋小学校）、9月6日（京都市立紫明小学校）、10月12日（京都市立洛西中学校）、10月25日（京都市立栗陵中学校）、11月29日（京都市立下鴨中学校）、12月14日（京都市立東山泉小中学校）
京都・らくご博物館学生ボランティア（16人）	年4回当館主催で開催する「京都・らくご博物館」において、京都女子大学落語研究会の有志が運営に協力した。

【奈良国立博物館】　計150人

種　別　(登録人数)	概　　要
世界遺産グループ（51人）	【世界遺産学習】 奈良市の公立小学校5年生の受け入れ　25校　1,542名 【学校団体案内】 ・幼稚園、小学生、中学生、高校生（外国人含む）　24校　1,701名 【自主企画イベント】 ・親子でたのしむ「なら仏像館」ツアー　2日　16組47名 ・東大寺大仏殿の柱の（実物大模型）穴くぐりにチャレンジ！ 2日　214名 ・仏像に変身して写真を撮りましょう！　2日　221名 【掃除】 ・スタッフルーム　3回
解説グループ(64人)	【通年の活動】 ・青銅器館のデスクでの質問対応と解説　　314日 ・地下回廊・パネル展示のデスクでの質問対応と解説　261日 ・なら仏像館のデスクでの質問対応と解説　　524日 ・西新館名品展のデスクでの質問対応と解説　101日 【展示案内】 ・なら仏像館ミニツアー解説　（12月1日～3月31日）　16回　49名（活動数） ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」の質問対応（12月10日～1月15日　32日　54名（活動数） ・特別陳列「お水取り」質問対応（2月７日～3月14日）34日　87名（活動数） ・特別陳列「お水取り」ミニ・ツアー解説（3月1日～3月14日）14日　24名（活動数） ・特別陳列「お水取り」奈良交通関係団体予約のツアー解説（3月1日～3月14日　13日38名（活動数） ・特別陳列「お水取り」上記以外の団体予約のツアー解説（3月1日～3月14日）2件 【その他、予約による解説実施】　24件 【中学生職場体験　館内案内】　　4件 【イベントの補助】 ・親と子のワークショップ「空飛ぶ鉢」のお話し絵巻を作ろう！　受付と補助　1回 【イベントの案内】 ・わいず倶楽部対象　なら仏像館解説付き小ツアー　1回 【掃除】 ・スタッフルーム　3回
サポートグループ（35人）	【教育普及事業の補助】 ・公開講座の受付　　11回 ・サンデートークの受付　12回 ・夏季講座の受付　　3日 【イベントの補助】 ・しぎとら君が奈良博にやってくる！　受付と補助　3回 ・親と子のワークショップ「空飛ぶ鉢」のお話絵巻を作ろう！」受付と補助　1回 ・朝護孫子寺による講話「毘沙門天王信仰の欲と徳」　受付と補助　1回 ・朝護孫子寺による講話「信貴山の毘沙門天王」　受付と補助　1回 ・朝護孫子寺による講話「福の神　毘沙門天王」　受付と補助　1回 ・描いて飾ろう文殊菩薩～忍性のきもちになって～」受付と補助　1回 ・「きく！みる！ふれる！東征伝絵巻（とうせいでんえまき）」受付と補助　1回 ・アンケート調査　受付と補助　6回 ・第68回正倉院展親子鑑賞会　受付と補助　1回 ・奈良トライアングルミュージアムワークショップ　写仏散華づくり　受付と補助　1回 ・「文化財保存修理所特別公開」受付と補助　1回 ・お水取り「講話」と「粥」の会　受付と補助　1回 ・奈良国立博物館文化大使「笑い飯哲夫のおもしろ仏教講座」受付と補助　1回 【イベントの案内】 ・奈良国立博物館プレミアム･ミュージアムビューイング　受付と案内　1回 【館及びボランティア室の業務の補助】 ・第45回夏季講座の配布資料袋詰め作業　1回 ・正倉院学術シンポジウムの配布資料袋詰め作業　1回 ・ボランティア対象の各種研修等の受付　24回 【掃除】 ・スタッフルーム　　4回 【交流チームの活動】 ・社寺旧跡等の見学会の実施　2回　186名（参加） ・第2回ボランティア親睦会　1回　116名（参加） 【庭園チームの活動】 ・春の庭園定点案内　2日（無料日につき､カウント不可） ・春の茶室庭園ツアーの立案と実施　2日　73名（参加） ・秋の茶室庭園ツアーの立案と実施　1日　30名（参加） ・仏教美術資料研究センター公開の立案と実施　2日　433名（参加） 【通信誌チームの活動】 ・ボランティア通信誌「ブリッジ」発行　5回

【ボランティアに対する研修の実施】　計23回
・名品展研修　17回
・特別展、特別陳列、特集展示の研修　6回

【グループ別の勉強会の実施】計38回
・世界遺産グループ　10回
・解説グループ　18回
・サポートグループ　10回
【各グループ共通の活動】
・第68回正倉院展・講堂ボランティア解説　17日　97回

【九州国立博物館】　計　307人

種　別　(登録人数)	概　　要
展示解説ボランティア (76人)	文化交流展示室での案内、及び展示室内及び展示室入口において来館者の質問や案内依頼等に対応。 展示案内は予約団体(一般・学校)、当日受付(個人・グループ)に対応。
教育普及ボランティア (28人)	「あじっぱ」で来館者への対応。 参加体験型のものづくり教室などを企画・実施。 来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。
館内案内日本語ボランティア (30人)	館内の概要・施設案内(ガイド)およびバックヤードツアーの案内。 館内案内は予約団体(一般・学生)、及び当日来館者に対応。 バックヤードツアーも毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。
外国語案内ボランティア (71人)	英語・韓国語・中国語で、館内のガイド。
環境ボランティア (30人)	IPM(総合的有害生物管理)活動に関する支援。
イベントボランティア (5人)	お正月、昭和の日、七夕関連のボランティアイベントの企画・立案・実施。
資料整理ボランティア (21人)	郷土人形(土人形)の調書の作成・データ化。 あじぎゃらでの郷土人形の企画展示。
サポートボランティア (18人)	ボランティア広報紙の作成（年４回）や他部会のボランティアのイベント等の活動のサポート。 ボランティア同士の横のつながりや、他館ボランティアとの交流の構築。
学生ボランティア (6人)	他部会のボランティアの活動のサポート。 各種イベントの企画・立案・実施。

・この他、地域の手話ボランティアグループ　22人が障がい者対応として、また博物館周辺の環境整備活動グループとして35人が活動。
（上記35名は、九州国立博物館を愛する会所属のため、ボランティアではない。）
(研修)全体研修　4回、部会別研修　40回、グループ研修　40回
(対応来館者数) 展示解説(7,028人)、館内案内(4,235人)、バックヤードツアー(2,730人)

【奈良文化財研究所】　計124人

種　別　(登録人数)	概　　要
解説ボランティア（124人）	平城京跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説

・各種ボランティアに対する学習会等
平城宮跡資料館夏期企画展の展示研修　1回
〃　秋期特別展の展示研修　1回
〃　春期企画展の展示研修　1回

c 調査研究

c-① 研究交流実績一覧

1） 海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

平成29年3月31日現在

<table>
<tr><td rowspan="5">357 人</td><td>国立文化財機構合計</td><td>博物館計</td><td>東京国立博物館</td><td>京都国立博物館</td><td>奈良国立博物館</td><td>九州国立博物館</td></tr>
<tr><td></td><td>127 人</td><td>73 人</td><td>2 人</td><td>9 人</td><td>43 人</td></tr>
<tr><td></td><td>文化財研究所計</td><td colspan="2">東京文化財研究所</td><td colspan="2">奈良文化財研究所</td></tr>
<tr><td></td><td>174 人</td><td colspan="2">39 人</td><td colspan="2">135 人</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">アジア太平洋無形文化遺産研究センター</td><td colspan="3">文化財防災ネットワーク推進本部</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">52 人</td><td colspan="3">4 人</td></tr>
</table>

【東京国立博物館】延べ73人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	金　靖之	中国	上海博物館展覧部館員	日中文人絵画の比較研究のため	27 年 12 月 16 日～12 月 31 日
2	包　燕麗	中国	上海博物館工芸部主任研究館員	東京国立博物館開催「アジアの旅―上海博物館との競演」にかかる作品点検及び展示作業のため	4月6日～4月12日
3	孫　峰	中国	上海博物館文化交流弁公室副研究館員	東京国立博物館開催「アジアの旅―上海博物館との競演」にかかる作品点検及び展示作業のため	4月6日～4月12日
4	周　茂松	中国	山東省淄博市文化広電新聞出版局　局長	展示施設視察、意見交換、協力のため	5月5日～5月7日
5	張　召才	中国	山東省淄博市臨淄区人民政府　副区長	同上	5月5日～5月7日
6	畢　国鵬	中国	山東省淄博市臨淄区文化出版局　局長	同上	5月5日～5月7日
7	韓　偉東	中国	山東省淄博市臨淄区文物管理局　局長	同上	5月5日～5月7日
8	朴　秀桓	韓国	国立中央博物館教育文化交流団子供博物館課学芸員	東京国立博物館・韓国国立中央博物館間の学術交流のため	6月13日～6月26日
9	マシュー・アフロン	米国	フィラデルフィア美術館学芸員	日本・米国間の学術交流及び協力関係の推進のため	6月21日～6月28日
10	趙　明利	中国	陝西歴史博物館陳列展覧部助理工程師（エンジニア）	特別展「醍醐の世界―醍醐寺芸術珍宝展」にかかる作品点検及び輸送作業のため	6月28日～7月2日
11	付　文斌	中国	陝西歴史博物館文物保管部館員	同上	6月28日～7月2日
12	李　鄭	中国	中国国家博物館文物科学技術保護部助理館員	東京国立博物館・中国国家博物館間の協力関係の推進および文化財修復に関する情報交換のため	7月17日～7月20日
13	郝　淑蘭	中国	中国国家博物館文物科学技術保護部副研究員	同上	7月17日～7月20日
14	洪　巍	中国	中国国家博物館文物科学技術保護部館員	同上	7月17日～7月20日
15	谷　嫻子	中国	上海博物館工芸研究部館員	「アジアの旅―上海博物館との競演」展にかかる作品点検及び展示替えのため	7月24日～7月27日
16	張　潔	中国	上海博物館文化交流弁公室館員	同上	7月24日～7月27日
17	孫　峰	中国	上海博物館文化交流弁公室副研究員	特別展「菩提の世界―醍醐寺芸術珍宝展」にかかる作品点検、返却作業のため	7月28日～8月6日
18	師　若予	中国	上海博物館青銅研究部館員	同上	7月28日～8月6日
19	韋　剛	中国	上海博物館展覧部館員	同上	7月28日～8月6日
20	丁　歩平	中国	上海博物館保管部館員	当館で開催している「アジアの旅―上海博物館との競演」にかかる展示替え作業のため	8月27日～8月31日
21	馬　如高	中国	上海博物館文物保護修復中心館員	同上	8月27日～8月31日
22	李　孔融	中国	上海博物館青銅研究部助理館員	同上	8月27日～8月31日
23	金　ウルリム	韓国	国立中央博物館学芸研究室美術部学芸研究官	東京国立博物館・韓国国立中央博物館間の学術交流のため	8月29日～9月11日
24	張　梅	中国	陝西歴史博物館陳列展覧部副研究館員	特別展「梵音東渡―日本醍醐寺国宝展」にかかる作品点検、返却作業のため	10月6日～10月13日
25	付　文斌	中国	陝西歴史博物館文物保管部館員	同上	10月6日～10月13日
26	馬　雲潔	中国	上海博物館教育部館員	当館で開催している「アジアの旅―上海博物館との競演」にかかるワークショップ実施のため	10月7日～10月11日
27	王　月前	中国	中国国家博物館展覧一部研究館員	特別展「15-19世紀日中韓絵画精品展」にかかる作品点検及び輸送のため	10月21日～10月26日
28	劉　剛	中国	上海博物館工芸研究部副研究館員	当館で開催している「アジアの旅―上海博物館との競演」にかかる展示替え作業のため	10月23日～10月26日
29	盧　婷婷	中国	上海博物館保管部館員	同上	10月23日～10月26日
30	ルイ・コップルストーン	英国	学生／大和スカラー　奨学生	研修	10月26日～29年3月31日
31	孫　慰祖	中国	上海博物館青銅研究部研究館員	展覧会「小林斗盦　篆刻の軌跡」にかかる記念講演会のため	11月14日～11月20日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
32	魏　小虎	中国	上海博物館図書館副研究員	東京国立博物館・上海博物館間の学術調査、研究および協力推進のため	11月21日～11月27日
33	張　毅	中国	上海博物館情報センター館員	同上	11月21日～11月27日
34	孫　峰	中国	上海博物館文化交流弁公室副研究館員	同上	11月24日～12月3日
35	楼　婷	中国	中国国立絲綢博物館研究館員	中国国立絲綢博物館開催の特別展「絹の世界」にかかる作品点検、返却作業のため	12月12日～12月15日
36	単　月英	中国	中国国家博物館展覧一部研究館員	特別展「15-19世紀日中韓絵画精品展」にかかる返却作業のため	12月23日～12月29日
37	ジョン・カーペンター	米国	メトロポリタン美術館　メアリー・グリッグス・バーク・キュレーター（日本美術）	北米・欧州ミュージアム連携・交流事業	29 年 1 月 26 日～1 月 30 日
38	アン・ニシムラ・モース	米国	ボストン美術館　ウィリアム・アンド・ヘレン・パウンズ・シニア・キュレーター	同上	29年1月26日～1月30日
39	シネード・ヴィルバー	米国	クリーブランド美術館キュレーター（日本・韓国美術）	同上	29年1月26日～2月3日
40	フェリス・フィッシャー	米国	フィラデルフィア美術館　ザ・ルーサー・W・ブラデー・キュレーター（日本美術）、シニア・キュレーター（東アジア美術）	北米・欧州ミュージアム連携・交流事業	29年1月26日～1月30日
41	アンドレアス・マークス	米国	ミネアポリス美術館　メアリー・グリッグス・バーク日本・韓国美術学芸部長、クラーク日本美術センター館長	同上	29年1月26日～1月30日
42	ローラ・アレン	米国	サンフランシスコ・アジア美術館　学芸部長、キュレーター（日本美術）	同上	29年1月26日～1月30日
43	レイチェル・サンダース	米国	ハーバード大学美術館　アビー・アルドリッチ・ロックフェラー・アソシエイト・キュレーター（アジア美術）	同上	29年1月26日～1月30日
44	ルパート・フォークナー	英国	ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館東洋部日本美術担当主任学芸員	同上	29年1月26日～1月30日
45	アレクサンダー・ホーフマン	ドイツ	ベルリン国立アジア美術館キュレーター（日本美術）	同上	29年1月26日～1月30日
46	メノー・フィツキー	オランダ	アムステルダム国立美術館キュレーター（東アジア美術）	同上	29年1月26日～2月4日
47	ロジーナ・バックランド	スコットランド	スコットランド国立博物館主任学芸員（東・中央アジア）	同上	29年1月26日～2月3日
48	カーン・トリン	スイス	リートベルク美術館キュレーター（日本美術）	同上	29年1月26日～1月30日
49	マルティン・ゾルバーガー	スイス	リートベルク美術館展示デザイナー、コーポレートデザイン課課長	同上	29年1月27日～1月30日
50	ミシェル・モキュエール	フランス	フランス国立ギメ東洋美術館チーフキュレーター（日本セクション）	同上	29年1月26日～1月30日
51	アイヌーラ・ユスーポワ	ロシア	プーシキン美術館東洋絵画主任学芸員	同上	29年1月26日～2月3日
52	モニカ・ビンチク	米国	メトロポリタン美術館アシスタント・キュレーター（日本美術）	同上	29年1月27日～2月3日
53	森嶋由紀	米国	サンフランシスコ・アジア美術館アシスタント・キュレーター（日本美術）	同上	29年1月27日～2月3日
54	ビビアン・リー	米国	ウースター美術館アシスタント・キュレーター（アジア美術）	同上	29年1月27日～2月3日
55	ジーニー・剱持	米国	バージニア大学レアブックスクール アンドリュー・メロン分析書誌学フェロー2014-2017	同上	29年1月27日～2月3日
56	スン・ヨン・サン	米国	ハーバード大学美術館　ハンダーソン・キュレトリアル・フェロー（東アジア美術）	同上	29年1月27日～2月4日
57	ルシアン・スミス	英国	ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館　展示部長補佐	同上	29年1月27日～2月3日
58	レイチェル・バークレイ	英国	ダラム大学東洋博物館キュレーター	同上	29年1月27日～2月3日
59	ウタ・ヴェーリッヒ	ドイツ	リンデン博物館シニア・キュレーター（東アジア）	同上	29年1月27日～2月4日
60	コーラ・ビュルメル	ドイツ	ドレスデン美術館陶磁器コレクションキュレーター	同上	29年1月27日～2月3日
61	アンナ・サヴェルエヴァ	ロシア	エルミタージュ美術館　日本美術コレクション責任者	同上	29年1月27日～2月3日
62	ガリーナ・パブロヴァ	ロシア	ロシア美術館　キュレーター	同上	29年1月27日～2月4日
63	ヴィオレッタ・ラスコフスカ・スモチンスカ	ポーランド	日本美術技術博物館マンガ 国際関係担当	同上	29年1月27日～2月4日
64	エリーネ・ファン・デン・ベルフ	オランダ	プリンセッセホフ陶磁器博物館キュレーター（アジア陶器）	同上	29年1月27日～2月3日
65	ナタリー・ザイツ	オーストラリア	ニュー・サウス・ウェールズ州立美術館キュレーター（アジア美術）	同上	29年1月27日～2月3日
66	張　東	中国	上海博物館陶磁研究部研究館員	当館で開催している「アジアの旅—上海博物館との競演」にかかる撤収作業のため	29年2月26日～3月3日
67	孫　峰	中国	上海博物館文化交流弁公室副研究館員	同上	29年2月26日～3月3日
68	葛　亮	中国	上海博物館青銅研究部館員	当館で開催している「アジアの旅—上海博物館との競演」にかかる撤収作業のため	29年2月26日～3月3日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
69	石　金鳴	中国	山西博物院院長	東京国立博物館・中国山西博物院間の学術交流のため	29年3月21日～3月26日
70	趙　栄	中国	陝西省文物局局長	東京国立博物館・陝西省文物管理局および関係博物館との展覧会協力、文化交流の推進のため	29年3月28日～4月1日
71	候　寧彬	中国	秦始皇帝陵博物院院長	中国	29年3月28日～4月1日
72	李　举綱	中国	漢陽陵博物館館長	中国	29年3月28日～4月1日
73	陳　亜冬	中国	陝西歴史博物館	中国	29年3月28日～4月1日

【京都国立博物館】　2人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Sophie　Makariou	フランス	フランス国立ギメ東洋美術館 館長	学術交流協定に関する意見交換、視察、調査他	6月10日
2	Bincsik Monika	フランス	メトロポリタン美術館アジア美術部アシスタント・キュレーター	国際研究交流会における中世漆器の研究会に出席	平成29年3月25日～3月31日

【奈良国立博物館】　延べ　9人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	藺　永新	中国	河南文化信息中心総合科科長文博館員	両博物館における文化財の調査及び保存・展示等の協力関係を推進するため	4月20日～5月19日
2	戚　軍超	中国	河南博物院文物保護研究中心文博館員	同上	4月20日～5月19日
3	金　有植	韓国	慶州博物館学術研究室長	両博物館における文化財の調査研究及び保存・展示等の協力関係を推進するため	6月16日～6月27日
4	兪　炳夏	韓国	慶州博物館館長	第68回正倉院展視察並びに当館職員との意見交換のため	10月20日～10月22日
5	宋　昶勳	韓国	慶州博物館防護書記補	同上	10月20日～10月22日
6	呉　旦敏	中国	上海博物館青銅器研究部副研究員	両機関における文化財の調査研究及び保存・展示等の協力関係を推進するため	11月22日～12月1日
7	孔　品屏	中国	上海博物館青銅器研究部館員	同上	11月22日～12月1日
8	葛　亮	中国	上海博物館青銅器研究部館員	同上	11月22日～12月1日
9	田　孝秀	韓国	慶州博物館学芸研究士	両博物館における文化財の調査研究及び保存・展示等の協力関係を推進するため	11月28日～12月27日

【九州国立博物館】　延べ　43人

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間
1	高田　知仁	タイ王国	サイアム大学教養学部日本語コミュニケーション学科学科長	基盤（B)日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究に係る調査	4月30日～5月7日
2	Boonyarit Chaisuwan	タイ王国	タイ王国文化省芸術局ムアンシン国立歴史公園センターセンター長	同上	4月30日～5月7日
3	智恵I.M. シュタイネック	スイス	チューリッヒ大学東洋学科日本学部門　非常勤講師	基盤（B)「在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究」に係る調査および打合せ	5月5日～8日
4	Anandha CHUCHOTI（ｱﾅﾝ･チューチョート）	タイ王国	タイ王国文化省芸術局芸術局長	博物館施設に係る共同研究および協議	7月30日～8月3日
5	Suporn RATTANAPONG（スポーン・ラッタナポン）	タイ王国	タイ王国文化省芸術局総務部長	同上	7月30日～8月1日
6	Naruporn　SAOWANIT（ナルポーン・サオワニット）	タイ王国	タイ王国文化省芸術局建築部専門官	同上	7月30日～8月3日
7	Thanyarat LAKKHANAWITTHAWAT（タンヤラート・ラッカナウィッタワート）	タイ王国	タイ王国文化省芸術局事業計画課アドバイザー	同上	7月30日～8月3日
8	ドゥアンカモン・ユッタセリー	タイ王国	国立美術館長	同上	7月30日～8月3日
9	クリークムアン・ヨンラヨーン	タイ王国	文化省芸術局デザイナー	同上	7月30日～8月3日
10	タッチャルーン・スワンワッタナ	タイ王国	文化省芸術局国際交流課主任	同上	7月30日～8月3日
11	Martijn Manders	オランダ	オランダ文化遺産庁 海事考古学局長	水中考古学フォーラム 「世界の水中遺跡を考える」に係る講演	8月26日～27日
12	Andrew Viduka	オーストラリア	オーストラリア環境庁海事遺産局長補佐	同上	8月26日～27日
13	Bill Jeffery	アメリカ	グアム大学 人類学部准教授	同上	8月26日～27日
14	ラクチャノック・コッチャノン	タイ王国	バンコク国立博物館長	学術文化交流協定に基づく研究者等の交流	8月26日～9月1日
15	ブーンシー・チェップケーオ	タイ王国	国立博物館事務局研究部長	同上	8月26日～9月1日
16	ブアンポーン・シーソムブーン	タイ王国	国立博物館事務局保存科学部研究員	同上	8月26日～9月1日

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間
17	コッチャポーン・タンマチャリヤー	タイ王国	展示造作デザイナー	学術文化交流協定に基づく研究者等の交流	8月26日～9月1日
18	パッタマー・コートン	タイ王国	バンコク国立美術館 研究員	同上	8月26日～9月1日
19	カマラート・ペンチャオーン	タイ王国	国立博物館事務局 開発促進部研究員	同上	8月26日～9月1日
20	スティサック・アルンシー	タイ王国	芸術局博物館事務局 デザイン課長	同上	8月29日～9月3日
21	サームキット・チャイモンコン	タイ王国	芸術局博物館事務局 博物館推進課長	同上	8月29日～9月3日
22	ワッチャリー・チョムプー	タイ王国	芸術局博物館事務局 学芸員	同上	8月29日～9月3日
23	ピヤレーク・インタチャック	タイ王国	国王在位50周年記念 博物館学芸員	同上	8月29日～9月3日
24	ラッタポン・ケートルオム	タイ王国	国立美術館学芸員	同上	8月29日～9月3日
25	具一會	韓国	国立扶餘博物館長	同上	8月30日～9月1日
26	金善英	韓国	国立扶餘博物館 学芸研究士	同上	8月30日～9月12日
27	安敏子	韓国	国立公州博物館 学芸研究士	同上	8月30日～9月12日
28	閔丙贊	韓国	国立中央博物館	文化庁　平成28年度外国人芸術家・文化財専門家招へい事業	10月19日～22日
29	トーマス・ストラング	カナダ	Canadian Conservation Institute・Senior Conservation Scientist	基盤（A)「彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討」に係る調査および打合せ	10月20日～11月2日
30	智恵I.M.シュタイネック	スイス	チューリッヒ大学東洋学科日本学部門　非常勤講師	基盤（B)「在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究」に係る調査	11月17日～19日
31	李溶振	韓国	国立公州博物館 学芸研究士	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」 作品点検及び陳列作業指導	12月20日～23日
32	金鍾萬	韓国	国立公州博物館長	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」 開会式出席	12月25日～27日
33	南基用	韓国	国立公州博物館係長	同上	12月25日～27日
34	高旭成	韓国	国立中央博物館 企画運営団長	同上	12月25日～27日
35	朴聖媛	韓国	国立中央博物館遺物 管理部学芸研究士	同上	12月25日～27日
36	劉麗娜	中国	西安交通大学法学部副教授	日中韓文化遺産フォーラム：水中文化遺産の保護と活動に係る講演および講演会原稿の執筆	29年2月10日～14日
37	孫鍵	中国	国家文物局水下文化遺産保護中心研究員	同上	29年2月10日～14日
38	朱稚怡	中国	国家文物局弁公室（外事連絡司） 水中文化遺産官員	日中韓文化遺産フォーラムにおける中国からの講演者2名を随行	29年2月10日～14日
39	李貴永	韓国	韓国国立海洋文化財研究所長	日中韓文化遺産フォーラム：水中文化遺産の保護と活動に係る講演および講演会原稿の執筆	29年2月11日～14日
40	金炳萬	韓国	韓国国立海洋文化財研究所 水中発掘課学芸研究官	同上	29年2月11日～14日
41	李仁英	韓国	国立公州博物館 学芸研究士	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」作品点検及び撤収作業指導	29年3月5日～8日
42	ウィパラット・プラディットアーチープ	タイ王国	タイ王国文化省芸術局学芸員	特別展「タイ～仏の国の輝き～」作品輸送・点検・陳列作業指導	29年3月25日～31日
43	タッチャソーン・タンテイウォン	タイ王国	バンコク国立博物館学芸員	同上	29年3月27日～31日

※上記には、他機関が招聘し、九州国立博物館を訪問（滞在）したものや、自己負担での外国人研究者の訪問実績は含んでいない。
※上記には、日本国内の機関（大学、研究所等）に所属する外国人研究者の招聘は含んでいない。

【東京文化財研究所】延べ　39人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Ana Dalila Terrazas Santillán	メキシコ	メキシコ国立人類学歴史機構国立文化遺産保存修復機関保存修復技術者	国際研修「ラテンアメリカにおける紙文化財保存修復国際研修」の準備への協力	3月6日～6月29日
2	Aušra　ČIULADIENĖ	リトアニア	リトアニア科学アカデミーヴルブレフスキ図書館修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」参加のため	8月28日～9月17日
3	Anna　DYMAREK	ポーランド	ヴィドゴシュチュ国立公文書館公文書保存修復技術者	同上	8月27日～9月17日
4	Iva　GOBIĆ VITOLOVIĆ	クロアチア	リエカ国立公文書館保存修復技術部長、保存修復技術主任	同上	8月27日～9月17日
5	Signe Hjerrild　SMEDEMARK	アイスランド	アウルトニ・マグヌッソンアイスランド学術機構保存修復技術者	同上	8月28日～9月17日
6	Seon-Hwa　JEONG	韓国	国立文化財研究所文化財保存科学センター紙保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」参加のため	8月28日～9月17日
7	Laura　MIREBEAU	ニュージーランド	ニュージーランド国立図書館テプナマタウランガ／アレクサンダー・ターンブル図書館本および紙保存修復技術者	同上	8月28日～9月17日
8	Sara　MOHEIELDIN NOURELDIN MOHEIELDIN	エジプト	エジプト考古省エジプト考古学博物館紙保存修復技術者	同上	8月28日～9月17日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
9	Clara Maria PRIETO DE LA FUENTE	スペイン	紙保存修復技術者紙本および写真保存修復技術学教授	国際研修「紙の保存と修復」参加のため	8月28日～9月17日
10	Estelle VAN GEYTS	ベルギー	ブリュッセルラカンブル国立美術学校紙本保存修復技術学教授(非常勤)／紙保存修復技術者	同上	8月28日～9月17日
11	Tendi WANGMO	ブータン	ブータン国立博物館保存修復技術補佐員	同上	8月28日～9月17日
12	Nyunt Han	タイ	東南アジア教育省連合･考古学･美術地域センター上級研究員	文化遺産国際協力コンソーシアム「ミャンマーにおける文化遺産保護の現況と課題」講演のため	9月23日～9月28日
13	Bartosz Markowski	ポーランド	ユネスコ・シリア文化遺産緊急保護プロジェクト専門家	「シリア内戦と文化遺産」シンポジウム講演	11月17日～11月26日
14	Robert Zukowski	ポーランド	ポーランド科学アカデミー考古学・民俗学研究所研究員	同上	11月17日～11月26日
15	Hammam Saad	シリア	パリ・ソルボンヌ大学地中海世界宗教社会高等研究所	同上	11月18日～11月25日
16	Nada al Hassan	フランス	ユネスコ世界遺産委員会アラブ諸国ユニット主任	同上	11月19日～11月24日
17	TRAN Ky Phuong	ベトナム	ベトナム少数民族文化芸術協会特別研究員	考古学的知見から読み取る大陸部東南アジアの古代木造建築」への参加	29年2月12日～2月16日
18	CHHAY Rachna	カンボジア	アンコール地域保存整備機構、アンコール調査記録国際センター、アンコール陶磁器研究室室長	同上	29年2月12日～2月16日
19	PHUSI Nattaya	タイ	タイ王国文化省芸術局・スコータイ第6事務所、考古学者	同上	29年2月12日～2月16日
20	Zaw Myo Kyaw	ミャンマー	宗教文化省考古国立博物館局、発掘・遺物・碑文部、副部長	同上	29年2月12日～2月16日
21	Christine GUTH	イギリス	V&Aシニア・リサーチ・フェロー	「美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開」研究会への参加	29年2月28日～3月16日
22	Ulrike Körber	ポルトガル	ポルトガル・エヴォラ大学美術史博士号取得予定者	同上	29年3月1日～3月23日
23	Marta Weronika Winiarczyk	ポーランド	National Museum in Krakow 紙保存修復技術者助手	在外日本古美術品保存修復協力事業	29年3月5日～3月11日
24	Bijaya Krishna Shrestha	ネパール	クオパエ科大学大学院都市デザイン･修復学科 教授	「歴史的集落/地区の保存とマネジメントに関する研修事業」への招へい	29年3月5日～3月12日
25	Suresh Suras Shrestha	ネパール	ネパール国文化･観光･航空省考古局次官（考古学課長）	同上	29年3月5日～3月12日
26	Barsha Shrestha	ネパール	カリヤビナヤク市主任建築士	同上	29年3月5日～3月12日
27	Krishna Bhola Maharjan	ネパール	キルティプル市主任技術者	同上	29年3月5日～3月12日
28	Prem Kumar Somname	ネパール	パナウティ市都市開発計画課長、主任技術者	同上	29年3月5日～3月12日
29	Bal Krishna Manandhar	ネパール	シャンカラプール市文化遺産課主任技術者	同上	29年3月5日～3月12日
30	Ram Govinda Shrestha	ネパール	バクタプル市文化遺産課長	同上	29年3月5日～3月12日
31	Chandra Shova Shakya	ネパール	ラリトプル副都庁遺産･文化･考古保存課長	同上	29年3月5日～3月12日
32	Kittiporn Chaiboon	タイ	文化省文化振興局 文化研究所研究発展部長・上級専門級文化担当官	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	29年3月13日～3月16日
33	Sukanya Yensuk	タイ	文化省文化振興局無形文化遺産保護部長・専門級文化担当官	同上	29年3月13日～3月16日
34	Peter Nuttall	フィジー	南太平洋大学PaCE-SD研究所研究員	拠点事業、共同研究に基づく研修参加のため	29年3月20日～3月25日
35	Kaiafa Ledua	フィジー	南太平洋大学研究協力者	同上	29年3月20日～3月25日
36	Alison Newell	フィジー	南太平洋大学PaCE-SD研究所研究員	同上	29年3月20日～3月25日
37	Samual Nuttall	フィジー	南太平洋大学PaCE-SD研究所研究協力者	同上	29年3月20日～3月25日
38	Mohammad Hassan Talebian	イラン	イラン文化遺産手工芸観光庁次官	「イラン文化遺産セミナー」への講演	29年3月27日7～4月1日
39	Seyed Mohammad Beheshti	イラン	イラン文化遺産観光研究所所長	同上	29年3月27日7～4月1日

【奈良文化財研究所】延べ135人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	沈榮燮 他５名	韓国	国立慶州文化財研究所・所長	平城宮跡調査、城壁・濠・庭園の発掘・整備担当者との面談	４月 14 日～4 月 15 日
2	Aktham o. Abbadi 他５名	ヨルダン	観光・古代省 ヨルダン古代部・発掘調査部長	平城宮跡における遺跡保存の見学	４月 23 日
3	Myo Myint 他１１名（JICA 研修生）	ミャンマー	ホテル観光省計画局・課長	奈良文化財研究所と平城宮跡の概略説明、施設見学	６月３日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
4	BUTGE,Marjorie Grace	アメリカ	カルフォルニア大学・バークレー校	「韓国３王朝の文字文化と新羅と日本における初期の文学」の研究のため（国際交流基金日本研究フェローシップ）	6 月 14 日～12 月 15 日
5	Luo Bei	中国	西南林業大学・講師	西南林業大学との科研費に基づく共同研究の推進	7 月 25 日～7 月 31 日
6	崔亨仙（チェ チャンソン）	韓国	国立慶州文化財研究所・学芸研究士	発掘現場の人材交流	8 月 22 日～10 月 14 日
7	李匡悌 他 1 名	台湾	台湾中央研究院	発掘現場（東大寺東塔址）・環境考古学研究室・保存修復科学研究室・整理室の見学	8 月 26 日
8	キム サムナン（Kim Samnang）	カンボジア	アプサラ機構･GIS･IT コーディネイター	第８回世界考古学会での研究報告	8 月 26 日～9 月 3 日
9	San Win	ミャンマー	宗教文化省・ミャンマー歴史委員会・会員（非常勤）	同上	8 月 26 日～9 月 3 日
10	Nan Kyi Kyi Khaing	ミャンマー	陶器研究者（所属なし）	同上	8 月 26 日～9 月 3 日
11	Zin Oo	ミャンマー	宗教文化省考古博物館局ピイ考古学フィールドスクール・講師	同上	8 月 26 日～9 月 3 日
12	Hay Mar Min	ミャンマー	宗教文化省考古博物館局ピイ考古学フィールドスクール・講師	同上	8 月 26 日～9 月 3 日
13	Dr. Mandescu Dragos	ルーマニア	第 8 回世界考古学会議参加者	平城宮跡資料館と平城宮跡の見学（第 8 回世界考古学会議エクスカーション）	8 月 31 日
14	Prof. Baxter Jane 他 3 名	アメリカ	第 8 回世界考古学会議参加者	同上	8 月 31 日
15	Dr. White Peter 他 4 名	オーストラリア	第 8 回世界考古学会議参加者	同上	8 月 31 日
16	Dr. Van den Dries Monique 他 3 名	オランダ	第 8 回世界考古学会議参加者	同上	8 月 31 日
17	Dr. Forsythe Wes 他 5 名	イギリス	第 8 回世界考古学会議参加者	同上	8 月 31 日
18	Mr. Paludan-Muller	ノルウェー	第 8 回世界考古学会議参加者	同上	8 月 31 日
19	Dr. Garraffoni Rwnata Senna	ブラジル	第 8 回世界考古学会議参加者	同上	8 月 31 日
20	Ms. Bos Kristen	カナダ	第 8 回世界考古学会議参加者	同上	8 月 31 日
21	長呉修民 他 14 名	中国	浙江省古建築設計研究院・院長	平城宮、大極殿、朱雀門における保護と展示利用の現場見学	9 月 2 日
22		アフガニスタン		文化遺産の保護に資する研修 2016（集団研修）－遺跡（遺構・遺物）の調査と保護－の講義受講（ACCU）	9 月 7 日,12,13
23	ミタ アフロジャ カーン	バングラディシュ	文化省考古局・クルナ地域事務所長	文化遺産の保護に資する研修 2016（集団研修）－遺跡（遺構・遺物）の調査と保護－の講義受講（ACCU）	9 月 7 日,12,13
24	ソナム ギェルツェン	ブータン	内務文化省文化局遺産保護課・考古研究補佐員	同上	9 月 7 日,12,13
25	ケオ チャンファニイ	カンボジア	アンコール地域遺跡保護管理機構アンコール公園遺跡保護局・技官	同上	9 月 7 日,12,13
26	ジャヴァディ メフルダッド	イラン	イラン文化遺産工藝観光機構歴史的建造物・遺跡・都市構成保存事務所・文化遺産担当次長	同上	9 月 7 日,12,13
27	ボウンディラス ホウンヨルド	ラオス	情報文化観光省遺産局考古部・専門職員	同上	9 月 7 日,12,13
28	バヤルサイカーン ジャムスランジャフ	モンゴル	モンゴル国立博物館調査研究センター・甲子学芸主任	同上	9 月 7 日,12,13
29	ライ ギャニン	ネパール	ネパール政府ルンビニ地域開発トラスト遺産管理部・主任監理官	同上	9 月 7 日,12,13
30	シャーペ キリ グウェン パメラ	ニュージーランド	ヘリテージ・ニュージーランド・考古研究員	同上	9 月 7 日,12,13
31	オンガ ジム	パプアニューギニア	パプアニューギニア管理保護・保全公社環境計画・世界遺産部門・世界遺産担当主任監理官	同上	9 月 7 日,12,13
32	ナラヤナ タマラ ディーパニ	スリランカ	国家遺産省考古局アヌラーダプラ考古博物館・考古研究補佐員	同上	9 月 7 日,12,13
33	ボボムローエフ ボボムロ	タジキスタン	国立古代博物館考古課・研究員	同上	9 月 7 日,12,13
34	ティッパンワン ウオンガドサパイボーン	タイ	文化省芸術局第 9 地域事務所・考古研究員	同上	9 月 7 日,12,13
35	コルマトフ アズビディン	ウズベキスタン	ウズベキスタン科学アカデミー考古学研究所石器時代室・研究補佐員	同上	9 月 7 日,12,13
36	テャン ドアン ミン ホアン	ベトナム	フエ記念物保存センター科学歴史研究部・研究員	文化遺産の保護に資する研修2016（集団研修）－遺跡（遺構・遺物）の調査と保護－の講義受講（ACCU）	9 月 7 日,12,13
37	劉欣寧 他 4 名	台湾	台湾中央研究院歴史言語研究所・助研究員	共同研究	9 月 8 日～9 月 9 日
38	S.Phoeurng 他 2 名	カンボジア	文化大臣	奈文研のカンボジアにおける活動について意見交換、資料館・大極殿見学	10 月 8 日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
39	兪炳夏 他１名	韓国	慶州国立博物館	大極殿・免震装置等視察	10 月 21 日
40	コム スレイモム	カンボジア	分化・芸術省博物館局カンボジア国立博物館石像彫刻修復室・学芸員	文化遺産の保護に資する研修 2016（個別テーマ研修）－博物館等における文化財の調査・記録・保存修復・活用－の講義受講（ACCU）	11 月 16 日～11 月 29 日
41	マング　バレイ	カンボジア	Kampong Thom 州文化芸術局 Kampong thom 州立博物館・学芸員	同上	11 月 16 日～11 月 29 日
42	ケオアサ カムセン	ラオス	ラオス国立博物館教育課・次長	同上	11 月 16 日～11 月 29 日
43	ソウバンナラス カンフェト	ラオス	ラオス国立博物館教育課・学芸員	同上	11 月 16 日～11 月 29 日
44	ミー ミー テッ ヌウ	ミャンマー	宗教・文化省考古・国立博物館局国立博物館・副館長	同上	11 月 16 日～11 月 29 日
45	サウ アウン テイン	ミャンマー	Kayin 州 Hpa-an 文化博物館・副館長	同上	11 月 16 日～11 月 29 日
46	姜賢 他４名	韓国	国立文化財研究所建築文化財研究室　学芸研究官	研究交流	11 月 16 日
47	ホマーム・サード 他１名	シリア	ソルボンヌ大学	研究所訪問、平城宮跡資料館見学	11 月 22 日
48	ナーダ・アル＝ハッサン	レバノン	ユネスコ・ベイルート事務所	同上	11 月 22 日
49	ロバート・ズコウスキー 他１名	ポーランド	ポーランド科学アカデミー考古学民族学研究所	同上	11 月 22 日
50	Mohamed Ahmed Soliman 他１名	エジプト	Director of Modern Age Sites, Ministry of Antiquities	遺跡の探査についての情報収集、平城宮跡資料館見学	11 月 24 日
51	田孝秀 他１名	韓国	慶州博物館・学芸研究士	平城宮跡資料館、飛鳥資料館、第一次大極殿見学	12 月 2 日
52	魏周興	中国	河南省文物考古研究院・副院長	共同研究	11 月 28 日～12 月 2 日
53	張小虎	中国	河南省文物考古研究院・副研究員	同上	11 月 28 日～12 月 2 日
54	李輝	中国	河南省文物考古研究院・館員	同上	11 月 28 日～12 月 2 日
55	聂凡	中国	河南省文物考古研究院・館員	同上	11 月 28 日～12 月 2 日
56	馬蕭林	中国	河南省文物局・副局長	同上	11 月 28 日～12 月 2 日
57	陳松長 他５名	中国	湖南大学岳麓書院・教授	木簡の整理から保存までの状況の視察、平城宮跡資料館、第一次大極殿の見学	12 月 27 日
58	Qiu Jian	中国	西南林業大学・教授	西南林業大学との科研費に基づく共同研究の推進	29 年 1 月 5 日～1 月 11 日
59	Wu Jian Ling	中国	西南林業大学・弁公室主任	同上	29 年 1 月 5 日～1 月 11 日
60	ローレン・ベル	イギリス	ロンドン大学・学部生	図書資料閲覧	29 年 1 月 11 日～1 月 13 日
61	李昌熙 他４名	韓国	慶州東国大学校考古美術史学科・助教授	日本古代都城遺跡調査研究及び整備事例研究	29 年 1 月 11 日
62	サイモン・ケイナー	イギリス	セインズベリー日本芸術研究所・文化遺産センター長	研究所訪問、打ち合わせ	29 年 1 月 11 日
63	文梨花 他 22 名	韓国	円光大学校馬韓・百済文化研究所	平城宮跡資料館、第一次・第二次大極殿見学	29 年 2 月 1 日
64	ゾー・ミョー・チョウ	ミャンマー	宗教・文化省考古・国立博物館局発掘、遺物、碑文部副部長	平城宮跡、飛鳥資料館、山田寺跡視察	29 年 2 月 14 日,2 月 15 日
65	プシ・ナターヤ	タイ	文化省芸術局スコータイ第６事務所・考古学者	同上	29 年 2 月 14 日,2 月 15 日
66	テェイ・ラッチャナー	カンボジア	アンコール地域保存整備機構アンコール調査記録国際センター・アンコール陶磁器研究室長	同上	29 年 2 月 14 日,2 月 15 日
67	チャン・キィ・フォン	ベトナム	ベトナム少数民族文化芸術協会・特別研究員	同上	2 月 14 日,2 月 15 日
68	Gary Crawford 他３名	カナダ	トロント大学・教授	研究所視察	29 年 3 月 8 日
69	Soum Sophea	カンボジア	プノンペン王立芸術大学・卒業生	共同研究	29 年 3 月 20 日～3 月 27 日
70	Meas Sreyneath	カンボジア	プノンペン王立芸術大学・卒業生	同上	29 年 3 月 20 日～3 月 27 日
71	Sonetra Seng	カンボジア	プノンペン王立芸術大学・准教授	同上	29 年 3 月 20 日～3 月 27 日
72	Sophearith Siyonn	カンボジア	文化芸術省統計計画局・局長	同上	29 年 3 月 20 日～3 月 27 日
73	Mohammad Hassan Telebian 他１名	イラン	文化遺産手工芸観光庁次官	表敬訪問、平城宮跡資料館見学	29 年 3 月 31 日
74	PLOKINGHORNE Martin	オーストラリア	フリンダース大学・主任研究員	日本学術振興会外国人招へい研究者	29 年 3 月 31 日～9 月 30 日

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ52人

※用務先が海外である場合を含む。また国内研究者を海外に派遣したもの延べ7名を含む(用務欄に用務先を記載)

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	中林　真樹	日本	堺市産業振興局商工労働部ものづくり支援課	“Workshop on Capacity Building for Transmission and Sustainable Development of Traditional Craftsmanship”（中国・深セン）出席 先方負担	5月12日～16日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
2	永井　靖子	日本	堺市国際課	“Workshop on Capacity Building for Transmission and Sustainable Development of Traditional Craftsmanship”（中国・深セン）出席 文化庁受託経費	5月12日～16日
3	石村　智	日本	東京文化財研究所無形文化遺産部音声映像記録研究室室長	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるフィリピン調査 寄附金（文化財保活用基金）	7月3日～8日
4	Himalchuli GURUNG	中国	Programme Specialist for Culture, UNESCO Beijing Office	「第五回IRCI運営理事会」出席及び関係機関（日本・堺市ほか）訪問 文化庁受託経費	9月27日～10月3日 (9月28日開催)
5	Olympia Esel MOREI	パラオ	Director, Belau National Museum	「第五回IRCI運営理事会」出席（日本・堺市） 文化庁受託経費	9月27日～9月29日 (9月28日開催)
6	Hyunbin PARK	韓国	Senior Researcher, World Heritage Team, Cultural Heritage Administration of Korea	同上	9月27日～9月29日 (9月28日開催)
7	Jin ZHAO	中国	Deputy Director, Division of Mutilateral Affairs, Bureau for External Cultural Relations, Ministry of Culture, P.R. of China	同上	9月27日～9月29日 (9月28日開催)
8	Meredith WILSON	仏領ポリネシア	Research Associate, Stepwise Heritage and Tourism Pty. Ltd.	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるバヌアツ調査 ODAユネスコ補助金	10月17日～23日 (10月20日～22日実施)
9	石村　智	日本	東京文化財研究所無形文化遺産部音声映像記録研究室室長	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるフィジー調査 ODAユネスコ補助金	10月22日～26日
10	Hanafi Bin HUSSIN	マレーシア	Associate Professor, Department of South East Asian Studies, Faculty of Arts and Social Sciences, University of Malaya	“2016 IRCI Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region”　（日本・堺市） 及び 「無形文化遺産国際シンポジウム―技と心を受け継ぐ―」（日本・堺市）出席 文化庁受託経費	11月16日～20日 (11月18日～19日開催) 及び (11月19日開催)
11	Sokrithy IM	カンボジア	Deputy Director, Angkor International Research Center and Documentation, APSARA National Authority	同上	11月16日～20日 (11月18日～19日開催) 及び (11月19日開催)
12	Janet Elizabeth BLAKE	イラン	Associate Professor, Department of Islamic Law, Faculty of Law Shahid Beheshti University	“2016 IRCI Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region”　（日本・堺市）出席 文化庁受託経費	11月16日～19日 (11月18日～19日開催)
13	Saruul ARSLAN	モンゴル	ICH Specialist, Centre of Cultural Heritage	同上	11月16日～21日 (11月18日～19日開催)
14	Nang Lao Ngin	ミャンマー	Director, Department of Archaeology and National Museum, Ministry of Culture, Myanmar	同上	11月16日～20日 (11月18日～19日開催)
15	Anura MANATUNGA	スリランカ	Director/ Professor, Centre for Asian Studies, University of Kelaniya	同上	11月16日～20日 (11月18日～19日開催)
16	Yadab Chandra NIRAULA	ネパール	Chief Librarian, Nepal National Library	同上	11月16日～20日 (11月18日～19日開催)
17	Atousa MOEMENI	イラン	Director General, Scientific Studies and International Cooperation Office of Iranology Foundation	同上	11月16日～20日 (11月18日～19日開催)
18	Meked BESEBES	パラオ	Cultural Anthropologist/ Ethnographer, Bureau of Cultural and Historical Preservation/ Palau Historical Preservation Office, Palau	同上	11月17日～20日 (11月18日～19日開催)
19	Sandra MORRISON	ニュージーランド	Associate Professor, Faculty of Maori and Indigenous Studies, University of Waikato	同上	11月17日～19日 (11月18日～19日開催)
20	Hanhee HAHM	韓国	Professor, Department of Archaeology and Cultural Anthropology, Chonbuk National University	同上	11月17日～20日 (11月18日～19日開催)
21	Don NILES	パプアニューギニア	Acting Director and Senior Ethnomusicologist, Institute of Papua New Guinea Studies	同上	11月16日～23日 (11月18日～19日開催)
22	Cholponai USUBALIEVA-GRYSHCHUK	キルギス	Researcher and Project Coordinator, Aigine Cultural Research Centre	“2016 IRCI Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region”　（日本・堺市）出席 文化庁受託経費	11月16日～20日 (11月18日～19日開催)
23	Himalchuli GURUNG	中国	Programme Specialist for Culture, UNESCO Beijing Office	同上	11月17日～20日 (11月18日～19日開催)

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
24	久保田裕道	日本	東京文化財研究所無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるベトナム調査寄附金（文化財保活用基金）	12月14日～21日 （12月15日～20日実施）
25	Susan MCINTYRE-TAMWOY	オーストラリア	Associate Director, Extent Heritage Pty Ltd	“Working Group Session for IRCI Final Workshop on the Study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region” （ベトナム・ハノイ） 及び “IRCI Final Workshop on the Study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region”（ベトナム・ハノイ）出席 文化庁受託経費	12月14日～21日 （12月15日～16日開催） 及び （12月17日～19日開催）
26	河野俊行	日本	九州大学大学院教授	同上	12月14日～19日 （12月15日～16日開催） 及び （12月17日～19日開催
27	Harriet DEACON	イギリス	Visiting Research Fellow, Ferguson Centre for African and Asian Studies, The Open University, UK	同上	12月14日～19日 （12月15日～16日開催） 及び （12月17日～19日開催）
28	Buntha EK	カンボジア	Deputy Director-General, Ministry of Culture and Fine Arts, Cambodia	“IRCI Final Workshop on the Study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region”（ベトナム・ハノイ）出席 文化庁受託経費	12月16日～19日 （12月17日～19日開催）
29	Dara KHLOK	カンボジア	Director, International Relations and Development Partners, Ministry of Justice, Cambodia	同上	12月16日～19日 （12月17日～19日開催）
30	Bounyadeth DAOPASITH	ラオス	Head of International Studies Unit, Faculty of Laws and Political Science, National University of Laos	同上	12月16日～19日 （12月17日～19日開催）
31	Nang Lao Ngin	ミャンマー	Director, Department of Archaeology and National Museum, Ministry of Culture, Myanmar	同上	12月16日～19日 （12月17日～19日開催）
32	Hathairat JIEWJINDA	タイ	Cultural Officer, Professional Level, Department of Cultural Promotion, Ministry of Culture, Thailand	同上	12月16日～19日 （12月17日～19日開催）
33	Katie O’ ROURKE	オーストラリア	Director, Katie O'Rourke Consulting	同上	12月16日～21日 （12月17日～19日開催）
34	Loan Thi TU	ベトナム	Director, Vietnam National Institute of Culture and Arts Studies	同上 先方負担	12月17日～19日開催
35	Hien Thi NGUYEN	ベトナム	Vice Director, Vietnam National Institute of Culture and Arts Studies	同上 先方負担	12月17日～19日開催
36	Huong Thi Thu NGUYEN	ベトナム	Head, Division of Scientific Management and International Cooperation, Vietnam National Institute of Culture and Arts Studies	同上 先方負担	12月17日～19日開催
37	Huong Thi Thanh PHAM	ベトナム	Culture Programme Coordinator a.i., UNESCO Ha Noi Office	同上 先方負担	12月17日～19日開催
38	Tang Duc NGUYEN	ベトナム	National Program Officer in Culture, Ha Noi Office	同上 先方負担	12月17日～19日開催
39	Trang Thi Thu NGUYEN	ベトナム	Chief, Bureau for Intangible Cultural Heritage, Department of Cultural Heritage, Ministry of Culture, Sports and Tourism, Viet Nam	同上 先方負担	12月17日～19日開催
40	Tanyanun VARAPIPONG	タイ	International Affairs Officer, Princess Maha Chakri Sirindhorn Anthropology Centre	同上 先方負担	12月17日～19日開催
41	Rajib SHAW	中国	Executive Director, International Program Office, Integrated Research on Disaster Risk	“Preliminary Research on ICH Safeguarding and Disaster-Risk Management in the Asia-Pacific Region: International Working Group Session”（日本・東京）出席 ODAユネスコ補助金	29年1月30日 （1月30日開催）
42	Soledad Natalia DALISAY	フィリピン	Professor, Chair, Department of Anthropology, University of Philippines-Dilimman	“Preliminary Research on ICH Safeguarding and Disaster-Risk Management in the Asia-Pacific Region: International Working Group Session”（日本・東京）出席 ODAユネスコ補助金	29年1月29日～2月1日 （1月30日開催）

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
43	Fatima Gay Jamilosa MOLINA	フィリピン	Part-time Programme Associate, Center for Disaster Preparedness	“Preliminary Research on ICH Safeguarding and Disaster-Risk Management in the Asia-Pacific Region: International Working Group Session”（日本・東京）出席 ODAユネスコ補助金ｓ	29年1月29日～2月1日 （1月30日開催）
44	Elizabeth Fiona Daveta EDWARDS	フィジー	Secretariat, Blue Shield Pasifika	同上	29年1月27日～2月2日 （1月30日開催）
45	Ilaitia Senikuraciri LOLOMA	フィジー	Executive Officer, Special Revitalization Unit, iTaukei Institute of Language and Culture	同上	29年1月27日～2月2日 （1月30日開催）
46	Richard Japuneyo SHING	バヌアツ	Senior Archaeologist, Heritage Section, Vanuatu Cultural Centre	同上	29年1月25日～2月2日 （1月30日開催）
47	Md. Amanullah Bin Mahmood	バングラデシュ	Project Officer, Science, UNESCO Office in Dhaka	同上	29年1月28日～2月2日 （1月30日開催）
48	Rahmatullah Al Mahmud Selim	バングラデシュ	Head of Research, Gaanbangla Television	同上	29年1月29日～2月1日 （1月30日開催）
49	Meredith WILSON	仏領ポリネシア	Research Associate, Stepwise Heritage and Tourism Pty. Ltd.	同上	29年1月27日～2月1日 （1月30日開催）
50	Huy NGUYEN	ベトナム	Technical Specialist, Institute for Sustainable Environmental, Transition-Vietnam	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるマーシャル諸島調査 ODAユネスコ補助金	29年2月12日～19日 （2月14日～17日）
51	Meredith WILSON	仏領ポリネシア	Research Associate, Stepwise Heritage and Tourism Pty. Ltd.	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるミャンマー調査寄附金（文化財保活用基金）	29年3月10日～3月19日 （3月13日～17日）
52	児玉　茂昭	日本	国立民族学博物館プロジェクト研究員	同上	29年3月11日～3月18日 （3月13日～17日）

【文化財防災ネットワーク推進本部】4人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	高橋暁	サモア	ユネスコ太平洋事務所企画専門官	「文化遺産防災国際シンポジウム-文化遺産を大災害からどう守るか:ブルーシールドの可能性Ⅱ-」および研究会参加のため	29年3月16日～21日
2	アンドレア・キースカンプ	オランダ	オランダ・ブルーシールド国内委員会副委員長	同上	29年3月16日～21日
3	サミュエル・フランコ・アルチェ	グアテマラ	グアテマラ・ICOM-LAC 委員長	同上	29年3月16日～21日
4	ロナルド・ポルチェリ	サモア	ユネスコ太平洋地域事務所嘱託	同上	29年3月16日～21日

2）他機関の共同研究への参画実績

科学研究費助成事業の研究分担者等として参画（延べ人数）

平成29年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
114人	59 人	34人	8人	7人	10人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	55 人	29人		26人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	0 人				

【東京国立博物館】延べ　34人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	九州国立博物館	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　－東アジア金属工芸史の再構築－	九州国立博物館学芸部企画課特別展室主任研究員　川村佳男	副館長　松本伸之、企画課デザイン室主任研究員　矢野賀一、特任研究員　谷豊信、保存修復課環境保存室長　和田浩
2	日本学術会議	博物館・美術館等の組織運営に関する研究	東京大学大学院人文社会系研究科教授　小佐野重利	学芸企画部長　井上洋一
3	日本学術会議	文化財の保護と活用に関する研究	大阪大学大学院文学研究科教授　福永伸哉	学芸企画部長　井上洋一
4	京都国立博物館	河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究	京都国立博物館長　佐々木丞平	企画課長　浅見龍介、列品管理課平常展調整室研究員　末兼俊彦
5	九州国立博物館	在欧日本仏教美術の包括的調査･デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究	九州国立博物館長　島谷弘幸	企画課長　浅見龍介、企画課特別展室長　丸山士郎、東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　恵美千鶴子
6	大阪大学	５～９世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	大阪大学大学院文学研究科教授　藤岡穣	企画課長　浅見龍介
7	奈良県立橿原考古学研究所	藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示･公開に関する総合的研究	奈良県立橿原考古学研究所特別研究員　今尾文昭	企画課特別展室主任研究員　品川欣也
8	関西大学	古代寺院荘厳具の復元的研究～川原寺裏山遺跡出土金属製品を中心として～	関西大学文学部教授　米田文孝	企画課特別展室主任研究員　市元塁
9	京都国立博物館	東アジアにおける繍仏の基礎的研究（KAKEN2528403）	京都国立博物館学芸部企画室長　伊藤信二	企画課出版企画室主任研究員　猪熊兼樹、列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕、同研究員　末兼俊彦
10	東京大学史料編纂所	東京国立博物館所蔵湿板写真ガラス原板に関する基礎的研究（一般共同研究）	企画課国際交流室主任研究員　遠藤楽子	博物館情報課長　田良島哲、東京大学史料編纂所教授　保谷徹、同准教授　箱石大、同助教　稲田奈津子、同技術専門職員　谷昭佳
11	筑波大学	化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究	筑波大学大学院教授　守屋正彦	博物館教育課教育講座室長　勝木言一郎
12	京都大学	中国典籍日本古写本の研究（KAKEN 25244015）	京都大学人文科学研究所教授　高田時雄	博物館情報課長　田良島哲
13	奈良県立橿原考古学研究所	三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究（科学研究費　基盤研究（B））	奈良県立橿原考古学研究所調査課総括研究員　水野敏典	列品管理課主任研究員　古谷毅
14	国立歴史民俗博物館	武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質（科学研究費　基盤研究（B））	国立歴史民俗博物館考古研究系准教授　上野祥史	列品管理課主任研究員　古谷毅
15	島根大学	山陰地方における既掘考古資料の再検討による歴史文化遺産の活用と地域還元（島根大学　研究･学術研究情報機構 戦略的研究推進センター 萌芽研究部門プロジェクト）	島根大学文学部准教授　岩本崇	列品管理課主任研究員　古谷毅
16	九州国立博物館	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究	九州国立博物館学芸部企画課特別展室長　原田あゆみ	列品管理課平常展調整室研究員　末兼俊彦
17	東京文化財研究所	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究-大航海時代を中心に-	東京文化財研究所文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	列品管理課平常展調整室研究員　末兼俊彦
18	鹿児島大学	住吉派の模写から見る近世御用絵師の絵画制作研究（科研）	鹿児島大学法文教育学域教育学系教授　下原美保	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　山下善也
19	実践女子大学	女性南画家（科研）	実践女子大学文学部教授　仲町啓子	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　山下善也
20	天理大学	基盤研究B　「地域考古学」と「聖書考古学」の協業による古代パレスチナ地域紙の再構築	天理大学文学部教授　桑原久男	調査研究課東洋室研究員　小野塚拓造
21	筑波大学	被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究	筑波大学芸術系准教授　松井敏也	保存修復課環境保存室長　和田浩
22	日本大学芸術学部	持続可能型保存ネットワークに関する研究	日本大学芸術学部写真学科教授　高橋則英	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
23	奈良文化財研究所	古代における多様な消失原型法の可能性を探る研究	奈良文化財研究所都城発掘調査部主任研究員　丹羽崇史	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
24	愛知県立芸術大学	「月次祭礼図模本」の総合復元研究	愛知県立芸術大学美術学部准教授　岩永てるみ	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛
25	木更津市郷土博物館金のすず､国立歴史民俗博物館	金鈴塚古墳研究（繊維等の織物資料担当）	金のすず研究員　稲葉昭智､国立歴史民俗博物館考古研究系准教授　上野祥史	客員研究員　沢田むつ代

【京都国立博物館】延べ　8人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	奈良文化財研究所	アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築	副所長　杉山　宏	学芸部連携協力室長　淺湫　毅
2	富山県立大学	富山・本法寺蔵「法華経曼荼羅図」の総合的研究	工学部教授　原口志津子	学芸部保存修理指導室長　大原嘉豊

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
3	大阪大学	5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	文学研究科教授　藤岡　穰	学芸部連携協力室長　淺湫　毅
4	大阪大谷大学	多面的把握に基づく新義真言宗系聖教の解明と公開促進を果たす研究	文学部教授　宇都宮啓吾	学芸部保存修理指導室 主任研究員　羽田　聡
5	東京国立博物館	高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相	副館長　松本伸之	学芸部企画室長　伊藤　信二
6	東京国立博物館	中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究	学芸研究部主任研究員　沖松健次郎	学芸部企画室長　伊藤　信二
7	東京国立博物館	能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究	学芸企画部企画課長　浅見龍介	学芸部連携協力室長　淺湫　毅
8	京都大学	東アジアにおける仏伝の表象	人文科学研究所准教授　稲本泰生	学芸部保存修理指導室長　大原嘉豊

【奈良国立博物館】延べ　7人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	大阪大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究	教授　井手誠之輔	学芸部教育室長 谷口　耕生
2	九州大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究	教授　井手誠之輔	学芸部情報サービス室研究員 北澤　菜月
3	大阪大学	５～９世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	教授　藤岡　穰	学芸部上席研究員　岩田　茂樹
4	京都大学	東アジア仏教美術における聖地表象の諸様態	准教授　稲本泰生	学芸部教育室長 谷口　耕生
5	京都大学	東アジア仏教美術における聖地表象の諸様態	准教授　稲本泰生	学芸部情報サービス室長 岩井　共二
6	福岡県立アジア文化交流センター	国宝桜ケ丘銅鐸の総合診断調査と今後の保存活用　－発見５０年目を迎えるにあたって－	主任研究員　進村真之	学芸部保存修理指導室長 鳥越　俊行
7	北海道博物館	アイヌ民族資料のX線CTによる現況調査および長期保存方針の策定に関する基礎的研究	学芸員　杉山智昭	学芸部保存修理指導室長 鳥越　俊行

【九州国立博物館】延べ　10人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	鹿児島大学	X線CT調査による古墳時代甲冑のデジタルアーカイブおよび型式学的新研究	総合研究博物館准教授 橋本達也	企画課長兼文化交流展室長 河野一隆
2	東京文化財研究所	酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発 －旧修理材料や微生物痕の除去－	保存科学研究センター 修復材料研究室長 早川典子	博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか
3	奈良大学	X線CTを核にした3Dデータの活用に基づく文化財の新研究基盤創設	文学部教授　今津節生	博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫
4	熊本大学	阿蘇地域を中心とした古墳時代の九州島における情報伝達・文物交流の実証的研究	文学部准教授　杉井健	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史
5	東京外国語大学	東南アジア史の統合的編年プラットフォームの構築： 「長い12・13世紀」を中心に	大学院総合国際学研究院教授 青山亨	企画課特別展室長 原田あゆみ
6	佐賀大学	史学と自然科学の融合研究で探る幕末明治期における地域鉄産業の変貌と展開	シンクロトロン光応用研究センター研究員　脇田久伸	企画課長兼文化交流展室長 河野一隆
7	東京国立博物館	高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相	副館長　松本伸之	学芸部　小泉惠英
8	九州大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究	大学院人文科学研究院教授 井手誠之輔	文化財課資料管理室主任研究員 畑靖紀
9	京都国立博物館	河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究	館長　佐々木丞平	副館長　伊藤嘉章
10	東亜大学	東アジア文化圏の形成に果たした漢代郡県都市に関する学際的研究	人間科学部教授　黄暁芬	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史

【東京文化財研究所】延べ　29人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	早稲田大学	エジプト、ルクソール西岸の新王国時代岩窟墓の形成と発展に関する調査研究	文学学術院教授　近藤二郎	文化遺産国際協力センター研究員 前川佳文
2	奈良文化財研究所	アンコール遺跡群を事例とした考古情報資源共有化に関する研究	企画調整部国際遺跡研究室長 森本晋	特任研究員　川野邊渉
3	九州国立博物館	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討	学芸部博物館科学課長　木川りか	保存科学研究センター分析科学研究室長　犬塚将英
4	九州国立博物館	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討	学芸部博物館科学課長　木川りか	保存科学研究センター主任研究員 佐藤嘉則
5	三重大学	耐震的に脆弱な文化財組積造建造物の被災後の保存修復法	工学研究科教授　花里利一	保存科学研究センター主任研究員 森井順之
6	東北大学	仏像の表象機能に関わる総合的調査研究―空間・荘厳・胎内に着目して	文学研究科名誉教授　有賀祥隆	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英
7	大阪大学	５～９世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	文学研究科教授　藤岡穰	文化財情報資料部主任研究員　皿井舞
8	東京国立博物館	中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　沖松健次郎	文化財情報資料部日本東洋美術史研究室長　小林達朗
9	帝京大学	中央アジア、シルクロード拠点都市と地域社会の発展過程に関する考古学的研究	文化財研究所教授　山内和也	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　久米正吾
10	東京藝術大学	光に脆弱な文化財材料の光劣化機構の研究-低酸素環境での劣化挙動と波長依存性-	大学院美術研究科准教授　塚田全彦	文化財情報資料部長　佐野千絵
11	早稲田大学	近松没後義太夫節浄瑠璃作品のデジタル・アーカイブを利用した包括的研究	坪内博士記念演劇博物館名誉教授　鳥越文蔵	無形文化遺産部長　飯島満
12	東京大学	「図書館資料保存論」に関する基礎的研究	大学院経済学研究科(経済学部)講師　小島浩之	文化財情報資料部長　佐野千絵

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
13	大谷大学	モンゴルの世界遺産「大ブルカン・カルドゥン山」に関する学融合的研究	文学部教授　松川節	文化財情報資料部文化財情報研究室長　二神葉子
14	法政大学	能楽および能楽研究の国際的定位と新たな参照標準確立のための基盤研究	能楽研究所教授　山中玲子	特任研究員　高桑いづみ
15	京都大学	真言密教寺院の史料調査に基づく分野横断的綜合研究―新たな仏教思想史の枠組を求めて	文学研究科教授　上島亨	文化財情報資料部主任研究員　皿井舞
16	東京外国語大学	東南アジア史の統合的編年プラットフォームの構築：「長い12・13世紀」を中心に	大学院総合国際学研究院教授　青山亨	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　佐藤桂
17	九州大学	未解読楽譜研究のための情報検索システムの構築	芸術工学研究院教授　矢向正人	特任研究員　高桑いづみ
18	東京藝術大学	バーナード・ベレンソンと矢代幸雄の往復書簡に関する研究	美術学部教授　越川倫明	副所長　山梨　絵美子
19	東京大学史料編纂所	日本絵画の〈復元〉に関する基礎的研究	研究員　鴈野佳世子	保存科学研究センター保存科学研究室長　吉田直人
20	信州大学	平安時代における「国風」的文化現象についての学際的研究	学術研究院人文科学系准教授　佐藤全敏	文化財情報資料部主任研究員　皿井舞
21	大谷大学	モンゴル国カラコルム博物館における歴史研究を基軸とした情報化と国際協働の推進	文学部教授　松川節	文化財情報資料部文化財情報研究室長　二神葉子
22	奈良文化財研究所	アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築	副所長　杉山洋	無形文化遺産部音声映像記録研究室長　石村智
23	関西外国語大学	ミクロネシアにおける巨石文化の成立と社会複雑化のプロセスを探る考古学的研究	国際言語学部教授　片岡修	無形文化遺産部音声映像記録研究室長　石村智
24	国立民族学博物館	ミュージアムと研究機関の協働による制作者情報の統合	先端人類科学研究部准教授　丸川雄三	文化財情報資料部研究員　橘川英規
25	龍谷大学	文化財建造物の伝統的な塗装彩色材料の再評価と保存・修理・資料活用に関する研究	文学部教授　北野信彦	保存科学研究センター分析科学研究室長　犬塚将英
26	龍谷大学	文化財建造物の伝統的な塗装彩色材料の再評価と保存・修理・資料活用に関する研究	文学部教授　北野信彦	保存科学研究センター保存環境研究室長　吉田直人
27	東京大学	観世家のアーカイブの形成と室町期能楽の新研究	大学院総合文化研究科教授　松岡心平	特任研究員　高桑いづみ
28	愛知県立芸術大学	絵画表現における風土と技術-膠を中心とする伝統的材料の持続性に関する調査研究-	美術学部教授　北田克己	保存科学研究センター修復材料研究室長　早川典子
29	東京国立博物館	ディルムン文明の起源―バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究―	客員研究員　後藤健	文化遺産国際協力センター研究員　安倍雅史

【奈良文化財研究所】延べ　26人

○科学研究費補助金　延べ　23人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	東京大学	日本目録学の確立と古典学研究支援ツールの拡充 ―天皇家・公家文庫を中心に―	教授　田島　公	都城発掘調査部主任研究員　馬場　基
2	立命館大学	古代中世東アジアの関所と交通政策	教授　鷹取　祐司	都城発掘調査部主任研究員　馬場　基
3	京都工芸繊維大学	近代日本の博覧会における建築展示に関する研究	教授　石田　潤一郎	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　高妻　洋成
4	東京大学	歴史知識情報のオープンデータ化に向けたスキームと情報利活用手法の再構築	教授　久留島　典子	都城発掘調査部主任研究員　馬場　基
5	奈良大学	文字文化からみた東アジア社会の比較研究	教授　角谷　常子	都城発掘調査部史料研究室長　渡邉 晃宏
6	山口大学	東アジアにおける都城と葬地の政治的・社会的関連に関する比較史的総合研究	教授　橋本　義則	都城発掘調査部考古第二研究室研究員　小田　裕樹
7	京都大学	古代「仏都圏」の社会と文化に関する地域史的・比較史的研究	教授　吉川　真司	都城発掘調査部主任研究員　山本　崇
8	大阪大学	モンゴル東部新発見の突厥碑文調査と遺跡保護に関する考古学・歴史学的研究	教授　大澤　孝	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー　山口　欧志
9	橿原考古学研究所	藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究	特別研究員　今尾　文昭	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　柳田　明進
10	歴史民俗博物館	武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質	准教授　上野　祥史	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　諫早　直人
11	元興寺文化財研究所	出土青銅製文化財の保存処理に使用されたアクリル樹脂の劣化について	研究員　植田　直見	埋蔵文化財センター客員研究員　難波　洋三
12	奈良県立橿原考古学研究所	古墳時代中期における甲冑生産組織の研究－「型紙」と製作工程の分析を中心として－	総括研究員　吉村　和昭	企画調整部客員研究員　小林　謙一
13	京都大学	オントロジー指向による考古遺跡情報の知識体系化－東南アジア大陸部を事例に－	研究員　柴山　守	企画調整部部長　森本　晋
14	京都大学	覆屋とその周辺地盤が露出展示遺構の劣化に及ぼす影響に関する検討	教授　鉾井　修一	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷　草一郎
15	京都大学	古代・中世東西回廊－ミャンマー・タイ跨境における文化交流・交易網の歴史的動態－	研究員　柴山　守	副所長　杉山　洋
16	奈良県立橿原考古学研究所	三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究	係長　水野　敏典	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　柳田　明進
17	法政大学	物質文化と精神文化の交流と断絶からみた、海峡を繋ぐ「北の内界世界」の総合的研究	教授　小口　雅史	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　田村　朋美

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
18	京都橘大学	ゴーランド・コレクション総合研究の新知見に基づく日本古墳時代像・研究史の再構築	教授　一瀬　和夫	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　諫早　直人
19	帝京大学	中央アジア、シルクロード拠点都市と地域社会の発展過程に関する考古学的研究	教授　山内　和也	都城発掘調査部考古第二研究室研究員　山藤　正敏
20	東北大学	年輪幅・酸素安定同位体比標準年輪曲線ネットワーク構築とそれに基づく木材産地推定	助教　大山　幹成	埋蔵文化財センター年代学研究室研究員　星野　安治
21	東京文化財研究所	ブータンの版築造建造物の類型と編年に関する研究	所長　亀井　伸雄	都城発掘調査部遺構研究室研究員　海野　聡
22	大谷大学	モンゴルの世界遺産「大ブルカン・カルドゥン山」に関する学融合的研究	教授　松川　節	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー　山口　欧志
23	お茶の水女子大学	民族考古学と化学分析からさぐる生業活動の諸相	特任准教授　細谷　葵	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　庄田　慎矢

○学術研究助成基金助成金　延べ　3人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	埼玉大学	楽浪郡存続期における鉄器と玉類の流通網及び技術移転に関する包括的研究	准教授　中村　大介	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　田村　朋美
2	東京文化財研究所	環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究	修復材料研究室長　朽津信明	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷　草一郎
3	奈良女子大学	玉類の生産および流通と社会変化の因果関係に関する考古科学的研究	特任講師　大賀　克彦	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　田村　朋美

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】0人

3）研究者海外派遣実績（延べ人数）

平成29年3月31日現在

<table>
<tr><td rowspan="5">国立文化財機構合計</td><td>博物館計</td><td>東京国立博物館</td><td>京都国立博物館</td><td>奈良国立博物館</td><td>九州国立博物館</td></tr>
<tr><td>164 人</td><td>60人</td><td>21人</td><td>16人</td><td>67人</td></tr>
<tr><td>文化財研究所計</td><td colspan="2">東京文化財研究所</td><td colspan="2">奈良文化財研究所</td></tr>
<tr><td>427人</td><td>239 人</td><td colspan="2">131人</td><td colspan="2">108人</td></tr>
<tr><td colspan="2">アジア太平洋無形文化遺産研究センター</td><td colspan="3">文化財防災ネットワーク推進本部</td></tr>
<tr><td colspan="2">20 人</td><td colspan="3">4 人</td></tr>
</table>

【東京国立博物館】延べ　60人（科学研究費助成事業、その他助成金を除く）

（参考：科学研究費助成事業、その他助成金を含む合計人数は96人）

〇海外交流展経費・招へい共通事業費　44人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	鬼頭　智美	イギリス、アイルランド	4 月 10 日～4 月 18 日	国際展覧会オーガナイザー会議へ出席のため	海外交流展経費	
2	井上　洋一	タイ	4月27日～5月1日	タイ展展示会場の視察及び調査のため	同上	
3	田沢　裕賀	タイ	4月27日～5月1日	同上	同上	
4	楊　鋭	中国	5月9日～5月12日	上海博物館における醍醐寺展開会式に出席する銭谷館長の随行のため	同上	
5	田沢　裕賀	中国	5月10日～5月12日	日中韓絵画精品展展示会場の視察のため	同上	
6	和田　浩	中国	5月10日～5月12日	同上	同上	
7	矢野　賀一	中国	5月10日～5月12日	同上	同上	
8	西木　政統	韓国	5月17日～5月24日	韓国国立中央博物館にて開催する「韓日国宝半跏思惟像の出会い」にかかる作品輸送及び展示作業のため	同上	
9	丸山　士郎	韓国	5月19日～5月24日	韓国国立中央博物館にて開催する「韓日国宝半跏思惟像の出会い」にかかる展示作業のため	同上	
10	井上　洋一	韓国	5月22日～5月23日	韓国国立中央博物館にて開催する「韓日国宝半跏思惟像の出会い」開会式出席のため	同上	
11	丸山　士郎	韓国	6月12日～6月15日	韓日半跏思惟像の出会いにかかる撤収作業及び輸送のため	同上	
12	西木　政統	韓国	6月12日～6月15日	同上	同上	
13	矢野　賀一	ドイツ、オーストリア、スイス	6月17日～6月26日	ヨーロッパの博物館及び美術館の展示に関する調査のため（平成28年度海外派遣）	招へい共通事業費	
14	楊　鋭	中国	7月26日～7月29日	陝西歴史博物館開催の海外展「渡海梵音：醍醐寺芸術珍宝展」の開会式随行のため	海外交流展経費	
15	楊　鋭	中国	8月23日～8月26日	中国国立絲綢博物館開催の特別展「絹の世界」展示作業にかかる通訳のため	同上	
16	猪熊　兼樹	タイ	9月5日～9月12日	タイ展にかかる会議出席及び作品調査のため	同上	
17	末兼　俊彦	タイ	9月5日～9月12日	同上	同上	
18	松本　伸之	中国	9月21日～9月24日	国際館長フォーラム及び中国国立絲綢博物館開催の特別展「絹の世界」開幕式等の出席のため	同上	
19	恵美　千鶴子	韓国	9月21日～9月28日	韓国・国立中央博物館と当館との2016年度学術交流のため	招へい共通事業費	
20	楊　鋭	中国	10月27日～11月6日	国家博物館開催「15-19世紀日中韓絵画精品展」展示作業及び日中韓館長会議にかかる通訳・随行のため	海外交流展経費	
21	井上　洋一	中国	11月3日～11月6日	日中韓館長会議及び「15-19世紀日中韓絵画精品展」開会式出席のため	同上	
22	市元　塁	中国	11月4日～11月7日	国家博物館開催「15-19世紀日中韓絵画精品展」開会式出席及び大三国志展打合せのため	同上	
23	藤瀬　雄輔	タイ	11月13日～11月23日	タイ展出品作品の調査・撮影のため	同上	
24	荒木　臣紀	韓国	11月14日～11月21日	韓国・国立中央博物館と当館との2016年度学術交流のため	招へい共通事業費	
25	末兼　俊彦	タイ	11月15日～11月21日	タイ展出品作品の調査・撮影のため	海外交流展経費	
26	富田　淳	台湾	11月27日～11月29日	特別展「顔真卿と唐時代の書」(仮称)出陳交渉のため	同上	
27	酒井　元樹	台湾	11月29日～12月2日	國立故宮博物院開催「日本美術の粋　東京・九州国立博物館精品展」にかかる展示作業のため	同上	
28	丸山　士郎	台湾	12月1日～12月5日	國立故宮博物院開催「日本美術の粋　東京・九州国立博物館精品展」にかかる展示作業のため	海外交流展経費	
29	小山　弓弦葉	タイ	12月20日～12月24日	バンコク国立博物館開催の展覧会にかかる打ち合わせ及びタイ展作品調査のため	同上	
30	矢野　賀一	タイ	12月20日～12月23日	バンコク国立博物館開催の展覧会にかかる視察及び打ち合わせのため	同上	
31	沖松　健次郎	タイ	12月20日～12月23日	同上	同上	
32	井上　洋一	中国	29 年 1 月 23 日～1 月 25 日	展覧会視察及び打ち合わせのため	同上	
33	楊　鋭	中国	29年1月23日～1月25日	同上	同上	
34	小野塚　拓造	中国	29年1月23日～1月25日	同上	同上	
35	白井　克也	米国	29年1月31日～2月4日	作品調査のため	招へい共通事業費	
36	小野塚　拓造	米国	29年1月31日～2月4日	同上	同上	
37	鈴木　希帆	米国	29年1月31日～2月4日	同上	同上	
38	矢野　賀一	米国	29年2月14日～2月17日	日本展開催に伴う展示環境調査及び展覧会打合せのため	海外交流展経費	
39	鬼頭　智美	米国	29年2月26日～3月3日	作品調査並びに特別展「マルセル・デュシャンと日本美術（仮称）」に関する打合せのため	同上	
40	松嶋　雅人	米国	29年2月26日～3月3日	同上	同上	
41	沖松　健次郎	台湾	29年3月6日～3月11日	國立故宮博物院開催「日本美術の粋　東京・九州国立博物館精品展」にかかる撤収作業のため	同上	
42	君波　妙子	中国・韓国	29年3月7日～3月12日	当館と中国・韓国の博物館との学術交流にかかる面談及び視察のため	招へい共通事業費	
43	藤田　千織	中国	29年3月22日～3月28日	中国・上海博物館と当館との2016年度学術交流のため	同上	
44	六人部　克典	中国	29年3月22日～3月28日	同上	同上	

○職員旅費（その他）：延べ16人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	松本　伸之	中国	5 月 9 日～5 月 11 日	上海博物館における醍醐寺展の開会式典に出席のため	副館長裁量経費	
2	松本　伸之	韓国	5月21日～5月23日	韓国国立中央博物館にて開催する「韓日国宝半跏思惟像の出会い」開会式出席のため	同上	
3	和田　浩	ドイツ	6 月 18 日～6 月 23 日	海外美術博物館の展示施設に関する調査のため	環境保全費	
4	松本　伸之	中国	7 月 26 日～7 月 29 日	陝西歴史博物館開催の海外展「渡海梵音：醍醐寺芸術珍宝展」の開会式随行のため	副館長裁量経費	
5	松本　伸之	中国	11月2日～11月7日	展覧会協議、日中韓館長会議、日中韓絵画展開幕式典出席のため	総務課運営費	
6	遠藤　楽子	中国	11月9日～11月12日	ユネスコ博物館長レベル会議の通訳のため	館長裁量経費	
7	矢野　賀一	ドイツ	29 年 2 月 8 日～2 月 12 日	展示室リニューアルに伴う展示環境調査のため	環境保全費	
8	和田　浩	タイ	29年2月14日～2月17日	バンコク国立博物館の施設環境調査のため	同上	
9	金井　裕子	米国	29年2月22日～2月26日	館蔵品に関連する調査研究及びやまと絵研究のため	館内調査研究等	
10	井上　洋一	イタリア	29年2月28日～3月6日	特別展開催に向けての打ち合わせならびに作品調査のため	館長裁量経費	
11	小野塚　拓造	イタリア	29年2月28日～3月6日	同上	同上	
12	富田　淳	中国	29年3月7日～3月12日	特集「上海博物館との競演」にかかる返却作業のため	文化財活用基金	
13	市元　塁	中国	29年3月7日～3月12日	同上	同上	
14	楊　鋭	中国	29年3月7日～3月11日	同上	同上	
15	六人部　克典	中国	29年3月7日～3月12日	同上	同上	
16	小山　弓弦葉	中国	29年3月8日～3月11日	同上	同上	

○科学研究費助成事業：延べ32人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	和田　浩	イタリア	7 月 3 日～7 月 6 日	ICOM 世界大会への参加のため	科学研究費	
2	和田　浩	中国	7月14日～7月18日	中国における文化財輸送時の振動計測のため	科学研究費	
3	高橋　裕次	ドイツ、イタリア	7月24日～7月31日	科学研究費による調査のため	同上	
4	鬼頭　智美	ドイツ、イタリア	7月24日～7月31日	同上	同上	
5	小野塚　拓造	イスラエル	7月29日～8月21日	同上	同上	
6	高橋　裕次	米国	8月10日～8月18日	同上	同上	
7	富田　淳	中国	8月16日～8月23日	同上	同上	
8	関　紀子	中国	8月16日～8月23日	同上	同上	
9	古谷　毅	韓国	8月23日～8月28日	科研調査及び研究会のため	同上	
10	猪熊　兼樹	中国	9月17日～9月23日	科学研究費による調査のため	同上	
11	末兼　俊彦	ポルトガル	9月18日～9月25日	同上	同上	
12	和田　浩	フランス	9月27日～10月2日	ICOM-CC国際会議への参加のため	同上	
13	神庭　信幸	米国	10月23日～10月30日	講演及び科研調査のため	同上	
14	小山　弓弦葉	米国	10月31日～11月7日	科学研究費による作品調査のため	同上	
15	田良島　哲	米国	11月1日～11月6日	科学研究費による調査のため	同上	
16	白井　克也	米国	11月1日～11月6日	同上	同上	
17	富田　淳	中国	11月20日～11月25日	同上	同上	
18	関　紀子	中国	11月20日～11月25日	同上	同上	
19	和田　浩	中国	11月21日～11月23日	中国国家博物館における資料調査のため	同上	
20	矢野　賀一	中国	11月21日～11月23日	同上	同上	
21	鬼頭　智美	米国	12月6日～12月13日	科学研究費による調査のため	同上	
22	丸山　士郎	中国	12月20日～12月21日	故宮博物院特別展「梵天東土 并蒂蓮華」熟覧のため	同上	
23	西木　政統	中国	12月20日～12月21日	同上	同上	
24	古谷　毅	韓国	29 年 2 月 1 日～2 月 5 日	科研調査及び研究会のため	同上	
25	和田　浩	ドイツ	29年2月8日～2月12日	Pinakothek der ModerneおよびMunchner Stadtmuseumにおける調査と情報収集のため	同上	
26	田良島　哲	台湾	29年2月9日～2月12日	科学研究費による調査のため	同上	
27	鬼頭　智美	台湾	29年2月9日～2月12日	同上	同上	
28	楊　鋭	台湾	29年2月9日～2月12日	同上	同上	
29	丸山　士郎	スリランカ	29年2月25日～3月2日	同上	同上	
30	西木　政統	スリランカ	29年2月25日～3月2日	同上	同上	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
31	和田　浩	スペイン	29年3月5日～3月11日	International Safe Transit Association European Packaging Symposiumへの参加及び研究成果発表のため	同上	
32	瀬谷　愛	米国	29年3月24日～3月31日	研究発表及び調査のため	同上	

○その他助成金：延べ4人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	ミウォシュ・ヴォズニ	米国	5 月 30 日～6 月 5 日	ハーバード大学、ボストン美術館における調査のため	公益財団法人出光文化福祉財団助成金	
2	救仁郷　秀明	ドイツ、オーストリア、スイス、イギリス	6月17日～6月28日	ヨーロッパの博物館及び美術館の展示に関する調査のため	地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業補助金	
3	ミウォシュ・ヴォズニ	イギリス	6月24日～6月28日	ヨーロッパの博物館及び美術館の展示に関する調査のため	地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業補助金	
4	ミウォシュ・ヴォズニ	米国	29年3月23日～3月26日	作品調査及び視察のため	公益財団法人出光文化福祉財団助成金	

【京都国立博物館】延べ　21人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	山本　英男	アメリカ	4月13日～21日	海北友松展作品調査及び出品交渉	寄付金	
2	リンネマリサ	アメリカ	4月14日～21日	海北友松展作品調査補助、戦時写真記録展覧会視察	同上	
3	佐々木　丞平	中国	5月9日～12日	「菩提の世界：醍醐寺芸術珍宝展」開会式出席及び視察	他機関負担	
4	リンネマリサ	アメリカ	5月24日～31日	アメリカ博物館協会大会にて発表及び2019年ICOM京都大会広報	他機関負担	
5	佐々木　丞平	イタリア	7月2日～11日	ICOMミラノ大会出席	他機関負担	
6	山川　曉	イタリア	7月3日～11日	ICOMミラノ大会及び分科会出席、発表、施設見学	他機関負担	
7	永島　明子	イタリア	7月2日～11日	同上	同上	
8	リンネマリサ	イタリア	7月2日～11日	ICOMミラノ大会出席及び視察	運営費交付金	
9	伊藤　嘉章	イタリア	7月2日～7日	ICOMミラノ大会出席及び視察	同上	
10	淺湫　毅	中国	7月11日～16日	「菩提の世界：醍醐寺芸術珍宝展」出品作品撤収作業	他機関負担	
11	大原　嘉豊	中国	7月20日～26日	「梵音東海：日本醍醐寺国宝展」の展示作業のため	同上	
12	伊藤　信二	中国	7月21日～26日	同上	同上	
13	佐々木　丞平	中国	7月26日～29日	「梵音東海：日本醍醐寺国宝展」開会式出席及び視察	同上	
14	淺湫　毅	イタリア	8月28日～9月5日	文化庁主催海外展「日本仏像展」開催に伴う会場運営	同上	
15	井並　林太郎	中国	9月17日～23日	寺院・博物館の仏教美術調査	科学研究費助成事業	
16	伊藤　信二	中国	9月18日～26日	寺院・博物館の仏教美術調査、「醍醐寺展」の作品撤収作業	同上	
17	佐々木　丞平	クロアチア	9月20日～26日	「The Best in Heritage」開幕式出席、「京都景観賞」発表	他機関負担	
18	大原　嘉豊	中国	9月20日～26日	「梵音東海：日本醍醐寺国宝展」の展示撤収作業のため	同上	
19	呉　孟晋	中国	11月2日～6日	国際シンポジウム「斉白石芸術的現代性与世界性」参加・発表	同上	
20	呉　孟晋	台湾	12月21日～23日	「公主的雅集：蒙元皇室与書画鑑蔵文化特展」参観及び作品調査	科学研究費助成事業	
21	大原　嘉豊	中国	29年3月8日～10日	「東アジア美術における仏伝の表象」調査研究	科学研究費助成事業	

【奈良国立博物館】延べ　16人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	岩井　共二	中国	8月1日～8月15日	中国河南博物院との協定に基づく学術交流	他機関負担	河南博物院（中国）
2	伊藤　久美	韓国	11月28日～12月26日	韓国国立慶州博物館との協定に基づく学術交流	同上	国立慶州博物館（韓国）
3	北澤　菜月	中国	29年1月11日～1月20日	中国上海博物館との協定に基づく学術交流	同上	上海博物館他（中国）
4	堀内　しきぶ	中国	29年1月11日～1月20日	同上	同上	同上

・その他の調査等のための海外渡航実績

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
5	湯山　賢一	中国	5月9日～5月12日	上海博物館特別展「醍醐寺展」開会式、レセプションに出席	他機関負担	上海博物館、揚州博物館他（中国）
6	堀内　しきぶ	イタリア	7月3日～7月11日	ICOMミラノ大会参加	運営費交付金	Milano Congressi（イタリア）
7	岩田　茂樹	イタリア	7月13日～8月1日	文化庁海外展　作品輸送随行・展示作業	他機関負担	ローマ市立クイリナーレ宮美術館（イタリア）
8	谷口　耕生	アメリカ	8月28日～9月4日	科研費「春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究」に係る仏教美術調査	科学研究費助成事業	ブルックリン美術館、アジアソサエティー他（アメリカ）

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
9	北澤　菜月	アメリカ	8月28日～9月4日	科研費「春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究」に係る仏教美術調査	同上	同上
10	山口　隆介	アメリカ	8月28日～9月4日	同上	同上	同上
11	伊藤　久美	アメリカ	8月28日～9月4日	同上	同上	同上
12	岩田　茂樹	台湾	12月19日～12月22日	古代日本美術の源流に関する調査研究	他機関負担	故宮博物院、国立歴史博物館（台湾）
13	北澤　菜月	台湾	12月24日～12月26日	科研費「作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究」に伴う文化財調査	科学研究費助成事業（分担）	同上
14	田澤　梓	台湾	12月24日～12月26日	メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成「8世紀に制作された鏡の図像の意味－法隆寺献納宝物海磯鏡を中心に」に係る文化財調査	助成金（メトロポリタン東洋美術研究センター）	同上
15	田澤　梓	中国	12月29日～1月2日	同上	同上	上海博物館、龍博物館、蘇州博物館他（中国）
16	谷口　耕生	中国	29年3月8日～3月10日	科研費「作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究」に伴う現地調査	科学研究費助成事業（分担）	上海博物館、浙江省博物館他（中国）

【九州国立博物館】延べ　67人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	臺信裕爾	中国	4月14日～19日	「図書館・文書館所蔵文化財保存に関する高精細画像技術シンポジウム」における招待講演	他機関負担	
2	小泉惠英	韓国	4月17日～19日	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」に係る協力依頼・協議および交流事業に係る協議	運営費交付金	
3	島谷弘幸	韓国	4月17日～19日	同上	運営費交付金	
4	岸本圭	韓国	4月17日～21日	同上	他機関負担	アジア文化交流センター負担
5	小嶋篤	韓国	4月17日～21日	同上	他機関負担	アジア文化交流センター負担
6	赤田昌倫	タイ王国	4月27日～30日	日タイ修好130周年特別展「タイ～仏の国の輝き～」展に係る調査および協議	運営費交付金	
7	秋山純子	タイ王国	4月27日～30日	同上	運営費交付金	
8	小泉惠英	タイ王国	4月27日～5月8日	日タイ修好130周年特別展「タイ～仏の国の輝き～」展に係る調査および協議、基盤（B）「日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究」に係る調査	運営費交付金および科学研究費助成事業（分担）	
9	原田あゆみ	タイ王国	4月27日～5月8日	同上	運営費交付金および科学研究費助成事業	
10	望月規史	タイ王国	4月27日～5月8日	同上	運営費交付金および科学研究費助成事業（分担）	
11	島谷弘幸	中国	5月9日～12日	上海博物館での醍醐寺展開会式出席および大明寺視察	他機関負担	
12	川村佳男	中国	5月18日～23日	基盤（B）「極薄青銅器と響銅を対象とした製作技術の比較-東アジア金属工芸史の再構築-」に係る調査および打ち合わせ	科学研究費助成事業	
13	小泉惠英	イタリア	6月23日～29日	水中遺跡の保存活用に関する調査研究事業に係る現地調査	受託経費（文化庁）	
14	佐々木蘭貞	イタリア	6月23日～29日	同上	受託経費（文化庁）	
15	島谷弘幸	イタリア	6月30日～7月11日	皇室用美術工芸品の修理の指導／ICOM世界大会出席	他機関負担および運営費交付金	
16	鷲頭桂	ロシア	7月10日～14日	海外ミュージアム日本専門家連携・交流事業に伴う海外調査	他機関負担	
17	楠井隆志	中国	7月19日～24日	海外展「渡海梵音：醍醐寺芸術珍宝展」に係る展示作業	他機関負担	
18	森實久美子	中国	7月21日～27日	同上	他機関負担	
19	進村真之	韓国	8月2日～5日	沖ノ島展に係る協議	他機関負担	アジア文化交流センター負担
20	楠井隆志	イタリア	8月7日～21日	文化庁海外展における在番	他機関負担	
21	八尋智之	韓国	9月12日～18日	学術文化交流事業に基づく研究者等の交流	他機関負担	アジア文化交流センター負担
22	久保田和之	韓国	8月12日～25日	同上	他機関負担	アジア文化交流センター負担
23	進村真之	韓国	8月18日～21日	基盤（B）「国宝桜ヶ丘銅鐸の総合診断調査と今後の保存活用―発見50年目を迎えるにあたって―」に係る学会参加	科学研究費助成事業	
24	小泉惠英	中国	8月18日～21日	瀋陽故宮展に係る打ち合わせ・調査	運営費交付金	
25	川村佳男	中国	8月18日～25日	同上	運営費交付金	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
26	落合晴彦	韓国	8月19日～25日	学術文化交流事業に基づく研究者等の交流	運営費交付金	
27	畑靖紀	中国	8月20日～23日	海外展「渡海梵音：醍醐寺芸術珍宝展」に係る展示替え作業	他機関負担	
28	原田あゆみ	中国	8月21日～25日	瀋陽故宮展に係る打ち合わせ・調査	運営費交付金	
29	小嶋篤	韓国	8月28日～31日	資料調査	他機関負担	アジア文化交流センター負担
30	小泉惠英	タイ王国	9月5日～13日	日タイ修好130周年特別展「タイ～仏の国の輝き～」展に係る調査および協議、文化庁海外展「日本美術の流れ（仮称）」展にかかる調査および協議	運営費交付金	
31	原田あゆみ	タイ王国	9月5日～13日	同上	運営費交付金	
32	島谷弘幸	中国	9月12日～16日	博物館事業に係る協議および中国博物館博覧会参加	運営費交付金	
33	河野一隆	中国	9月12日～16日	同上	運営費交付金	
34	原田あゆみ	中国	9月20日～26日	海外展「渡海梵音：醍醐寺芸術珍宝展」に係る撤収作業	他機関負担	
35	鷲頭桂	韓国	9月25日～27日	特別展「高山寺」展に係る集荷作業	運営費交付金	
36	小泉惠英	韓国	9月28日～10月2日	ヨンウォル国際博物館フォーラム出席のため	他機関負担	
37	志賀智史	ベトナム	10月5日～8日	ベトナム国立歴史博物館との学術文化交流に係る修理事業調査	運営費交付金	
38	鷲頭桂	ポルトガル	10月11日～11月9日	協議および特別展「新・桃山展」に係る展示調査	運営費交付金	
39	酒井田千明	ポルトガル	10月15日～23日	特別展「新・桃山展」作品調査	運営費交付金	
40	畑靖紀	ポルトガル	10月15日～23日	同上	運営費交付金	
41	川村佳男	中国	10月17日～31日	基盤（B）「極薄青銅器と響銅を対象にした制作技術の比較－東アジア金属工芸史の再構築－」に係る学会参加	他機関負担および科学研究費助成事業	
42	志賀智史	ベトナム	10月23日～26日	ベトナム国立歴史博物館との学術文化交流に係る修理事業調査	運営費交付金	
43	佐々木蘭貞	韓国	10月25日～29日	新案沈没船発掘40周年シンポジウム講演	他機関負担	
44	河野一隆	インドネシア	10月29日～11月2日	基盤（B）「史学と自然科学の融合研究で探る幕末明治期における地域鉄産業の変貌と展開」に係る調査	科学研究費助成事業（分担）	
45	島谷弘幸	中国	11月21日～23日	瀋陽故宮博物院との学術文化交流協定締結のため	運営費交付金	
46	川村佳男	中国	11月21日～23日	同上	運営費交付金	
47	西島亜木子	台湾	11月24日～28日	教育普及国際シンポジウム参加および教育普及に係る調査	他機関負担	
48	望月規史	台湾	11月29日～12月6日	台湾故宮博物院南院展展示作業	他機関負担	
49	島谷弘幸	台湾	12月11日～13日	同上	運営費交付金	
50	伊藤嘉章	台湾	12月11日～13日	同上	運営費交付金	
51	小泉惠英	台湾	12月11日～13日	同上	運営費交付金	
52	井上裕介	台湾	12月11日～13日	同上	運営費交付金	
53	今井涼子	韓国	12月18日～20日	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」に係る作品借用	他機関負担	アジア文化交流センター負担
54	原田あゆみ	タイ王国	12月20日～24日	日タイ修好130周年特別展「タイ～仏の国の輝き～」展および文化庁海外展「日本美術の流れ（仮）」に係る協議	運営費交付金	
55	西島亜木子	タイ王国	29年1月16日～21日	日タイ修好130周年特別展「タイ ～仏の国の輝き～」展に係る教育普及調査のため	運営費交付金	
56	望月規史	台湾	29年1月21日～25日	台湾故宮博物院南院展展示替え作業	他機関負担	
57	楠井隆志	台湾	29年2月10日～12日	福岡県知事の故宮博物院および南院處の表敬訪問に係るアテンド	他機関負担	アジア文化交流センター負担
58	秋山純子	タイ王国	29年2月14日～17日	文化庁海外展「日本美術の流れ（仮）」に係る環境調査	運営費交付金	
59	臺信裕爾	韓国	29年2月21日～24日	アジア諸国の文化財防災に関する調査・情報収集	平成28年度文化芸術振興費補助金	
60	三角菜緒	韓国	29年2月21日～24日	同上	平成28年度文化芸術振興費補助金	
61	進村真之	韓国	29年2月21日～24日	同上	平成28年度文化芸術振興費補助金	
62	川村佳男	中国	29年2月22日～25日	基盤（B）「極薄青銅器と響銅を対象にした制作技術の比較－東アジア金属工芸史の再構築－」に係る協議	科学研究費助成事業	
63	島谷弘幸	ドイツ・スイス	29年3月6日～12日	基盤（A）「在欧日本仏教美術の包括的調査・ﾃﾞｼﾞﾀﾙ化とそれに基づくｼﾞｬﾎﾟﾆｽﾞﾑの総合研究」に係る調査	科学研究費助成事業	
64	森實久美子	ドイツ・スイス	29年3月6日～12日	同上	科学研究費助成事業（分担）	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
65	今井涼子	韓国	29年3月8日～10日	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」に係る作品返却	他機関負担	アジア文化交流センター負担
66	小泉惠英	タイ王国	29年3月10日～24日	日タイ修好130周年特別展「タイ ～仏の国の輝き～」展に係る作品借用・輸送作業	運営費交付金	
67	原田あゆみ	タイ王国	29年3月10日～27日	同上	運営費交付金	

【東京文化財研究所】延べ　131人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	安倍　雅史	イラン、アルメニア	9月26日～10月6日	イラン・アルメニアにおける相手国調査	運営交付金	
2	安倍　雅史	イラン	12月20日～12月27日	国立博物館所蔵資料の分析	科学研究費	
3	安倍　雅史	バーレーン	29年1月5日～1月31日	ワーディー・アッ＝サイル古墳群の発掘調査	科学研究費(分担金)	
4	飯島　満	韓国	8月29日～8月31日	韓国国立無形遺産院との共同研究会に参加	運営交付金	
5	石田　真弥	スウェーデン、ドイツ、イギリス、イタリア、ギリシャ	9月18日～10月7日	近代文化遺産(美術工芸品)の保存活用に関する海外事例調査	受託(文化庁) 運営交付金	
6	石村　智	グアム	5月21日～5月29日	太平洋芸術祭でのワークショップ参加および準備	受託(文化庁)	
7	石村　智	フィリピン	7月3日～7月8日	「無形文化遺産と災害リスクマネジメント」事業で実施するフィリピン調査への参加	他機関負担	
8	石村　智	キリバス共和国	8月16日～8月23日	スカイスケープ科研の調査協力	他機関負担	
9	石村　智	韓国	8月29日～8月31日	韓国国立無形遺産院との共同研究会に参加	運営交付金	
10	石村　智	ネパール	10月4日～10月9日	カトマンズ・コカナにおける無形文化遺産(祭礼)の調査	受託(文化庁)	
11	石村　智	フィジー共和国	10月22日～10月30日	「無形文化遺産と災害リスクマネジメント」事業で実施するフィジー調査への参加	他機関負担 受託(文化庁)	
12	石村　智	カンボジア	12月10日～12月15日	科研費によるポスト・アンコール期遺跡の調査	科学研究費(分担金)	
13	今石　みぎわ	韓国	8月29日～8月31日	韓国国立無形遺産院との共同研究会に参加	運営交付金	
14	元　喜載	ドイツ	7月3日～7月17日	ワークショップ「日本の紙本絹本文化財の保存と修復」開催	文化財保存活用基金	
15	元　喜載	メキシコ	11月7日～11月27日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催	運営交付金	
16	元　喜載	ドイツ	29年2月27日～3月3日	日本絵画作品の調査	運営交付金	
17	元　喜載	アメリカ	29年3月21日～3月24日	絵画作品調査	運営交付金	
18	江村　知子	ドイツ	12月2日～12月9日	漆工品の保存と修復ワークショップの運営の補佐	文化財保存活用基金	
19	江村　知子	ドイツ	29年2月27日～3月4日	日本絵画作品の調査	運営交付金	
20	江村　知子	アメリカ	29年3月21日～3月24日	絵画作品調査	運営交付金	
21	岡田　健	アメリカ	4月30日～5月9日	アメリカの美術館等所蔵の中国仏教造像及び造像銘の調査	他機関負担	
22	岡田　健	中国	29年1月10日～1月17日	敦煌研究院保護研究所共同研究室の廃止にともなう整理作業、情報収集	運営交付金	
23	小田　桃子	ドイツ	7月3日～7月17日	ワークショップ「日本の紙本絹本文化財の保存と修復」開催	文化財保存活用基金	
24	小田　桃子	台湾	8月9日～8月13日	国際研修「染織品の保存と修復」事業の為の協議	文化財保存活用基金	
25	小田　桃子	メキシコ	11月7日～11月19日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催	運営交付金	
26	加藤　雅人	ドイツ	7月3日～7月16日	ワークショップ「日本の紙本絹本文化財の保存と修復」開催	文化財保存活用基金	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
27	加藤　雅人	台湾	8月9日～8月13日	国際研修「染織品の保存と修復」事業の為の協議	文化財保存活用基金	
28	加藤　雅人	メキシコ	11月7日～11月19日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催	運営交付金	
29	加藤　雅人	ドイツ	29年2月27日～3月3日	日本絵画作品の調査	運営交付金	
30	加藤　雅人	アメリカ	29年3月21日～3月24日	絵画作品調査	運営交付金	
31	亀井　伸雄	トルコ	6月18日～6月24日	壁画の保存状態現地調査	運営交付金	
32	亀井　伸雄	ブータン	8月28日～9月5日	科研費事業によるブータン現地調査	科学研究費	
33	亀井　伸雄	ネパール	11月26日～12月2日	歴史的集落の保全に関する会議における講演および現地視察	運営交付金	
34	亀井　伸雄	イギリス、イタリア	29年2月14日～2月22日	欧文日本美術関係文献入力に関する協議・講演　他	運営交付金	
35	亀井　伸雄	ブータン	29年3月4日～3月10日	科研費事業による古民家・集落調査	科学研究費	
36	川野邊　渉	イタリア	11月7日～11月12日	ICCROM理事会出席	他機関負担	
37	菊池　理予	台湾	8月9日～8月13日	国際研修「染織品の保存と修復」事業の為の協議	文化財保存活用基金	
38	菊池　理予	韓国	8月29日～8月31日	韓国国立無形遺産院との共同研究会に参加	運営交付金	
39	北河　大次郎	スウェーデン、ドイツ、イギリス、イタリア、ギリシャ	9月18日～10月7日	近代文化遺産(美術工芸品)の保存活用に関する海外事例調査	受託(文化庁) 運営交付金	
40	北河　大次郎	ミャンマー	10月25日～10月30日	バガン考古遺跡群における建造物の地震被害調査	受託(文化庁)	
41	北河　大次郎	アメリカ	29年3月5日～3月16日	近代産業遺産の保存活用に関する現地調査	受託(文化庁)	
42	橘川　英規	ルーマニア	9月12日～9月18日	2016 EAJRS CONFERENCE IN BUCHAREST での講演及び参加	他機関負担	
43	橘川　英規	アメリカ	29年2月13日～2月20日	アーカイブ視察、The College Art Association: Annual Conference参加　他	科学研究費	
44	橘川　英規	アメリカ	29年3月19日～3月24日	GRI との「日本美術の共同研究推進に関する協定」に関する打合せ及び関連施設視察	運営交付金	
45	金　善旭	ミャンマー	9月24日～9月30日	バガン考古遺跡群における建造物および壁画の地震被害状況調査	運営交付金	
46	金　善旭	ミャンマー	10月27日～11月3日	バガン考古遺跡群における建造物の地震被害調査	受託(文化庁)	
47	金　善旭	ネパール	11月25日～12月2日	ネパール事業に伴う現地調査	受託(文化庁)	
48	久保田　裕道	韓国	8月29日～8月31日	韓国国立無形遺産院との共同研究会に参加	運営交付金	
49	久保田　裕道	ネパール	10月4日～10月9日	カトマンズ・コカナにおける無形文化遺産(祭礼)の調査	受託(文化庁)	
50	久保田　裕道	韓国	11月18日～11月20日	済州チルモリ堂燃燈グッ保存会が開催する国際会議「国家重要無形文化財済州チルモリ堂燃燈グッの発展方向と課題」への参加	他機関負担	
51	久保田　裕道	ベトナム	12月14日～12月21日	「無形文化遺産と災害リスクマネジメント」事業で実施するベトナム調査への参加	他機関負担	
52	久米　正吾	キルギス共和国	4月21日～5月8日	発掘調査	科学研究費(分担金)	
53	後藤　里架	ドイツ	7月3日～7月17日	ワークショップ「日本の紙本絹本文化財の保存と修復」開催	文化財保存活用基金	
54	後藤　里架	ドイツ	11月27日～12月14日	漆工品の保存と修復ワークショップの運営の補佐	文化財保存活用基金	
55	小林　公治	ポルトガル、スペイン、トルコ	9月17日～10月8日	各国内での調査	科学研究費	
56	佐藤　有希子	アメリカ	9月12日～9月18日	メトロポリタン美術館にて不動明王坐像の熟覧	科学研究費	
57	佐藤　有希子	中国	29年2月15日～2月21日	河北の白玉像と仏教遺跡の調査研究	運営交付金	
58	佐野　千絵	イラン	10月1日～10月6日	イランにおける相手国調査	運営交付金	
59	皿井　舞	イタリア	7月30日～8月11日	「日本仏像展」開催に伴う会場運営業務	他機関負担	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
60	皿井　舞	イタリア	10月27日～10月31日	International Conference of Art Libraries - Registratzion に参加	運営交付金	
61	皿井　舞	アメリカ	29年3月9日～3月17日	日本美術史に関する国際大学院生会議の委員として当該会議に出席するため	他機関負担	
62	塩谷　純	イギリス	29年2月13日～2月18日	欧文日本美術関係文献入力に関する協議・講演	運営交付金	
63	鴫原　由美	ミャンマー	7月18日～7月29日	バガン考古遺跡群の調査、考古・国立博物館局長および駐ミャンマー日本国大使の表敬訪問	運営交付金	
64	鴫原　由美	ドイツ	11月27日～12月14日	漆工品の保存と修復ワークショップの運営の補佐	文化財保存活用基金	
65	鴫原　由美	ミャンマー	29年2月5日～2月21日	漆工品ワークショップの運営、現地調査	運営交付金	
66	鈴木　絢香	グアム	5月25日～5月29日	太平洋芸術祭でのワークショップ参加および準備	受託(文化庁)	
67	鈴木　絢香	フランス	10月22日～10月30日	第40回世界遺産委員会への参加及び近代文化遺産の調査	運営交付金	
68	津田　徹英	イギリス	29年2月13日～2月18日	欧文日本美術関係文献入力に関する協議・講演	運営交付金	
69	友田　正彦	ベトナム	4月14日～4月18日	SEASRIPシンポジウム参加	他機関負担	
70	友田　正彦	ネパール	4月22日～4月26日	現地関係者との打合せ、被災建造物の調査　他	受託(文化庁)	
71	友田　正彦	ネパール	6月13日～6月19日	被災文化遺産に係る現地調査および協議等	受託(文化庁)	
72	友田　正彦	ミャンマー	7月23日～7月29日	バガン考古遺跡群の調査、考古・国立博物館局長および駐ミャンマー日本国大使の表敬訪問	運営交付金	
73	友田　正彦	ブータン	8月28日～9月3日	科研費事業によるブータン現地調査	科学研究費	
74	友田　正彦	ネパール	9月4日～9月9日	拠点交流事業によるネパール現地調査	受託(文化庁)	
75	友田　正彦	イラン、アルメニア	9月26日～10月6日	イラン・アルメニアにおける相手国調査	運営交付金	
76	友田　正彦	タイ王国	10月18日～10月22日	ユネスコ主催「世界遺産サイトにおける煉瓦造遺跡の保存に関する国際シンポジウム」出席	他機関負担	
77	友田　正彦	ミャンマー	10月25日～11月3日	バガン考古遺跡群における建造物の地震被害調査	受託(文化庁)	
78	友田　正彦	ネパール	11月25日～12月2日	ネパール事業に伴う現地調査	受託(文化庁)	
79	友田　正彦	カンボジア	29年1月23日～1月29日	タネイ遺跡保存整備計画策定のためのワークショップ開催及びアンコール国際調整委員会会合出席	運営交付金	
80	友田　正彦	ネパール	29年2月14日～2月19日	「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」に係る現地調査	受託(文化庁)	
81	友田　正彦	ブータン	29年3月4日～3月14日	科研費事業による古民家・集落調査	科学研究費	
82	中村　恵	メキシコ	11月7日～11月14日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催	運営交付金	
83	中山　俊介	トルコ	6月18日～6月24日	壁画の保存状態現地調査	運営交付金	
84	中山　俊介	ドイツ、トルコ	7月6日～7月19日	国際研修の現地視察及び世界遺産委員会出席	運営交付金	
85	中山　俊介	ミャンマー	7月24日～7月29日	ミャンマーの壁画保護に関わる現地調査	運営交付金	
86	中山　俊介	スウェーデン、ドイツ、イギリス	9月18日～9月30日	近代文化遺産(美術工芸品)の保存活用に関する先進事例調査	受託(文化庁)	
87	中山　俊介	フランス、トルコ	10月22日～11月5日	世界遺産委員会継続審議出席/壁画保存事業に関する打ち合わせ	運営交付金	
88	中山　俊介	メキシコ	11月7日～11月14日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催	運営交付金	
89	中山　俊介	ドイツ	11月27日～12月5日	漆工品の保存と修復ワークショップの運営の補佐	文化財保存活用基金	
90	中山　俊介	アメリカ	29年3月5日～3月16日	近代産業遺産の保存活用に関する現地調査	受託(文化庁)	
91	早川　典子	ミャンマー	29年2月5日～2月9日	漆工品ワークショップの運営	運営交付金	
92	早川　泰弘	中国	7月5日～7月8日	国際シンポジウム参加	他機関負担	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
93	林　昌宏	台湾	8月9日～8月13日	国際研修「染織品の保存と修復」事業の為の協議	運営交付金	
94	二神　葉子	トルコ	7月9日～7月19日	第40回世界遺産委員会に係る調査	運営交付金	
95	二神　葉子	モンゴル	8月9日～8月15日	ハン・ヘンティプロジェクトに係る調査	科学研究費(分担金)	
96	二神　葉子	韓国	8月29日～8月31日	韓国国立無形遺産院との共同研究会に参加	運営交付金	
97	二神　葉子	イタリア、フランス	10月17日～10月28日	文化財防災に関する調査/世界遺産委員会への出席	運営交付金 科学研究費	
98	二神　葉子	イタリア	29年2月12日～2月16日	文化財カタログに関する聞き取り調査	運営交付金	
99	古澤　誠	ドイツ	7月6日～7月10日	ベルリンにおいて、実施する国際研修(紙文化財修復に関する研修)の現地視察	運営交付金	
100	前川　佳文	トルコ	6月18日～6月24日	カッパドキア岩窟教会群壁画の状態調査および文化観光省等の訪問	運営交付金	
101	前川　佳文	ミャンマー	7月18日～7月29日	バガン考古遺跡群の調査、考古・国立博物館局長および駐ミャンマー日本国大使の表敬訪問	運営交付金	
102	前川　佳文	イタリア	8月30日～9月16日	ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	科学研究費	
103	前川　佳文	ミャンマー	9月24日～9月30日	バガン考古遺跡群における建造物および壁画の地震被害状況調査	運営交付金	
104	前川　佳文	トルコ	10月29日～11月14日	壁画の保存管理体制についての調査	運営交付金	
105	前川　佳文	イタリア	11月28日～12月11日	ポンペイおよびエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	科学研究費	
106	前川　佳文	エジプト	12月27日～1月6日	エジプト、ルクソール西岸の新王国時代岩窟墓の形成と発展に関する調査研究	科学研究費(分担金)	
107	前川　佳文	ミャンマー	29年2月5日～2月28日	担当者との協議、現地調査	運営交付金 受託(文化庁)	
108	増渕　麻里耶	トルコ	6月18日～6月24日	カッパドキア岩窟教会群壁画の状態調査および文化観光省等の訪問	運営交付金	
109	増渕　麻里耶	ミャンマー	7月20日～7月29日	バガン考古遺跡群の調査、考古・国立博物館局長および駐ミャンマー日本国大使の表敬訪問	運営交付金	
110	増渕　麻里耶	イギリス	8月29日～9月7日	鉄製品のサンプリングおよび文献調査	科学研究費	
111	増渕　麻里耶	トルコ	10月25日～11月14日	鉄製品と壁画の保存管理体制についての調査	運営交付金 科学研究費	
112	増渕　麻里耶	イタリア	12月4日～12月11日	ポンペイおよびエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	科学研究費	
113	マルティネス　アレハンドロ	ミャンマー	10月27日～11月6日	バガン考古遺跡群における建造物の地震被害調査	受託(文化庁)	
114	マルティネス　アレハンドロ	カンボジア	29年1月22日～1月29日	タネイ遺跡保存整備計画策定のためのワークショップ開催及びアンコール国際調整委員会会合出席	運営交付金	
115	マルティネス　アレハンドロ	ブータン	29年3月7日～3月14日	科研費事業による古民家・集落調査	科学研究費	
116	森井　順之	イギリス	9月4日～9月10日	第13回石の劣化と保存に関する国際会議での発表	運営交付金	
117	森井　順之	ネパール	12月24日～12月28日	歴史的建造物の常時微動測定、劣化状態調査	科学研究費(分担金)	
118	山田　大樹	ネパール	4月27日～5月8日	現地関係者との打合せ、被災建造物の調査　他	受託(文化庁)	
119	山田　大樹	ネパール	5月28日～6月4日	ネパール考古局等現地機関とのアガンチェン緊急補強案に関する打合せ	受託(文化庁)	
120	山田　大樹	ネパール	7月3日～7月9日	ネパール事業現地調査	受託(文化庁)	
121	山田　大樹	ネパール	8月31日～9月11日	拠点交流事業によるネパール現地調査	受託(文化庁)	
122	山田　大樹	イラン	10月1日～10月14日	イラン相手国調査	運営交付金 科学研究費	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
123	山田　大樹	ネパール	11月23日～12月6日	ネパール事業に伴う現地調査	受託(文化庁)	
124	山田　大樹	イラン	29年1月1日～1月11日	若手(B)イラン科研現地調査	科学研究費	
125	山梨　絵美子	アメリカ	10月15日～10月19日	招へい者グッド長橋広行氏(ピッツバーグ大学図書館)への現地ヒアリングならびにセミナー講師	他機関負担	
126	山梨　絵美子	ドイツ	12月7日～12月14日	漆工品の保存と修復ワークショップの運営の補佐	文化財保存活用基金	
127	山梨　絵美子	アメリカ	29年3月19日～3月23日	矢代幸雄・バーナード・ベレンソン関係資料調査	科学研究費(分担金)	
128	山之上　理加	ドイツ	7月4日～7月8日	ワークショップ「日本の紙本絹本文化財の保存と修復」開催	文化財保存活用基金	
129	山府木　碧	ミャンマー	29年2月5日～2月9日	漆工品ワークショップの運営	運営交付金	
130	山村　みどり	アメリカ	29年2月10日～2月28日	ニューヨーク大学およびアメリカ美術学会での成果発表、対日文化政策等調査	科学研究費	
131	山村　みどり	アメリカ	29年3月5日～3月15日	『Yayoi Kusama Infinity Mirrors』展シンポジウム登壇と米公文書館調査のため	他機関負担	

【奈良文化財研究所】延べ　108人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	杉山　洋	カンボジア	4月5日～4月12日	西トップ遺跡の調査修復	助成金((公財)朝日新聞文化財団)	
2	田村　朋美	中国	4月8日～4月11日	The 24th International Congress on Glass に出席、研究発表	科学研究費助成事業	
3	山藤　正敏	オーストリア	4月23日～4月30日	第10回国際古代近東考古学会への参加	助成金((公財)日本科学協会)	
4	国武　貞克	マレーシア	5月2日～5月8日	先史時代文化財の調査	他機関負担	
5	影山　悦子	フランス	5月2日～5月13日	ソグディアナの考古・美術に関する史料調査、研究者との情報交換	渡航費：他機関負担 滞在費：科学研究費助成事業	
6	脇谷　草一郎	中国	5月6日～5月8日	南京城城壁の劣化状態視察および劣化要因に関する調査	科学研究費助成事業(分担)	
7	海野　聡	イギリス	5月10日～5月16日	イギリスにおける復元建物および歴史的建造物の調査	科学研究費助成事業	
8	今井　晃樹	韓国	5月11日～5月15日	科研費にともなう遺跡・遺物の調査	科学研究費助成事業	
9	加藤　真二	中国	5月12日～5月21日	科研費による霊井関連遺跡出土土器の調査	科学研究費助成事業	
10	杉山　洋	カンボジア	5月14日～5月18日	ポストアンコール期遺跡の調査研究	科学研究費助成事業	
11	諫早　直人	韓国	5月15日～5月21日	「古代東北アジアにおける金工品の生産･流通構造に関する考古学的研究」の類例調査	科学研究費助成事業	
12	丹羽　崇史	中国	5月20日～5月25日	中国考古学会大会への参加	科学研究費助成事業	
13	廣瀬　覚	韓国	5月24日～5月27日	科研費における研究遂行にかかるチャラボン古墳･金山里古墳出土発埴輪の資料調査のため	他機関負担	
14	森本　晋	タイ	5月28日～6月3日	考古学協会ならびに東南アジア考古学会議出席	科学研究費助成事業	
15	杉山　洋	タイ・カンボジア	5月30日～6月2日	SPAFA第2回シンポジウムへの出席およびシェムリアップでの事務所経費の支払い	科学研究費助成事業(運営費交付金：6/1シェムリアップ往復)	
16	森本　晋	スペイン	6月7日～6月13日	第2回ユネスコ・シルクロード・オンライン基盤国際ネットワーク会議出席・発表	運営費交付金、一部他機関負担	
17	丹羽　崇史	アメリカ	6月7日～6月18日	第7回世界東アジア考古学会(SEAA7)での発表、関連資料の調査	科学研究費助成事業	
18	金田　明大	イギリス、スウェーデン、デンマーク、フランス	6月19日～8月23日	科研費(国際共同研究加速基金)による研究のため	科学研究費助成事業	
19	森本　晋	カンボジア	6月20日～6月25日	アンコール地域遺跡調査修復事業国際調整整備委員会出席	科学研究費助成事業	
20	杉山　洋	カンボジア	7月4日～7月10日	ポストアンコール遺跡群の調査研究	助成金((公財)朝日新聞文化財団)	
21	佐藤　由似	カンボジア	7月4日～7月10日	同上	科学研究費助成事業	
22	丹羽　崇史	韓国	7月9日～7月10日	資料見学	科学研究費	
23	森本　晋	トルコ、オーストリア	7月9日～7月25日	ユネスコ世界遺産委員会出席、情報基準資料の調査	運営費交付金	
24	浦　蓉子	韓国	7月14日～7月18日	木器の類例調査	助成金((公財)高梨学術奨励基金)	
25	佐藤　由似	カンボジア	7月25日～7月29日	ポスト・アンコール期に関する調査	科学研究費助成事業	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
26	加藤　真二	中国	8月1日～8月6日	科研費による霊井関連遺跡出土土器の調査	科学研究費助成事業	
27	影山　悦子	ミャンマー	8月6日～8月13日	ミャンマー出土陶磁器の調査	受託(文化庁)	
28	降幡　順子	ミャンマー	8月6日～8月13日	ミャンマー出土陶磁器の調査	科学研究費助成事業(分担)	
29	杉山　洋	ミャンマー、カンボジア	8月6日～8月18日	文明の東西回廊の関連調査(ミャンマーに於ける青磁窯の調査)、カンボジアに於けるポストアンコール遺跡の調査	科学研究費助成事業(分担)	
30	佐藤　由似	ミャンマー、カンボジア	8月6日～8月23日	ミャンマー出土陶磁器の調査、クメール黒褐釉陶器の調査	受託(文化庁)、運営費交付金	
31	山口　欧志	モンゴル	8月8日～8月15日	科学研究費による研究のため	科学研究費助成事業(分担)	
32	杉山　洋	カンボジア	8月9日～9月13日	西トップ遺跡の調査修復	助成金((公財)朝日新聞文化財団)	
33	山藤　正敏	キルギス	8月11日～8月22日	アク・ベシム遺跡出土資料の調査	科学研究費助成事業(分担)	
34	丹羽　崇史	台湾	8月13日～8月16日	鋳型・金属製品の調査、打ち合わせ	助成金((公財)高梨学術奨励基金)	
35	田村　朋美	台湾	8月13日～8月16日	同上	助成金((公財)高梨学術奨励基金)	
36	小田　裕樹	中国	8月13日～8月22日	「東アジアにおける都城と葬地の政治的･社会的関連に関する比較史的総合研究」の一環として、河南省周辺地域お墳墓調査	科学研究費助成事業(分担)	
37	森本　晋	アメリカ	8月15日～8月22日	太平洋近隣友好協会2016年総会合同研究会出席	運営費交付金	
38	小田　裕樹	韓国	8月25日～8月27日	「東アジアにおける都城と葬地の政治的･社会的関連に関する比較史的総合研究」の一環として、韓国・忠南大学での研究発表	科学研究費助成事業(分担)	
39	海野　聡	ブータン	8月29日～9月5日	ブータンにおける歴史的建造物調査	科学研究費助成事業	
40	渡邉　晃宏	イギリス	8月30日～9月5日	「文字文化からみた東アジア社会の比較研究」シンポジウムへの参加(奈良大学角谷常子教授の科研によるロンドン大学でのシンポジウム)	他機関負担	
41	今井　晃樹	中国	9月3日～9月11日	北魏洛陽宮城出土遺物の調査	運営費交付金	
42	栗山　雅夫	中国	9月3日～9月11日	同上	運営費交付金	
43	金田　明大	イギリス、スペイン、オーストリア	9月4日～12月23日	科研費(国際共同研究加速基金)による研究のため	科学研究費助成事業	
44	脇谷　草一郎	イギリス	9月5日～9月11日	ICOMOS-ISCS2016に参加、研究発表をおこなう	運営費交付金	
45	佐藤　由似	カンボジア	9月8日～9月13日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金	
46	海野　聡	中国	9月8日～9月20日	CIHA(世界美術史国際会議)における招待講演および山西省調査・資料収集	他機関負担、科学研究費	
47	森本　晋	カンボジア	9月9日～9月13日	アンコール遺跡調査資料の調査	他機関負担	
48	浦　蓉子	中国	9月13日～9月25日	中国田螺山遺跡の木製品調査	他機関負担	
49	山口　欧志	モンゴル	9月13日～9月28日	科研費による研究のため	渡航費：他機関科学研究費助成事業 滞在費：科学研究費助成事業	
50	石田　由紀子	中国	9月16日～9月23日	古代の測量技術と尺度に関する資料調査	他機関負担	
51	佐藤　由似	カンボジア	10月3日～10月11日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金	
52	高妻　洋成	ベトナム	10月6日～10月9日	タンロン皇城遺跡出土土木製遺物の調査と保存に関する技術協力	他機関負担	
53	西山　和宏	フィリピン	10月9日～10月14日	文化遺産ワークショップ2016(ACCU主催)での講師	他機関負担	
54	芝　康次郎	韓国	10月10日～12月2日	国立慶州文化財研究所との発掘交流のため	渡航：運営費交付金 滞在：他機関負担	
55	箱崎　和久	韓国	10月19日～10月22日	皇龍寺址発掘調査40周年記念国際学術大会への参加	他機関負担	
56	鈴木　智大	台湾	10月19日～10月26日	台湾の古建築の建築史的調査	科学研究費助成事業	
57	杉山　洋	カンボジア	10月22日～10月27日	西トップ遺跡の調査修復	助成金((公財)朝日新聞文化財団)	
58	森本　晋	フランス	10月22日～10月30日	アンコール遺跡調査資料、世界遺産委員会出席	科学研究費助成事業	
59	高妻　洋成	オーストリア	10月25日～10月29日	ウィーン世界博物館所蔵大名屋敷の調査	科学研究費助成事業(分担)	
60	中村　一郎	台湾	10月26日～10月28日	中央研究院歴史言語研究所での簡トク撮影、研究交流	科学研究費助成事業	
61	桑田　訓也	台湾	10月26日～10月28日	同上	科学研究費助成事業	
62	杉山　洋	フランス	11月1日～11月6日	ユネスコ主催、世界遺産と博物館国際会議への出席と発表	他機関負担	
63	丹羽　崇史	中国	11月3日～11月6日	国際会議「商周青銅器及鋳造工藝研究」への参加	他機関負担	
64	庄田　慎矢	韓国	11月3日～11月6日	韓国考古学会全国大会に参加するため	科学研究費助成事業(分担)	
65	降幡　順子	モンゴル	11月3日～11月6日	モンゴル地域出土鉛釉陶器の資料調査	科学研究費	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
66	田村　朋美	ウズベキスタン	11月6日～11月12日	ウズベキスタン出土のガラス製遺物等の調査	科学研究費助成事業	
67	影山　悦子	ウズベキスタン	11月6日～11月12日	イスラム以前の壁画等、考古遺物の調査	科学研究費助成事業	
68	森本　晋	タイ	11月11日～11月14日	国際学会「東南アジア大陸部の初期状態と文化関係」出席発表	他機関負担	
69	桑田　訓也	韓国	11月16日～11月19日	研究発表	他機関負担	
70	佐藤　由似	カンボジア	11月17日～11月26日	アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築に関する調査、アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金、 科学研究費助成事業	
71	国武　貞克	中国	11月18日～11月23日	科学研究費による霊井遺跡出土石器の調査	科学研究費助成事業	
72	加藤　真二	中国	11月18日～11月28日	科学研究費による霊井遺跡出土石器等の調査	科学研究費助成事業	
73	杉山　洋	カンボジア	11月23日～11月25日	西トップ遺跡の調査と修復	助成金((公財)朝日新聞文化財団)	
74	箱崎　和久	中国	11月26日～12月3日	中国古代寺院遺跡と古代建築の現地調査	科学研究費助成事業	
75	坪井　久子	中国	11月26日～12月3日	同上	科学研究費助成事業	
76	大橋　正浩	中国	11月26日～12月3日	中国社会科学院考古研究所との学術交流における中国都城遺跡の調査	運営費交付金	
77	若杉　智宏	台湾	11月30日～12月2日	天文図資料調査・施設視察	運営費交付金	
78	石橋　茂登	台湾	11月30日～12月3日	同上	運営費交付金	
79	小沼　美結	台湾	11月30日～12月3日	同上	運営費交付金	
80	森本　晋	ドイツ	11月30日～12月4日	第13回バーミヤーン世界遺産保護専門家会議出席	運営費交付金	
81	佐藤　由似	カンボジア	12月3日～12月14日	西トップ遺跡石材修復に関する調査 アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築に関する調査	助成金((公財)朝日新聞文化財団)、科学研究費助成事業	
82	森本　晋	台湾	12月6日～12月9日	台湾中央研究院歴史言語研究所での研究発表と見学	他機関負担	
83	田村　朋美	台湾	12月6日～12月9日	台湾中央研究院歴史言語研究所での研究発表と資料見学	他機関負担	
84	山崎　健	台湾	12月6日～12月9日	台湾中央研究院歴史言語研究所での研究発表と見学	他機関負担	
85	森本　晋	ミャンマー	12月9日～12月16日	発掘調査法・遺物研究法等の考古技術移転を目的とした拠点交流事業	受託(文化庁)	
86	影山　悦子	ミャンマー	12月9日～12月16日	同上	受託(文化庁)	
87	尾野　善裕	ミャンマー	12月9日～12月16日	発掘調査法・遺物研究法等の考古技術移転を目的とした拠点交ふゅう事業	受託(文化庁)	
88	大澤　正吾	ミャンマー	12月9日～12月16日	同上	受託(文化庁)	
89	林　正憲	韓国	12月12日～12月15日	「日韓古代瓦の生産と流通に関する研究」にかかる調査	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
90	石田　由紀子	韓国	12月12日～12月15日	慶州古代寺院における出土瓦の調査	渡航費：科学研究費助成事業 滞在費：他機関負担	
91	清野　陽一	韓国	12月12日～12月15日	同上	渡航費：科学研究費助成事業 滞在費：他機関負担	
92	石橋　茂登	韓国	12月12日～12月16日	日韓共同研究「日韓古墳・寺院の比較研究」にかかる調査	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
93	廣瀬　覚	韓国	12月12日～12月16日	同上	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
94	諫早　直人	韓国	12月12日～12月16日	同上	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
95	渡邉　晃宏	韓国	12月15日～12月17日	「2016東アジア文化都市　済州」開幕式における講演	渡航費：他機関負担 滞在費：他機関負担	
96	杉山　洋	カンボジア	12月18日～12月25日	西トップ遺跡の調査と修復	科学研究費助成事業	
97	佐藤　由似	カンボジア	12月19日～12月27日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金	
98	丹羽　崇史	中国	12月28日～29年1月1日	資料調査	助成金((公財)高梨学術奨励基金)	
99	田村　朋美	ベトナム	29年1月8日～1月12日	ハノイ国立博物館所蔵ガラス小玉の科学分析	他機関負担	
100	佐藤　由似	カンボジア	29年1月15日～1月26日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金	
101	森本　晋	カンボジア	29年1月23日～1月2日	アンコール遺跡調査資料の調査	科学研究費助成事業	
102	金田　明大	イギリス	29年1月23日～3月2日	科学研究費(国際共同研究加速基金)による研究のため	科学研究費助成事業	
103	森本　晋	カンボジア	29年1月31日～2月2日	アンコール文化遺産保護に関する研究	科学研究費助成事業	
104	佐藤　由似	カンボジア、ミャンマー	29年2月3日～2月18日	アンコール文化遺跡保護に関する研究協力 国際協力渠底交流事業　ミャンマー	運営費交付金、受託(文化庁)	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
105	杉山　洋	カンボジア、ミャンマー、ベトナム	29年2月8日～2月17日	カンボジア・ミャンマー・ベトナムにおける東南アジア陶磁の研究	運営費交付金、科学研究費助成事業（分担）	
106	森本　晋	ミャンマー	29年2月9日～2月18日	ミャンマーの窯跡および陶磁器の調査、研修	受託（文化庁）	
107	影山　悦子	ミャンマー	29年2月9日～2月18日	ミャンマーの窯跡および陶磁器の調査、研修	受託（文化庁）	
108	石橋　茂登	台湾	29年2月16日～2月19日	金属工芸・天文関連の資料調査	運営費交付金	
109	今井　晃樹	中国	29年2月18日～2月26日	北魏洛陽宮城出土遺物の調査	運営費交付金	
110	岩戸　晶子	中国	29年2月18日～2月26日	同上	運営費交付金	
111	清野　陽一	中国	29年2月18日～2月26日	同上	運営費交付金	
112	廣瀬　覚	韓国	29年2月19日～2月22日	「朝鮮半島西南部の前方後円墳をめぐる倭と馬韓の交渉史」の研究会への参加	他機関負担	
113	諫早　直人	韓国	29年2月19日～2月22日	同上	他機関負担	
114	丹羽　崇史	中国	29年2月20日～2月23日	河南省文物考古研究院との共同研究報告書出版にともなう協議、資料調査	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
115	神野　恵	中国	29年2月20日～2月23日	同上	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
116	降幡　順子	中国	29年2月20日～2月23日	同上	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
117	森川　実	中国	29年2月20日～2月23日	同上	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
118	佐藤　由似	カンボジア	29年2月21日～2月27日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金	
119	国武　貞克	イギリス	29年2月23日～3月2日	奈文研とヨーク大学、セインズベリー日本芸術研究所による文化財情報発信（全国遺跡総覧）に関するワークショップ	運営費交付金	
120	高田　祐一	イギリス	29年2月23日～3月2日	同上	運営費交付金	
121	小沼　美結	イギリス	29年2月23日～3月2日	同上	運営費交付金	
122	浦　蓉子	中国	29年2月27日～3月4日	中国田螺山遺跡の木製品調査	他機関科学研究費助成事業	
123	高妻　洋成	モンゴル	29年3月5日～3月11日	モンゴル国の古墳壁画等と高松塚古墳壁画の比較研究調査	受託（文化庁）	
124	石橋　茂登	モンゴル	29年3月5日～3月11日	同上	受託（文化庁）	
125	脇谷　草一郎	モンゴル	29年3月5日～3月11日	同上	受託（文化庁）	
126	田村　朋美	モンゴル	29年3月5日～3月11日	同上	受託（文化庁）	
127	栗山　雅夫	モンゴル	29年3月5日～3月11日	モ同上	受託（文化庁）	
128	大谷　育恵	モンゴル	29年3月5日～3月11日	同上	受託（文化庁）	
129	佐藤　由似	カンボジア	29年3月6日～3月13日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金	
130	海野　聡	ブータン	29年3月6日～3月16日	ブータンにおける歴史的建造物調査	科学研究費助成事業	
131	丹羽　崇史	韓国	29年3月7日～3月10日	日韓共同研究の一環として、韓国・慶州地域出土土器類の調査	運営費交付金	
132	小田　裕樹	韓国	29年3月7日～3月10日	同上	運営費交付金	
133	内田　和伸	韓国	29年3月7日～3月10日	韓国国立文化財研究所との共同研究	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
134	中島　義晴	韓国	29年3月7日～3月10日	同上	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
135	杉山　洋	カンボジア	29年3月7日～3月11日	カンボジアにおける東西交流遺物の調査	科学研究費助成事業分担	
136	水田　康介	カンボジア	29年3月7日～3月11日	西トップ遺跡の調査と修復修復の現地監査	運営費交付金	
137	前川　歩	ブータン	29年3月7日～3月16日	ブータンにおける歴史的建造物調査	科学研究費助成事業	
138	加藤　真二	中国	29年3月13日～3月18日	鄭州における旧石器遺跡の調査	科学研究費助成事業	
139	森本　晋	ドイツ	29年3月13日～3月20日	東アジア陶磁器資料・パガン壁画資料の調査	運営費交付金	
140	諫早　直人	イギリス	29年3月16日～3月26日	科学研究費「ゴーランド・コレクション総合研究の新知見に基づく日本古墳時代像・研究史の再構築」にかかる調査	科学研究費助成事業（分担）	
141	脇谷　草一郎	中国	29年3月19日～3月21日	南京城城壁の劣化状態視察および劣化要因に関する調査	科学研究費助成事業（分担）	
142	渡邉　晃宏	韓国	29年3月22日～3月24日	国立文化財研究所との共同研究による木簡等の調査	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
143	方　国花	韓国	29年3月22日～3月24日	同上	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
144	高田　祐一	韓国	29年3月22日～3月24日	同上	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
145	山本　祥隆	韓国	29年3月22日～3月24日	国立文化財研究所との共同研究による木簡等の調査	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
146	佐藤　由似	カンボジア	29年3月22日～3月24日	西トップ遺跡の調査	運営費交付金	
147	森本　晋	カンボジア	29年3月22日～3月26日	外国調査チーム報告会出席・発表	運営費交付金	
148	田村　朋美	アメリカ	29年3月23日～3月26日	X線CT装置の検査	運営費交付金	
149	高妻　洋成	オーストリア	29年3月25日～3月30日	ウィーン世界博物館所蔵大名屋敷の調査	科学研究費助成事業（分担）	

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ　20人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	薗田　郁	中国(深セン)	5月12日～16日	“Workshop on Capacity Building for Transmission and Sustainable Development of Traditional Craftsmanship”出席	受託経費（文化庁）	
2	岩本　渉	フランス(パリ)	5月30日～6月5日	“Sixth Session of the General Assembly of the States Parties to the Convention for the Safeguarding of the Intangible Cultural Heritage” 及び “The 4th Annual Coordination Meeting of Category 2 Centres Active in the Field of Intangible Cultural Heritage” 出席	受託経費（文化庁）	
3	児玉　茂昭	フランス(パリ)	5月29日～6月5日	同上	受託経費（文化庁）	
4	岩本　渉	イタリア(ミラノ)	7月3日～7日	「ICOMミラノ大会」出席	受託経費（文化庁）	
5	三島　貴雄	イタリア(ミラノ)	7月3日～8日	同上	運営費交付金	
6	野嶋　洋子	フィリピン	7月3日～8日	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるフィリピン調査	寄附金（文化財保存活用基金）	
7	岩本　渉	モンゴル(ウランバートル)	10月9日～12日	“2016 Sub-Regional Meeting for Intangible Cultural Heritage Safeguarding in Northeast Asia: The Role of the Media in Raising Awareness about Intangible Cultural Heritage” 出席	受託経費（文化庁）	
8	杉野　ゆりか	モンゴル(ウランバートル)	10月9日～13日	同上	受託経費（文化庁）	
9	野嶋　洋子	バヌアツ	10月18日～23日	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるバヌアツ調査	ODAユネスコ補助金	
10	野嶋　洋子	フィジー	10月23日～28日	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるフィジー調査	ODAユネスコ補助金	
11	岩本　渉	韓国(ソウル)	12月14日～16日	「韓国C2センター(ICHCAP)第九回運営理事会」陪席	受託経費（文化庁）	
12	三島　貴雄	韓国(ソウル)	12月14日～16日	同上	受託経費（文化庁）	
13	野嶋　洋子	ベトナム(ハノイ、フエ、ホイアン)	12月13日～21日	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるベトナムでの現地調査	寄附金（文化財保存活用基金）	
14	岩本　渉	ベトナム(ハノイ)	12月16日～20日	“Working Group for IRCI Final Workshop on the Study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region” 及び “IRCI Final Workshop on the Study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region”出席	受託経費（文化庁）	
15	大貫　美佐子	ベトナム(ハノイ)	12月14日～21日	同上	受託経費（文化庁）	
16	古川　幸恵	ベトナム(ハノイ)	12月13日～20日	同上	受託経費（文化庁）	
17	野嶋　洋子	マーシャル諸島	29年2月14日～17日	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるマーシャル諸島調査	ODAユネスコ補助金	
18	大貫　美佐子	中国(北京)	29年2月22日～23日	「中国C2センター(CRIHAP)第六回運営理事会」陪席	受託経費（文化庁）	
19	杉野　ゆりか	中国(北京)	29年2月22日～24日	同上	受託経費（文化庁）	
20	大貫　美佐子	フランス(パリ)	29年3月12日～17日	“ICOMOS University Forum Workshop on Authenticity and Reconstructions”出席	受託経費（文化庁）	

【文化財防災ネットワーク推進本部】延べ　4人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	三角　菜緒	韓国	29年2月21日～24日	アジア諸国（韓国）の文化財防災に関する調査・情報収集	美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業補助金	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
2	臺信　祐爾	韓国	29年2月21日～24日	同上	同上	
3	進村　真之	韓国	29年2月21日～24日	同上	同上	
4	李　廷銀	韓国	29年2月21日～24日	同上	同上	

c-② 調査研究テーマ一覧

平成29年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
196 件	139 件	66 件	22 件	19 件	32 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	56 件	22 件	34 件	0 件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	1 件				

【東京国立博物館】　66件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　55件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	特別調査（「法隆寺献納宝物」（第38次））	学芸研究部	保存修復課長　高橋裕次
2	特別調査（「書跡」第14回）	学芸研究部	保存修復課長　高橋裕次
3	特別調査（「工芸」第8回）	学芸研究部	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
4	特別調査（「彫刻」第6回）	学芸研究部	企画課長　浅見龍介
5	特別調査（「絵画」第1回）	学芸研究部	調査研究課長　田沢裕賀
6	油彩画の材料・技法に関する共同調査	学芸研究部	保存修復室長　土屋裕子
7	東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査	学芸研究部	調査研究課長　田沢裕賀
8	館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	学芸研究部	博物館情報課長　田良島 哲
9	東洋民族資料に関する調査研究	学芸研究部	出版企画室主任研究員　猪熊兼樹
10	特集「藤原行成の書　その流行と伝称」に関連する調査研究	学芸研究部	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　恵美千鶴子
11	特集「上海博物館との競演」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課東洋室長　富田淳
12	特集「親と子のギャラリー　美術のうら側探検隊」に関連する調査研究	学芸研究部	博物館教育課長　小林牧
13	特集「ドレッサーの贈り物―明治にやってきた欧米のやきものとガラス」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課東洋室主任研究員　三笠景子
14	特集「歌仙絵」に関連する調査研究	学芸研究部	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕
15	特集「生誕百年記念　小林斗盦　篆刻の軌跡」に関連する調査研究	学芸研究部	学芸研究部長　富田淳
16	特集「掛袱紗―祝う心を模様にたくす」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
17	特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」に関連する調査研究	学芸研究部	保存修復課長　高橋裕次
18	中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　沖松健次郎
19	能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究(科学研究費助成事業)	学芸研究部	企画課長　浅見龍介
20	日本染織コレクションの形成に関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
21	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕
22	古墳時代武装具に関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	列品管理課主任研究員　古谷　毅
23	中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容に関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	保存修復室主任研究員　瀬谷愛
24	神像表現彫刻における物語性の調査研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	企画課特別展室長　丸山士郎
25	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	博物館教育課教育普及室研究員　三田覚之
26	清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　関紀子
27	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	客員研究員　沢田むつ代
28	東アジアにおける繍仏の基礎的調査研究(科学研究費助成事業)	学芸研究部	企画課出版企画室主任研究員　猪熊兼樹
29	高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相に関する調査研究(科学研究費助成事業)	学芸研究部	副館長　松本伸之
30	大小擢物（絵暦）の美術史及び文化史に関する総合的研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	客員研究員　岩崎均史
31	徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美
32	ディルムン文明の起源－バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究－(科学研究費助成事業)	学芸研究部	客員研究員　後藤健
33	東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	博物館教育課教育講座室長　勝木言一郎
34	「地域考古学」と「聖書考古学」の協業による古代パレスチナ地域史の再構築（科学研究費助成事業）	学芸研究部	調査研究課東洋室研究員 小野塚拓造
35	在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	企画課特別展室長　丸山士郎
36	武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質（科学研究費助成事業）	学芸研究部	列品管理課主任研究員　古谷毅
37	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　－東アジア金属工芸史の再構築－(科学研究費助成事業)	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
38	工芸の展開―金属工芸鋳金における真土型鋳造法の研究―（科学研究費助成事業）	学芸研究部	特任研究員　神庭信幸
39	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究―大航海時代を中心に―（科学研究費助成事業）	学芸研究部	列品管理課平常展調整室研究員　末兼俊彦
40	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	列品管理課平常展調整室研究員　末兼俊彦
41	住吉派の摸写から見る近世御用絵師の絵画制作研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 山下善也
42	19世紀日本の女性南画家の移動と交友圏（科学研究費助成事業）	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 山下善也
43	「月次祭礼図模本」の総合復元研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛
44	曾我蕭白筆「郡仙図屏風」の図像およびその文化的背景に関する研究（出光文化福祉財団）	学芸研究部	企画課国際交流室アソシエイトフェロー　ミウォシュ・ヴォズニ
45	三条西公条をめぐる絵事 ―「詠歌之大概歌仙図」を中心に―（メトロポリタン東洋美術研究センター）	学芸研究部	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美
46	特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」に関する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室長　丸山士郎
47	特別展「春日大社　千年の至宝」に関する調査研究	学芸研究部	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕
48	特別展「茶の湯」に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課東洋室主任研究員　三笠景子

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
49	日タイ修好130周年記念特別展「タイ～仏の国の輝き～」に関する調査研究	学芸研究部	企画課出版企画室主任研究員　猪熊兼樹
50	博物館環境デザインに関する調査研究	学芸研究部	企画課デザイン室長　木下史青
51	博物館教育に関する調査研究	学芸研究部	博物館教育課長　小林牧
52	凸版印刷と共同で実施する、ミュージアムシアターでの公開に向けた調査研究	学芸研究部	学芸企画部長　井上洋一
53	ＩＣＴを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究	学芸研究部	博物館教育課長　小林牧
54	ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究；新来館者の定着に向けた実証的調査分析（科学研究費助成事業）	学芸研究部	総務部総務課渉外開発担当係長　関谷泰弘
55	藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	企画課特別展室主任研究員　品川欣也

○その他有形文化財に関連する調査研究　11件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	博物館の環境保存に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課長　高橋裕次
2	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築（科学研究費助成事業）	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
3	三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	列品管理課主任研究員　古谷毅
4	被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
5	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	学芸研究部	博物館情報課情報管理室長　村田良二
6	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	学芸研究部	東京国立博物館百五十年史編纂室長　井上洋一
7	博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究	学芸研究部	調査研究課考古室長　白井克也
8	博物館における文化財の情報資源化に関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	保存修復課長　高橋裕次
9	海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	広報室長　鬼頭智美
10	東京国立博物館所蔵帝室本データベース（科学研究費助成事業）	学芸研究部	博物館情報課長　田良島哲
11	東京国立博物館所蔵写真資料データベース（科学研究費助成事業）	学芸研究部	学芸研究部長　富田淳

【京都国立博物館】 22件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　22件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	訓点資料としての典籍に関する調査研究	学芸部	保存修理指導室主任研究員　羽田　聡
2	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	学芸部	工芸室研究員　降矢哲男
3	ＣＴスキャナ等科学機器を用いた文化財の調査研究	学芸部	列品管理室アソシエイトフェロー　池田素子
4	近畿地区(特に京都)社寺文化財の調査研究　河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究(科学研究費助成事業)	学芸部	連携協力室長　淺湫　毅
5	幕末近代の商家が伝えた文化財の総合調査（科学研究費助成事業）	学芸部	列品管理室主任研究員　永島明子
6	日本の宮廷装束・調度に関する基礎的研究（科学研究費助成事業）	学芸部	教育室長　山川　曉
7	長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究(科学研究助成事業)	学芸部	列品管理室主任研究員　呉　孟晋
8	特集陳列「丹後の仏教美術」に関連する調査研究	学芸部	連携協力室長　淺湫　毅
9	特集陳列「徳川将軍家と京都の寺社」に関連する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
10	特集陳列「与謝蕪村」に関連する調査研究	学芸部	美術室研究員　福士雄也
11	特集陳列「皇室の御寺　泉涌寺」に関連する調査研究	学芸部	保存修理指導室主任研究員　羽田　聡
12	特集陳列「伊藤若冲」に関連する調査研究	学芸部	美術室研究員　福士雄也
13	近世期に作成された、書画の「極書」に関する基礎的研究（科学研究費助成事業）	学芸部	美術室研究員　福士雄也
14	東アジアにおける繍仏の基礎的研究（科学研究費助成事業）	学芸部	企画室長　伊藤信二
15	特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」に関する調査研究	学芸部	列品管理室長　宮川禎一
16	特別展覧会「海北友松」に関する調査研究	学芸部	学芸部長　山本英男
17	ボランティアによる、ハンズオン教材等を活用した展示作品理解のための事業に関する調査研究（科学研究費助成事業）	学芸部	教育室研究員　水谷亜希
18	高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育に関する調査研究	学芸部	教育室研究員　水谷亜希
19	３Ｄプリンター等を用いた教育プログラムに関する調査研究	学芸部	列品管理室長　宮川禎一、教育室長　山川　曉
20	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
21	文化財の保存・修復に関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
22	文化財情報に関する調査研究	学芸部	列品管理室長　宮川禎一

【奈良国立博物館】 19件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　15件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	復元模写制作に伴う仏教絵画の光学的調査と研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
2	平安時代の大般若経の総合的調査と、歴史資料としての情報資源化に関する研究(科学研究費助成事業)	学芸部	企画室長　野尻　忠
3	仏教工芸・上代工芸の総合的調査	学芸部	工芸考古室長　清水　健
4	墳墓出土品の調査と研究	学芸部	列品室長　吉澤　悟
5	南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究	学芸部	上席研究員　岩田茂樹
6	綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
7	特別陳列「お水取り」に関連する調査研究	学芸部	情報サービス室長　岩井共二
8	特別陳列「和紙－近代和紙の誕生－」に関連する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
9	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に関連する調査研究	学芸部	美術室員　斎木涼子
10	春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究（科学研究費助成事業）	学芸部	学芸部長　内藤　栄

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
11	真言密教聖教の歴史史料としての調査・研究と活用（科学研究費助成事業）	学芸部	美術室員　斎木涼子
12	生誕８００年記念特別展「忍性 －救済に捧げた生涯－ 」に関する調査研究	学芸部	列品室長　吉澤　悟
13	特別展「第６８回正倉院展」に関する調査研究	学芸部	工芸考古室長　清水　健
14	特別展「快慶　日本人を魅了した仏のかたち」に関する調査研究	学芸部	列品室員　山口隆介
15	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生

○その他有形文化財に関連する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
2	収蔵品・寄託品等に関する文化財修理の観点からの調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
3	収蔵品・寄託品等に関する保存科学の観点からの調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
4	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究	学芸部	資料室長　宮崎幹子

【九州国立博物館】 32件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　23件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析に関する調査研究	学芸部 博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか
2	日本中近世の工芸、特に茶道具に関する調査研究	学芸部企画課	アソシエイトフェロー　酒井田千明
3	近世キリスト教に関する研究	学芸部企画課	特別展室研究員　松浦晃佑
4	高等学校が所蔵する考古資料に関する研究	展示課	展示調整室主任研究員　今井涼子
5	水中遺跡の保存活用に関する調査研究	学芸部	部長　小泉惠英
6	タイの歴史・美術に関する研究	学芸部企画課	特別展室長　原田あゆみ
7	トピック展示「火縄銃の世界」に関連する調査研究	学芸部文化財課	資料登録室研究員　望月規史
8	トピック展示「きらめきで飾る－螺鈿の美をあつめて－」に関連する調査研究	学芸部文化財課	資料登録室主任研究員　川畑憲子
9	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究(科学研究費助成事業)	学芸部企画課	特別展室長　原田あゆみ
10	在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究 (科学研究費助成事業)	九州国立博物館	館長　島谷弘幸
11	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　－東アジア金属工芸史の再構築－ (科学研究費助成事業)	学芸部企画課	特別展室主任研究員　川村佳男
12	出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究（科学研究費助成事業）	学芸部文化財課	資料登録室主任研究員　川畑憲子
13	近世西南日本の地域産業と対外交流の研究(科学研究費助成事業)	展示課	展示調整室研究員　一瀬　智
14	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」 に関する調査研究	展示課	情報サービス室研究員　小嶋　篤
15	特別展「タイ～仏の国の輝き～」 に関する調査研究	学芸部企画課	特別展室長　原田あゆみ
16	特別展「世界遺産ラスコー展」 に関する調査研究	学芸部企画課	課長兼文化交流展室長　河野一隆
17	特別展「新・桃山展－大航海時代の日本美術」 に関する調査研究	学芸部企画課	特別展室主任研究員　鷲頭　桂
18	ＮＨＫと共同で実施する高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターでの映像公開に向けた調査研究	学芸部企画課	文化交流展室研究員　森實久美子
19	特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究	学芸部企画課	アソシエイトフェロー　西島亜木子
20	学校教育現場との連携を図って作り上げる学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発	交流課	教育普及室主任研究員　久保田和之
21	文化交流展示室に関して現在の展示施設、展示環境や展示方法の調査研究	展示課	課長　楠井隆志
22	潜在的利用者とつくる新しい博物館の活動「きゅーはく女子考古部」についての調査研究	学芸部企画課	アソシエイトフェロー　西島亜木子
23	松菊里型竪穴住居をモデルとした「組み立て式竪穴住居」の調査研究	学芸部企画課	アソシエイトフェロー　西島亜木子

○その他有形文化財に関連する調査研究　9件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化財の材質・構造等に関する共同研究	学芸部 博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか
2	博物館における文化財保存修復に関する研究	学芸部 博物館科学課	保存修復室主任研究員　志賀智史
3	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	学芸部	特任研究員　本田光子
4	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究（科学研究費助成事業）	学芸部 博物館科学課	保存修復室主任研究員　志賀智史
5	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討に係る調査研究（科学研究費助成事業）	学芸部 博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか
6	文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討（科学研究費助成事業）	学芸部 博物館科学課	環境保全室研究員　秋山純子
7	Ｘ線CTを用いた文化財有機質材料の同定方法の確立（科学研究費助成事業）	学芸部 博物館科学課	アソシエイトフェロー　赤田昌倫
8	みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム（文化庁文化芸術振興費補助金）	学芸部	特任研究員　本田光子
9	熊本被災文化財救援事業（公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団助成金）	学芸部	部長　小泉惠英

【東京文化財研究所】　22件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　7件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英
2	日本東洋美術史の資料学的研究	文化財情報資料部	日本東洋美術史研究室長　小林達朗
3	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	文化財情報資料部	近・現代視覚芸術研究室長　塩谷純
4	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	文化財情報資料部	広領域研究室長　小林公治

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　飯島満
2	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　飯島満
3	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　飯島満

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　8件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	文化財情報資料部	文化財情報研究室長　二神葉子

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　7件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	保存科学研究センター	主任研究員　佐藤嘉則
2	保存と活用のための展示環境の研究	保存科学研究センター	保存環境研究室長　吉田直人
3	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	保存科学研究センター	分析科学研究室長　犬塚将英
4	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	保存科学研究センター	修復計画研究室長　朽津信明
5	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	保存科学研究センター	修復材料研究室長　早川典子
6	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	保存科学研究センター	近代文化遺産研究室長　北河大次郎
7	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	保存科学研究センター	保存科学研究センター長　岡田健

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　5件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	文化遺産国際協力センター	主任研究員　江村知子
2	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　友田正彦
3	保存修復技術の国際的応用に関する研究	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター長　中山俊介
4	在外日本古美術品保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	国際情報研究室長　加藤雅人
5	国際研修	文化遺産国際協力センター	国際情報研究室長　加藤雅人

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　2件

○文化財情報基盤の整備・充実　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英
2	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報資料部	文化財情報研究室長　二神葉子

【奈良文化財研究所】　34件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　18件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部	部長　林　良彦
2	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	歴史研究室長　吉川　聡

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　16件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）	文化遺産部	遺跡整備研究室長　内田和伸
2	我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）	文化遺産部	遺跡整備研究室長　内田和伸
3	平城宮東院地区の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
4	平城京跡右京一条二坊四坪・西一坊大路・一条南大路の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
5	東大寺東塔院跡の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
6	藤原宮跡の発掘調査（大極殿院）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
7	藤原宮跡の発掘調査（朝堂院）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
8	飛鳥地域発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
9	平城宮・京跡の出土遺物・遺構の調査研究等	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
10	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
11	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	飛鳥資料館	学芸室長　石橋茂登
12	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
13	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部	部長　林　良彦

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
14	遺跡データベースの作成と公開	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　金田明大
15	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
16	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部　平城地区	考古第三研究室長　清野孝之

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　7件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　金田明大
2	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	センター長　小池伸彦
3	動植物遺存体の分析方法の研究開発	埋蔵文化財センター	センター長　小池伸彦

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成
2	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成
3	建造物彩色に関する研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成
4	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　4件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	企画調整部	部長　森本　晋
2	カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ遺跡の建築学的・考古学的・保存科学的調査	企画調整部	部長　森本　晋
3	イギリスセインズベリー日本芸術研究所との共同研究	企画調整部	都城発掘調査部長　玉田芳英
4	ユネスコアジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力	企画調整部	部長　森本　晋

(4) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　5件

○平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備等運営への協力	研究支援推進部	研究支援課長　　伴　佳英
2	国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原等への協力	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
3	国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力	企画調整部	展示企画室長　加藤真二
4	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の開園への協力	飛鳥資料館	学芸室長　石橋茂登
5	ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	研究支援推進部	連携推進課長　津田保行

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1件

○アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	所長　岩本　渉

（参考）受託研究一覧

合計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
53 件	11 件	41 件	1 件

【東京文化財研究所】　11件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	文化遺産国際協力拠点交流事業「大洋州諸島しょ国の文化遺産保護に関する拠点交流事業」	無形文化遺産部
2	日光の歴史的木造建造物の温風処理等による新たな殺虫処理方法の検討	保存科学研究センター
3	絵金屏風の保存修理に関する調査研究	保存科学研究センター
4	万世特攻平和祈念館金属類収蔵品劣化対策事前調査事業	保存科学研究センター
5	近代産業遺産（美術工芸品）に関する海外事例調査事業	文化遺産国際協力センター
6	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	保存科学研究センター
7	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	保存科学研究センター
8	文化遺産国際協力コンソーシアム事業	文化遺産国際協力センター
9	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	文化遺産国際協力センター
10	文化遺産保護国際貢献事業(専門家交流)「ミャンマー・バガン遺跡群における地震被害に関する調査」	文化遺産国際協力センター
11	文化遺産保護国際貢献事業(専門家交流)「シリア内戦下における被災文化財に関する調査」	文化遺産国際協力センター

【奈良文化財研究所】　41件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	ミャンマーにおける発掘調査法・遺物研究法等の考古技術移転を目的とした拠点交流事業	企画調整部

2	京都市の文化的景観保存計画策定調査	文化遺産部
3	若桜町若桜伝統的建造物群保存対策調査	文化遺産部
4	出雲市内神社建造物調査	文化遺産部
5	南山城村における文化的景観保存修景事業	文化遺産部
6	平城宮跡歴史公園二条大路発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
7	興福寺南大門西門守屋の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
8	長門鋳銭所跡出土木簡の保存処理を経ての総合的研究	都城発掘調査部　平城地区
9	鳥取県鳥取市大桷遺跡出土文字資料の保存処理等の総合的研究	都城発掘調査部　平城地区
10	平城京跡二条条間路（東二坊）の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
11	鳥取県鳥取市青谷横木遺跡出土木簡の保存処理等総合的研究	都城発掘調査部　平城地区
12	平城京右京三条一坊十坪の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
13	興福寺北円堂院回廊の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
14	平城宮跡歴史公園二条大路東部他発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
15	鳥取県鳥取市大桷遺跡出土大型呪符木簡他の保存処理等の総合的研究	都城発掘調査部　平城地区
16	平城宮跡歴史公園朱雀大路西側溝北部発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
17	平城京左京二条二坊十一坪の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
18	平城京左京一条二坊十坪の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
19	奈良職業能力開発促進センター本館取壊しに伴う藤原京跡（右京九条二・三坊）、瀬田遺跡発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
20	木之本廃寺、藤原京左京五条三坊（脇本宅）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
21	史跡　飛鳥寺跡に隣接する県道「橿原神宮東口停車場飛鳥線」の厳重立会調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
22	特別史跡藤原宮跡（高殿町道路拡幅）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
23	特別史跡山田寺跡法面改修に係る試掘調査業務	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
24	大和紀伊平野農業水利事業に係る埋蔵文化財発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
25	特別史跡山田寺跡法面改修工事に係る発掘調査業務	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
26	藤原京左京七条一坊（別所町集会所）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
27	考古資料および文献史料からみた過去の地震・火山災害に関する情報の収集とデータベースの構築・公開	埋蔵文化財センター
28	陸前高田市堂の前貝塚出土の動物遺存体の分析委託業務	埋蔵文化財センター
29	平城宮跡遺構展示館の保存活用に関する調査研究事業	埋蔵文化財センター
30	波怒棄館遺跡出土の動物遺存体の分析	埋蔵文化財センター
31	台の下貝塚出土の動物遺存体の分析	埋蔵文化財センター
32	平成28年度　国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務	埋蔵文化財センター
33	松帆銅鐸・舌の調査研究	埋蔵文化財センター
34	国宝　薬師寺東塔　木材年代測定業務（第３回）	埋蔵文化財センター
35	瑞巌寺周辺の岩窟・石塔の映像記録・測量調査	埋蔵文化財センター
36	法隆寺若草伽藍跡西方の調査出土壁画片の調査	埋蔵文化財センター
37	常総市水損文書の真空凍結乾燥処置に関する研究	埋蔵文化財センター
38	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務	研究支援推進部
39	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託	企画調整部 都城発掘調査部　平城地区
40	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務	文化遺産部 都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区 埋蔵文化財センター
41	特別史跡キトラ古墳の保存・活用及び文化庁キトラ古墳壁画保存管理施設（キトラ古墳壁画体験館　四神の館内）の管理・運営業務	文化遺産部 都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区 埋蔵文化財センター 飛鳥資料館

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	平成28年度　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム（受託）	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

c-③ 学会、研究会等発表実績一覧

平成29年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
356件	196件	88件	31件	41件	36件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	158件	47件	111件	0件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	2件				

【東京国立博物館】　88件

〇有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　71件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の展覧事業･教育活動等に関連する調査研究	「世界遺産を護れ！―迫る危機をのりこえて―」	学芸企画部長　井上洋一	5月28日	東京国立博物館　特別展『黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―』記念講演会
2	同上	「弥生時代の動物絵画」	同上	10月15日	神奈川県埋蔵文化財センター　平成28年度考古学ゼミナール
3	同上	「危機に瀕する世界文化遺産―その保護と活用―」	同上	11月2日	國學院大學栃木短期大学日本文化学科　日本史フィールド講演会
4	同上	「謎の青銅器、銅鐸」	同上	29年1月21日	東京国立博物館　月例講演会
5	同上	はじめての兵馬俑	企画課特別展室主任研究員　市元塁	5月15日	九州国立博物館特別展「始皇帝と大兵馬俑」記念講演会
6	同上	北魏の服装改革に関する考古学的予察	同上	7月23日	日本中国考古学会関東部会
7	同上	Current situation and Issues in archaeological collections at upper secondary schools in Japan	同上	8月29日	WAC-8 KYOTO（第8回世界考古学会議）
8	同上	高校考古の過去・現在・未来～いま、学校所蔵資料の何が課題で、何に取り組もうとしているのか?～	同上	9月2日	博学社連携シンポジウム　学校の「たからもの」を発掘しよう！ 学校所蔵考古歴史資料のこれから
9	同上	「平治物語絵巻」〈三条殿夜討巻〉再考	企画課特別展室主任研究員　金井裕子	10月1日	美術史学会東支部例会
10	同上	「東博における翻訳」	企画課国際交流室アソシエイトフェロー　君波妙子	10月8日	東京国立博物館　月例講演会
11	同上	大仏の来た道を西にたどる	博物館教育課教育講座室長　勝木言一郎	11月9日	東大寺講演会
12	同上	中国の女帝と石仏	同上	12月10日	東京国立博物館　月例講演会
13	同上	帖学派と碑学派	学芸研究部長　富田淳	12月10日	茨城県高等学校教育研究会書道部
14	同上	兵庫・慧日寺の無学祖元像と特峰妙奇像	列品管理課長　救仁郷秀明	29年3月25日	美術史学会（東支部例会）
15	同上	オオヤマトの古墳・宮址と三輪山祭祀	列品管理課主任研究員　古谷毅	6月25日	天理市観光協会･天理市教育委員会、現地発！歴史フォーラム2016 大和の中のヤマト
16	同上	大塚古墳が築かれた時代 -副葬品から見た古墳時代中期における大塚古墳-	同上	10月1日	市川三郷町・山梨県考古学協会、2016年度地域大会 大塚古墳から探る市川三郷の古墳時代
17	同上	久が原に残る遺跡	同上	10月21日	大田区教育委員会、おおた区民大学地域学講座(2016第2期)「久が原、その魅力 - 25,000年前からの軌跡と奇跡 - 」
18	同上	久が原遺跡の歴史的位置-多摩川流域遺跡群の中の荏原台-	同上	29年3月19日	大田区洗足区民センター、第５回さくらフェスティバル 区政70周年記念「もっと知ろう大田区」
19	同上	草花写生図にみる江戸の美意識	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美	10月7日	（公）緑と水の市民カレッジ
20	同上	黒田清輝のABC　第1回 「西洋絵画の衝撃。黒田精輝が抱いた葛藤と使命　～本当に伝えたかったこと」	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人、三浦篤（東京大学教授）、山梨絵美子（東京文化財研究所副所長）	4月19日	青山ブックセンター　トークレクチャーシリーズ
21	同上	浮世絵は庶民のエンターテインメント！～200年の時を越え、作品が語りかけてくるものとは	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人、高畑勲（スタジオジブリ アニメーション映画監督）	4月27日	Bunkamura 特設会場
22	同上	黒田清輝のABC 第2回 黒田清輝の裏/表　黒田の仕事がもたらしたもの。	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人、山田五郎（タレント、コラムニスト）	5月10日	青山ブックセンター　トークレクチャーシリーズ
23	同上	「時をかける少女」と東京国立博物館	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人、細田守（アニメーション映画監督）	7月15日	博物館で野外シネマ

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
24	有形文化財の展覧事業･教育活動等に関連する調査研究	日本美術史から読み解く細田守作品の魅力	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人、齋藤優一郎（スタジオ地図　プロデューサー/代表取締役）	7月18日	角川シネマ新宿・細田守監督『時をかける少女』公開１０周年リバイバル上映
25	同上	日本絵画史からみた細田守作品	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人・細田守（アニメーション映画監督）	10月30日	第29回東京国際映画祭・TOHOシネマズ六本木ヒルズ
26	同上	15世紀から19世紀日本の 文人画・風俗画・仏画	調査研究課長　田沢裕賀	11月5日	中国国家博物館
27	同上	日本美術5000年	同上	12月11日	國立故宮博物院
28	同上	醍醐寺的美術	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　沖松健次郎	6月11日	上海博物館「菩提的世界　醍醐寺芸術珍宝展」関連講座
29	同上	菩提の世界：醍醐寺芸術珍宝	調査研究課絵画・彫刻室アソシエイトフェロー　西木政統	4月24日	上海博物館　ボランティア向けスライドトーク
30	同上	滋賀･鶏足寺七仏薬師如来像の造像をめぐる一考察	同上	5月31日	東京文化財研究所　文化財情報資料部研究会
31	同上	「日本美術の流れ」の楽しみかた	同上	9月30日	東京国立博物館　エムアイカードイベント
32	同上	蘇る「辻が花」	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	9月29日	調布市東部公民館
33	同上	金春家伝来の能面・能装束について	同上	29年2月25日	東京国立博物館　月例講演会
34	同上	能絵鑑で能装束の変遷を探る	同上	29年3月16日	国立能楽堂講演会
35	同上	日本出土馬韓土器	調査研究課考古室長　白井克也	8月30日	2016年馬韓研究院国際学術会議「東北アジアから見た馬韓土器」
36	同上	交流する縄文土器	調査研究課考古室研究員　井出浩正	11月13日	茅野市尖石縄文考古館第4回縄文ゼミナール
37	同上	古墳時代中期の技術移転ー農具を中心にー	調査研究課考古室研究員　河野正訓	4月9日	第83回文化財と技術の研究会
38	同上	はにわ講座	同上	9月1日	まりこふんの本「はにわ」発売記念　古墳にコーフンするためにはにわのキモチになってみよう！
39	同上	大室古墳群と積石塚	同上	10月21日	第78回なみはや歴史講座
40	同上	山陽西部	同上	11月27日	中国四国前方後円墳研究会 第19回研究集会
41	同上	考古資料収集家とコレクションの形成 -北海道の事例-	調査研究課考古室アソシエイトフェロー　飯田茂雄	12月17日	先史時代における置戸産黒耀石の利用解明を目的とした調査に関する研究会
42	同上	テル･レヘシュにおけるローマ時代村落の性格	調査研究課東洋室研究員　小野塚拓造	5月14日	基盤研究(A)ユダヤ・イスラーム宗教共同体の期限と特性に関する文明史的研究　（代表：市川裕）研究集会
43	同上	“Garden Paintings by Qiu Ying: Depictions of Old Famous Gardens at Suzhou in Ming Dynasty,”	調査研究課東洋室研究員　植松瑞希	7月6日	International Symposium: Contextualizing Gardens and Painting in East Asia（京都工芸繊維大学）
44	同上	X線CT撮影条件と画像解析法　-プロジェクション数について	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀、同調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛	6月25日	文化財保存修復学会第３８回大会、東海大学
45	同上	祐天寺蔵祐天上人長悦像の修復とＣＴ撮像調査の有効性についての一考察	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀、牧野隆夫	6月26日	文化財保存修復学会第３８回大会、東海大学
46	同上	東京国立博物館における立体作品の対症修理の取り組み	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　野中昭美、同保存修復室長　土屋裕子、保存修復課長　高橋裕次、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛、同調査分析室長　荒木臣紀、特任研究員　神庭信幸	6月25～26日	文化財保存修復学会第38回大会
47	同上	大津波プロジェクト第2回ワークショップ―仮設陸前高田市博物館(旧生出小学校)―「アクリル画と油彩画の安定化処理」	保存修復課保存修復室長　土屋裕子	8月1日	日本博物館協会（津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会
48	同上	2016年度文化財保存修復学会公開シンポジウム「文化財を伝える―展示技術と保存修復学」で「展示手法に応じた修理」講演	同上	29年1月29日	文化財保存修復学会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
49	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	大津波プロジェクト第4回ワークショップ―東京会場―「アクリル画の脱塩―ブロッティング法による試み―」	保存修復課保存修復室長 土屋裕子	29年2月2日	日本博物館協会（津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会
50	同上	「Conservación y restauración del arte japonés - Restauración de una pintura Kakejiku-」（邦題：「日本美術の保存と修理―掛軸絵画の修理―）	同上	29年3月22日	Conferencias sobre restauración. Contro Cultural Rafael Barradas del Museo Juan Manuel Blanes（ウルグアイモンテビデオ県立ファン・マヌエル・ブラネス美術館主宰　修理関連講演会）
51	中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究（科学研究費助成事業）	座談会　聖徳太子絵伝と絵解き文化	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕、阿部泰郎（名古屋大学）、鷹巣純（愛知教育大学）、吉原浩人（早稲田大学）	10月9日	安城絵解きフォーラム「聖徳太子絵伝と日本の絵解き文化」
52	同上	絵画による仏事空間の荘厳に関する考察―延久元年本聖徳太子絵伝を起点として	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　沖松健次郎	4月23日	筑波大学芸術学美術史学会
53	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究（科学研究費助成事業）	国宝・餓鬼草紙と六道の美術	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕	7月30日	東京国立博物館月例講演会
54	同上	白描歌仙絵の再検討―歌仙絵の起源、および「似絵」をめぐる諸問題―	同上	29年2月19日	美術史学会西支部大会／大和文華館特別展「白描の美－図像・歌仙・物語－」シンポジウム『白描画再考―日本絵画史におけるその意義―』
55	中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容に関する研究（科学研究費助成事業）	一遍聖絵の成立と中世律宗	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛	7月23日	美術史学会東支部例会
56	同上	鎌倉時代の周防国と松崎天神縁起絵巻	同上	29年2月18日	第9回松崎天神縁起絵巻研究会
57	同上	叡尊教団、一遍、聖戒と聖徳太子像	同上	29年3月25日	ハーバード大学美術館聖徳太子二歳像共同研究ワークショップ
58	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究（科学研究費助成事業）	法隆寺献納宝物の幡と木簡について	博物館教育課教育普及室研究員　三田覚之	12月3日	木簡学会
59	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する研究（科学研究費助成事業）	土屋隆史「盛矢具に付着する織物の仕様とその地域的特長について」に対する補足説明及びコメント	客員研究員　沢田むつ代	4月9日	文化財と技術研究会
60	同上	南あわじ市・松帆銅鐸に用いられた組紐について	同上	6月28日	南あわじ市教育委員会調査会
61	同上	厳島神社所蔵「錦包み太刀」に用いられている錦について	同上	11月17日	錦包み太刀等の復元研究会
62	同上	古代の染織製天蓋	同上	29年1月17日	東京国立博物館ギャラリートーク
63	e.「地域考古学」と「聖書考古学」の協業による古代パレスチナ地域史の再構築（科学研究費助成事業）	東京国立博物館所蔵資料から見るイランの古代美術	調査研究課東洋室研究員 小野塚拓造	10月29日	イラン・イスラム共和国 第16回考古学セミナー
64	a.特別展「平安の秘仏 - 滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」に関する調査研究	仏像入門１　如来・菩薩	調査研究課絵画・彫刻室アソシエイトフェロー　西木政統	10月21日	東京国立博物館　連続講座「仏像三昧」
65	同上	滋賀・櫟野寺に伝わる仏像の魅力	同上	11月12日	よみうりカルチャー錦糸町
66	博物館環境デザインに関する調査研究	特集 照明デザインのさらなる地平をめざして　座談会Ⅲ「美術館照明のこれから」	企画課デザイン室長　木下史青、有本和彦（ITL）、大城盛孝（エルテック）	5月11日	照明学会
67	同上	『LEDを用いた展示空間のデザイン』　（平成28年度保存担当学芸員フォローアップ研修　－展示照明用白色LEDの開発と評価に関する最新の動向－）	企画課デザイン室長　木下史青	6月14日	照明学会（於：東文研）
68	同上	第1講座　『光で見せる展示デザイン』	同上	12月21日	仏教文化講座第733回（主催：浅草寺、明治安田生命保険相互会社）
69	同上	「有機ELを活用した照明・展示について ～縄文の女神より～」	企画課デザイン室長　木下史青、尾越国三（パイオニア株式会社）、川上元美（プロダクトデザイナー）	29年1月10日	Organic LED YAMAGATA 連動セミナー　新しいあかりのかたち　～Organic LEDの可能性～　（主催：公益財団法人山形県産業技術振興機構）
70	同上	次世代の美術館・博物照明技指針　美術館・博物照明の具体的指針、仕様基準	企画課デザイン室長　木下史青	29年2月20日	「保存と活用のための展示環境」に関する研究会（主催：東京文化財研究所）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
71	Museum Management	How can local cultural institutions be united? A case study on the Ueno Passport as a tool for local cultural connection	Yasuhiro Sekiya	7月5日	Museum Management

〇その他有形文化財に関連する調査研究　17件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	博物館の環境保存に関する調査研究	持続可能型保存ネットワークに関する研究-日本国内ダゲレオタイプ保存ネットワークの例	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、山口孝子、三木麻里、高橋則英	6月26日	文化財保存修復学会第３８回大会、東海大学
2	同上	緊急時における写真保存方法について	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀	9月25日	About the photograph emergency recovery workshop
3	同上	巨大写真コレクションの保存と活用	同上	11月17日	韓国国立中央博物館
4	同上	被災文化財の一時保管施設における生物被害対策	保存修復課環境保存室長 和田浩	10月13日	公益財団法人文化財虫菌害研究所主催第36回文化財防虫防菌処理実務講習会
5	同上	文物保存環境溫濕度規範	同上	11月4日	台北國立故宮博物院主催第三屆博物館保存修護工作坊－文物保存與永續發展
6	同上	展櫃微環境設計與微氣候控制	同上	11月4日	台北國立故宮博物院主催第三屆博物館保存修護工作坊－文物保存與永續發展
7	同上	博物館展示施設における温湿度ロガー設置面の素材と採取データ精度の相関分析	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　井上素子	6月25日	文化財保存修復学会第38回大会
8	a.美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築(科学研究費助成事業)	美術品輸送車両上で発生する振動周波数の解析	保存修復課環境保存室長 和田浩	6月4～5日	日本文化財科学会
9	同上	東日本大震災被災資料と被災地域の復興	同上	6月5日	日本展示学会
10	同上	首都高速道路走行時に美術品輸送車両上で発生する加速度の評価	同上	6月25日	文化財保存修復学会
11	同上	美術品輸送用トラックの荷台で計測された加速度の評価	同上	7月7日	日本包装学会
12	同上	文化財梱包・輸送の科学	同上	10月24日	文化庁主催第10回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー
13	同上	中国における美術品長距離輸送時の環境調査	同上	11月29日	全日本包装技術研究大会
14	同上	キトラ古墳壁画の輸送環境調査報告-振動について-	同上	12月19日	文化庁主催古墳壁画の保存活用に関する検討会第21回
15	同上	The Investigation of Shock and Vibration of Tracks During Transport for Museum Objects	同上	29年3月8日	International Safe Transit Association European Packaging Symposium
16	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	『もの』としての文化財写真	博物館情報課長　田良島哲	6月11日	アート・ドキュメンテーション学会 年次大会　シンポジウム「文化財と写真～現物と複製 その境界を越えて～」
17	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	関東大震災、第二次世界大戦時の文化財－東京国立博物館の歴史における災害－	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　恵美千鶴子	7月18日	文化財防災ネットワーク推進事業特別講演会

【京都国立博物館】31件

〇有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　31件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	中近世服飾品へのまなざし―博物館という場から―	教育室長　山川　曉	4月23日	第35回国際服飾学会
2	同上	名物裂のふるさと　－金襴を中心に－	同上	5月20日	野村美術館定期講演会
3	同上	キモノに込めた祈り　－打敷の世界－	同上	8月6日	装道大学講座
4	同上	徳川家康と桃山ファッション	同上	10月1日	徳川美術館
5	同上	「越前の仏画から見える世界」	保存修理指導室長 大原嘉豊	8月27日	越前市生涯学習センター
6	同上	「『源氏物語』の中の「極楽の曼陀羅」―紫式部が見た阿弥陀浄土図とは？―」	同上	9月12日	宇治市源氏物語ミュージアム
7	同上	「正覚寺の仏画について」	同上	10月29日	越前市武生公会堂
8	同上	「釈迦金棺出現図に関する問題―科学調査を踏まえて―」	同上	12月23日	京都大学人文科学研究所

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
9	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	「六波羅蜜寺の仏像」	連携協力室長　淺湫　毅	5月29日	京都国立博物館清風会総会
10	同上	「仏像入門２　明王・天部」	同上	10月21日	東京国立博物館連続講座
11	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	「定朝と円派・院派の仏像」	連携協力室長　淺湫　毅	29年3月17日	高槻市立しろあと歴史館　「連続講座　仏像に出会う６　仏師からみる仏像の歴史」
12	同上	伊藤若冲の色と技	美術室研究員 福士雄也	6月29日	京染・色染科学研究会（於からすま京都ホテル）
13	同上	与謝蕪村の絵画	同上	9月2日	京都古美術青年会講座（於京都国立博物館講堂）
14	同上	若冲のユーモア―水墨画を中心に	同上	12月3日	NHK文化センター京都教室
15	同上	The Birth of the Ubiquitous Landscape in Japanese Lacquers	列品管理室主任研究員 永島明子	7月5日	ICOM大会ICDAD部会
16	同上	「近衛家の歴史と文化財」	保存修理指導室 主任研究員　羽田　聡	７月18日	文化財防災ネットワーク推進事業シンポジウム
17	同上	「野崎家における王冶梅の画業」	列品管理室主任研究員 呉　孟晋	29年3月15日	公益財団法人福武財団2016年度瀬戸内海文化研究・活動支援助成に基づくシンポジウム
18	同上	「遊行上人縁起絵諸本の絵相について」	企画室研究員 井並林太郎	29年3月28日	東京文化財研究所　文化財情報資料部 研究会「遊行上人縁起絵の諸相」
19	長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究	“The Modernity of Nagao Uzan’s Connoisseurship”	列品管理室主任研究員 呉孟晋	6月25日	AAS in Kyoto
20	同上	「須磨弥吉郎対斉白石芸術的看法:以二戦後須磨所写的評論為主」	同上	11月3日	北京画院「斉白石芸術的現代性与世界性」学術研討会
21	同上	「華僑の学芸員として」	同上	11月9日	神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部講義「グローバル・コミュニケーション入門」
22	同上	「京都ゆかりの中国絵画を探る」	同上	12月9日	NHKカルチャー京都教室講座「京から美を探る」
23	日本の宮廷装束・調度に関する基礎的研究	Kyoto a Treasure House of Traditional Japanese Costume	教育室長　山川　暁	7月4日	ICOM 2016 Milano, Costume Committee Paper Session
24	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	「戦国茶道文化と三好氏」大東市立生涯学習センターアクロス	工芸室研究員　降矢哲男	8月21日	連続講座「いまよみがえる三好長慶の世界」
25	高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育に関する調査研究	見つめる・感じる・考える　ー染めと織りの世界ー	教育室長　山川　暁	8月5日	高等学校美術工芸研究会
26	同上	名画を楽しもう！ ―仏涅槃図　長谷川等伯筆―	教育室研究員　水谷　亜希	4月2日	こども芸術教室 Kidz Lab. presents『Nehan Lab. ネハンラボ』
27	同上	博物館における教育普及について	同上	7月7日	立命館大学「博物館概論」
28	同上	博物館を活用する	同上	8月5日	高等学校美術工芸研究会
29	同上	雪舟筆「天橋立図」の授業アイデア 俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」の授業例（京都市立京都御池中学校・森亮子先生の実践例の紹介）	同上	8月6日	文化財を教室に！ー複製を活用した事例紹介と交流会　（文化財に親しむ授業実行委員会主催）
30	同上	文化財ソムリエの活動紹介	同上	11月5日	ミュージアム・ユースの交流会（こどもひかりプロジェクト・文化財に親しむ授業実行委員会主催）
31	同上	文化財に親しむ授業（文化財ソムリエの訪問授業・先生への複製貸出）	同上	29年2月5日	こどもひかりプロジェクト 研究交流会 in SENDAI 2017 地域で育つ子どもたちのために、ミュージアムがなすべきこと

〇その他有形文化財に関連する調査研究　0件

【奈良国立博物館】　41件

〇有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　40件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	和紙の変遷と杉原紙	館長　湯山賢一	7月3日	多可町文化遺産活用実行委員会、多可町教育委員会「多可町おもしろ歴史セミナー」
2	同上	和紙の歴史Ⅱ	同上	7月26日	第66回法隆寺夏季大学
3	同上	古代の紙	同上	12月17日	万葉文化館「万葉古代学講座」

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
4	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	古文書修理の歴史と理念	館長　湯山賢一	29年1月28日	京都大学総合博物館特別展「日本の表装」土曜連続講演会
5	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	奇跡の正倉院　成立と展開、現代における意味	学芸部長　内藤栄	4月23日	菊池寛実記念　智美術館
6	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	忍性の信仰と生涯	同上	7月5日	真言律宗布教師研修会
7	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	聖武天皇の受戒と正倉院宝物献納	同上	8月19日	奈良国立博物館　第四十五回夏季講座「律宗の歴史と美術―鑑真から忍性へ」
8	同上	正倉院の工芸―遣唐使は何を持ちかえったか―	同上	8月27日	奈良女子大学なら学（公開講座）
9	同上	正倉院宝物から読み解く聖武天皇像と今年の正倉院展の見どころ	同上	9月15日	奈良学ナイトレッスン
10	同上	せいぶ正倉院講座	同上	11月2日	講演会（於：奈良市西部公民館）
11	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	仏舎利の荘厳	同上	12月10日	歴史講座「鎌倉時代の信仰と美術２」
12	同上	初公開の獅子・狛犬について　～日本の狛犬の流れのなかで～	上席研究員　岩田茂樹	6月5日	春日大社第六〇次式年造替記念講座
13	同上	なら仏像館と奈良の仏像	同上	6月19日	奈良学セミナー「奈良の歴史と文化」
14	同上	圓教寺奥の院の諸尊	同上	12月18日	奈良国立博物館サンデートーク
15	同上	白鳳期菩薩像にみる特異な着衣形式について	情報サービス室長　岩井共二	6月19日	奈良国立博物館サンデートーク
16	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	第３回目　正倉院の献物箱：宝物を納めた箱もまた宝物	工芸考古室長　清水健	6月19日	２０１６年度　智美術サロン「宝物の眠る場所　Part １」
17	同上	正倉院宝物――１２６０年の道程とその鑑賞	同上	10月1日	正倉院展レクチャー福岡
18	同上	正倉院の荘厳具――大幡に寄せて――	同上	11月5日	「第６８回　正倉院展」公開講座
19	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	法螺話	工芸考古室長　清水健	2月19日	奈良国立博物館サンデートーク
20	同上	奈良国立博物館における木彫像の樹種同定調査	保存修理指導室長　鳥越俊行 研究員　大江克己	6月25日 6月26日	文化財保存修復学会
21	同上	明治維新と廃仏毀釈	企画室長　野尻忠	7月18日	特別講演会「歴史と共に考える文化財の防災・減災」
22	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院文書　―天平の息吹を感じるウラ話―	同上	8月21日	「智美術サロン2016　宝物の眠る場所Ⅰ　正倉院　第五回」
23	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	額田寺伽藍並条里図について ～地域史再発見～ PART 2	同上	11月27日	於：大和郡山市昭和地区公民館
24	同上	信貴山縁起絵巻と朝護孫子寺の毘沙門天王信仰	教育室長　谷口耕生	5月7日	特別展『国宝 信貴山縁起絵巻―朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝』公開講座
25	同上	仏画の表装	同上	12月18日	シンポジウム「表装と日本文化」）於：京都文化博物館
26	同上	奈良県技師が生んだ名建築　仏教美術センター（旧奈良県物産陳列館）の魅力	資料室長　宮崎幹子	3月19日	奈良国立博物館サンデートーク
27	同上	海を渡った鏡	主任研究員　中川あや	1月8日	奈良国立博物館サンデートーク
28	同上	内侍所神鏡をめぐる儀礼	研究員　斎木涼子	6月4日	第十八回洛北史学会大会「儀礼研究の可能性―王権・宗教・外交―」
29	同上	平安時代の御物と御蔵	同上	11月3日	正倉院学術シンポジウム二〇一六

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
30	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	平安時代の宮中仏事	研究員　斎木涼子	11月20日	奈良国立博物館サンデートーク
31	同上	大峯山寺蔵王権現像と平安・鎌倉時代の金銅仏制作	研究員　山口隆介	5月17日	奈良国立博物館サンデートーク
32	同上	忍性と極楽寺の仏像	同上	8月27日	公開講座（ 於：奈良国立博物館）
33	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	善円の軌跡と造像	研究員　山口隆介	10月1日	市民教養講座「歴史講座」（鎌倉時代の信仰と美術２）
34	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	古墳時代中期短甲の革綴技術に関する概念の相違	研究員　大江克己	6月4日 6月4日	日本文化財科学会
35	同上	応力変化を視座にする出土金属製品の構造解釈	同上	8月20日	兵庫県考古学談話会
36	同上	金属製品をめぐる技術について～科学的保存処理の技術と金工技術～	同上	12月13日	国際研究集会「古代日韓の装飾と技術」
37	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	明恵をめぐる絵巻制作―「華厳宗祖師絵伝」を中心に―	研究員　伊藤久美	6月25日	龍谷大学アジア仏教文化研究センター二〇一六年度学術講演会「明恵と高山寺」
38	同上	律宗の祖師像・祖師絵伝	同上	8月18日	夏季講座「律宗の歴史と美術―鑑真から忍性へ」
39	同上	「華厳宗祖師絵伝」について	同上	12月19日	（講演）　於：韓国・国立慶州博物館
40	同上	冬の奈良と奈良国立博物館の楽しみ―工芸品を中心に―	研究員　田澤　梓	12月4日	奈良トライアングルミュージアムズ東京セミナー

〇その他有形文化財に関連する調査研究　1件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	中国戦国時代の青銅剣に対するＸ線ＣＴ調査	保存修理指導室長　鳥越俊行 研究員　大江克己	6月4日 6月4日	日本文化財科学会

【九州国立博物館】　36件

〇有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　21件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	材質調査	X 線 CT 調査による古墳時代甲冑の分析	鹿児島大学　橋本達也、奈良大学　今津節生、企画課課長　河野一隆、博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、展示課主任研究員 岸本圭、展示課 小嶋篤	6月4日	日本文化財科学会33回大会
2	同上	X 線 CT スキャナを用いた国宝「初音の調度」見台の構造調査	博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、徳川美術館　吉川美穂、文化財課主任研究員　川畑憲子、奈良大学　今津節生	6月4日	日本文化財科学会33回大会
3	同上	土井ヶ浜遺跡出土 124 号人骨の X 線 CT による非破壊調査	博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、土井ケ浜遺跡・人類学ミュージアム　大薮由美子、土井ケ浜遺跡・人類学ミュージアム　高椋浩史、博物館科学課非常勤研究員　田中麻美、奈良大学　今津節生	6月4日	日本文化財科学会33回大会
4	同上	中国戦国時代の青銅剣に対するＸ線CT調査	保存修理指導室長　鳥越俊行、泉屋博古館　廣川守、奈良大学　今津節生、博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、奈良国立博物館アソシエイトフェロー　大江克己	6月4日	日本文化財科学会33回大会 ＊奈良博のその他有形文化財に関連する調査研究「中国戦国時代の青銅剣に対するＸ線ＣＴ調査」と同調査研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
5	材質調査	X 線 CT スキャナを用いた蒔絵硯箱の構造研究 ～「小倉山蒔絵硯箱」の構造調査	博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、サントリー美術館　佐々木康之、文化財課主任研究員川畑憲子、奈良大学 今津節生	6月25日	文化財保存修復学会38回大会
6	同上	X 線 CT スキャナを用いた蒔絵硯箱の構造研究 ～「我宿蒔絵硯箱」の構造調査～	博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、彦根城博物館　奥田晶子、文化財課主任研究員川畑憲子、奈良大学　今津節生	6月25日	文化財保存修復学会38回大会
7	材質調査	X 線 CT によるアイヌ民族資料「ケマウシペ（行器）」の制作技法および劣化現況に関する調査	北海道博物館　杉山智昭、奈良大学　今津節生、保存修理指導室長　鳥越俊行、博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、元北海道博物館　小林幸雄、平取町立二風谷アイヌ文化博物館　長田佳宏	6月25日	文化財保存修復学会38回大会
8	同上	黒漆楼閣人物螺鈿卓の構造・技法 —X 線 CT とマイクロ X 線 CT を用いた調査—	大西漆芸修復スタジオ大西智洋、博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、博物館科学課アソシエイトフェロー　金旻貞、浦添市美術館　宮里正子	6月25日	文化財保存修復学会38回大会
9	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　ー東アジア金属工芸史の再構築ー	Being “Antique Objects” to “Archaeological Materials”: A Chang Seen on Chinese Bronze Artifacts from the Tokyo Imperial Museum before the 1930s	企画課特別展室主任研究員　川村佳男	8月28日	WAC-8 Kyoto Program Committee
10	水中文化遺産	Underwater Cultural Management in International Perspectives	博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木　蘭貞	8月29日	世界考古学会議（京都）
11	同上	The use of ROV for defining the area of a site underwater	同上	8月30日	世界考古学会議（京都）
12	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　ー東アジア金属工芸史の再構築ー	清宮旧蔵的青銅器：日本篇	企画課特別展室主任研究員　川村佳男	9月7日	「清宮旧蔵青銅器」項目会議（会場：北京　故宮博物院）
13	特別展「始皇帝と大兵馬俑」	親子で探ろう！兵馬俑のひみつ	同上	9月10日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」記念講演会（会場：国立国際美術館）
14	同上	始皇帝が夢見た『永遠』ー兵馬俑と発掘品から読み解く	同上	9月10日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」記念講演会（会場：国立国際美術館）
15	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　ー東アジア金属工芸史の再構築ー	中国金工品のうつろい　ー殷周の青銅器から唐代の金銀器までー	同上	9月25日	中国工芸名品展ー陶磁・金工・漆工ー特別講演（会場：大和文華館）
16	同上	也談嶺南系青銅器：以温酒樽為例	同上	10月27日	漢代海上絲綢之路考古与漢文化国際学術研討会（会場：中国広西壮族自治区北海市金昌開元名都大酒店）
17	水中文化遺産	The Past, present, and future of Underwater Cultural Heritage Management in Japan	博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木　蘭貞	10月27日	新安沈船発掘40周年記念シンポジウム（木浦市・韓国）
18	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究	「日本に伝わるパーリ語貝葉写本と包裂について」	企画課特別展室長 原田あゆみ	10月29日	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究第3回研究会
19	水中文化遺産	海外における発掘調査・活用事例報告	博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木　蘭貞	11月3日	国史跡鷹島神崎遺跡シンポジウム基調講演
20	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　ー東アジア金属工芸史の再構築ー	蛍光Ｘ線分析と元素マッピングによる考古資料の新地平　ー漢時代の鍍金銀銅刀を対象にー	企画課特別展室主任研究員川村佳男、東京国立博物館保存修復課環境保存室長　和田浩、東京国立博物館企画課特別展室主任研究員　市元塁、Bruker Nano Dr.Roald Tagle、ブルカー・エイエックス株式会社　水平学	11月19日	日本中国考古学会２０１６年度大会（会場：京都府立大学）
21	教育普及活動に関する調査研究	「楽しくなければ博物館じゃない！九州国立博物館の4つの試み」	企画課アソシエイトフェロー　西島亜木子	11月24日	「2016年博物館教育における国際シンポジウム」（会場：国立自然科学博物館（台湾））

○その他有形文化財に関連する調査研究　15件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	遼代壁画研究	中国所在文化財の高精細画像化について	学芸部特任研究員 臺信祐爾	4月16日	図書館等施設における文化財保存のための高精細画像技術学会

2	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	東日本の前期古墳出土丹塗土器に採用されたベンガラの地域性に関する研究	博物館科学課保存修復室 主任研究員　志賀智史	6月4日 5日	日本文化財科学会33回大会（奈良大学）
3	有形文化財の保存県境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究	「歴史資料に使用された彩色材料の調査研究」	博物館科学課環境保全室 研究員　秋山純子	6月4日 5日	日本文化財科学会
4	アフガニスタン美術史	古代アフガニスタンの歴史と文化	学芸部特任研究員 臺信祐爾	6月5日	九州・シルクロード協会　交流会
5	文化財IPM	博物館展示資料の加湿温風による殺虫処理について-山笠土台部材の処理事例	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、東京文化財研究所　北原博幸、博物館科学課研究員　秋山純子、博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、京都大学　藤井義久、京都大学　藤原裕子、交流課事務主査　岩橋神奈子、博物館科学課研究補佐員　泊智子、博物館科学課研究補佐員　光山文枝、環境文化創造研究所　山崎久美子、カナダ保存研究所　トムストラング、学芸部特任研究員　本田光子、前博物館科学課課長今津節生	6月25日	文化財保存修復学会38回大会
6	同上	太陽光を利用した高温処理システム開発-殺虫条件を満たすための処理空間の創出を目指した試験について-	国立民族学博物館　日高真吾、国立民族学博物館　園田直子、国立民族学博物館　末森薫、国立民族学博物館　西澤昌樹、国立民族学博物館　松田万緒、（公財）元興寺文化財研究所　河村友香子、（公財）元興寺文化財研究所　橋本沙知、文化創造巧芸　和高智美、博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、環境文化創造研究所　川越和四	6月25日	文化財保存修復学会38回大会
7	同上	冷凍庫を利用した木製クレートの予防的低温殺虫処理について	博物館科学課研究員　秋山純子、博物館科学課長兼環境保全室長　　木川りか、博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、博物館科学課研究補佐員　泊智子、博物館科学課研究補佐員　光山文枝、環境文化創造研究所　山崎久美子、カナダ保存研究所　トムストラング、学芸部特任研究員　本田光子、前博物館科学課課長今津節生	6月25日	文化財保存修復学会38回大会
8	遼代壁画研究	内蒙古所在遼代壁画高精細画像などの博物館展示への応用	学芸部特任研究員 臺信祐爾	9月9日	北方草原古代壁画芸術保護研究国際シンポジウム
9	文化財IPM	九州国立博物館における新規殺虫処理システムと最近の取り組みについて	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、 環境保全室研究員　秋山純子	10月26日	IPMセミナー
10	同上	温湿度のモニタリング方法と重要性 測定機器、調湿方法、データ管理　（実習）	博物館科学課環境保全室 研究員 秋山純子	10月27日	IPM研修
11	同上	文化財害虫について 文化財害虫の同定（実習） 文化財の虫やカビへの対応法	博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか	10月27日 28日	IPM研修
12	同上	文化財害虫発見記録データ分析 データの見方	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、博物館科学課環境保全室研究員 秋山純子	10月28日	IPM研修
13	西域美術	西域の仏教美術	学芸部特任研究員 臺信祐爾	10月29日	シルクロード東京　文化学術シンポジウム
14	文化財IPM	文化財の生物被害と加害生物およびレベルコントロールについて	博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか	12月14日	（公財）文化財研究所　第６回IPMコーディネータ資格取得講習会
15	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	考古学と科学～赤色顔料の分析から～	博物館科学課保存修復室 主任研究員　志賀智史	平成29年 3月11日	備前歴史フォーラム2016（岡山県備前市）

【東京文化財研究所】　47件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　15件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　7件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	東京文化財研究所における文化財に関する専門的アーカイブの拡充－『日本美術年鑑』のコンテンツを国際的学術基盤へ－	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室研究員 橘川英規	9月15日	EAJRS（日本資料専門家欧州協会、ルーマニア・ブカレスト大学）
2	日本東洋美術史の資料学的研究	詞書の筆跡からみた遊行上人縁起絵―伝世諸本の位相―	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英	29年3月28日	文化財情報資料部研究会　遊行上人縁起絵の調査・研究
3	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	栗原玉葉の《朝妻桜》に関する考察	文化財情報資料部近・現代視覚芸術研究室アソシエイトフェロー　田所泰	29年1月28日	美術史学会東支部例会
4	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	螺鈿に使われる貝殻の分析 ―主にヤコウガイ、アワビについて	矢崎 純子，南條 沙也香，文化財情報資料部広領域研究室長　小林 公治，松田泰典，小松 博	6月11日	宝石学会
5	同上	螺鈿に使われる貝殻の構造的特徴 ―ヤコウガイ、アワビについて	同上	6月26日	文化財保存修復学会
6	同上	慶長期後半から寛永期前半にかけて流行した漆器文様・技法 ―絵画資料と伝世漆器との対話―	文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	10月25日	文化財情報資料部研究会
7	同上	甲賀市藤栄神社所蔵の十字形洋剣に対する検討	文化財情報資料部広領域研究室長　小林 公治，永井晃子、末兼俊彦、池田素子、無形文化遺産部客員研究員 原田一敏	29年2月24日	同上

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　8件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	現在に伝わる明治の超絶技巧	無形文化遺産部研究員　菊池理予	10月17日	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅲ「現在に伝わる明治の超絶技巧」
2	同上	伝統芸能を支える力―人形浄瑠璃文楽を事例として―	無形文化遺産部長　飯島満	11月19日	『無形文化遺産国際シンポジウム―技と心を受け継ぐ―』
3	同上	文化財保護における麻のきもの･絹のきもの	無形文化遺産部研究員　菊池理予	29年1月18日	第11回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座「絹のきもの・麻のきもの」
4	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産時代の神楽	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	11月13日	儀礼文化学会
5	同上	箕の製作技術と民俗―全国の事例から	無形文化遺産部研究員　今石みぎわ	12月4日	国指定重要無形民俗文化財「論田・熊無の藤箕製作技術」周知事業
6	同上	九州の神楽とユネスコ無形文化遺産	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	29年3月10日	九州の神楽シンポジウム2017
7	文化遺産国際協力拠点交流事業「大洋州諸島しょ国の文化遺産保護に関する拠点交流事業」	気候変動が文化遺産に及ぼす影響（ポスター発表）	無形文化遺産部音声映像記録研究室長　石村智	4月16～17日	考古学研究会第62回総会研究集会
8	同上	第一回カヌーサミット開催報告	同上	29年3月26～27日	第34回日本オセアニア学会研究大会・総会

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　23件

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　23件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	文化財の微生物劣化	保存科学研究センター主任研究員　佐藤嘉則	9月27日	日本防菌防黴学会第 43 回年次大会
2	同上	博物館等におけるカビ等の迅速検出法について	同上	10月26日	平成28年度　九州国立博物館IPMセミナー
3	同上	装飾古墳における生物劣化と対策-石室石材の表面状態の保存-	同上	29年1月14日	東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター公開講演会
4	同上	Strain change on surface of wood and Urushi layer under humidity controlled warm air treatment	客員研究員　藤井義久　他	8月20日	2nd International symposium Wood Science and Craftsmanship
5	同上	様々な紙試料におけるカビ調査	保存科学研究センター主任研究員　佐藤嘉則　他	9月26日	日本防菌防黴学会第 43 回年次大会
6	保存と活用のための展示環境の研究	実験用実大展示ケースを用いたケース内空気環境の研究　―展示ケース内温湿度の測定とCFD 解析―	日本学術振興会特別研究員 古田嶋智子　他	6月25～26日	文化財保存修復学会第38回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
7	保存と活用のための展示環境の研究	実験用実大展示ケースを用いたケース内空気環境の研究　―気流性状の測定とCFD 解析―	岡村製作所　須賀政晴　他	同上	同上
8	同上	実験用実大展示ケースを用いたケース内空気環境の研究　―展示ケースのガス濃度評価方法の提案―	客員研究員　呂俊民　他	同上	同上
9	同上	展示台からの酢酸ガス遮蔽材料についての検討	文化財情報資料部長　佐野千絵　他	同上	同上
10	保存と活用のための展示環境の研究	美術館･博物館における展示空間の空気環境に関する研究　その3. 空気清浄化機能を有した実験用展示ケースの評価	客員研究員　呂俊民　他	8月24～26日	2016年度日本建築学会大会
11	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	サントリー美術館所蔵　重要文化財四季花鳥図屏風の彩色材料調査	保存科学研究センター副センター長　早川泰弘　他	6月4～5日	日本文化財科学会第33回大会
12	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	国宝銅造阿弥陀如来坐像の地震対策評価 その1　過去の地震被害および対策	保存科学研究センター主任研究員　森井順之　他	8月25日	2017年度日本建築学会大会（九州）
13	同上	風化形態の違いによる砂岩の侵蝕速度の違い	保存科学研究センター修復計画研究室長　朽津信明　他	10月26～27日	日本応用地質学会平成28年度研究発表会
14	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	緑青および焼緑青が和紙に及ぼす影響 ~灰汁中の銅イオンの存在~	客員研究員　貴田啓子　他	6月25日	文化財保存修復学会第38回大会
15	同上	琉球漆器の堆錦技法に用いる焼漆製作工程の調査研究	保存科学研究センター修復材料研究室長　早川典子　他	同上	同上
16	同上	紙に付着した粘着テープの劣化-有機溶媒を用いた粘着テープおよびテープ痕除去方法の検討―	同上	同上	同上
17	同上	補採用絵具として使用される棒絵の具類の接着剤について	同上	同上	同上
18	同上	粒度の異なる緑青顔料が和紙の劣化に及ぼす影響	客員研究員　貴田啓子　他	7月14日	マテリアルライフ学会第27回研究発表会
19	同上	Chemical analysis of UV irradiated B-72 by PY-GC/MS and EGA-MS	客員研究員　本多貴之　他	5月10日	Analytical and Applied Pyrolysis, 21th International Symposium
20	同上	Multilateral Chemical Analysis of UV irradiated B-72	同上	10月7日	アメリカ化学会
21	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	近代水道遺産の活用に向けて	保存科学研究センター近代文化遺産研究室長　北河大次郎	10月20日	全国近代化遺産活用連絡協議会
22	同上	事例報告【前橋市を中心とした絹遺産の煉瓦建造物】	保存科学研究センター近代文化遺産研究室アソシエイトフェロー　石田真弥	6月25日	シルクロードネットワーク　新庄フォーラム　2016
23	同上	事例報告【まちの宝を活かしたまちづくり-前橋市を例として】	同上	11月5日	赤煉瓦ネットワーク第26回全国大会2016半田大会

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　5件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　5件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	保存修復技術の国際的応用に関する研究	バガン遺跡煉瓦造建造物外壁の保存修復について	文化遺産国際協力センター研究員　前川佳文	7月20日	宗教文化省考古国立博物館局バガン支局
2	同上	Maintenance project of Wall Painting in Turkey	同上	10月31日	ガーズィ大学芸術学部
3	同上	同上	同上	11月1日	アンカラ文化観光省
4	同上	Why do we need to work on Cappadocia?	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　増渕麻里耶	11月3日	ネブシェヒル博物館及びネブシェヒル保存修復センター
5	在外日本古美術品保存修復協力事業	画絹の生糸形状が発色に与える影響	元文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　山田祐子　他	6月26日	文化財保存修復学会第38回大会

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　4件

○文化財情報基盤の整備・充実　1件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	図書館に発生したカビとその防除対策事例	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室研究員　橘川英規	10月14日	第36回文化財防虫防菌処理実務講習会

○調査研究成果の発信　3件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財情報基盤の整備・充実	尾高鮮之助調査撮影記録のデータベース化とその活用事例	文化財情報資料部文化財情報研究室長　二神葉子 他	6月26日	文化財保存修復学会第38回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
2	文化財情報基盤の整備・充実	東京文化財研究所の広域ネットワークを利用した取り組み	文化財情報資料部文化財情報研究室アソシエイトフェロー 福永八朗	10月14日	広帯域ネットワーク利用に関するワークショップ「ADVNET2016」
3	同上	WordPressを利用した動的ウェブサイトの構築と効果：ウェブ版「物故者記事」および「美術界年史（彙報）」を事例として	文化財情報資料部文化財情報研究室研究補佐員　小山田智寛	29年1月12日	文化財情報資料部研究会

【奈良文化財研究所】　111件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　24件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　5件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	生駒長福寺の本堂と木札の調査　―木札編―	文化遺産部室長　吉川聡	12月3日	木簡学会　第38回研究集会
2	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	伝統的建造物群保存地区における修理修景	文化遺産部長　林良彦	7月2日	愛知県ヘリテージマネージャー研修会
3	同上	文化財建造物の修理について	同上	12月3日	徳島県文化財マイスター養成研修会
4	同上	横手市松浦家、佐藤家住宅の文化財の価値について	同上	29年3月11日	松浦家、佐藤家住宅重要文化財指定記念講演会
5	同上	修理と修景の実務	同上	10月27日	全国伝統的建造物群保存地区協議会東北ブロック会議記念講演

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　19件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡整備）	キトラ古墳の整備と活用	文化遺産部室長　内田和伸	11月3日	国営飛鳥歴史公園体験学習講座
2	同上	特別史跡キトラ古墳の整備―乾拓板を用いた遺跡の活用―	同上	11月3日	国営飛鳥歴史公園キトラ地区体験学習
3	我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）	橿原神宮文華殿と森蘊の業績	文化遺産部アソシエイトフェロー　エマニュエル・マレス	6月5日	橿原神宮文化講座
4	同上	The place of Kobori Enshu in the History of Japanese Gardens	同上	10月10日	Kyoto University of Art and Design International Symposium (II) Understanding Japanese Gardens : Spirituality or Science
5	同上	昭和期における歴史的庭園の整備とその後の保存・活用ー森蘊の業績を通してー	同上	11月22日	平成28年度福岡市町村文化財保存整備協議会研修会
6	同上	奈良市における庭園の悉皆的調査ー森蘊が修復・移転・新造した庭ー	同上	平成29年1月27日	奈良文化財研究所第27回総合研究会
7	同上	人は庭園に何を見るのか？	同上	平成29年3月16日	地球の住まい方　オギュスタン・ベルク著『理想の住まい隠遁から殺風景へ』出版記念研究会
8	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	平城京の飛雲文軒瓦	都城発掘調査部研究員林正憲	平成29年2月4日	第17回古代瓦研究会シンポジウム「8世紀の瓦づくりⅥ　飛雲文軒瓦の展開」
9	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	遺構からみた郡庁の建築的特徴と空間的特質	都城発掘調査部研究員海野聡	12月9日	第20回古代官衙・集落研究集会「郡庁域の空間構成」
10	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	キトラ古墳の天文図を読み解く	飛鳥資料館学芸室長　石橋茂登	平成29年3月5日	第10回アジア考古学四学会合同講演会
11	藤原宮跡の発掘調査（朝堂院）	藤原宮の幢幡遺構ー大宝元年の元日朝賀と儀仗旗―	都城発掘調査部研究員　大澤正吾	11月13日	奈文研第8回東京講演会飛鳥むかしむかし
12	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	星空とキトラ古墳のナゾにせまる	都城発掘調査部主任研究員 降幡順子	5月21日	多摩六都科学館講演会『プラネタリウムで考古学～キトラ古墳が語るもの～』多摩六都科学館
13	同上	Provenance study for earthenware with colored lead glazes excavated in 7th -8th century, Japan	都城発掘調査部主任研究員 降幡　順子、都城発掘調査部主任研究員　神野　恵、都城発掘調査部長　玉田　芳英	9月1日	WAC-8
14	同上	飛鳥・藤原の木簡を紐解く	都城発掘調査部主任研究員 山本崇	11月13日	奈良文化財研究所第8回東京講演会　飛鳥むかしむかし
15	同上	飛鳥寺の発掘と塔心礎埋納品－飛鳥寺発掘60年－	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　諫早直人	11月13日	奈良文化財研究所第8回東京講演会　飛鳥むかしむかし

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
16	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	古代国家機能周縁の集落構造について-山口市鋳銭司地区和西集落における千年村研究 その1-	文化遺産部アソシエイトフェロー　本間智希	8月24日	2016年度　日本建築学会大会〔九州〕
17	同上	Development and Progress of “Cultural Landscapes in Japan”	同上	9月21日	筑波大自然保護特別講座
18	同上	中世日本における境致の概念および庭園との関係　大乗院八景と眺望景観	文化遺産部主任研究員　中島義晴	10月15日	名勝大乗院庭園文化館　第4回庭園研究講座
19	同上	地域のみかた 自然基盤と営みの相互関係	文化遺産部研究員　惠谷浩子	11月13日	生活学校　鹿の舟　第五回講座　「はたらく」

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　75件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　40件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	年輪年代学研究	年輪年代学的手法による木簡研究の可能性［招待有り］	埋蔵文化財センター研究員 星野安治，都城発掘調査部アソシエイトフェロー　浦蓉子，都城発掘調査部研究員 山本祥隆	12月3日	木簡学会　第38回研究集会
2	同上	年輪年代学的手法を用いた木器の接合検討－出土木器研究の新展開－	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　浦蓉子，埋蔵文化財センター研究員　星野安治	6月4日	日本文化財科学会第33回大会（日本文化財科学会第10回ポスター賞）
3	同上	鈴木政吉工場製および手工品ヴァイオリンの非破壊年輪年代測定と産地推定	埋蔵文化財センター主任研究員　大河内隆之，愛知県立芸術大学教授　井上さつき，愛知県立大学准教授　桐山建志，信州大学准教授　安江恒	6月4日	日本文化財科学会第33回大会（口頭）
4	同上	年輪年代調査に基づく宝城坊厨子の造営年代に関する研究	埋蔵文化財センター主任研究員　大河内隆之，横浜国立大学教授　大野敏	6月4日	日本文化財科学会第33回大会（ポスター）
5	同上	鼓の用材樹種についてⅣ X線CTスキャンを用いた検討	京都大学研究員　横山操，埋蔵文化財センター主任研究員 大河内隆之，埋蔵文化財センター客員研究員　伊東隆夫	6月4日	日本文化財科学会第33回大会（ポスター）
6	同上	マイクロフォーカスＸ線ＣＴを用いた国産ヴァイオリンの非破壊による年輪年代学的研究　－鈴木政吉の製品と作品を中心に－	埋蔵文化財センター主任研究員　大河内隆之，愛知県立芸術大学教授　井上さつき，愛知県立大学准教授　桐山建志，信州大学准教授　安江恒	6月8日	日本写真学会年次大会（ポスター）
7	同上	ナノＸ線ＣＴを用いた木材の解剖学的構造の観察	埋蔵文化財センター主任研究員　大河内隆之	6月8日	日本写真学会年次大会（ポスター）
8	同上	年輪年代学の視点から見た宝城坊厨子の造営年代について（口頭）	埋蔵文化財センター主任研究員　大河内隆之，横浜国立大学教授　大野敏	8月25日	2016年度　日本建築学会大会〔九州〕
9	同上	Studying the Origins of Wood Remains through Dendrochronological Analysis	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　浦蓉子，埋蔵文化財センター研究員　星野安治	8月30日	8th World Archaeological Congress
10	同上	年輪年代学の新しい可能性を目指して	年代学研究室研究員　星野安治	11月5日	第119回奈良文化財研究所公開講演会
11	同上	年輪年代学的手法を用いた小型木製品の検討－平城宮･京跡出土斎串および木簡の事例－	年代学研究室研究員　星野安治、都城発掘調査部アソシエイトフェロー　浦蓉子、都城発掘調査部研究員　山本祥隆	11月20日	第31回日本植生史学会大会
12	動植物遺存体の分析方法の研究開発	馬の貢進・貝の貢進	埋蔵文化財センター研究員 山崎健	3月4日	第33回条里制・古代都市研究会大会
13	同上	平安時代の都市における動物利用	埋蔵文化財センター客員研究員　丸山真史	3月4日	第33回条里制・古代都市研究会大会
14	同上	藤原宮跡から出土した馬の飼育形態と産地推定	埋蔵文化財センター研究員 山崎健他	6月19日	日本動物考古学会第4回大会
15	同上	動物遺存体からみた古代の食	同上	8月27日	第273回近江貝塚研究会
16	同上	Assistance with Organic Material Remains Discovered in Reconstruction Surveys after the Great East Japan Earthquake	同上	8月29日	The 8th World Archaeological Congress
17	同上	Relation between shell middens and sea-level changes from the Initial to the Middle Jomon period in northeastern Japan	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　松崎哲也	8月29日	The 8th World Archaeological Congress
18	同上	Open-access and application of 3D Bone Atlas Database	埋蔵文化財センター客員研究員　菊地大樹	8月29日	The 8th World Archaeological Congress
19	同上	渥美半島の貝塚からわかる縄文時代の暮らし	埋蔵文化財センター研究員 山崎健	11月23日	第31回国民文化祭あいち2016シンポジウム

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
20	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	How to classification? ? A trial examining the effectiveness of an elliptic Fourier descriptor for Japanese archaeological studies	埋蔵文化財センター室長　金田明大	4月1日	CAA2016Oslo
21	同上	カタチはヒトにどう作用するのか ― 考古学からみた人工物のカタチ	埋蔵文化財センター室長　埋蔵文化財センター室長金田明大	4月17日	日本生物地理学会 2016年度大会シンポジウム
22	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	矢穴の非接触三次元計測による石割技法の検討	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　山口欧志	5月28日	日本考古学協会第82回総会
23	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	三次元データの利用を考える―島内 139 号地下式横穴墓出土状況の計測成果より	埋蔵文化財センター室長　金田明大	6月4日	日本文化財科学会第33回大会
24	同上	遺跡の磁気探査における磁化研究の重要性	埋蔵文化財センター室長　金田明大	6月4日	日本文化財科学会第33回大会
25	同上	多焦点画像処理による歴史芸術文化遺産の詳細記録	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　山口欧志	6月4日	日本文化財科学会第33回大会
26	同上	SfM/MVS を用いた島内 139 号地下式横穴墓出土状況の計測	埋蔵文化財センター室長　金田明大	6月5日	日本文化財科学会第33回大会
27	同上	歴史芸術文化遺産の3Dデジタル資源化とその活用	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　山口欧志	6月11日	アート・ドキュメンテーション学会2016年度年次大会
28	同上	小さな文化遺産のデジタル文化資源化	同上	6月22日	第29回　ARCセミナー
29	同上	SfM-MVSによる文化遺産の計測	同上	7月21日	文化財写真技術研究会
30	同上	Landscape archaeology of Hakusan worship	同上	8月29日	The Eithth World Archaeological Congress, Kyoto
31	同上	Human resource development in the field of digital documentation of cultural heritage in Mongolia.	同上	8月28日	The Eithth World Archaeological Congress, Kyoto
32	同上	Digital documentation of cultural heritage in Mongolia:Past, Present, and Future	同上	9月27日	Archaeological research and preservation eastren Mongolia
33	同上	モンゴル文化遺産のデジタルドキュメンテーション	同上	10月16日	3D考古学の挑戦:考古遺物・遺構の三次元計測における研究の現状と課題
34	同上	東亜考古学会による渤海上京城発掘資料の再検討―三次元計測データに基づく瓦研究―	埋蔵文化財センター客員研究員　中村亜希子	11月20日	日本中国考古学会2016年度大会
35	同上	三次元デジタルドキュメンテーションが拓く文化遺産の新たな世界	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　山口欧志	29年1月21日	立命館土曜講座
36	同上	考古資料の三次元デジタル記録	同上	29年1月27日	奈良文化財研究所第27回総合研究会
37	同上	The Japan GIS database of the Histrical Natural Disaster and Hazards using research data of Archaeological excavation, Geological survey and Histrical documents.	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　村田　泰輔	8月28日	The Eighth World Archaeological Congress. 343-345
38	同上	SfM-MVS for site topological survey and archaeological excavation research	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　山口欧志	9月22～23日	2nd Workshop Digital documentation of cultural heritage in Mongolia
39	同上	A Challenge of the Archaeological Methods in Japan	埋蔵文化財センター室長　金田明大	7月22日	CNRS　Seminer
40	同上	A Resent Challenge of the Archaeological Methods in Japan	同上	2月24日	The Digital Repository of Japanese Archaeological Site Reports: background and prospects for collaboration.

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　35件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	平城宮跡遺構展示館における塩析出抑制を目的とした保存環境の検討	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他２名	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会
2	同上	大分市元町石仏における塩類風化の現状と要因の検討（その２）	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他３名	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会
3	同上	特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡における劣化対応の経過報告	埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他３名	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
4	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	元町石仏の保存に関する研究ー熱水分移動の数値解析による石仏各部における塩類風化の進行の検討ー	埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他４名	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会
5	同上	交流インピーダンス法を用いた埋蔵環境下における金属製遺物の腐食速度に関する検討	埋蔵文化財センター研究員　柳田明進 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会
6	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	砂岩製文化財の劣化に及ぼす環境因子の影響ー七本官軍墓地下浦砂岩製墓石を例としてー	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター究室長　高妻洋成　ほか１名	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会
7	同上	元町石仏の保存に関する研究　部位形状の違いが塩類風化の進行に与える影響	埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　他３名	8月24日	2016年度　日本建築学会大会〔九州〕
8	同上	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究　その４　石室内の温度、水分状態が金属製遺物の腐食過程に及ぼす影響	埋蔵文化財センター研究員　柳田明進 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他３名	8月24日	2016年度　日本建築学会大会〔九州〕
9	同上	史跡ガランドヤ１号墳の保存環境に関する研究　仮設覆屋による結露抑制方法の検討	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔	8月24日	2016年度　日本建築学会大会〔九州〕
10	同上	Salt Deterioration at Motomachi stone-cliff Buddha in Oita Prefecture of Japan	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他３名	8月28日	世界考古学会議　第８回大会 WAC-8 Kyoto 2016
11	同上	Experimental research on preservation of buried cultural properties in the stone chamber by means of the simulated tumulus - Effect of environment on corrosion of metal artifacts in the stone chamber	埋蔵文化財センター研究員　柳田明進 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他３名	8月28日	世界考古学会議　第８回大会 WAC-8 Kyoto 2016
12	同上	Effect of burial environment on deterioration on wooden and metal objects at the underwater site	埋蔵文化財センター研究員　柳田明進 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他１名	8月28日	世界考古学会議　第８回大会 WAC-8 Kyoto 2016
13	同上	Study on preservative environments in Tagumaishihatake site	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター研究員　柳田明進 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他１名	8月28日	世界考古学会議　第８回大会 WAC-8 Kyoto 2016
14	同上	Deterioration of remains exhibited in the Excavation Site Exhibition Hall, Heijyo-Kyu Palace Sit	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他２名	8月28日	世界考古学会議　第８回大会 WAC-8 Kyoto 2016
15	同上	Examination of environmental control method to condensation observed inside the stone chamber of Garandoya tumulus	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成	8月28日	世界考古学会議　第８回大会 WAC-8 Kyoto 2016
16	同上	Dryingof archaeological sites and relics in Japan	埋蔵文化財センター室長　高妻洋成	8月7日	20th International Drying Symposium, Plenary Lecture
17	同上	テラヘルツ波で見る古墳壁画	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	11月9日	ハイテク推進セミナー
18	建造物彩色に関する研究	特別史跡平城宮朱雀門の塗装劣化の特徴について	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他１名	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
19	建造物彩色に関する研究	特別史跡平城宮跡第一次大極殿正殿の塗装の現状について	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他１名	6月26日	文化財保存修復学会第38回大会
20	同上	The degradation painting of the First Daigokuden Main Hall and Suzaku-Gate	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他１名	8月28日	世界考古学会議　第８回大会 WAC-8 Kyoto 2016
21	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	Distribution of Plant-ash Glass in Japan: Historical Change of Glass Route along the Silk Road	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美	4月30日	24th International Congress on Glass in Shanghai
22	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	「2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良」の成果と、東アジア文化遺産保存学会の活動	埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他2名	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会
23	同上	テラヘルツ波イメージング技術による高松塚古墳壁画の層構造調査	埋蔵文化財センター室長　高妻洋成 埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　杉岡奈穂子 他３名	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会
24	同上	出土木製遺物の一時保管容器における水質の推移	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　松田和貴 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会
25	同上	水蒸気移動による出土鉄製文化財の新規脱塩法の開発（その１）塩化鉄（Ⅱ）の潮解過程における最適条件の検討	埋蔵文化財センター研究員 柳田明進 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会
26	同上	飛鳥寺塔心礎埋納物の考古科学的研究	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美	6月4日	日本文化財科学会第33回大会
27	同上	Archaeometrical analysis of cobalt blue glass beads	同上	8月29日	Wac-8 Kyoto 2016
28	同上	Archaeological and scientific investigation of glass beads excavated in Japan -focusing on cobalt blue glass beads	同上	12月7日	環境考古與文化保存科學, 台湾
29	同上	Sr同位体比による日本出土古代ガラスの産地推定の試み	同上	12月28日	第6回同位体環境学シンポジウム
30	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	星空とキトラ古墳のナゾにせまる	都城発掘調査部主任研究員 降幡順子	5月21日	『プラネタリウムで考古学～星空とキトラ古墳のナゾにせまる～』多摩六都科学館
31	同上	テラヘルツ波イメージング技術による高松塚古墳壁画の層構造調査	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　高妻洋成　他	6月4日	日本文化財科学会第33回大会
32	同上	キトラ古墳の発掘調査	都城発掘調査部長　玉田芳英	10月1日	『プラネタリウムで考古学　キトラ古墳が語るもの～人の巻～』多摩六都科学館
33	同上	キトラ古墳の星空が語るもの	飛鳥資料館室長　石橋茂登・企画調整部　井上直夫	11月8日	『プラネタリウムで考古学～キトラ古墳の星空が語るもの～』多摩六都科学館
34	同上	キトラ古墳と夜空の星々	飛鳥資料館学芸室研究員　若杉智宏	11月19日	『プラネタリウムで考古学～キトラ古墳の星空が語るもの～』多摩六都科学館講演会
35	同上	Experimental research on preservation of buried cultural properties in the stone chamber by means of the simulated tumulus - Effect of environment on corrosion of metal artifacts in the stone chamber'	埋蔵文化財センター研究員 柳田　明進　他	8月28日～9月2日	WAC-8, Doshisha university

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　5件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　5件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ遺跡の建築学的・考古学的・保存科学的調査	Progress Report on the Research and Restoration Work. Western Prasat Top	企画調整部長　森本晋	6月22日～23日	国際調整委員会発表　第26回 ITCC

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
2	カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ遺跡の建築学的・考古学的・保存科学的調査	Preliminary Report on the Research and Restoration of the Northern Sanctuary, Western Prasat Top	企画調整部　特任研究員　杉山洋	29年1月24日～25日	国際調整委員会発表　第第23回ICC
3	同上	西トップ遺跡北祠堂調査概報	企画調整部専門職　　佐藤由似	12月17日	東南アジア古代史研究会
4	イギリスセインズベリー日本藝術研究所とその共同研究	英国発グローバル考古学	都城発掘調査部主任研究員　庄田慎矢	9月3日	英国発グローバル考古学
5	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	アンコール歴史遺産開発保存について	企画調整部　特任研究員　杉山洋	6月5日、29年1月24日	アンコール歴史遺跡開発保存国際調整委員会　第26回技術委員会（6/5）、第27回技術委員会（1/24）

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　5件

〇文化財情報基盤の整備・充実　5件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関するデータベースの充実	発掘調査報告書のデジタルアーカイブ	企画調整部研究員　　高田祐一	6月24日	『奈良文化財研究所紀要2016』
2	同上	「GMLによる遺構情報モデルの符号化の試み」	企画調整部長　森本晋他	10月15日	『地理情報システム学会第25回学術研究発表大会』
3	同上	「全国遺跡報告総覧」プロジェクトの状況発掘調査報告書のデジタルアーカイブの実現に向けて」	企画調整部研究員　　高田祐一	11月17日	『遺跡学研究13』
4	同上	Publishing the Comprehensive Database of Archaeological Site Reports in Japan for the Purpose of Increasing Information Accessibility	同上	7月29日	第8回世界考古学会議
5	同上	全国遺跡報告総覧の公開とその役割について	同上	12月2日	28年度兵庫県埋蔵文化財調査成果連絡会

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　2件

〇文化財に関する協力・助言等　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	Assistance with Organic Material Remains Discovered in Reconstruction Surveys after the Great East Japan Earthquake	埋蔵文化財センター環境考古学研究室研究員　山崎健	8月29日	The 8th World Archaeological Congress
2	同上	Support for Reconstruction Efforts after the Great East Japan Earthquake	埋蔵文化財センター環境考古学研究室研究員　山崎健	12月7日	中央研究院歴史語言研究所「環境考古與文化財保存科学」

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　2件

〇アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	2016年度無形文化遺産保護研究のマッピング事業に基づいたアジア太平洋地域の無形文化遺産保護研究の分析と課題	アソシエイトフェロー　田中鉄也	29年3月1日	文化遺産国際協力コンソーシアム第53回企画分科会
2	同上	Protection and revitalization of endangered ‘living cultural heritage’ in Post-Conflict States: the community’s reactivation as a part of reconstruction	副所長　大貫美佐子	29年3月13日～15日	ICOMOS University Forum Workshop on Authenticity and Reconstructions

c-④ シンポジウム開催実績一覧

平成29年3月31日現在

<table>
<tr><th>国立文化財機構合計</th><th>博物館計</th><th>東京国立博物館</th><th>京都国立博物館</th><th>奈良国立博物館</th><th>九州国立博物館</th></tr>
<tr><td rowspan="5">14件</td><td>9 件</td><td>2件</td><td>2件</td><td>1件</td><td>4件</td></tr>
<tr><td>文化財研究所計</td><td colspan="2">東京文化財研究所</td><td colspan="2">奈良文化財研究所</td></tr>
<tr><td>3 件</td><td colspan="2">2件</td><td colspan="2">1件</td></tr>
<tr><td colspan="2">アジア太平洋無形文化遺産研究センター</td><td colspan="3">文化財防災ネットワーク推進本部</td></tr>
<tr><td colspan="2">1 件</td><td colspan="3">1 件</td></tr>
</table>

【東京国立博物館】

○現代のピラミッドを創る―大エジプト博物館（ＧＥＭ）の挑戦

開 催 日　28年10月1日
開催場所　東京国立博物館平成館大講堂
主　　催　東京国立博物館
参加人数　116人
事業内容　エジプト考古大臣、GEM館長の講演および東京国立博物館、東京文化財研究所やJICAの支援協力の取り組みを紹介した。

○日本美術をみせる―リニューアルとリノベーション―

開 催 日　29年2月28日・29日
開催場所　東京国立博物館平成館大講堂
主　　催　海外ミュージアム日本専門家連携・交流事業実行委員会2016（事務局：東京国立博物館）
参加人数　463人
事業内容　「日本美術、あるいは日本文化の展示とは何か」、「展示室でみせるのは美術史なのか、芸術なのか」、そしてそれらを「どのようにみせるのか」という潜在的で普遍的な課題に対する事例報告・研究会、発表、並びにパネルディスカッションを実施した。

【京都国立博物館】

○記念シンポジウム　『日本国内における禅宗文化の受容と伝播』

開 催 日　5月4日
開催場所　京都国立博物館　平成知新館講堂
主　　催　京都国立博物館、公益財団法人仏教美術研究上野記念財団
参加人数　120人
事業内容　特別展覧会「禅　こころをかたちに」にあわせて開催し、３名の講師による発表とパネルディスカッションを行った。

○公開シンポジウム　「文化財を災害から守る２：今、そこにある危機　関西地域の災害と文化財」

開 催 日　11月12日
開催場所　けいはんなオープンイノベーションセンター２階ミュージアムホール
主　　催　京都国立博物館
共　　催　奈良国立博物館、京都府
参加人数　32人
事業内容　関西地域における災害の危険性と文化財を守るための活動について４名の講師による講演を行い、来るべき災害に備えた文化財の防災・減災について議論を行った。

【奈良国立博物館】

○正倉院学術シンポジウム2016「正倉院正倉」

開 催 日　11月3日
開催場所　東大寺総合文化センター　金鐘ホール
主　　催　奈良国立博物館
後　　援　読売新聞社
参加人数　197名
事業内容　平成23年～26年の4箇年にわたって大規模な整備工事が実施された正倉院正倉の新たな学術的知見と、千数百年の歳月を経て伝来した正倉院宝物のすばらしさを内外に発信し、わが国の文化財保護活動に対する理解を広く共有することを目的とし、４名の研究者による研究発表と、パネルディスカッションを行った。

【九州国立博物館】

○公開シンポジウム　独立行政法人 国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」公開シンポジウム
地域と共に考える文化財の防災・減災Ⅲ「熊本地震と文化財レスキュー」

開 催 日　12月4日
開催場所　ミュージアムホール
主　　催　九州国立博物館
参加者数　200人
事業内容　第1部　対談「熊本地震を考える」
第2部　報告「熊本地震による文化財の被災とレスキュー中間報告」
・レスキュー事業の概要
・レスキューの事例報告
第3部　パネルディスカッション「熊本文化財レスキューから学ぶ」

○公開シンポジウム　カルコン美術対話委員会シンポジウム「世界と日本美術（アート） ～2000年以降の動向を中心に～」

開 催 日　12月6日
開催場所　ミュージアムホール
主　　催　文化庁、カルコン美術対話委員会
参加者数　80人
事業内容　プレゼンテーション、パネルディスカッション

○国際シンポジウム　平成28年度日中韓文化遺産フォーラム「水中文化遺産の保護と活用」

開 催 日　29年2月12日
開催場所　ミュージアムホール
主　　催　文化庁、九州国立博物館
参加者数　173人

事業内容　　プレゼンテーション、パネルディスカッション

○合同シンポジウム　九州国立博物館「大宰府学研究」事業・熊本県「古代山城に関する研究会」事業合同シンポジウム
「徹底追及！大宰府と古代山城の誕生」
開 催 日　　29年2月18日、19日
開催場所　　ミュージアムホール
主　　催　　九州国立博物館、福岡県、熊本県教育委員会
参加者数　　383人
事業内容　　基調講演「大宰府と古代山城の誕生」
研究発表　第Ⅰ部　大宰府の器
研究発表　第Ⅱ部　古代山城の築城
シンポジウム「徹底追及！大宰府と古代山城の誕生」

【東京文化財研究所】

○文化遺産国際協力コンソーシアム設立10周年記念　「文化遺産からつながる未来」
開 催 日　　28年9月25日
開催場所　　ＴＫＰガーデンシティ品川
主　　催　　文化庁、国際交流基金アジアセンター、文化遺産国際協力コンソーシアム
参加者数　　191人
事業内容　　文化遺産の国際協力における我が国の将来像を考えるシンポジウムを開催した。

○シンポジウム「シリア内戦と文化遺産：世界遺産パルミラ遺跡の現状と復興に向けた国際支援」
開 催 日　　28年11月20日
開催場所　　東京国立博物館
主　　催　　文化庁、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所
参加者数　　90人
事業内容　　パルミラ遺跡を含む被災したシリアの文化遺産の復興に向けてどのような支援が効果的なのか討議を行うシンポジウムを開催した。

【奈良文化財研究所】

○シンポジウム「シリア内戦と文化遺産―世界遺産パルミラ遺跡の現状と復興に向けた国際支援―」
開 催 日　　28年11月23日
開催場所　　東大寺 金鐘ホール
主　　催　　文化庁、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、（公財）ユネスコアジア文化センター文化遺産保護協力事務所
参加者数　　220人
事業内容　　国内外の専門家やユネスコ職員が一堂に会し、被災したシリアの文化遺産の復興に向けての効果的な支援について討議を行った。

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○「無形文化遺産国際シンポジウム―技と心を受け継ぐ―」
開 催 日　　28年11月19日
開催場所　　サンスクエア堺　サンスクエアホール
主　　催　　アジア太平洋無形文化遺産研究センター、堺市、文化庁
後　　援　　外務省、日本ユネスコ国内委員会
協　　力　　日本芸術文化振興会国立文楽劇場
参加者数　　203人
事業内容　　基調講演「無形文化遺産と私たち」、パネルディスカッション「技と心を受け継ぐ」、そのほか文楽ミニ公演を行った。

【文化財防災ネットワーク推進本部】

○「文化遺産防災国際シンポジウム -文化遺産を大災害からどう守るか:ブルーシールドの可能性Ⅱ-」
開 催 日　　29年3月18日
開催場所　　東京文化財研究所セミナー室
主　　催　　独立行政法人国立文化財機構　文化財防災ネットワーク推進本部
共　　催　　文化遺産国際協力コンソーシアム、ICOM（国際博物館会議）日本委員会、日本ICOMOS（国際記念物遺跡会議）国内委員会
参加人数　　50人
事業概要　　世界各地のブルーシールドに関する取組みや活動実態等について、海外の専門家や国内の有識者の報告とパネルディスカッションを行った。

c-⑤ 論文等発表実績一覧

平成 29 年 3 月 31 日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
316 件	204 件	97 件	38 件	29 件	40 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	112 件	34 件	78 件	0 件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	0 件				

【東京国立博物館】97件

〇有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　84件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	有形文化財の展覧事業･教育活動等に関連する調査研究	学芸企画部長　井上洋一	「博物館教育の一側面―デジタルデータを応用した新たな鑑賞教育の可能性―」	『中村浩先生古稀記念論文集』	芙蓉書房出版	29 年 3 月	無
2	同上	企画課長　浅見龍介	円空をとりまく環境―飛騨の森林との関係―	『東海地方の円空仏　その造形と足跡をたどる』	岐阜県博物館	9 月 23 日	無
3	同上	企画課特別展室主任研究員　市元塁	高校考古資料の重要性	温故　57 号	甘木歴史資料館	10 月 12 日	無
4	同上	同上	金銅製香炉状品の再検討	『宗像・沖ノ島と大和朝廷』	西日本新聞社、TVQ 九州放送、日本経済新聞社、朝日新聞社	29 年 1 月 1 日	無
5	同上	同上	高校考古の過去・現在・未来	“まち”と“ミュージアム”の文化が結ぶ幸せなかたち 3　博学社連携フォーラム・博学社連携シンポジウム報告書	京都府京都文化博物館	29 年 3 月 18 日	無
6	同上	企画課国際交流室主任研究員　遠藤楽子	「東京国立博物館所蔵ガラス湿板写真原板の基礎的研究と壬申検査関係写真－「日本史資料の研究資源化に関する研究拠点」一般共同研究報告」	東京大学史料編纂所画像史料解析センター通信　76 号	東京大学史料編纂所	29 年 1 月 1 日	無
7	同上	企画課国際交流室アソシエイトフェロー　ミウォシュ・ヴォズニ	曾我蕭白のふたつの寒山拾得図―主題およびその文化的背景の検討を中心に―	『MUSEUM』　第 663 号	東京国立博物館	8 月 15 日	有
8	同上	博物館教育課教育講座室長　勝木言一郎	東京国立博物館セレクション･シルクロードの美術	『東京国立博物館セレクション　シルクロードの美術―大谷探検隊将来品―』	東京国立博物館	29 年 3 月 31 日	無
9	同上	博物館情報課長　田良島哲	大正期の正倉院拝観資格の拡大と帝室博物館総長森鷗外	『MUSEUM』　第 666 号	東京国立博物館	29 年 1 月 15 日	有
10	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　恵美千鶴子	西郷隆盛の書と「七言絶句『官途逃去遠捜奇』」の普及―小林清親筆「西郷隆盛像」との関係から―	『MUSEUM』　第 661 号	東京国立博物館	4 月 15 日	有
11	同上	同上	近代数寄者と書 3　益田鈍翁と「益田本和漢朗詠集」	BIO CITY　66 号	ブックエンド	4 月 5 日	無
12	同上	同上	江戸初期の三筆 1　近衛信尹の大字屏風	BIO CITY　67 号	ブックエンド	7 月 5 日	無
13	同上	同上	「平家納経」に魅せられた人々	正筆　1004 号	正筆会	8 月 1 日	無
14	同上	同上	江戸初期の三筆 2　本阿弥光悦の下絵和歌巻	BIO CITY　68 号	ブックエンド	10 月 4 日	無
15	同上	同上	江戸初期の三筆 3　松花堂昭乗と大師流	BIO CITY　69 号	ブックエンド	29 年 1 月 10 日	無
16	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室アソシエイトフェロー　三輪紫都香	臨時全国宝物取調局の活動とその影響―博物館とその周辺の動向から―	『お茶の水史学』vol.60	お茶の水女子大学文教育学部人文科学科比較歴史学コース内読史会	29 年 3 月	無
17	同上	学芸研究部長　富田淳	特別展「王羲之から空海へ」に寄せて	特別展図録『王羲之から空海へ』	読売新聞社	4 月 12 日	無
18	有形文化財の展覧事業･教育活動等に関連する調査研究	学芸研究部長　富田淳	董其昌の自用印について	『董其昌とその時代―明末清初の連綿趣味―』	公益財団法人台東区芸術文化財団	29 年 1 月 2 日	無
19	同上	同上	董其昌の書画鑑識	『董其昌とその時代―明末清初の連綿趣味―』	公益財団法人台東区芸術文化財団	29 年 1 月 2 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
20	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	学芸研究部長　富田淳	董其昌とその時代	『書法漢学研究』	有限会社アートライフ社	29 年 1 月 25 日	有
21	同上	列品管理課主任研究員 古谷毅	「オオヤマトの古墳・宮址と三輪山祭祀」	『纒向遺跡の成立とその後-三輪山周辺の古墳時代-』（発表要旨）	天理市観光協会・天理市教育委員会	6 月 25 日	無
22	同上	同上	「大塚古墳が築かれた時代 -副葬品から見た古墳時代中期における大塚古墳-」	『山梨考古』第 141 号	山梨県考古学協会	10 月 1 日	無
23	同上	同上	「第２章 総説 日本列島独自の造形が花開く」他３項目	『別冊太陽 古墳時代美術図鑑』（日本のこころ 246）	平凡社	12 月 21 日	無
24	同上	列品管理課登録室長　竹内奈美子	牡丹漆絵三重椀	『國華』1446 号	朝日新聞出版	4 月 20 日	無
25	同上	同上	日本工芸の軌跡－本展鑑賞の一助として	図録『東京・九州國立博物館精品展 日本美術之最』	國立故宮博物院（台湾）	12 月	無
26	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　六人部克典	明末清初の連綿趣味	『董其昌とその時代―明末清初の連綿趣味―』	公益財団法人台東区芸術文化財団	29 年 1 月 2 日	無
27	同上	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美	狩野長信筆　山水図	『國華』1450 号	國華社	8 月 20 日	無
28	同上	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人	細田作品にみる歌川国芳の DNA	『シアターカルチャーマガジン T.』№34	エイガウォーカー	10 月 15 日	無
29	同上	同上	等伯 富山で絵師の一歩　氷見・蓮乗寺「鬼子母神十羅刹女像」の意味	北陸中日新聞		11 月 19 日	無
30	同上	同上	浮世絵における藍の存在感	『水の文化』55 号	ミツカン水の文化センター	29 年 2 月	無
31	同上	調査研究課長　田沢裕賀	戦国武将と禅僧	特別展図録『禅―心をかたちに―』	東京国立博物館	4 月 12 日	無
32	同上	同上	15-19 世紀の日本絵画　文人画・風俗画・仏画	東方画芸	中国・時代出版伝媒股份有限公司	11 月 3 日	無
33	同上	同上	日本絵画の歴史	図録『東京・九州國立博物館精品展 日本美術之最』	國立故宮博物院（台湾）	12 月	無
34	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　山下善也	禅寺の障壁画－絵師飛躍の場として	特別展図録『禅－心をかたちに－』	日本経済新聞社	4 月 12 日	無
35	同上	同上	禅宗寺院と障壁画 ―新たな絵画様式を育む	『聚美』21 号	学研	10 月 4 日	無
36	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　沖松健次郎	《資料紹介》重要文化財　准胝仏母像	『MUSEUM』　第 666 号	東京国立博物館	2 月 15 日	有
37	同上	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	Buddhist Textiles in the Victoria and Albert Museum Collection	Japanese Collections in European Museums V	Bonn, Bier'she Velagsanstalt	4 月	無
38	同上	同上	金春座の歴史と能面・能装束	『金春家伝来の能面・能装束』	東京国立博物館	29 年 1 月 31 日	無
39	同上	調査研究課考古室長　白井克也	日本出土馬韓土器	『東北アジアから見た馬韓土器』	馬韓研究院	8 月 30 日	無
40	同上	調査研究課考古室研究員 井出浩正	(4)山田経塚	『平成 28 年度秋の特別展 むなかたの山岳信仰　ムナカタの考古学 6』	宗像市郷土文化学習交流館	9 月 27 日	無
41	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	調査研究課考古室長研究員　井出浩正、同アソシエイトフェロー　飯田茂雄	東京国立博物館図版目録　経塚遺物篇（東日本）	『東京国立博物館図版目録 経塚遺物篇（東日本）』新訂	東京国立博物館	29 年 3 月 31 日	無
42	同上	調査研究課考古室研究員 河野正訓、古墳にコーフン協会会長　まりこふん	はにわの殿堂を訪ねて　墳活 in 東京国立博物館	はにわ	青月社	9 月 10 日	無
43	同上	調査研究課考古室研究員 河野正訓	山陽西部	前期古墳編年を再考するⅢ～地域の画期と社会変動～	中国四国前方後円墳研究会	11 月 26 日	無
44	同上	同上	ムラの生産、古墳時代年表	別冊太陽 246　古墳時代美術図鑑	平凡社	12 月 16 日	無
45	同上	同上	農具の鉄器化について－鉄器研究者の立場から	考古学研究会シンポジウム記録 10 木製品からみた鉄器化の諸問題	考古学研究会	29 年 1 月 28 日	無
46	同上	同上	山陽西部（補遺）	中四研だより 39	中国四国前方後円墳研究会	29 年 3 月 31 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
47	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	調査研究課考古室研究員 河野正訓、茨木市文化財資料館学芸員 清水邦彦	茨木市安威０号墳から出土した鉄製品（２）	茨木市立文化財資料館館報 2	茨木市立文化財資料館	29 年 3 月 31 日	無
48	同上	調査研究課考古室アソシエイトフェロー　飯田茂雄、大塚宜明、金成太郎、長井雅史、矢原史希、櫻井宏樹	置戸黒耀石原産地における先史時代の人類活動解明のための基礎研究―黒耀石原産地推定分析を観点として―	札幌学院大学人文学会紀要第 100 号	札幌学院大学総合研究所	10 月	無
49	同上	調査研究課東洋室研究員 植松瑞希	作品解説、「朝鮮山水画鑑賞のご案内」	『特別企画展　朝鮮の絵画と工芸』	大和文華館	11 月 18 日	無
50	同上	同上	「江南都市の文化競争と董其昌の絵画」、「董其昌と奇想派、愛石趣味」	『董其昌とその時代―明末清初の連綿趣味―』	台東区芸術文化財団	29 年 1 月 2 日	無
51	同上	同上	小さな庭園空間―明代蘇州における隠居地図像の一類型について	『大和文華』１３１号	大和文華館	29 年 3 月 31 日	有
52	同上	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛	伊東マンショの肖像	『日伊国交樹立 150 周年記念　特別公開　新発見！天正遣欧少年使節　伊東マンショの肖像』	東京国立博物館	5 月 17 日	無
53	同上	保存修復課保存修復室研究員　横山梓	表紙解説　重要文化財　色絵月梅図茶壺　仁清	「茶道の研究」２０１７年１月号	三徳庵	29 年 1 月 1 日	無
54	同上	同上	志野茶碗　銘 橋姫	「茶道の研究」２０１７年３月号	三徳庵	29 年 3 月 1 日	無
55	東洋民族資料に関する調査研究	調査研究課考古室長　白井克也	田枝豪氏収集のワヤン・クリ	『MUSEUM』　第 664 号	東京国立博物館	10 月 15 日	有
56	特集「上海博物館との競演」に関連する調査研究	調査研究課東洋室主任研究員　三笠景子	東京国立博物館　特集「上海博物館との競演」に寄せて　汝窯青磁盤の意義	陶説　７６５号	日本陶磁協会	12 月 1 日	無
57	特集「生誕百年記念小林斗盦　篆刻の軌跡」に関連する調査研究	学芸研究部長　富田淳	懐玉印室コレクションについて	特集図録『生誕百年記念 小林斗盦 篆刻の軌跡』	東京国立博物館・謙慎書道会	11 月 1 日	無
58	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　六人部克典	篆刻家の書画研究	特集図録『生誕百年記念小林斗盦　篆刻の軌跡』	東京国立博物館、謙慎書道会	11 月 1 日	無
59	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究（科学研究費助成事業）	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕	歌仙絵の成立について	『歌仙絵』	東京国立博物館	10 月 18 日	無
60	中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容に関する研究（科学研究費助成事業）	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛	忍性と証玄―東征伝絵巻施入をめぐって	『生誕八〇〇年記念　特別展　忍性菩薩―関東興律七五〇年―』	神奈川県立金沢文庫	10 月 28 日	無
61	同上	同上	長野県信濃美術館開館 50 周年記念特別講座「もっと知りたい日本美術のこと」第 4 回「知ると楽しい仏画の世界」講演録	『長野県信濃美術館紀要』第 11 号	長野県信濃美術館	29 年 3 月 15 日	無
62	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究（科学研究費助成事業）	博物館教育課教育普及室研究員　三田覚之	法隆寺伝来「古裂」の本格修理に伴う配置復元について	『MUSEUM』　第 662 号	東京国立博物館	6 月 15 日	有
63	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する研究（科学研究費助成事業）	客員研究員　沢田むつ代	「法隆寺伝来上代裂　纈纈・綾・錦・組紐・刺繍・氈等の残欠―平成二十四年度修理の成果―」	『MUSEUM』　第 662 号	東京国立博物館	6 月 15 日	有
64	同上	同上	「城の山古墳出土品付着の織物の仕様事例」	『城の山古墳発掘調査報告書（４次～９次調査）』	新潟県胎内市教育委員会	10 月	無
65	同上	同上	「金井東裏遺跡出土の挂甲と横矧板鋲留衝角付冑に付着する織物等について」	『金井東裏遺跡 甲着装人骨等詳細調査報告書』	群馬県教育委員会	29 年 3 月	無
66	同上	同上	「島内地下式横穴墓より出土した遺物に付着する繊維について」	『島内地下式横穴墓群Ⅴ灰塚地下式横穴墓群』	宮崎県えびの市教育委員会	29 年 3 月	無
67	東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究（科学研究費助成事業）	博物館教育課教育講座室長　勝木言一郎	大足石刻宝頂山石窟における父母恩重経変相の図像に関する一考察	「東アジア文化の基層としての儒教イメージに関する研究」論文集 2017	筑波大学大学院日本美術史研究室	29 年 3 月 31 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
68	「地域考古学」と「聖書考古学」の協業による古代パレスチナ地域史の再構築（科学研究費助成事業）	調査研究課東洋室研究員 小野塚拓造、月本昭男	発掘調査で明らかになった古代ガリラヤの諸相	科学研究費補助金 「新学術領域研究（研究領域提案型）」現代文明の基層としての古代西アジア文明」ニュースレター Vol. 9	筑波大学	29 年 3 月	無
69	同上	調査研究課東洋室研究員 小野塚拓造、桑原久男、橋本英将、宮崎修二	下ガリラヤ地方における初期シナゴーグの新例 ―テル・レヘシュ第 10 次発掘調査（2016 年）―	日本西アジア考古学会編『第 24 回西アジア発掘調査報告会報告集 平成 28 年度考古学が語る古代オリエント』	日本西アジア考古学会	29 年 3 月	無
70	中国典籍日本古写本の研究（科学研究費助成事業）	博物館情報課長　田良島哲	東京国立博物館が所蔵する古筆手鑑所収の漢籍古写本断簡２点	中国典籍日本古写本の研究 Newsletter No.3	京都大学人文科学研究所	9 月	無
71	三条西公条をめぐる絵事 ―「詠歌之大概歌仙図」を中心に―（メトロポリタン東洋美術研究センター）	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美	《研究ノート》三条西公条賛「詠歌之大概歌仙図」（陽明文庫所蔵）について	『MUSEUM』　第 665 号	東京国立博物館、中央公論事業出版	12 月 15 日	有
72	特別展「平安の秘仏 - 滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」に関する調査研究	調査研究課絵画・彫刻室アソシエイトフェロー　西木政統	仏像の大きさ	特別展図録『平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち』	読売新聞社	9 月 13 日	無
73	同上	同上	甲賀様式と櫟野寺の仏像	特別展図録『平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち』	読売新聞社	9 月 13 日	無
74	特別展「禅―心をかたちに」に関連する調査研究	調査研究課東洋室主任研究員　三笠景子	織田有楽にまつわる二つの器―「青磁輪花茶碗」と「玉垣文琳」	特別展図録『禅－心をかたちに－』	日本経済新聞社	4 月 12 日	無
75	同上	同上	禅と茶の湯　茶人織田有楽	聚美　21 号	聚美社	10 月 15 日	無
76	特別展「春日大社－千年の至宝」に関連する調査研究	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕	来年新春は東京・上野で春日詣特別展「春日大社　千年の至宝」	春日 96 号	春日大社	8 月 1 日	無
77	同上	同上	春日大社　神々に捧げられた祈りと美	特別展図録『春日大社　千年の至宝』	東京国立博物館	29 年 1 月 17 日	無
78	同上	同上	誓願寺所蔵「春日宮曼荼羅」について	特別展図録『春日大社　千年の至宝』	東京国立博物館	29 年 1 月 17 日	無
79	同上	同上	春日宮曼荼羅― 神のいます美しき聖地の風景	目の眼 485 号	株式会社 目の眼	29 年 2 月 1 日	無
80	同上	同上	春日宮曼荼羅鑑賞の手引き―春日野を歩く	特別展図録『春日大社　千年の至宝』	東京国立博物館	29 年 1 月 17 日	無
81	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　恵美千鶴子	春日社参詣と春日にまつわる和歌	特別展図録『春日大社　千年の至宝』	東京国立博物館	29 年 1 月 17 日	無
82	特別展「茶の湯」に関連する調査研究	調査研究課東洋室主任研究員　三笠景子	表紙解説　大井戸茶碗　有楽井戸	茶道の研究　735 号	公益財団法人三徳庵	29 年 2 月 25 日	無
83	同上	同上	東京国立博物館　特別展「茶の湯」について	茶の湯文化学会会報	茶の湯文化学会	29 年 3 月 27 日	無
84	同上	保存修復課保存修復室研究員　横山梓	特別展「茶の湯」（展覧会概要紹介）	「炎芸術」2017 春	阿部出版	29 年 2 月 1 日	無

〇その他有形文化財に関連する調査研究　13件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	博物館の環境保存に関する調査研究	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀	伝将軍山古墳出土象嵌円頭塚頭蛍光 X 線分析	埼玉県立さきたま史跡の博物館　紀要 10 号	埼玉県立さきたま史跡の博物館	29年 3月24日	有
2	同上	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、同アソシエイトフェロー　宮田将寛	二つの双羊尊―エックス線 C 撮影と画像解析について	根津美術館紀要「此君」第 8 号	公益財団法人根津美術館	29年 3月30日	有
3	同上	保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛	伝埼玉将軍山古墳出土象嵌円頭大刀柄頭の X 線 CT 調査について	埼玉県立さきたま史跡の博物館　紀要 10 号	埼玉県立さきたま史跡の博物館	29年 3月24日	有
4	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	遺物の保存環境	日本文化財科学会誌第 71 号	日本文化財科学会	8月1日	有
5	同上	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　井上素子	博物館展示施設における温湿度ロガー設置面の素材と採取データ精度の相関分析	文化財保存修復学会第 38 回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月25日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
6	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築（科学研究費助成事業）	保存修復課環境保存室長 和田浩	美術品輸送車両上で発生する振動周波数の解析	日本文化財科学会第33回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月4日	無
7	同上	同上	首都高速道路走行時に美術品輸送車両上で発生する加速度の評価	文化財保存修復学会第38回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月25日	無
8	同上	同上	美術品輸送用トラックの荷台で計測された加速度の評価	日本包装学会第25回年次大会研究発表会予稿集	日本包装学会	7月7日	無
9	同上	同上	中国における美術品長距離輸送時の環境調査	第54回全日本包装技術研究大会予稿集	全日本包装技術研究大会	11月29日	無
10	被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究（科学研究費助成事業）	同上	東日本大震災被災資料と被災地域の復興	第35回日本展示学会研究大会大阪大会研究発表梗概集	日本展示学会	6月5日	無
11	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	博物館情報課情報管理室長　村田良二	文化財情報の構造と組織化について―データベース化の実践をもとに―	東京国立博物館紀要52号	東京国立博物館	29年 3月31日	無
12	博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究（科学研究費助成事業？）	調査研究課考古室長　白井克也	東京国立博物館所蔵のギリシャ関係資料	特別展図録『古代ギリシャ―時空を超えた旅―』	朝日新聞社・NHK・NHKプロモーション・東映	6月21日	無
13	海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究（科学研究費助成事業）	広報室長　鬼頭智美	「海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究」研究概要ほか	研究成果報告書	東京国立博物館	29年 3月31日	無

【京都国立博物館】38件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　38件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	美術室研究員 福士雄也	「水墨でたどる　革新者若冲の軌跡」	『芸術新潮』	新潮社	4月25日	無
2	同上	美術室研究員 福士雄也	「伊藤若冲の署名と印章について」	『生誕300年　伊藤若冲』（展覧会図録）	日本経済新聞社ほか	4月22日	無
3	同上	同上	作品解説	『生誕300年　伊藤若冲』（展覧会図録）	日本経済新聞社ほか	4月22日	無
4	同上	同上	「登山する絵師、池大雅」	『岳人』No.837	ネイチュアエンタープライズ	2月15日	
5	同上	保存修理指導室 主任研究員　羽田　聡	「院派仏師とその文書」	『仏教美術論集　第六巻　組織論』	竹林舎	5月	無
6	同上	企画室研究員 井並林太郎	「康永本《本願寺聖人伝絵》考―「稲田興法」段を中心に―」	『学叢』38号	京都国立博物館	5月	無
7	同上	保存修理指導室長 大原嘉豊	共著「釈迦金棺出現図　科学分析調査報告及び復元模写事業概要」	『学叢』38号	京都国立博物館	5月	無
8	同上	同上	「重要文化財　徳川家康坐像　京都・知恩院蔵」美術館だより287	『なにわ』732号	大阪府警察本部警務部教養課 一般財団法人大阪府警察職員互助会	5月	無
9	同上	同上	「観経曼陀羅図」	『華頂』584号	浄土宗総本山知恩院	9月	無
10	同上	同上	「紅玻璃阿弥陀像」	『華頂』585号	同上	10月	無
11	同上	同上	「阿弥陀二十五菩薩来迎図（早来迎）」	『華頂』587号	浄土宗総本山知恩院	12月	無
12	同上	同上	『開創650年記念　正覚寺展』作品解説	記念館特別展覧会図録	越前市武生公会堂	11月	無
13	同上	教育室長　山川　曉	Five Dharma Transmission Robes at the Zen Temple Tofukuji	The Eastern Buddhist 45 1&2	The Eastern Buddhist society	9月	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
14	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	教育室長　山川　曉	中近世服飾品へのまなざし—博物館という場から— An approach to Japanese medieval and early modern costumes and textiles: A voice from a museum	『国際服飾学会誌　Journal of the International Association of Costume』50 号	国際服飾学会	12月20日	無
15	同上	教育室研究員 水谷亜希	円山応挙筆　双鹿図屏風	『國華』第 1452 号	國華社	10月	有
16	同上	列品管理室主任研究員 永島明子	作品解説	『なにわ』11 月号＜737 号＞	大阪府警本部警務部教養課編集	10月28日	無
17	同上	連携協力室長 淺湫　毅	「観音の聖地、櫟野寺」	『平安の秘仏　滋賀櫟野寺の大観音とみほとけたち』	東京国立博物館 読売新聞社	9月	無
18	特別展覧会「禅　心をかたちに」展に関する調査研究	学芸部長　山本英男 列品管理室主任研究員 永島明子 呉孟晋 連携協力室長 淺湫　毅 教育室長　山川　曉 保存修理指導室長 大原嘉豊　保存修理指導室 主任研究員　羽田　聡 美術室研究員 福士雄也 工芸室研究員　降矢哲男　東京国立博物館 浅見龍介　末兼俊彦	作品解説	『禅—心をかたちに—』図録	京都国立博物館 東京国立博物館 日本経済新聞社	４月	無
19	同上	保存修理指導室 主任研究員　羽田　聡	「仏師の古文書」	『禅—心をかたちに—』図録	同上	４月	無
20	同上	列品管理室主任研究員 呉孟晋	「羅漢から祖師へ：「二祖慧可像」（静岡・方広寺蔵）について」	『禅—心をかたちに—』図録	同上	４月	無
21	同上	教育室長　山川　曉	「禅の袈裟がつなぐもの」	『禅—心をかたちに—』図録	同上	４月	無
22	同上	連携協力室長 淺湫　毅	「禅の守護神—多彩なるその世界」	『禅—心をかたちに—』図録	同上	４月	無
23	同上	工芸室研究員　降矢哲男	「喫茶文化の受容と寺院の関わり」	『禅—心をかたちに—』図録	同上	４月	無
24	特集陳列「徳川将軍家と京都の寺社—知恩院を中心に—」に関する調査研究	保存修理指導室長 大原嘉豊 保存修理指導室 主任研究員　羽田　聡 企画室研究員　井並林太郎　東京国立博物館 浅見龍介	作品解説	『徳川将軍家と京都の寺社—知恩院を中心に—』図録	京都国立博物館	6月	無
25	特集陳列「丹後の仏教美術」に関する調査研究	連携協力室長 淺湫　毅 保存修理指導室長 大原嘉豊 保存修理指導室 主任研究員　羽田　聡 企画室長　伊藤信二 企画室研究員 井並林太郎　東京国立博物館 浅見龍介	作品解説	『丹後の仏教美術』図録	京都国立博物館	7月26日	無
26	同上	企画室研究員 井並林太郎	「学芸員談話室（１３）　京都国立博物館　特集陳列「丹後の仏教美術」への道」	『博物館学年報』４８号	同志社大学博物館学芸員課程	3月	
27	特集陳列「与謝蕪村」に関する調査研究	美術室研究員　福士雄也	作品解説	『特集陳列　生誕300年　与謝蕪村』図録	京都国立博物館	8月23日	無
28	特集陳列「伊藤若冲」に関する調査研究	同上	作品解説	『特集陳列　生誕300年　伊藤若冲』図録	京都国立博物館	12月13日	無
29	長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究	列品管理室主任研究員 呉孟晋	「黄檗絵画における「人生の階段」：独湛性瑩をめぐる書画について」	『美術フォーラム２１』３３号	一般社団法人美術フォーラム 21	5月	無
30	同上	同上	「（動向）美術」	『中国年鑑２０１６』	中国研究所	5月	無
31	同上	同上	「美術：「台湾」をいかに描くか」「演劇：民衆から知識人、そして市民へ」	赤松美和子・若松大祐編著『台湾を知るための６０章』	明石書店	8月	無
32	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	工芸室研究員 降矢哲男	「禅院に伝わった唐物の名品」	『目の眼』476 号	目の眼	5月1日	無
33	同上	同上	「京焼の色絵はどのように生まれたか」	『なごみ』438 号	淡交社	6月1日	無
34	高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育に関する調査研究	教育室研究員 水谷亜希	文化財複製を活用した大学生による訪問授業の実践 京都国立博物館 文化財ソムリエ	『学叢』第 38 号	京都国立博物館	5月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
35	近代京都と宮廷文化に関する調査研究	企画室研究員 井並林太郎	「博覧会と伝統」	『博覧会絵はがきとその時代』	青弓社	10月	無
36	漆工に関する調査研究	列品管理室主任研究員 永島明子	「フランス王室と日本の蒔絵」	『國華』1453 号	國華社	11月20日	有
37	特別展覧会「坂本龍馬」展に関する調査研究	列品管理室長　宮川禎一　企画室長　伊藤信二　美術室研究員　福士雄也	作品解説	『禅―心をかたちに―』図録	京都国立博物館 長崎歴史文化博物館 東京都江戸東京博物館 静岡市美術館	10月	無
38	日本の宮廷装束・調度に関する基礎的研究	教育室長　山川　曉	Kyoto a Treasure House of Traditional Japanese Costume	Museums and Cultural Landscapes: Proceedings of the ICOM Costume Committee Annual Meeting, Milan（電子出版）	ICOM Costume Committee	1月10日	無

【奈良国立博物館】29件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　28件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	湯山賢一（館長）	写経と料紙	四天王寺　第七七四号	海風社	6 月	無
2	同上	同上	「鳥獣人物戯画」の料紙について」	鳥獣戯画　修理から見えてきた世界　国宝鳥獣人物戯画修理報告書	勉誠出版株式会社	9 月	無
3	同上	学芸部長　内藤栄	舎利容器（作品解説）	『聖徳』第二二八号	法隆寺	6 月	無
4	同上	同上	忍性の舎利信仰	生誕八〇〇年記念特別展『忍性―救済に捧げた生涯―』	奈良国立博物館	7 月	無
5	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	同上	聖武天皇の輿―葬儀と一周忌斎会をめぐって―	第六八回『正倉院展』図録（宝物寸描）	奈良国立博物館	10 月	無
6	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	上席研究員　岩田茂樹	（資料紹介）東大寺・双身毘沙門天立像	『ＭＵＳＥＵＭ』645 号	東京国立博物館	12 月	無
7	同上	同上	白鳳彫刻二題―法隆寺夢違観音像と新薬師寺香薬師像、法隆寺伝文殊・勢至菩薩増―	鹿園雑集　第 17 号・第 18 号	奈良国立博物館	1 月	無
8	同上	同上	アメリカ・ロサンゼルス州立美術館所蔵の日本彫刻	春日信仰を中心とした南都における神祈信仰の展開とその遺品に関する総合的研究	奈良国立博物館	3 月	無
9	同上	上席研究員　岩田茂樹 情報サービス室長　岩井共二 保存修理指導室長　鳥越俊行 研究員　山口隆介 研究員　大江克己	奈良・法華寺文殊菩薩騎獅像	鹿園雑集　第 17 号・第 18 号	奈良国立博物館	1 月	無
10	同上	情報サービス室長　岩井共二	作品解説	『神像彫刻重要資料集成　三』	国書刊行会	12 月	無
11	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	工芸考古室長　清水健	正倉院の大幡	『平成２８年　正倉院展』展覧会図録	奈良国立博物館	10 月	無
12	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	教育室長　谷口耕生	信貴山縁起絵巻と朝護孫子寺の毘沙門天王信仰	『国宝 信貴山縁起絵巻―朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝』	奈良国立博物館	4 月	無
13	同上	同上	極楽寺忍性による東征伝絵巻の施入をめぐって	『忍性―救済に捧げた生涯』	奈良国立博物館	7 月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
14	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	教育室長　谷口耕生 研究員　北澤菜月 研究員　山口隆介 研究員　伊藤久美	在外春日曼荼羅調査研究報告	春日信仰を中心とした南都における神祈信仰の展開とその遺品に関する総合的研究	奈良国立博物館	3月	無
15	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	保存修理指導室長 鳥越俊行 研究員　大江克己	奈良国立博物館における木彫像の樹種同定調査	文化財保存修復学会第 38 回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月	無
16	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	企画室長　野尻忠	明治維新と廃仏毀釈	『歴史と共に考える文化財の防災・減災』（特別講演会予稿集）	九州国立博物館	7月	無
17	同上	同上	大般若経　巻第四百九十四（行信願経）	『聖徳』229号	法隆寺	7月	無
18	同上	同上	「大般若経（安倍小水麻呂願経）」の基礎的研究	慈光寺所蔵「大般若経（安倍小水麻呂願経）」の調査と研究（科研「平安時代の『大般若波経』」遺品の総合的調査と歴史研究資料としての資料化」成果報告書）	奈良国立博物館	3月	無
19	同上	列品室長　吉澤悟	春日大社（奈良）と香取神宮（千葉）の海獣葡萄鏡の調査	春日信仰を中心とした南都における神祈信仰の展開とその遺品に関する総合的研究	奈良国立博物館	3月	無
20	同上	主任研究員　中川あや	春日東西塔院跡出土の軒瓦	春日信仰を中心とした南都における神祈信仰の展開とその遺品に関する総合的研究	奈良国立博物館	3月	無
21	同上	研究員　北澤菜月	新所蔵の「最勝曼荼羅」について―室町時代興福寺の祈雨本尊―	鹿園雑集　第17号・第18号	奈良国立博物館	1月	無
22	同上	研究員　斎木涼子	京都大学付属図書館所蔵「奈良与力橋本家律令雑記」に含まれる春日若宮おん祭関連史料の調査	春日信仰を中心とした南都における神祈信仰の展開とその遺品に関する総合的研究	奈良国立博物館	3月	無
23	同上	研究員　山口隆介	極楽寺忍性像及び叡尊像の造立背景に関する試論 ―忍性像の寿像の可能性をめぐって―	『忍性 ―救済に捧げた生涯―』	奈良国立博物館	7月	無
24	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	同上	伊豆山権現立像（奈良国立博物館）	『神像彫刻重要資料集成』第三巻関西編二	国書刊行会	12月	無
25	同上	同上	蔵王権現立像（奈良・大峯山寺）	『神像彫刻重要資料集成』第三巻関西編二	国書刊行会	12月	無
26	同上	研究員　伊藤久美	後白河法皇と蓮華王院宝蔵	『国宝　信貴山縁起絵巻―朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝―』	奈良国立博物館	4月	無
27	同上	同上	忍性の肖像画について	『忍性 ―救済に捧げた生涯―』	奈良国立博物館	7月	無
28	同上	研究員　大江克己	古墳時代中期短甲の革綴技術に関する概念の相違	日本文化財科学会第 33 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　1件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	保存修理指導室長 鳥越俊行 研究員　大江克己	中国戦国時代の青銅剣に対するＸ線ＣＴ調査	日本文化財科学会第 33 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月	無

【九州国立博物館】　40件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　20件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	水中文化遺産	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞	水中考古学のいま―発見と保護と研究	西日本文化　No.479	西日本文化協会	7月1日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
2	水中文化遺産	福岡県教育庁 赤司善彦、 博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	海外における水中遺跡保護の現状と取り組み	月刊文化財　No.634	第一法規株式会社	7月1日	無
3	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　ー東アジア金属工芸史の再構築ー	企画課特別展室主任研究員　川村佳男	Being “Antique Objects” to “Archaeological Materials”: A Chang Seen on Chinese Bronze Artifacts from the Tokyo Imperial Museum before the 1930s	The Eighth World Archaeological Congress	WAC-8 Kyoto Program Committee	8月28日	無
4	近世西南日本の地域産業と対外交流の研究	展示課展示調整室研究員　一瀬　智	「江戸時代の海運と伊万里焼の流通」	トピック展示図録「有田焼創業400年記念　古伊万里　旧家の暮らしを彩った器」	九州国立博物館	9月14日	無
5	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　ー東アジア金属工芸史の再構築ー	企画課特別展室主任研究員　川村佳男	也談嶺南系青銅器：以温酒樽為例	漢代海上絲綢之路考古与漢文化国際学術研討会　論文提要集	中国社会科学院考古研究所・広西壮族自治区文化庁・北海市人民政府・中国考古学会	10月27日	無
6	トピック展示「きらめきで飾るー螺鈿の美をあつめてー」に関連する調査研究	文化財課資料登録室主任研究員　川畑憲子	「きらめきを愛でる、アジアの螺鈿」および作品解説	トピック展図録「きらめきで飾る-螺鈿の美をあつめて-」	九州国立博物館	11月15日	無
7	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　ー東アジア金属工芸史の再構築ー	企画課特別展室主任研究員川村佳男、東京国立博物館保存修復課環境保存室長　和田浩、東京国立博物館企画課特別展室主任研究員　市元塁、Bruker Nano Dr.Roald Tagle、ブルカー・エイエックス株式会社　水平学	蛍光Ｘ線分析と元素マッピングによる考古資料の新地平ー漢時代の鍍金銀銅刀を対象にー	日本中国考古学会２０１６年度大会発表資料集	日本中国考古学会	11月19日	無
8	漆工に関する調査研究	文化財課資料登録室主任研究員　川畑憲子	花鳥螺鈿箪笥	『國華』1453号	國華社	11月20日	有
9	古墳時代の石製品・石製模造品の研究	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	石製の宝器・儀器	別冊太陽『古墳時代　美術図鑑』	平凡社	12月16日	無
10	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」 に関する調査研究	展示課情報サービス室研究員　小嶋　篤	解説「古代の指輪」	図録『特別展　宗像・沖ノ島と大和朝廷』	九州国立博物館	29年 1月1日	無
11	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」 に関する調査研究	企画課特別展室主任研究員　川村佳男	解説「アジアに広がる龍の造形」	図録『特別展　宗像・沖ノ島と大和朝廷』	九州国立博物館	29年 1月1日	無
12	高等学校が所蔵する考古資料に関する研究	展示課展示調整室主任研究員　今井涼子	「高校考古―ある博物館の取組み」	『歴史地理教育』2月号	一般社団法人 歴史教育者協議会	29年 1月28日	無
13	中世やまと絵に関する基礎的研究	企画課特別展室主任研究員　鷲頭桂	「当麻寺縁起絵巻」ほか（作品解説）	特別展図録『絵巻マニア列伝』	サントリー美術館	29年3月	無
14	黄檗美術に関する基礎的研究	福岡市美術館長 錦織亮介 企画課特別展室主任研究員　鷲頭桂	福岡市千眼寺所蔵「渡海羅漢図巻」について	『東風西声』第12号	九州国立博物館	29年 3月31日	無
15	インドネシア・スマトラ島パセマ高原に所在する装飾古墳の研究	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	インドネシア･南スマトラのパセマ高原における装飾古墳ー登場と展開についての素描ー	『東風西声』第12号	九州国立博物館	29年 3月31日	無
16	近世日本の対外関係に関する研究	企画課特別展室研究員 松浦晃佑	「南蛮通詞」試論	『東風西声』第12号	九州国立博物館	29年 3月31日	無
17	日本中世・近世史料に関する研究	同上	収蔵品紹介「豊臣秀吉朱印状」	『東風西声』第12号	九州国立博物館	29年 3月31日	無
18	教育普及活動に関する調査研究	企画課アソシエイトフェロー　西島亜木子、企画課研究補佐員　鮫島由佳、企画課研究補佐員　平山絵理子	松菊里型住居をモデルとした「組み立て式竪穴住居」の製作と活用	『東風西声』第12号	九州国立博物館	29年 3月31日	無
19	高等学校が所蔵する考古資料に関する研究	博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、展示課展示調整室主任研究員　今井涼子、企画課アソシエイトフェロー　西島亜木子、博物館科学課研究補佐員　田中麻美、企画課研究補佐員　鮫島由佳、企画課研究補佐員　平山絵理子	真夏のトピック展示「全国高等学校考古名品展2016」における考古資料の3次元データの公開活用	『東風西声』第12号	九州国立博物館	29年 3月31日	無
20	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　ー東アジア金属工芸史の再構築ー	企画課特別展室主任研究員　川村佳男	双羊尊を用いた祭祀儀礼　ーその蒐集史および研究史を踏まえてー	此君　根津美術館研究紀要第8号	根津美術館	29年 3月31日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　20件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史	東日本の前期古墳出土丹塗土器に採用されたベンガラの地域性に関する研究	日本文化財科学会 33 回大会発表要旨集	日本文化財科学会	6 月 4 日	無
2	文化財建造物における塗装材料の解析	博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫	文化財建造物における塗装材料の解析	SPring-8/SACLA 利用研究成果集	Spring8	7 月 25 日	有
3	文化財 IPM	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか	臭化メチル全廃に対応する思想と技術	月刊文化財　No.637	第一法規株式会社	10 月 1 日	無
4	アフガニスタン美術史	学芸部特任研究員 臺信祐爾	古代アフガニスタンの歴史と美術	『九州・シルクロード協会会報 シルクロード　2016』　Vol.26	九州・シルクロード協会	10 月 1 日	無
5	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史	城の山古墳出土の赤色顔料について	城の山古墳発掘調査報告書（4 次～9 次調査）	新潟県胎内市教育委員会	10 月 20 日	無
6	古墳の生物劣化の研究	Yuka Nagatsuka, Tomohiko Kiyuna, Rika Kigawa, Chie Sano, Junta Sugiyama	Prototheca tumulicola sp., a novel achlorophyllous, yeast-like microalga isolated from the stone chamber interior of the Takamatsuzuka Tumulus	Mycoscience 58, 53-59	Elsevier	11 月 22 日 (online)	有
7	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史	玉丘古墳から出土した赤色顔料について	玉丘古墳群Ⅴ	兵庫県加西市教育委員会	29 年 3 月	無
8	材質調査	同上	高三潴遺跡第５次調査K40から出土した連玉の構造調査	高三潴遺跡発掘調査報告書	福岡県久留米市教育委員会	29 年 3 月	無
9	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	同上	城野遺跡１号方形周溝墓から出土した朱の産地推定について	研究紀要　第 31 号	北九州市埋蔵文化財調査室	29 年 3 月	無
10	同上	同上	都塚古墳から出土した赤色顔料について	明日香村文化財調査研究紀要 第 16 号	奈良県明日香村教育委員会	29 年 3 月	無
11	同上	同上	考古学と科学～赤色顔料の分析から～	備前焼をサイエンスする～科学と歴史の対話～	岡山県備前市教育委員会	29 年 3 月	無
12	同上	同上	重山古墳群出土の赤色顔料について	重山古墳群発掘調査報告書	鳥取市教育委員会	29 年 3 月	無
13	同上	同上	対田清水谷古墳群出土の石杵に付着する赤色顔料について	対田清水谷古墳群	兵庫県教育委員会	29 年 3 月	無
14	金井東裏遺跡出土の赤色顔料について	同上	金井東裏遺跡出土の赤色顔料について	金井東裏遺跡発掘調査報告書	群馬県埋蔵文化財調査事業団	29 年 3 月	無
15	古墳装飾石棺表面の着生生物の研究	東京文化財研究所　佐藤嘉則、西澤智康、犬塚将英、森井順之、朽津信明、茨木大学　小沼奈那美、博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、	石人山古墳装飾石棺表面に形成した着生生物群集の構造解析	保存科学　56 号	東京文化財研究所	29 年 3 月 23 日	有
16	歴史的木造建造物の生物被害の研究	東京文化財研究所　小峰幸夫、佐藤嘉則、公益財団法人日光社寺文化財保存会　原田正彦、千葉県立中央博物館　斉藤明子、博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、京都大学　藤井義久	日光の歴史的木造建造物における新たなモニタリング手法の実用性と補集テープ調査の集計報告	保存科学　56 号	東京文化財研究所	29 年 3 月 23 日	有
17	温度処理による文化財の殺虫法の研究	京都大学大学院農学研究所竹口彩、藤原裕子、藤井義久、博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、東京芸術大学大学院美術研究科　古田嶋智子、東京文化財研究所佐藤嘉則、犬塚将英	湿度制御した温風処理による漆仕上げ材の表面ひずみの測定	保存科学　56 号	東京文化財研究所	29 年 3 月 23 日	有
18	古墳の生物劣化の研究	株式会社テクノスルガ・ラボ　半田豊、立里臨、東京文化財研究所　佐藤嘉則、佐野千絵、博物館科学課長兼環境保全室長木川りか、株式会社テクノスルガ・ラボ千葉分室杉山純多	高松塚・キトラ両古墳からの主要分離株：Bacillus・Ochrobactrum 両属分離株の分子系統学的位置	保存科学　56 号	東京文化財研究所	29 年 3 月 23 日	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
19	文化財 IPM	博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子、博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、博物館科学課研究補佐員　泊智子、博物館科学課研究補佐員　光山文枝、カナダ保存研究所　トムストラング、学芸部特任研究員本田光子、前博物館科学課課長　今津節生	九州国立博物館の新たな防虫対策の取り組みについて	『東風西声』第 12 号	九州国立博物館	29 年 3 月 31 日	無
20	熊本県被災文化財救援事業	博物館科学課アソシエイトフェロー　三角菜緒	【中間報告】熊本県災害文化財救援事業における作業マニュアルの策定について－災害時の文化財搬出・搬出前の事前調査・調書作成手順の検討－	『東風西声』第 12 号	九州国立博物館	29 年 3 月 31 日	無

【東京文化財研究所】34件

（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　13件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　5件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	日本東洋美術史の資料学的研究	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室研究員　安永拓世	展覧会評　我が名は鶴亭	『美術研究』421 号	東京文化財研究所	29 年 3 月	有
2	同上	文化遺産国際協力センター主任研究員　江村知子	光琳の「道崇」印作品について―尾形光琳の江戸滞在と画風転換	『美術研究』421 号	同上	同上	有
3	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	文化財情報資料部近・現代視覚芸術研究室アソシエイトフェロー　田所泰	栗原玉葉に関する基礎研究―その生涯と作品について	『美術研究』420 号	同上	12 月	有
4	同上	文化財情報資料部近・現代視覚芸術研究室長　塩谷純	佐竹永湖―文晁派の伝道者として	『明治 21 年の佐竹永湖とその周辺　松戸神社神楽殿の絵画と修復展』図録	松戸市教育委員会	29 年 1 月	無
5	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	南蛮漆器の多源性を探る問題点の把握と提起	『公開研究会　南蛮漆器の多源性を探る予稿集』	東京文化財研究所	29 年 3 月 3 日	無

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　8件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	無形文化財の保存･継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	無形文化遺産部研究員　菊池理予	染織技術保護における原材料と道具	日韓無形文化遺産研究 II	東京文化財研究所	29 年 3 月 31 日	無
2	同上	無形文化遺産部長　飯島満	七代目豊沢広助『義太夫節と手順』	無形文化遺産研究報告 11	同上	同上	無
3	無形民俗文化財の保存･活用に関する調査研究	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	民俗芸能・祭礼の被災と復興	東日本大震災　神社・祭り―被災の記録と復興―本編	神社新報社	7 月 8 日	無
4	同上	無形文化遺産部研究員　今石みぎわ	Japanese Shipbuilding Skills and Traditions	ICH Courier 29	International Information and Networking Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region under the auspices of UNESCO	11 月 1 日	無
5	同上	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	日本の重要無形民俗文化財の現況と実態	国家重要無形文化財済州チルモリ堂燃燈グッの発展方向と課題	済州チルモリ堂燃燈グッ保存会	11 月 19 日	無
6	同上	無形文化遺産部音声映像記録研究室長　石村智	木島正夫による青花紙製作の記録映像	無形文化遺産研究報告 11	東京文化財研究所	29 年 3 月 31 日	無
7	同上	無形文化遺産部研究員　今石みぎわ	無形の民俗文化財としての「民俗技術」とその保護	日韓無形文化遺産研究 II	同上	同上	無
8	無形文化遺産保護に関する研究交流･情報収集	文化財情報資料部文化財情報研究室長　二神葉子	無形文化遺産の保護に関する第 11 回政府間委員会における議論の概要と今後の課題	無形文化遺産研究報告 11	同上	同上	無

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　18件

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　18件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	保存科学研究センター主任研究員　佐藤嘉則　他	石人山古墳装飾石棺表面に形成した着生生物群集の構造解析	『保存科学』 56 号	東京文化財研究所	29 年 3 月 31 日	有
2	同上	保存科学研究センターアソシエイトフェロー　小峰幸夫　他	日光の歴史的木造建造物における新たなモニタリング手法の実用性と捕集テープ調査の集計報告	同上	同上	同上	有
3	同上	保存科学研究センター客員研究員　間渕創　他	バイオエアロゾル測定を用いた博物館施設におけるゾーニングについて	同上	同上	同上	有
4	同上	保存科学研究センター客員研究員　藤井義久　他	湿度制御した温風処理による漆仕上げ材の表面ひずみの測定	同上	同上	同上	有
5	保存と活用のための展示環境の研究	保存科学研究センター保存環境研究室長　吉田直人　他	彩色材料への直管形蛍光灯と白色LED光照射時における反射スペクトルの比較	同上	同上	同上	有
6	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	保存科学研究センター副センター長　早川泰弘	国宝慈光寺経における真鍮泥の利用について	同上	同上	同上	有
7	同上	保存科学研究センター分析科学研究室長　犬塚将英　他	文化財の材質調査のための2次元イメージング検出器の開発	同上	同上	同上	有
8	同上	同上	煉瓦造文化財の保存環境と塩類析出に関する調査	同上	同上	同上	有
9	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	保存科学研究センター主任研究員　森井順之　他	Conservation of Wareishi-jizo statue carved on granite cliff on the seashore	Science and Art	A Future for Stone	11 月	有
10	同上	保存科学研究センター修復計画研究室長　朽津信明　他	保存科学から見た被災遺構の保存・活用の歴史	『保存科学』 56 号	東京文化財研究所	29 年 3 月 31 日	有
11	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	保存科学研究センター近代文化遺産研究室アソシエイトフェロー　石田真弥	群馬県内における煉瓦の基準寸法に関する一考察 煉瓦建造物の保存・活用に関する研究-11	日本建築学会　大会学術講演梗概集（九州）	日本建築学会	9 月 13 日	無
12	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	保存科学研究センター近代文化遺産研究室アソシエイトフェロー　石田真弥	内国勧業博覧会出品煉瓦の寸法変遷に関する考察 煉瓦建造物の保存・活用に関する研究-12	日本建築学会研究報告.九州支部	日本建築学会	29 年 3 月 1 日	無
13	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	保存科学研究センター近代文化遺産研究室アソシエイトフェロー　石田真弥	明治・大正期の博覧会出品煉瓦の寸法変遷に関する考察 煉瓦建造物の保存・活用に関する研究-13	2016 年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ	同上	29 年 2 月 20 日	無
14	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	Y. Nagatsuka et al.	Yamadazyma kitorensis f.a., sp. nov. and Zygoascus biomembranicola f.a., sp. nov., novel yeasts from the stone chamber interior of the Kitora tumulus, and five novel combinations in Yamadazyma and Zygoascus for species of Candida	International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology	Microbiology Society	4 月 1 日	有
15	同上	M. Nishijima et al.	Krasilnikoviella muralis gen. nov., sp. nov. , a new member of the family Promicromonosporaceae, isolated from the Takamatsuzuka Tumulus stone chamber interior and reclassification of Promicromonospora flava as Krasilnikoviella flava comb. nov.	International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology	同上	10 月 26 日	有
16	同上	Y. Nagatsuka et al.	Prototheca tumulicola sp. nov., a novel achlorophyllous, yeast-like microalga isolated from the stone chamber interior of the Takamatsuzuka Tumulus	Mycoscience	Elsevier	8 月 30 日	有

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
17	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	J. Sugiyama et al.	Polyphasic insights into the microbiomes of the Takamatsuzuka Tumulus and Kitora Tumulus	Journal of General and Applied Microbiology	Applied Microbiology, Molecular and Cellular Biosciences Research Foundation	29年3月31日	有
18	同上	半田　豊　他	高松塚・キトラ両古墳からの主要細菌分離株：Bacillus・Ochrobactrum両属分離株の分子系統学的位置	『保存科学』 56号	東京文化財研究所	同上	有

(3) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　3件

○文化財情報基盤の整備・充実　1件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室研究員　橘川英規	閉架書庫に発生したカビ対策事例	『保存科学』 56号	東京文化財研究所	29年3月	有

○調査研究成果の発信　2件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報資料部アソシエイトフェロー福永八朗	東京文化財研究所の文化財データベースー刊行物アーカイブを中心とした、アーカイブ・データベースの目的、要件およびその実現の方法について	『美術研究』 419号	東京文化財研究所	6月1日	有
2	同上	文化財情報資料部研究補佐員　小山田智寛　他	ウェブデータベースによる画像情報の公開―尾高鮮之助調査撮影記録を例にー	『保存科学』 56号	同上	29年3月31日	有

【奈良文化財研究所】78件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　37件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　3件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部室長　吉川聡	薬師寺僧の官位とその補任の様相	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	6月24日	無
2	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	都城発掘調査部研究員　鈴木智大	江戸時代中期における北口本宮冨士浅間神社社殿の中興と造営組織	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	6月24日	無
3	同上	都城発掘調査部研究員　海野 聡	現代の町並みにみえる江戸・明治の都市計画	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	6月24日	無

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　34件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	崔享仙	「韓日発掘交流に参加して」	奈文研ニュースNo.63	奈良文化財研究所	12月	無
2	同上	都城発掘調査部研究員 芝康次郎	「日韓発掘交流に参加して」	奈文研ニュースNo.64	奈良文化財研究所	29年3月	無
3	飛鳥地域発掘調査/特別史跡山田寺跡法面改修に係る試掘調査業務	都城発掘調査部アソシエイトフェロー山本亮	山田寺の発掘調査―第188-８次	奈良文化財研究所紀要2017	奈良文化財研究所	29年6月30日	無
4	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡整備）	文化遺産部室長　内田和伸	長安・洛陽両都の遺跡整備状況	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	6月24日	無
5	同上	同上	特別史跡キトラ古墳の整備ー乾拓板の設置と活用についてー	遺跡学研究	日本遺跡学会	11月17日	無
6	同上	同上	平城宮跡の保存と活用	Case Studies of World Heritages: Focused on Wolseong Fortress Excavation in Gyeongju, Korea	国立慶州文化財研究所	8月30日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
7	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡整備）	文化遺産部室長　内田和伸	遺跡における往時の様相の表現方法	平成 27 年度遺跡整備・活用研究集会報告書『デジタルコンテンツを用いた遺跡の活用』	奈良文化財研究所	12 月 9 日	無
8	同上	同上	デジタルコンテンツを用いた遺跡の活用について	平成 27 年度遺跡整備・活用研究集会報告書『デジタルコンテンツを用いた遺跡の活用』	奈良文化財研究所	12 月 9 日	無
9	同上	同上	平城宮跡の保存と活用	ASIA JOINT SYMPOSIUM 2016 in IWATE	岩手大学	10 月 14 日	無
10	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	文化遺産部アソシエイトフェロー　エマニュエル・マレス	森蘊　庭園史研究と作庭は表裏一体	庭 NIWA	建築資料研究社	11 月 1 日	無
11	同上	文化遺産部アソシエイトフェロー　エマニュエル・マレス	小堀遠州の庭 一歴史と伝説の合間に一	野村美術館紀要 2016	野村美術館	3 月 31 日	無
12	同上	客員研究員　小野健吉	『観光資源としての庭園（1)』	『都林泉名勝図絵』の庭園図描写から」	岡山大学	3 月 31 日	無
13	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部主任研究員　林正憲	平城京の飛雲文軒瓦	第 17 回古代瓦研究会シンポジウム「8 世紀の瓦づくりⅥ飛雲文軒瓦の展開」（発表要旨集）	奈良文化財研究所	29 年 2 月	無
14	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部研究員　海野 聡	遺構からみた郡庁の建築的特徴と空間的特質	『第 20 回古代官衙・集落研究集会郡庁域の空間構成研究報告資料』	奈良文化財研究所	12 月	無
15	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	都城発掘調査部研究員　諫早直人・石橋茂登	「飛鳥寺塔心礎出土刀子」	奈良文化財研究所紀要 2016	奈良文化財研究所	6 月 24 日	無
16	東大寺東塔院跡の発掘調査	都城発掘調査部研究員　山本祥隆　他	東大寺東塔院跡の調査-第 574 次	奈良文化財研究所紀要 2017	奈良文化財研究所	29 年 6 月 30 日	無
17	藤原宮跡の発掘調査（朝堂院）	都城発掘調査部研究員　大澤正吾　他	藤原宮朝堂院朝庭の調査（飛鳥藤原第 189 次調査）	『奈文研ニュース』No.63	奈良文化財研究所	12 月	無
18	同上	都城発掘調査部研究員　大澤正吾	藤原宮朝堂院朝庭の調査―第 189 次	奈良文化財研究所紀要 2017	奈良文化財研究所	29 年 6 月 30 日	無
19	藤原宮跡の発掘調査（大極殿院）	都城発掘調査部研究員　和田一之輔　他	「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 190 次調査）」	奈良文化財研究所紀要 2017	奈良文化財研究所	29 年 6 月 30 日	無
20	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部主任研究員　廣瀬覚	藤原宮大極殿院出土の墨書竜山石	奈良文化財研究所紀要 2017	奈良文化財研究所	29 年 6 月 30 日	無
21	同上	都城発掘調査部室長尾野善裕・主任研究員森川実・　研究員　大澤正吾	飛鳥地域出土の美濃須衛・湖西窯産須恵器	奈良文化財研究所紀要 2017	奈良文化財研究所	29 年 6 月 30 日	無
22	同上	都城発掘調査部主任研究員　山本崇	二〇一五年出土の木簡　奈良・藤原宮跡	木簡研究　第 38 号	木簡学会	11 月	無
23	同上	同上	一九七七年以前出土の木簡（三八）　奈良・藤原京跡右京七条一坊	木簡研究　第 38 号	木簡学会	11 月	無
24	同上	同上	釈文の訂正と追加（一九）　奈良・石神遺跡	木簡研究　第 38 号	木簡学会	11 月	無
25	同上	同上	釈文の訂正と追加（一九）　奈良・坂田寺跡	木簡研究　第 38 号	木簡学会	1 1 月	無
26	同上	企画調整部技術職員栗山雅夫	Wi-Fi を利用したリモート撮影事例―中判高所撮影とコンデジ狭所撮影―	文化財写真研究 Vol.7	文化財写真技術研究会	7 月	無
27	同上	同上	遺跡/遺物を撮る―写真で歴史を記録・保存	フィールド写真術	古今書院	12 月	無
28	同上	都城発掘調査部研究員　大澤正吾　他	藤原宮下層運河 SD1901A の総合的検討―飛鳥藤原第 186 次調査の自然科学分析を中心に―	奈良文化財研究所紀要 2017	奈良文化財研究所	29 年 6 月 30 日	無
29	同上	奈良文化財研究所	飛鳥むかしむかし飛鳥誕生編	朝日選書 549	朝日新聞社	８月１日	無
30	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部研究員　恵谷浩子	文化的景観研究 1－日本における文化的景観の 20 年	ランドスケープ研究 80(3)	日本造園学会	10 月 31 日	無
31	同上	同上	「地域らしさ」への眼差し －地域のみかたとしての文化的景観－	風景計画学―美しいふるさとづくり―（仮称）	東京農業大学出版会	3 月 10 日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
32	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部アソシエイトフェロー　本間智希	古代国家機能周縁の集落構造について-山口市鋳銭司地区和西集落における千年村研究 その1-	2016年度　日本建築学会大会〔九州〕発表集	日本建築学会大会	8月10日	無
33	平城宮東院地区の発掘調査	都城発掘調査部研究員　庄田慎矢	東院地区の発掘調査　ー平城第584次	奈良文化財研究所紀要2017	奈良文化財研究所	29年6月30日	無
34	平城京跡右京一条二坊四坪・西一坊大路・一条南大路の発掘調査	都城発掘調査部研究員　小田裕樹　他	平城京跡右京一条二坊四坪・西一坊大路・一条南大路の発掘調査ー平城第565次	奈良文化財研究所紀要2017	奈良文化財研究所	29年6月30日	無

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　34件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　30件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	年輪年代学研究	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　浦蓉子，埋蔵文化財センター研究員　星野安治	祭祀遺構出土斎串の年輪年代学的手法を用いた接合検討	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	6月24日	無
2	同上	埋蔵文化財センター研究員　星野安治	敷粗朶構造物を構成する木材片の樹種	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	6月24日	無
3	同上	都城発掘調査部研究員小田裕樹，都城発掘調査部研究員　芝康次郎，埋蔵文化財センター研究員　星野安治	一面を削った棒	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	6月24日	無
4	同上	埋蔵文化財センター主任研究員　大河内隆之	宝城坊厨子の年輪年代調査	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	6月24日	無
5	年輪年代学研究	同上	A nondestructive dendrochronological study on japanese wooden shinto art sculptures using micro-focus X-ray Computed Tomography (CT) Reviewing two methods for scanning objects of different sizes	Dendrochronologia38 2016	Italian Institute of Dendrochronology	6月24日	有
6	動植物遺存体の分析方法の研究開発	埋蔵文化財センター客員研究員　上中央子他	平城宮東院地区および西大寺旧境内の花粉分析-第503次・第505次	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	6月24日	無
7	同上	埋蔵文化財センター客員研究員　丸山真史	大坂城跡 14-2 調査で出土した脊椎動物遺存体	大坂城跡7	大阪府文化財センター	4月30日	無
8	同上	埋蔵文化財センター研究員　山崎健他	藤原宮造営を担った駄馬の利用実態	古代文化68-3	古代学協会	12月31日	無
9	同上	同上	西日本における縄文時代の動物遺体―縄文海進最盛期の研究動向―	考古学ジャーナル694	北隆館	2月28日	無
10	同上	埋蔵文化財センター客員研究員　菊地大樹他	閻家寨遺址出土馬骨研究	考古与文物	陝西省考古研究所	1月31日	有
11	同上	埋蔵文化財センター研究員　山崎健	動物質遺物の同定と素材選択―小札・鉄鏃装具・鉄鉾装具・刀子柄―	金井東裏遺跡 甲着装人骨等詳細調査報告書	群馬県教育委員会	3月24日	無
12	同上	同上	保美貝塚出土の動物遺存体	保美貝塚	田原市教育委員会	3月31日	無
13	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センター室長　金田明大	三次元データの利用を考える―島内 139 号地下式横穴墓出土状況の計測成果より	日本文化財科学会第33回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月1日	有
14	同上	同上	SfM/MVS を用いた島内 139 号地下式横穴墓出土状況の計測	日本文化財科学会第33回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月1日	有
15	同上	同上	遺跡の磁気探査における磁化研究の重要性	日本文化財科学会第33回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月1日	有
16	同上	同上	How to classification? :A trial examining the effectiveness of an elliptic Fourier descriptor for Japanese archaeological studies.	ＣＡＡ 2016Abstruct	Computer Analysis and Quantitative Methods in Arcaheology	4月1日	有
17	同上	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー山口欧志	Landscape archaeology of Hakusan worship	The Eighth World Archaeological Congress Book of Abstracts	The Eithth World Archaeological Congress, Kyoto	8月28日	有
18	同上	同上	Human resource development in the field of digital documentation of cultural heritage in Mongolia	The Eighth World Archaeological Congress Book of Abstracts	The Eithth World Archaeological Congress, Kyoto	8月28日	有

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
19	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー山口欧志	SfM-MVS による文化遺産の計測	文化財写真研究	文化財写真技術研究会	7 月 1 日	有
20	同上	同上	多焦点画像処理による歴史芸術文化遺産の詳細記録	日本文化財科学会第 33 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6 月 4 日	有
21	同上	同上	歴史芸術文化遺産の 3D デジタル資源化とその活用	アート・ドキュメンテーション学会 2016 年度年次大会予稿集	アート・ドキュメンテーション学会	6 月 11 日	有
22	同上	同上	矢穴の非接触三次元計測による石割技法の検討	日本考古学協会第 82 回総会研究発表要旨	日本考古学協会	5 月 28 日	無
23	同上	埋蔵文化財センター客員研究員　中村亜希子	北東アジア、渤海の調査	知の回廊 ： 東京大学総合研究博物館常設展示図録	東京大学総合研究博物館	5 月 27 日	無
24	同上	埋蔵文化財センター室長　金田明大	磁気・レーダー探査成果	大萱古窯跡群発掘調査報告書	岐阜県可児市教育委員会	3 月 25 日	無
25	同上	同上	城の山古墳棺の三次元計測	城の山古墳発掘調査報告書	胎内市教育委員会	10 月 20 日	無
26	同上	同上	SfM/MVS による遺構の計測	文化財の壺 4	文化財方法論研究会	1 月 15 日	無
27	同上	埋蔵文化財センター室長　金田明大	考古遺物の 3 次元モデル作成	文化財の壺 4	文化財方法論研究会	1 月 15 日	無
28	同上	同上	Photoscan を用いた三次元モデル作成その後	文化財の壺 4	文化財方法論研究会	1 月 15 日	無
29	同上	同上	五塚原古墳の探査	向日市埋蔵文化財調査報告書 104	向日市教育委員会	3 月 30 日	無
30	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー村田　泰輔	The Japan GIS database of the Histrical Natural Disaster and Hazards using research data of Archaeological excavation, Geological survey and Histrical documents.	The Eighth World Archaeological Congress. 343-345	The Eighth World Archaeological Congress.	8 月 28 日	無

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　4 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 他３名	平城宮跡遺構展示館で汚損を引き起こす含水参加鉄沈殿に関する検討	考古学と自然科学第 72 号	日本文化財科学会	29 年 2 月	無
2	同上	同上	覆屋内温湿度変動が磨崖仏の塩類風化に及ぼす影響の数値解析－元町石仏の保存に関する研究　その１－	日本建築学会論文集	日本建築学会	29 年 3 月 30 日	有
3	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵文化財センター研究員　田村朋美	鹿児島県城久遺跡群出土のガラス玉の分析	奈良文化財研究所紀要 2016	奈良文化財研究所	6 月 24 日	無
4	同上	埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他 2 名	「2015 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良」の成果と、東アジア文化遺産保存学会の活動	日本文化財化学会第３３回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6 月 4 日	無

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　2 件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　2 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	イギリスセインズベリー日本芸術研究所との共同研究	都城発掘調査部主任研究員　神野恵	セインズベリー日本藝術研究所と共同研究	奈良文化財研究所概要 2017	奈良文化財研究所	29 年 7 月	無
2	カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ遺跡の建築学的・考古学的・保存科学的調査	企画調整部専門職佐藤由似	「中世カンボジア王都周辺地域に於ける陶磁器の需要と展開」	『中世陶磁器の考古学』 2016, p. 207-228	雄山閣	10 月 25 日	無

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　2 件

○文化財情報基盤の整備・充実　2 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財に関するデータベースの充実	企画調整部研究員高田祐一	「発掘調査報告書のデジタルアーカイブ」	奈良文化財研究所紀要 2016	奈良文化財研究所	6 月 24 日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
2	文化財に関するデータベースの充実	企画調整部研究員高田祐一	「全国遺跡報告総覧」プロジェクトの状況　発掘調査報告書のデジタルアーカイブの実現に向けて」	遺跡学研究 13	日本遺跡学会	11 月 17 日	無

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　3 件

○文化財に関する協力・助言等　3 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助	都城発掘調査部主任研究員　山本崇他	藤原宮跡の調査―第 188-7 次	奈良文化財研究所紀要 2017	奈良文化財研究所	29 年 6 月 30 日	無
2	同上	都城発掘調査部主任研究員　森川実他	藤原京右京京九条二・三坊、瀬田遺跡の調査　第 187 次	奈良文化財研究所紀要 2017	奈良文化財研究所	29 年 6 月 30 日	無
3	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	奈良文化財研究所	奈良文化財研究所の取組	東日本大震災の復興と埋蔵文化財保護の取組（報告）	文化庁文化財部記念物課	29 年 3 月	無

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0件

c-⑥ 調査研究刊行物一覧

平成29年3月31日現在

【東京国立博物館】

○調査研究刊行物　　5件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	「MUSEUM」661号～666号	各1,900	美術館・博物館・大学・研究所等 2,988件(各498件×6)
2	「東京国立博物館紀要」52号	700	美術館・博物館・大学・研究所等　352件
3	「東京国立博物館文化財修理報告」XVII	700	美術館・博物館・大学・研究所等　152件
4	「法隆寺献納宝物特別調査概報」XXXVII　古今目録抄3	1,000	美術館・博物館・大学・研究所等　95件
5	『東京国立博物館図版目録　改訂版経塚遺物（東日本）篇』	800	美術館・博物館・大学・研究所等　163件

○展覧会図録等　　17件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展 特集図録	『黄金のアフガニスタン －守りぬかれたシルクロードの秘宝－』	—	—
2		『ほほえみの御仏』	—	—
3		『古代ギルシャ展』	—	—
4		『平安の秘仏―滋賀櫟野寺のみほとけたち―』	—	—
5		『禅』	—	—
6		『春日大社展　千年の至宝』	—	—
7	特集印刷物	「伊東マンショの肖像」	20,000	
8		「藤原行成の書　その流行と伝承」	2,000	
9		「ドレッサーからの贈り物――欧米のガラスコレクション」	5,000	
10		「歌仙絵」	2,000	
11		「掛袱紗――祝う心を模様にたくす」	5,000	
12		「金春家伝来の能面・能装束」	3,000	
13		「東京国立博物館コレクションの保存と修理」	8,000	
14		「町田久成」	5,000	
15		「上海博物館との競演」	30,000	
16	その他	『東京国立博物館セレクション　シルクロードの美術』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等498件
17		『日本の考古ガイドブック』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等498件

※東京国立博物館ニュースの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【京都国立博物館】

○調査研究刊行物　　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	研究紀要「学叢」第38号	820	美術館・博物館・大学等
2	文化財保存修理所　修理報告書14	450	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等

○展覧会図録等　　6件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	特別展覧会『禅　- 心をかたちに - 』	—	美術館・博物館・大学等
2	特別展覧会『没後150年　坂本龍馬』	—	同上
3	特集陳列『徳川家康没後四百年記念　徳川将軍家と京都の寺社―知恩院を中心に―　』	3,000	同上
4	特集陳列『丹後の仏教美術』	1,500	同上
5	特集陳列『生誕300年　与謝蕪村』	2,500	同上
6	特集陳列『生誕300年　伊藤若冲』	7,600	同上

※博物館だより、Newsletterの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【奈良国立博物館】

○調査研究刊行物　　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	奈良国立博物館研究紀要「鹿園雑集」第17号・18号	700	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	国宝聖徳太子及天台高僧像光学調査報告書	500	美術館・博物館・大学・研究機関等

○名品図録　　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	なら仏像館名品図録　第四版	8,000	美術館・博物館・大学・研究機関等

○展覧会図録　　6件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展	特別展『国宝 信貴山縁起絵巻 －朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝－』	9,050	美術館・博物館・大学・研究機関等

2		生誕800年記念特別展『忍性―救済に捧げた生涯―』	8,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
3		『第68回正倉院展』	4,550	美術館・博物館・大学・研究機関等
4		『 The 68th Annual Exhibition of Shoso-in Treasures』	2,300	美術館・博物館・大学・研究機関等
5	特別陳列	特別陳列『和紙 ―近代和紙の誕生―』	2,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
6		特別陳列『おん祭と春日信仰の美術―特集　奈良奉行所のかかわり―』	1,250	美術館・博物館・大学・研究機関等

※博物館だよりの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【九州国立博物館】

調査研究刊行物　　8件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	博物館科学の取り組みと設備	2,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	日中韓文化遺産フォーラム報告書（3ヶ国語）	2,100	文化庁、美術館・博物館・大学・研究機関等
3	日中韓文化遺産フォーラム成果パンフレット（英文）	1,000	文化庁、美術館・博物館・大学・研究機関等
4	水中遺跡の保存活用に関する調査研究　報告書	50	文化庁、美術館・博物館・大学・研究機関等
5	九州国立博物館紀要『東風西声』　第12号	1,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
6	平成28年度文化芸術振興費補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）「みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム」報告書	800	連携協力機関、九州・山口の美術館・博物館等
7	平成28年度文化芸術振興費補助金「文化財防災ネットワーク推進事業」報告書	800	連携協力機関、九州・山口の美術館・博物館等
8	高田海岸遺跡 ： 沖縄県宮古郡多良間村所在水中遺跡の調査	―	＊多良間村教育委員会（沖縄県）発行

○展覧会図録等　　9件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展	始皇帝と大兵馬俑	1,750	美術館・博物館・大学・研究機関等
2		東山魁夷　自然と人、そして町	1,470	美術館・博物館・大学・研究機関等
3		京都　高山寺と明恵上人　―特別公開　鳥獣戯画―	2,150	美術館・博物館・大学・研究機関等
4		宗像・沖ノ島と大和朝廷	1,700	美術館・博物館・大学・研究機関等
5		レジェンド・オブ・明恵（リーフレット）	80,000	展示室内等で配布（非売品）
6	トピック展示等	全国高等学校　考古名品展2016	1,600	美術館・博物館・大学・研究機関等
7		古伊万里　－旧家の暮らしを彩った器	1,700	美術館・博物館・大学・研究機関等
8		きらめきで飾る　－螺鈿の美をあつめて－	2,250	美術館・博物館・大学・研究機関等
9	文化交流展印刷物（リーフレット）	火縄銃の世界	8,000	展示室内等で配布（非売品）

※アジアージュの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【東京文化財研究所】

○調査研究刊行物

（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　　3件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『公開研究会　南蛮漆器の多源性を探る予稿集』	500	大学・研究機関・図書館等・研究会参加者

・無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『選定保存技術資料集』	500	大学・研究機関・図書館等
2	『日韓無形文化遺産研究Ⅱ』	600	大学・研究機関・図書館等

（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　　5 件

・文化財の調査手法に関する研究開発の推進　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『春日権現験記第一巻・第二巻光学調査報告書』	500	大学・研究機関・図書館等

・文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　4件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『琉球絵画　光学調査報告書』	500	博物館・美術館、大学、図書館等・研究機関（海外約50部）
2	『近代文化遺産の保存理念と修復理念』	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『Conservation and Restoration of Western Paper』	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	『万世特攻平和祈念館金属類収蔵品劣化対策事前調査事業　調査報告書』	5	市役所・博物館等

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　　6 件

・文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　6件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『各国の文化財保護法令シリーズ[21]トルコ』	300	大学・研究機関・図書館等
2	『世界遺産用語集（改訂版）』	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力　平成28年度成果報告書』	50	大学・研究機関・図書館等
4	『Safeguarding of Cultural Heritage in Myanmar』	50	ミャンマー政府機関・国際機関等
5	『Protection and Research on Cultural Heritage in the Chuy Valley, the Kyrgyz repubric』	100	キルギス政府機関・国際機関・研究機関等
6	『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2016』	300	博物館・美術館・研究機関・図書館等

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　　12 件

・調査研究成果の発信　12件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『東京文化財研究所年報』2015年度版	500	博物館・美術館・大学・研究機関等
2	『東京文化財研究所概要』2016年度版	2,700	博物館・美術館・大学・研究機関等
3	『東文研ニュース』61号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
4	『東文研ニュース』62号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
5	『東文研ニュース』63号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
6	『平成27年版　日本美術年鑑』	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
7	『美術研究』419号	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
8	『美術研究』420号	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
9	『美術研究』421号	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
10	『無形文化遺産研究報告』第11号	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
11	『第11回無形民俗文化財研究協議会報告書　無形文化遺産と防災―リスクマネージメントと復興サポート』	700	博物館・美術館・大学・研究機関等
12	『保存科学』56号	650	博物館・美術館・大学・研究機関等

【奈良文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　　16件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『仁和寺史料　目録編〔稿〕三　仁和寺御経蔵聖教目録稿三　第五十一函～第七十六函』	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	若桜町若桜―伝統的建造物群保存対策調査報告書―	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

・記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　14件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	河南省文物考古研究院・中国文化遺産研究院・日本奈良文化財研究所『鞏義黄冶窯』28年５月	750	研究機関・研究者・学会関係者
2	平成27年度遺跡整備・活用研究集会報告書『デジタルコンテンツを用いた遺跡の活用』28年12月	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	近世庭園に関する研究１	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	第19回古代官衙・集落研究集会報告書　官衙・集落と土器2　28年12月	600	関係者・協力者等
5	『第20回古代官衙・集落研究集会　郡庁域の空間構成　研究報告資料』28年12月	200	関係者・協力者等
6	『政庁域（郡庁・国庁・宮殿他）遺構集成』（第一分冊　図版編、第二分冊　表編）28年12月	200	関係者・協力者等
7	第17回古代瓦研究会シンポジウム「8世紀の瓦づくりⅥ　飛雲文軒瓦の展開」（発表要旨集）29年2月	350	関係者・協力者等
8	『古代瓦研究Ⅶ　－平城宮式軒瓦の展開1　6225－6663系－　－平城宮式軒瓦の展開2　6282－6721系－』29年2月	600	関係者・協力者等
9	『川と暮らしの距離感　四万十・岐阜』文化的景観スタディーズ03、2017年3月	1000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
10	『京都岡崎の文化的景観　岡崎公園編（仮称）』（普及啓発パンフレット）、奈良文化財研究所景観研究室編著、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課刊行、2017年3月	4000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
11	『営みの基盤－生態学からの文化的景観再考－（第7回文化的景観研究集会報告書）』文化的景観スタディーズ02、恵谷浩子・本間智希編、2016年7月	1000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
12	『地下の正倉院展－式部省木簡の世界－』28年10月	10,000	平城宮跡資料館参観者
13	第18回古代官衙・集落研究集会報告書　官衙・集落と土器　28年12月	600	関係者・協力者等
14	飛鳥・藤原宮発掘調査報告ⅴ－藤原京左京六条三坊の調査―	600	関係者・協力者等

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　　1件

・文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	特別史跡高松塚古墳の調査報告－高松塚古墳室解体事業にともなう発掘調査	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　　2件

・文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『西トップ遺跡調査修復報告書　北祠堂編1』	500	研究機関
2	『ヴィエルスバイ窯跡調査報告書』	500	研究機関

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　　17件

・調査研究成果の発信　10件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	奈良文化財研究所概要2016	2700	大学・研究機関・図書館等
2	奈良文化財研究所紀要2016	3000	大学・研究機関・図書館等
3～6	奈文研ニュースNo.61～64	各3000	大学・研究機関
7～10	埋蔵文化財ニュースNo166～169	各2500	大学・研究機関・博物館等

・展示公開施設の充実　7件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『ナント！おいしい！？平城京！！』　平城宮跡資料館企画展リーフレット	4000	平城宮跡資料館参観者
2	『地下の正倉院展　式部省木簡の世界』平城宮跡資料館特別展リーフレット	10000	平城宮跡資料館参観者・研究機関・大学
3	『発掘速報展平城２０１６』平城宮跡資料館企画展リーフレット	4000	平城宮跡資料館参観者
4	奈良文化財研究所監修『平城京のごみ図鑑』　河出書房新社	2000	関係者・協力者等、一般販売
5	飛鳥資料館図録第64冊『文化財を撮る－写真が遺す歴史』	2000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
6	飛鳥資料館図録第65冊『祈りをこめた小塔』	2000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
7	飛鳥資料館図録第66冊『早川和子が描く　飛鳥むかしむかし』	2000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　　1件

・平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『平城宮第一次大極殿院復原検討会記録』14（内部資料）（29年3月）	200	関係者

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○調査研究刊行物　　6件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『IRCI概要2016(日本語版)』	650 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
2	『IRCI概要2016(英語版)』	550 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
3	『Research for Safeguarding Intangible Cultural Heritage on the Verge of Extinction: Vietnamese ICH Element Dong Ho Woodblock Printing』	100	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
4	『Proceedings of 2016 IRCI Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region』	200 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
5	『無形文化遺産国際シンポジウム―技と心を受け継ぐ―報告書』	300	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
6	『Study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region: Final Report』	データ版で公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等

c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究

平成29年3月31日現在

件数	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所			アジア太平洋無形文化遺産研究センター
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	
合計	123	40	22	7	3	8	83	27	56	0
科学研究費補助金のみ	37	16	9	2	1	4	21	9	12	0
学術研究助成基金助成金のみ	71	18	8	4	2	4	53	16	37	0
科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究	15	6	5	1	0	0	9	2	7	0

※各施設に所属する研究員が研究代表者として交付された研究課題のみ記載している。（日本学術振興会特別研究員を除く）
※科学研究費助成事業の研究分担者等として参画しているものについてはc①2）他機関の共同研究への参画実績参照

【東京国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　9件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額（千円）
1	中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究	沖松　健次郎	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室主任研究員	基盤研究（Ａ）	9,230
2	博物館における文化財の情報資源化に関する研究	高橋　裕次	学芸研究部保存修復課長	基盤研究（Ａ）	5,330
3	日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究	小山　弓弦葉	学芸研究部調査研究課工芸室長	基盤研究（Ａ）	8,320
4	清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究	関　紀子	学芸研究部列品管理課登録室アソシエイトフェロー	基盤研究（Ｂ）（海外学術調査）	1,690
5	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究	土屋　貴裕	学芸研究部列品管理課平常展調整室主任研究員	若手研究（Ａ）	3,770
6	東京国立博物館所蔵写真資料データベース	富田　淳	学芸研究部長	研究成果公開促進費（データベース）　重点	1,900
7	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築	和田　浩	学芸研究部保存修復課環境保存室長	基盤研究(B)	6,760
8	大小摺物（絵暦）の美術史及び文化史に関する総合的研究	岩崎　均史	客員研究員	基盤研究(B)	5,200
9	東京国立博物館所蔵帝室本データベース	田良島　哲	学芸企画部博物館情報課長	研究成果公開促進費（データベース）　一般	3,600

2）学術研究助成基金助成金のみ　8件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額　（千円）〈研究期間〉
1	神像表現における物語性の研究	丸山　士郎	学芸企画部企画課特別展室長	基盤研究（Ｃ）	1,430	4,810〈平成25～28年度〉
2	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究	澤田　むつ代	客員研究員	基盤研究（Ｃ）	1,820	4,680〈平成26～28年度〉
3	古墳時代武装具研究の総合化と古代東アジアにおける政治史・文化史的意義の基盤的研究	古谷　毅	学芸研究部列品管理課主任研究員	基盤研究（Ｃ）	1,820	4,680〈平成27～29年度〉
4	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究	三田　覚之	学芸企画部博物館教育課教育普及室研究員	若手研究（Ｂ）	1,040	3,380〈平成26～28年度〉
5	ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究；新来館者の定着に向けた実証的調査分析	関谷　泰弘	総務部総務課渉外開発担当係長	若手研究（Ｂ）	910	3,900〈平成26～28年度〉
6	中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容	瀬谷　愛	学芸研究部保存修復課保存修復室主任研究員	若手研究（Ｂ）	1,170	4,030〈平成27～29年度〉
7	徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究	小野　真由美	学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室主任研究員	基盤研究（Ｃ）	1,300	4,420〈平成28～30年度〉
8	ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究；新来館者の定着に向けた実証的調査分析（国際共同研究強化）	関谷　泰弘	総務部総務課係長（渉外開発担当）	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）	14,820	14,820〈平成28～30年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究	鬼頭　智美	学芸企画部企画課広報室長	基盤研究（Ｂ）	2,730	2,080	6,500〈平成26～28年度〉
2	高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相	松本　伸之	副館長	基盤研究（Ｂ）	2,210	780	6,500〈平成26～29年度〉
3	能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究	浅見　龍介	学芸企画部企画課長	基盤研究（Ｂ）	4,160	1,430	6,500〈平成26～28年度〉
4	ディルムン文明の起源－バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究－	後藤　健	客員研究員	基盤研究（Ｂ）海外学術調査	1,950	1,170	6,500〈平成26～30年度〉
5	北方寒冷地域における織布技術と布の機能	佐々木　史郎	東京国立博物館付部長	基盤研究（Ｂ）海外学術調査	3,770	1,560	14,150〈平成26～28年度〉

【京都国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究	佐々木　丞平	館長	基盤研究（Ａ）	7,020
2	幕末近代の商家が伝えた文化財の総合調査：貝塚廣海惣太郎コレクション	永島　明子	学芸部列品管理室主任研究員	基盤研究（Ｂ）	4,420

2）学術研究助成基金助成金のみ　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	実作例に基づく日本の宮廷装束および調度の基礎的研究	山川　曉	学芸部教育室長	基盤研究（Ｃ）	1,040	4,030〈平成27～29年度〉
2	長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究	呉　孟晋	学芸部列品管理室主任研究員	若手研究（Ｂ）	910	3,900〈平成27～29年度〉
3	対話とハンズ・オン教材を組み合わせた博物館教育の実践と研究	水谷　亜希	学芸部教育室研究員	若手研究（Ｂ）	1,430	3,900〈平成28～31年度〉
4	近世期に作成された、書画の「極書」に関する基礎的研究	福士　雄也	学芸部美術室研究員	若手研究（Ｂ）	1,820	3,770〈平成28～31年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	東アジアにおける繍仏の基礎的研究	伊藤　信二	学芸部企画室長	基盤研究（Ｂ）	5,200	1,170	21,450〈平成25～28年度〉

【奈良国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究	湯山　賢一	館長	基盤研究（Ａ）	5,850

2）学術研究助成基金助成金のみ　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	平安時代の「大般若波羅蜜多経」遺品の総合的調査と歴史研究資料としての資源化	野尻　忠	学芸部企画室長	基盤研究（C）	－	5,070〈平成25～28年度〉
2	真言密教聖教の歴史史料としての調査・研究と活用	斎木　涼子	学芸部美術室員	若手研究（B）	650	1,560〈平成27～28年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【九州国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討	木川　りか	博物館科学課 課長兼環境保全室長	基盤研究（A）	15,210
2	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究	原田　あゆみ	企画課 特別展室長	基盤研究（B）	6,890
3	在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究	島谷　弘幸	館長	基盤研究（B）	4,800
4	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　－東アジア金属工芸史の再構築－	川村　佳男	企画課特別展室 主任研究員	基盤研究（B）	3,600

2）学術研究助成基金助成金のみ　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	志賀　智史	博物館科学課保存修復室 主任研究員	基盤研究（C）	1,300	5,200〈平成25～28年度〉
2	出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究	川畑　憲子	文化財課資料登録室 主任研究員	基盤研究（C）	2,080	4,810〈平成27～29年度〉
3	文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討	秋山　純子	博物館科学課環境保全室 研究員	基盤研究（C）	1,170	4,680〈平成27～30年度〉
4	X線CTを用いた文化財有機質材料の同定方法の確立	赤田　昌倫	博物館科学課環境保全室 アソシエイトフェロー	基盤研究（C）	2,210	4,160〈平成28～30年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【東京文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　9件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究ー大航海時代を中心にー	小林　公治	文化財情報資料部広領域研究室長	基盤研究(B)	5,460
2	ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	前川　佳文	文化遺産国際協力センター研究員	基盤研究(B)海外	4,940
3	ブータンの版築造建造物の類型と編年に関する研究	亀井　伸雄	所長	基盤研究(B)海外	6,110
4	染織技術の伝承に関する研究-材料・道具に焦点をあてて-	菊池　理予	無形文化遺産部研究員	若手研究(A)	4,810
5	江戸時代における初期文人画の基礎的研究―中国絵画学習とその地域性について―	安永　拓世	文化財情報資料部研究員	研究活動スタート支援	1,300
6	墨、煤、膠の製法と性状の体系化	宇高　健太郎	保存科学研究センター特別研究員(PD)	特別研究員奨励費	1,430
7	毘沙門天像の成立と展開　―唐・宋・元から平安・鎌倉へ―	佐藤　有希子	文化財情報資料部特別研究員(RPD)	特別研究員奨励費	325
8	彩色材と和紙からなる紙質文化財における和紙の劣化機構	貴田　啓子	保存科学研究センター客員研究員	特別研究員奨励費	1,430
9	2018年出版予定の書籍のための、1989年以降の日本の現代美術の研究	橘川　英規	文化財情報資料部研究員	特別研究員奨励費（外国人特別研究員）	900

2）学術研究助成基金助成金のみ　16件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	虎塚古墳壁画の材質と保存環境に関する研究	犬塚　将英	保存科学研究センター分析科学研究室長	基盤研究(C)	1,820	4,290（平成28年～30年）
2	黒髪白肌の系譜－上村松園の技法と表現－	大河原　典子	文化遺産国際協力センター客員研究員	基盤研究(C)	1,560	4,680（平成28年～30年）
3	紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発	貴田　啓子	保存科学研究センター客員研究員	若手研究(B)	1,690	3,900（平成28年～30年）
4	アイヌと和人の文化交渉史に関する研究―明治期の和人によるイナウ奉納習俗を中心に	今石　みぎわ	無形文化遺産部研究員	若手研究(B)	1,560	4,030（平成28年～30年）
5	イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究	山田　大樹	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	若手研究(B)	1,560	4,160（平成28年～30年）
6	環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究	朽津　信明	保存科学研究センター修復計画研究室長	基盤研究(C)	1,040	4,680（平成27年～29年）
7	津波被災文書資料から発生するにおい物質の同定とその対策	佐野　千絵	文化財情報資料部長	基盤研究(C)	1,430	4,550（平成27年～29年）
8	日本絵画における鉛白・胡粉の利用とその変遷に関する調査研究	早川　泰弘	保存科学研究センター副センター長	基盤研究(C)	1,300	4,680（平成27年～29年）
9	リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館におけるゾーニングについての研究	間渕　創	保存科学研究センター客員研究員	若手研究(B)	910	3,900（平成27年成29年）
10	放射光を用いた中央アナトリア出土鉄器に対する生産地同定法の開発	増渕　麻里耶	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	若手研究(B)	1,300	3,120（平成27年～29年）
11	肥沃な三日月地帯の東翼ザグロス地域における新石器化に関する考古学的研究	安倍　雅史	文化遺産国際協力センター研究員	若手研究（B）	1,591	3,770（平成26年～28年）
12	空間情報データベースによる文化財の災害被害予測の高度化及び防災計画策定への応用	二神　葉子	文化財情報資料部文化財情報研究室長	基盤研究(C)	650	4,030（平成26年～28年）
13	平安仏画の技法に関する画像情報による調査研究	小林　達朗	文化財情報資料部日本東洋美術史研究室長	基盤研究(C)	1,430	4,940（平成26年～28年）
14	平安時代前期における神仏習合の展開とその彫刻に関する研究	皿井　舞	文化財情報資料部主任研究員	基盤研究(C)	910	4,680（平成26年～28年）
15	実演用能装束の保存継承に関する研究 - 能楽の包括的継承の一指針として -	菊池　理予	無形文化遺産部研究員	挑戦的萌芽研究	780	3,640（平成26年～28年）
16	江戸～昭和期の常磐津節演奏家に関する基盤研究	前原　恵美	無形文化遺産部主任研究員	基盤研究(C)	1,323	4,810（平成26年～28年）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発　-旧修理材料や微生物痕の除去-	早川　典子	保存科学研究センター修復材料研究室長	基盤研究(B)	2,210	2,210	13,000（平成26年～30年）
2	墨、煤、膠の製法と性状の体系化 -伝統的製法の再現-	宇高　健太郎	保存科学研究センター特別研究員(PD)	若手研究(A)	2,210	2,210	18,500（平成26年～29年）

【奈良文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　12件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	木簡など出土文字資料の資源化のための機能的情報集約と知の結集	渡邉　晃宏	都城発掘調査部副部長	基盤研究（Ｓ）	39,780
2	マルチチャンネル機器を利用した高速遺跡探査技術の開発	金田　明大	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長	基盤研究（Ａ）	7,020
3	アンコール遺跡群を事例とした考古情報資源共有化に関する研究	森本　晋	企画調整部部長	基盤研究（Ａ）	6,370

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
4	歴史的文字に関する経験知の共有資源化と多元的分析のための人文・情報学融合研究	馬場　基	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ａ）	6,240
5	発掘遺構による古代寺院建築史の構築	箱崎　和久	都城発掘調査部遺構研究室長	基盤研究（Ａ）	7,540
6	和同開珎の生産と流通をめぐる総合的研究	松村　恵司	所長	基盤研究（Ｂ）	4,160
7	東アジア旧石器・新石器移行期の基礎的研究－河南霊井遺跡出土品の徹底分析－	加藤　真二	企画調整部企画調整室長	基盤研究（Ｂ）	5,070
8	日本考古学国際化のための考古学関係用語シソーラス構築と自動英語化の研究	高田　祐一	企画調整部文化財情報研究室研究員	若手研究（Ａ）	5,200
9	対照実験を主軸とした東アジア鋳造技術史解明のための実験考古学的研究	丹羽　崇史	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（Ａ）	4,030
10	中近世日本と東アジアにおける木造建築の変革に関する比較研究	鈴木　智大	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究（Ａ）	2,860
11	全国遺跡報告総覧	高田　祐一	企画調整部文化財情報研究室研究員	研究成果公開促進費<データベース>	3,300
12	出土遺物を主とする赤外線撮影の高精度化に関する研究～光源と撮影機材のマッチング～	栗山　雅夫	企画調整部写真室技術職員	奨励研究	700

2）学術研究助成基金助成金のみ　37件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額　（千円）〈研究期間〉
1	ツガ年輪による近世以降の建造物の年代測定および用材産地推定手法の確立	藤井　裕之	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｃ）	－	3,120〈平成25～28年度〉
2	古代東アジアにおける食器構成と食事作法の変化に関する比較研究	小田　裕樹	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究（Ｂ）	780	3,640〈平成25～28年度〉
3	古代日本の宮都、寺院出土磚の基礎的研究	中川　二美	都城発掘調査部客員研究員	若手研究（Ｂ）	650	3,380〈平成25～28年度〉
4	大工道具とその加工痕跡から見た建築技術史の研究	番　光	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究（Ｂ）	－	3,380〈平成25～28年度〉
5	重要文化的景観の評価方法と保護手法における現状と課題	惠谷　浩子	文化遺産部景観研究室研究員	若手研究（Ｂ）	650	3,770〈平成25～28年度〉
6	近世庭園の様式と地域性に関する基礎的研究－重森編年への検証として	高橋　知奈津	文化遺産部遺跡整備研究室研究員	若手研究（Ｂ）	780	3,120〈平成25～28年度〉
7	中国由来の木彫像の用材観	伊東　隆夫	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｃ）	1,300	4,680〈平成26～28年度〉
8	法隆寺・東大寺宝物に見られる「イラン文化」：エフタルとソグドの影響について	影山　悦子	企画調整部国際遺跡研究室アソシエイトフェロー	基盤研究（Ｃ）	1,040	2,990〈平成26～28年度〉
9	「復元学」構築のための基礎的研究	海野　聡	都城発掘調査部遺構研究室研究員	挑戦的萌芽研究	1,170	3,900〈平成26～28年度〉
10	古代東北アジアにおける金工品の生産・流通構造にかんする考古学的研究	諫早　直人	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究（Ｂ）	780	3,640〈平成26～29年度〉
11	七世紀土器編年からみた古代宮都の変遷に関する考古学的研究	若杉　智宏	飛鳥資料館学芸室研究員	若手研究（Ｂ）	520	2,730〈平成26～29年度〉
12	九州旧石器編年の再構築と集団関係の研究―中九州石器群の再検討	芝　康次郎	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究（Ｂ）	910	3,770〈平成26～29年度〉
13	古代都城造営における造瓦体制の復元的研究	石田　由紀子	都城発掘調査部考古第三研究室研究員	若手研究（Ｂ）	650	3,640〈平成26～29年度〉
14	荘厳化を目的とした建築装飾に関する研究	大林　潤	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（Ｂ）	260	2,600〈平成26～30年度〉
15	文化遺産のデジタルドキュメンテーションとこれを活用した景観考古学の展開	山口　欧志	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー	若手研究（Ｂ）	1,170	3,900〈平成26～28年度〉
16	古代における食生活の復元に関する環境考古学的研究	山崎　健	埋蔵文化財センター環境考古研究室研究員	若手研究（Ｂ）	1,170	3,900〈平成26～29年度〉
17	中近世における標準年輪曲線の広域ネットワーク整備による木材産地推定	星野　安治	埋蔵文化財センター年代学研究室研究員	若手研究（Ｂ）	910	3,900〈平成26～29年度〉
18	律令制下の土器生産－須恵器・土師器群別分類の再構築	神野　恵	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ｃ）	910	4,420〈平成27～31年度〉
19	奈良時代鉛釉陶器および鉛釉瓦磚の基礎的研究	今井　晃樹	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ｃ）	1,300	4,810〈平成27～29年度〉
20	古代の灯火―先史時代から近世にいたる灯明具に関する研究	深澤　芳樹	都城発掘調査部客員研究員	基盤研究（Ｃ）	910	4,810〈平成27～31年度〉
21	飛鳥時代金属製品の加工技術に関する基礎的研究	石橋　茂登	飛鳥資料館学芸室長	基盤研究（Ｃ）	1,560	4,810〈平成27～31年度〉
22	考古・歴史･地質学的複合解析による災害履歴地図の開発	村田　泰輔	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー	挑戦的萌芽研究	780	3,510〈平成27～31年度〉
23	水蒸気移動を用いた出土鉄製文化財の新規脱塩法の開発	柳田　明進	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究（Ｂ）	1,040	3,640〈平成27～29年度〉
24	金工品の流通と製作技術伝播からみた古代東アジアにおける地域間交流研究	稲田　宇大 （金　宇大）	都城発掘調査部考古第二研究室アソシエイトフェロー	若手研究（Ｂ）	650	2,860〈平成27～31年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
25	マルチチャンネル機器を利用した高速遺跡探査技術の開発（国際共同研究強化）	金田　明大	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）	13,910	13,910〈平成27～28年度〉
26	鉛釉陶器の鉛同位体比値と金属元素の価数から考察する生産地と焼成技術の特徴	降幡　順子	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ｃ）	1,040	3,770〈平成28～31年度〉
27	埋蔵環境下における金属製遺物の現地保存法の開発	脇谷　草一郎	埋蔵文化財センター主任研究員	基盤研究（Ｃ）	2,080	3,770〈平成28～30年度〉
28	蛍光Ｘ線分析と鉱物組成分析による飛鳥藤原地域出土古代瓦の生産・供給体制の研究	清野　孝之	都城発掘調査部考古第三研究室長	基盤研究（Ｃ）	1,560	4,680〈平成28～30年度〉
29	６世紀の埴輪生産からみた「部民制」の実証的研究－奈良盆地を中心に－	廣瀬　覚	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ｃ）	2,210	4,680〈平成28～31年度〉
30	明治～戦前期の木造建築に使われた良材の産地とその年輪データに関する基礎的研究	藤井　裕之	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｃ）	1,430	4,160〈平成28～30年度〉
31	日本と中国における古建築用語の相互訳および英訳を通した比較研究手法の創生	鈴木　智大	都城発掘調査部遺構研究室研究員	挑戦的萌芽研究	1,300	3,640〈平成28～30年度〉
32	財政関係木簡による古代地方社会の実態解明	山本　祥隆	都城発掘調査部史料研究室研究員	若手研究（Ｂ）	650	1,950〈平成28～30年度〉
33	古代都城における木器生産に関する基礎的研究	浦　蓉子	都城発掘調査部考古第一研究室アソシエイトフェロー	若手研究（Ｂ）	1,560	4,030〈平成28～30年度〉
34	二階建ての御殿にみる近世武家住宅の実体と空間の構成	大橋　正浩	都城発掘調査部遺構研究室アソシエイトフェロー	若手研究（Ｂ）	1,950	4,160〈平成28～30年度〉
35	北陸地方の温泉地における共同浴場の建築史的研究	福嶋　啓人	文化遺産部客員研究員	若手研究（Ｂ）	2,080	3,380〈平成28～29年度〉
36	大工道具にみる東アジア木造建築技術史の基盤構築	李　暉	文化遺産部客員研究員	若手研究（Ｂ）	1,430	4,160〈平成28～31年度〉
37	地理情報システムを用いた古代日本における移動コスト算出の基礎的研究	清野　陽一	都城発掘調査部考古第三研究室研究員	若手研究（Ｂ）	1,300	3,770〈平成28～31年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　7件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	中国漢代の木槨・木棺材を用いた年輪年代学の確立と用材選択の意義	光谷　拓実	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｂ）	1,950	780	6,500〈平成25～29年度〉
2	弥生時代における青銅器生産の総合的研究	難波　洋三	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｂ）	1,950	910	6,500〈平成25～29年度〉
3	文化財および美術工芸材料のナノ構造と物性・機能の解明	北田　正弘	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｂ）	－	－	6,500〈平成25～28年度〉
4	東大寺を中心とする南都の未整理文書聖教の復原的調査研究	吉川　聡	文化遺産部歴史研究室長	基盤研究（Ｂ）	1,820	1,040	6,500〈平成26～30年度〉
5	アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築	杉山　洋	副所長	基盤研究（Ｂ）	2,470	1,430	6,500〈平成26～29年度〉
6	東アジアにおける「西のガラス」の流通からみた古代の物流に関する考古科学的研究	田村　朋美	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究（Ａ）	260	1,030	6,500〈平成25～28年度〉
7	古代東アジアにおける建築技術の重層性と日本建築の特質	海野　聡	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究（Ａ）	1,430	2,990	6,500〈平成26～29年度〉

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0件

c-⑧ 客員研究員一覧

平成29年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
134人	40 人	28人	5人	6人	1人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	94 人	44人		50人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	0 人				

【東京国立博物館】　28人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	松原　茂（公益財団法人根津美術館学芸部長）	当館所蔵の絵画に関する研究
2	岩崎　均史（静岡市東海道広重美術館館長）	当館所蔵の大小絵暦に関する研究
3	宮永 美知代（東京藝術大学美術学部助教）	解剖学・美術解剖学および医学関係の館史資料に関する調査研究
4	東野　治之（奈良大学文学部教授）	法隆寺献納宝物の資料の研究
5	田辺　龍太（一般財団法人切手の博物館主任）	当館所蔵の切手に関する調査研究
6	水上　嘉代子（公益財団法人遠山記念館学芸員）	当館に所蔵される小袖形を中心とする日本近世染織の調査・研究
7	小笠原　小枝	当館所蔵のインド更紗に関する研究
8	大脇　　潔	当館所蔵古瓦の整理および、当館所蔵の藤原宮および藤原京内寺院出土瓦に関する研究
9	金子　浩昌（日本考古学協会会員）	当館所蔵原始・古代骨角製品に関する研究
10	湊　信幸（元東京国立博物館副館長）	当館所蔵の絵画に関する研究
11	鍋島　稲子（台東区立書道博物館主任研究員）	中国書跡の調査研究
12	西岡　康宏（元東京国立博物館副館長）	当館所蔵の東洋漆工に関する研究
13	保坂　裕興（学習院大学大学院人文科学研究科教授）	館史資料アーカイブズ学的研究
14	田中　淑江（共立女子大学家政学部准教授）	当館所蔵の江戸時代を中心とする小袖に関する研究
15	佐々木　利和	アイヌ・琉球民族資料に関する調査研究
16	望月　幹夫（元東京国立博物館上席研究員）	当館所蔵の考古資料（原史・有史）に関する調査研究
17	歌田　眞介（東京藝術大学名誉教授）	当館所蔵油彩画の材料・技法および保存状態についての調査・研究
18	稲本　泰生（京都大学人文科学研究所准教授）	東洋彫刻及び大谷探検隊将来西域美術の調査研究
19	澤田　むつ代（元東京国立博物館上席研究員）	法隆寺献納宝物のうち法隆寺裂などの上代切れの保存と修理に関する調査研究
20	松井　敏也（筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授）	文化財の非破壊分析に関する調査研究
21	クライナー・ヨゼフ	アイヌ・琉球民族資料に関する調査研究
22	佐藤　サアラ（公益財団法人常盤山文庫主任研究員）	東洋陶磁（宋・元代）に関する研究
23	高濱　秀	当館所蔵の中央ユーラシア青銅器に関する研究
24	加藤　雅久（居住技術研究所主宰）	帝室博物館・復興本館建設における技術史的考察
25	津村 眞輝子（公益財団法人古代オリエント博物館研究部長）	古代西アジアから中央アジアにおけるコインの研究
26	池田　宏（元東京国立博物館上席研究員）	当館所蔵の工芸品、歴史資料に関する調査研究
27	後藤　健（元東京国立博物館上席研究員）	古代文化研究
28	長谷　高志（長谷高史デザイン事務所代表）	情報デザイン、インフォメーションデザインの将来像の研究

【京都国立博物館】　5人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井上一稔（同志社大学文学部教授）	彫刻に関する調査研究
2	宇都宮啓吾（大阪大谷大学文学部教授）	訓点資料としての典籍に関する調査研究
3	奥平俊六（大阪大学大学院文学研究科教授）	近世絵画に関する調査研究
4	狩野博幸（同志社大学文化情報学部教授）	近世絵画に関する調査研究
5	後藤　真（国立歴史民俗博物館准教授）	文化財情報に関する調査研究

【奈良国立博物館】　6人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井出誠之輔（九州大学大学院人文科学研究院教授）	仏教絵画の調査及び整理
2	木村法光（元宮内庁正倉院事務所保存課長）	漆工品の調査及び研究
3	清水昭博（帝塚山大学文学部教授）	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理
4	根立研介（京都大学大学院文学研究科教授）	仏教彫刻の調査と整理
5	板倉聖哲（東京大学大学院情報学環教授）	中国・朝鮮絵画の調査及び整理
6	澤田むつ代（東京国立博物館名誉館員）	染織品の調査および研究

【九州国立博物館】　1人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	今津節生（奈良大学文学部教授）	水中遺跡の保存活用に関する調査研究

【東京文化財研究所】　44人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	三上　豊（和光大学表現学部教授）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
2	河合大介	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
3	丸川雄三（国立民族学博物館先端人類科学研究部准教授）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
4	中野照男（成城大学特任教授）	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究
5	津村宏臣（同志社大学文化情報学部文化情報学科准教授）	刊行物アーカイブズシステムの運用・評価に関する調査研究

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
6	近松鴻二（国士舘大学非常勤講師ほか）	黒田清輝宛書簡ならびに記事珠などの判読と確認
7	田中　淳	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
8	片山まび（東京藝術大学美術学部藝術学科准教授）	『売立目録』工芸部門の調査研究
9	星野厚子（東京藝術大学助手）	無形文化財（芸能）に関する調査研究
10	永井美和子（早稲田大学非常勤嘱託（演劇博物館））	無形文化財の記録作成
11	今岡謙太郎（武蔵野美術大学造形学部教授）	無形文化財の記録作成
12	原田一敏（東京藝術大学大学美術館教授）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
13	荒川正明（学習院大学文学部哲学科（美術史専攻）教授）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
14	山崎　剛（金沢美術工芸大学教授）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
15	俵木　悟（成城大学文学部准教授）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
16	大西秀樹（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター非常勤講師）	音声映像記録に関する調査研究
17	松山直子	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
18	菊池健策（都留文科大学非常勤講師）	無形民俗文化財の調査
19	鎌田紗弓（日本学術振興会特別研究員）	無形文化遺産部所蔵写真資料の整理
20	齋藤裕嗣	無形民俗文化財の調査
21	宮澤京子（有限会社海工房取締役）	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
22	森下愛子（公益財団法人泉屋博古館分館学芸課学芸員）	工芸技術（主に陶芸分野）に関する研究
23	吉澤　望（東京理科大学理工学部建築学科教授）	展示照明としての新世代光源の適用条件検討
24	山内泰樹（山形大学大学院理工学研究科教授）	有期EL光源の展示照明への導入条件の検討
25	酒井清文	文化財の伝統的修復に関する調査研究
26	大場詩野子	絵画修復を中心とした新規修復手法に関する調査研究
27	三浦定俊（公益財団法人文化財虫菌害研究所理事長）	文化財IPMに関する基礎研究および微生物の簡易モニタリング手法の応用研究についての助言・協力
28	藤井義久（京都大学大学院農学研究科教授）	文化財の生物劣化対策の研究
29	間渕　創（三重県総合博物館学芸員）	文化財保存収蔵環境におけるカビの付着菌、浮遊菌の調査
30	横山晋太郎	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
31	長島宏行（一般財団法人日本航空協会）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
32	小堀信幸（公益財団法人日本海事科学振興財団船の科学館）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
33	本多貴之（明治大学理工学部専任講師）	伝統的修復材料に関する分析調査研究
34	堤　一郎（茨城大学教育学部技術教育教室特任教授）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
35	北原博幸（トータルシステム研究所代表）	空気設備及び保存環境に関する測定システム構築の調査研究
36	石﨑武志（東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター教授）	光と熱による物性への影響計測
37	呂　俊民	文化財の保存環境の研究
38	吉原大志（三木市教育委員会文化スポーツ振興課市史編纂専門員）	文化財防災体制構築に関する調査研究
39	山本記子（一般社団法人国宝修理装潢師連盟専務理事）	日本画修復に使用される材料および技法の研究
40	貴田啓子	日本における絵画の劣化要因に関する研究
41	石井美恵（佐賀大学芸術地域デザイン学部准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業、国際研修等に関わる文化財修復技術の研究
42	大河原典子（鎌倉女子大学専任講師）	在外日本古美術品保存修復協力事業の修復研究および技術移転の手法研究
43	杉山恵助（東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復手法研究、国際研修での技術移転方法に関する研究
44	井内千紗（国際短期大学学課専任教員）	文化遺産国際協力に関する調査研究

【奈良文化財研究所】　50人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	小原　嘉記（中京大学国際教養学部准教授）	日本古代・中世の地方支配制度及び中世寺院の研究
2	小浦　久子（神戸芸術工科大学芸術工学部教授）	文化的景観の計画策定に関する研究
3	EDWARDS Walter Drew(中国科学院心理学研究所嘱託)	考古学、文化人類学の研究
4	山下慎吾（魚と山の空間生態研究所代表）	文化的景観と生態系との関係に関する研究
5	巽　淳一郎（京都橘大学文学部教授）	中国河南省文物考古研究所と行う共同研究
6	難波　洋三	考古遺物の調査研究
7	浜田　拓志	文化遺産防災総合シミュレーション調査研究
8	中村　亜希子	遺跡探査のための三次元計測による位置決定及び計測技術と成果の連携に関する研究
9	水野　裕史（熊本大学教育学部講師）	平城宮跡フィールドミュージアムの研究開発
10	小林　謙一	遺跡及びその調査技術の研究
11	羽生　淳子（総合地球環境学研究所研究部教授）	考古学及び環境学の研究
12	登谷　伸宏（京都橘大学文学部助教）	日本建築・都市史の研究
13	李　　暉（奈良県教育委員会文化財保存事務所調査補助員）	建築史に関する研究
14	福嶋　啓人（京都芸術大学芸術学部（通信教育部）非常勤講師）	建造物調査研究
15	小野　健吉（和歌山大學観光学部教授）	庭園史研究・遺跡整備研究
16	青木　敬（國學院大學文学部准教授）	薬師寺東塔の発掘調査研究
17	中川　二美（宗教法人東大寺境内史跡整備計画室研究員）	瓦に関する調査・研究
18	窪寺　茂（建築装飾技術史研究所長）	第一次大極殿院復原のための調査・研究
19	谷本　啓（奈良大学通信教育部非常勤講師）	日本古代史の研究
20	舘野　和己	木簡釈読等に関する研究
21	黒田　洋子（奈良女子大学古代学学術研究センター協力研究員	文字画像データベース構築における研究
22	深澤　芳樹	歴史考古学の研究
23	黒羽　亮太（日本学術振興会特別研究員）	日本古代史の研究

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
24	上原　眞人（公益財団法人辰馬考古資料館長）	出土木器の研究
25	肥塚　隆保	文化財科学、保存修復科学の研究
26	佐藤　昌憲（京都工芸繊維大学名誉教授）	繊維文化財の調査研究
27	北田　正弘	考古遺物等の調査分析
28	辻本　與志一（株式会社文化財保存）	古墳壁画の保存修理に関する研究
29	澤田　正昭（東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター長）	考古遺物及び遺跡の保存科学の研究
30	小椋　大輔（京都大学大学院工学研究科准教授）	文化財の保存展示環境の研究
31	大賀　克彦（奈良女子大学古代学学術センター特任講師）	古代における玉類の生産と流通についての研究
32	福永　　香（独立行政法人情報通信研究機構電磁波計測研究所研究マネージャー）	文化財の非破壊診断調査研究
33	青木　政幸（公益財団法人辰馬考古資料館学芸員）	考古遺物の調査研究
34	丸山　真史（東海大学海洋学部特任講師）	動物考古学の研究
35	茂原　信生（京都大学名誉教授）	自然人類学、動物考古学の研究
36	渡辺　伸行（神戸市立大日丘児童館長）	日本考古学（弥生時代～古代）及び自然災害と考古学の研究
37	大江　文雄	古生物学（魚類系統進化）の研究
38	菊地　大樹（日本学術振興会特別研究員PD）	中国考古学、動物考古学の研究
39	上中　央子	花粉分析、文化財科学、環境考古学、古環境の研究
40	中橋　孝博（九州大学名誉教授）	遺跡出土人骨の研究
41	光谷　拓実	年輪年代学及び木材解剖学の研究
42	伊東　隆夫（京都大学名誉教授）	木材組織学の研究
43	藤井　裕之	年輪年代学の研究
44	児島　大輔（大阪市立美術館学芸員）	美術史（仏教美術・東洋美術）及び年輪年代学の研究
45	山中　敏史	遺跡及びその調査技術の研究
46	西村　康（財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長）	遺跡探査及び測量の研究
47	西口　和彦（元兵庫県立考古博物館調査専門員）	遺跡探査の研究
48	狭川　真一（財団法人元興寺文化財研究所副所長）	遺跡及びその調査技術の研究
49	小澤　毅（三重大学人文学部教授）	遺跡及びその調査技術の研究
50	野口　淳（NPO法人南アジア文化遺産センター事務局長）	三次元計測、遺跡、遺物データベースの研究

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0人

d ウェブサイトアクセス件数

平成29年3月31日現在

	H24	H25	H26	H27	H28
国立博物館計	7,743,323	6,564,190 (※2)7,449,050	10,236,963 (※2)10,917,717	13,226,289 (※2)13,929,248	13,053,220
東京国立博物館	2,982,729	2,898,885 (※2)3,783,745	4,248,437 (※2)4,929,191	6,724,460 (※2)7,427,419	6,433,867
京都国立博物館	1,837,113	1,562,480	2,964,705	3,172,381	3,334,335
奈良国立博物館	845,202	893,553	1,196,669	1,112,057	1,167,926
九州国立博物館	2,078,279	1,209,272	1,827,152	2,217,391	2,117,092
文化財研究所計	1,655,762 (※2)1,707,271	1,857,638 (※2)1,904,215	2,128,972 (※2)2,412,619	2,546,715 (※2)3,707,015	7,558,441
東京文化財研究所	(※1)1,230,718	1,410,075	1,603,086	1,941,504	2,567,780
奈良文化財研究所	425,044 (※2)476,553	447,563 (※2)494,140	525,886 (※2)809,533	605,211 (※2)1,765,511	4,990,661
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	5,289	5,454	6,200	7,504	7,856
機構本部	260,558	283,412	325,132	292,721	220,638
e国宝	1,420,662	1,676,762	1,515,442	1,788,265	2,854,622
国立博物館所蔵品統合検索システム(ColBase)	―	―	―	―	6,452
文化財防災ネットワーク	―	―	―	102,574	62,004

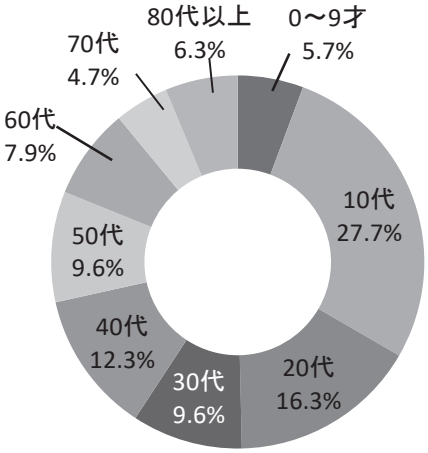
・※1は参考値。サーバの入替の際にアクセスログ保存期間の設定に誤りがあり、24年10月～25年2月のアクセスログが消失したことから、年間アクセス件数は不明である。ログが保存されている7ヵ月間のアクセス件数717,919件の月平均を12倍した値を、参考値として記載している。

・アクセス件数の単位は、ユーザーセッション数である。
・文化財防災ネットワークは平成27年3月よりサイトを開設、同年4月よりアクセス件数のカウントを開始した。
・28年度より、東京国立博物館及び奈良文化財研究所の数値には、データベースのアクセス件数を含めている。27年度以前の下段※2の数値は、上段の本体サイトアクセス件数にデータベースアクセス件数を含めた数値。(他施設は、27年度以前からデータベースのアクセス件数を含む。)

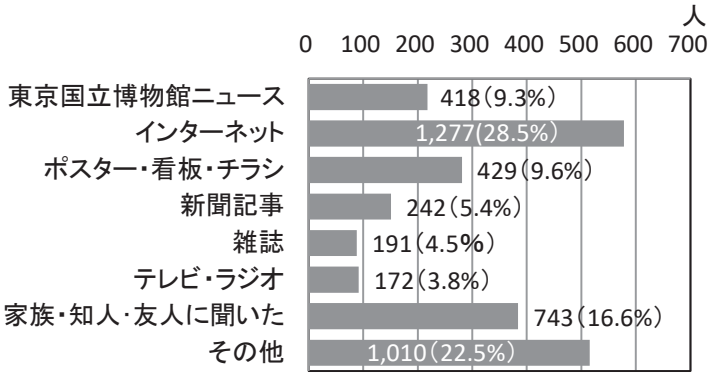
平常展（総合文化展）
アンケート集計結果

開催期間: 平成28年4月1日（金）～平成29年3月31日（金） 開館日数:312日間
回答者数: 2,424人（うちタッチパネルアンケート回答者数:1,627人＜67.1%＞）
来館者数: 761,709人
アンケート回収率: 0.32%

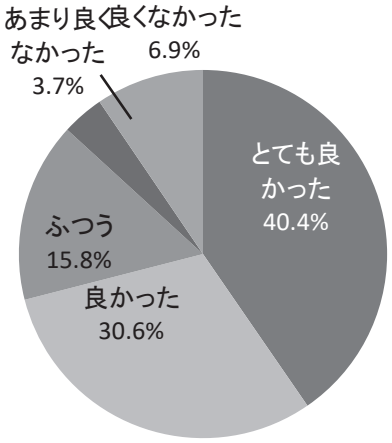
①アンケート回答年齢層



②認知経路 （複数回答）

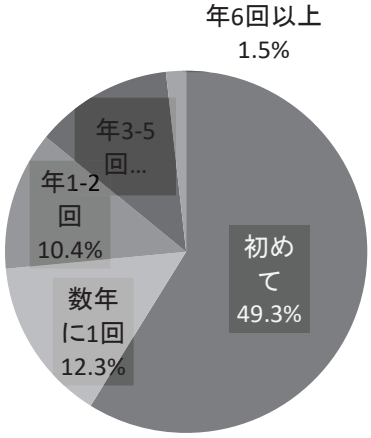


③展示に関する満足度



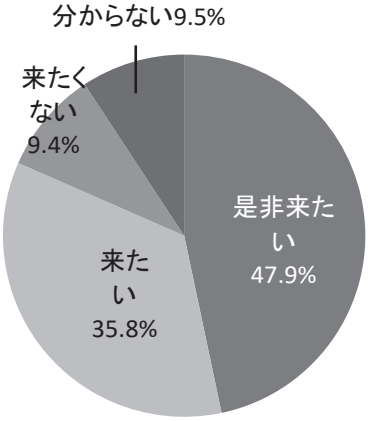
上位合計
71.0%

④来館頻度



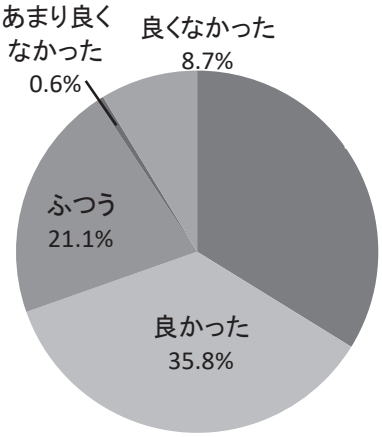
上位合計
61.6%

⑤再来館希望率



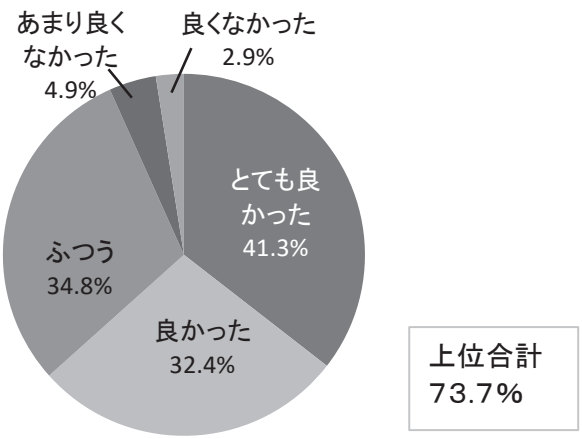
上位合計
83.7%

⑥ミュージアムショップに対する満足度

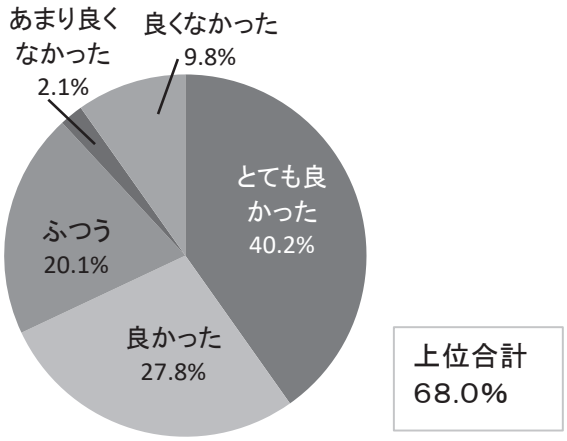


上位合計
69.6%

⑦レストランに対する満足度



⑧館内スタッフの対応について

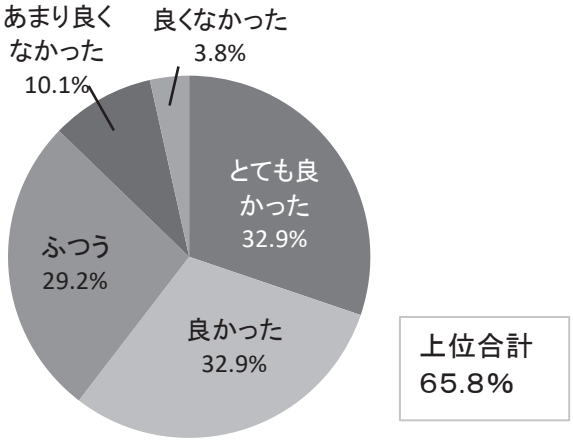


主な意見・感想

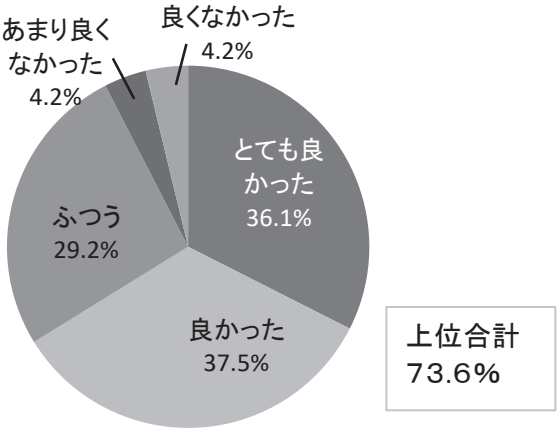
・気負いなく楽しめるようになった。
・スタンプがいっぱいあって楽しかった。
・展示替えがあるので来るたびに新しい発見がある。
・外国語の説明や案内をもっと増やすべき。
・作品を写真撮影できるのがよい反面、撮影禁止のものまで撮られている。
・トーハクなびのダウンロード時間が長すぎて不便。
・ナイトミュージアムや音楽祭、庭園開放などをもっと増やしてほしい。

《外国人アンケート集計結果》
回答者数：79人

1．（外国人アンケート）施設の案内・説明・看板について



2．（外国人アンケート）展示のパネル、キャプションについて



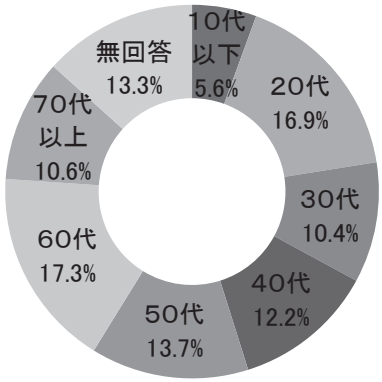
主な意見・感想

・浮世絵の作り方など解説に図解があってよかった。
・子どもに対してもう少し経験を増やせるよう説明・キャプションの詳細を書いて欲しい。
・掛け軸などの巻物や陶磁器の英訳をもっと増やして欲しい。

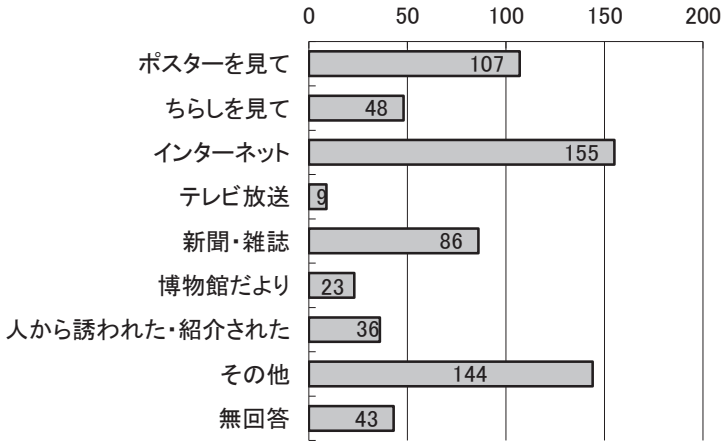
平常展（名品ギャラリー）
アンケート集計結果

開催期間：平成28年4月1日（金）～平成29年3月20日（月）　開館日数：176日間
回答者数：556人
来館者数：185,874人

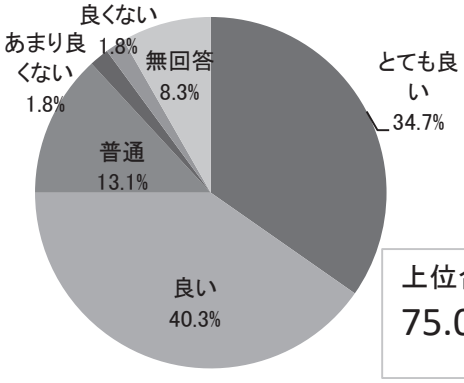
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）

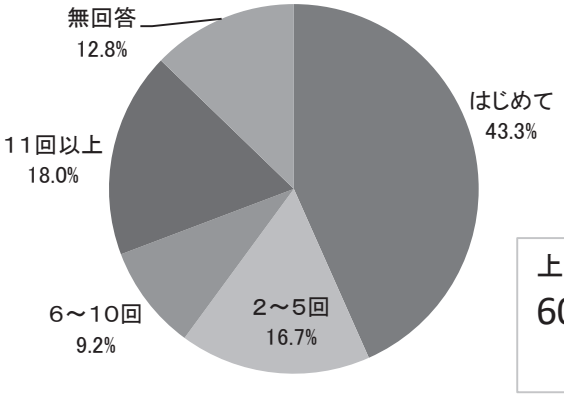


③展示に関する満足度



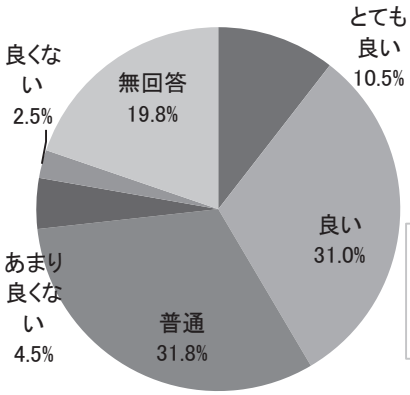
上位合計
75.0%

④来館頻度



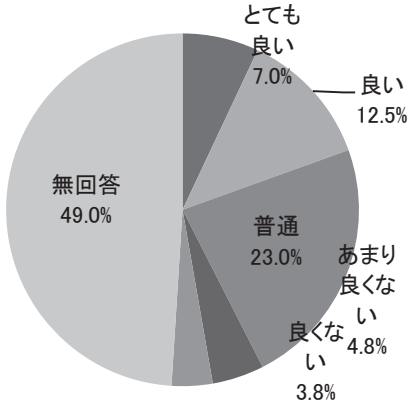
上位合計
60.1%

⑤ミュージアムショップに対する満足度（28年度新規）



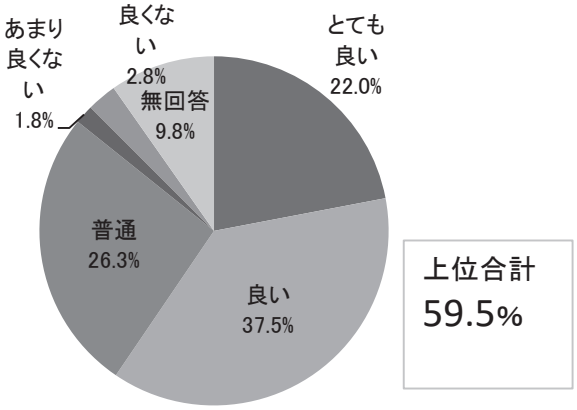
上位合計
41.5%

⑥レストランに対する満足度（28年度新規）



上位合計
19.5%

⑦館内スタッフの対応について（28年度新規）

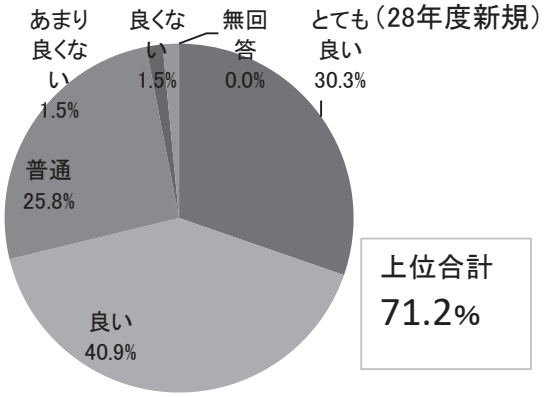


主な意見・感想

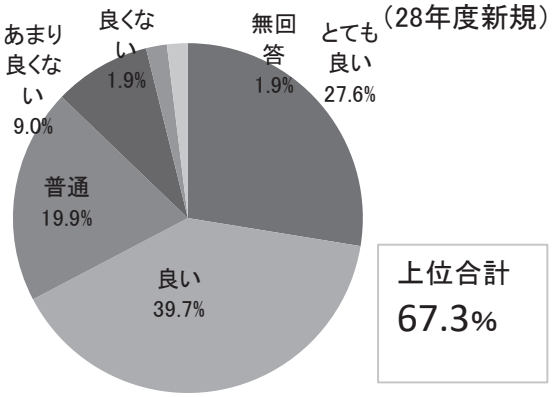
・展示方法が素晴らしい。
・英語の解説が少ない。
・展示数が少ない。
・照明が素晴らしい。
・展示品の質が高い。

《外国人アンケート集計結果》
回答者数：90人

1．（外国人アンケート）施設の案内・説明・看板について



2．（外国人アンケート）展示のパネル、キャプションについて



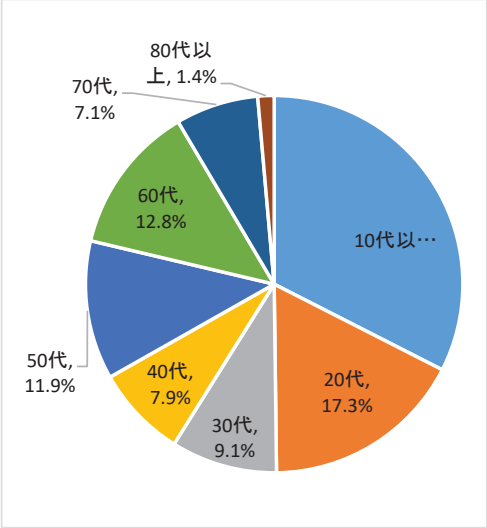
主な意見・感想

・英訳の解説を増やしてほしい。
・英語以外の表記も必要。

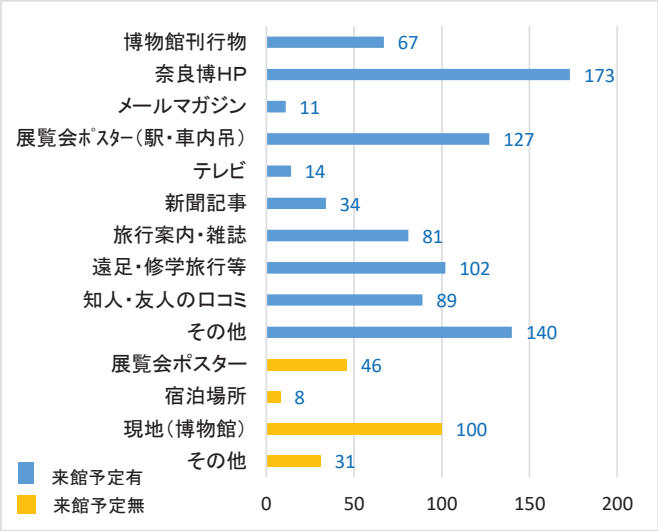
平常展（名品展）
アンケート集計結果

開催期間：平成28年4月1日(金)～平成29年3月31日(金)　開館日数：321日間
回答者数：964人（来館者数：145,676人　アンケート回収率：0.66%）

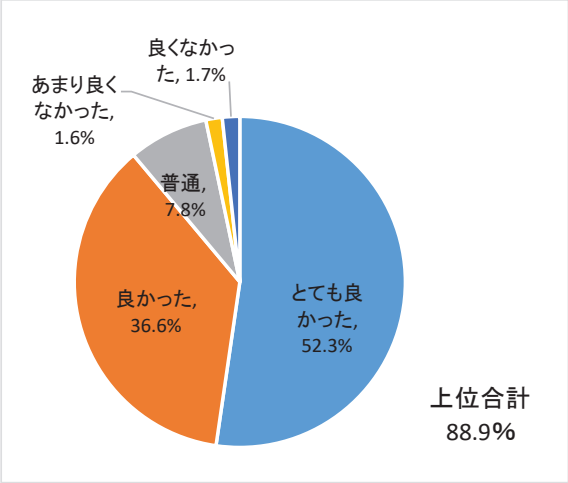
①年齢層



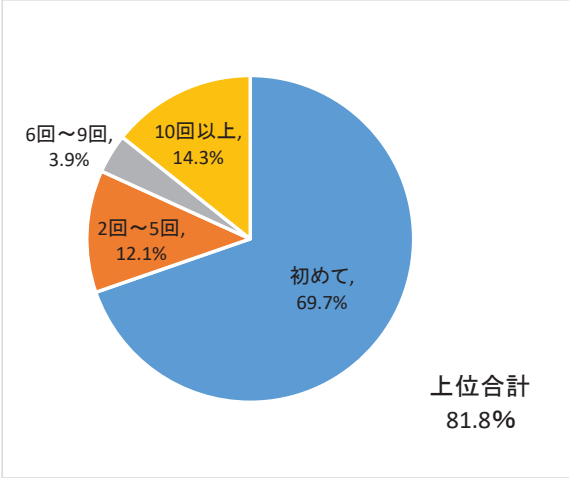
②認知経路（複数回答）



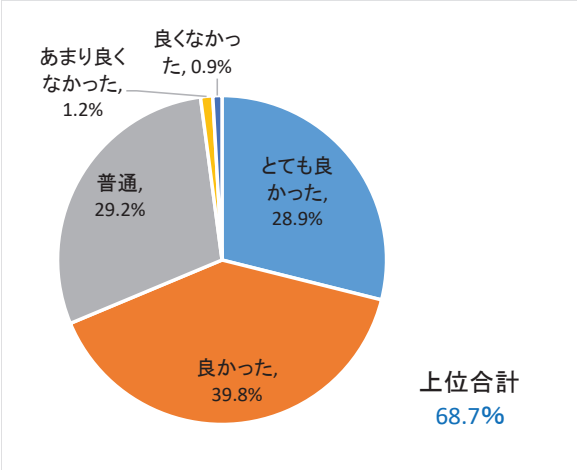
③展示に関する満足度



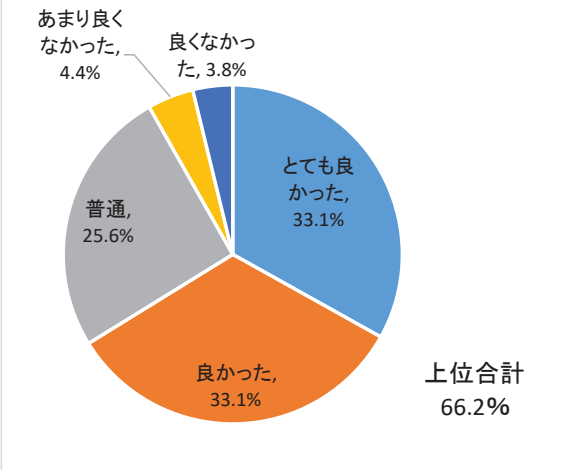
④来館頻度



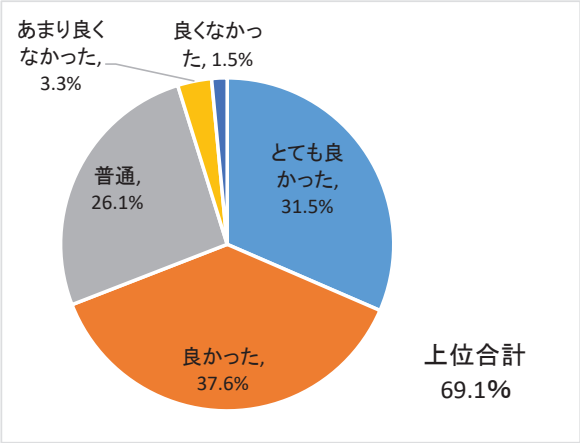
⑤ミュージアムショップに対する満足度



⑥レストランに対する満足度



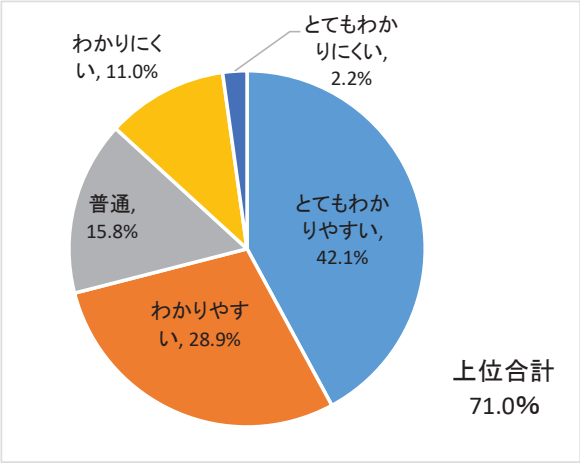
⑦スタッフ対応に関する満足度



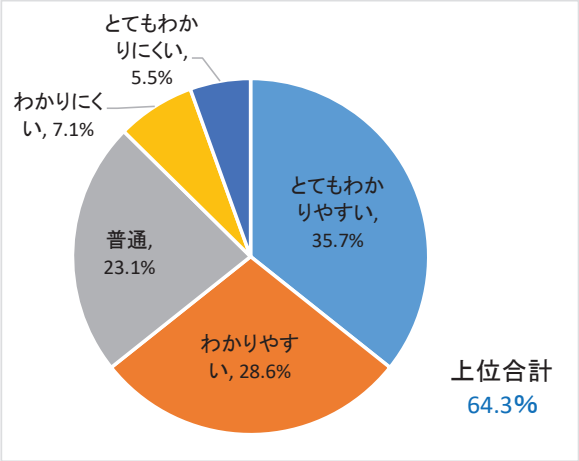
⑧主な意見・感想
・改装後照明が変わったためか仏像の細部や色彩が鮮やかに見え、見慣れた仏像が別物のように見えて感激しました。
・たくさんの仏像を見ることができて、心が落ち着きました。
・寺などでは照明も暗く、近づくこともできず、細部まで鑑賞できない。ここでは詳細を見れて満足した。
・ガラスケースの反射がおさえられて見やすかった。
・ボランティアガイドの方の説明が、親切で行き届いており、ありがたかった。
・キャプション位置が低く、読みにくい。

《外国人アンケート集計結果》
回答者数：244人

1.（外国人アンケート）
施設の案内・説明・看板について



2.（外国人アンケート）
展示のパネル・キャプションについて

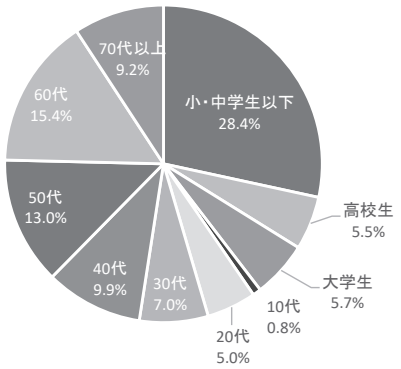


主な意見・感想
・多くの言語での説明がされていて、情報内容も良かった。
・展示や題箋からたくさんのことを学ぶことができた。
・英語解説がもっとあれば、より充実したものになっていただろうと思います。
・なぜ展示物が日本にとって大切なのかを外国人にわかるように基本的な説明がもっとあっていい。
・オーディオガイドの説明は良かったが、もっと情報を加えるべき。
・もし可能であれば、展示室に中国語の解説を増やしてください。

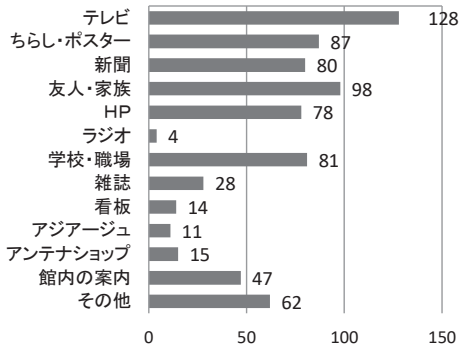
文化交流展　アンケート集計結果

開催期間：平成28年4月1日(金)～29年3月31日(金)　　開館日数:311日間
回答者数：750人　来館者数：393,590人　アンケート回収率：1.9%

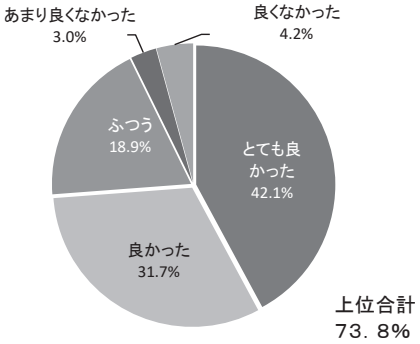
①年齢層



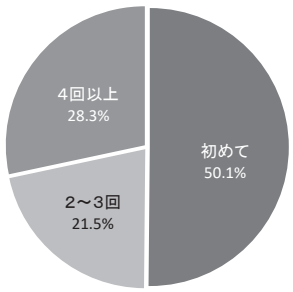
②認知経路（複数回答）



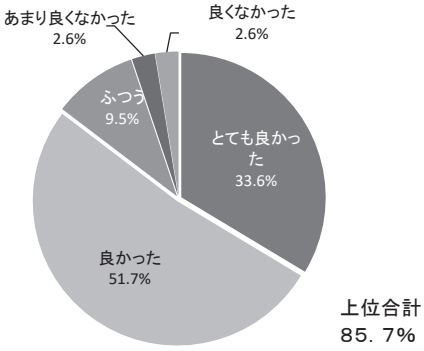
③展示に関する満足度



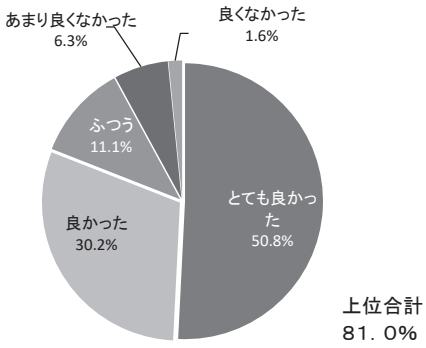
④来館頻度



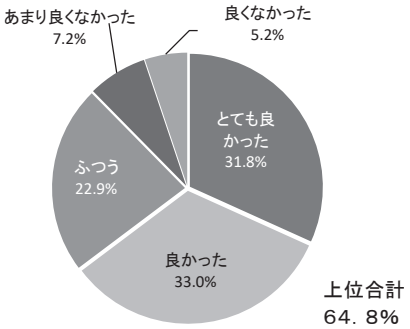
⑤ミュージアムショップに対する満足度



⑥レストランに対する満足度



⑦館内スタッフの対応について

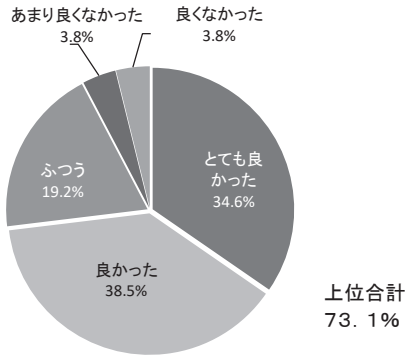


主な意見・感想

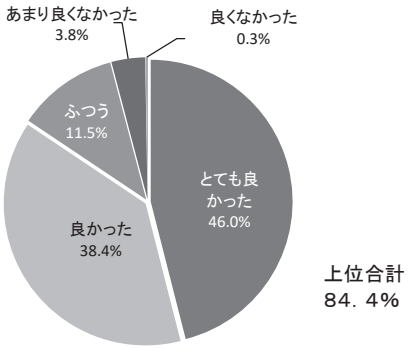
・（火縄銃の展示にて）江戸時代の本物を手にとることができる貴重な体験が出来ました。感動。
・歴史の教科書に載っている展示品も複数あり、興味深くみることが出来ました。
・8Kの画像初めて見ました。日本の工芸の美しさがとても良くわかりました。
・文化財の素材や材質が書いてあると良かった。
・遣唐使船、甕棺の写真を撮ってSNSにアップして展示の面白さをフォロワーの皆に知らせたかった。

《外国人アンケート集計結果》
回答者数：26人

１．（外国人アンケート）施設の案内・説明・看板について



２．（外国人アンケート）展示のパネル・キャプションについて



主な意見・感想

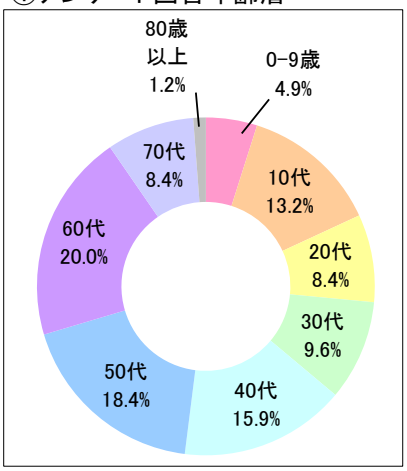
・とても楽しめた。展示内容は面白く、レイアウトも美しく素晴らしかった。
・オーディオガイドはとてもよかった。ガイドのポイントがもっとあれば面白かったのに！
・英語の案内が少なすぎる。
・もっと文化財を楽しむために、そして博物館の知名度を上げるために写真撮影を許可してほしい。
・平常展の各部屋への入口の前にこの部屋に何があるか英語で説明したパネルがあるといい。オーディオガイドが苦手な人もいます。
・とても楽しめたし、たくさんのことを学ぶことができた。オーディオガイドがあったので展示物について理解することができた。

東京国立博物館

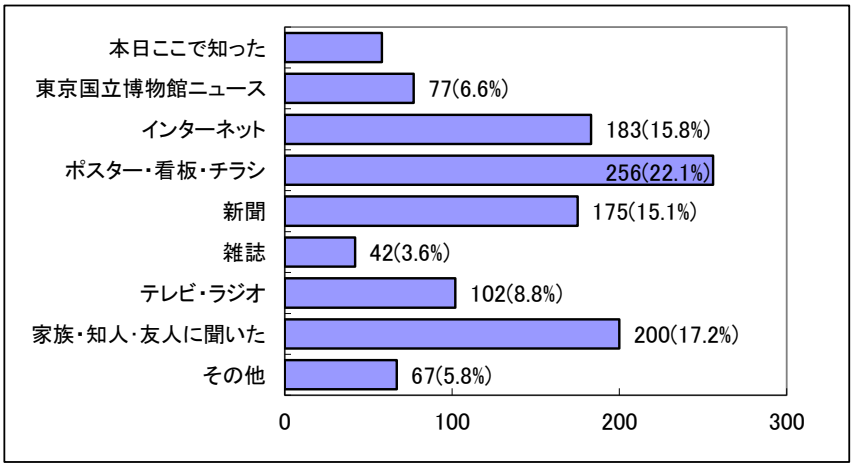
特別展「生誕150年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」アンケート集計結果

開催期間：平成28年3月23日（水）～ 5月15日（日）（50日間）
回答者数：824人（総入館者数：182,353人　アンケート回収率：0.45%）

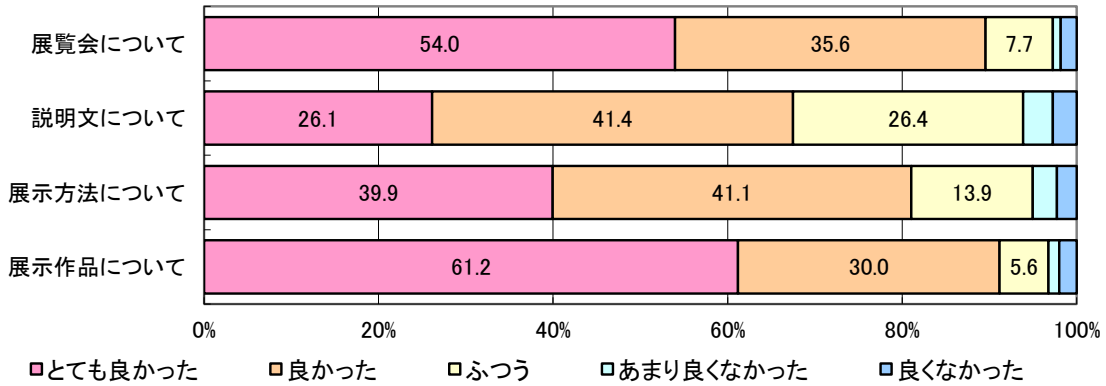
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想
- 教科書で見た名作を鑑賞できた贅沢な展覧会だった。
- 黒田ゆかりの画家作品が多く展示されており、より本展への理解が深まった。
- 説明文の字が大きくて見やすかった。
- 絵画が見やすいライティングでよかった。

注：上記数字は以下の通り

	上位合計	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	89.6	0.9	1.8
説明文	67.5	3.4	2.7
展示方法	81.0	2.8	2.3
展示作品	91.2	1.2	2.0

（%）

本展は《湖畔》で広く知られ、日本美術の近代化のために力を尽くした黒田清輝（1866-1924）の生誕150年を記念した大回顧展です。《読書》、《婦人像（厨房）》、《湖畔》、《智・感・情》を含む初期から晩年までの代表作を一堂に展示し、洋画の礎を築いた黒田清輝の画業全体を振り返ります。また今回はオルセー美術館からミレーの《羊飼いの少女》を特別出品。師のコランや影響を受けたピュヴィス・ド・シャヴァンヌ、バスティアン=ルパージュ、そしてモネ、シスレーら同時期の印象派の作品までをあわせて展示し、18歳の黒田がフランス留学で学んだ軌跡をたどります。「近代絵画の巨匠」「アカデミズムの創設者」にとどまらない、個人としての黒田清輝の人生、苦悩、人間関係を掘り下げ、人間・黒田の実像と魅力に迫った本展には、18万人を超える方々にご来館いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して約90%の方々から好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「お花見チケットはとてもいいので、このような割引をもっと増やしてほしい」「グッズの絵葉書が品薄で残念だった」などのご意見も寄せられました。

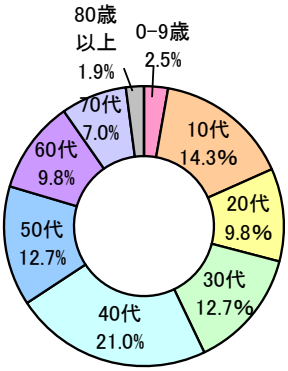
今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

東京国立博物館

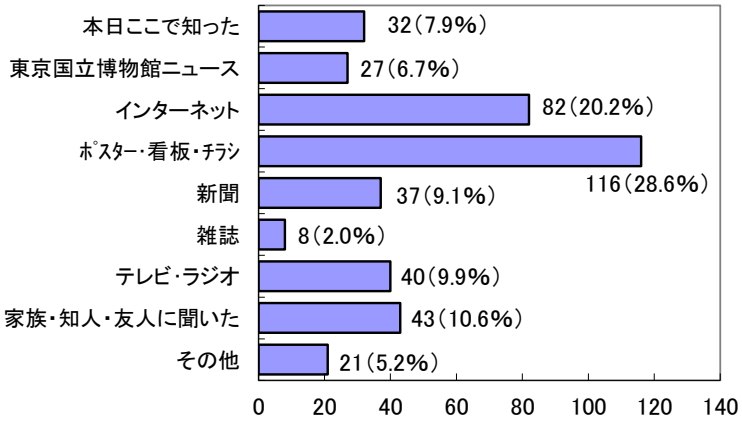
特別展「黄金のアフガニスタン ー守りぬかれたシルクロードの秘宝ー」アンケート集計結果

開催期間：平成28年4月12日（火）～ 6月19日（日）（61日間）
回答者数：315人（総入館者数：154,875人　アンケート回収率：0.20%）

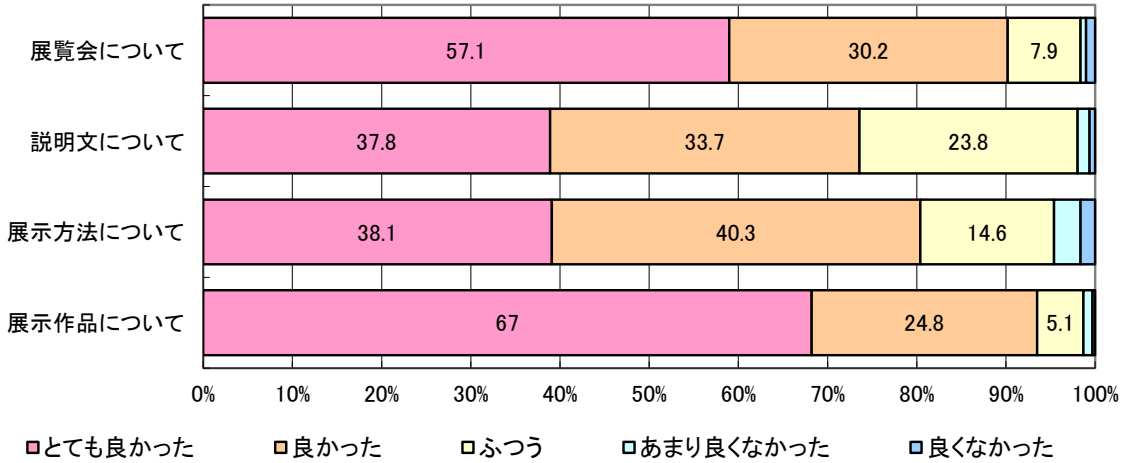
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・文化財は世界中の人々とその後世の人々の宝物だと強調されていてよかった。
・戦禍をくぐり抜けた作品(黄金装身具・ヘラクレス立像等)は見ごたえがあった。
・文化財を保護する意義と情熱の伝わるとても良い展示だった。
・キャプションの文字が大きく見やすかった。
・今まであまり見たことがない分野の展覧会だったが、分かりやすく、興味がひかれるように作られていると感じた。

注：上記数字は以下の通り

	上位合計	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	87.3	0.6	1.0
説明文	71.5	1.3	0.6
展示方法	78.4	2.9	1.6
展示作品	91.8	1.0	0.3

（%）

本展覧会では、紀元前2100年頃から紀元後3世紀頃までに古代のアフガニスタンで栄えた文化をご紹介します。これらは、1979年のソ連の軍事介入、内戦などで博物館は甚大な被害を受け、その多くが永遠に失われてしまったとみられていました。しかし、国立博物館の職員たちにより秘かに大統領府地下の金庫などに移され、その後14年もの間、静かに守り続けられていたことが2003年に判明します。本展は、この秘宝の再発見を契機に、アフガニスタンの文化遺産復興を支援するために企画された国際巡回展です。古代アフガニスタンの至宝231件に加え、日本で「文化財難民」として保護・保管され、この機にアフガニスタンに返還されることとなった流出文化財の中から15件が出品された本展には、15万人を超える方々にご来館いただきました。

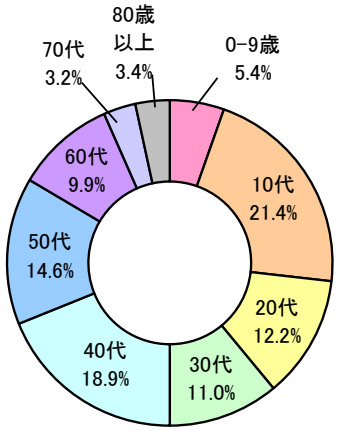
アンケートの結果、展覧会に対して87%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「作品とキャプションの位置が離れていて分かりづらい箇所があった」「休憩用の椅子が少ない」などのご意見も寄せられました。

今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

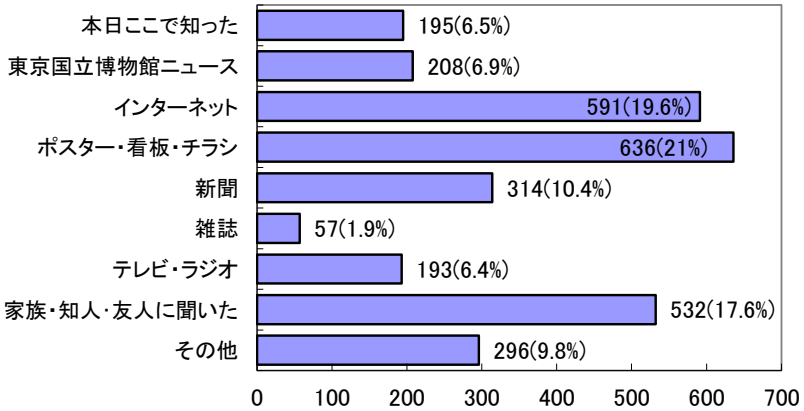
特別展「古代ギリシャ展―時空を超えた旅―」アンケート集計結果

開催期間：平成28年6月21日（火）～ 9月19日（月）（80日間）
回答者数2,196人（総入館者数：199,567人　アンケート回収率：1.1%）

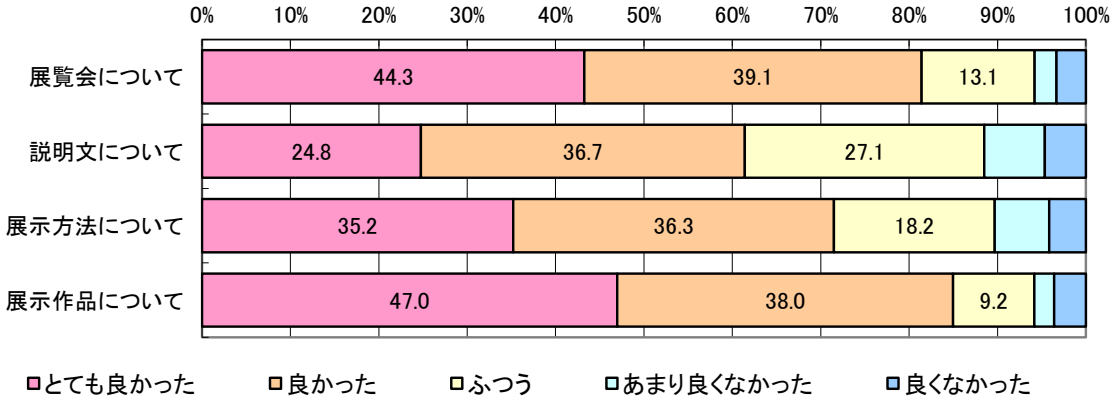
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想
・クーロス像などギリシャ彫刻は迫力があり見応えがあった。
（他にも、漁夫のフレスコ画、ギンバイカの金冠等展示作品への個別評価多数）
・どの時代の文明も大変魅力的で、歴史、文化、宗教や思想など多くを学べた。
・島ごとの構成、床のモザイクや神殿の装飾など展示方法の仕様が凝っていた。
・オリンピックシーズンにその原点の競技祭を伝える作品が見られて良かった。
・「聖闘士星矢」とのコラボや、キッズデー、ナイトミュージアムなど、オリジナルな企画が多く展示を含めて楽しめた。

注：上記数字は以下の通り

	上位合計	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	83.4	2.7	1.6
説明文	61.5	9.5	3.9
展示方法	71.5	5.4	3.1
展示作品	85.0	1.3	1.0

（%）

古代ギリシャには、時代や地域によりさまざまな美術が花開きました。その中心は一貫して神々と人間の姿と物語でした。大理石を削って作った小さなキュクラデス偶像、幾何学様式の壺絵からマケドニアの美しい金製品、等身大のヘレニズムの神像まで、歴史の変遷とともに見事なまでの多様性を目にすることができます。

本展では、ギリシャ国内40か所以上の国立博物館群から厳選された300件を超える古代ギリシャ時代の貴重な作品を展示する、という日本でかつてない規模による試みとなり、約20万人の来場者を迎えました。

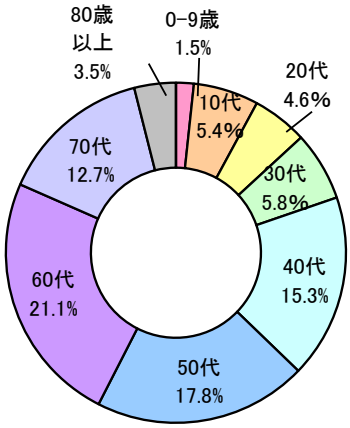
アンケートの結果、展覧会に対して83%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただきました。一方で、「印章など小さな作品展示には拡大写真が欲しい」といった展示への工夫に対する意見や「空調が寒すぎた」「手荷物検査に違和感を覚えた」など運営面への意見なども寄せられました。

今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

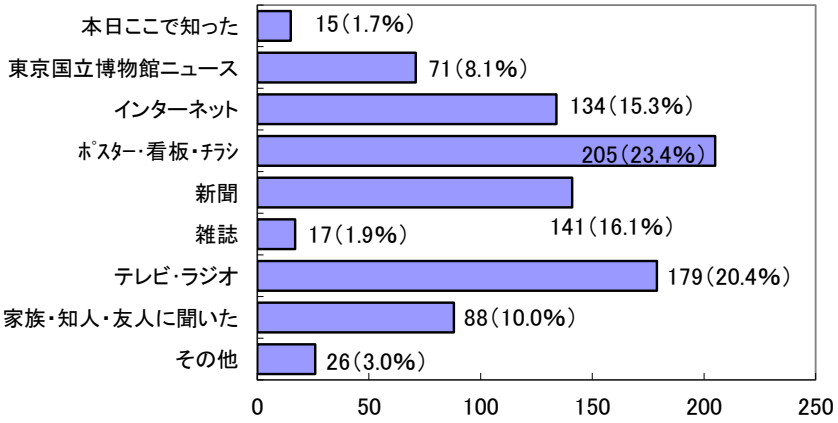
日韓国交正常化50周年記念　特別展
「ほほえみの御仏―二つの半跏思惟像―」アンケート集計結果

開催期間：平成28年6月21日（火）～ 7月10日（日）（20日間）
回答者数：608人（総入館者数：78,562人　アンケート回収率：0.77%）

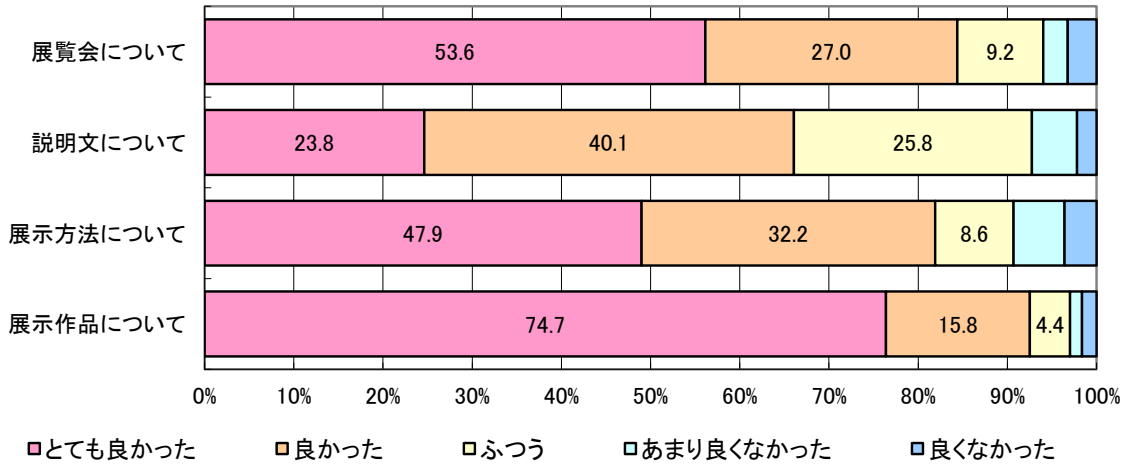
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・両国の国宝をじっくり見ることが出来て、当時の日韓関係への造詣も深まり、
　大変贅沢な時間が過ごせた。
・360度から鑑賞でき、2体の材質の違い、表情の違いをじっくり鑑賞できた。
・空間を広く取った展示方法がよかった。

注：上記数字は以下の通り

	上位合計	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	80.6	2.6	3.1
説明文	63.9	4.9	2.1
展示方法	80.1	5.6	3.5
展示作品	90.5	1.3	1.6

（%）

左足を踏み下げ、右足をその膝の上に組んで坐り、右手を頬に添えて思案する仏像・半跏思惟像は、仏教の母国・インドにはじまり、中国、朝鮮半島、日本へと伝わりました。日本や朝鮮半島では6世紀から8世紀の間に多くの像がつくられ、その中には古代仏教彫刻の傑作といわれる仏像があります。飛鳥時代、斑鳩の里に建立された聖徳太子ゆかりの古刹である奈良県の中宮寺門跡に伝わる国宝の半跏思惟像はその一つで、優しく微笑 む顔は誰もが知るところです。

また、韓国を代表する総合博物館である韓国国立中央博物館所蔵の銅製の半跏思惟像は、国宝78号像として広く親しまれています。日本と韓国に同じ姿の優れた仏像が残るのは、両国の古代から続く交流の深さを物語るといえましょう。

アンケートの結果、展覧会に対して80%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。

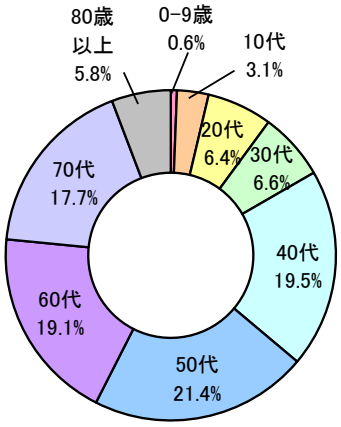
一方で、「会場が暗く、お顔がよく見えなかった」「手荷物検査が厳しく感じた」などのご意見も寄せられました。

今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

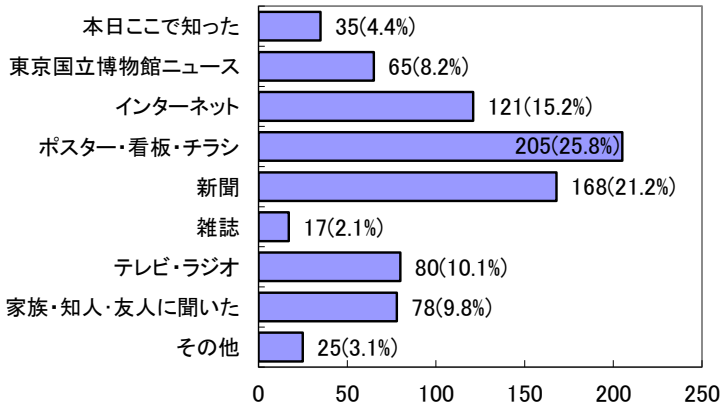
特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけた
アンケート集計結果

開催期間：平成28年9月13日（火）～平成29年1月9日（月・祝）（96日間）
回答者数：355人（総入館者数：212,144人　アンケート回収率：0.17%）

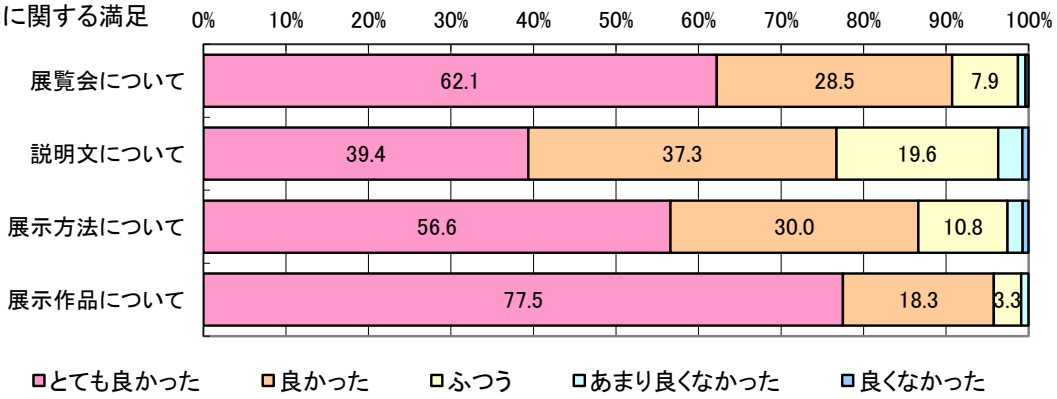
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足



④主な意見・感想
・日本最大の重要文化財という「十一面観音菩薩坐像」の存在感に圧倒された。
・めったに見られない秘仏を360度拝観できたことに感動した。
・音声ガイドが分かりやすく面白かった。
・グッズに魅力的なものが多くてよかった。

注：上記数字は以下の通り

	上位合計	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	90.6	0.9	0.4
説明文	76.7	3.0	0.7
展示方法	86.6	1.8	0.7
展示作品	95.8	0.9	0.0

（%）

滋賀県甲賀市に所在する天台宗の古刹・櫟野寺【らくやじ】には重要文化財に指定される平安時代の仏像が20体も伝わります。その数は、優れた仏像が数多く残る滋賀県でも特筆されます。本展は、20体すべてを寺外で展示する初めての機会です。

本尊の十一面観音菩薩坐像は像高が3mもある圧巻の作品で、普段は大きく重い扉に閉ざされる秘仏です。重厚感ある堂々とした姿ですが、美しい顔立ちは、見る人に安らぎを与えることでしょう。その十一面観音とともに2.2mある薬師如来坐像が並ぶ様子は壮観といえます。他にも、11体の観音や、どこか親しみのある毘沙門天立像、文治3年(1187)に造られたことが知られる貴重な地蔵菩薩坐像なども出品され、櫟野寺に伝わる平安彫刻の傑作を一時にご覧いただける展覧会です。櫟野の里にまだ残るかくれ里の空気とともに櫟野寺の秘仏をお楽しみいただく機会となった本展には、21万人を超える方々にご来場いただきました。

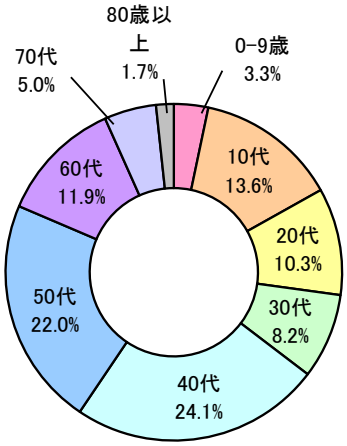
アンケートの結果、展覧会に対して90.6%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「会場が狭い」「会場内に座れる場所が欲しかった」などのご意見も寄せられました。

今後も、来場者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

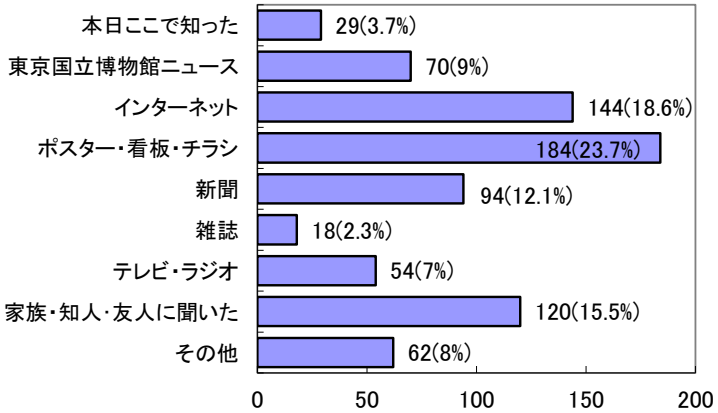
臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念特別展「禅―心をかたちに―」
アンケート集計結果

開催期間：平成28年10月18日（火）～11月27日（日）（36日間）
回答者数：534人（総入館者数：133,629人　アンケート回収率：0.4%）

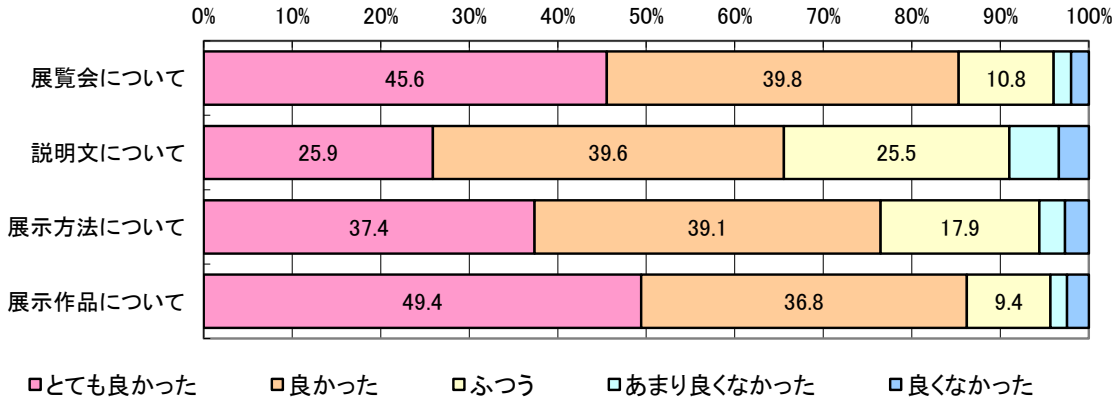
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・狩野派の障壁画、達磨図などの名品が特に良かった。
・一休、白隠や喫茶など禅の世界の奥深さに圧倒された。
・その時代の武将と宗教が密接に関係していた点が大変興味深い。

注：上記数字は以下の通り

	上位合計	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	85.4	1.9	2.5
説明文	65.5	2.9	2.7
展示方法	76.5	5.6	3.4
展示作品	86.2	2.0	2.0

（%）

禅宗は中国から伝えられた仏教の一派です。その導入は鎌倉時代から南北朝時代にかけて臨済【りんざい】宗を中心に行われ、それとともに新たに宋・元の美術、喫茶の風習が中国からもたらされました。江戸時代には、やはり臨済禅の流れをくむ黄檗【おうへき】宗が、明時代末の美術とともに中国から伝わり、また臨済宗中興の祖と称される白隠【はくいん】は教化のために自ら多数の書画を制作し、いまや禅画の先駆者として高く評価されています。このように禅は、中世以来、新たな文化への「架け橋」や「触媒【しょくばい】」として日本文化の形成に大きな役割を果たしてきました。

本展では、臨済宗・黄檗宗の各本山が所蔵する高僧の肖像、書、仏像、絵画や工芸を中心に、禅宗美術の至宝を通じて禅の
歴史と文化を、国宝22件、重要文化財102件を含む計240件を展示し、13万人を超える来館者を迎えました。

アンケートの結果、展覧会に対して85%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただきました。一方で、「展覧会の会期が短い」、「展示替えが多く、お目当ての作品を観ることが出来なかった」などの意見も寄せられました。

今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

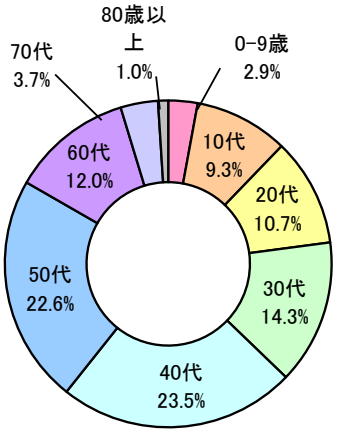
東京国立博物館

特別展「春日大社　千年の至宝」

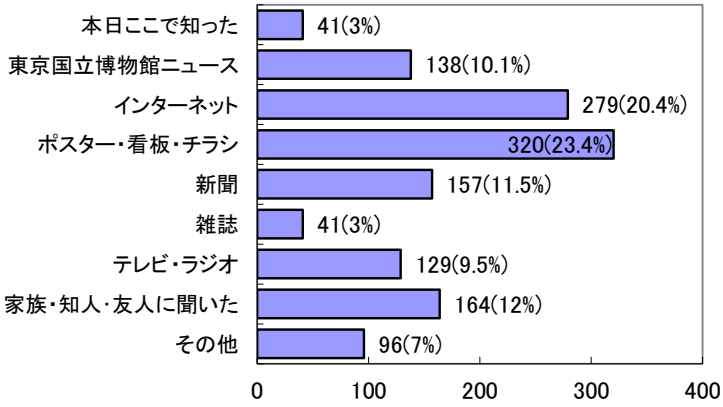
アンケート集計結果

開催期間：平成29年1月17日（火）～平成29年3月12日（日）（48日間）
回答者数：917人（総入館者数：209,572人　アンケート回収率：0.44%）

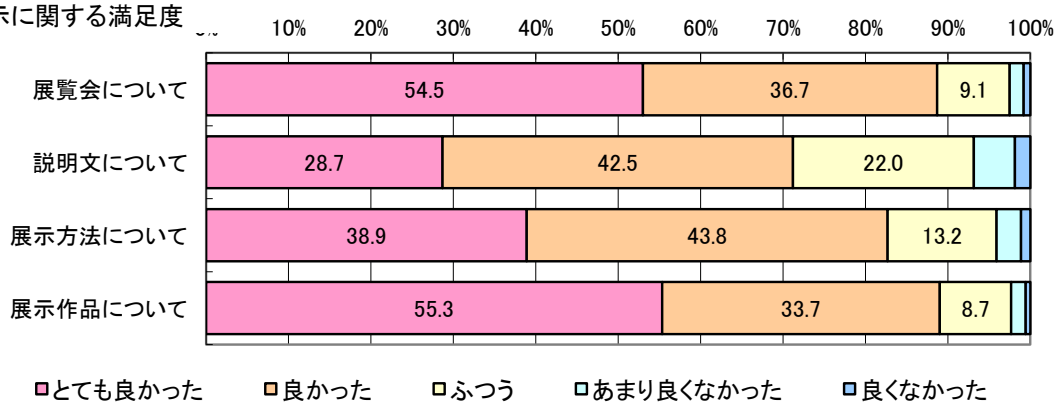
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・蒔絵箏や金地螺鈿毛抜形太刀など見ごたえのある国宝が多くあった。
・国宝の甲冑が4領そろった姿は大変すばらしかった。
・これだけ古いものが美しい状態で残っていることに、神へ捧げた証を感じた。

注：上記数字は以下の通り

	上位合計	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	91.2	1.7	0.8
説明文	71.2	5.0	1.9
展示方法	82.7	3.0	1.1
展示作品	89	1.8	0.5

（%）

春日大社では「式年造替」と呼ばれる社殿の建て替えや修繕が約20年に一度行われ、平成28年（2016）には60回目を迎えます。本展は、この大きな節目に、春日大社に伝来し、社外ではめったに拝観することのかなわない貴重な古神宝の数々とともに、春日の神々への祈りが込められた選りすぐりの名品を、かつてない規模で展覧するものです。「平安の正倉院」と呼ばれる春日大社に伝来した王朝美の精華を伝える古神宝類。祈りや願いを込め奉納された甲冑や刀剣。美しい自然に囲まれた聖地・春日野や神々の姿を現した絵画や彫刻。「千年」、すなわち「とこしえ」の祈りが今なお捧げられる春日大社の「至宝」が一堂に会する、大変貴重な機会となりました。国宝や重要文化財を100件以上が展示された本展には、20万人を超える方々にご来館いただきました。

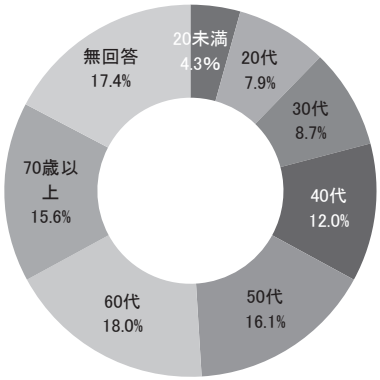
アンケートの結果、展覧会に対して91.2%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「説明が少なすぎる」、「イヤホンガイドが外れやすく感じた」などのご意見も寄せられました。

今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

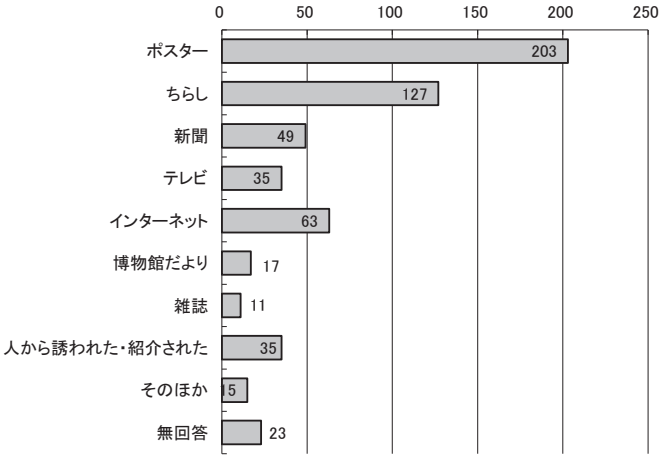
特別展覧会
「臨済禅師1150年 白隠禅師250年遠諱記念　禅-心をかたちに-」
アンケート集計結果

開催期間：平成28年4月12日（火）～ 5月22日（日）（37日間）
回答者数：416人（総来館者数　88,228人　アンケート回収率　0.47%）

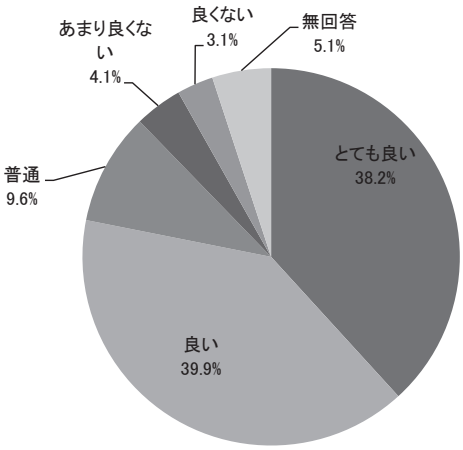
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
78.1%

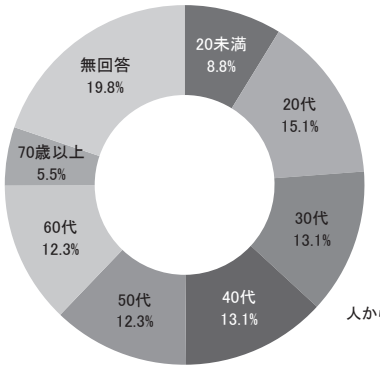
④主な意見・感想

・展示品が多い
・貴重な作品を観ることができた
・禅の理解が深まった
・国宝・重文が多い

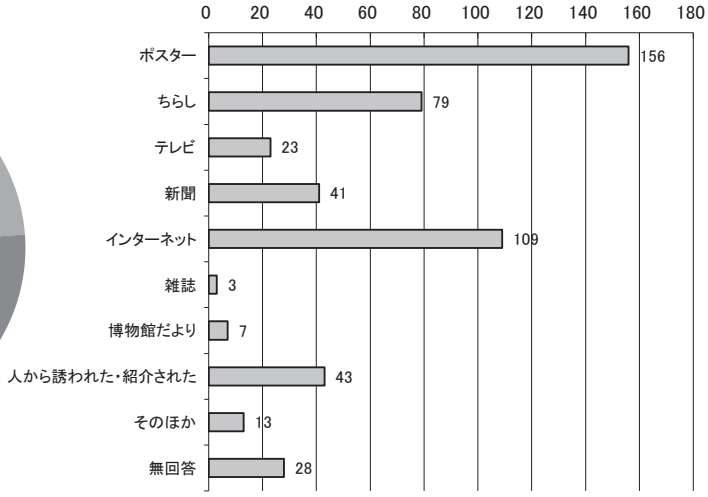
特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」
アンケート集計結果

開催期間：平成28年10月15日（土）～ 11月27日（日）（38日間）
回答者数：399人（総来館者数 98,533人　アンケート回収率 0.40%）

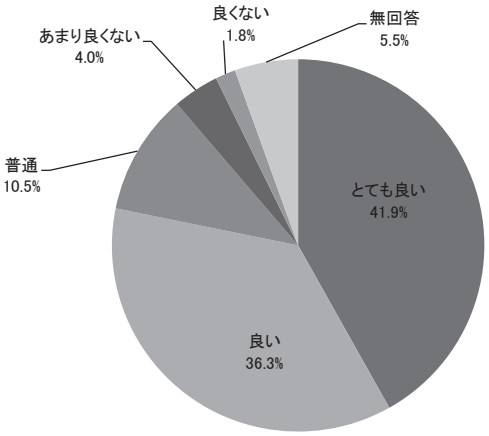
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
78.2%

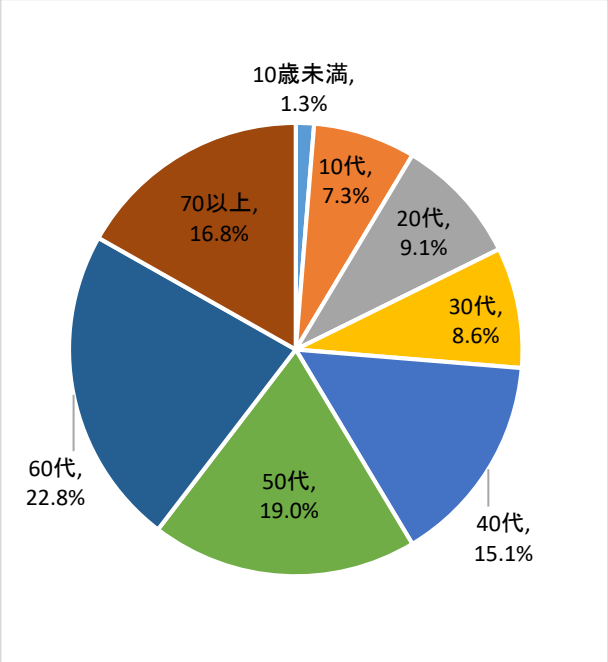
④主な意見・感想

・展示品が豊富
・本物を観ることができた
・貴重な資料が展示されている
・手紙から龍馬の人柄が伝わった

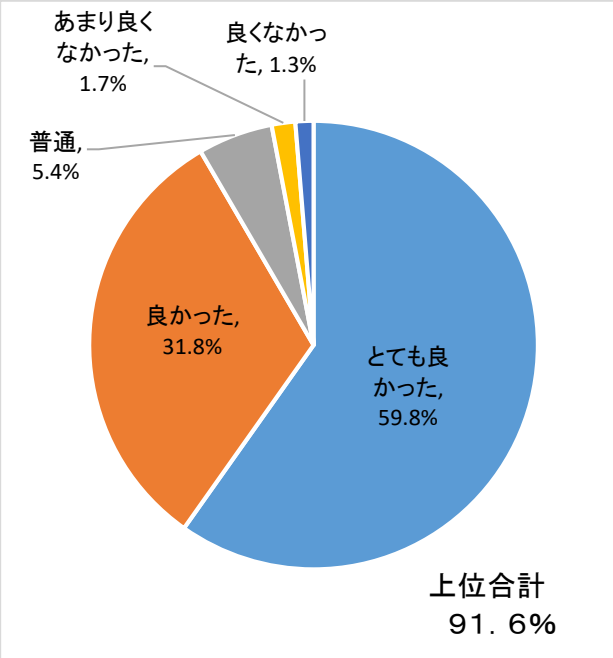
特別展「国宝 信貴山縁起絵巻－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝－」
アンケート集計結果

開催期間：平成28年4月9日～5月22日(39日間)
回答者数：250人　入場者数：55,198人　回収率：0.45%

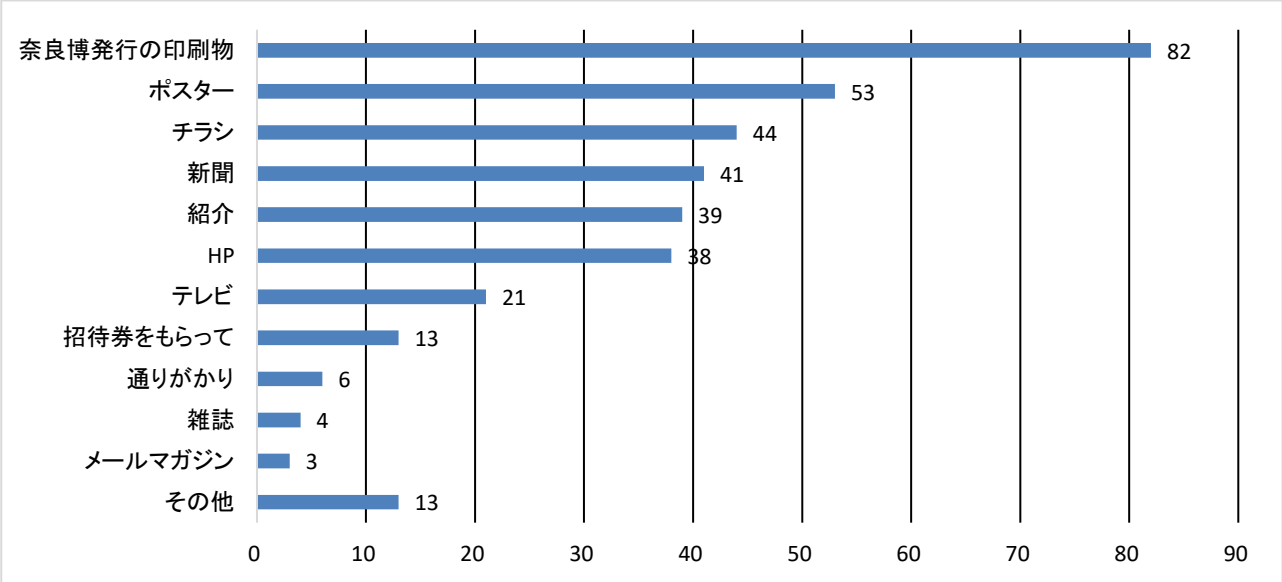
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答あり)



④主な意見・感想

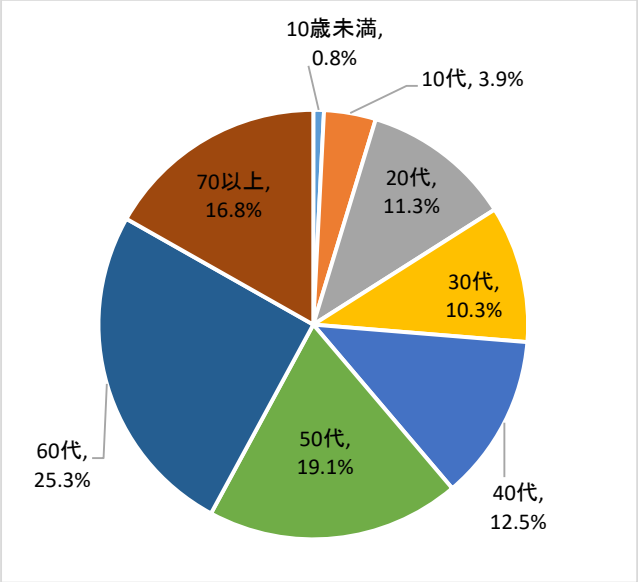
・絵巻の全巻全場面を見ることができてよかった。
・絵巻は見ていて楽しい。
・繊細な筆致で人物の生き生きとした表情が見事だった。
・昔から一度は本物を見たいと思っていました。感激です。
・最前列で見たい人とそうでない人の列が分かれていてよかった。
・スタッフに前の人に続いて進むよう促され、ゆっくり見られなかった。

生誕800年記念特別展「忍性　ー救済に捧げた生涯ー」

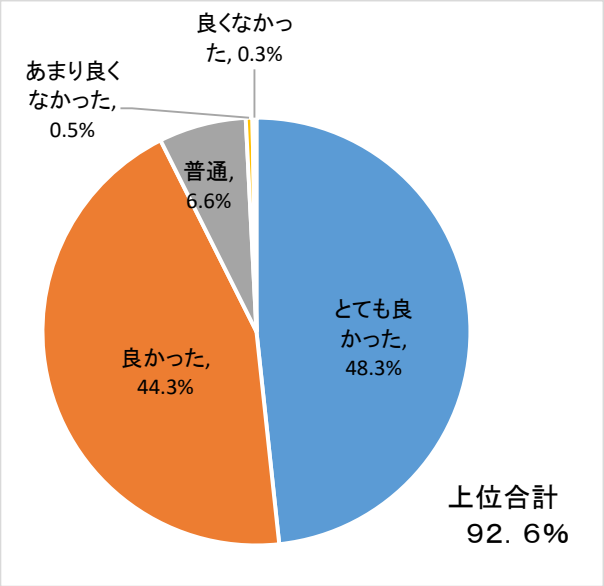
アンケート集計結果

開催期間：平成28年7月23日～9月19日(53日間)
回答者数：963人　入場者数：39,834人　回収率：2.41%

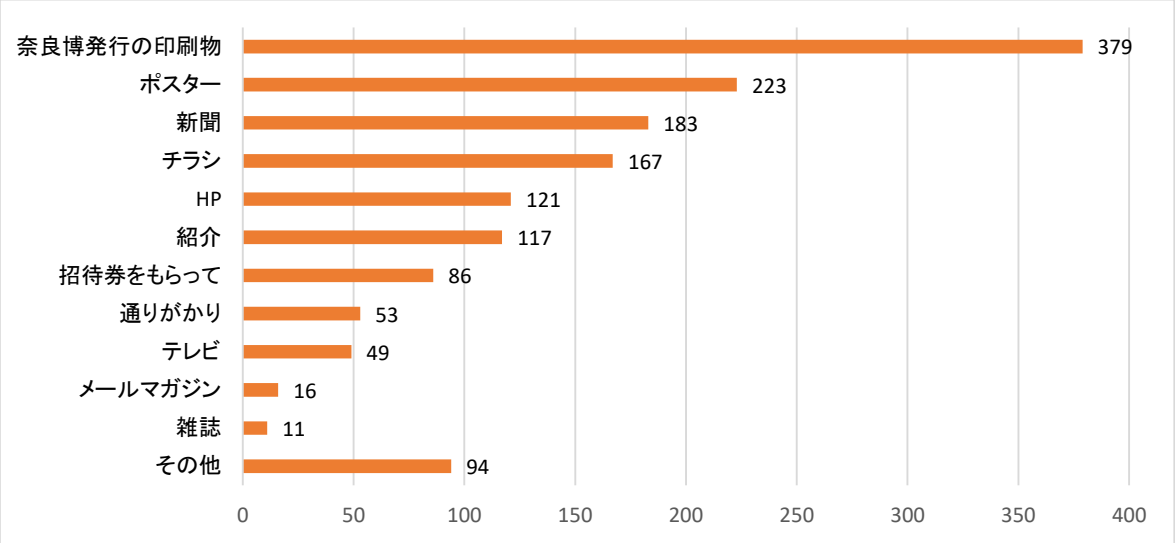
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答あり)



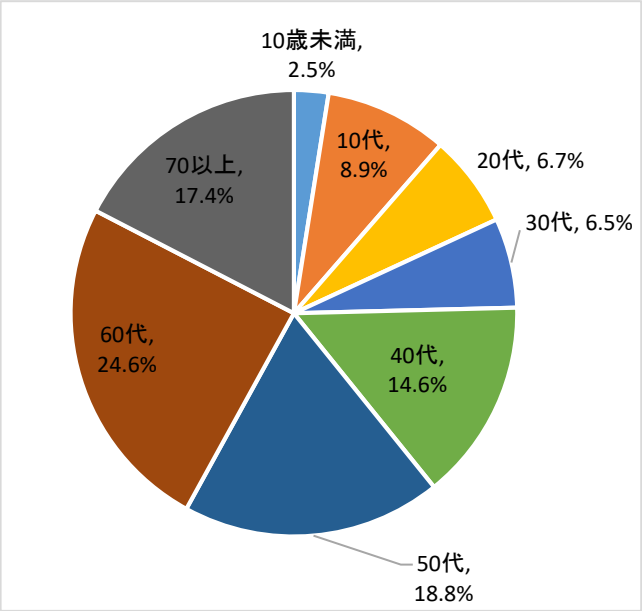
④主な意見・感想

・忍性について知識がなかったが、よく理解できた。
・東征伝絵巻を見ることができてよかった。
・忍性と奈良との関わりがわかった。ごく近いところに関係地がある。
・アニメは内容理解の大きな助けとなった。アニメ自体も秀逸。
・絵巻のタブレットやアニメーションなど、今までになくよかった。
・もっと英語解説が必要です。

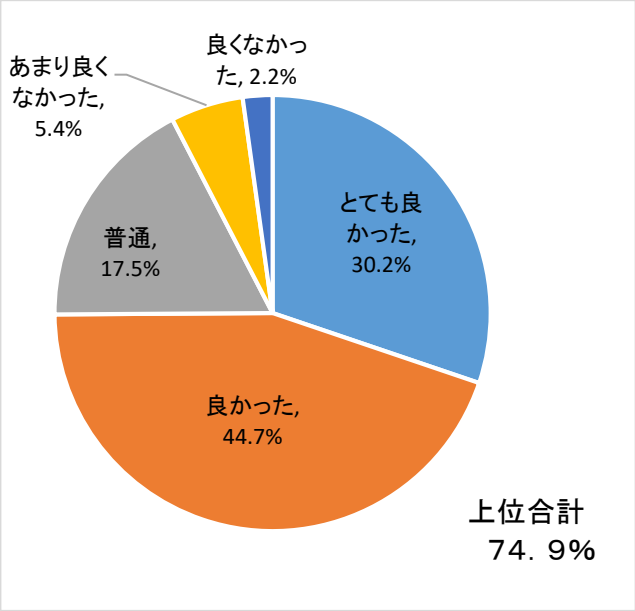
第68回正倉院展
アンケート集計結果

開催期間：平成28年10月22日～11月7日(17日間)
回答者数：1,099人　入場者数：208,614人　回収率：　0.53%

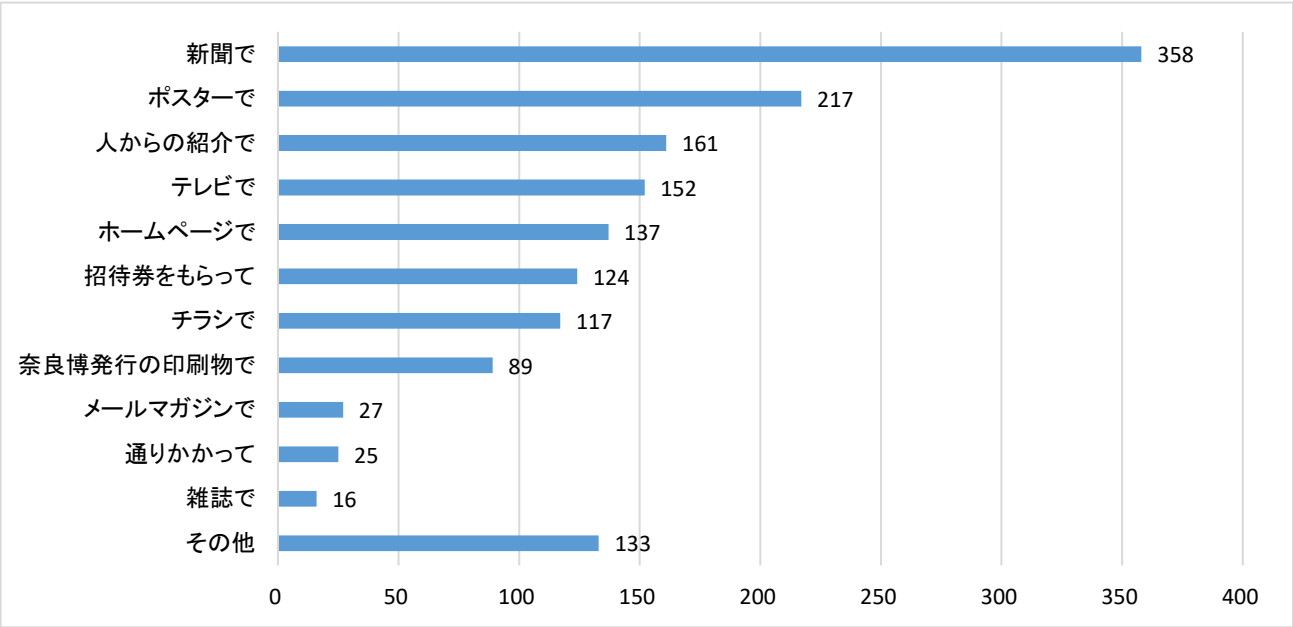
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答あり)



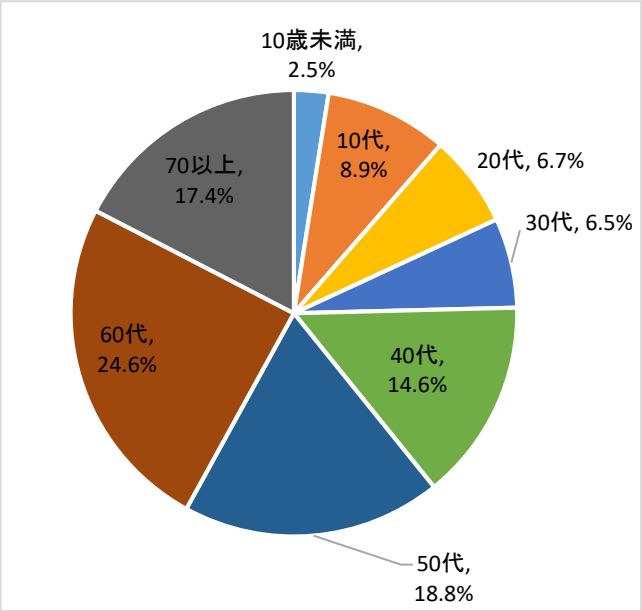
④主な意見・感想

・拡大写真や説明文でよりよく理解できました。
・鈴や幡、櫛などかわいらしく見ていて幸せな気持ちになれるものが多く、ここ数年で最高に素敵な展示でした。
・金土日祝は20時まで開館しているのがうれしいです。
・小さい展示物が見えにくかった。拡大鏡などで大きくして見たかった。
・人が多く、ゆっくり見られなかった。

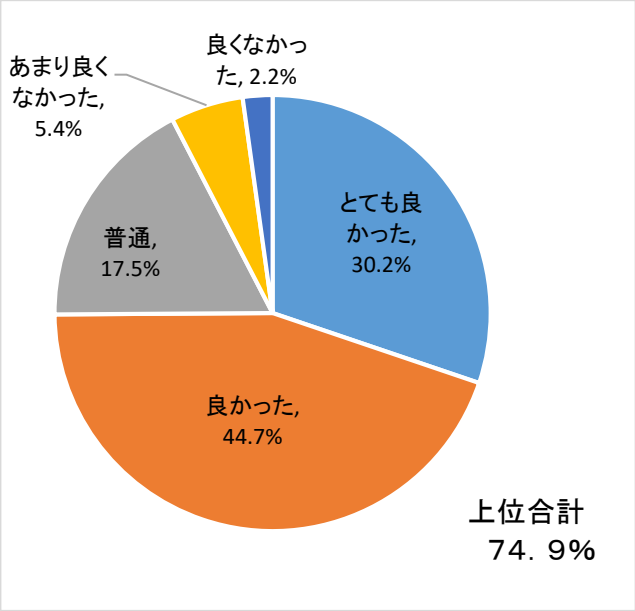
第68回正倉院展
アンケート集計結果

開催期間：平成28年10月22日～11月7日(17日間)
回答者数：1,099人　入場者数：208,614人　回収率：　0.53%

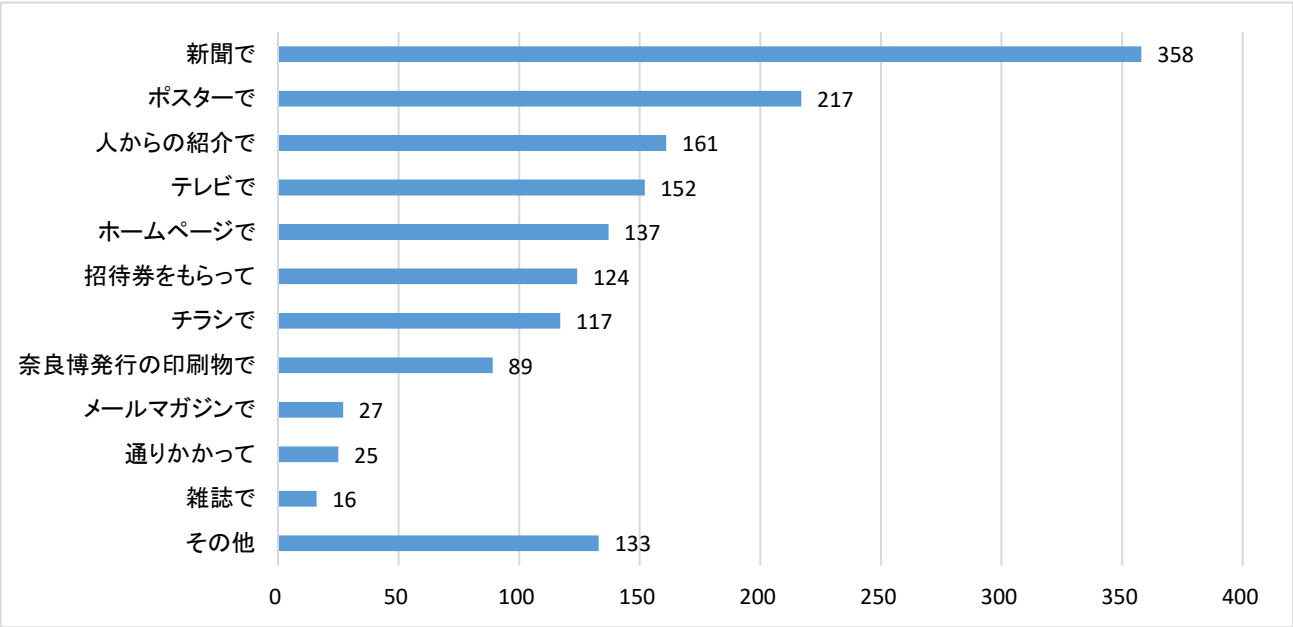
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答あり)



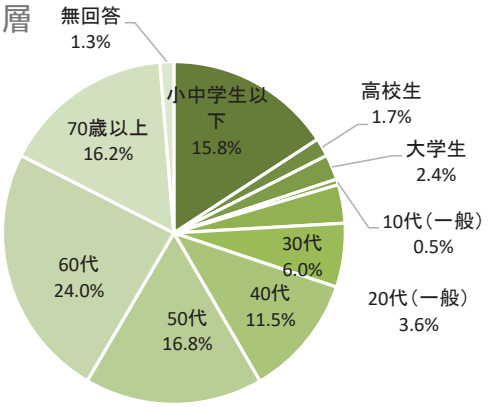
④主な意見・感想

・拡大写真や説明文でよりよく理解できました。
・鈴や幡、櫛などかわいらしく見ていて幸せな気持ちになれるものが多く、ここ数年で最高に素敵な展示でした。
・金土日祝は20時まで開館しているのがうれしいです。
・小さい展示物が見えにくかった。拡大鏡などで大きくして見たかった。
・人が多く、ゆっくり見られなかった。

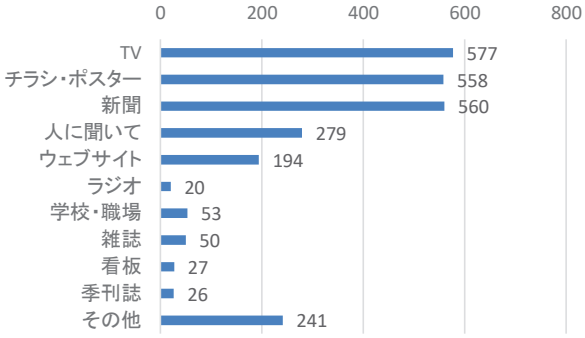
特別展「始皇帝と大兵馬俑」
アンケート集計結果

開催期間：平成28年3月15日（火）～6月12日（日）（78日間）
総回答者数：1,677人（総来館者数：191,222人　アンケート回収率：0.88%）

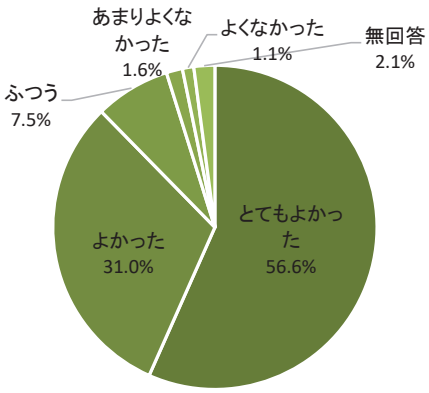
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



上位合計
87.6%

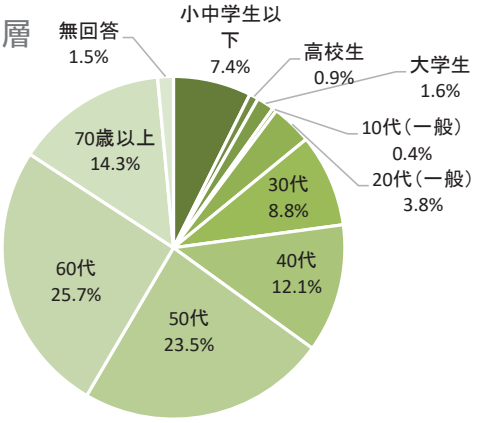
④主な意見・感想

・内容もわかりやすく、展示品の量も適度で、非常に見やすい展示だった。高台から兵馬俑を見られたり、馬車の展示の際の空間作りなど、舞台装置的なものが心を躍らせた。頭にもすっと入ってきて楽しめる、すごい展示だった。
・高位置から眺める兵馬俑の臨場感がすばらしいと感じた。また、兵馬俑を直接見ることができ、本物の迫力に感動した。ライティングでの陰影のコントラストも最高でリアリティを増して感じる事ができた。中国の文明の奥深さに思いをはせた。
・最初の展示物で説明文が長すぎると人が止まってしまうので、今回のように短い文だと流れは早くてよかった。
・展示説明文の赤い文字は、目に入りにくい。
・展示の字が小さい。人が多いと遠くから読まないといけないため、字が小さく苦戦した。お年寄りの人も多いので字を大きくしたらもっと楽しめると思う。
・音声ガイドのある作品のところで、人がたまってしまうので、少しスペースを作ってもらえると進みやすいと思う。

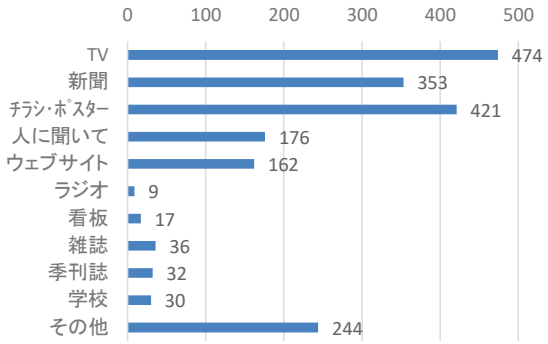
特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」
アンケート集計結果

開催期間：平成28年7月16日（土）～8月28日（日）（39日間）
総回答者数：1,278人（総来館者数：133,002人　アンケート回収率：0.96%）

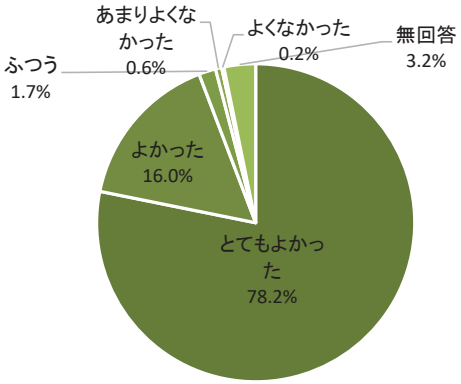
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



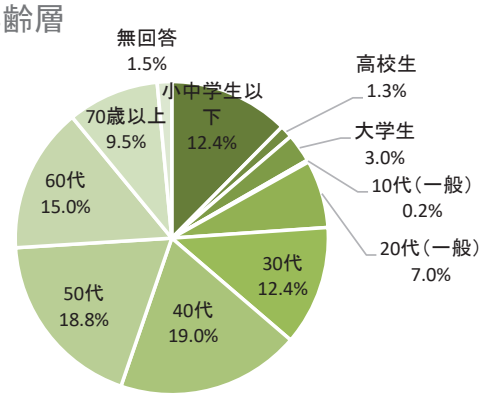
上位合計
94.2%

④主な意見・感想
・障壁画を部屋のレイアウトそのままに見ることができたのは非常に良かった。
・東山魁夷の絵の素晴らしさに感動！ライティングが非常に気を使ってあるのがわかる。講演会もよかった。
・順路、絵の順番提示の内容が良くまとまっていて良かった。
・とても素晴らしかった。心がとてもやすらいだ。
・作家個人の年表がなかったため、人生と時代背景のどのような流れの中で、作品がどのように変化したか等を見るため、少し困った。
・車椅子を使っているので、視点がたっている方より低い。天井ライトが、ガラス上辺にうつりこむことが多くあり、少し残念だ。
・館内が暗くて見づらかった。
・ガラスの額に入れてある暗い画面の作品のすぐ向かいに明るい照明の展示をしないでほしい。反射して見づらい。

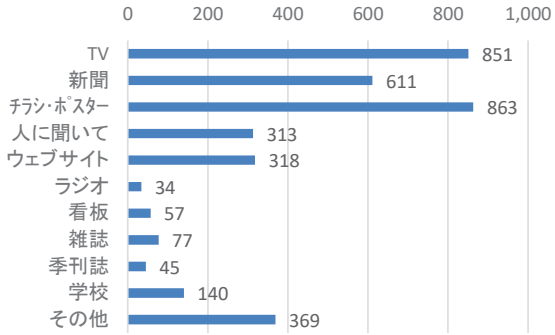
特別展「京都　高山寺と明恵上人　−特別公開　鳥獣戯画−」
アンケート集計結果

開催期間：平成28年10月4日（火）～11月20日（日）（45日間）
総回答者数：2,271人（総来館者数：161,172人　アンケート回収率：1.40%）

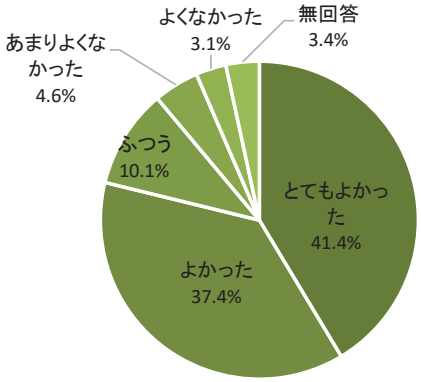
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度

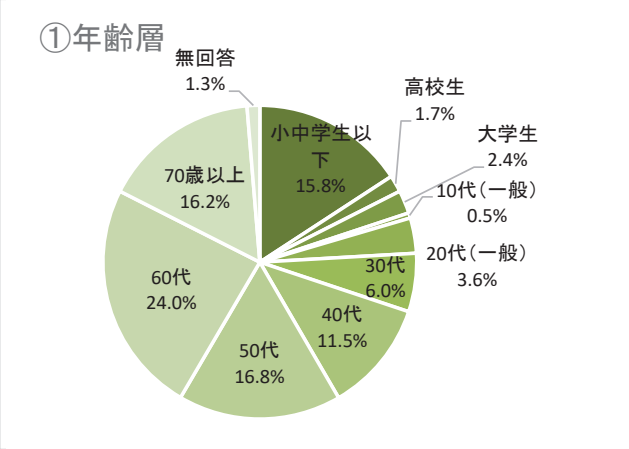


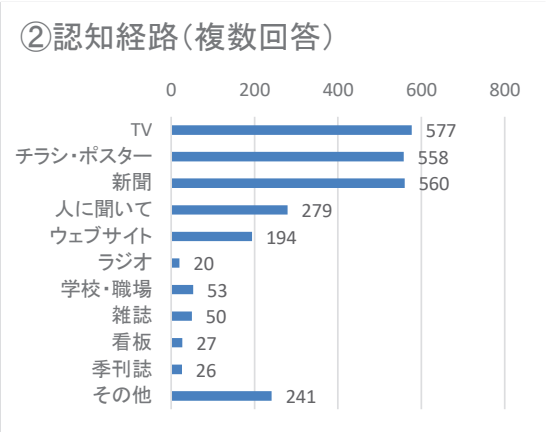
上位合計
78.8%

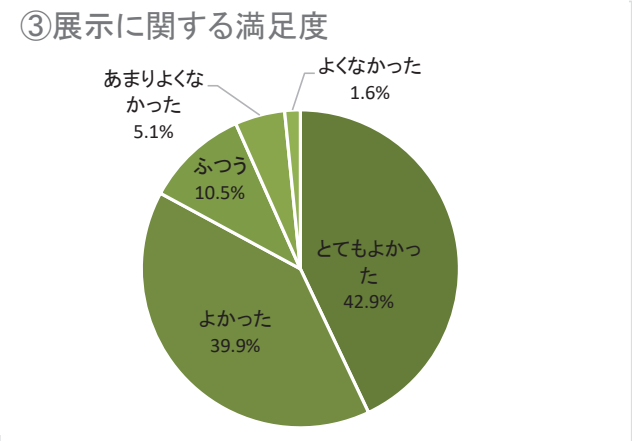
④主な意見・感想
・鳥獣戯画の絵はとてもおもしろく、興味深く見ることができた。
・学校で習ったばかりの鳥獣戯画に行けてとてもうれしかった。このような展覧会を開いていただきありがとうございました。
・鳥獣戯画のような余り見る事の出来ない貴重な文化物の展示を、これからも続けて欲しい。東京や京都に行かなくても。
・開館を30分早めていただいて助かりました。
・鳥獣戯画の展示のところは混んでいたが、その他は流れ良く進めたので、ストレスなく見れて良かった。展示の配置が見やすかった。
・明恵上人のエピソードにまつわる展示や関連ある人達や物に関する展示が上手くまとめられていて、鳥獣戯画だけでなく明恵上人の人物像が表せた展覧会だと思う。
・展示物に関する明恵さんのエピソードがかわいらしいパネルで説明されていて分かりやすかった。
・明恵さんを知らなかったけど、見ていて好きになった。おもしろかった。
・鳥獣戯画展では「1歩ずつ前へ」の声がうるさくて、集中して鑑賞することができなかった。
・2時間近く並び、とても腰が痛くなりました。もう少し、ベンチなど座れるところが欲しい。
・整理券を配付して（入場時間を30分毎とかにして）スムーズに流れるように運営してほしい。

特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」
アンケート集計結果

開催期間：平成29年1月1日（日）～3月5日（日）（56日間）
総回答者数：646人（総来館者数：75,966人　アンケート回収率：8.5%）







上位合計
82.9%

④主な意見・感想

・古事記、日本書紀と併せての解説が分かりやすくてよかった。ゆったりした展示と沖ノ島の波や波音、島の様子などを映していたのがよかった。
・大和朝廷、韓国との出土品との比較（類似性）がわかりやすかった。
・ドリーの解説が子供にもわかりやすくよかった。
・上陸できない沖ノ島の雰囲気を感じられる映像がよかった。神話と考古遺物の展示がとても興味深かった。日本書紀を読んでみたくなった。
・指輪や耳飾など、古代の物とは思えない斬新さできれいだった。
・館内が暗すぎる。北部九州の展示であるのであれば、宗像族だけでなく志賀島～宮地の、あずみ族も併せてしてもらいたかった。
・字が小さくて読みにくく残念でした。国宝、重文などわかりやすく書いてほしい。
・宗像・沖ノ島出土の展示が思った以上に少なかった。